

若 宮 谷 遺 跡
シ コ ノ 谷 遺 跡

2021年3月

島根県教育委員会



1. シコノ谷遺跡 遠景 (西から)



2. シコノ谷遺跡 空撮 (南から)



1. シコノ谷遺跡B区 石器



2. シコノ谷遺跡B区 縄文土器



1. シコノ谷遺跡B区 サメの歯



2. シコノ谷遺跡B区 サメの歯



1. シコノ谷遺跡B区 弥生土器



2. シコノ谷遺跡B区 作業風景（東から）

序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所から委託を受けて、平成31年度・令和元年度に実施した斐伊川水系大橋川河川改修予定地内に所在するシコノ谷遺跡、若宮谷遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

若宮谷遺跡では、弥生時代後期から古墳時代初頭の集落跡が見つかり、室町時代の建物跡とシジミの貝塚も確認することができました。また、シコノ谷遺跡では、土石流で流された礫層に縄文土器、石器とともに大量のサメの歯も含まれており、注目されています。

朝酌矢田地内には『出雲国風土記』に入海を渡し船が往来する「朝酌の渡」があったと記載されていますが、これまで遺跡の実態は不明でした。今回の調査成果は、縄文時代以降の集落の様子を知る上で重要であり、この地域の歴史を考える上で貴重な発見となりました。

本書がふるさと島根の歴史や埋蔵文化財に対する理解を深めるために広く活用されることを願っています。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の作成にあたり、御協力いただきました国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所をはじめ、松江市教育委員会、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

島根県教育委員会

教育長 新田 英夫

例言

1. 本書は、国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成30・令和元年度に実施した斐伊川水系大橋川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。
平成30（2018）年度 発掘調査
シコノ谷遺跡（松江市朝酌町1134-19外）890㎡
令和元（2019）年度 発掘調査
若宮谷遺跡（松江市朝酌町1045-4外）1,900㎡
令和2（2020）年度 整理等作業・報告書作成
3. 発掘調査は島根県埋蔵文化財センターが実施した。シコノ谷遺跡は、廣江、内田、阿部、大田が担当し、若宮谷遺跡は、伊藤、内田、原が担当した。本報告書の本文、図、表の作成は、廣江、阿部、大田が分担して行った。
4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については、島根県教育委員会が株式会社庭の川島（松江市菅田町）へ委託した。
5. 発掘調査、報告書作成にあたっては、以下の方々、機関から御指導いただいた。（五十音順、肩書は当時）
酒井哲弥（島根大学総合理工学研究科教授）、中村唯史（島根県立三瓶自然館学芸員）、西尾克己（元島根県古代文化センター長）、丸山真史（東海大学海洋学部講師）、矢野健一（立命館大学文学部教授）
6. 発掘調査に際して、以下の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた。（五十音順、肩書は当時）
朝酌公民館、幡中光輔（出雲市文化財課主事）
7. 本調査に伴う石器類の石材鑑定については中村唯史氏に依頼した。また自然科学分析は次の機関に委託して実施し、その成果は第5章にまとめて掲載した。
自然科学分析（古環境復元・年代測定及び種実同定、堆積相観察）：文化財調査コンサルタント株式会社
8. 発掘調査に伴って、出土木製品の保存処理を次の機関に委託した。
令和元年度（公財）大阪市文化財協会
令和2年度（公財）大阪市文化財協会
9. 本書に掲載した遺構・遺物の写真は廣江が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員・会計年度任用職員が行ったほか、埋蔵文化財調査センターの職員の協力を得た。
10. 本書の執筆は、第1・2・3・4章は廣江、第6章は廣江・阿部が行い、第5章については各節ごとに執筆者を明記している。
11. 本書の編集は廣江・阿部・大田が行った。
12. 註は各章ごとに連番を振り当該頁下に配置し、参考文献等は各章末にまとめて示した。写真、

挿図及び表の番号は全体の通し番号により表示した。

13. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）にて保管している。

凡例

1. 本書で用いた土器の分類及び編年は下記の論文・報告書に依拠している。

- (1) 縄文土器

岡田憲一 2008 「縄文条痕文系土器（西日本）『総覧縄文土器』アム・プロモーション

柳浦俊一 2020 「山陰中央部における早期後葉～前期初頭の土器」『本州西部の早期末前期初頭土器編年』関西縄文研究会

- (2) 弥生土器・土師器

松本岩雄 1991 「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社

鹿島町教育委員会 1992 『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書5 南講武草田遺跡』

松山智弘 2000 「小谷式再検討-出雲平野における新資料から」『島根考古学会誌』第17

- (3) 須恵器

大谷晃二 1994 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

- (4) 土師器

広江耕史 1992 「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号松江考古学談話会

2. 本書で使用した遺構記号は次のとおりである。

P：ピット・柱穴状遺構、SD：溝状遺構、SK：土坑、SR：自然河道、流路跡

3. 挿図中の測量法に基づく平面直角第Ⅲ系X軸方向を示し、座標系XY座標は世界測地系による。レベルは海拔高を示す。

4. 本書で使用した第2図は国土地理院発行1/25,000地形図（松江）を、第2・5・41図は国土交通省出雲河川事務所が作成した計画平面図1/1,000を使用して作成したものである。
5. 本書に掲載する土層は『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に従って表記した。

本文目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
1. 事業計画の概要	1
2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整	1
3. 法的手続き	3
第2節 発掘調査の経過	4
1. シコノ谷遺跡	4
2. 若宮谷遺跡	4
3. 整理作業	4
第3節 調査体制	7
第2章 遺跡の位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8
第3章 若宮谷遺跡の調査成果	11
第1節 調査の概要	11
1. 遺跡の立地(第5図)	11
2. 発掘調査区の設定(第5図)	11
3. 調査の方法	11
第2節 A区の調査	15
1. 調査の概略と検出遺構(第6図)	15
2. A2区出土遺物(第9図)	15
第3節 B区の調査	18
1. B1区の調査	18
2. B3区の調査(第10図)	18
第4節 B4区の調査	21
1. 調査方法	21
2. 基本層序(第18図)	21
3. 遺構と遺物(第17図)	21
第5節 小結	46
第4章 シコノ谷遺跡の調査成果	48
第1節 調査の概要	48
1. 遺跡の立地(第41図)	48
2. 試掘確認調査(第2図)	48
3. 発掘調査区の設定(第41図)	48
4. 調査の方法	50
第2節 A区の調査	51
1. 調査の概略と検出遺構(第43図)	51
2. 基本層序(第44図)	54
3. 検出した遺構・遺物	54
第3節 B区の調査	59
1. 調査の概略と検出遺構	59
2. 基本層序(第53図)	62

3. 遺構と遺物	62
第5章 自然科学分析	135
第1節 シコノ谷遺跡土層観察コメント 1	135
第2節 シコノ谷遺跡土層観察コメント 2	142
第3節 若宮谷遺跡発掘調査に伴う自然科学分析	145
第4節 シコノ谷遺跡発掘調査に伴う自然科学分析	158
第5節 シコノ谷遺跡出土縄文土器の年代測定	172
第6節 シコノ谷遺跡・若宮谷遺跡から出土した動物遺存体	175
第6章 総括	178

插图目次

第 1 図	若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡の位置	1
第 2 図	若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡の位置	2
第 3 図	遺跡周辺の微地形分類図	7
第 4 図	朝酌矢田Ⅱ遺跡・若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡との周辺の遺跡	9
第 5 図	若宮谷遺跡 調査区周辺図	11
第 6 図	若宮谷遺跡 A 区遺構全体図	12
第 7 図	若宮谷遺跡 A 区 SD02・SK01・02・SX01・02・03	13
第 8 図	若宮谷遺跡 A 区 Pit 実測図	14
第 9 図	若宮谷遺跡 A 区出土遺物実測図	15
第 10 図	若宮谷遺跡 B 区遺構全体図	16
第 11 図	若宮谷遺跡 B1 区土層図	17
第 12 図	若宮谷遺跡 B3 区北壁土層	18
第 13 図	若宮谷遺跡 B1 区杭列・SK01 実測図、出土遺物実測図	19
第 14 図	若宮谷遺跡 B3 区 SK02 実測図	20
第 15 図	若宮谷遺跡 B3 区 SK02 出土遺物実測図	21
第 16 図	若宮谷遺跡 B3 区 SK03～08・Pit 実測図	22
第 17 図	若宮谷遺跡 B4 区遺構全体図	23
第 18 図	若宮谷遺跡 B4 区土層図	24
第 19 図	若宮谷遺跡 B4 区溝状遺構実測図	25
第 20 図	若宮谷遺跡 B4 区 SD09 出土遺物実測図	26
第 21 図	若宮谷遺跡 B4 区 Pit 実測図	27
第 22 図	若宮谷遺跡 B4 区 Pit 実測図	28
第 23 図	若宮谷遺跡 B4 区 Pit 実測図	29
第 24 図	若宮谷遺跡 B4 区杭列実測図	30
第 25 図	若宮谷遺跡 B4 区 SB01 実測図	31
第 26 図	若宮谷遺跡 B4 区杭列・SB01 出土木製品実測図	32
第 27 図	若宮谷遺跡 B4 区出土土器実測図	33
第 28 図	若宮谷遺跡 B4 区出土石器実測図 1	34
第 29 図	若宮谷遺跡 B4 区出土石器実測図 2	35
第 30 図	若宮谷遺跡 B4 区出土弥生土器実測図	36
第 31 図	若宮谷遺跡 B4 区出土須恵器実測図 1	37
第 32 図	若宮谷遺跡 B4 区出土須恵器実測図 2	38
第 33 図	若宮谷遺跡 B4 区出土土製品実測図	39
第 34 図	若宮谷遺跡 B4 区出土土師器実測図	40
第 35 図	若宮谷遺跡 B4 区出土陶磁器実測図	41
第 36 図	若宮谷遺跡 B4 区出土鉄製品実測図	42
第 37 図	若宮谷遺跡 B4 区出土木製品実測図 1	44
第 38 図	若宮谷遺跡 B4 区出土木製品実測図 2	45
第 39 図	若宮谷遺跡 B4 区出土木製品実測図 3	46
第 40 図	若宮谷遺跡 B4 区出土木製品実測図 4	47
第 41 図	シコノ谷遺跡 調査区周辺図実測図	49
第 42 図	シコノ谷遺跡 遺構全体図	50
第 43 図	シコノ谷遺跡 A 区遺構全体図	51
第 44 図	シコノ谷遺跡 A 区土層図	52
第 45 図	シコノ谷遺跡 A 区遺物分布図	53
第 46 図	シコノ谷遺跡 A 区杭列実測図	54
第 47 図	シコノ谷遺跡 A 区出土遺物実測図 1	55
第 48 図	シコノ谷遺跡 A 区出土遺物実測図 2	56

第 49 図	シコノ谷遺跡	A 区出土遺物実測図 3	57
第 50 図	シコノ谷遺跡	A 区出土遺物実測図 4	58
第 51 図	シコノ谷遺跡	A 区出土遺物実測図 5	59
第 52 図	シコノ谷遺跡	B 区遺構全体図	60
第 53 図	シコノ谷遺跡	B 区土層図	61
第 54 図	シコノ谷遺跡	B 区遺物分布図	63
第 55 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 1	64
第 56 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 2	65
第 57 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 3	66
第 58 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 4	67
第 59 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 5	68
第 60 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 6	69
第 61 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 7	70
第 62 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 8	71
第 63 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 9	72
第 64 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 10	73
第 65 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 11	74
第 66 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 12	75
第 67 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 13	76
第 68 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 14	77
第 69 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 15	78
第 70 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 16	79
第 71 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 17	80
第 72 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 18	81
第 73 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 19	82
第 74 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 20	83
第 75 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 21	84
第 76 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 22	85
第 77 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 23	86
第 78 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 24	87
第 79 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 25	88
第 80 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 26	89
第 81 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 27	90
第 82 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 28	91
第 83 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 29	92
第 84 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 30	93
第 85 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 31	94
第 86 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 32	95
第 87 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 33	96
第 88 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 34	97
第 89 図	シコノ谷遺跡	B 区出土土器実測図 35	98
第 90 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 1	99
第 91 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 2	100
第 92 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 3	101
第 93 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 4	102
第 94 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 5	103
第 95 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 6	104
第 96 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 7	105
第 97 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 8	106
第 98 図	シコノ谷遺跡	B 区出土石器実測図 9	107

第99図	シコノ谷遺跡	B区出土石器実測図10	108
第100図	シコノ谷遺跡	B区出土石器実測図11	109
第101図	シコノ谷遺跡	B区出土石器実測図12	110
第102図	シコノ谷遺跡	B区出土骨角器実測図	110
第103図	シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器実測図1	111
第104図	シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器実測図2	112
第105図	シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器実測図3	113
第106図	シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器実測図4	114
第107図	シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器実測図5	115
第108図	シコノ谷遺跡	B区出土土師器実測図	117
第109図	シコノ谷遺跡	B区出土須恵器実測図1	118
第110図	シコノ谷遺跡	B区出土須恵器実測図2	119
第111図	シコノ谷遺跡	B区出土須恵器実測図3	120
第112図	シコノ谷遺跡	B区出土須恵器実測図4	121
第113図	シコノ谷遺跡	B区出土陶磁器・土師器実測図	122
第114図	シコノ谷遺跡	B区出土土製品実測図	123
第115図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図1	124
第116図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図2	125
第117図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図3	126
第118図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図4	127
第119図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図5	128
第120図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図6	129
第121図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図7	130
第122図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図8	131
第123図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図9	132
第124図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図10	133
第125図	シコノ谷遺跡	B区出土木製品実測図11	134
第126図	遺跡周辺の地形図		135
第127図	遺跡周辺の地質		136
第128図	遺跡で観察された礫層の断面		137
第129図	礫層トップの表面写真		137
第130図	礫層表面の拡大写真		138
第131図	遺跡の東壁に露出している砂層の写真		139
第132図	遺跡南側の東西方向の断面で観察した砂層		140
第133図	遺跡の南北方向の断面で見られる砂層と泥層		140
第134図	砂層にみられる逆雨粒型をした白色の砂		141
第135図	遺構基底部に見られた”泥層”の内部の様子		141
第136図	凹地形の拡大写真		142
第137図	凹地形の拡大写真		142
第138図	サイクリックステップの地形断面図		143
第139図	山間域の河川に発達したサイクリックステップ		144
第140図	隠岐の島町東郷川最上流にみられた小規模サイクリックステップ		144
第141図	資料採取地点		145
第142図	南壁地点断面図		145
第143図	南壁地点断面図		145
第144図	花粉ダイアグラム		148
第145図	花粉ダイアグラム		148
第146図	珪藻ダイアグラム		150
第147図	珪藻総合ダイアグラム		151
第148図	植物珪酸体ダイアグラム		152

第149図	顕微鏡写真	153
第150図	暦年較正結果	153
第151図	暦年較正結果の分布	154
第152図	調査区平面図	159
第153図	資料採取位置	159
第154図	資料採取位置	159
第155図	花粉ダイアグラム	160
第156図	花粉ダイアグラム	162
第157図	CNS ダイアグラム	164
第158図	CNS ダイアグラム	165
第159図	暦年較正結果	166
第160図	樹種同定顕微鏡写真	168
第161図	暦年較正結果の分布	170
第162図	暦年較正結果	174
第163図	暦年較正結果の分布	174
第164図	若宮谷遺跡 土師器変遷図	178
第165図	シコノ谷遺跡 縄文土器変遷図	180

表目次

第 1 表	同定対象分類群	146
第 2 表	微化石概査結果	147
第 3 表	花粉化石組成表	147
第 4 表	珪藻化石組成表	151
第 5 表	植物珪酸体化石組成表	152
第 6 表	年代測定結果	153
第 7 表	微化石概査結果	161
第 8 表	花粉化石組成表	162
第 9 表	CNS 分析結果	165
第10表	年代測定結果	167
第11表	分析試料一覧	173
第12表	シコノ谷遺跡の哺乳類集計	176
第13表	シコノ谷遺跡の繊維土器集計表	181
第14表	シコノ谷遺跡の繊維土器集計と周辺遺跡との比較グラフ	183
第15表	シコノ谷遺跡の突帯文土器集計	184
第16表	若宮谷遺跡 出土遺物観察表	186
第17表	シコノ谷遺跡 出土遺物観察表	192

写真図版目次

第 1 図	動物依存体（シコノ谷遺跡）	177
-------	---------------	-----

写真目次

- 巻頭図版 1 1. シコノ谷遺跡 遠景（西から）
2. シコノ谷遺跡 空撮（南から）
- 巻頭図版 2 1. シコノ谷遺跡 B区石器
2. シコノ谷遺跡 B区縄文土器
- 巻頭図版 3 1. シコノ谷遺跡 B区サメの歯
2. シコノ谷遺跡 B区サメの歯
- 巻頭図版 4 1. シコノ谷遺跡 B区弥生土器
2. シコノ谷遺跡 B区作業風景（東から）
- 図版 1 1. 若宮谷遺跡 遠景（西から）
2. 若宮谷遺跡 全景（西から）
- 図版 2 1. 若宮谷遺跡 A1区調査後（北から）
2. 若宮谷遺跡 A2区（西から）
- 図版 3 1. 若宮谷遺跡 B1区掘削後（東から）
2. 若宮谷遺跡 B1区礫検出面（南東から）
- 図版 4 1. 若宮谷遺跡 B2区（南東から）
2. 若宮谷遺跡 B3区SK02完屈状況（北から）
- 図版 5 1. 若宮谷遺跡 B3区SK03完屈状況（南東から）
2. 若宮谷遺跡 B4区（南東から）
- 図版 6 1. 若宮谷遺跡 B4区（北西から）
2. 若宮谷遺跡 B4区SD09（北東から）
- 図版 7 1. 若宮谷遺跡 B4区（南東から）
2. 若宮谷遺跡 B4区（南から）
- 図版 8 1. 若宮谷遺跡 B4区SA12（南西から）
2. 若宮谷遺跡 B4区SB01（南西から）
- 図版 9 1. 若宮谷遺跡 B4区SB01P75（南西から）
2. 若宮谷遺跡 B4区下駄出土状況
- 図版 10 1. 若宮谷遺跡 B4区杭列（北西から）
2. 若宮谷遺跡 B4区南壁土層堆積状況（北から）
- 図版 11 1. 若宮谷遺跡 A区出土遺物
2. 若宮谷遺跡 B3区SK02出土遺物
- 図版 12 1. 若宮谷遺跡 B4区SD09出土遺物
2. 若宮谷遺跡 B4区SD09出土遺物
- 図版 13 1. 若宮谷遺跡 B4区杭列、SB01出土遺物
2. 若宮谷遺跡 B4区出土土器
- 図版 14 1. 若宮谷遺跡 B4区出土石器
2. 若宮谷遺跡 B4区出土石器
- 図版 15 1. 若宮谷遺跡 B4区出土弥生土器
2. 若宮谷遺跡 B4区出土須恵器
- 図版 16 1. 若宮谷遺跡 B4区出土須恵器
2. 若宮谷遺跡 B4区出土土師器
- 図版 17 1. 若宮谷遺跡 B4区出土土師器、古銭
2. 若宮谷遺跡 B4区出土陶磁器
- 図版 18 1. 若宮谷遺跡 B4区出土鉄器
2. 若宮谷遺跡 B4区出土鉄器、鉄滓、羽口
- 図版 19 1. 若宮谷遺跡 B4区出土鉄器、土師器
2. 若宮谷遺跡 B4区出土遺物
- 図版 20 1. 若宮谷遺跡 B4区出土遺物
2. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品
- 図版 21 1. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品
2. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品
- 図版 22 1. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品
- 図版 23 1. シコノ谷遺跡 遠景（南から）
2. シコノ谷遺跡 全景（東から）
- 図版 24 1. シコノ谷遺跡 全景（上空から）
2. シコノ谷遺跡 全景（西から）
- 図版 25 1. シコノ谷遺跡 A区礫層検出状況（南から）
2. シコノ谷遺跡 A区（南西から）
- 図版 26 1. シコノ谷遺跡 A区縄文土器出土状況
2. シコノ谷遺跡 B区完掘状況（東から）
- 図版 27 1. シコノ谷遺跡 B区凹地形（南から）
2. シコノ谷遺跡 B区凹地形（北から）
- 図版 28 1. シコノ谷遺跡 B区北壁土層堆積状況（南から）
2. シコノ谷遺跡 B区南壁土層堆積状況（北から）
- 図版 29 1. シコノ谷遺跡 B区西壁土層堆積状況（東から）
2. シコノ谷遺跡 B区縄文土器出土状況
- 図版 30 1. シコノ谷遺跡 B区縄文土器出土状況
2. シコノ谷遺跡 B区縄文土器出土状況
- 図版 31 1. シコノ谷遺跡 B区縄文土器出土状況
2. シコノ谷遺跡 B区木製品出土状況
- 図版 32 1. シコノ谷遺跡 B区石器出土状況
2. シコノ谷遺跡 B区弥生土器出土状況
- 図版 33 1. シコノ谷遺跡 B区須恵器出土状況
2. シコノ谷遺跡 B区軒平瓦出土状況
- 図版 34 1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器
- 図版 35 1. シコノ谷遺跡 A区出土遺物
2. シコノ谷遺跡 A区出土遺物

図版36	1. シコノ谷遺跡	A区出土遺物	2. シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版60	1. シコノ谷遺跡
図版37	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版61	1. シコノ谷遺跡
図版38	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版62	1. シコノ谷遺跡
図版39	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		B区出土土師器、須恵器
図版40	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版63	1. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
図版41	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		B区出土須恵器
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版64	1. シコノ谷遺跡
図版42	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		B区出土須恵器
図版43	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版65	1. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
図版44	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		B区出土須恵器、土師器
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版66	1. シコノ谷遺跡
図版45	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		B区出土土錘、耳飾り、骨角器
図版46	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版67	1. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
図版47	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		B区出土木製品
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版68	1. シコノ谷遺跡
図版48	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版69	1. シコノ谷遺跡
図版49	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版70	1. シコノ谷遺跡
図版50	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版71	1. シコノ谷遺跡
図版51	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器	図版72	1. シコノ谷遺跡
図版52	1. シコノ谷遺跡	B区出土縄文土器		2. シコノ谷遺跡
	2. シコノ谷遺跡	B区出土石器		B区出土サメの歯
図版53	1. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
	2. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
図版54	1. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
	2. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
図版55	1. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
	2. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
図版56	1. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
	2. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
図版57	1. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
	2. シコノ谷遺跡	B区出土石器		
図版58	1. シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器		
	2. シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器		
図版59	1. シコノ谷遺跡	B区出土弥生土器		

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

1. 事業計画の概要

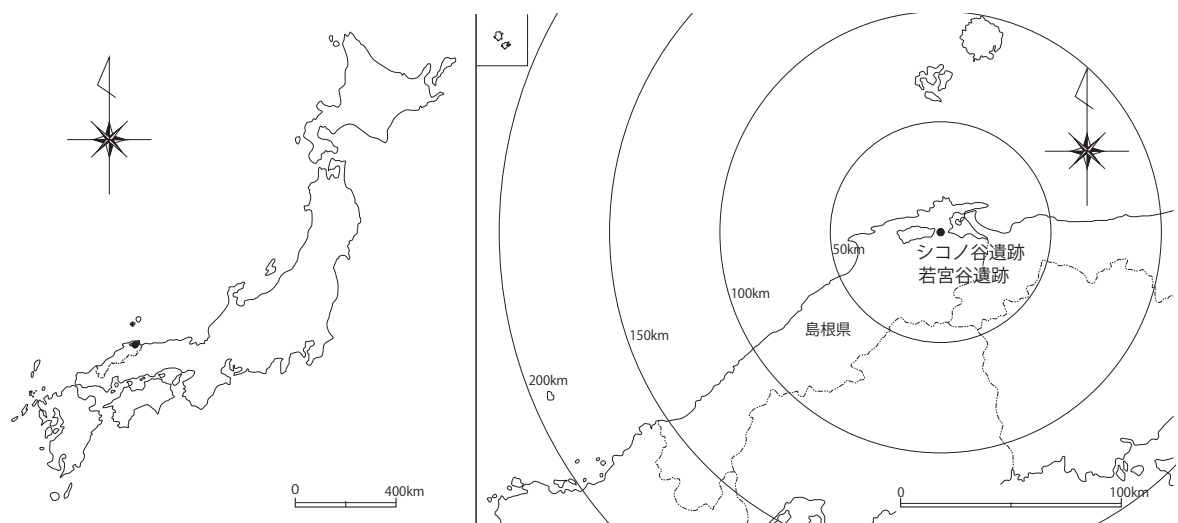
斐伊川水系では、利水の状況や過去の水害を踏まえ、洪水・高潮等による堤防決壊・浸水被害の防止や宍道湖を含む水系全川の水位上昇を低減するために、上流部、中流部下流部、湖部の流域全体で利水・治水を行う必要があった。このうち中・下流部の斐伊川放水路、上流部の尾原ダム・志津見ダムは竣工し、既に運用が開始されているところである。一方、湖部となる大橋川河川改修については、昭和57年より一部買収が行われたものの、事業は一端中断したため、整備が進まない状況が続いていた。宍道湖と中海を接続する大橋川は、狭窄部の河川断面が小さく、沿川住民や関係自治体にとって、洪水被害への危惧は隣りあわせであった。

こうした状況のもと、平成22年度に国土交通省により斐伊川水系河川整備計画が策定され、平成23年度から南岸において改修事業が再開された。

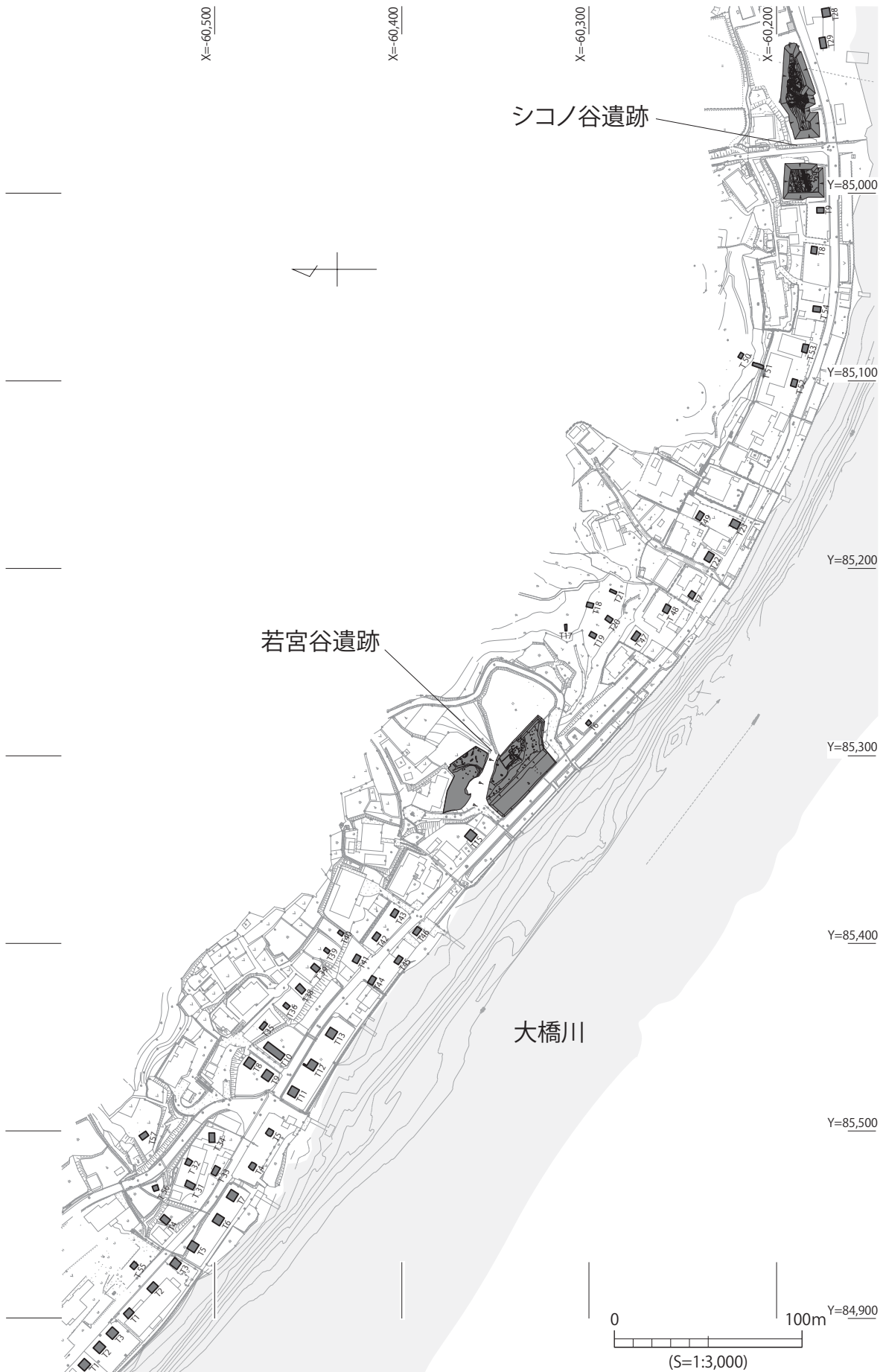
2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整

平成22年3月、この計画策定・事業化にあたり、国土交通省から島根県、松江市に対して開発協議があり、島根県教育委員会は埋蔵文化財について事前協議が必要の旨の意見を付した。これを受け国土交通省から島根県教育委員会に対して、事業地内の遺跡の存否について照会があった。島根県教育委員会では松江市教育委員会の協力のもと、平成22年度から踏査可能な予定地内の分布調査を随時実施し、試掘確認調査を要する要注意箇所を右岸については平成22年10月19日に回答した。左岸については、平成24年7月に福富町、平成28年5月に朝酌町矢田の分布調査を松江市教育委員会の協力を得ながら数次にわたって行い、平成28年6月に回答している。

島根県教育委員会は国土交通省と協議を重ね、分布調査の結果を踏まえた試掘確認調査を平成25年11月に福富町、平成28年9月から朝酌町矢田地区において国庫補助事業により実施し、予定地内の各埋蔵文化財の調査・取り扱いについて具体的な検討が行われた。



第1図 若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡の位置



第2図 若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡と試掘調査区の位置

試掘確認調査の結果、福富町においては本調査が必要な遺跡は確認されず、矢田地区において本発掘調査が必要な箇所と範囲等を定めている。

3. 法的手続き

シコノ谷遺跡は国土交通省から平成30年2月23日付け国中整出調設第16号で、文化財保護法第97条第1項の規定による遺跡発見通知が島根県教育委員会教育長あてに提出された。それに対して島根県教育委員会は、試掘調査の結果を踏まえ、平成30年3月7日付け島教文財第134号31で記録作成のための発掘調査の実施を勧告している。

発掘調査については、その後工程上の協議を経た後に、シコノ谷遺跡は平成30年度、若宮谷遺跡は令和元年度に埋蔵文化財調査センターが実施することとなった。

文化財保護法第99条第1項の規定による通知は、シコノ谷遺跡は平成30年5月7日付け島教埋第88号、若宮谷遺跡は令和元年6月10日付け島教埋第148号で島根県埋蔵文化財センター所長から島根県教育委員会教育長あてに提出した。

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1. シコノ谷遺跡

発掘作業の概要

今回の調査対象地は、市道西尾大井線の北側に面しており、調査区の間南北方向の市道朝酌矢田2号線があることからA区・B区に分けて発掘調査を実施した。調査は、重機により造成土を取り除いた後に人力により掘削を行った。排土は東側に搬出しながら行った。

A区の発掘作業は、平成30年5月28日～8月2日にかけて実施した。現況が盛り土により造成が行われており、市道と同じ高さとなっていた。盛り土の下には黒灰色粘質土の水田の耕作土がみられ、標高は2mである。その下に灰色礫層が堆積しており、南側は基盤層が大橋川に向け傾斜しながら落ち込んでいる。礫層は中央部が厚く堆積しており、掘削にはツルハシを使用した。北側には丘陵が迫っており、調査区の北側のみ基盤層が平坦な状態で確認できた。礫層の上面が中央部で傾斜した状態で確認され一見すると人為的な遺構と思われ、7月19日に三瓶自然館の中村唯史氏、7月24日に島根大学酒井哲弥氏に地質の調査指導を受けた。礫層中には、黒曜石製の石器、縄文時代後期の土器片が含まれていた。7月24日に完了協議を行い、掘削作業を完了した。

B区は、A区の作業と並行して6月18日に表土掘削を開始し、西側の造成土の除去から行った。



シコノ谷遺跡調査指導



シコノ谷遺跡現地説明会

造成土の下は、水田として使用されており、耕作土の下に灰色砂層、灰色礫層が互層状の堆積をしていた。調査区の位置が谷のほぼ中央部にあることから、土石流の力が強く働いたと思われた。また、この夏は猛暑ということもあり、作業にあたり熱中症に注意しながら礫層の掘り下げを行った。上層の砂層、礫層上面から古代の須恵器、出雲国分寺と同文の瓦、木製品が出土している。砂層下部からは弥生土器が形を残して出土している。調査区東側では、試掘調査の段階で礫層中から縄文土器・サメの歯が確認されておりそれらを採集するために、礫層の水洗いを行った。礫と砂が混在した状態で大量に水洗いが必要なため、40×60cmの箱の底に1cmメッシュの網を張り、その中に礫と砂の混入土を入れて、高圧洗浄機で洗うという方法を8月30日から行った。1か月半の期間をかけ2組で作業を行い最終的にサメの歯156本が確認され、石鏃も100本以上見つかった。通常の掘削作業では見落とす可能性のある小さな遺物を全て回収することとなり、水洗作業の効果は極めて大きかった。礫層を掘り下げると灰白色の粘土層が確認された、南北に筋状の溝がみられ、10月18日に酒井哲弥氏の調査指導を受けた。10月25日に丸山真史氏からサメの歯について調査指導を受け、10月26日に空中写真撮影を行い、完了協議は10月17日に実施し、地形測量等の記録作業を行った。11月2日にはすべての作業が終了した。11月18日には矢田のまつりに併せて現地公開を開催し、70名の参加を得た。

現地調査終了後、取扱いは記録保存することとなり、平成30年12月27日付け島教文財第410号の5で島根県教育委員会教育長から出雲河川事務所所長あてに終了報告を提出した。

2. 若宮谷遺跡

調査対象地は、市道西尾大井線の北側に隣接する堤防と市道の付け替え部分にあたる場所である。令和元年6月24日に着手し、調査区は試掘確認調査の結果及び地形的な制約から、丘陵上部をA区、旧水田部、丘陵斜面をB区として大きく2つの調査区に分けて調査を行った。

始めにB区の市道に面したB1区、B2区から重機掘削により表土の除去を行った。その後は人力で遺構の検出作業を実施した。結果、水田の耕作土の下が平坦となっており礫層を検出した、礫層の厚さは薄く、その下が基盤層となっていた。わずかに土壌1基を確認した、B2区は丘陵法面で遺構は確認できなかった。B4区は、7月29日から表土掘削を行い、西側で竪穴建物跡を検出し、溝から弥生時代後期の土器を検出している。東側谷部には中世の包含層が堆積しており、土器と共に鉄器、木器が出土し、基盤層から掘立柱建物跡を検出している。包含層にはシジミ貝が含まれていた。B4区は、丘陵斜面に位置し、江戸時代初期の伊万里焼を副葬した土壇墓を検出した。貝層の堆積が厚く残りが良かったので土層剥ぎ取りを行った。10月27日に矢田のまつりに合わせて現地説明会を実施し、11月12日には西尾克己氏に遺跡について指摘を受けた。



若宮谷遺跡調査指導



若宮谷遺跡現地説明会

11月8日にはすべての遺構を完掘し、空撮を実施し、11月14日には完了検査を受け、調査を終了している。現地調査終了後、遺跡の取扱いは記録保存することとなり、令和元年12月24日付け島教文財第750号の2で島根県教育委員会教育長から出雲河川事務所所長あてに終了報告を提出した。

3. 整理作業

遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬季は埋蔵文化財調査センターにて復元・実測等の整理作業を行った。石鏃の実測は、点数が多いことから、写真撮影を行い、写真を基にイラストレーターにより外形線、リング等を書き込み、最後に目視で修正を行うという方法を行った。



矢田のまつり古代体験コーナー

令和2年度は、整理した図面・写真等の記録類についても総合的な整理と検討を行い、遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影、編集、原稿執筆、印刷、製本を行った。

第3節 調査体制

調査主体 島根県教育委員会

平成30年度事務局 島根県教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループリーダー 神田康夫

管理指導スタッフ調整官 池淵俊一

埋蔵文化財調査センター

所長 椿 真治、総務課長 石橋 聡

高速道路推進スタッフ調整官 今岡 操、管理課長 守岡正司

調査担当者 埋蔵文化財調査センター

調査第三課長 間野大丞、調査第四係長 是田 敦

文化財保護主任（再任用） 廣江耕史、嘱託員 阿部賢治

臨時職員 内田 律雄、大田晴美

令和元年度事務局 島根県教育庁文化財課

課長 萩 雅人、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一

文化財グループリーダー 桑谷昭年

埋蔵文化財調査センター

所長 椿 真治、総務課長 和田 諭

高速道路推進スタッフ調整官 角田徳幸、管理課長 守岡正司

調査担当者 埋蔵文化財調査センター

調査第3課長 間野大丞、調査第三係長 中川 寧

文化財保護主任（再任用） 廣江耕史、嘱託員 阿部賢治

臨時職員 内田律雄、大田晴美、原 英誉

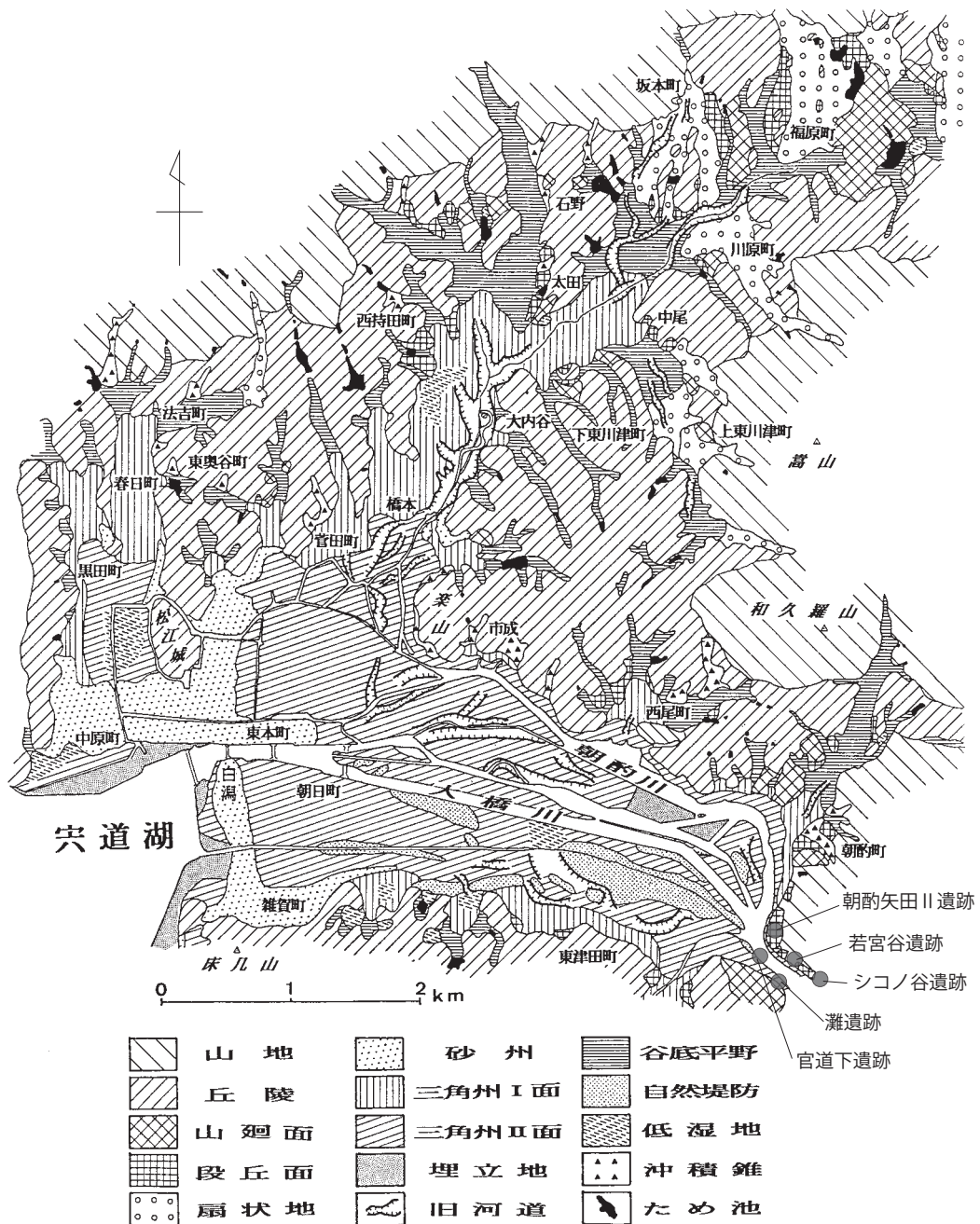
令和2年度事務局	島根県教育庁文化財課 課長 萩 雅人、文化財グループリーダー 田中明子 管理指導スタッフ調整監 池淵俊一 埋蔵文化財調査センター 所長 椿 真治、総務課長 和田 諭 高速道路推進スタッフ調整官 角田 徳幸、管理課長 守岡正司
調査担当者	埋蔵文化財調査センター 調査第2課長 岩橋孝典、文化財保護主任（再任用）廣江耕史 会計年度職員（調査補助員）大田晴美

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本書で報告する若宮谷遺跡とシコノ谷遺跡は松江市朝酌町矢田に所在し、穴道湖と中海を結ぶ大橋川の狭窄部左岸に位置する。両遺跡は、第3図に示すとおり、大橋川の兩岸に形成された三角州Ⅱ面上に立地し、北側に頂部が標高114.1mの丘陵が迫っている。三角州Ⅱ面は標高2m以下の低湿な平地で、大橋川左岸から朝酌川沿いにかけて存在した湖水（古松江湖）の堆積が継続する近世初頭頃までには形成が完了し、現在みられるような陸地となったと考えられる。

シコノ谷遺跡は、北側の丘陵から派生する小河川により形成された谷地形が大橋川に接する部分



第3図 遺跡周辺の微地形分類図 (1/50,000) (林1991から転載)

である。若宮谷遺跡は、大橋川に面した低地とその北側の低丘陵に位置している。両遺跡共に大橋川に隣接し水位が上昇すると氾濫の危険性があり、近世以降区画は狭いものの水田として利用されていた場所である。

第2節 歴史的環境

若宮谷遺跡、シコノ谷遺跡が位置する大橋川兩岸丘陵上は、古墳時代に大型の古墳が築かれている。また、古代においては、『出雲国風土記』に「朝酌促戸」と記載され、南側の出雲国庁から隠岐国へ通じる古代道が大橋川を渡る際の「朝酌渡」があった場所として推定されている。

旧石器時代

遺跡として確認されるものは少なく、意宇平野の西側、茶白山周辺の低丘陵の台地上において僅かにみられる。下黒田遺跡（57）で玉髓製剥片のブロックが確認されており、山代郷南新造院跡（58）からは玉髓製のナイフ形石器が、石台遺跡（23）からサヌカイト製の大型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

気候の温暖化が進み海水面の上昇により、縄文時代草早期以降海水面が上昇し、早期には現在の海水準に近い状態であったと考えられる。前期には現在と同様の地形・植物相が成立するようになった。宍道湖・中海も汽水湖となり、弓ヶ浜や稲佐浜の砂州が形成されるようになる。遺跡としては、前期の土器が出土した竹矢町法華寺前遺跡（51）、後期中葉の土器・石器が出土した才塚遺跡（59）が意宇平野で見られる。丘陵部の勝負遺跡（24）において後期の住居跡もみられる。北岸の矢田地区では、丘陵谷部の朝酌菖蒲谷遺跡（4）で中期末～後期初頭の貯蔵穴が確認され、大井町九日田遺跡で後期初頭を中心とする貯蔵穴23基が確認されている。晩期には、河口付近などに砂州、三角州が形成されるようになり、遺跡数も増加している。大橋川南岸の官道下遺跡（6）の自然流路から、後期～晩期の土器が出土している。馬橋川沿いの石台遺跡では、粃殻圧痕が付いた晩期の土器、大型の打製石斧が確認される。北岸の福富町福富松ノ前遺跡（80）において晩期の突帯文土器と弥生時代前期前半の遠賀川式土器に粃殻が伴っており、稲作開始時期の遺跡である。

弥生時代

縄文時代の終わり頃から弥生時代にかけての海面低下により、現在より2m低く砂州や三角州の陸地化が一段と進んだとされている。意宇平野も東側の中海に向けて拡大したと考えられる。布田遺跡（52）は、前期後葉から中期にかけての集落跡で土器・石器・農工具の木器が多く出土している。夫敷遺跡（53）では、後期前葉の水田跡を確認している。平野の中央部では向小紋・上小紋遺跡（46）において後期の水田跡と水路のしがらみ遺構を確認している。杭の加工痕から鉄器の使用が想定され、水田耕作の生産力が増加していく様子がうかがえる。後期の集落は丘陵部の石台遺跡、勝負遺跡と魚見塚古墳（18）の墳裾において竪穴建物跡がみられ丘陵縁辺に展開している。墳墓では、間内越墳墓群（31）、来美墳墓群（33）で四隅突出型墳丘墓が確認されている。

古墳時代

古墳と集落遺跡は、大橋川の兩岸から山代町、大庭町にかけて多くみられ、出雲地域の中でも大型の古墳が分布する地域である。意宇平野北部の丘陵に社日古墳（49）などの小規模な前期古墳がみられる。前期末には、茶白山東麓に出雲最古の前方後円墳として知られる廻田1号墳（44）が築



1. シコノ谷遺跡 2. 若宮谷遺跡 3. 朝酌矢田Ⅱ遺跡 4. 朝酌菖蒲谷遺跡 5. 魚見塚遺跡 6. 官道下遺跡 7. 灘遺跡 8. 廟所古墳 9. 観音山1号墳 10. 観音山2号墳 11. 廻原遺跡 12. 藤沢A遺跡 13. 勝田谷窯跡群 14. 明曾窯跡群 15. 池ノ奥窯跡群 16. 朝酌岩屋古墳 17. キコロジ遺跡 18. 魚見塚古墳 19. 寺尾窯跡群 20. 廻谷窯跡群 21. 岩汐窯跡群 22. ハバタケ窯跡群 23. 石台遺跡 24. 勝負遺跡 25. 石屋古墳 26. 荒神畑古墳 27. 手間古墳 28. 竹矢岩舟古墳 29. 井ノ奥1号墳 30. 井ノ奥4号墳 31. 間内越墳墓群 32. 山代郷北新道院跡 33. 来美墳墓 34. 平所遺跡 35. 才ノ峠遺跡 36. 的場遺跡 37. 向山1号墳 38. 大庭鶏塚古墳 39. 山代二子塚古墳 40. 山代方墳 41. 山代原古墳 42. 狐谷横穴墓群 43. 十王免横穴墓群 44. 廻田古墳群 45. 間内遺跡 46. 上小紋・向小紋遺跡 47. 上竹矢古墳群 48. 出雲国分寺跡 49. 中竹矢遺跡 50. 出雲国分尼寺跡 51. 法華寺前遺跡 52. 布田遺跡 53. 夫敷遺跡 54. 茶臼山城 55. 東瀬寺古墳 56. 山代郷正倉跡 57. 下黒田遺跡・黒田館跡 58. 山代郷南新道院跡 59. 才塚遺跡 60. 山代郷南新道院瓦窯跡(小黒田Ⅱ遺跡) 61. 黒田趾遺跡 62. 団原古墳 63. 大坪遺跡 64. 神田遺跡 65. 出雲国造館跡 66. 岡田山古墳群 67. 岩屋跡古墳 68. 御崎山古墳 69. 出雲国府跡 70. 大屋敷遺跡 71. 西百塚山古墳群 72. 東百塚山古墳群 73. 古天神古墳 74. 天満谷遺跡 75. 安部谷横穴群 76. 大草岩舟古墳 77. 九日宮古墳群 78. 廻倉横穴群 79. 阿弥陀寺古墳 80. 松ノ前遺跡

第4図 若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡と周辺の遺跡

かされている。中期になると右岸に西から方墳の石屋古墳（25）、前方後円墳の井ノ奥4号墳、前方後方墳の竹矢岩舟古墳（28）が築かれる。左岸では、廟所古墳（8）、観音山1・4号墳（9）がみられる。後期になると茶臼山西麓に分布が移り、県内でも有数の大型古墳が築かれる。6世紀半ばに大庭鶏塚（38）、6世紀後半に全長94mの前方後方墳である山代二子塚古墳（39）が築かれる。意宇平野の西側では、東淵寺古墳（55）、御崎山古墳（68）、岡田山古墳（66）、大橋川北岸で魚見塚古墳（18）などがみられ、これらは山代二子塚古墳を頂点とする各地域の首長墓と考えられる。7世紀初頭から前半には、出雲地域に特徴的な石室として、石棺式石室を主体部とする山代方墳（40）、山代原古墳（41）、団原古墳（62）、向山1号墳が築かれる。北岸では、朝酌岩屋古墳（16）、廻り原古墳（11）など横穴式石室を有する古墳がみられる。大井町には、古墳のほか岩汐窯跡群（21）をはじめとし、古墳時代以降須恵器を製作する大井古窯跡群が存在し、出雲地域に広く供給している。

古 代

意宇平野の南側において、7世紀末頃出雲国府（69）が置かれている。国府の関連施設として位置は不明だが意宇郡家、黒田驛、軍団が付随していたと考えられる。733年（天平5年）に編纂された『出雲国風土記』に、国と国を結ぶ主要な官道として山陰道（正西道）が東西に走り、国府の北側で隠岐に続く官道枉北道が十字街から北へ向けて通っていた。枉北道は大橋川南岸の官道下遺跡（6）、灘遺跡（7）辺りで大橋川の北岸に船で渡っており、「朝酌渡」が『出雲国風土記』に記載がみられ、朝酌矢田Ⅱ遺跡周辺が推定されている。魚見塚遺跡（5）では、枉北道の一部と考えられる道路遺構が確認されている。官衙関係の遺跡は、炭化米が出土した山代郷正倉跡（56）や、出雲国造家と関連すると思われる庇付柱建物跡の見つかった中西遺跡などがある。意宇平野の北東部には、出雲国分寺（48）、出雲国分尼寺（50）が位置しており、両寺で使用した瓦が出雲国分寺瓦窯跡で焼かれている。その北側丘陵斜面に27棟の掘立柱建物跡が見つかったオノ峠遺跡（35）があり、瓦と共に祭祀遺物も出土することから国分寺関連の集落と考えられている。

中 世

中世は国府を中心として中世府中が展開しており、出雲国庁跡の上層で多くの遺物が出土している。国庁の南側には、意宇川を挟んで天満谷遺跡（74）があり、12～13世紀を中心とした中国製陶磁器、国産陶器などが出土している。石台遺跡は馬橋川に隣接しており、東播系須恵器、瓦器碗など畿内方面から搬入された土器が出土し、中世の流通にかかわる拠点的な集落と考えられる。館跡としては、出雲国造館跡（65）において、建物跡、柵が確認されている。黒田館跡（57）では、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡が検出されている。集落としては、中竹矢遺跡（49）において掘立柱建物跡に12世紀の白磁碗、土師器を伴っている。墳墓としては的場遺跡（36）で中国製褐釉四耳壺の骨蔵器、社日古墓（49）では五輪塔を伴う墓が確認された。

【引用・参考文献】

林正久1991「出雲平野の地形発達」『地理科学』第64巻第1号 島根県古代文化センター2000『出雲国風土記の研究Ⅱ』島根県古代文化センター2009『出雲国府周辺の復元研究』 島根県教育委員会2013『史跡出雲国府跡』-9総括編- 中村唯史2014「縄文時代の島根県の古地形と三瓶火山の活動の影響」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集 松江市教育委員会2015『史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書』 松江市教育委員会2018『魚見塚遺跡・朝酌菖蒲谷遺跡』松江市文化財調査報告書 第181集 松江市2012『松江市史』資料編 考古資料 松江市史編集委員会

第3章 若宮谷遺跡の調査成果

第1節 調査の概要

1. 遺跡の立地（第5図）

調査対象地は、大橋川左岸の狭隘な谷と丘陵部に位置している。谷は幅が30 m程で北側の丘陵部から大橋川に向けて繋がっており、谷筋から湧き水がみられた。県道に面した場所は元々水田として利用されており、その奥が石垣を積んで一段高くした水田となっていた。丘陵部は宅地と畑として利用されていた。ここから300m東側には、前年調査を行ったシコノ谷遺跡の谷が位置している。

今回の大橋川改修事業に伴う調査区の北側、主に谷部において松江市教育委員会において発掘調査がおこなわれている。この調査においても貝塚の広がり確認されており貝、魚骨などが出土しており遺跡がかなり広範囲に広がっていることが分かった。

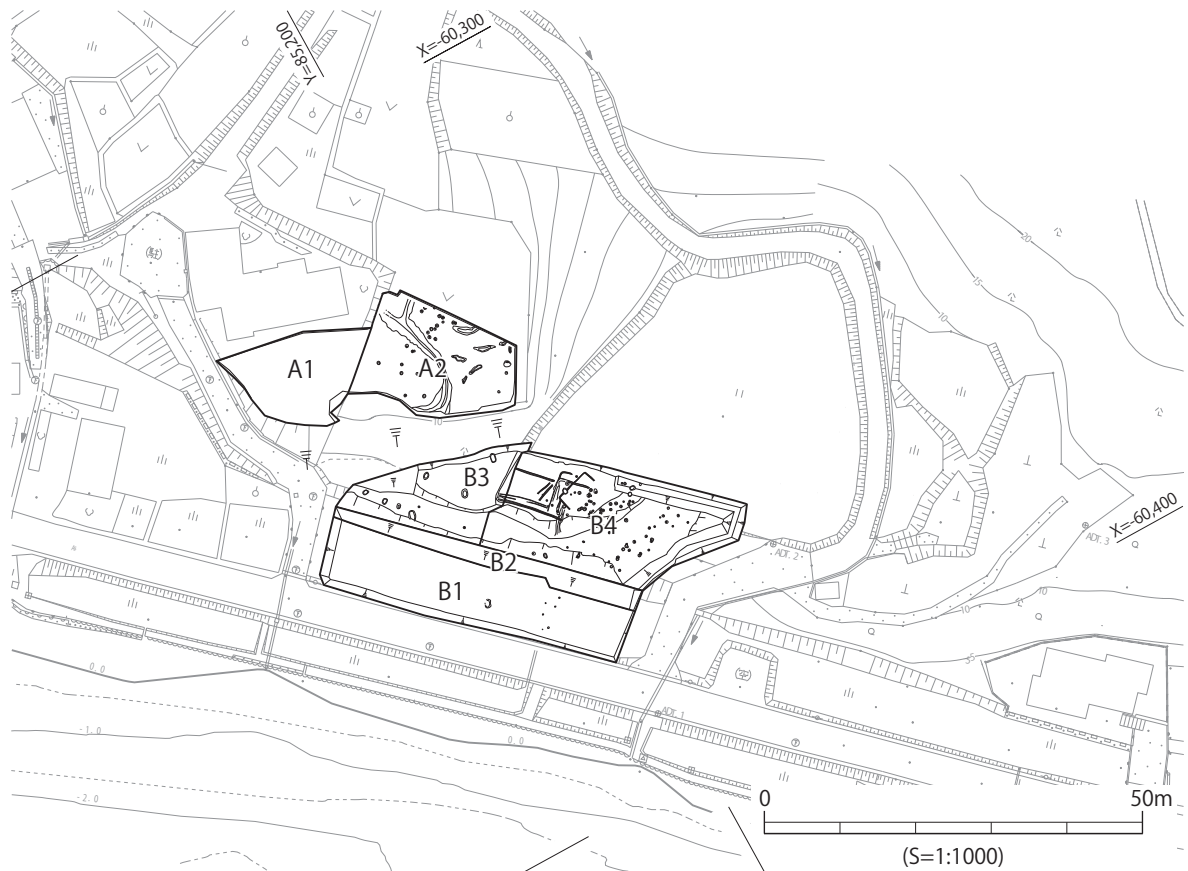
2. 発掘調査区の設定（第5図）

今回の発掘調査区は、前述した地形の特徴と試掘確認調査の結果に基づき、丘陵部をA区、谷低地の平坦部をB区、B区は南側からB1・B2・B3・B4区としている。

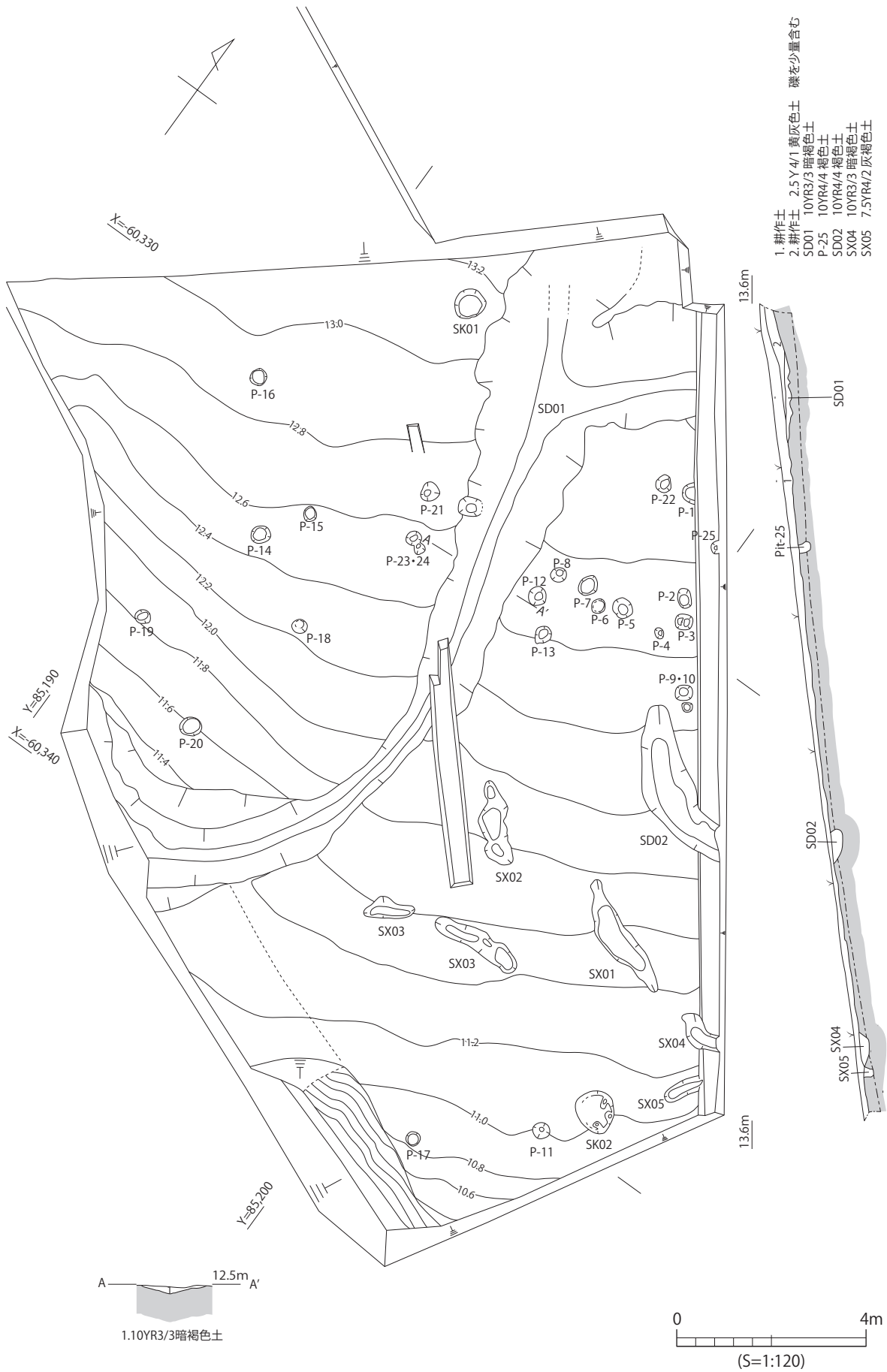
調査区については、グリッド設定を行わず、出土層位を記載して必要な遺物は座標を測り取り上げを行った。

3. 調査の方法

調査前の現地の状況について、B区とした谷低地の平坦面は水田跡、丘陵部は宅地や畑であり、



第5図 若宮谷遺跡 調査区周辺図 (1:1,000)



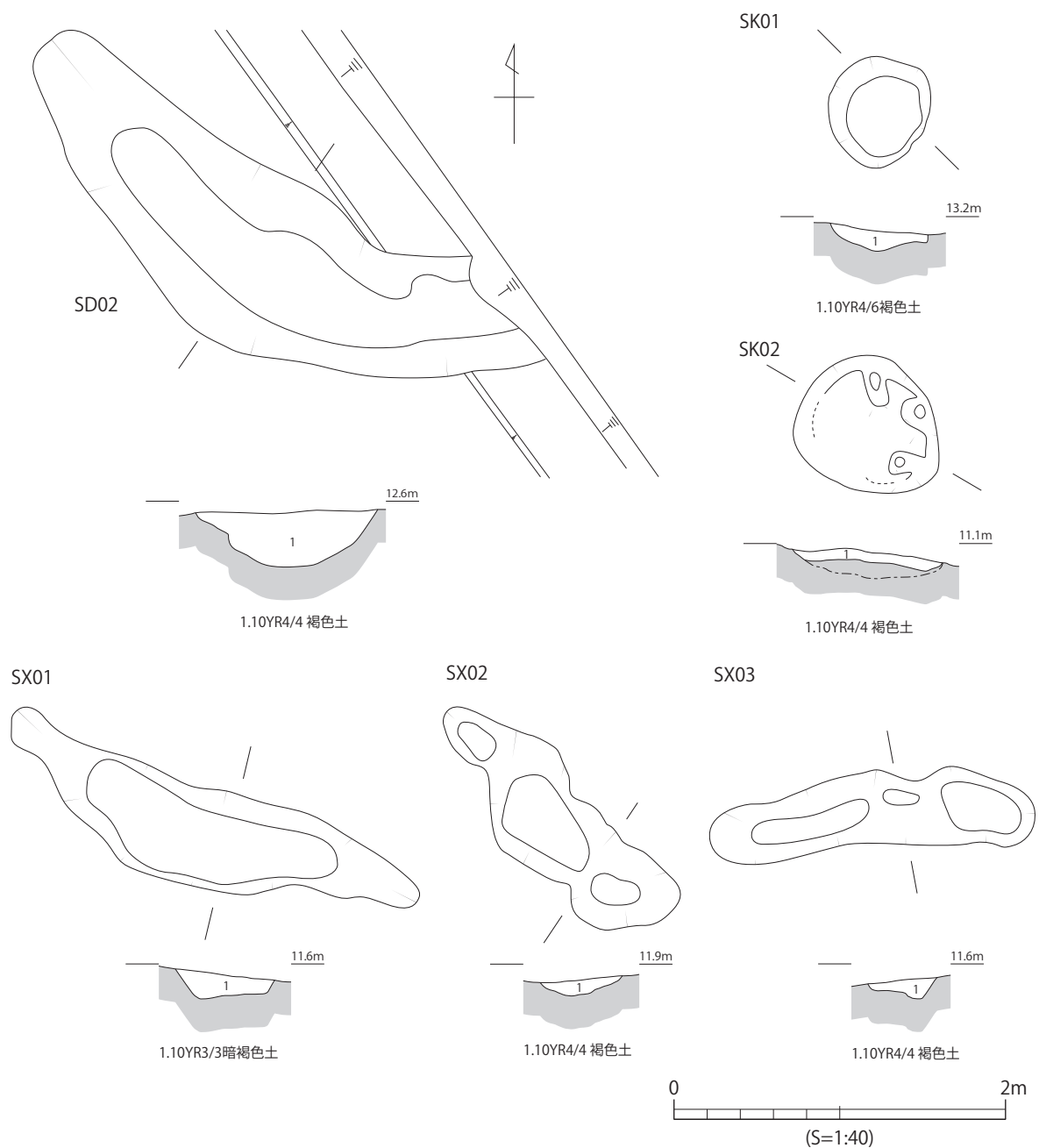
第6図 若宮谷遺跡 A区遺構全体図 (1:120)

耕作土と造成土は遺物包含層までバックフォーを用いて取り除いた。重機掘削はバケットに平爪を装着し、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。併せて土層観察を行いながら、包含層まで余裕を持たせて掘削を停止した。

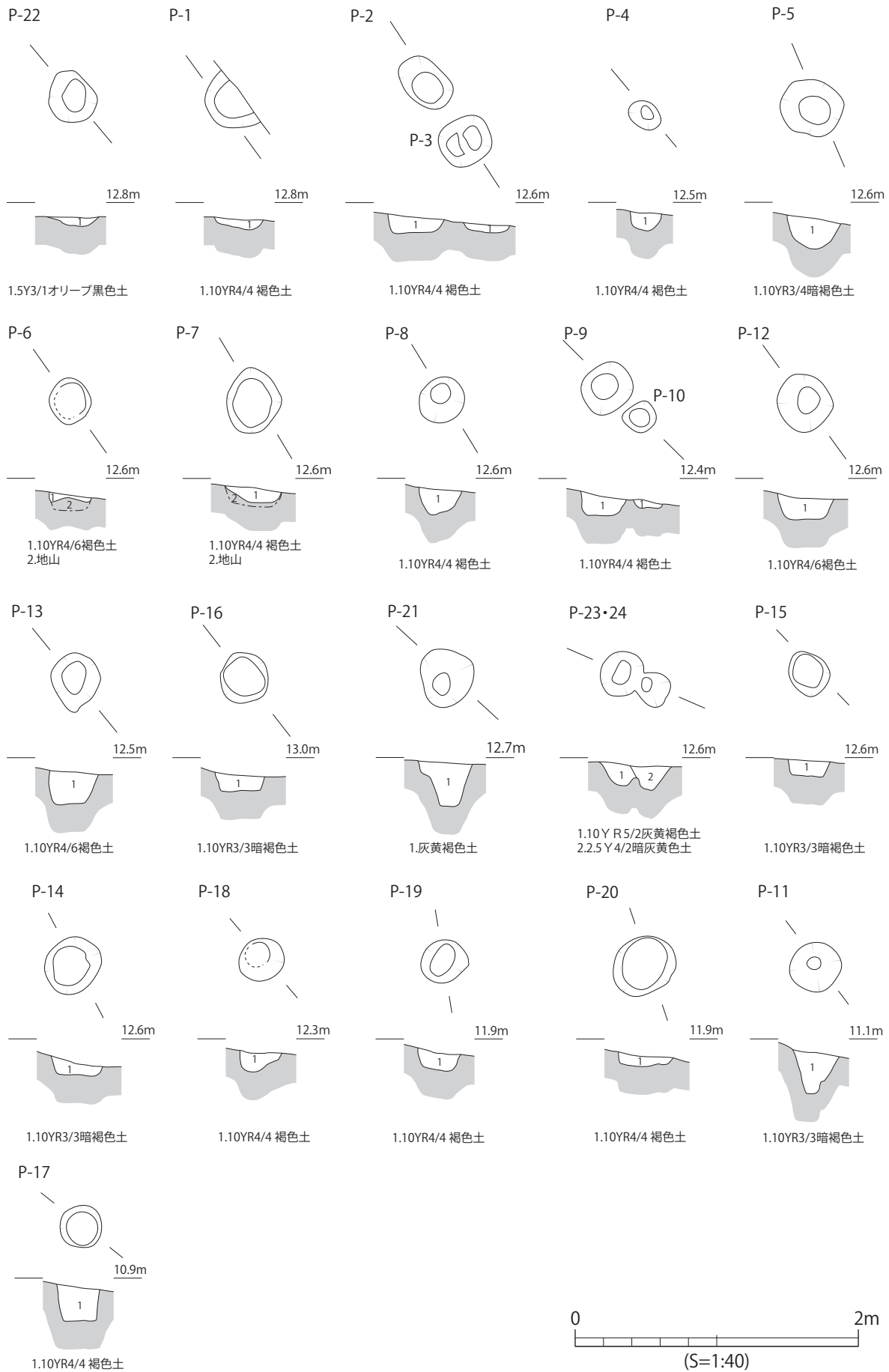
その後はベルトコンベアーを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構からの出土遺物については、出土状況を記録した後、取り上げNoを振って取り上げた。

A区はA1・2に分けて初めに宅地跡の平坦地の調査を行い、その後に東側の一段高いA2区の調査は、A1区を排土置き場として調査を行った。終了後には埋め戻しを行い、現況の畑に戻している。

B区の調査は、初めにB1区から初めて排土を調査区西側の空き地に搬出し、B2・3・4区の排土



第7図 若宮谷遺跡 A区SD02・SK01・02、SX01・02・03 (1:40)



第8図 若宮谷遺跡 A区Pit実測図 (1:40) *方位は上が北

は調査を終えたB1区を置き場所として実施した。最終的に埋め戻しを行い、現況にもどしている。

現地調査期間は令和元年7月9日から11月18日、最終的な調査面積は1,900㎡、調査体制は調査員1名、調査補助員2名である。

第2節 A区の調査

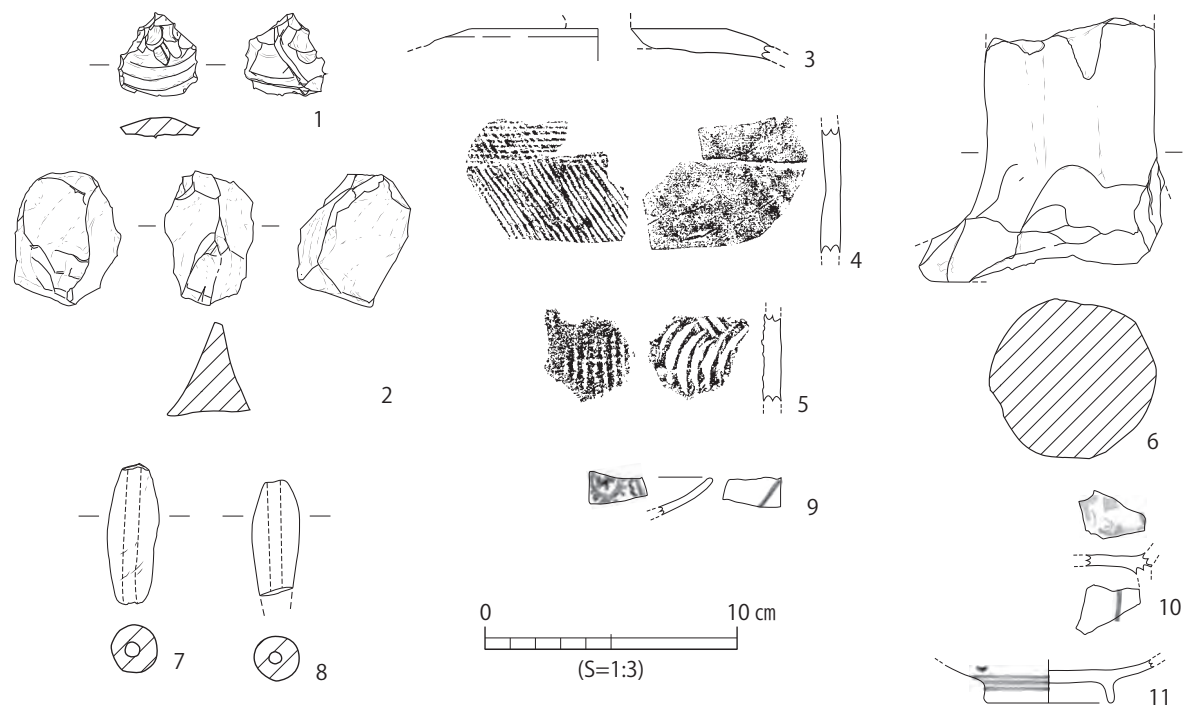
1. 調査の概略と検出遺構（第5・6図）

A区は標高10～13mの丘陵部の斜面に位置する。A1区は元々宅地であったため、丘陵部が平坦に造成されていた。黄色土の平坦面を精査したところ黒色の硬いマンガンバンドが確認された。黄色土は木次三瓶降下層であり、平坦地は宅地造成により削られたもので、遺構や遺物包含層は確認できなかった。

A2区は東向きの緩い斜面の畑で耕作土を除去すると包含層はなく直ぐに地山面が検出された。地山面から検出した遺構としては、調査区の中央を南北方向の溝（SD01）を検出している。幅0.5m～4.8m、長さ16m、深さは南端で1.04mを測る。断面は緩く湾曲する形態で暗褐色の覆土中からは、須恵器（3～5）、土製支脚（6）と共にビー玉が見つかったことから新しい遺構と思われる。丘陵部に上る道状の遺構と考えられた。溝（SD02）は調査区の北端で確認したもので、長さ3.6m、幅1.2m、深さ0.3mと浅いものであった。土壌（SK01・02）や不明遺構（SX01～04）など調査区全域から無数のPitを検出し、遺構中からは遺物を確認できなかった。調査区全体からは古代の遺物は出土しているが明確な包含層は確認できなかった。全体的に削平されている可能性がある。

2. A2区出土遺物（第9図）

これらはSD01・P-9から出土したのも含まれるが、殆どは調査区の全体の耕作土中からの出土である。

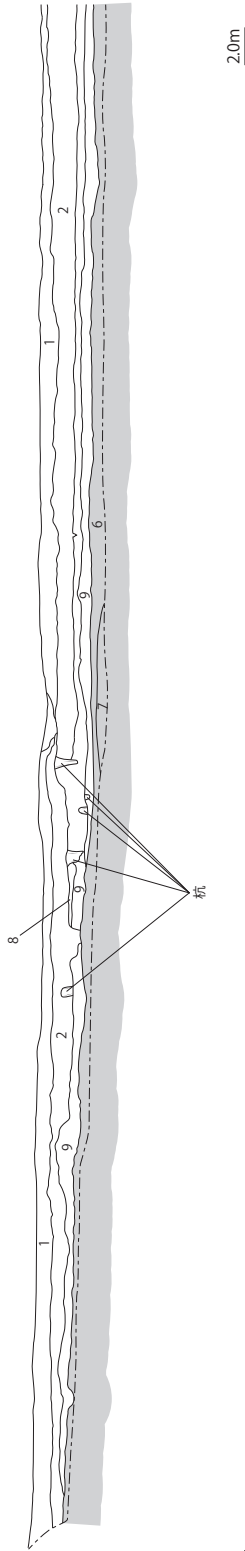


第9図 若宮谷遺跡 A区出土遺物実測図（1:3）



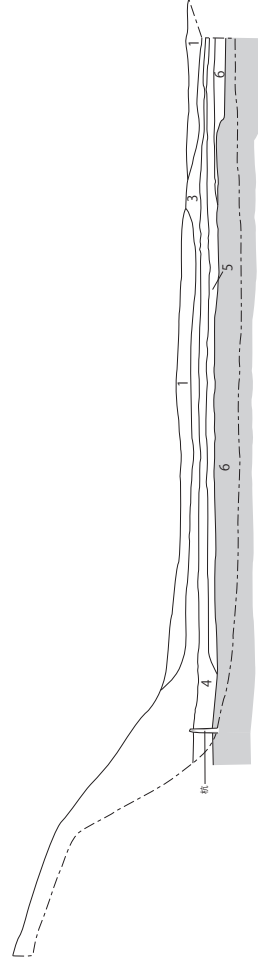
第10図 若宮谷遺跡 B区遺構全体図 (1:250)

B1区 南壁土層断面図

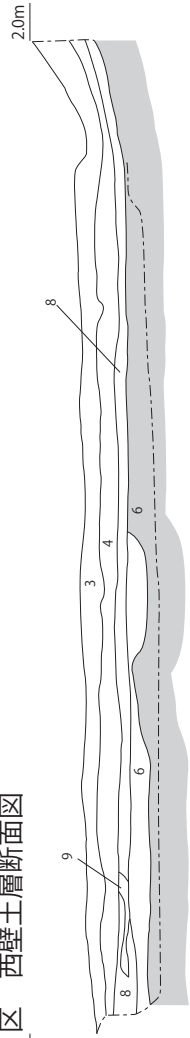


B1区 東壁土層断面図

4.0m



B1区 西壁土層断面図



1. 表土・薄黒色土 水田か水田をやめた後でアシ・ヨシ類のはえてた層
2. 耕作土・薄茶灰色土旧水田か畑
3. 表土(薄黒灰色土)
4. 耕作土 薄茶灰色土 旧水田か畑
5. 砂層
6. 地山(完全なくされ礫層 淡褐色土)
7. 地山(比較的やわらかい岩盤)
8. 灰色土(遺物包含層)粘質土
9. 礫層 8層と基本的には同じ層



第11図 若宮谷遺跡 B1区土層図 (1:100)

第9図1は黒曜石の石鏃未成品の可能性があるので、先端のみ細かな剥離がみられる。2は安山岩の石核と思われる。3は須恵器蓋坏・蓋でつまみを欠いているが宝珠状つまみが付くものと思われる。4は須恵器甕で外面に細かな叩き痕、内面を撫でている。5は甕で内外面に叩き痕がみられる。6は土製支脚の下半部で角の部分の欠いており、脚端部の裾が広がる形態である。これら須恵器、土製支脚は古墳時代後期から奈良時代にかけての時期と考えられる。7・8は土師質で管状の形態の土錘である。9は肥前系磁器の染付皿で内面に蛸唐草文を描き、時期は19世紀代である。10は肥前系磁器の色絵皿で、内面に草花文を描いている。11は肥前系磁器の染付碗で見込みと高台脇に圏線が描かれる。10・11の年代観は18世紀以降と思われる。

第3節 B区の調査

1. B1区の調査 (第10図)

B1区は、市道沿いの水田だった場所で標高1.5mを測る。水田の耕作土を除去すると灰色粘質土の遺物包含層があり、その下が地山(基盤層)である。基盤層の上面に軟質の礫層が一面あり、その下が灰白色粘質土となる。

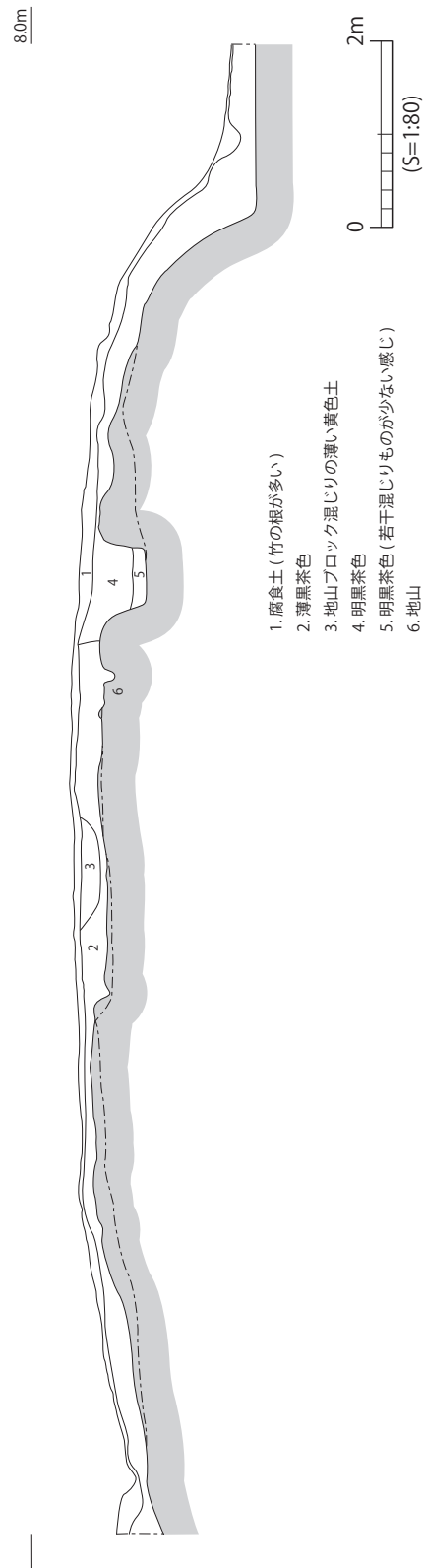
調査区の中央部でSK01(第13図)を検出している。長さ1.15m、幅0.6mで床面が平坦ではなく凹凸がある。埋土中より須恵器・甕(第13図)が出土している。小片であり内外面に叩きが施されている。調査区の南側には杭列がみられた。2列が平行するような位置にあり、杭の間隔が0.7m、列の間隔が0.6mとなる。杭は丸太材、ミカン割材の先端を加工し、地山に0.2~0.4m打ち込まれている。列の長軸方向が市道に対して直行するような関係となり、新しい時期の杭列と考えられる。

2. B3区の調査 (第10図)

B区の中で北側にあり丘陵斜面にかかる部分であり、南側が一段低くテラス状になっている。表土下の地山面を精査して土壌8基を検出している。

SK02 (第14図)

標高7mの斜面で長軸がほぼ南北方向で長方形のプランを呈している。長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.6mで壁面が垂直に近く立ち上がっている。土壌内の覆土は明黒茶色土、北寄りの底

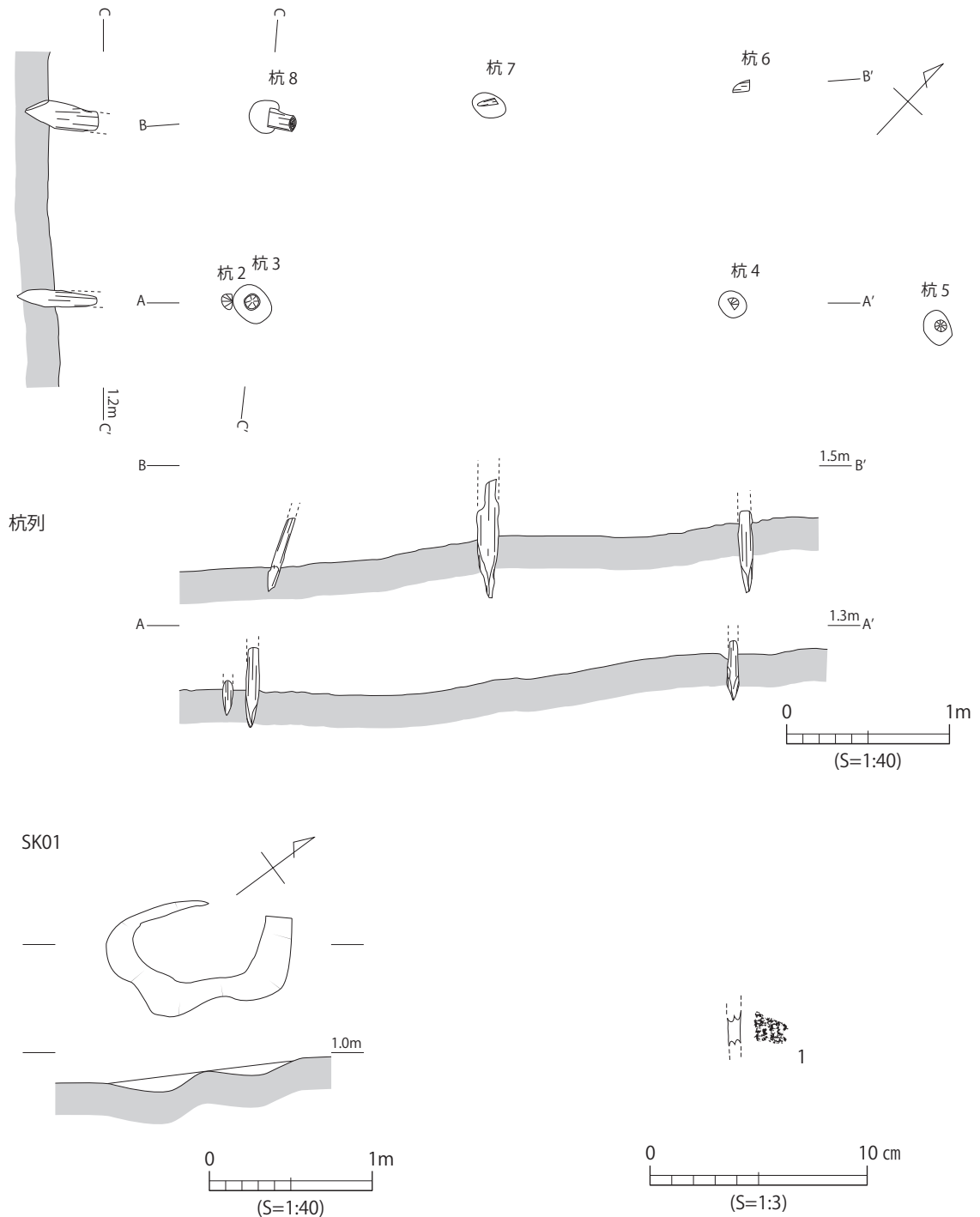


第12図 若宮谷遺跡
B3区土層図 (1:80)

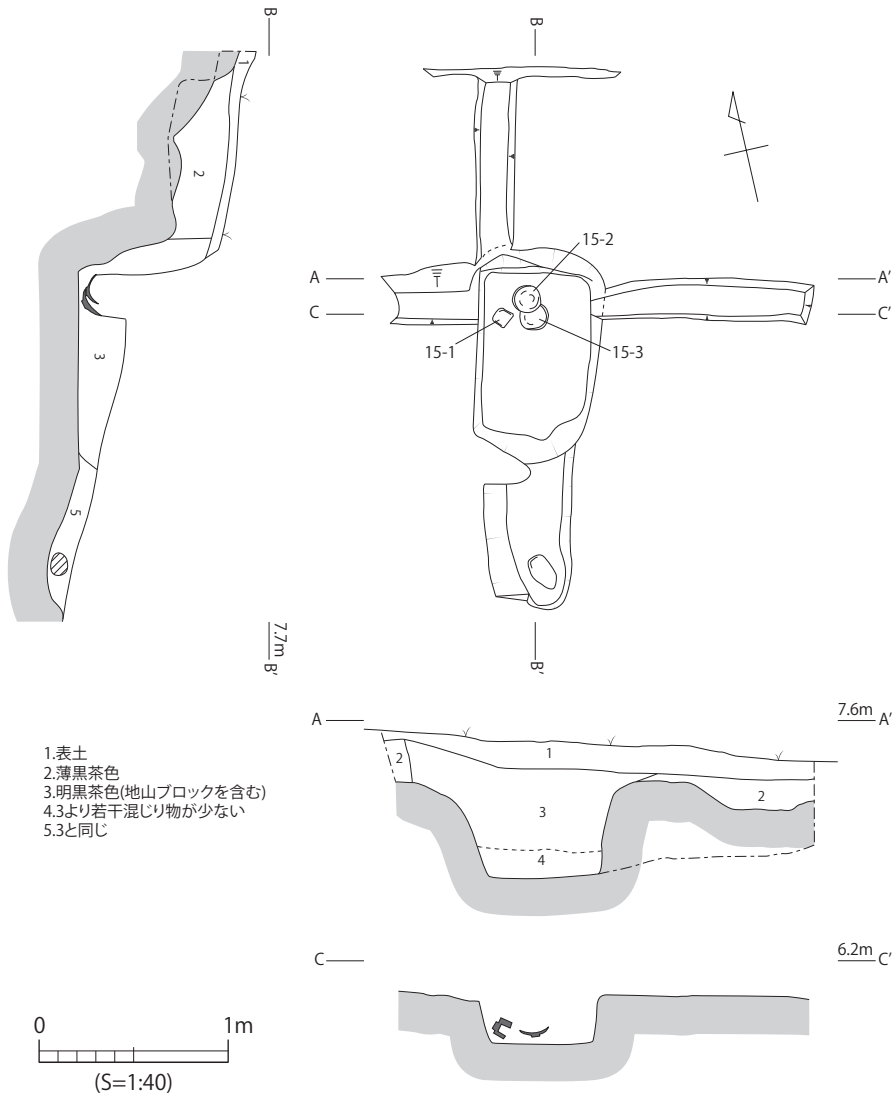
に近い位置から陶磁器が出土している。

SK02出土遺物 (第15図)

第13図1は肥前系陶器の筒形香炉で、深い黄緑色を呈した灰釉が施釉される。高台は鉋削りされ、削り残しが盛り上がりて兜巾となる。畳付の一部は胎土目を外す際に欠けている。小物成2号窯跡出土の香炉に酷似しており、九州陶磁Ⅰ期(1580~1610年代)に属する。2・3は肥前系磁器の染付皿である。内面の二重圏線内に山水文、外面に圏線が描かれる。釉は畳付を除いて施釉され、畳付にはアルミナ砂が付着する。2と3は同一意匠であるが、個体差があり文様の配置や筆致の濃淡により印象が異なる。時期は小樽2号窯跡出土遺物を指標とし、九州陶磁Ⅱ-2期(1630~50



第13図 若宮谷遺跡 B1区杭列、SK01実測図 (1:40)・出土遺物実測図 (1:3)



第14図 若宮谷遺跡 B3区SK02実測図 (1:40)

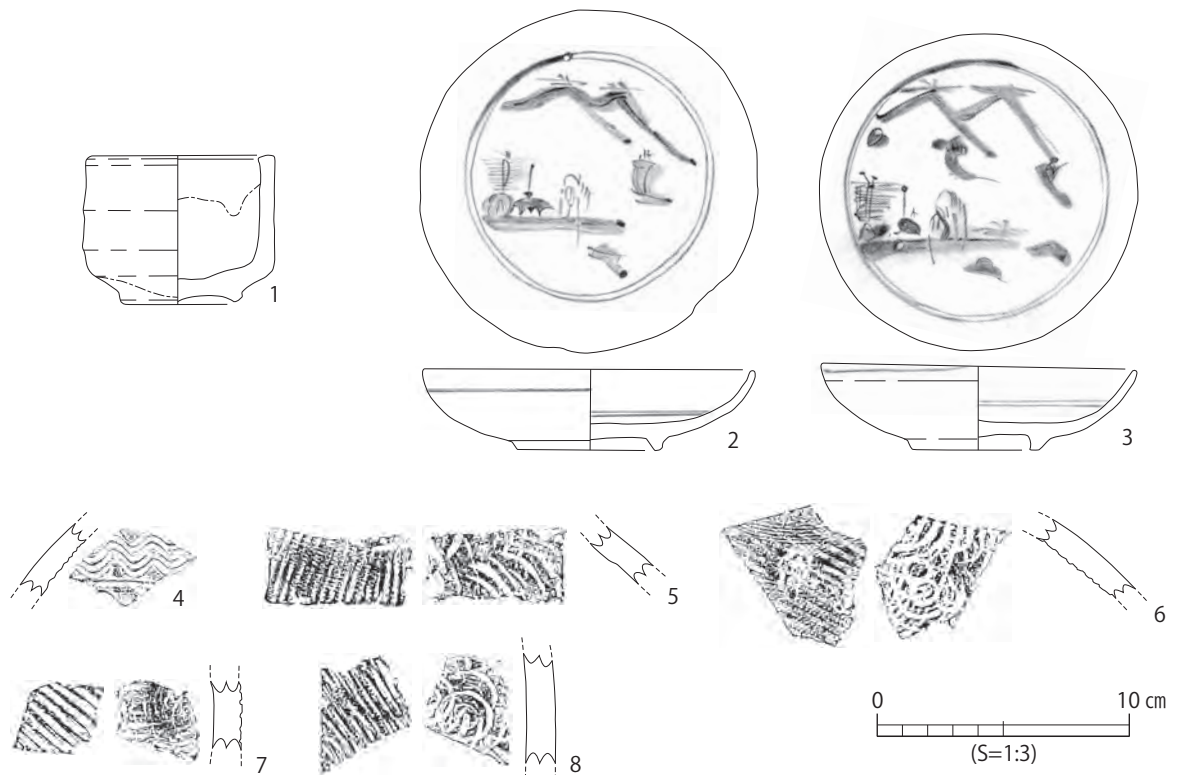
年代)に属する。

4～8は須恵器甕の破片で、土壌内覆土中からの出土であるが、土壌の時期ではなく周囲からの混入と考えられる。4は甕の口縁部で外面に波状文が描かれている。5～8は甕の胴部の破片で外面に平行叩き、内面に同心円のあて具痕が残っている。

SK03～08 (第16図)

SK03・04は、SK02と5mの等間隔を置いて斜面に位置している。平面形は楕円形で長さが1.2mと0.8mでSK02より小さいものであるが同様の場所であることから、用途は同じものと考えられる。SK05～08は、一段低いテラス状の平坦地に並んで位置している。SK05・06・07は長さが80cmと小さいものである。SK08は長さ1.8mを測り、主軸方向がSK02・03と同じくほぼ北向きとなっている。覆土は、いずれの土壌も薄灰黒土と同様であり、遺物は出土していない。SK02の内部から陶磁器を出土している。調査区の東側には、矢田町の集団墓地があることから江戸時代初期の墓域であった可能性があると思われる。

その他Pitが9基確認されるが、建物跡の柱としてのまともには確認できない。



第15図 若宮谷遺跡 B3区SK02出土遺物実測図 (1:3)

第4節 B4区の調査

1. 調査方法

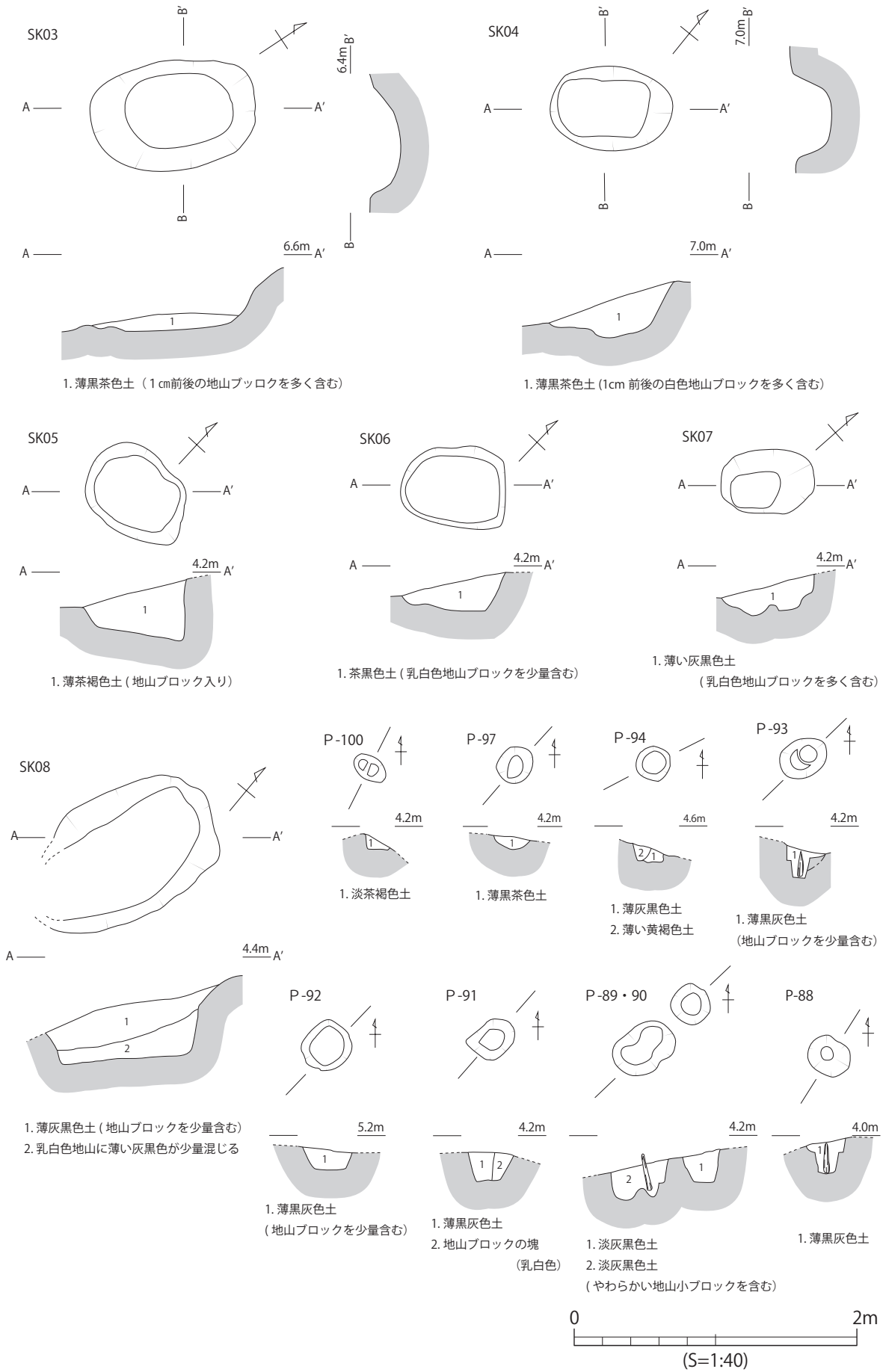
B4区はB区の東側、丘陵裾部の中段と下段に位置している。西側が1.5m程高くなり、後世の削平により全体的に平坦となっている。本来は北側のB3区の斜面の傾斜が続いていたものと思われる。水田耕作時の造成により削平を受けていると思われる。

2. 基本層序 (第18図)

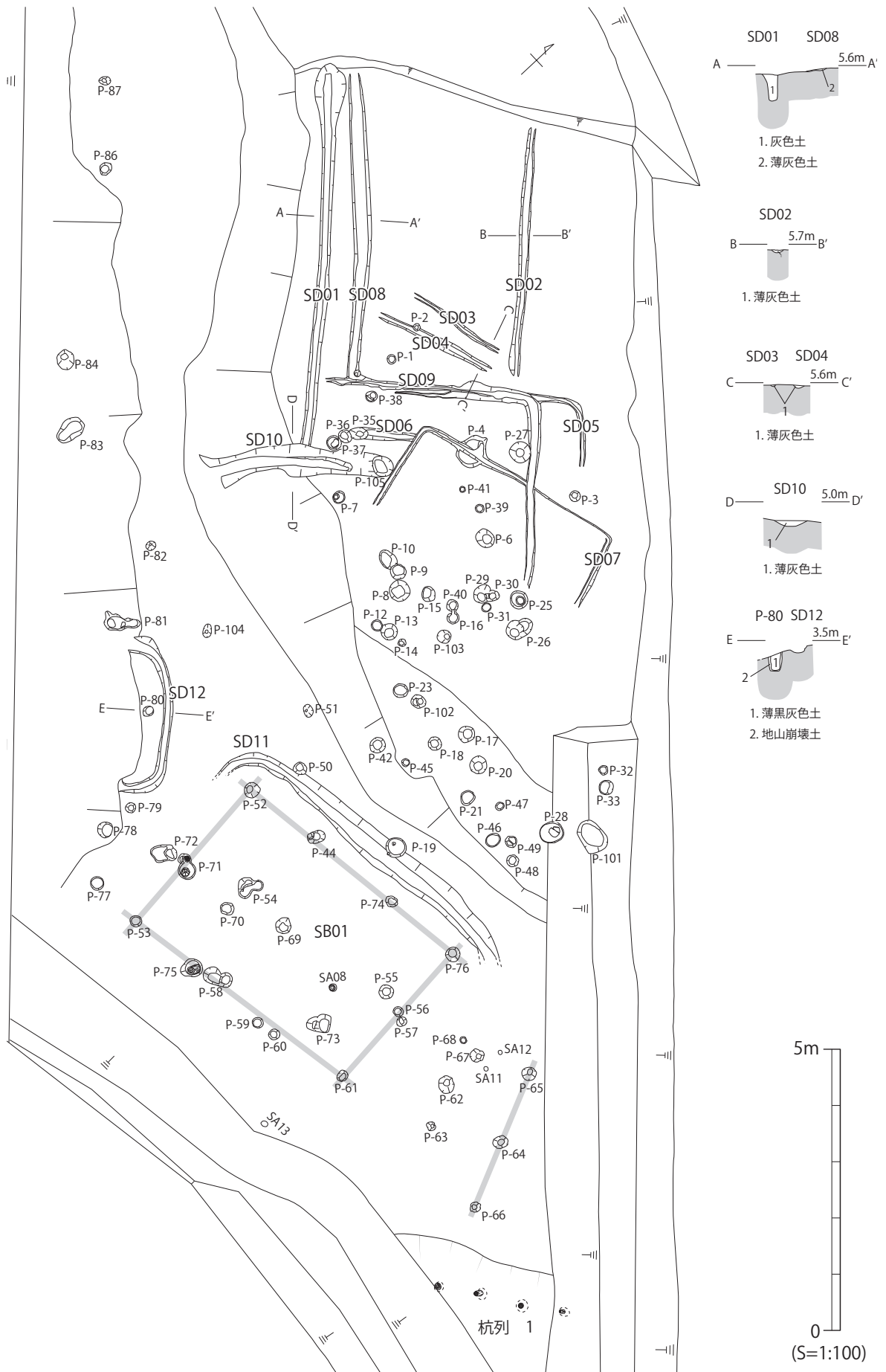
調査区全体に水田耕作のための造成土（3層 薄茶黄色土）がみられその下に灰色土、灰色粘土が堆積している。東側の一段と低い場所には、さらに暗灰色土、黒灰色粘質土（貝層）、明灰色礫層となる。黒灰色粘質土はシジミ貝が多く含まれており貝層と呼ぶべき土層である。谷地形の一番底には、礫層がみられこの中に縄文土器、黒曜石を含んでいる。谷底はより厚い堆積となり、大橋川沿いのB1区においては地山直上に薄い堆積がみられる。

3. 遺構と遺物 (第17図)

SD01は、東西方向に一直線に伸びており幅0.3m、深さ0.7mと幅に対して極めて深いもので壁が垂直に近い立ち上がりである。人力での掘削は極めて困難と思われ、機械利用の可能性が考えられる。SD08は、SD01と平行に隣接して位置している。深さが0.2mと極めて浅い。SD02もSD01と方向を同じく直線的に伸びている。深さ5cmと浅いものである。SD03・04は短い範囲しか検出していない、深さも浅く、方向性はSD07と同じものである。SD06は、長さ1.1mと極めて短いものである。方向がSD05・09と同じで溝の幅も近いものである。SD10は長さ3.5m、幅0.7mとやや幅が広く、中段の平坦面から南側の斜面にかけて、SD01に直交するような位置関係である。

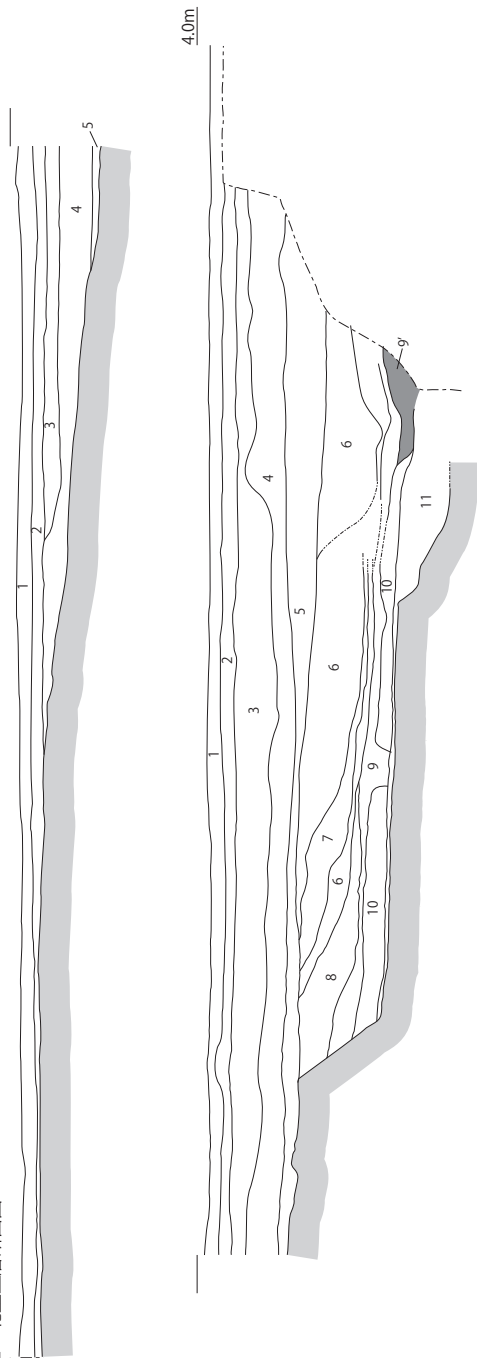


第16図 若宮谷遺跡 B3区SK03~08・Pit実測図 (1:40)

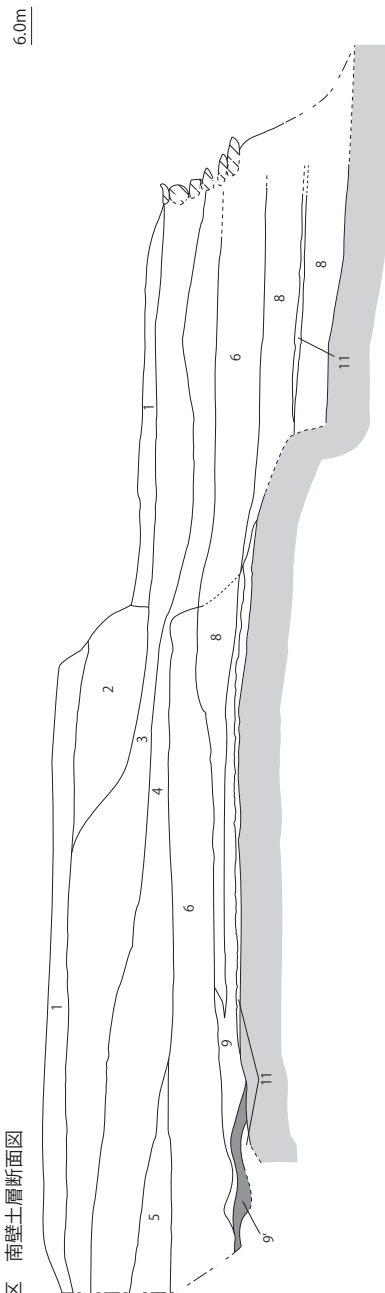


第17図 若宮谷遺跡 B4区遺構全体図 (1:100)

4区 北壁土層断面図



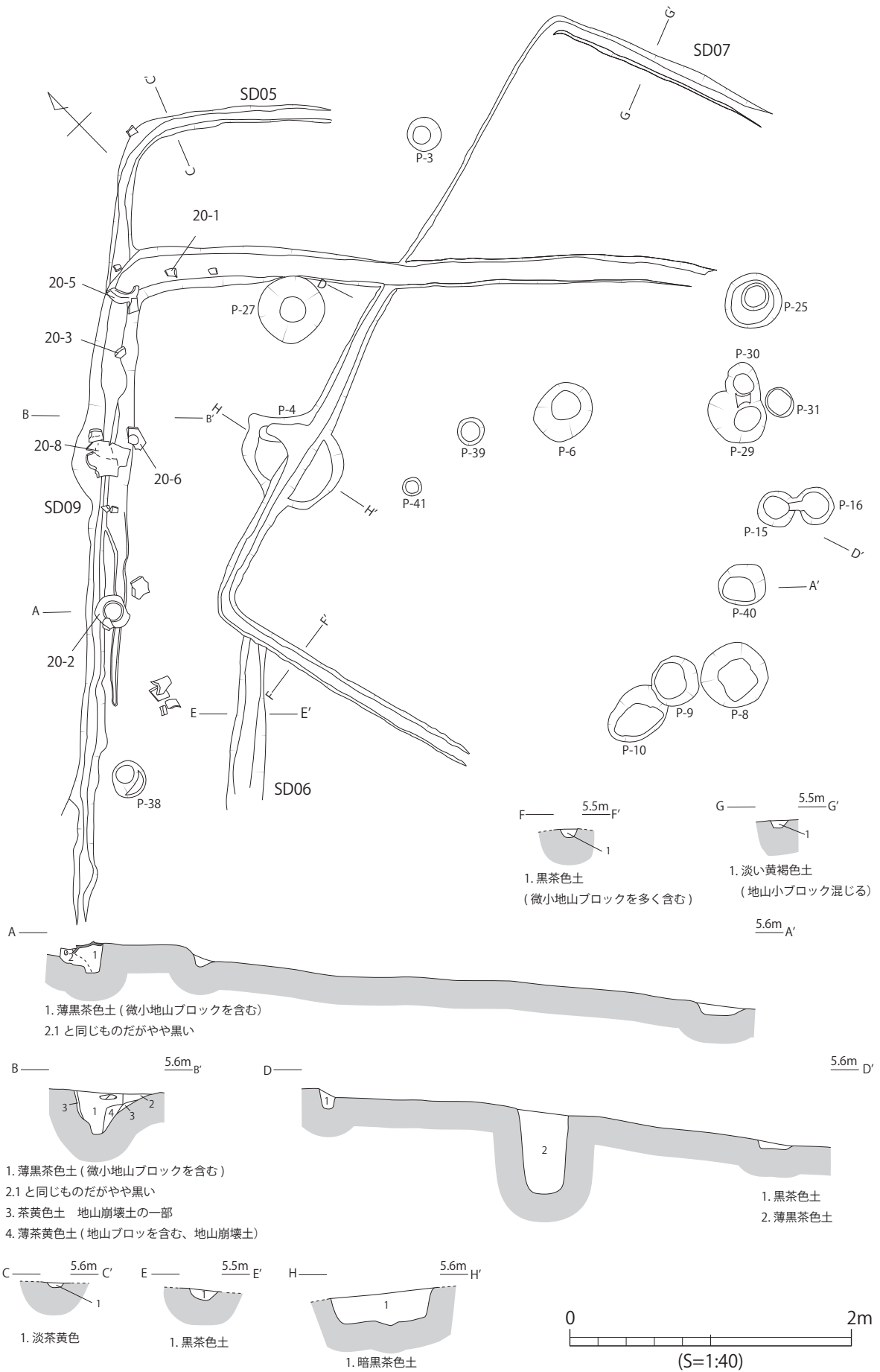
34区 南壁土層断面図



1. 耕作土 (水田)
2. 暗灰色土 (水田床土)
3. 薄茶黄色土 (盛土)
4. 灰色土 (自然堆積か?)
5. 灰色粘質土
6. 暗灰色土 (白色・黄色の地山ブロックを多量に含む)
7. 明灰色砂質粘土 (盛土)
8. 暗灰色土 (白色・黄色の地山ブロックを含む)
9. 黒灰色粘質土
10. 灰色粘質土 (貝を多く含む)
11. 明灰色礫



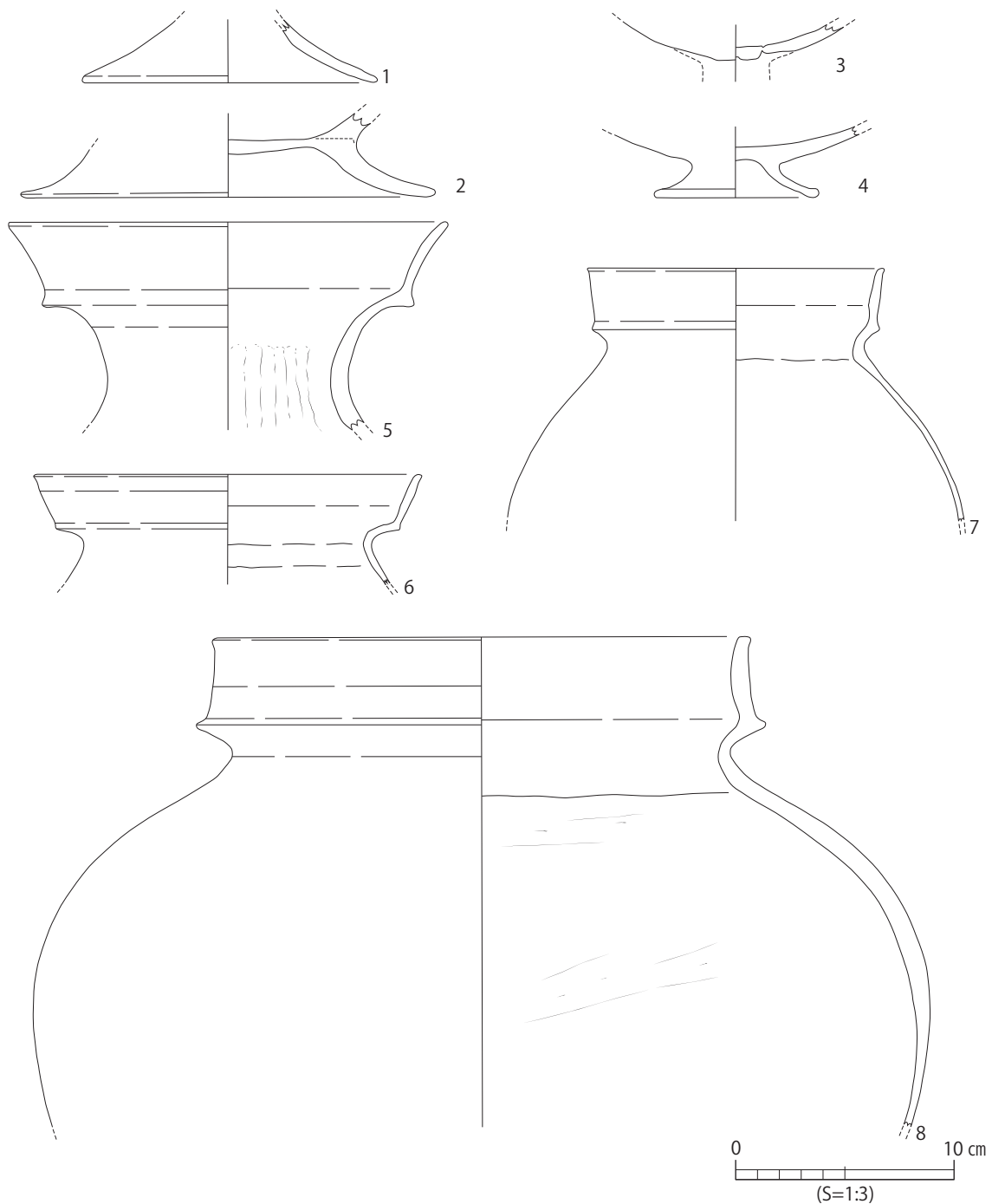
第18図 若宮谷遺跡 B4区土層図 (1:100)



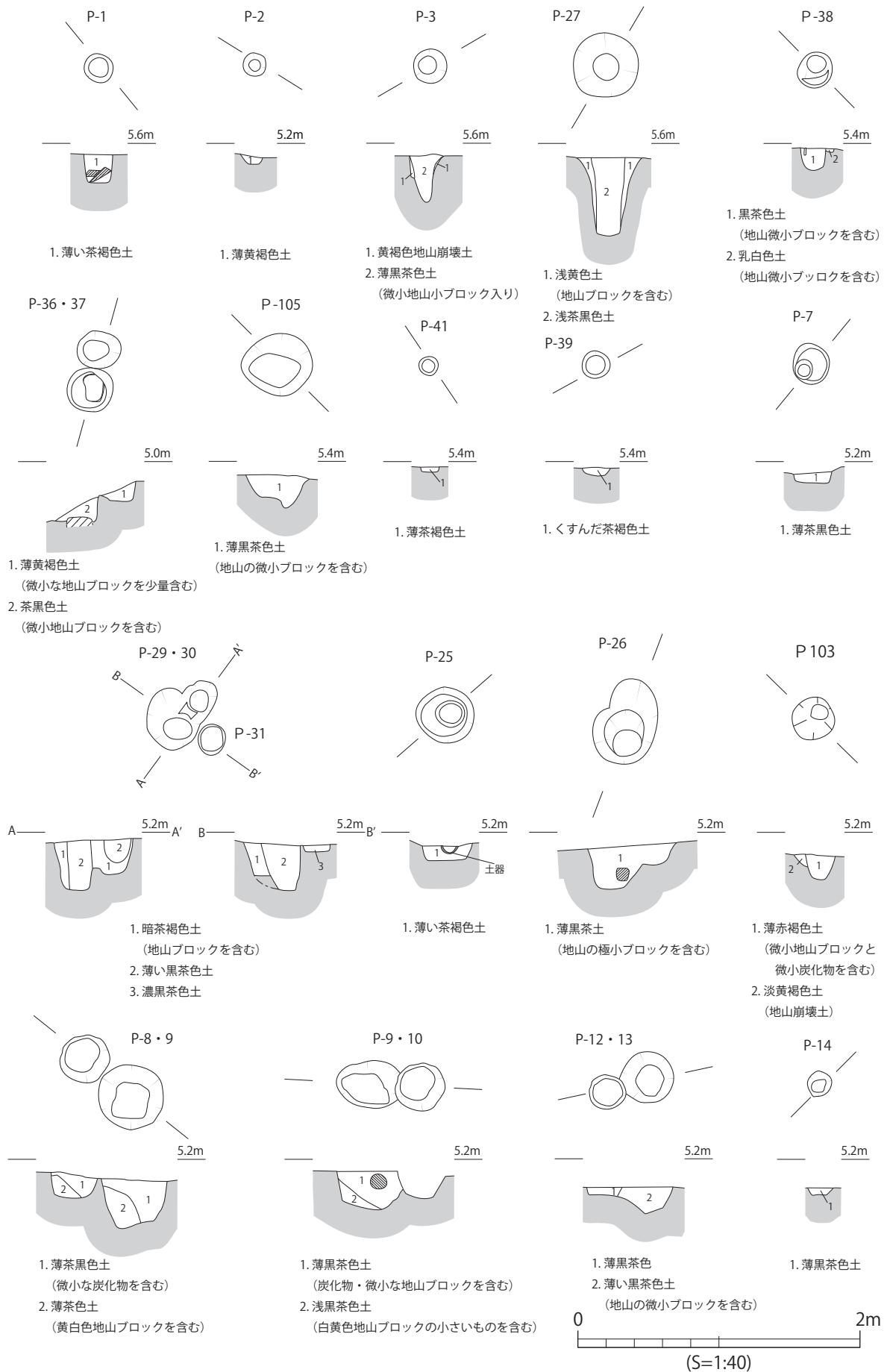
第19図 若宮谷遺跡 B4区溝状遺構実測図 (1:40)

SD09 (第19図)

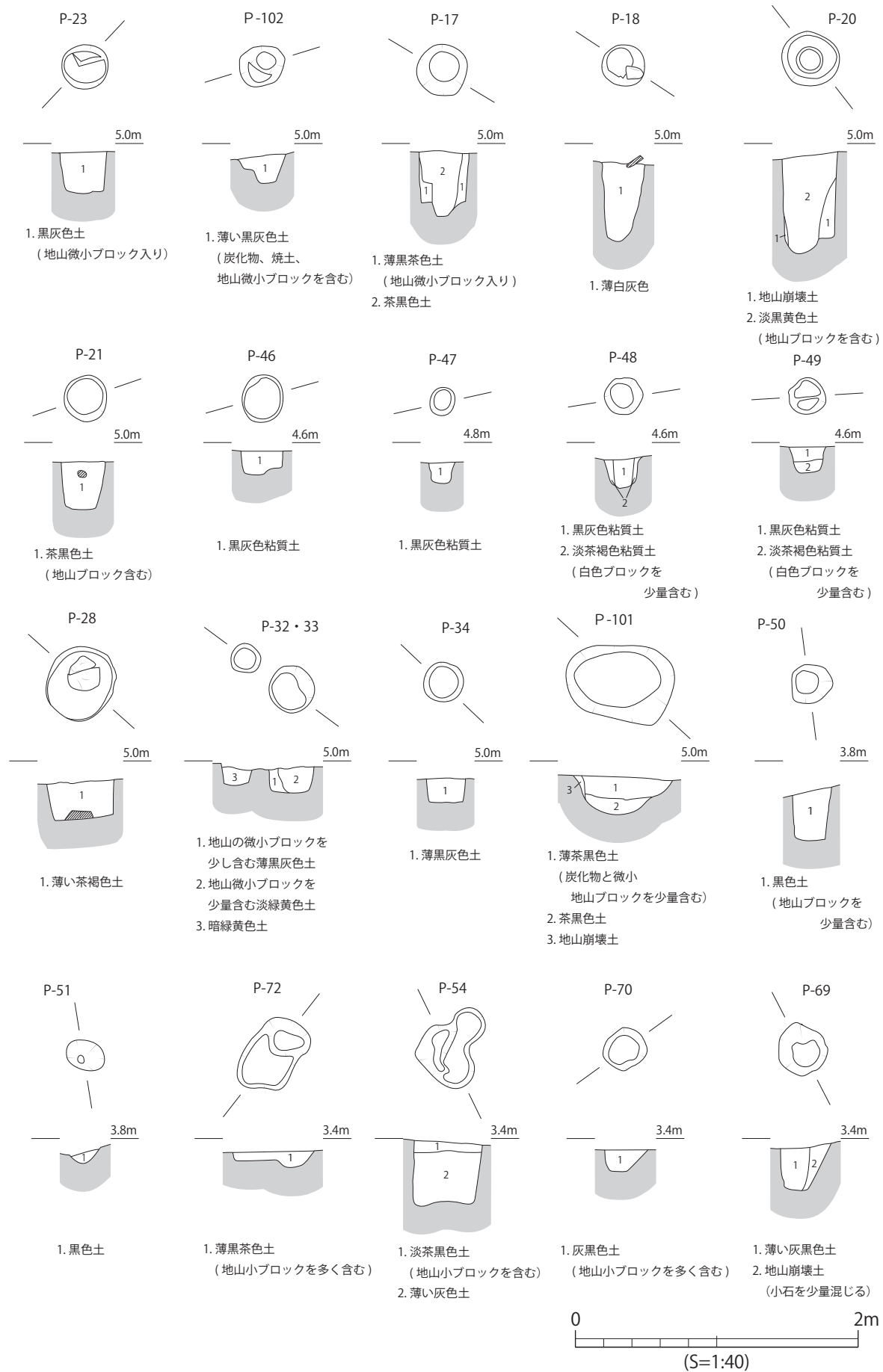
SD09は平面形が「L」字に曲がる角の部分で幅0.15～0.3m、深さ0.2～0.3mを測り、溝内から土器(第20図)が出土している。SD05はSD09に切られて位置しており、前後関係はSD05(旧)－SD09(新)という関係である。軸方向は同じ方向性であり、SD09の西側では部分的に平行し重複している状態である。SD09・05ともに上部が削平を受けており、基底部のみを確認したもので、この溝は竪穴建物の周溝部分を検出したものと思われる。P-27は深さが0.6mであり、SD05に伴う支柱穴の可能性はある。SD06はSD09と並行しているが、残存長1.2mである。



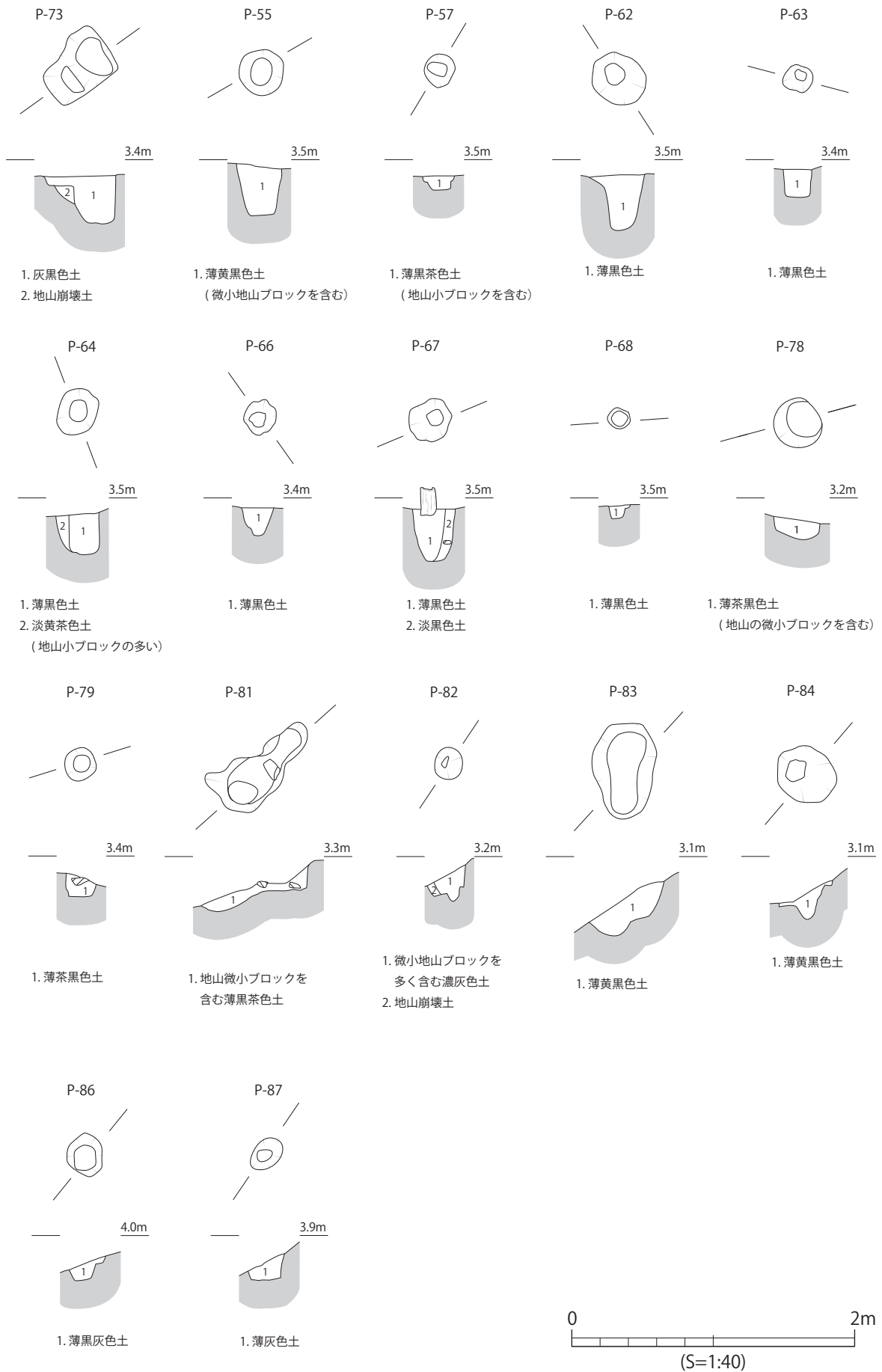
第20図 若宮谷遺跡 B4区SD09出土遺物実測図 (1:3)



第21図 若宮谷遺跡 B4区 Pit実測図 (1:40) *方位は上が北



第22図 若宮谷遺跡 B4区 Pit実測図 (1:40) *方位は上が北



第23図 若宮谷遺跡 B4区 Pit実測図 (1:40) *方位は上が北

SD07 (第19図)

SD09と切り合う関係で位置し、軸方向はずれている。溝の平面形はコの字状となり東側は検出していない。東西の長さが5m、溝の幅0.15～0.2m、深さ7cmと浅いものである。P-6は溝から南側に1.2m、「コ」の字の東西中央に位置し、径0.4m、深さ0.6mを測り竪穴建物とすれば、二本柱の竪穴建物の可能性が考えられる。

SD09 出土遺物 (第20図)

5は複合口縁の壺である。口縁が外反し広がり、口唇部に丸味を有し、下端部がほぼ水平に突出している。6は口縁部が外傾し、口唇部が平坦となり、下端の突出も少ないものである。7の甕は、口縁部が直立気味で下端の突出も顕著ではない。8はやや大型の甕で復元した口径25cmである。口縁部が内傾し、下端部が横方向に突出している。1は高杯の脚端部、3は坏部である。2は壺の脚部と思われる。4は低脚坏の脚部である。これらの土器は、風化により調整が不明であるが、8が草田7期でそれ以外は草田5期に属するものである。

杭列 (第24図)

調査区の東端の谷部において検出している。杭列は4本の杭が2m間隔で、頭が川側に傾いた状態であった。谷底に堆積した貝層、礫層を掘り込んでいるが、一部しか検出していないため全容が不明である。中世(室町時代)の包含層を掘り込んでいることから時期は中世後半と考えられる。

杭・柱 (第26図)

1から3は松の真持材であり一部樹皮も残っており、全体に湾曲したものを使用している。先端を削りだしているが、さほど鋭角ではない。4は残存状況から短く樹皮が残っている。先端の加工が二方向から大きく削り出しているため角度が鋭角となっている。

SB01 (第25図)

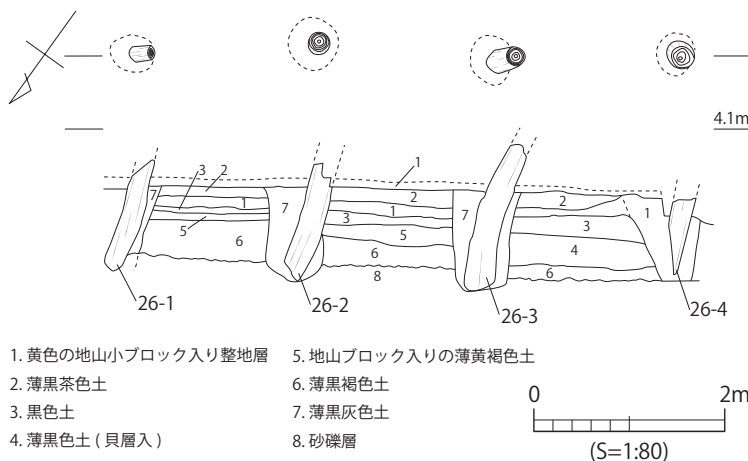
調査区の南の谷底において検出している。建物の北側斜面に溝が切られており、長さ7.6m、幅0.3～0.6m、深さ0.2mである。SB01は桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行、梁行の柱間は1.8～2.2mである。柱穴は砂礫層を精査して確認しており、地山を掘りくぼめている。地山は南側が低くなり緩やかな傾斜面である。柱穴の覆土は薄黒色と貝塚を構成する土である。P-75は柱材が残っており頭が西側に傾いた状態であった。5は樹種が松で真持材である。径22cmで六面に

削り出し、先端を平坦に削りだしており、工具の痕跡が残っている。

SB01を覆う包含層から14世紀後半から15世紀の土師器、陶磁器が出土することから建物の時期も同様の時期と考えられる。

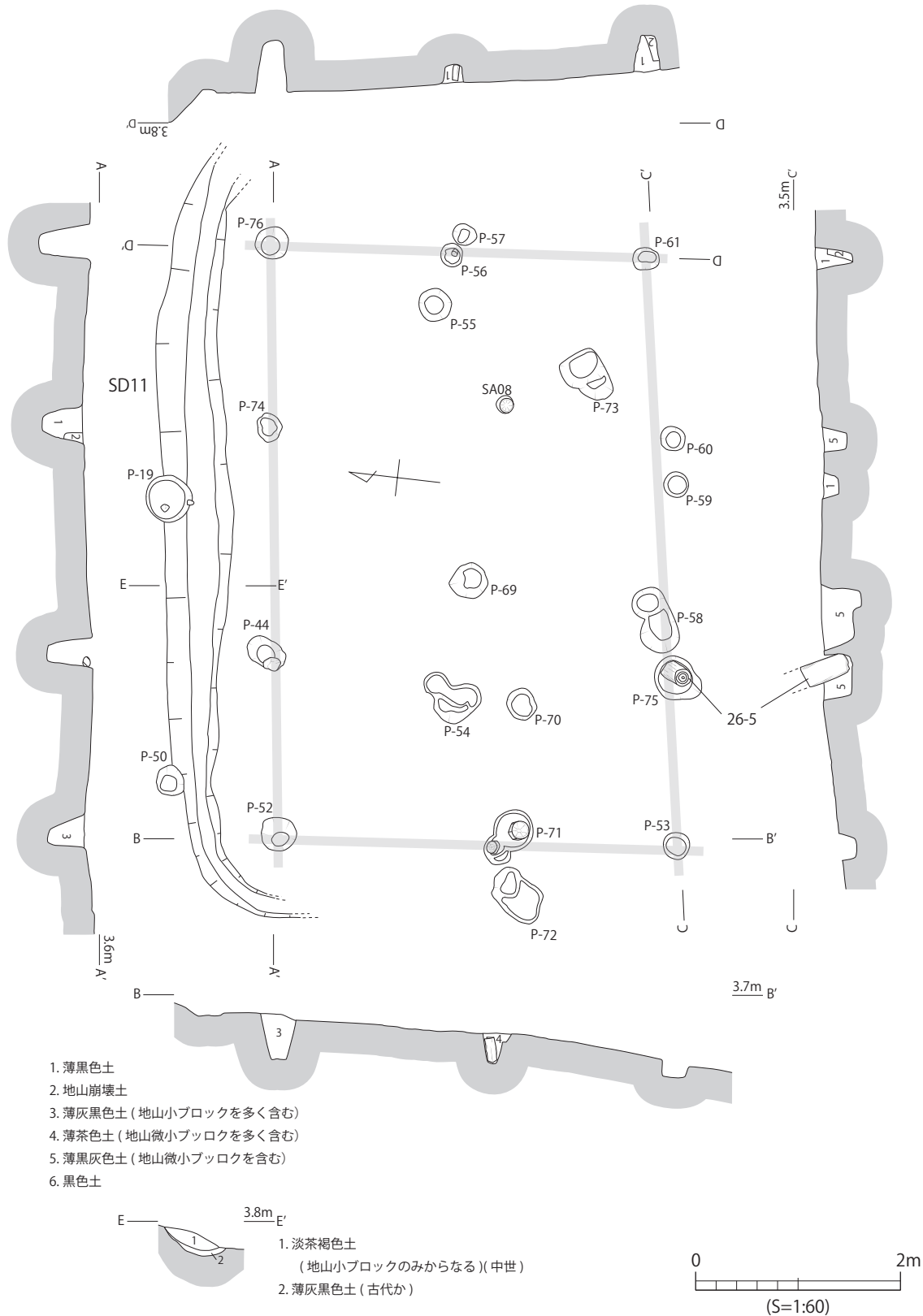
B4区出土遺物 (第27図～40図)

第27図は礫層出土の縄文

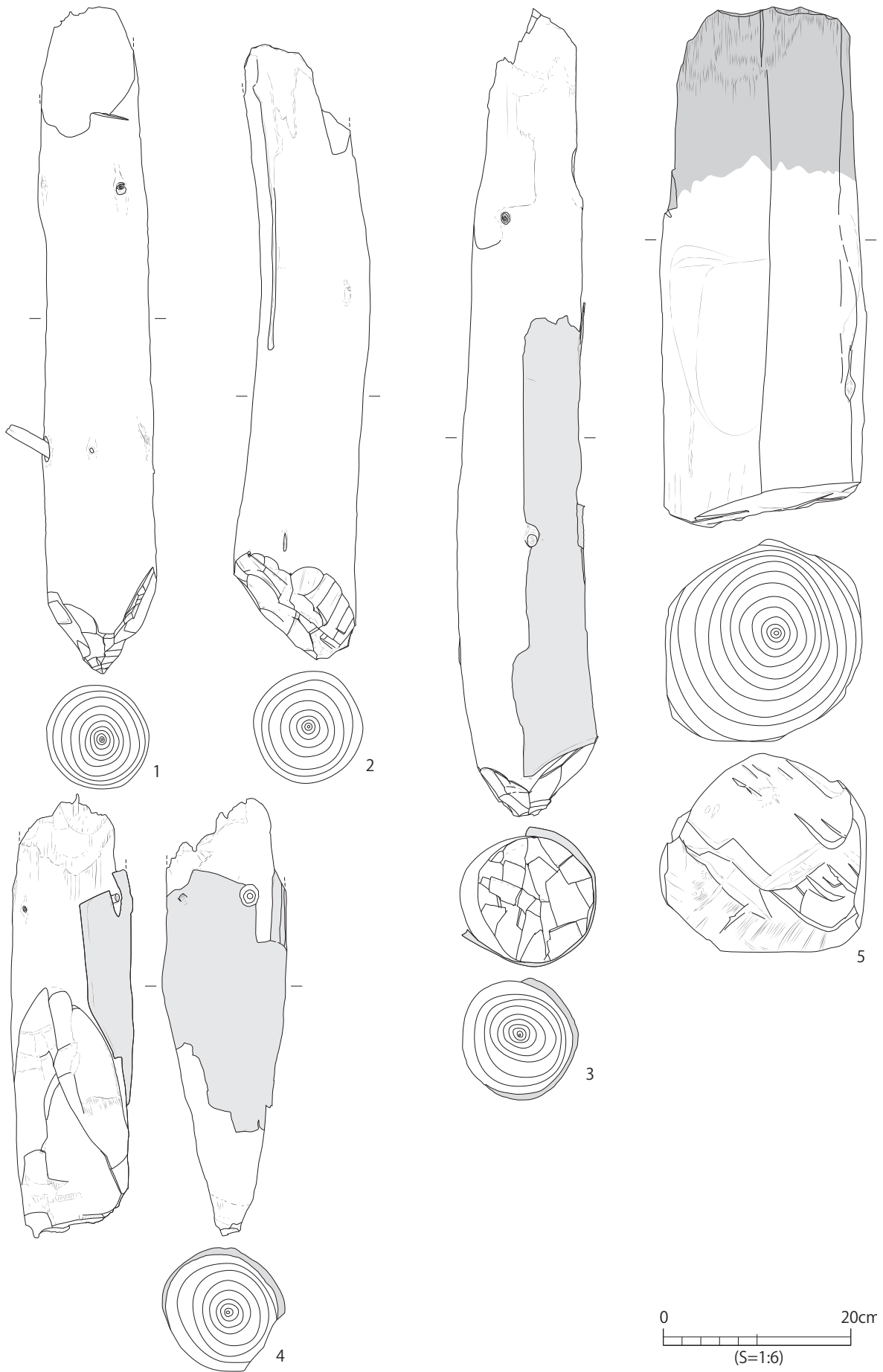


第24図 若宮谷遺跡 B4区杭列実測図 (1:80)

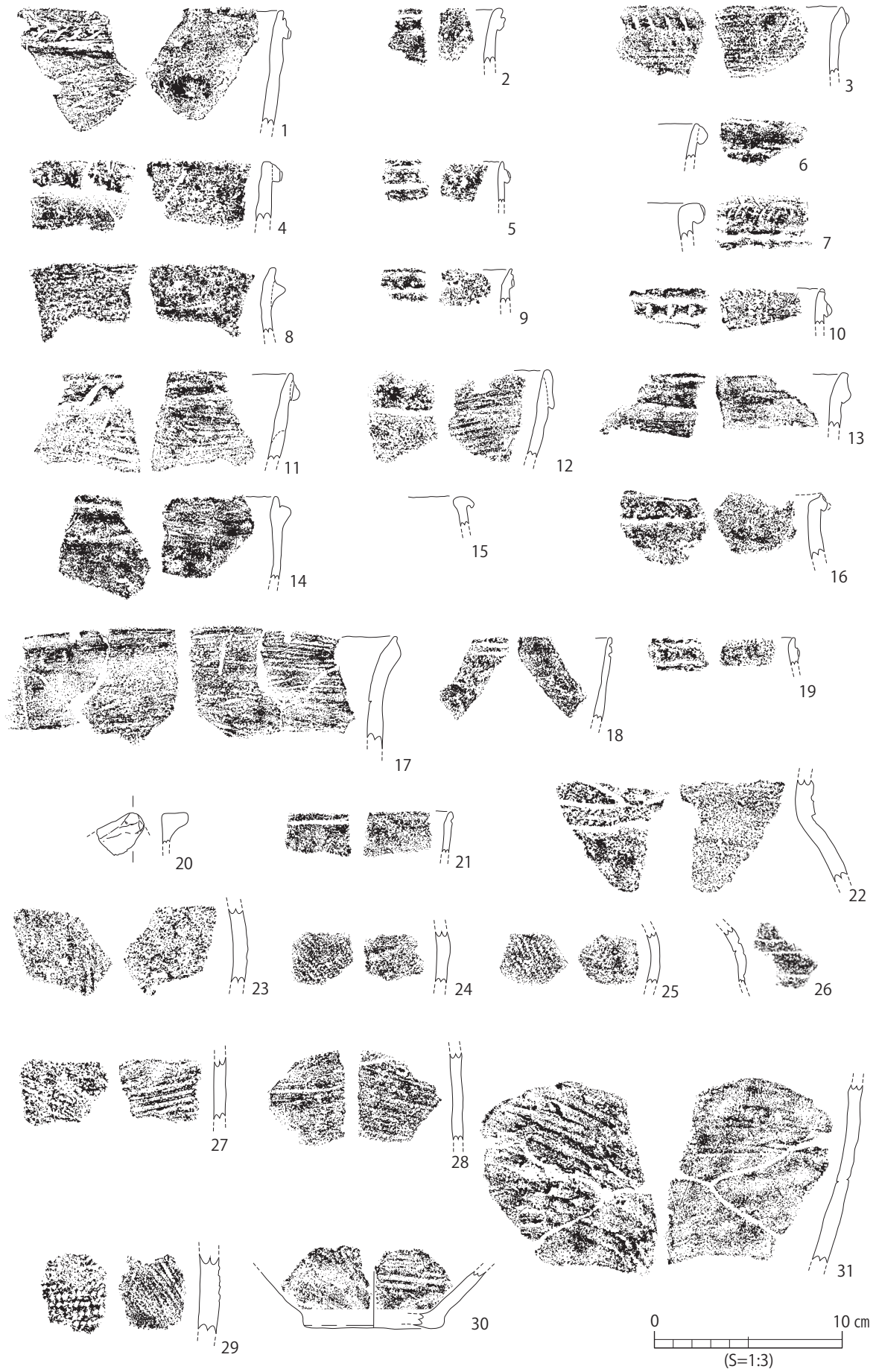
土器である。1～17・19は口縁に突帯を有し、6・8・12～15・17は刻み目が無いものである。18・21・26は外面に沈線文がある。これらは晩期に属するものと考えられる。22は外面に擦り消し縄文、24・25は外面に縄文、27・28は表裏に二枚貝条痕文を施している。30は底部で表裏に条痕文がみられる。31は深鉢で外面に工具によりナデたような調整がみられる。これらは、縄文時代後



第25図 若宮谷遺跡 B4区SB01実測図 (1:60)



第26図 若宮谷遺跡 B4区杭列、SB01 出土木製品実測図 (1:6)

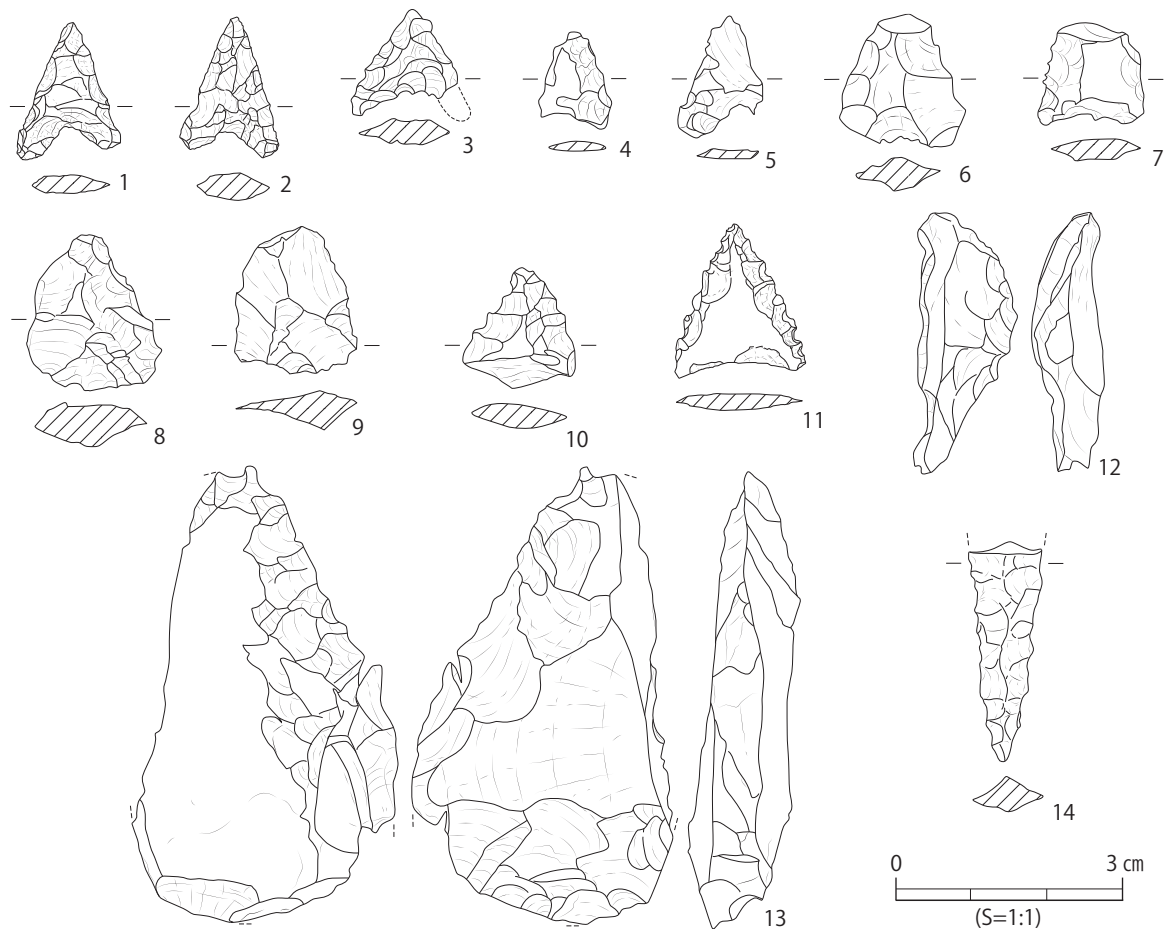


第27図 若宮谷遺跡 B4区出土土器実測図 (1:3)

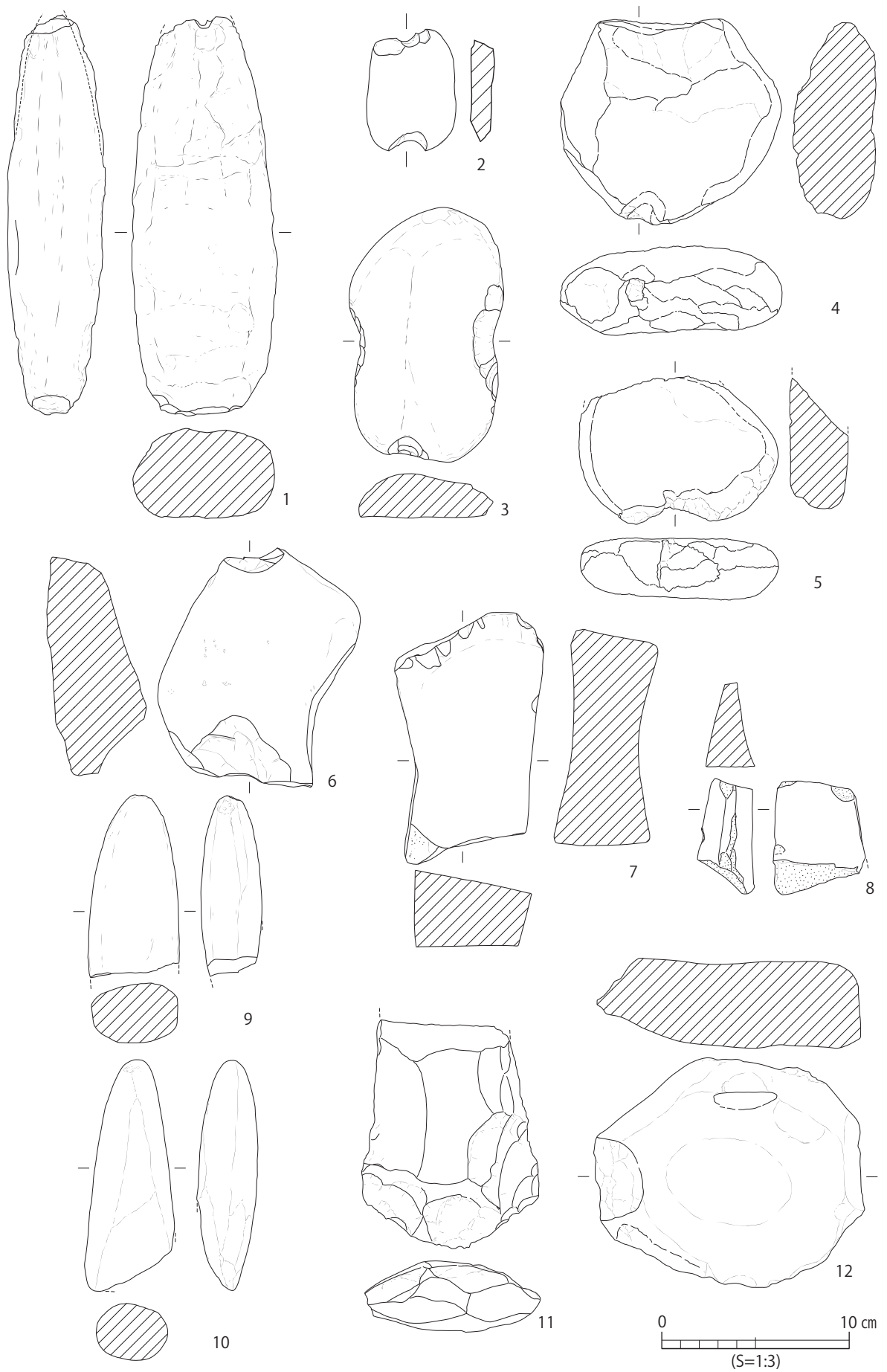
期に属すものと思われる。

第28図は石器で、1～11が石鏃、石鏃の未成品である。1・11が安山岩製の石鏃、6・7が未成品で、11は剥片のものである。2～5が黒曜石製の石鏃、8～10が未成品である。2・3は形態が逆V字形のものである。13は黒曜石製のスクレーパーで片方の側面、下面に刃部がみられる。14は石錐の先端部部の破片で12は黒曜石の剥片である。

第29図1～6は、石錘である。1は棒状の上部に溝状に彫り込みを入れ、下部は平坦に敲打している。2は扁平な礫の両端を打ち欠いている。3は礫の側面を大きく打ち欠き、下部を小さく打ち欠き、三方に掛かりを作っている。礫層から出土しており、縄文時代の可能性がある。4は片方を大きく打ち欠き、片方は一部のみ打ち欠いている。5は欠損しており片側の打ち欠きのみ確認できる。6は片側を大きく打ち欠き、反対側は一部のみを打ち欠いている。7は砂岩製の砥石で粗目の石であり、4面がかなり使用されており中央に向けてすり減っている。8は小形の砥石で肌理が細かく仕上げ用の砥石である。9は磨製石斧の刃部を欠いたものである。10は磨製石斧で刃部を斜め方向に欠いており、二次的に砥石として利用され、各面が平坦になっている。11は打製石斧で途中で欠損している。剥離痕は粗いもので石材が流紋岩であり縄文時代晩期にみられる打製石斧である。12は砂岩で片面が比熱により黒色になっている。側面が打ち欠かれており石錘として使用した可能性があるが、二次的に利用されている。



第28図 若宮谷遺跡 B4区出土石器実測図1 (1:1)



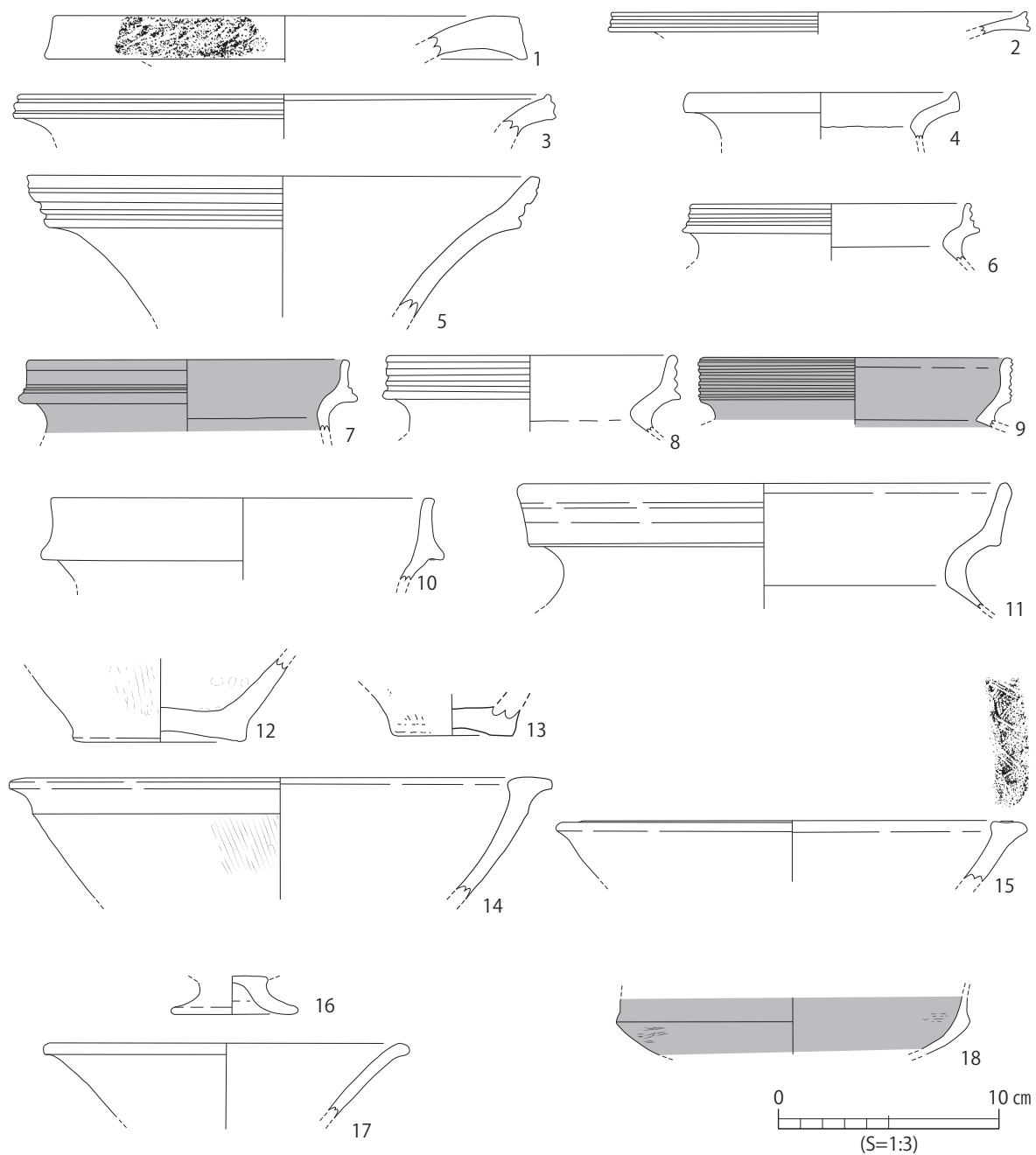
第29図 若宮谷遺跡 B4区出土石器実測図2 (1:3)

弥生土器 (第30図)

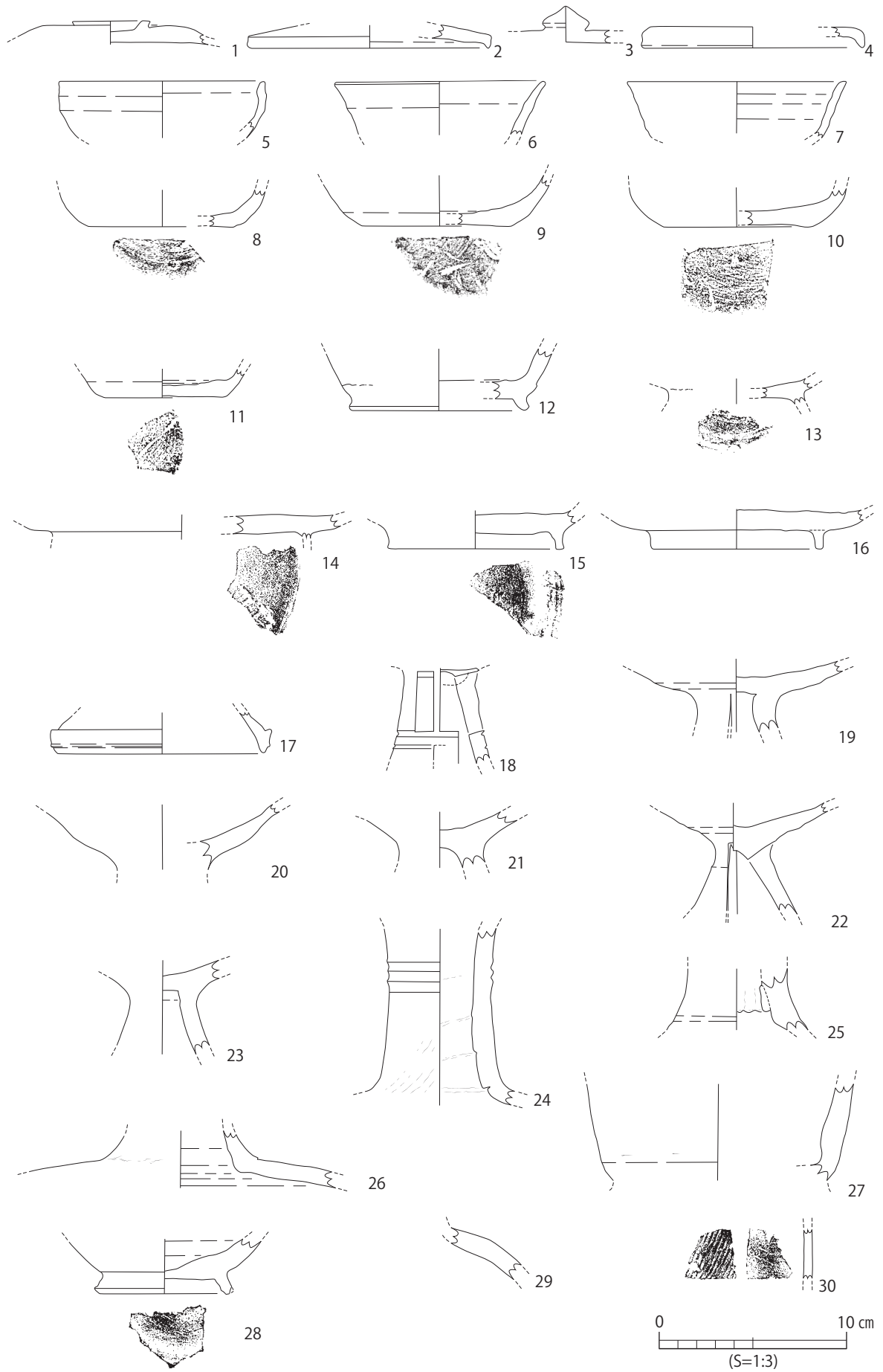
1は弥生土器、広口壺の口縁部で外面に斜方向の沈線がみられる。14・15は高坏で口縁部が肥厚し、15の口縁端部には斜格子文がみられる。これらの土器はⅢ様式に属するものである。2・3は外面の凹線文がある壺である。4は口縁部が肥厚し、無文である。これらはⅣ様式に含まれる。6～9は口縁部外面に擬凹線を施す甕である。6の口縁部はやや内傾するが、9は擬凹線が多条化している。10・11は口縁部外面が無文の甕で10は口縁部が外反し、11は外傾気味である。これらはⅤ様式に属すと考えられる。16は低脚坏、17は鼓形器台の口縁部である。18は丹塗り土師器の破片である。

須恵器 (第31図)

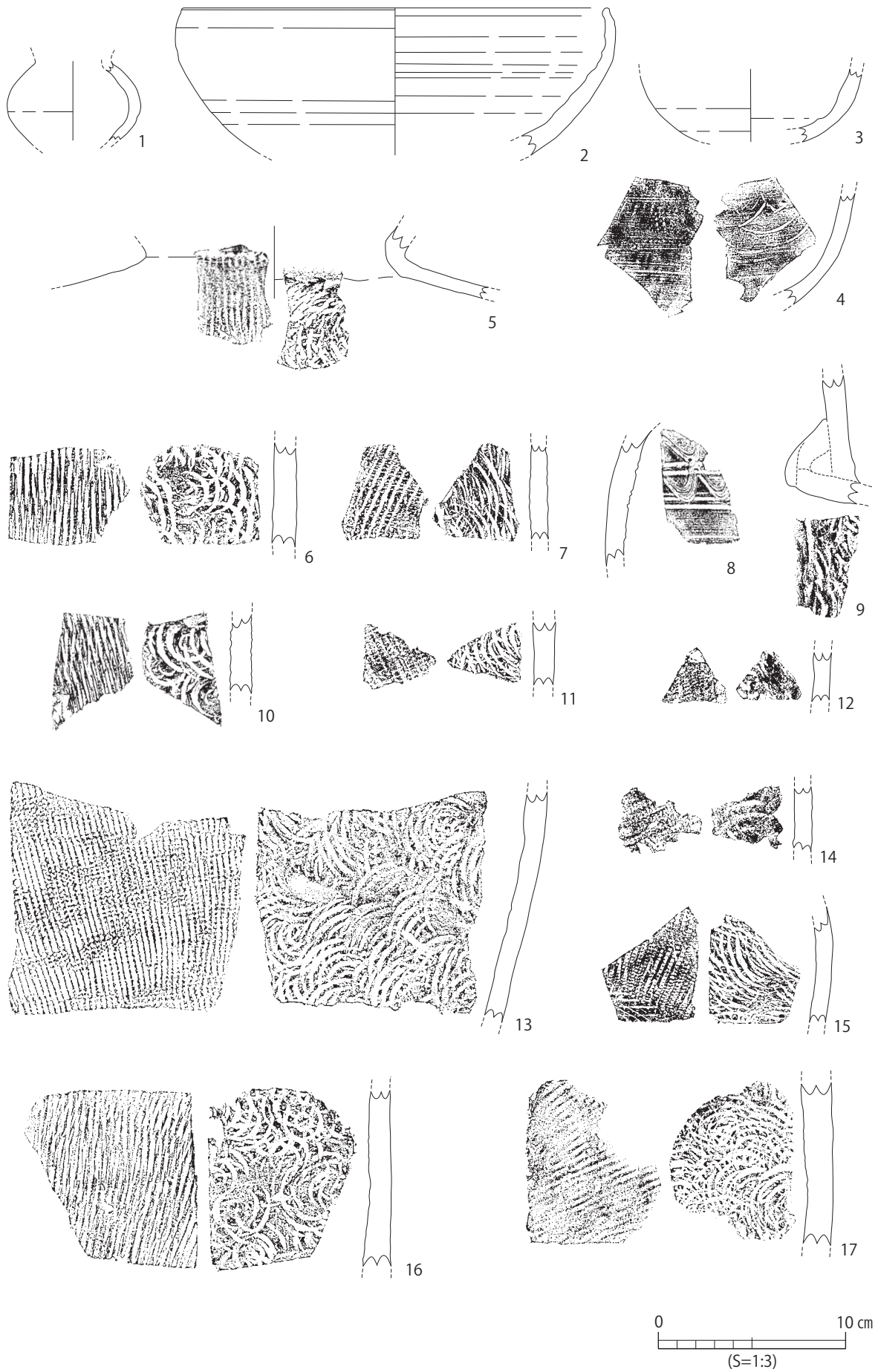
1～4は蓋で1は輪状つまみ、3は宝珠状のつまみがつくものである。5・8～11は無高台の坏



第30図 若宮谷遺跡 B4区出土弥生土器実測図 (1:3)



第31図 若宮谷遺跡 B4区出土須恵器実測図1 (1:3)



第32図 若宮谷遺跡 B4区出土須恵器実測図2 (1:3)

である。5は口縁部がやや屈曲するものである。6・7・12・13は高台付の坏である。14～16は高台付盤である。これらは、出雲国庁編年第3～4型式、7が第5型式に属すと考えられる。17～23は、高杯の脚部で古墳時代後期のものである。24～26は壺の頸部である。27～29は壺の胴部、底部の破片である。これらは、出雲国庁編年第2～4型式に含まれる。第32図2は鉄鉢形のもので底部を欠いている。5～8、10～17は甕で、8が口縁部、それ以外は胴部の破片である。胴部は外面に平行叩き、内面に同心円のあて具痕がみられる。9は甕の頸部と思われたが貼り付け部分の補強が念入りに行われ立ち上がりからも甕とは言い難いものであり、器種が不明である。

土製品 (第33図)

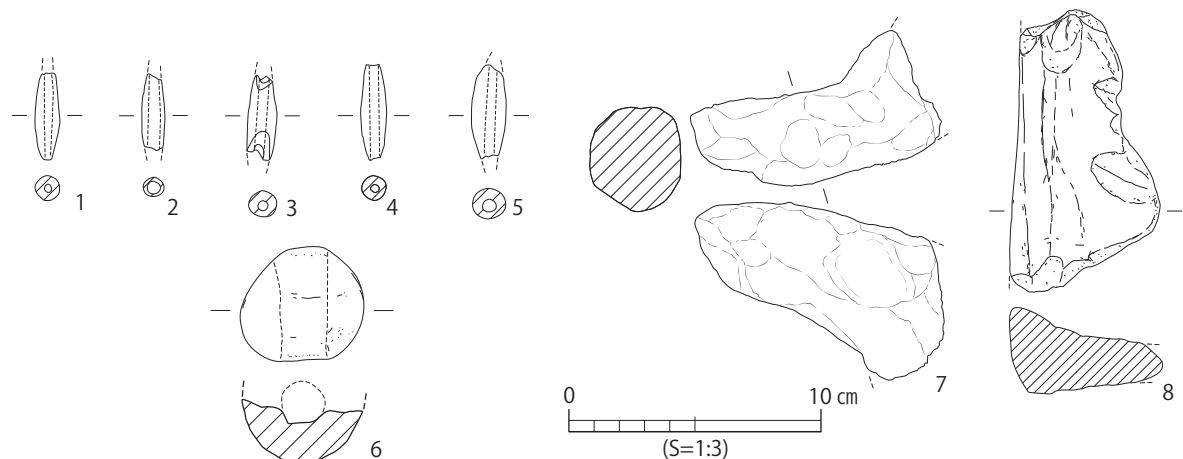
1～5は管状の土鍾である。6は球形の土鍾が半分に分れたものである。7は土製支脚の角の片方である。砂粒を多く含む胎土の外面にナデの痕が残っている。8は竈の焚口の側面の破片である。

中世土師器 (第34図)

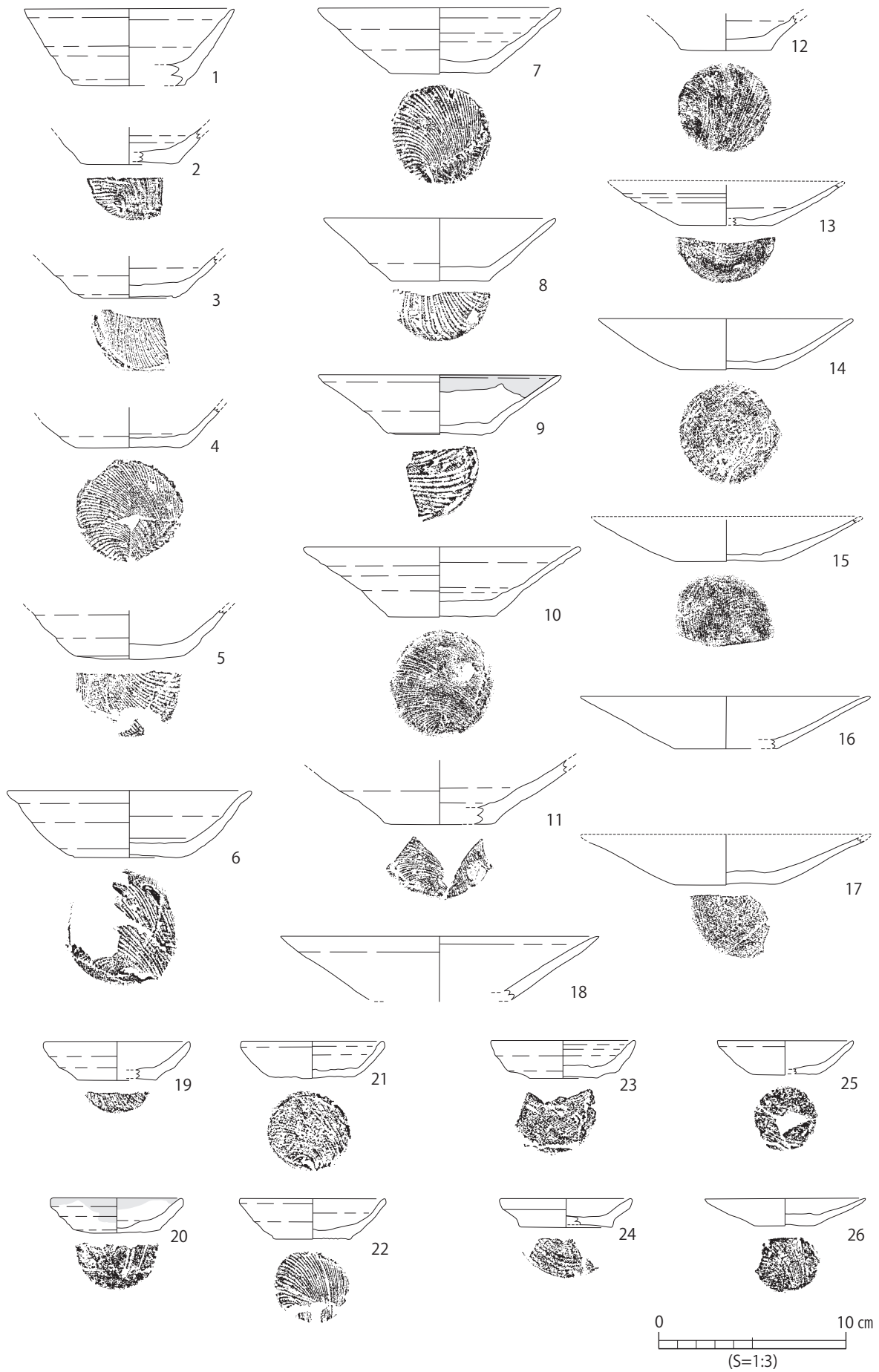
B4区の谷部を覆うように黒灰色粘質土（貝を含む）、暗灰色土が堆積し、SB01を覆っていたが、その土が中世（室町時代）の包含層であり、土師器、陶磁器、鉄器が含まれていた。

1～18が土師器の坏、19～26が皿である。1は坏で底部と口縁部径の差が少なく、立ち上がりの傾斜が急となっている。2の底部も同様の形態である。6は底部径に変化はないが、口縁部が大きくなるために体部が開き気味に立ち上がり、体部下半に丸みを残している。3～5も同形態の底部である。7・8は口径に変化はないが、立ち上がりが外傾して直線的になり、下半部に丸みがなくなる。9～12は体部が外反気味に立ち上がる。13～17は口径が大きく、器高が低く、立ち上がりも直線的で器壁が全体的に薄くなる。13・14が桃灰色、15～17は白色で一段と器壁が薄くなる。19～26は小皿である。26は体部の器壁が薄く、形態も15～17の形態に良く似ている。土師器の時期は、1～5が14世紀後半、6～12が15世紀前半、13～18が15世紀後半と考えられる。

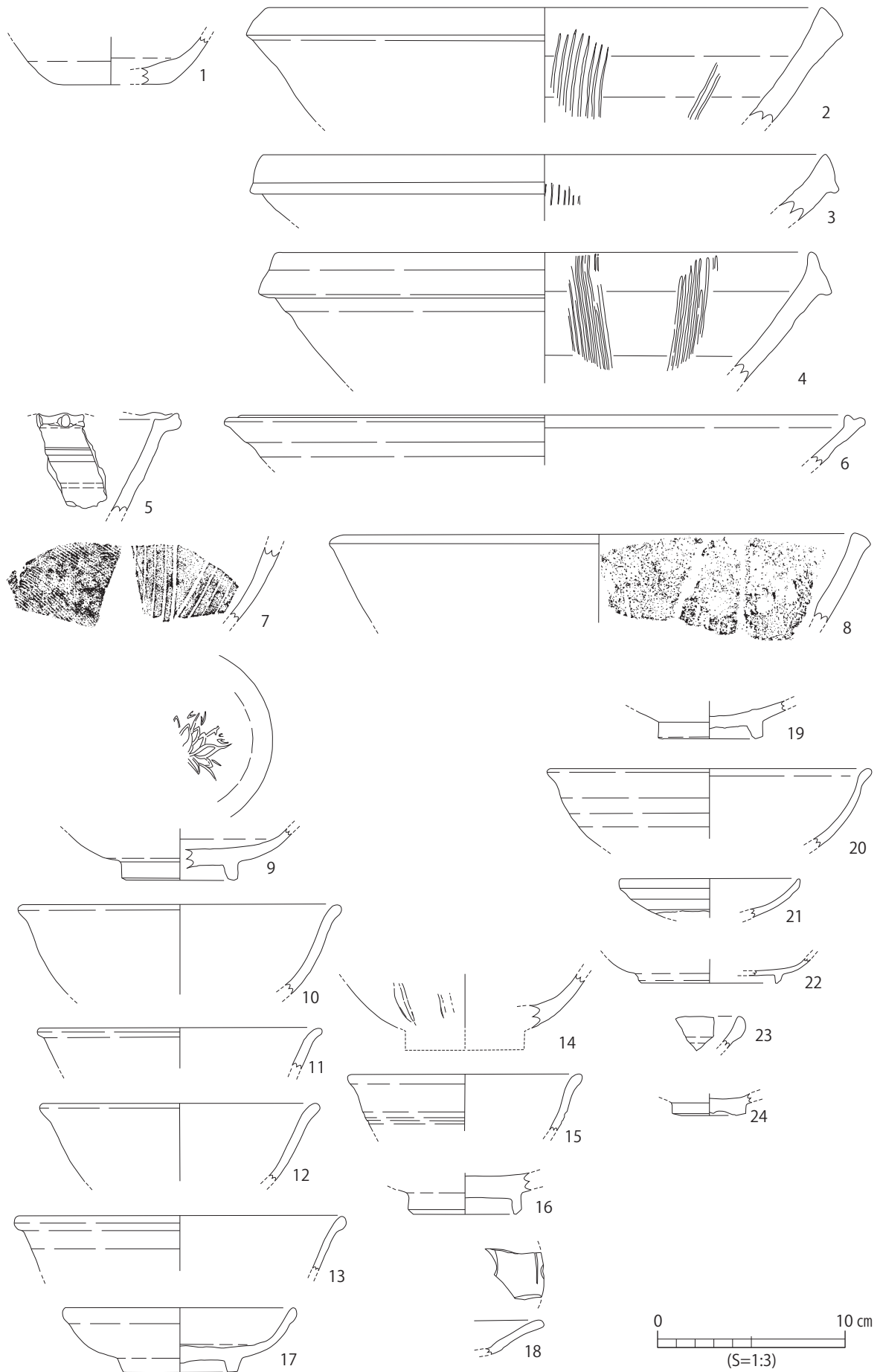
備前焼の播鉢、中国製陶磁器の時期も同様の時期幅の中で納まっている。



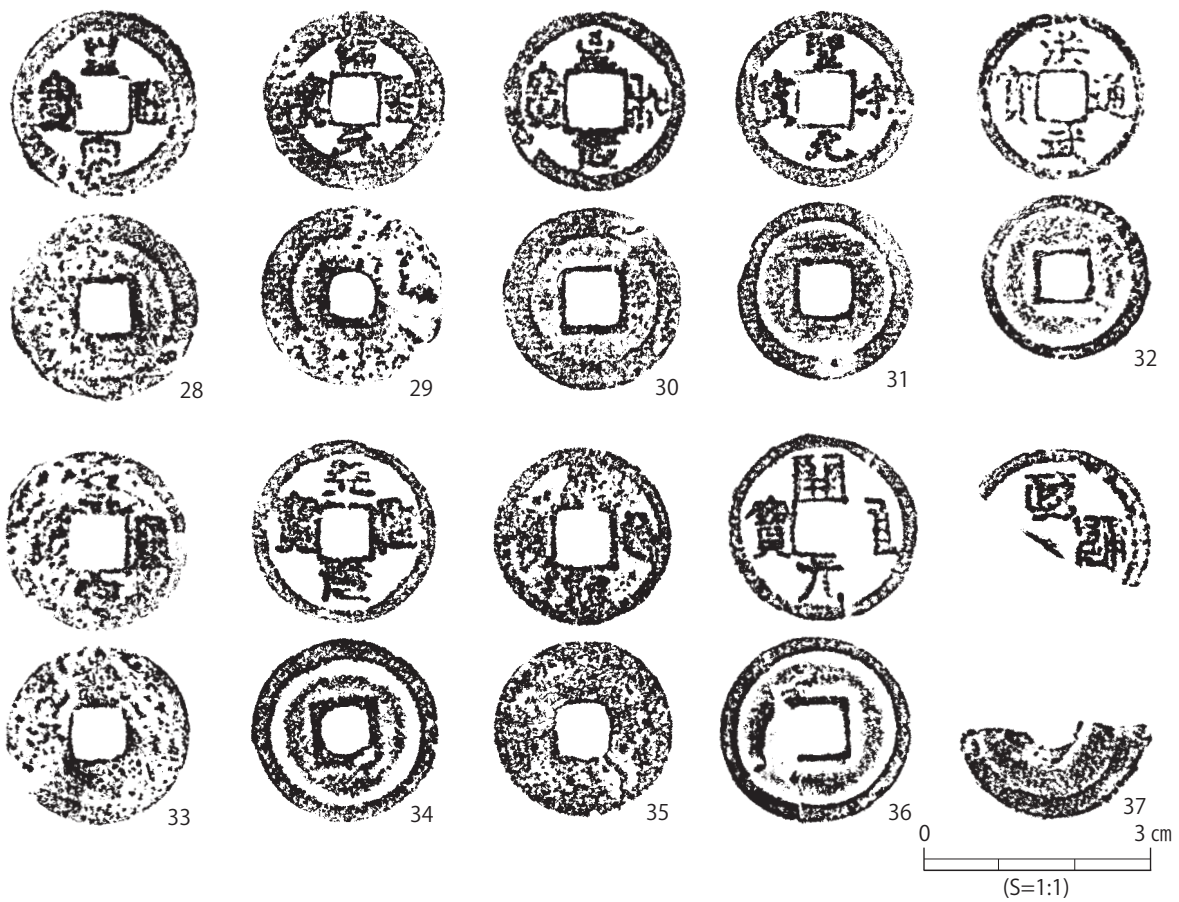
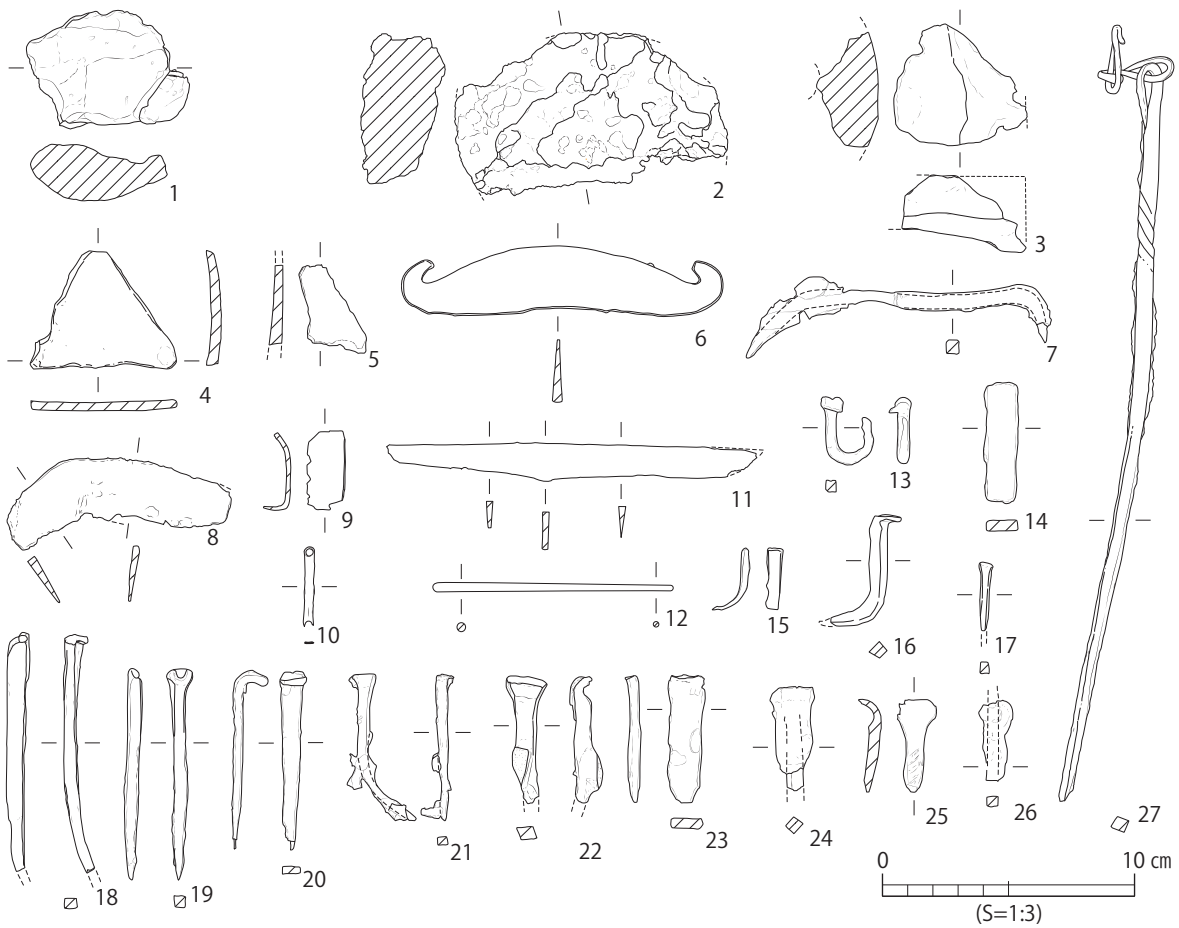
第33図 若宮谷遺跡 B4区出土土製品実測図 (1:3)



第34図 若宮谷遺跡 B4区出土土師器実測図 (1:3)



第35図 若宮谷遺跡 B4区出土陶磁器実測図 (1:3)



第36図 若宮谷遺跡 B4区出土鉄製品実測図 (1:3) (1:1)

陶磁器 (第35図)

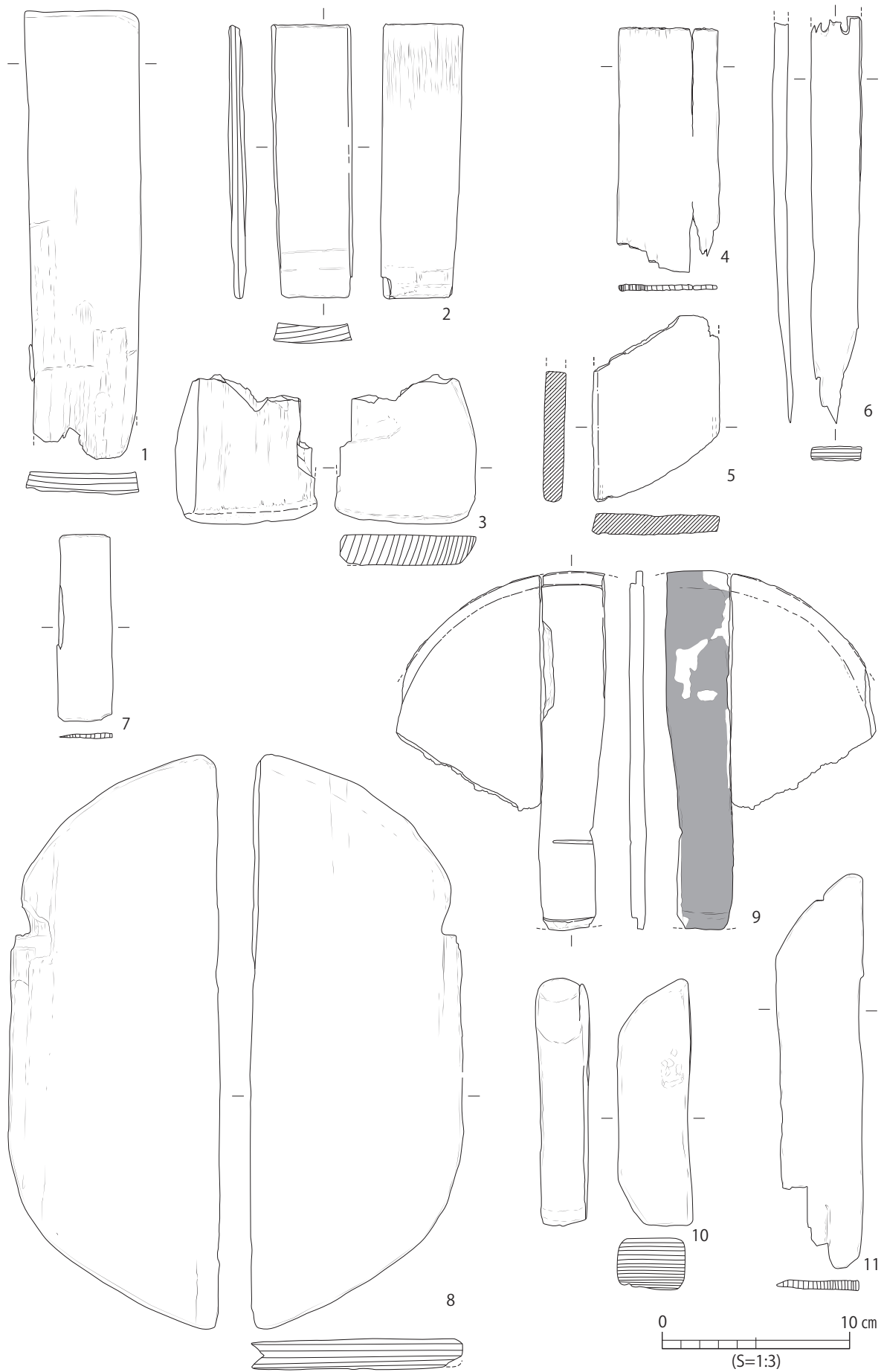
1は備前焼の壺の底部である。2～4は播鉢で、2は口縁部がさほど肥厚せず、3・4は口縁部が上下に肥厚している。播鉢2～4は備前焼分類ⅣAで14世紀後半から15世紀前半にかけての時期である。5は磁器の鉢で口縁部が屈曲し「て」の字状となり外面に刻み目が施される。6は磁器の鉢で薄緑色の釉がかかり、断面に補修用の接着剤として漆が塗られる。7は土師質の播鉢で内面に5条の細い播目が見られる。外面はハケ目調整が行われる。8も土師質の播鉢で内面に播目の痕跡が残っている。中国製陶磁器では、9が青磁碗で見込みに草花文が彫り込まれている。10～13・15は無文の青磁碗でD類に属するものである。14は青磁連弁文碗B-2類である。18が青磁の稜花皿である。9が白磁碗Ⅱ類の底部、20が白磁碗のC類、21が白磁皿D群、22が白磁皿B群である。23が白磁碗Ⅳ類の口縁部、24が天目碗の高台部分である。青磁、白磁共に一部に古いものを含んでいるが大部分が14世紀後半から15世紀代のものである。

金属製品 (第36図)

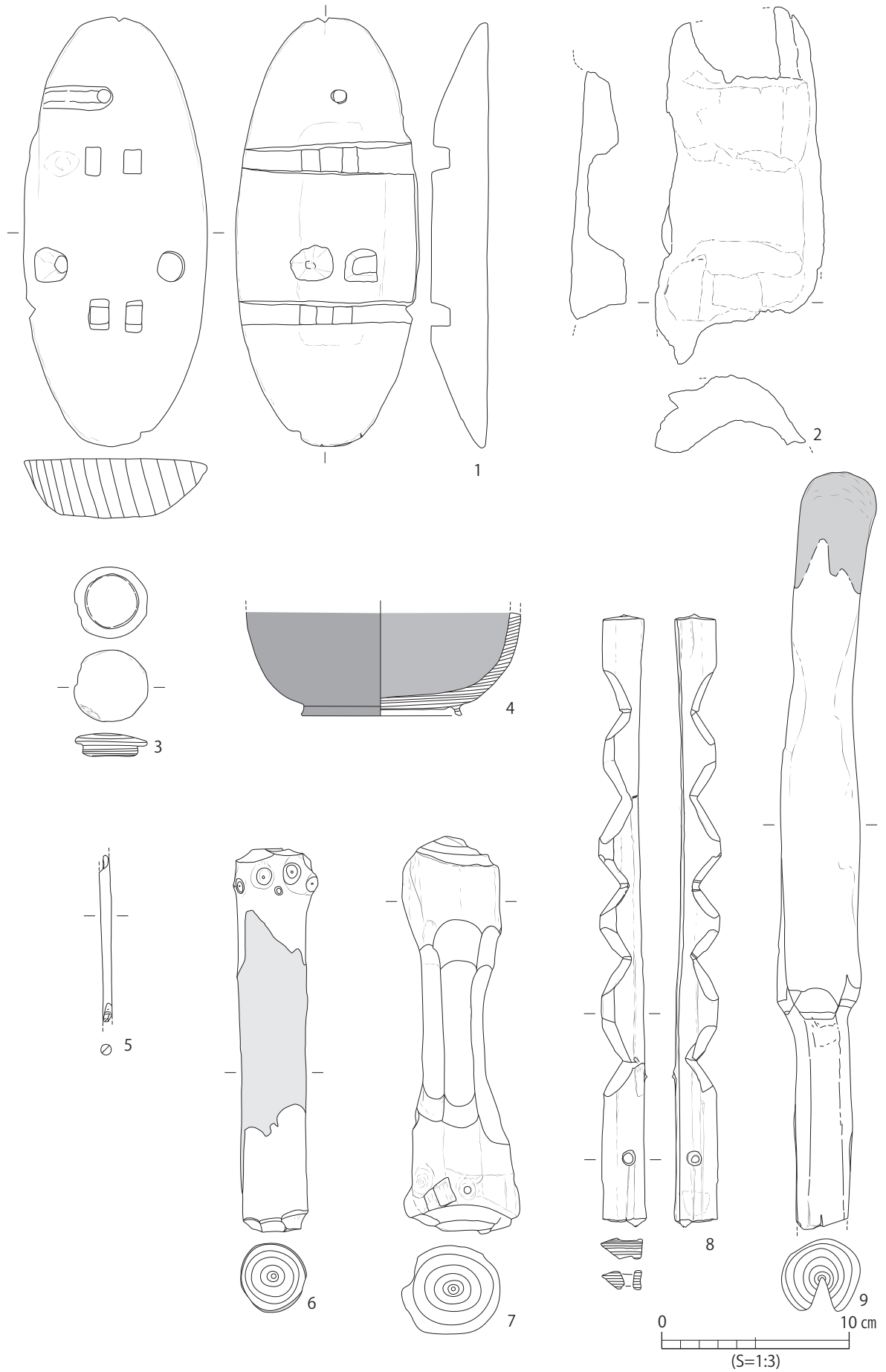
1は椀型滓、2は鉄滓である。3は羽口の破片で断面が円形で外面に溶着物がみられる。4・5は扁平でカーブがみられ鉄鍋の可能性が考えられる。6は火打ち金で中央部の幅が広く、両端が湾曲している。断面が4mmと1mmと片側に向け薄くなっている。7は鋸で断面が正方形で両端が細く折り曲げられており、使用による湾曲がみられる。8は鎌で全体の1/3辺りで一方が屈曲し片側に刃部がみられる、錆が進み残存状況が悪い。9は太刀の責め金具と思われ、全体の1/2が残っている。10は薄い板状の両端に円孔がみられる、飾り金具のようなものと思われる。11は刀子で全長14.7cm、幅1.4cm、刃部長8.5cmである。12は銅製の細い棒で両端が丸くなり、長さ9.6cm、径0.35cmで断面が円形である。13は釣り針で元は釘を折り曲げて二次的に利用したものである。14は板状の鉄器で長さ4.8cm、幅1.4cmと小さなものである。15～26は釘である。19・20以外は使用により湾曲している。27は火箸の片方で一本しか残っていない頂部を折り曲げて輪を作り鎖状の鉄の輪が付けられる。長さ31.0cm、断面正方形で0.5cmである。頂部から4cm～8cmの間は振じりがみられ、全体的に湾曲している。古銭は唐銭が1、北宋銭が6、明銭が1である。初鑄造年が最も古いもので開元通宝で621年、新しいもので洪武通宝で1368年である。

木製品 (第37図～40図)

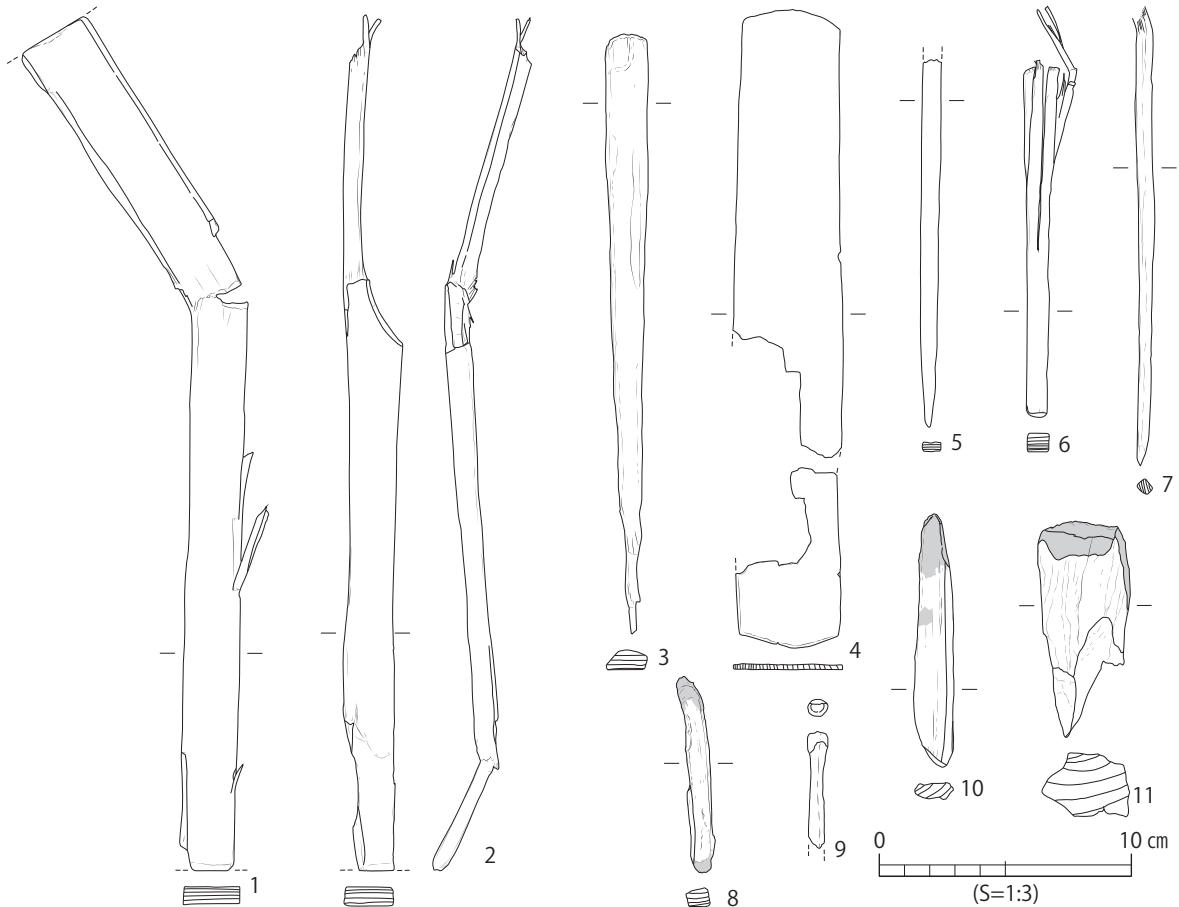
第37図1～3は桶の側板で、2は底板が当たる部分に緩い窪みがみられる。5・8は桶の底板で外側の曲線が桶の大きさを表している。7・9・11は曲げ物で9は長方形と円形の板が接合しており、内面に黒漆が塗られる。4・6は折敷の一部と思われる。第38図1・2は下駄である。1は歯が無いもののほぼ全形が確認できるものである。歯が差し込む形のもので前後に2つずつホゾ穴が開けられる。3は円形で下の径が小さく、頂部は丸く加工され、栓状の用途が考えられる。4は漆塗りの椀で内面が赤色、外が黒色の漆が塗られる。5は箸で両端が折れている。6は棒状で両端を削っている。7は中央部を両端より径が細く削りだされている。8は細長い板状の粗片側にのこぎりの歯のようにジグザグに削り出している。9は横杵で長さ40.07cm、径が4cmと細長いもので、頭部から1/3辺りが使用により細くなっている。第39図1～3は板状に加工されており、齋串の可能性はある。4は薄い板で木札として使用したと考えられる。8～11は燃えさしで片方が焼けて黒く炭化している。第40図1は断面四角形の一面が丸く加工されたもので欠損部に2mmの穴が貫通している。2は厚さ1cmの板である。4は断面が正方形で先端に向けて細くなっている。1か所円孔



第37図 若宮谷遺跡 B4区出土木製品実測図1 (1:3)



第38図 若宮谷遺跡 B4区出土木製品実測図2 (1:3)



第39図 若宮谷遺跡 B4区出土木製品実測図3 (1:3)

が開いている。5は板状に加工されたものが折れ曲っている。6は4か所に鉄釘が打ち込まれており、建築材を二次的に利用した可能性がある。7は真持材の角柱を切り取ったと思われる。8は厚さ1.3cmの板である。9は棒状の先端を削り尖らせている。10は板に1か所円孔が開いている。

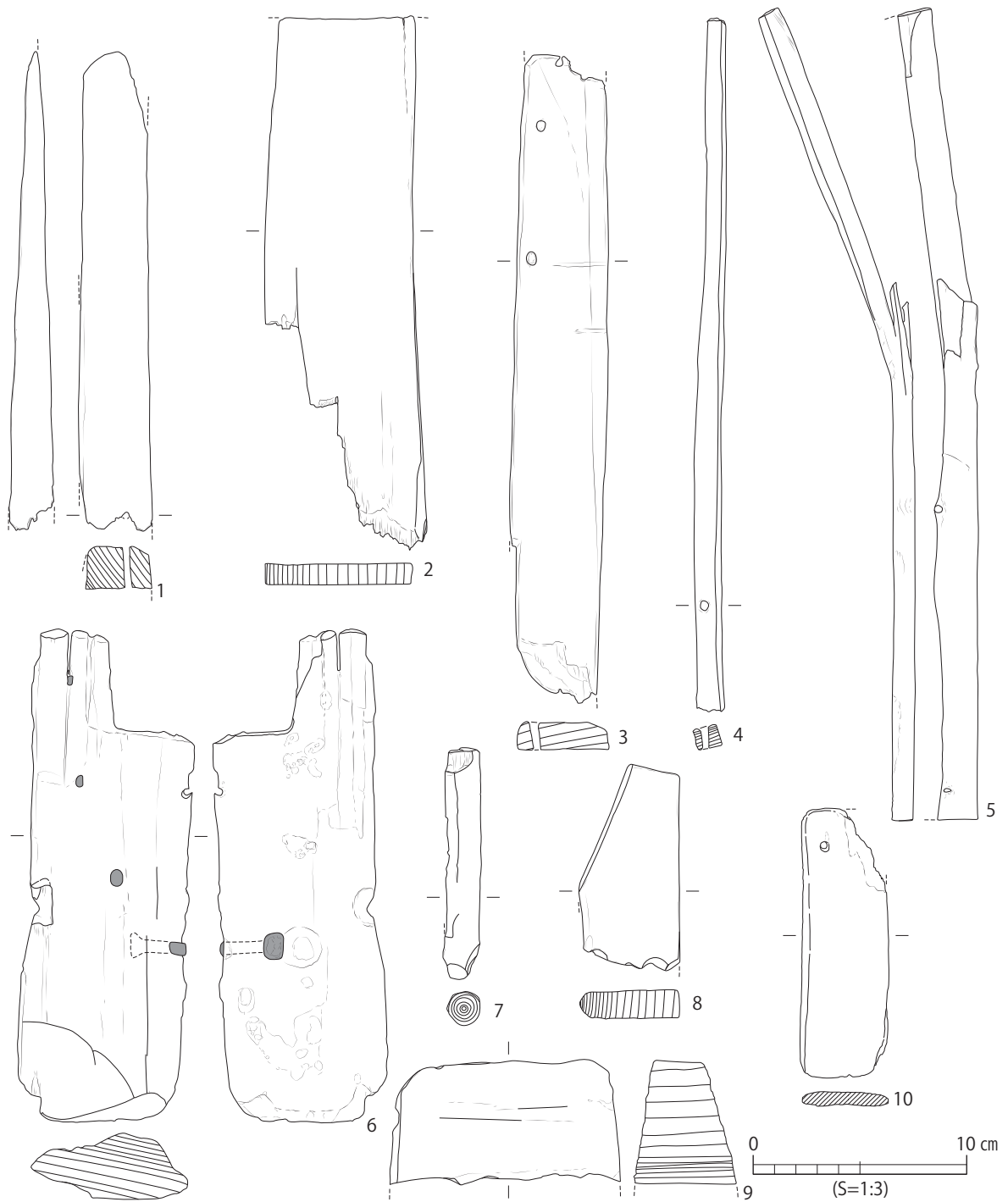
木製品はいずれもB4区の谷部の中世包含層から出土しており、土師器、陶磁器の年代から14世紀後半から15世紀という時期が考えられる。

第5節 小結

若宮谷遺跡は、B4区の谷地形に礫層の包含層が堆積している。縄文時代後期から晩期を中心として、弥生時代後期の土器が出土することから、周辺に集落が展開していたことが確認された。中段の斜面から弥生時代末から古墳時代前期の竪穴建物が確認されており、大橋川に沿った低丘陵が集落の場として使われていたと考えられる。

谷部の貝層を含む中世包含層には、14世紀後半から15世紀にかけての土師器・陶磁器・鉄器・古銭・木器が出土している。礫層上面においてSB01・杭列などが確認され約1世紀の間生活の場として使われており、シジミ(図版19-2)の貝層(31kg)が堆積することから漁撈が行われていたと思われる。調査区の北側、谷の奥を松江市が調査しており同様の貝層が確認されて、谷の奥に分布範囲の中心があったと思われる。

縄文時代から弥生時代の包含層、住居跡、中世後半の建物跡と包含層が今回の調査で確認されたことが成果である。



第40図 若宮谷遺跡 B4区出土木製品実測図4 (1:3)

【参考文献】

九州陶磁学会2000『九州陶磁の編年』九州陶磁学会10周年記念

島根県教育委員会2013『史跡出雲国府跡-9総括編-』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書22

第4章 シコノ谷遺跡の調査成果

第1節 調査の概要

1. 遺跡の立地 (第41図)

調査対象地は、朝酌町矢田の大橋下流域で河川幅員が最も狭い場所の左岸である。和久羅山南方の標高114mの丘陵の南側に位置する。遺跡の北側には谷が二つあり、南北方向の短い谷と北東方向から北西方向に湾曲する長さ500mの細長い谷が山頂付近まで伸びている。谷底には礫が堆積しており、地表で水の流れは確認できないが谷底を流れて大橋川に注いでおり、夏でも水路を流れる水が枯れることはなかった。谷の中程には碎石場跡があり、住民の聞き取りによれば昭和30年代には稼働していたとのことである。標高は4mを測り、現況は西側が盛り土により造成され、東側は水田となっている。遺跡の周辺は川に沿った低地が水田として利用されている。

シコノ谷遺跡の周知の遺跡としての範囲は、今回の調査対象となった谷間の沖積地であり、東西方向に伸びている。北側の谷奥は丘陵縁辺までが範囲と思われるが、実際に遺物を採集していないので確認はできていない。東側の福富町には、同様の谷地に福富松ノ前遺跡があり、流路の礫層中から縄文時代晩期から弥生時代前期前半の土器が出土している。大橋川北岸のこの周辺では、大規模な開発が無かったこともあり明確な遺跡の存在は確認されていなかった。大橋川の改修に伴い発掘調査が行われ、縄文時代から中世に至る遺跡の様子が徐々に明らかになりつつある。

2. 試掘確認調査 (第2図)

本発掘調査の対象範囲は、平成29年度に実施した試掘確認調査の結果に基づいて決定した。調査は西側(A区)の造成地に1箇所(T24)と、東側(B区)の3箇所(T25～T27)にトレンチを設定して実施した。

T24は地表下1.5mで検出した厚さ50cmの礫層に遺物を含んでいた。T25では表土下1.5mの造成土の下が暗褐色粘質土となり、その下の暗褐色礫層、砂層から縄文時代晩期の土器、黒曜石が出土している。T26では、水田耕作土の下に淡茶褐色土があり、その下の灰色砂層、暗灰色礫層から黒曜石と共に縄文時代晩期の土器が多量に出土している。T27では厚さ40cmの耕作土の下に淡褐色粘質土、暗茶褐色粘質土があり、さらに下の淡灰褐色粘質土、黒灰褐色土に縄文土器、黒曜石、サメの歯が出土している。

以上のように、谷間の東西方向4か所の試掘トレンチを掘削したところいずれも遺物が出土したので、それらを含む範囲を調査対象とした。面積は、約2,000㎡を本発掘調査の対象範囲とした。

3. 発掘調査区の設定 (第41図)

今回の発掘調査区は、市道西尾大御崎線の北側に調査区を設定している。調査区の中を市道朝酌矢田3号線があることから、西側をA区、東側をB区としている。

A区が狭いことから、調査にあたってはグリッドを設定せず、出土層位を記載して遺物の取り上げを行った。時期や形態がわかるものについては、調査システムにより出土地点の座標を記録して取り上げを行った。



第41図 シコノ谷遺跡 調査区周辺図 (1:1,000)

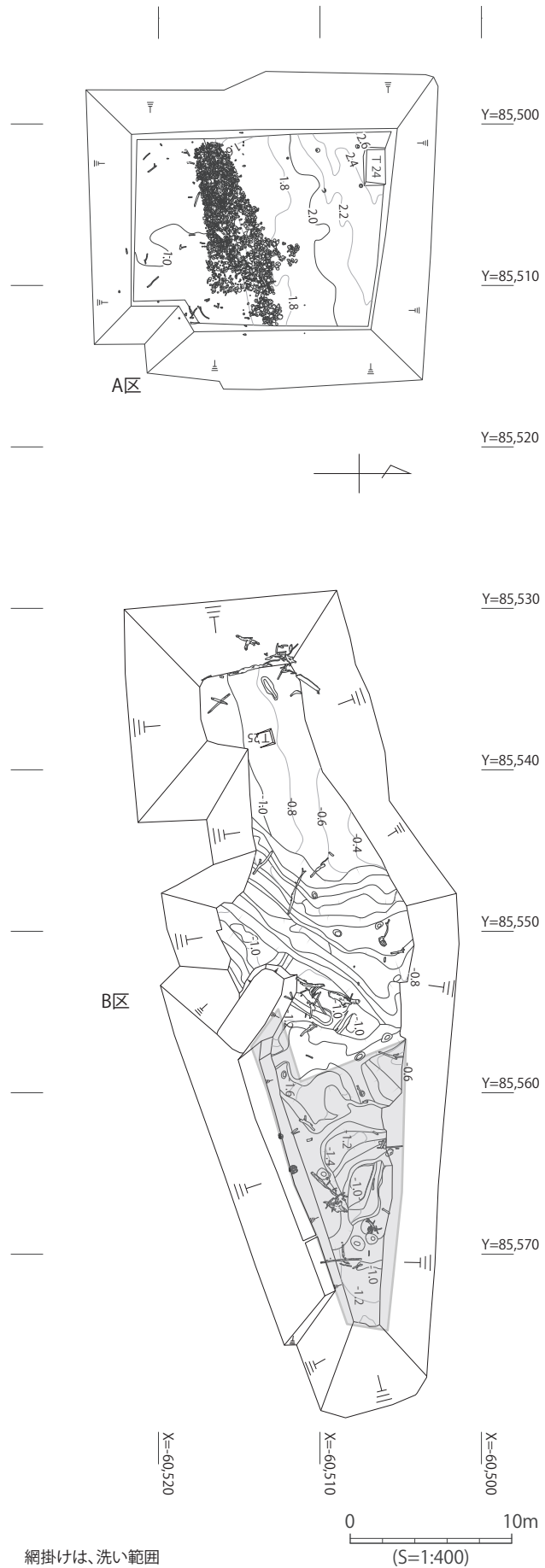
4.調査の方法

調査前の現地の状況について、A区とした平坦面は厚さ1.5mの造成土で覆われていることから、遺物包含層や遺構面までバックホーを用いて石や造成土を取り除く必要があった。重機掘削は、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。西側に家屋が隣接した状態であったことから少し余裕を持たせて間隔をとった。盛り土が厚いこともあり、のり面の傾斜をとると、上面より下端がかなり狭くなった。掘削に併せて土層観察を行いながら、包含層・遺構面まで余裕を持たせて掘削を停止した。

その後はベルトコンベアーを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。土の殆どが砂混じりの礫という掘削困難な土質であったことからツルハシで掘り起こし、ベルコンまで運搬するという状況であった。礫層の間に砂層がみられたことから、砂を取り除くと礫層の上面をきれいに検出することができた。遺物包含層についてはスコップ・ツルハシを用いて人力で掘り下げたが、出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴテ等の道具を併用し、取り上げに際しては地点と層位の記録のみを行った。遺構検出にはジョレン・草削りを使用した。

遺構の埋土掘削には移植ゴテ・草削りを使用した。掘削にあたっては基本的にベルトを設定するか半裁をし、土層観察をいっつつ掘り下げた。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構からの出土遺物については、出土状況を記録した後、取り上げNo.を振って取り上げた。

遺構の平面図は、コンピュータシステム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実



第42図 シコノ谷遺跡 遺構全体図

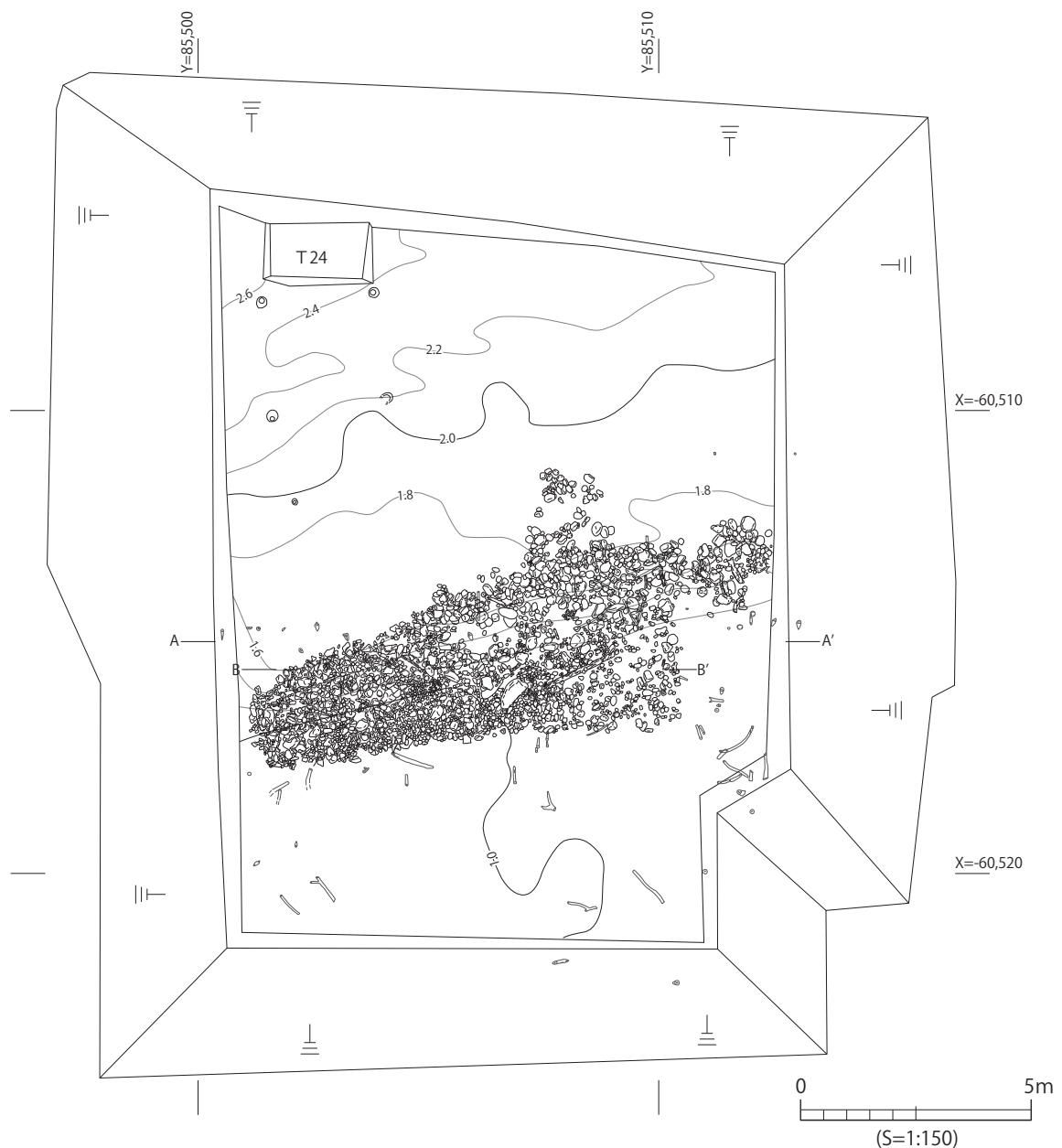
測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いて記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。調査区の全景・遠景は、ラジコンヘリとドローンにより撮影を行った。

現地調査期間は平成30年5月24日から11月17日、最終的な調査面積は1,200㎡、調査体制は調査員1名、嘱託員1名、調査補助員2名である。

第2節 A区の調査

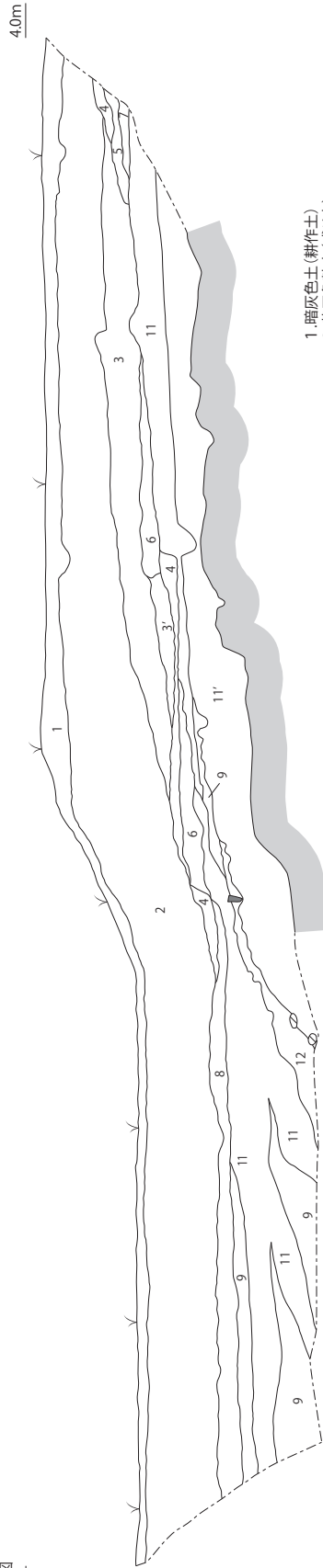
1. 調査の概略と検出遺構（第43図）

A区は前述のとおり、大橋川に面した低地の標高4mの平坦部に位置する。盛土造成による平坦面が南北で上下2段を確認する。調査により北側の平坦地の基盤面は、標高3.6mである。調査区



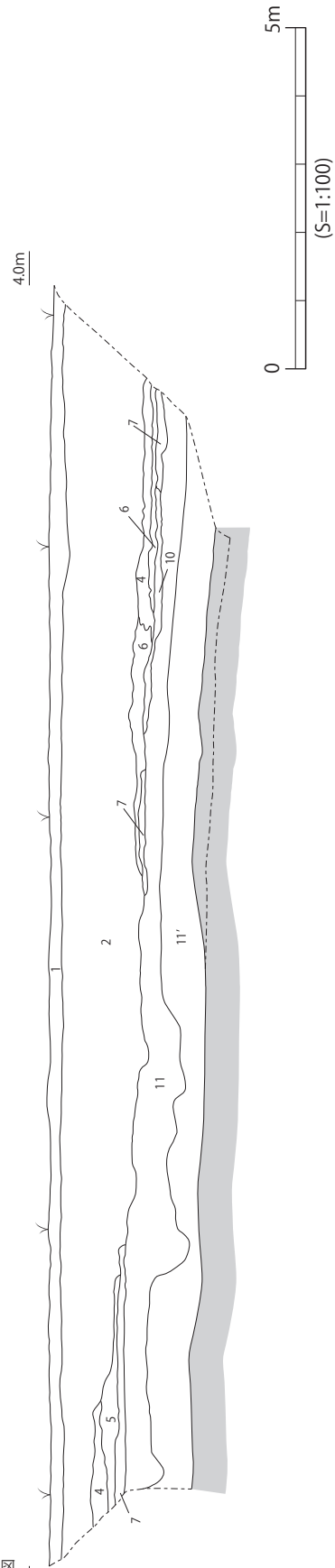
第43図 シコノ谷遺跡 A区遺構全体図 (1:150)

西壁土層図

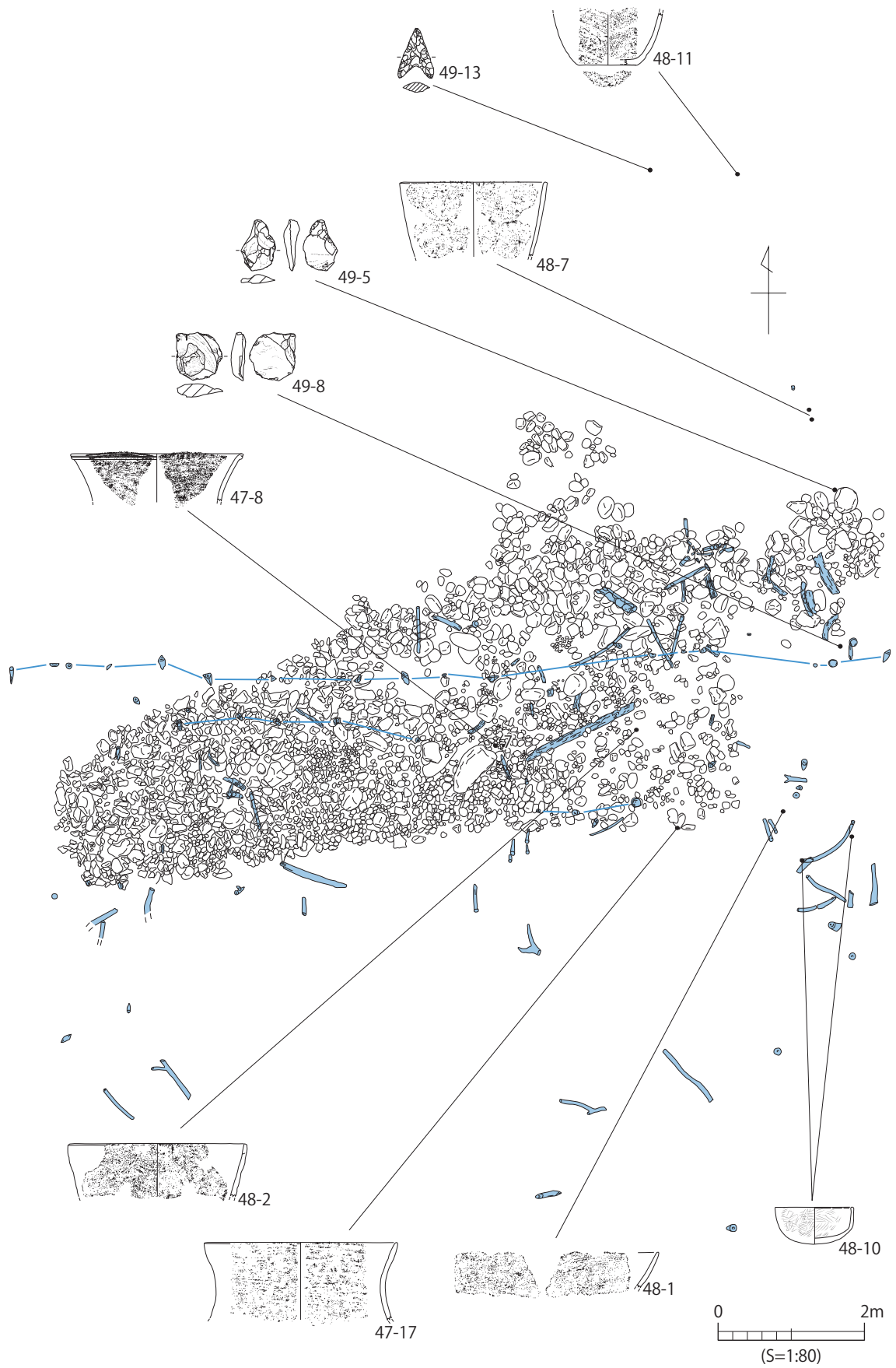


1. 暗灰色土 (耕作土)
2. 黄灰色粘土 (盛リ土)
3. 灰色土 (盛リ土) 礫と暗灰色粘質土が混入する
- 3'. 礫多く含む
4. 黒灰色粘質土
6. 灰色砂質土 (盛リ土) 炭化物を多く含む
6. 灰白色砂土 (盛リ土)
7. 黄灰色粘質土 (の床土)
- 7'. 暗灰色土を含む
8. 灰色粘質土 (上面にオモカス)
9. 暗灰色粘質土
10. 黒灰色粘質土
11. 灰色礫層 (砂混じり) 礫と砂、粘土混入
- 11'. 灰色礫層 (11より礫が小さい)
12. 暗黒褐色微砂粒層

北壁土層図



第44図 シコノ谷遺跡 A区土層図 (1:100)



第45図 シコノ谷遺跡 A区遺物分布図 (1:80) *遺物は1/10

全体に礫層（第43図）がみられ、北側の平坦面から南側の礫層上面に堆積する砂層を取り除くと、川に向けて礫層の上面が傾斜し低くなって面をなしている。礫層上面の礫にやや大きなものがみられる。礫層中と上面で縄文時代後期の土器が出土している。礫層からは黒曜石製の石鏃、珪質岩製のスクレーパーが出土している。

2. 基本層序（第44図）

A区は谷地形の西端に位置しており、基盤層の上に灰色礫層（11層）が堆積している。その上に黒褐色砂層（12層）、暗灰色粘質土が堆積している。部分的に砂層、礫層が互層状になっており、礫層の堆積が長期的に継続していたと考えられる。調査区南側では基盤層がかなり深くなり検出していない。ここでも礫層と砂層が互層状に堆積するが、砂層が徐々に厚くなる傾向がみられた。

3. 検出した遺構・遺物

（第45・46図）

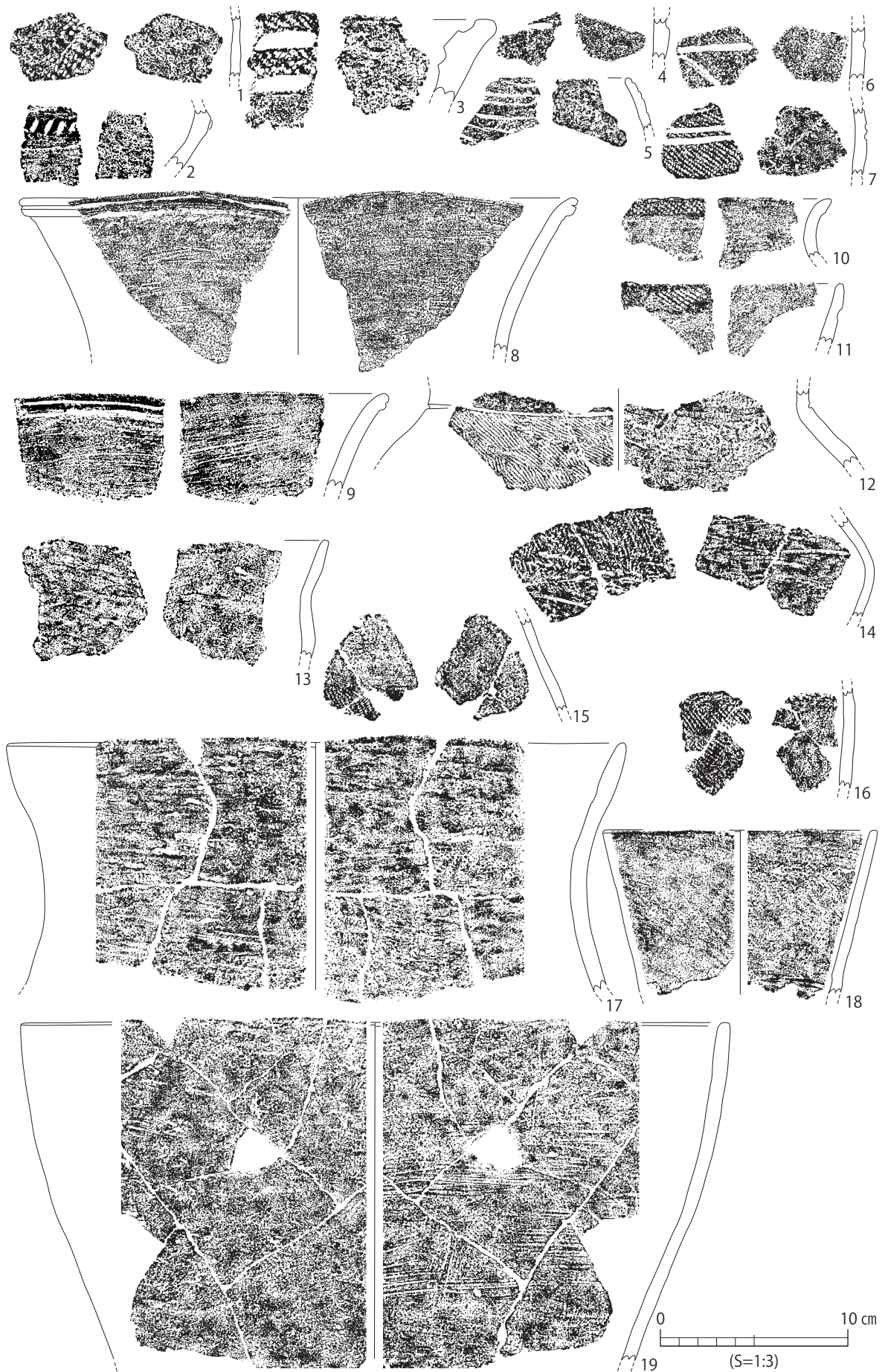
調査区中央の東西方向に杭列がみられた。礫を覆う黒褐色砂層中で確認し、先端が礫層に刺さった状態のものもある。礫層傾斜面の中ほどに2列確認しており、北側の列がよく残っている。杭の間隔は0.2m～11.2mで自然木の先端を削ったものと丸太をミカン割し先端を加工したものが混在している。径が15cm、残存する長さが30cm～60cmである。

4. 出土遺物（第47図～51図）

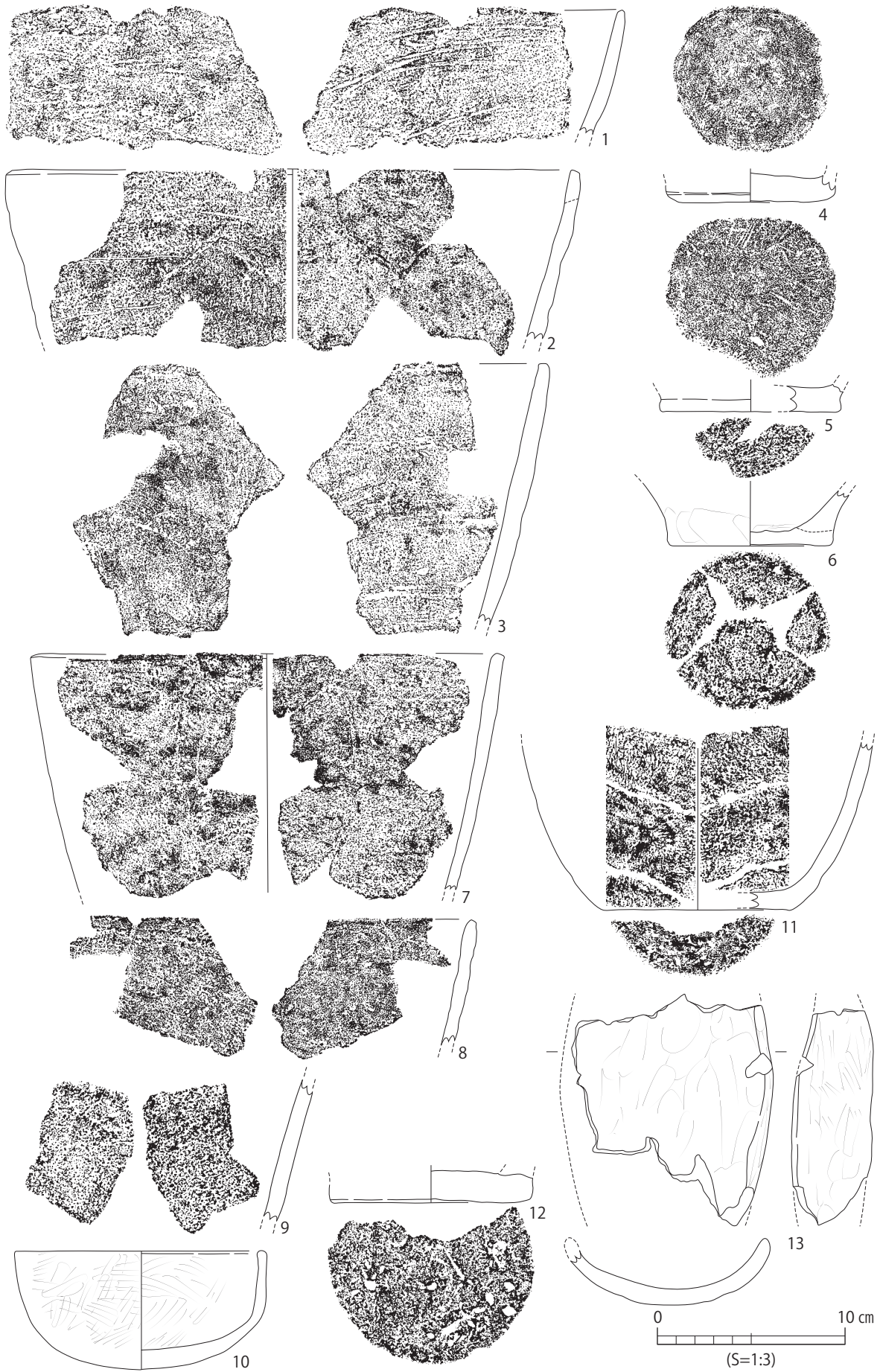
第47図2は外面に刻目のある



第46図 シコノ谷遺跡 A区杭列実測図（1:60）



第47図 シコノ谷遺跡 A区出土遺物実測図1 (1:3)



第48図 シコノ谷遺跡 A区出土遺物実測図2 (1:3)

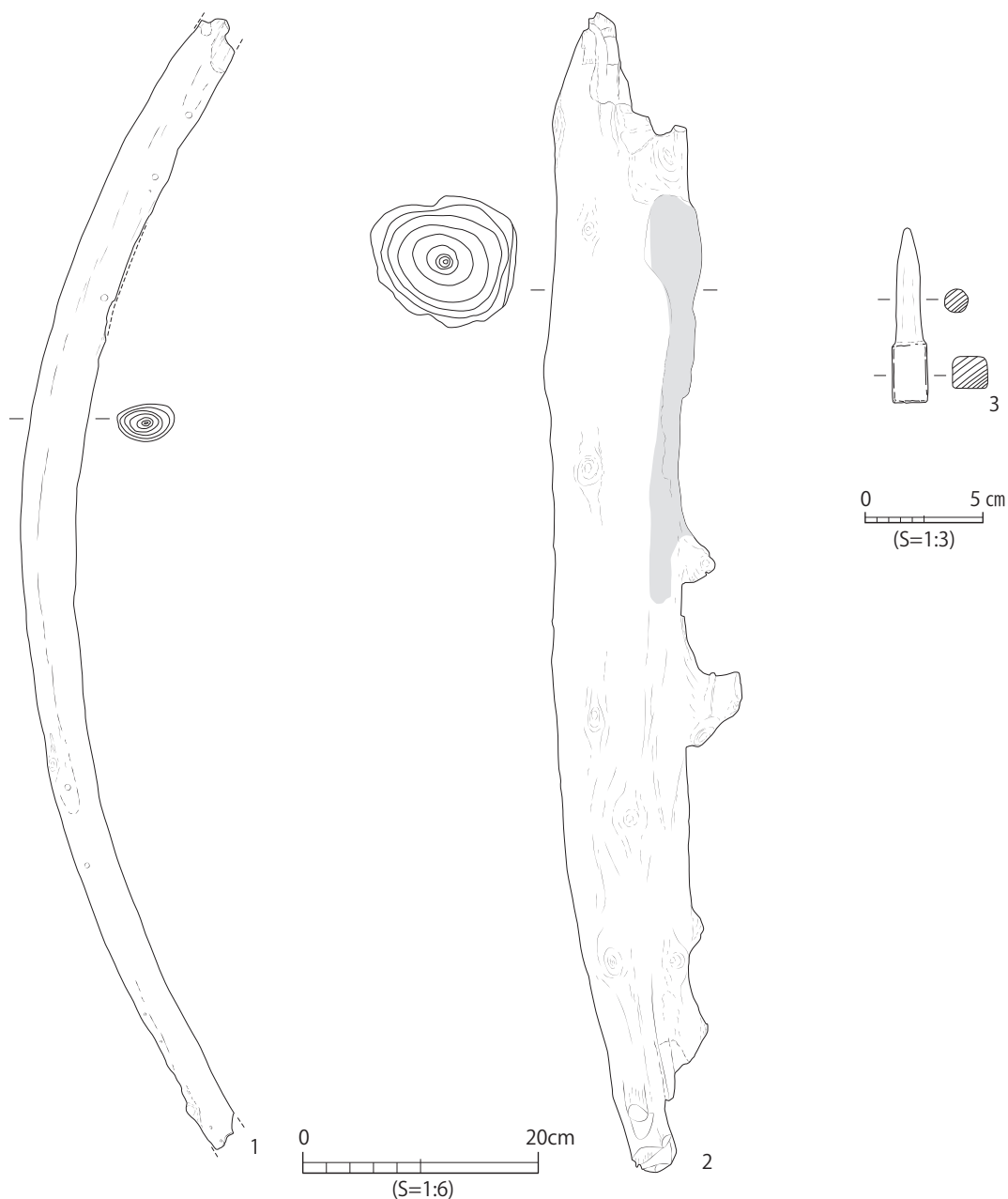
突帯が貼り付けられる。3・4・6は縄文と沈線を施しており、内面施文の3は崎ヶ鼻Ⅱ式相当、4・6は崎ヶ鼻Ⅰ～Ⅱ式と考えられる。5・7～12・14～16は、比較的精緻なつくりであることから沖丈式相当と考えられる。17・19は深鉢で内面に巻貝条痕、二枚貝条痕がみられる。18は内外面共にミガキが施されている。第48図1～3・11は貝殻条痕、7・8はケズリ調整が残っている。4～6・12は底部で、17は浅鉢である。これらの時期は、いずれも後期と考えられる。第49図1～4は口縁外面に突帯を貼り付けており、時期は晩期と思われる。5～8は、珪質岩のスクレーパーで刃部に使用痕が認められる。9は磨製石斧で刃部が使用により剥離している。10～12は石錘、13は黒曜石製の石鏃で基部の形態がV字型を呈している。



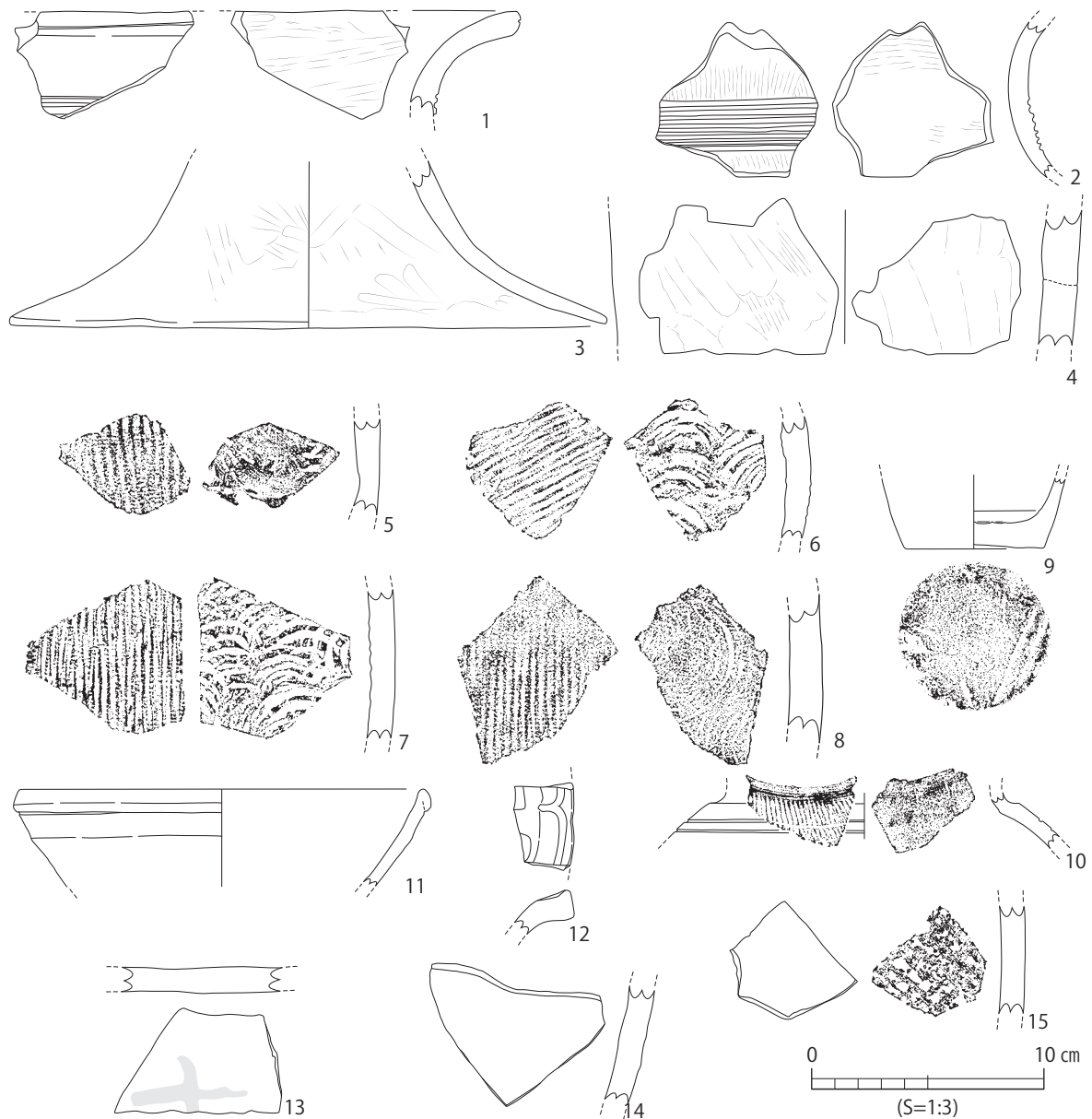
第49図 シコノ谷遺跡 A区出土遺物実測図3 (1:3) (1:1)

第50図1は弓状の形態をしている真持材で両端が欠損している。残存する長さ95.5cmを測る。2は杭で先端が磨滅している。長さ98.5cm、径12cmを測る。3は基部が方形、先端が丸く加工され、栓状の形態をしている。

第51図1～3は弥生土器で、1・2は壺で外面にヘラ描き沈線文が施される。3は蓋で内外面にヘラミガキが施されている。4は円筒埴輪で外面に縦方向の刷毛目の後ナデている。5～8は須恵器の甕で外面に平行叩き、内面に同心円叩きを施している。9は壺の底部で外面に回転糸切痕がみられる。10は体部外面の平行沈線文の間に縄席文と思われる叩きを有しており、朝鮮半島系の陶質土器の壺と思われる。11は中国製白磁碗Ⅳ類の碗である。12は中国製青磁盤の口縁部である。13は備前焼播鉢で内面が使用により磨滅している。14も備前焼で甕の胴部である。15は唐津焼の甕で外面に格子状の叩きを有している。時期は近世初頭である。



第50図 シコノ谷遺跡 A区出土遺物実測図4 (1:3)



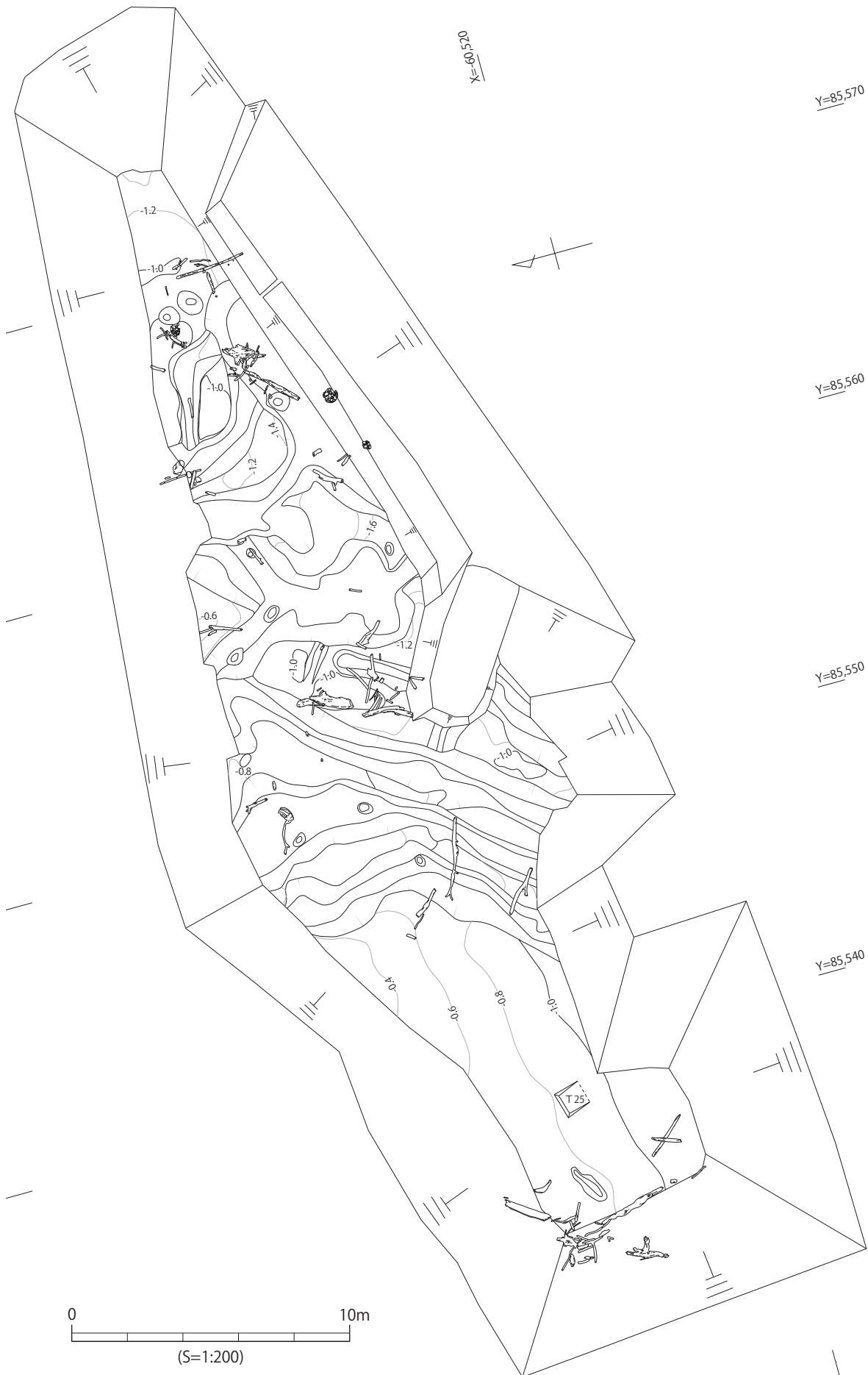
第51図 シコノ谷遺跡 A区出土遺物実測図5 (1:3)

第3節 B区の調査

1. 調査の概略と検出遺構

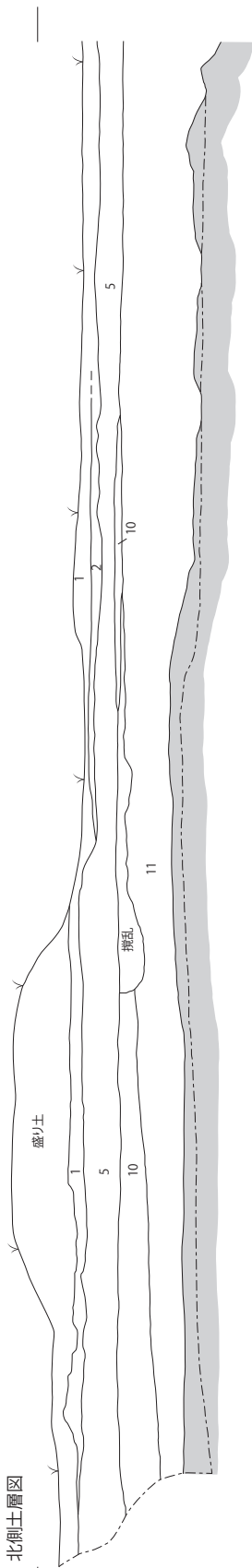
調査地は、西側が盛り土された資材置き場、東側が水田となっており、旧表土の標高1.2mである。盛り土、水田耕作土の下は、砂層と礫層が交互に堆積している。上層の砂層・礫層（礫1層）からは、中世土器・古代の須恵器・古墳時代の土師器・須恵器・弥生土器・縄文時代晩期の土器が出土している。下層の礫層（礫2層）を取り除くと灰白色の基盤層（松江層）となり、南北方向に溝状の落ち込みが幾筋もみられた。試掘調査の段階で下層の礫層からサメの歯・黒曜石が確認されており、調査区の東側1/3の範囲については水洗を行い、サメの歯・黒曜石製石器・チップ・獣骨・縄文土器が出土している。これらの遺物は、谷奥から押し流された土石流に含まれ堆積したものと考えられる。

縄文時代早期から中世に至る各時代の遺物が確認され、基盤層に川跡と思われる溝状の落ち込み



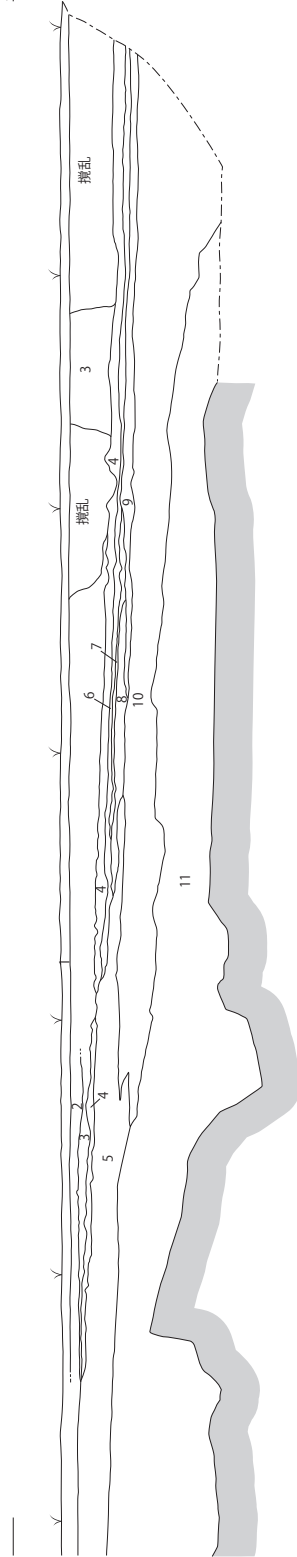
第52図 シコノ谷遺跡 B区遺構全体図 (1:200)

B区 北側土層図

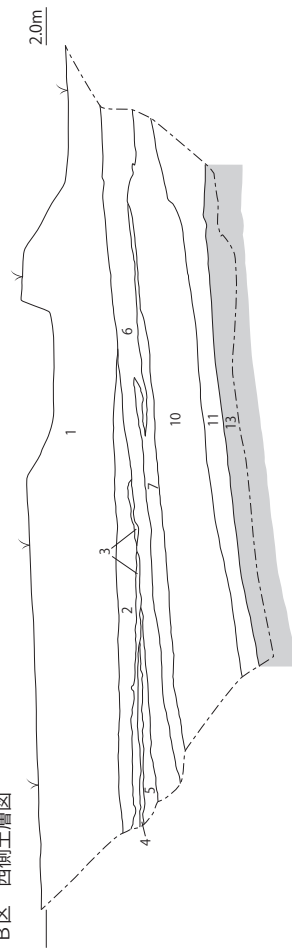


第53図 シコノ谷遺跡 B区土層図 (1:120)

2.0m



B区 西側土層図



1. 暗灰色土 (水田耕作土)
2. 灰色礫 (小さな礫を含む)
3. 黄灰色粘質土
4. 暗灰色粘質土
5. 灰色砂礫 (砂・小石・礫の混入土)・・・礫①
6. 暗灰色砂質土 (小石含む)
7. 灰白色砂 (黄色砂のブロック含む)
8. 暗灰色砂 (小石含む)
9. 暗灰色砂 (粘性あり)
10. 灰色砂
11. 灰色砂礫 (礫大きめ、縄文晩期の包合層)・・・礫②
12. 灰色砂 (砂少量混入、木器含む、縄文晩期の包合層)
13. 白色粘質土 (地山)



が確認される。集落の痕跡である住居跡等の遺構は確認していない。

2. 基本土層 (第53図)

調査区の北壁土層図にみられる5層(灰色砂礫・礫1層)が縄文時代晩期から中世の包含層、10層(灰色砂)が縄文時代晩期から古墳時代の包含層、11層(灰色砂礫・礫2層)が縄文時代早期～後期の包含層である。北壁の中央部で礫1層と礫2層が接した状態で堆積しているが、砂の含有量、礫の大きさの違いから分けることができた。

礫層の堆積が厚いことから、北側の谷から押し出す力が相当強力だったと考えられる。礫層の中から出土する土器は破片がほとんどであり、砂層中からの土器(縄文時代晩期・弥生土器・土師器・須恵器)には原形を残すものが含まれていた。砂による流出の力が弱かったものと思われる。

3. 遺構と遺物 (第54図)

調査区全体に礫層、砂層が覆っており、礫層の下の基盤層に溝状の落ち込みを確認している。これは、谷筋を流れる川により形成されたものであり、明確な遺構と思われるものは確認していない。下層の礫層から縄文土器、石器、砂層中から弥生土器、須恵器、中世の陶磁器が出土している。

下層礫層が厚く、縄文時代早期～晩期という長期にわたり堆積しており、土器が最も多く出土している。下層の礫層については、第42図に網掛けで示した範囲について水洗作業を行っている。基本的にこの範囲の礫層はすべて水洗の作業を行い、土器、石器、獣骨、サメの歯を確認している。石鏃、サメの歯のように小さな遺物は水洗作業を行うことで全てを回収したこととなり、結果としてサメの歯156本、石鏃108本となった。砂礫層であることと、水洗に高圧洗浄機を使用したことで効率的に現地での検出作業ができ、層位とどの地点からの出土なのか大まかに把握することとなった。

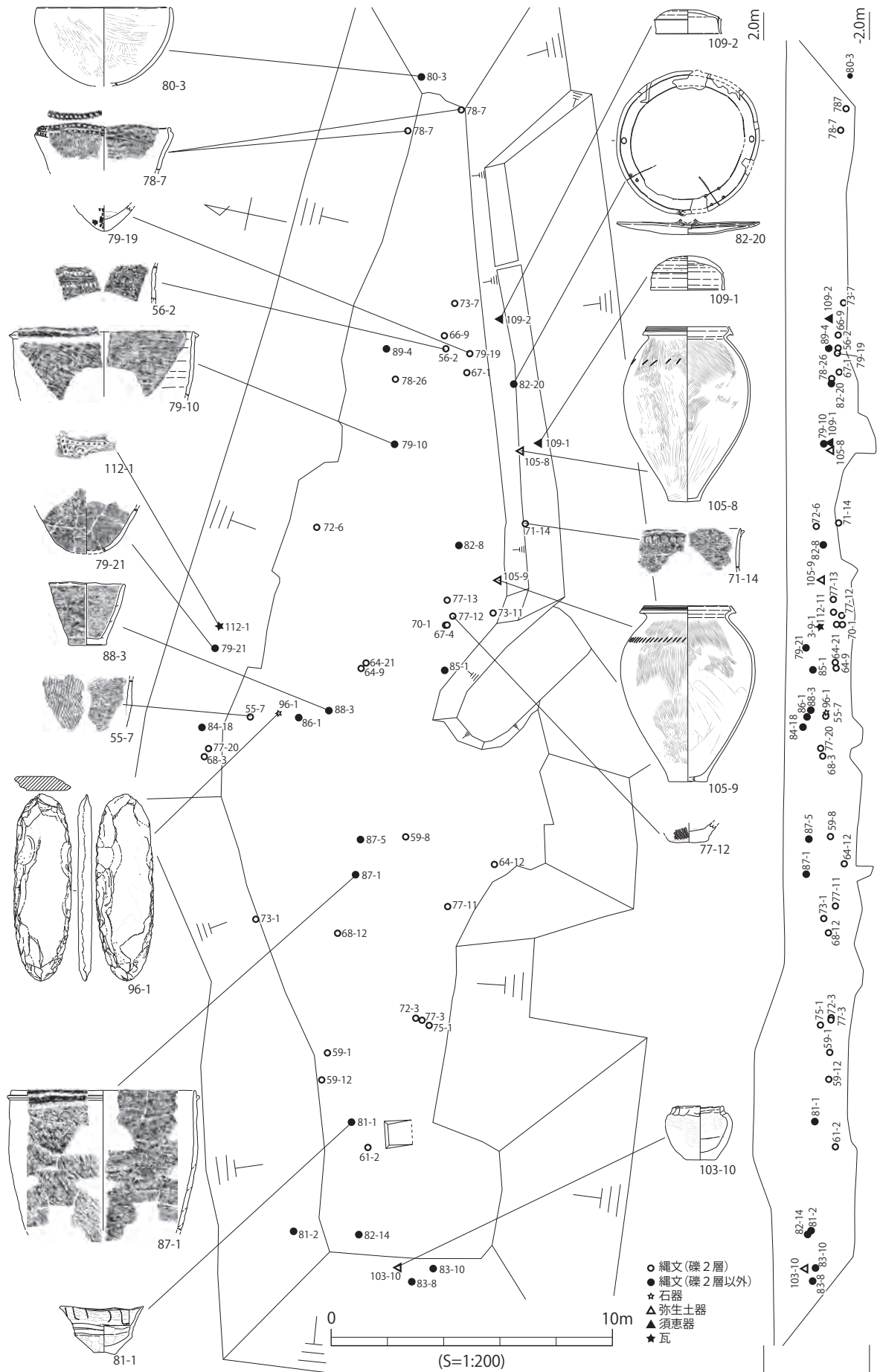
4. 縄文土器の分類

縄文土器は、層位ごとの器形・器種(深鉢・浅鉢・その他)、部位(口縁・胴部・底部)の順で掲載している。特にB区の縄文土器で主体を占める繊維土器(胎土中に繊維を含んで焼成されている)については、施文の有無と施文具によって縄文、条痕の違いがあり、それぞれの施文が両面のものや片面のものに分けている。さらに縄文は撚りの違いによって細分化している。縄文は、単節、複節、無節、羽状、撚り糸、撚りがLR・RLであり、条痕は二枚貝、巻貝である。尚、底部は点数が少ないことから繊維土器としてまとめている。

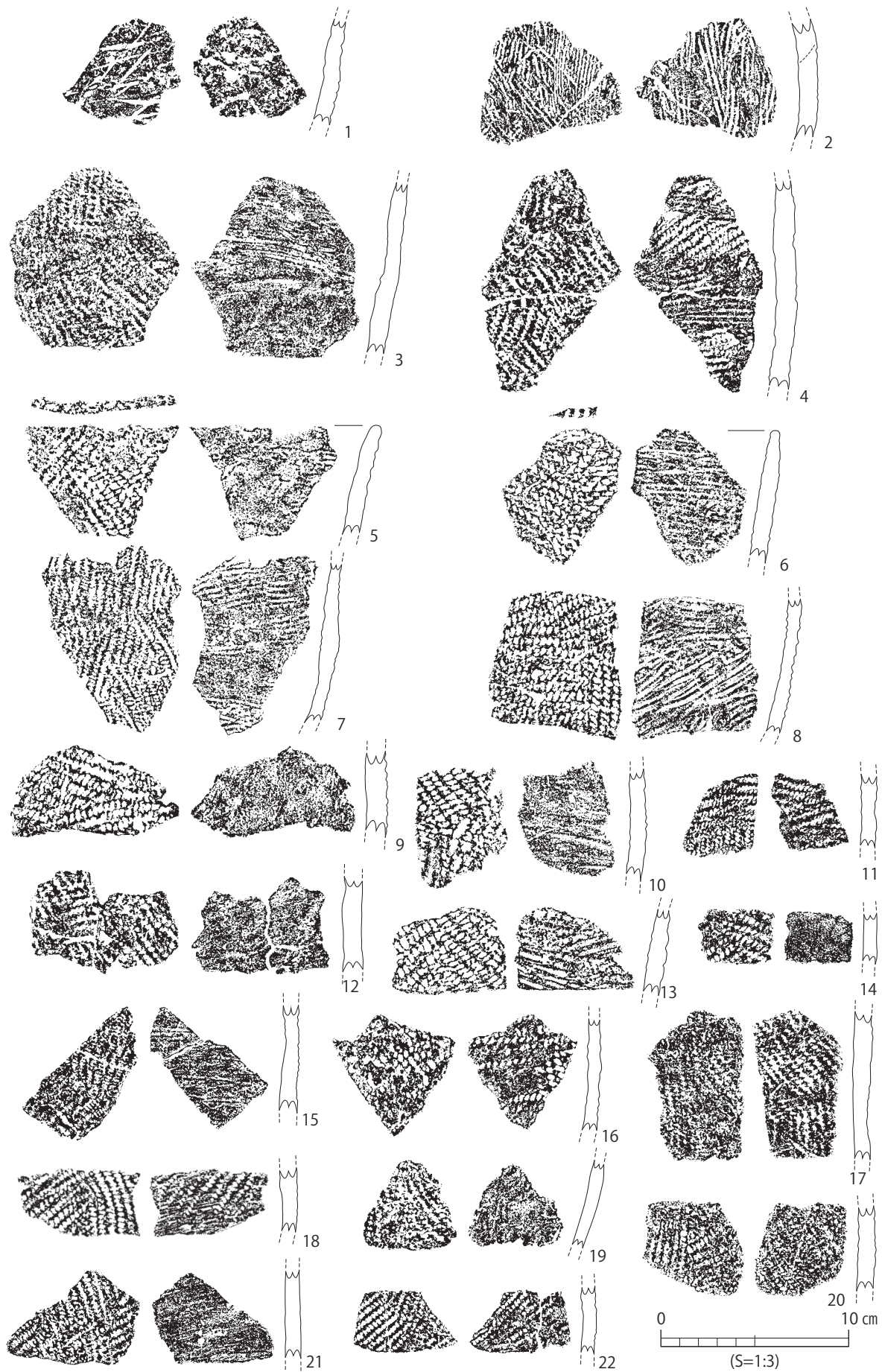
5. 出土遺物 (第55図)

第55図1は外面に菱形の押型文を有し、胎土に繊維を含んでおり高山寺式相当と考えられる。2は内外面に二枚貝条痕、外面には撚り糸文がみられる。3以降は外面に羽状縄文を持つものである。3～5・7・9・10・13は、外面に羽状縄文LR、内面に縄文LR、二枚貝条痕がみられる。6・15が外面に単節、8が多条、11が前々段多状、16が複節である。17・18・20～22は長い面に縄文LRを施している。

第56図は外面に刺突文、沈線文を施している。1～6は下方向からの刺突文で1は口縁部で外面に刺突文が3列確認できる。7～11は横方向からの刺突文、12～15は斜め方向からの刺突文で12は口縁部で刺突文が2列施されている。16は円形の凹点文、17～22は沈線文がみられる。胎土中に繊維を含み、外面の縄文に刺突文、沈線文を施していることから、菱根式(宮ノ下式)の特徴と考えられる。



第54図 シコノ谷遺跡 B区遺物分布図 (1:200) *遺物は1/10



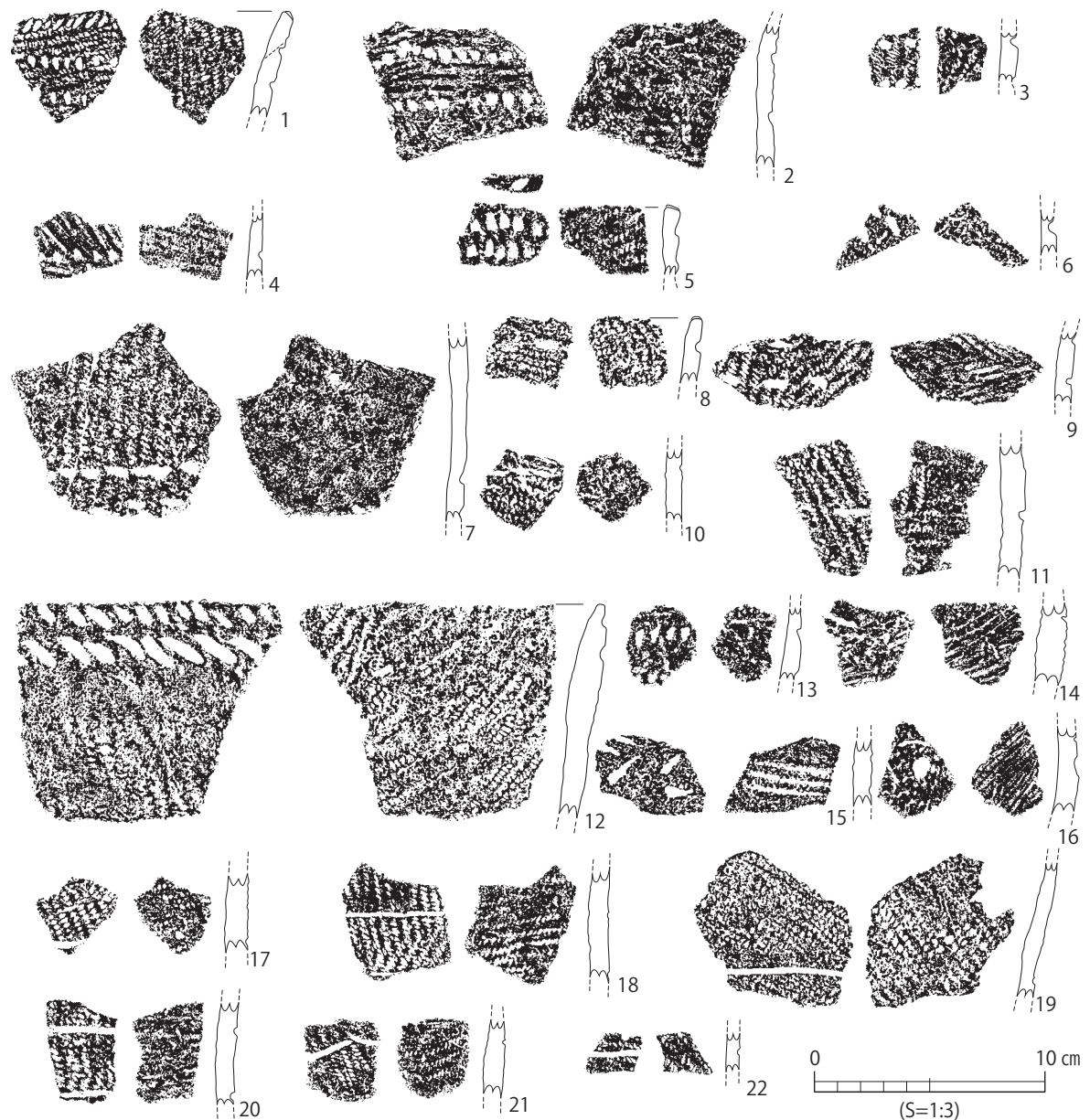
第55図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図1 (1:3)

第57図は表裏縄文の口縁部である。1～17は内外面縄文LRで、2・4～12は口縁端部に縄文LRが施されている。1・3の口縁端部は鋭角的にとがっており、その他は平坦な形態である。15・17は口縁部に深い刻目が施されている。18・19は山型の特殊な口縁部である。20～23は内外面の縄文が前々段多条LRである。20は山型の口縁部、21～23は平坦で端部に縄文が施されている。

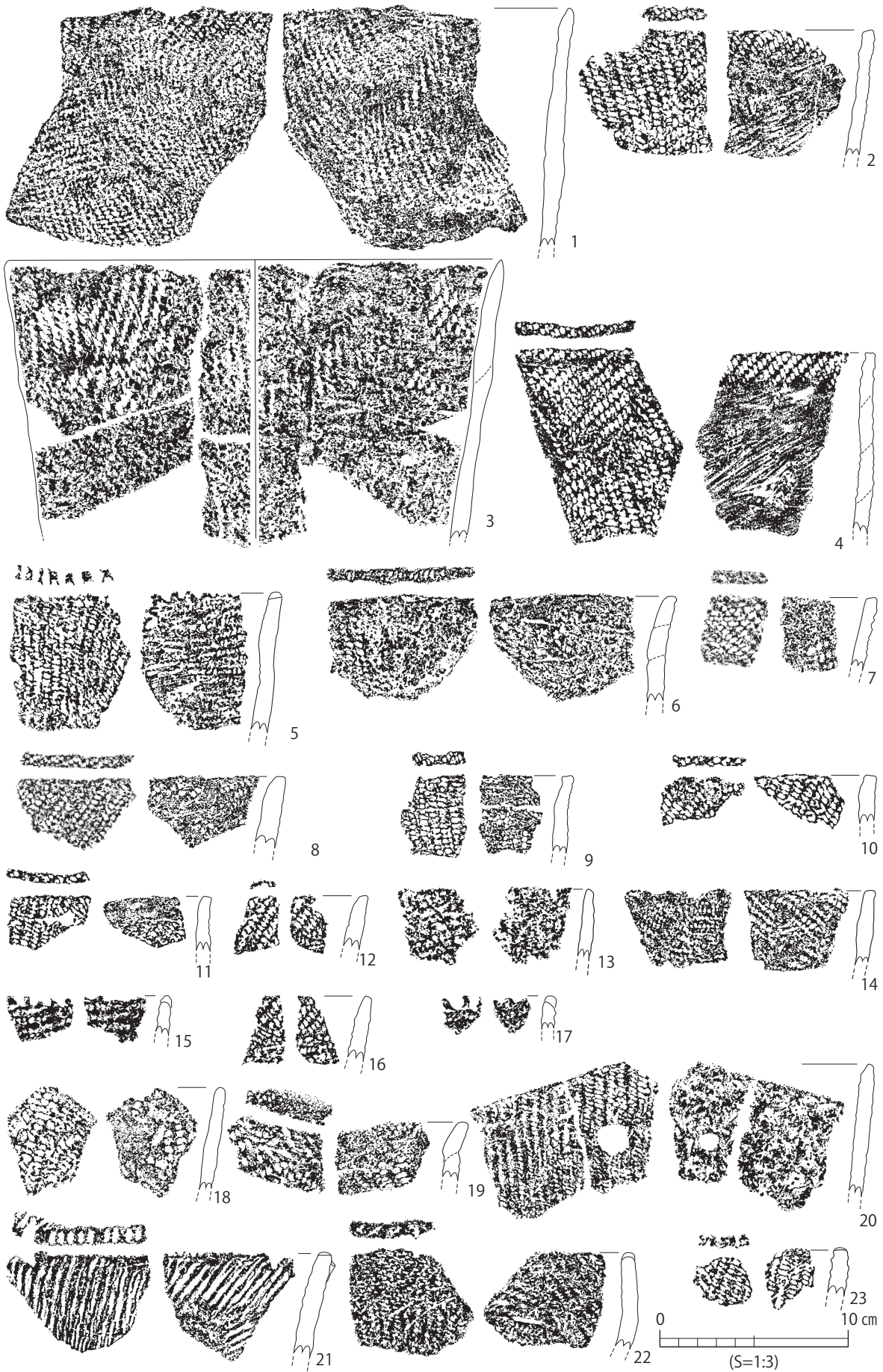
第58図の縄文土器は、表裏縄文の深鉢で、1～6は内外面の縄文の撚りがRLである。1～3は口縁端部に縄文が施されている。4は山型の口縁部である。7は内外面の縄文が無節のLである。

第59図は表裏縄文の深鉢の胴部の破片である。縄文の撚りはLRである。一部の土器で確認できないものもあるが、殆どが胎土中に繊維を含んでいる。

第60図も表裏縄文の深鉢の胴部である。1～3は内外面の縄文がLRである。4は内面縄文LR、外面が条痕と縄文LRである。5～14は内外面の縄文が前々段多条のLRである。16は内面が単節LR、外面が複節LRである。17～21は内外面の縄文が無節のLである。



第56図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図2 (1:3)



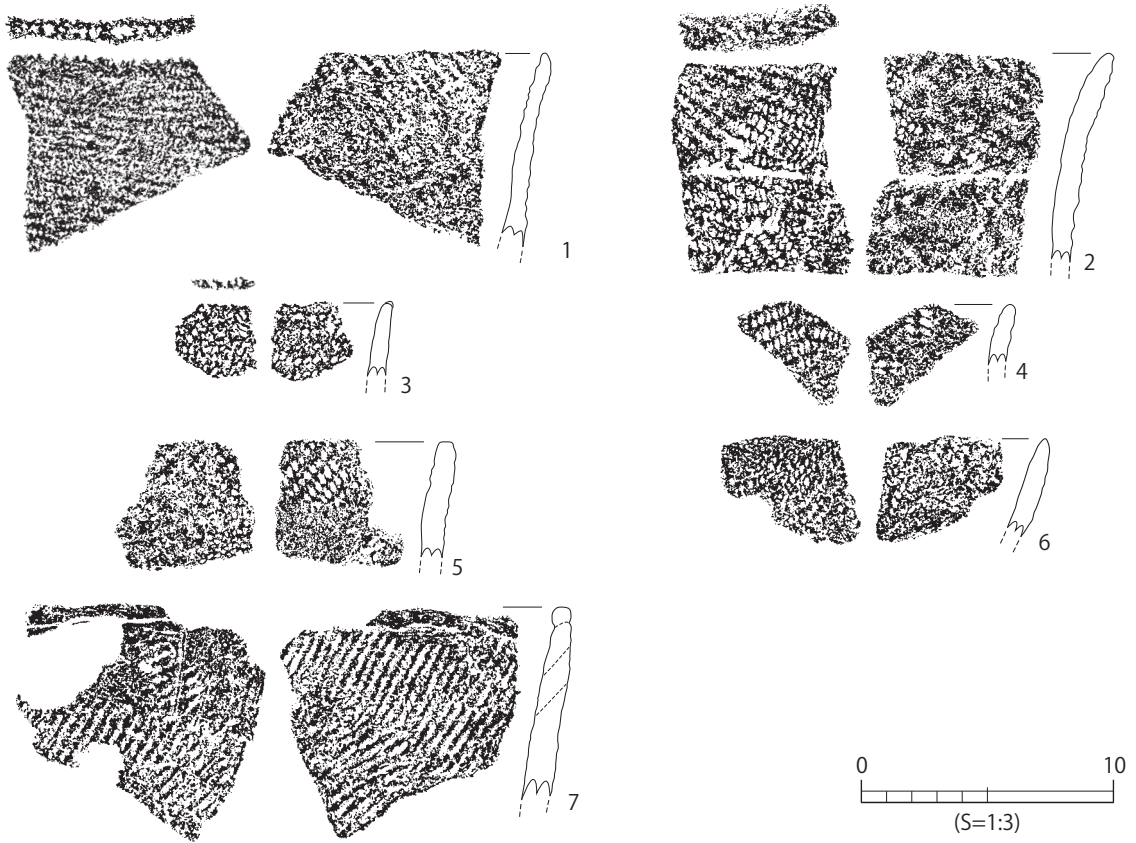
第57図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図3 (1:3)

第61図も表裏縄文の深鉢の胴部である。1～14が表裏の縄文がRL、15～18が内外面の縄文が無節のRとなる。11は焼成後の穿孔がみられる。

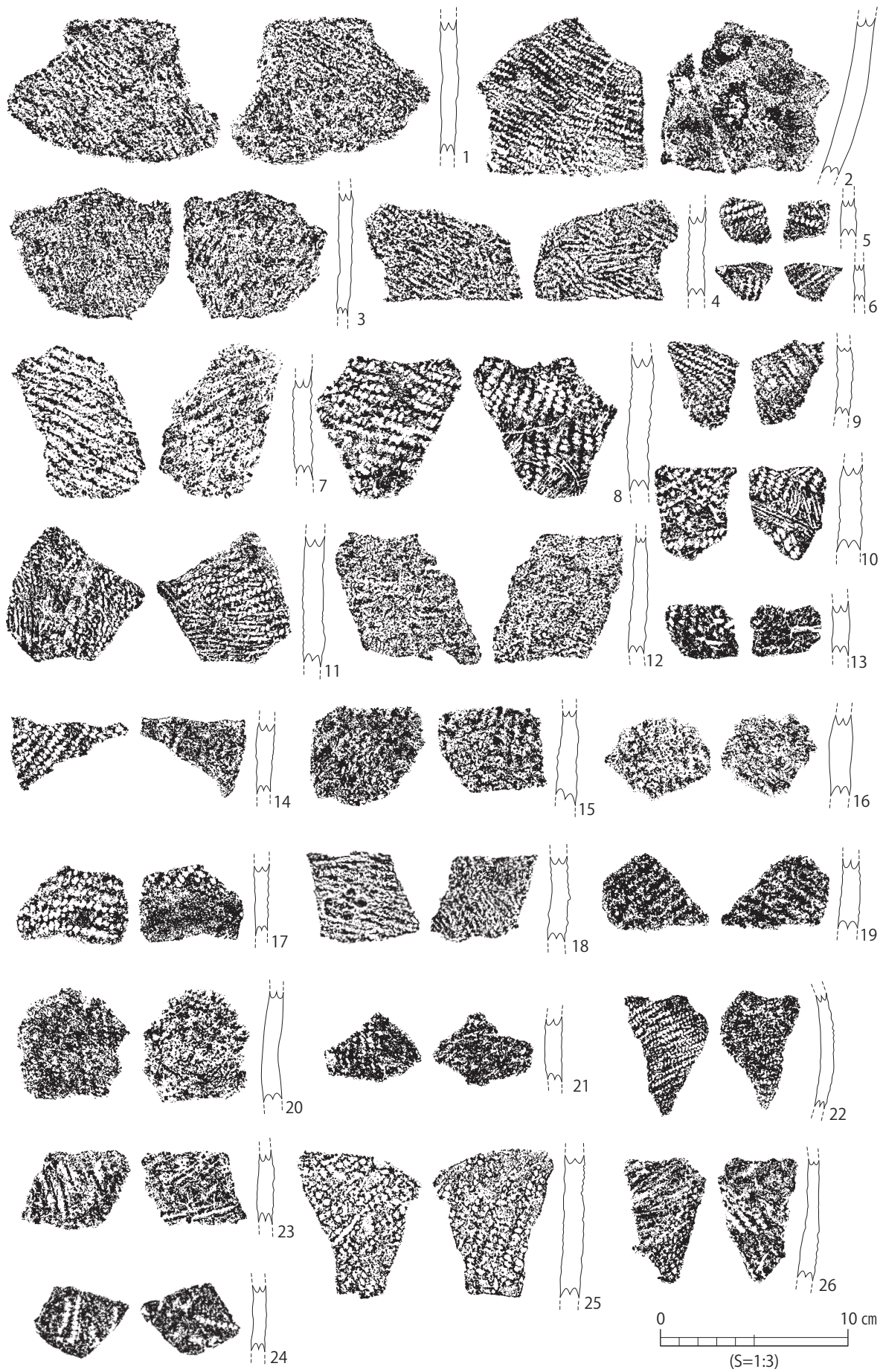
第62図は深鉢の口縁部と胴部で内面が条痕、外面に縄文が施されている。1～3は内面に二枚貝条痕、外面に縄文LRがみられる。1は口縁端部が平坦となり体部上半がやや内湾している。2は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部がやや鋭角的となる。4～8は内面に二枚貝条痕、外面に縄文単節LRがみられる。4・5は胴部が直線的、6はやや内湾気味、7は外反気味に立ち上がる。6・7の口縁端部は平坦になる。7は山型の口縁で端部に縄文が施されている。9は口縁部で内面に条痕、外面に前々段多条RLが施される。10は口縁部で内面に条痕、外面に縄文無節のRがみられる。11～13は胴部の破片で内面に二枚貝条痕、外面に縄文LRが残る。14～22も胴部の破片で、内面に二枚貝条痕、外面に縄文の前々段多条LRがみられる。

第63図は深鉢で外面に縄文、内面に条痕がみられる。1～6は内面に二枚貝の条痕、外面に縄文の前々段多条LRがみられる。7～20は内面に二枚貝条痕、外面に縄文単節LRがみられる。内面の条痕は横から斜め方向に施されている。21は内面に二枚貝条痕、外面に縄文複節LRがみられる。22～30は内面条痕、外面縄文複節LRがみられる。10は内面に二枚貝条痕、外面に二枚貝条痕の後に縄文無節Lがみられる。

第64図1～8は内面に二枚貝条痕、外面に縄文RLがみられる深鉢である。9～16は内面に二枚貝条痕、外面に縄文単節RLを施している。17～20は内面にナデ、外面に縄文前々段多条RLがみられる。21は内面が縄文前々段多条RL、外面が二枚貝条痕である。22は内面が条痕、外面が縄文の撚り戻しがみられる。



第58図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図4 (1:3)

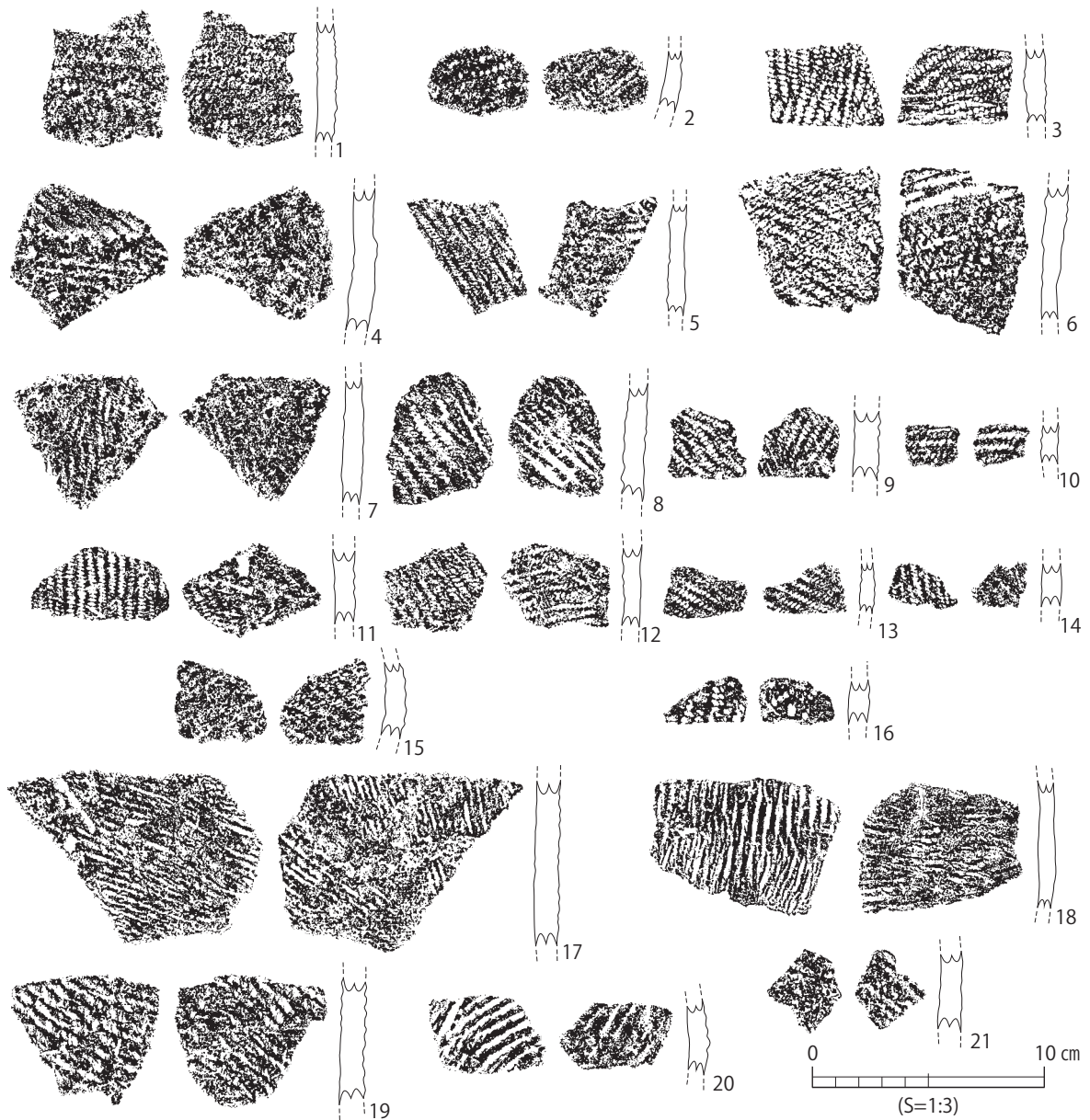


第59図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図5 (1:3)

第65図は外面が縄文、内面が条痕の深鉢である。1～3は内面に二枚貝条痕、外面に縄文の前々段多条RLが施されている。1は内外綿ともに施文方向は横方向である。4～11は内面に条痕、外面に縄文無節Rがみられる。12は内面に巻貝条痕、内面に無節Rがみられる。

第66図は外面が縄文、内面がナデ調整の深鉢の口縁部である。1～20は内面ナデ調整、外面縄文LRがみられる。胴部から口縁部に向けてほぼ直線的に立ち上がり、口縁端部に平坦面を持つものが多い。1～12は口縁上端に平坦面があり縄文が施されている。21～23は内面がナデ調整、外面が縄文無節L、RLとなっており、口縁上端に縄文がみられる。24～26は内面ナデ調整、外面に縄文RLがみられ、25の口縁上端の平坦面に縄文がみられる。27～29は内面ナデ調整、外面は縄文無節Rがみられる。27は口縁上端の外面より縄文が一行施文されている。30・31は内面ナデ調整、外面の縄文前々段多条で口縁上端に縄文が施文される。

第67図は内面がナデ調整、外面が縄文LRの深鉢である。2・3・5の内面には指頭による横方向のナデがみられる。



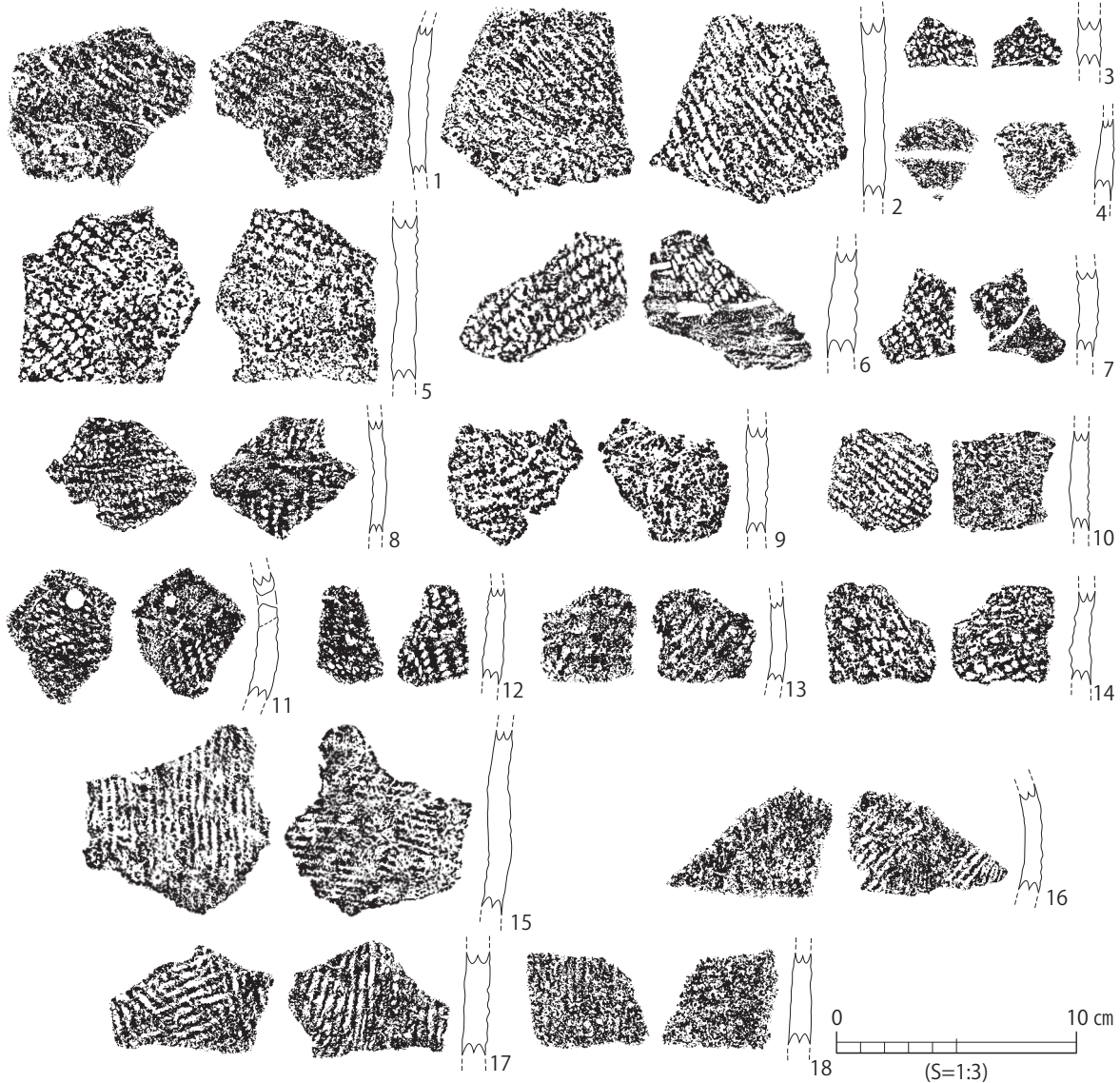
第60図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図6 (1:3)

第68図は内面ナデ調整、外面縄文LRの深鉢である。2・3・7～15は内面に指頭による横方向のナデがみられる。

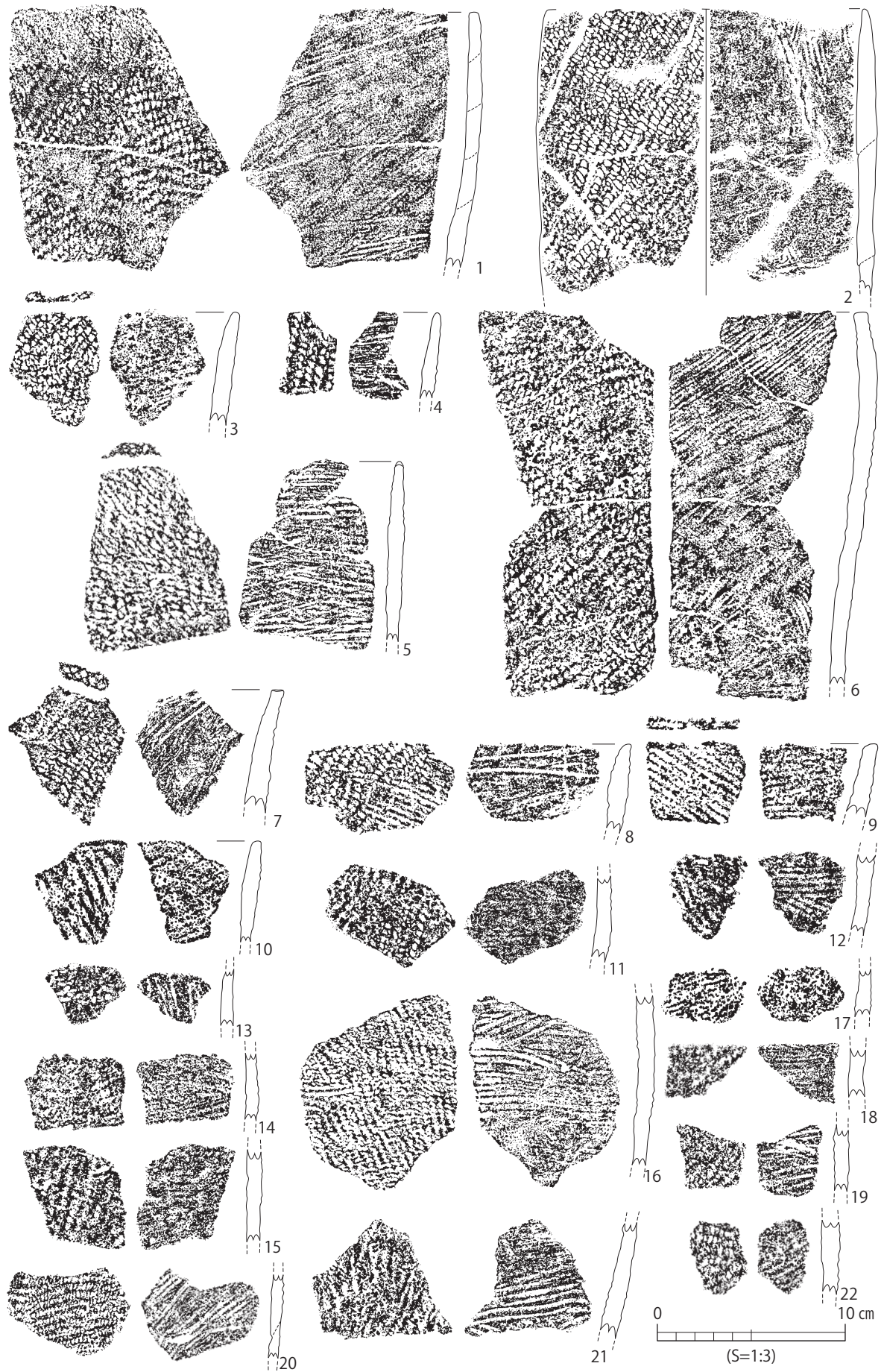
第69図1～13は内面にナデ調整、外面に縄文前々段多条LRがみられる。14～16は内面にナデ調整、外面に縄文複節Lがみられる。17～27は内面ナデ調整、外面に縄文無節Lがみられる。28～30は内面ナデ調整、外面に縄文前々段多条のRLがみられる。いずれの土器の胎土に繊維が混入している。

第70図は内面にナデ調整、外面に縄文を施している。1～7は内面ナデ調整、外面が縄文RLである。8～14は内面ナデ調整、外面が縄文単節Rである。15～21は内面ナデ調整、外面が縄文無節Rである。22～27は内面にケズリ様の調整、外面の縄文が無節Rである。28～30は内面にケズリ様の調整、外面の縄文がLRである。

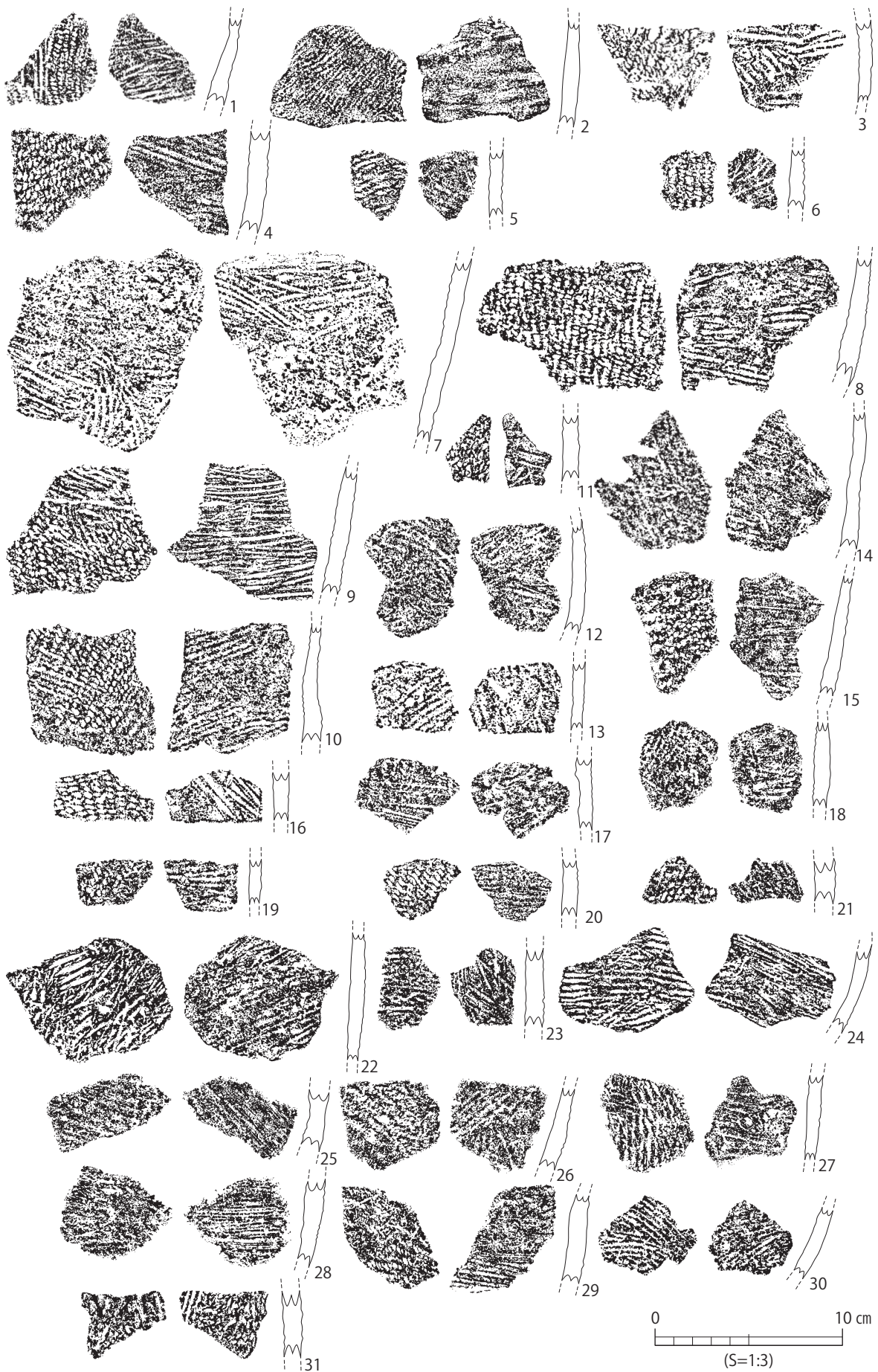
第71図は口縁外面に隆帯を施すものである。1は内面および口唇端部にRLを施し、口縁外面に刻目のある隆帯を貼り付ける。地文に縄文を施し、口縁外側に隆帯を伴う特徴から福呂I式相当と思われる。2は外面に刻目のある隆帯を貼り付け、隆帯の上下には縄文RLが施される。3は内外面に条痕がみられ、口縁外面やや下がった位置に隆帯が貼り付けられる。4は内外面に二枚貝条痕が



第61図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図7 (1:3)

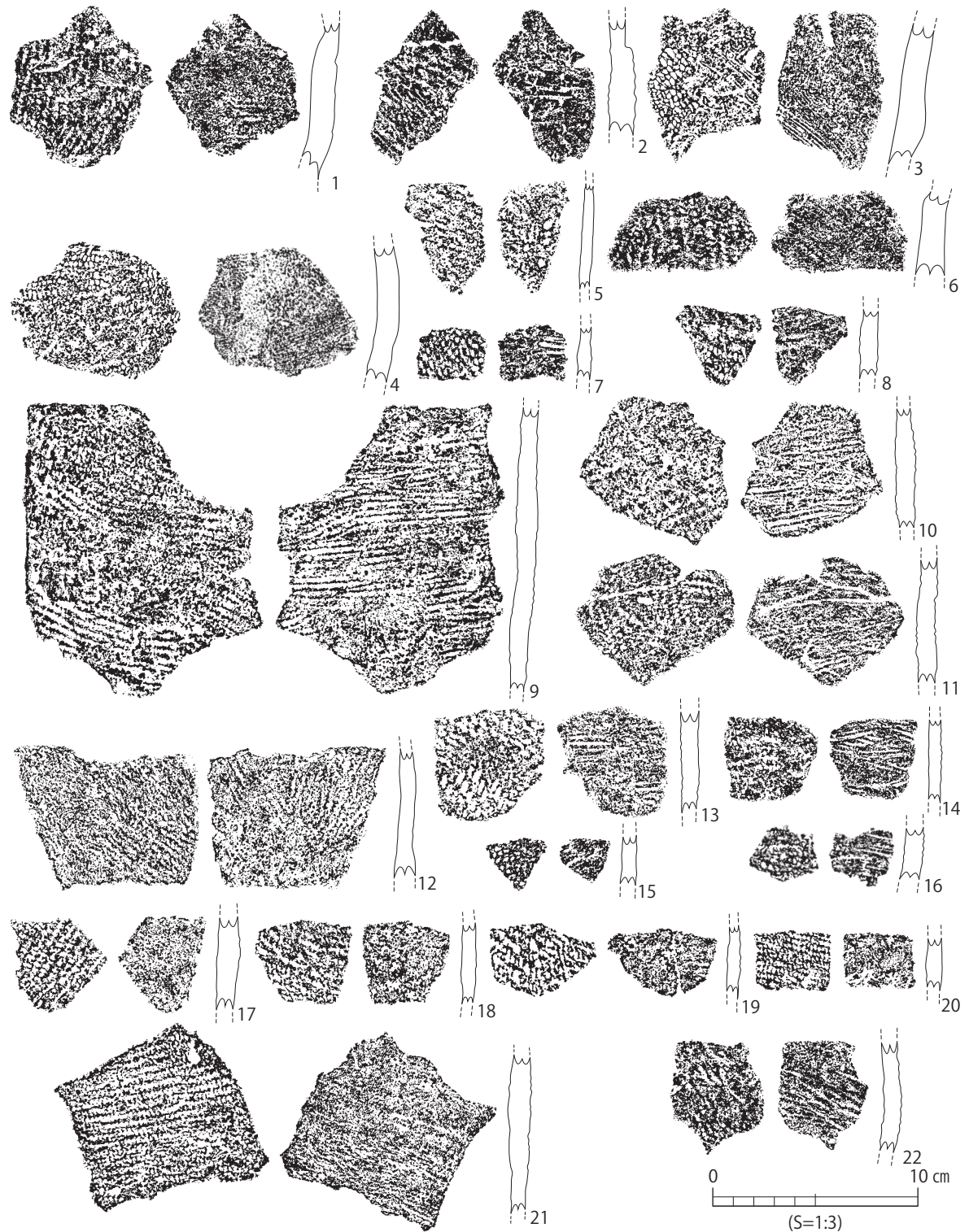


第62図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図8 (1:3)



第63図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図9 (1:3)

あり、外面に断面が三角形の刻目隆帯が貼り付けられる。5は内面にケズリ様調整、外面に条痕、長さ
と幅のある隆帯に斜め方向の刻目が見られる。外面には炭化物が付着する。6も内外面に条痕、外
面に刻目のある隆帯が貼り付けられる。9は外面の隆帯が波状になっている。11は内外面に二枚貝
条痕が残り、口縁上端部にも二枚貝条痕がみられる。12は内面二枚貝条痕、外面にナデ調整を行
い、刻目隆帯、口唇部に刻目を有している。13は内外面に粗い二枚貝条痕が施され、外面に波状の
隆帯が貼り付けられる。14は内面に条痕、外面に二枚貝の粗い条痕がみられる。外面に波状の隆帯

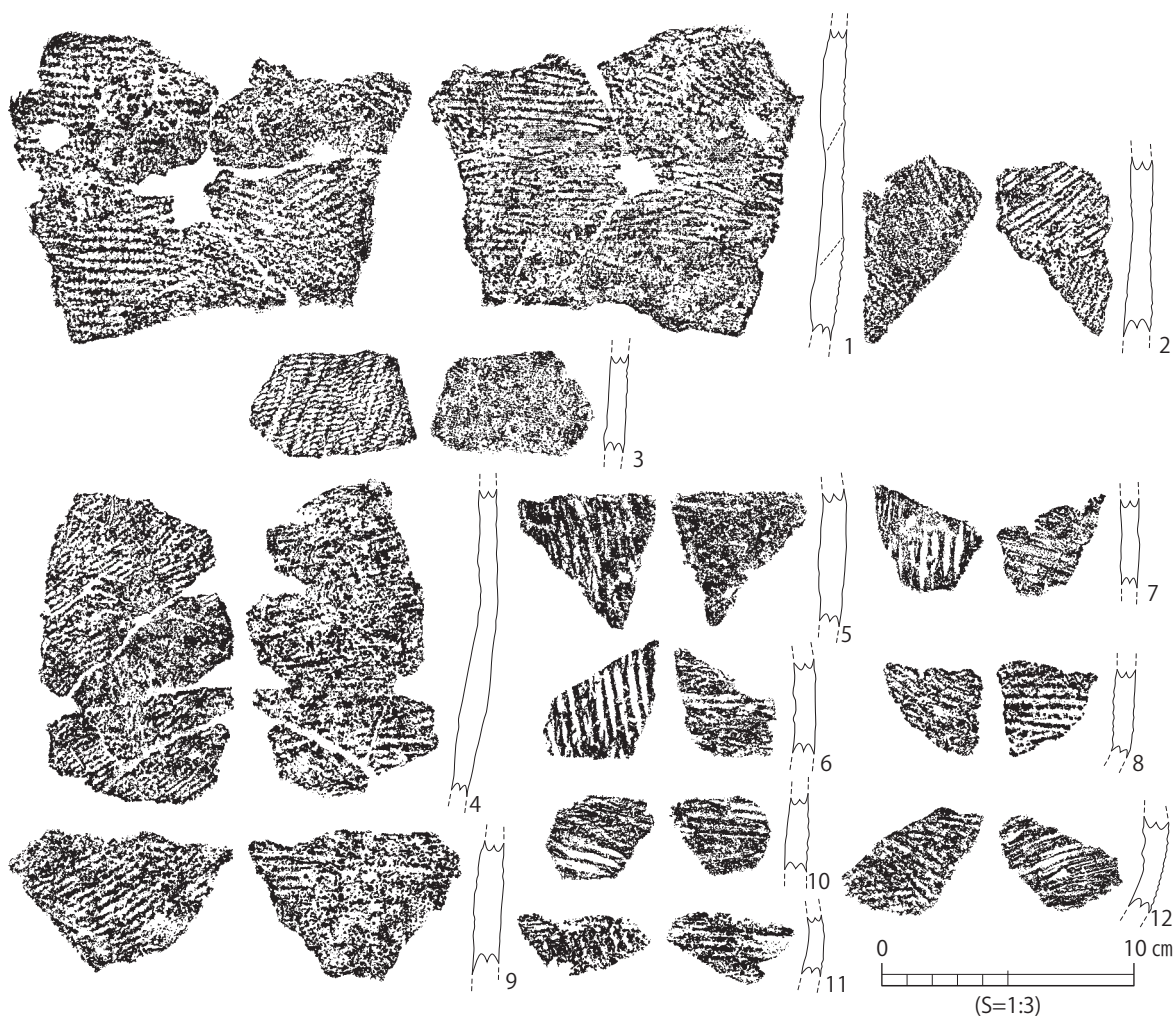


第64図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図10 (1:3)

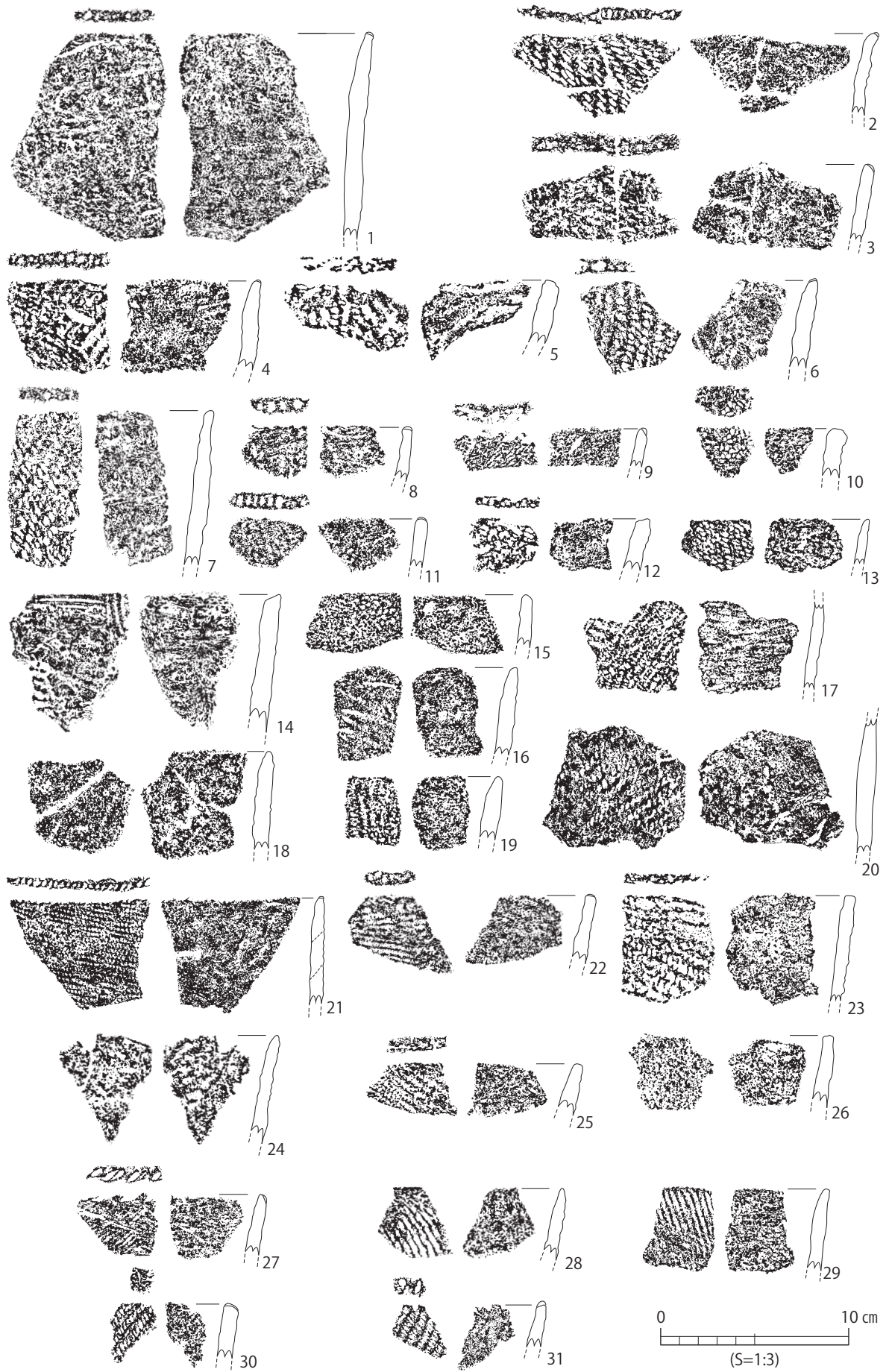
がみられる。隆帯は、指頭による押圧を繰り返したものである。15は内面にナデ調整、外面に二枚貝条痕の後ナデ調整を行っている。外面に波状の隆帯が貼り付けられ、焼成後に円形の穿孔がみられる。16は内外面に二枚貝による粗い条痕がみられ、外面に波状の隆帯が貼り付けられる。17は内外面に条痕、外面に波状の隆帯が貼り付けられる。以上のような、内外面に条痕を施し、外面に隆帯を持つという特徴から長山馬籠式相当のものと考えられる。

第72図は内外面に条痕を持つもので、1～13は口縁部である。1は内外面に二枚貝条痕を有し、波状の口縁である。体部に焼成後の円形の穿孔がみられる。2は口縁端部の内側に粘土紐を貼り付け、内湾するような特殊な口縁部である。3は条痕の方向が外面は斜め、内面は縦方向となっている。4・5・8・11は口縁部の上端が平坦となり、縄文が刻目が施されている。4・8・10は外面の条痕が縦方向となっている。14～28は胴部の破片で内外面に条痕を施している。条痕の方向は縦方向、横方向が内外面で揃っている。

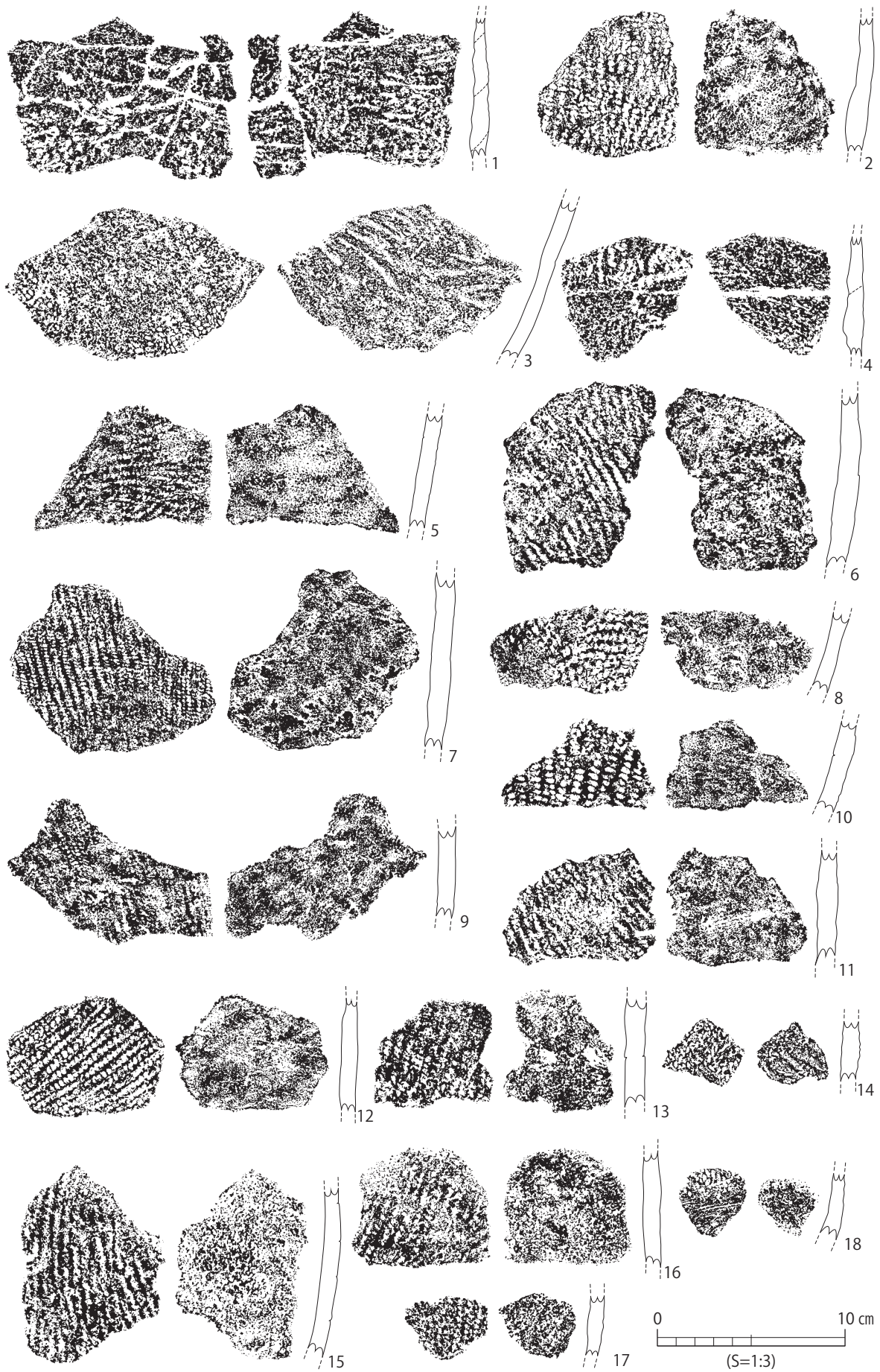
第73図1～14は内外面に二枚貝条痕を施している。1は内外面にやや粗い横方向の二枚貝条痕を施している。3・5・7も横方向の条痕、2・12は縦方向の条痕である。15は内外面無文で、内面に二枚貝条痕の痕跡がある。16は内外面にナデ調整、17は内面ナデ調整、外面は無文となっている。いずれも胎土中に繊維を含んでいる。



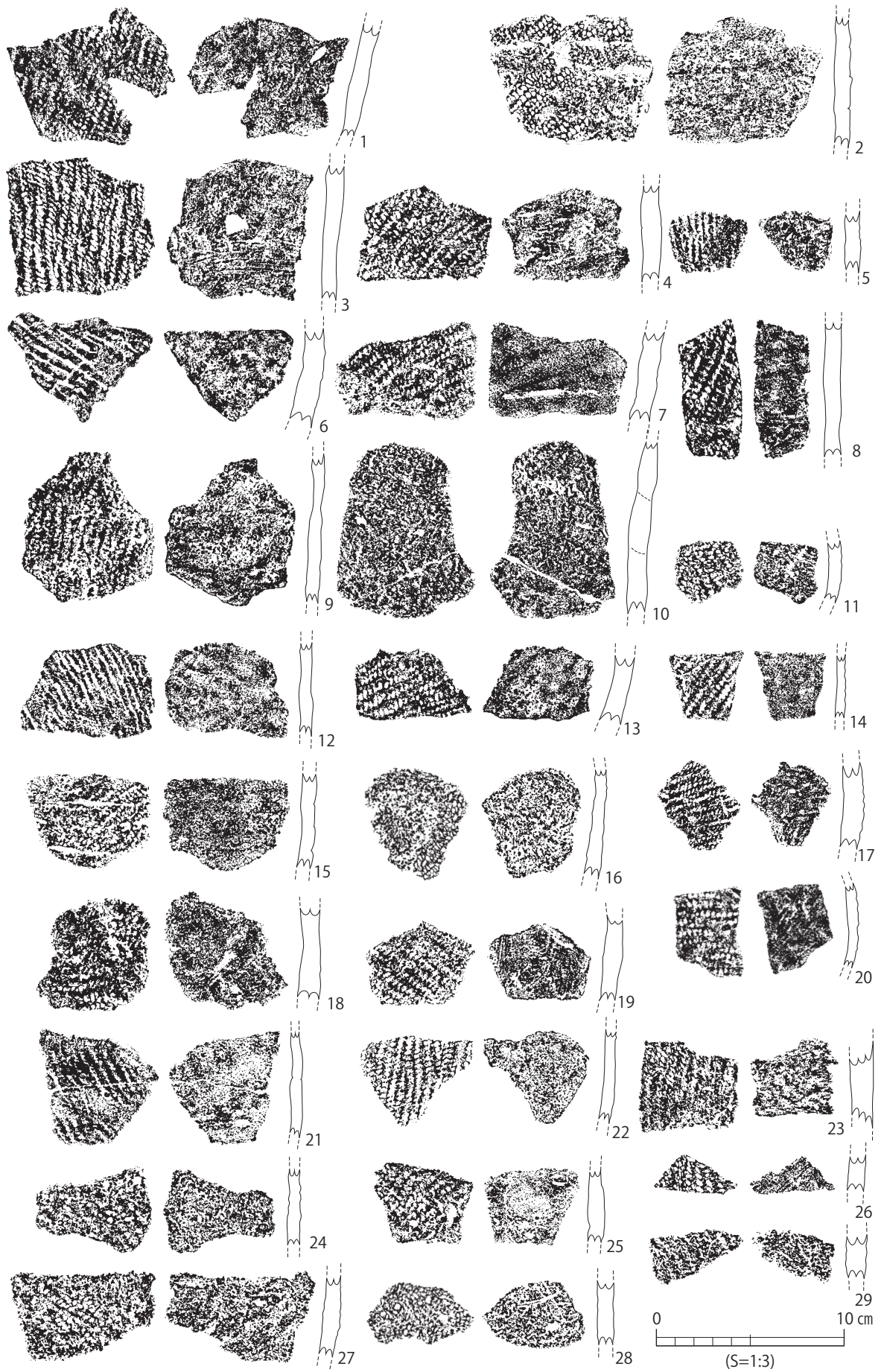
第65図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図11 (1:3)



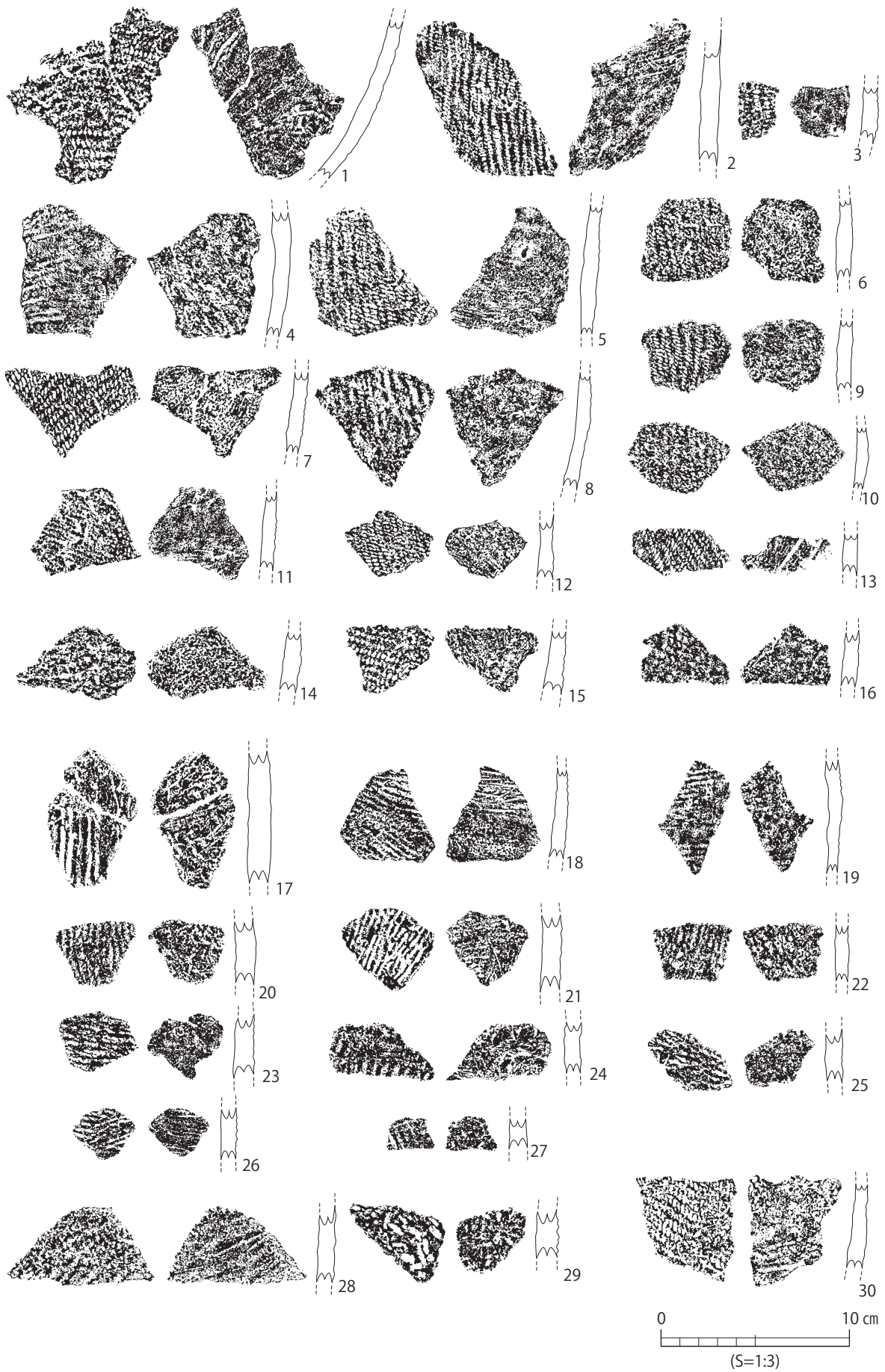
第66図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図12 (1:3)



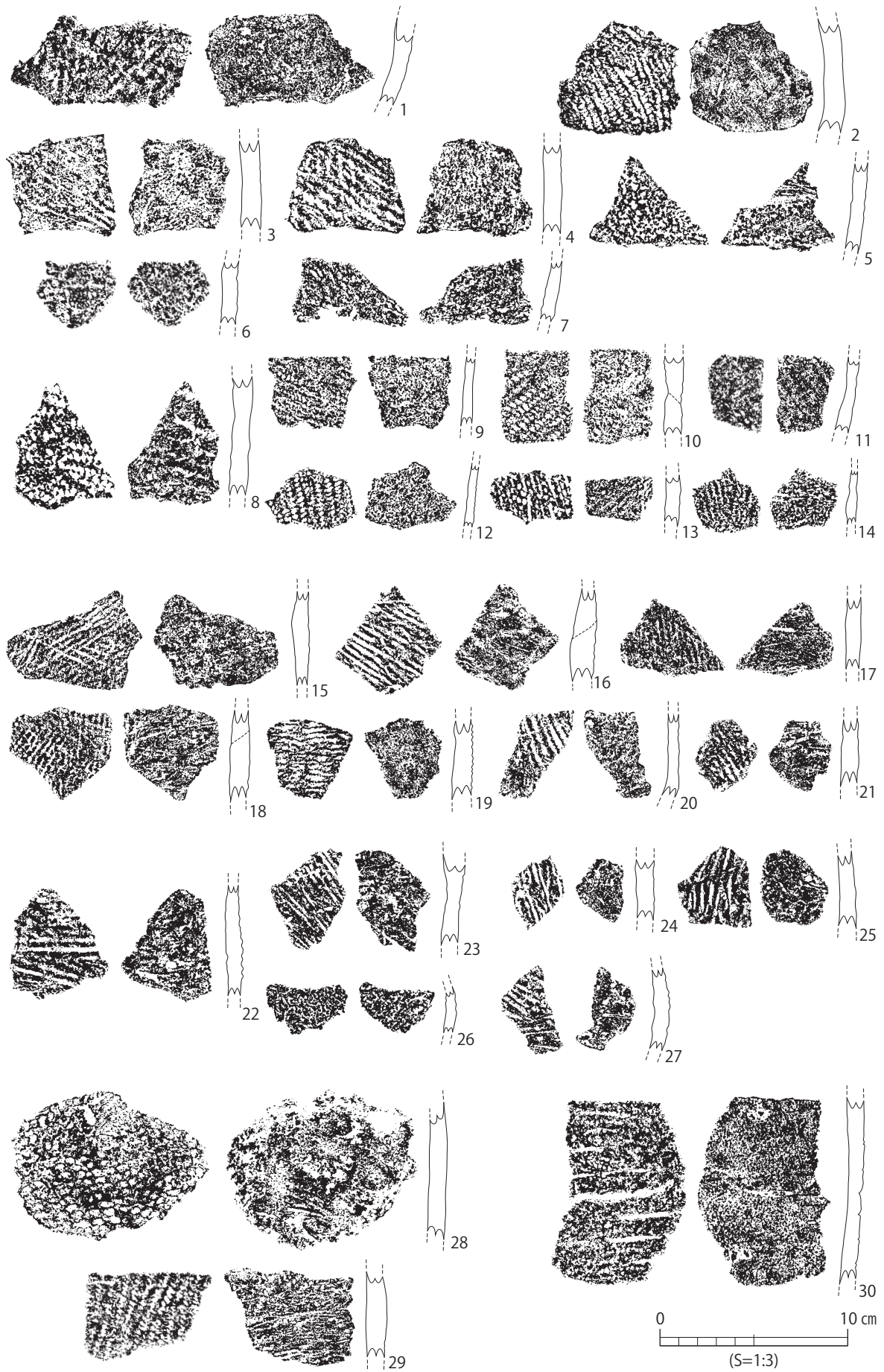
第67図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図13 (1:3)



第68図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図14 (1:3)



第69図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図15 (1:3)

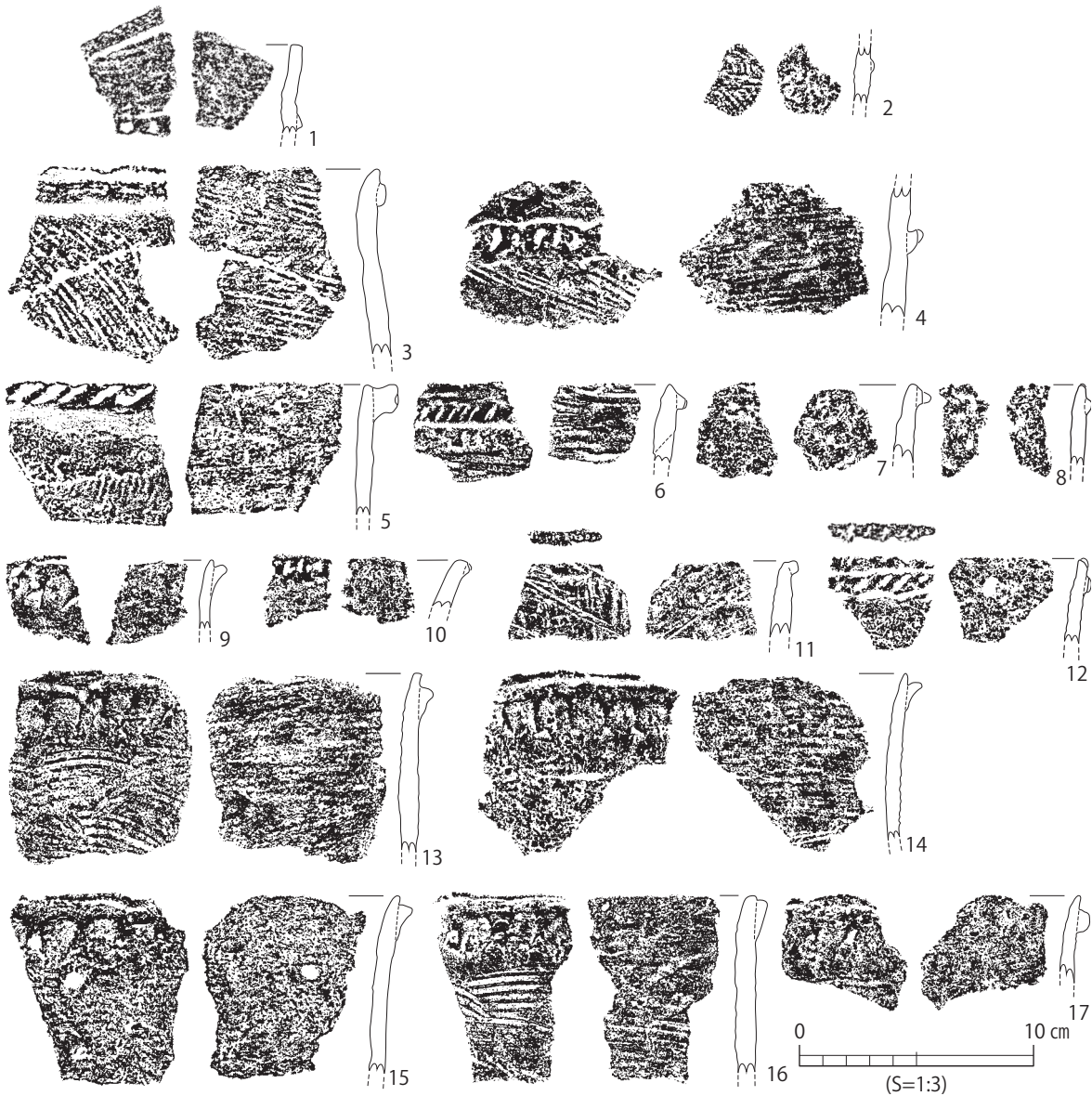


第70図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図16 (1:3)

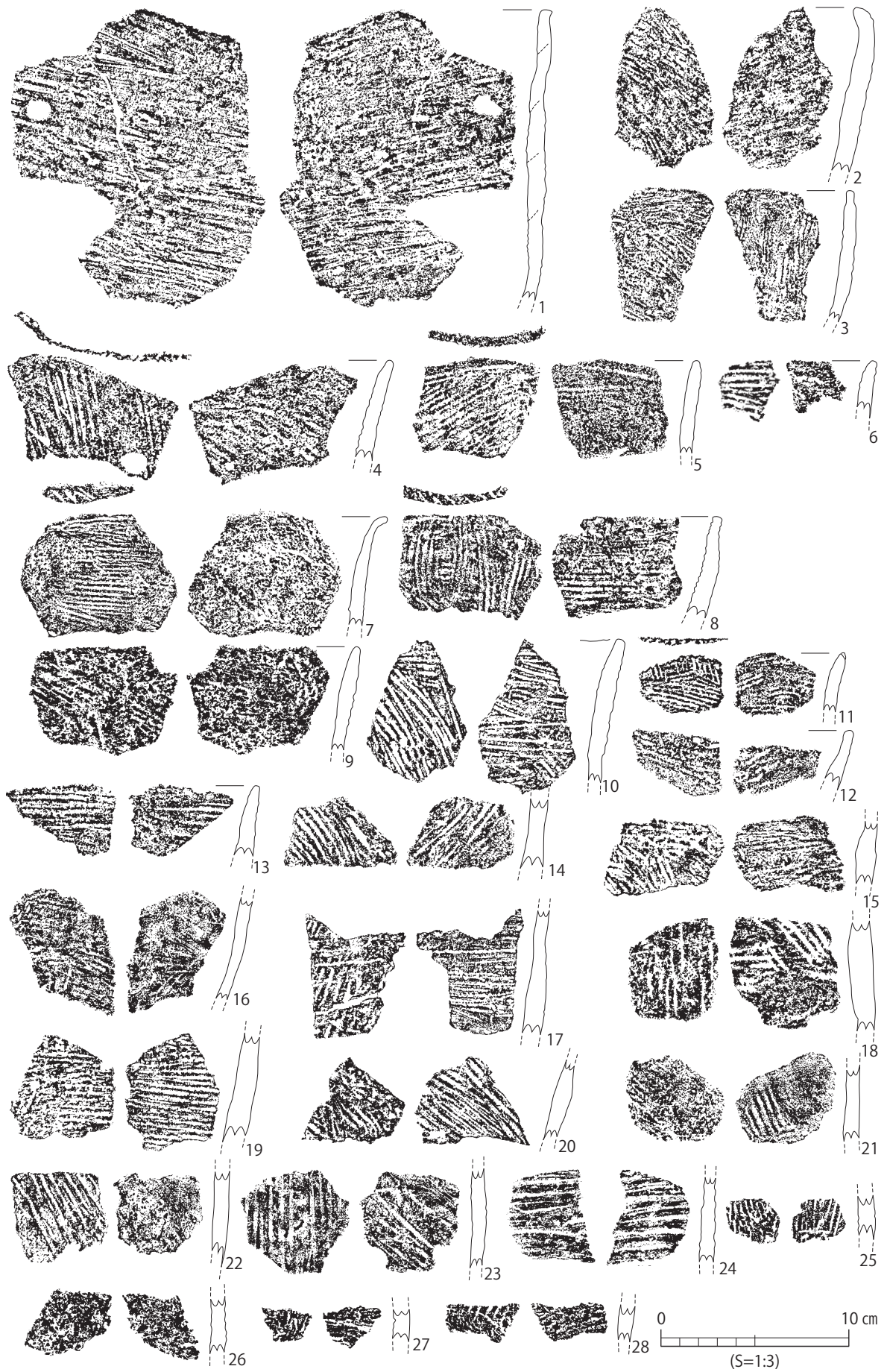
第74図は内外面に二枚貝条痕を施している。条痕の条の幅が広く、明瞭に溝が残っている。条痕の方向は、基本的に横方向が多いが、6・8・11・17のように縦方向の条痕もみられる。

第75図は内面に巻貝条痕、外面に二枚貝条痕を施している。1は浅鉢で内面に巻貝条痕、外面に二枚貝条痕を施し、体部途中で屈曲し、口縁部に向けて外反している。2～6も同様の調整である。7～16は口縁部の破片で内面がナデ調整、外面に二枚貝条痕を施している。7・8は内面がナデ調整、外面に条痕、口唇に縄文RLがみられる。9・10は内面にナデ調整、外面に条痕、口唇に刻目を有している。11は波状の口縁部で外面の条痕も湾曲して施されている。17～32は内面ナデ調整、外面二枚貝条痕を施している。26・29・30は外面の条痕が縦方向である。

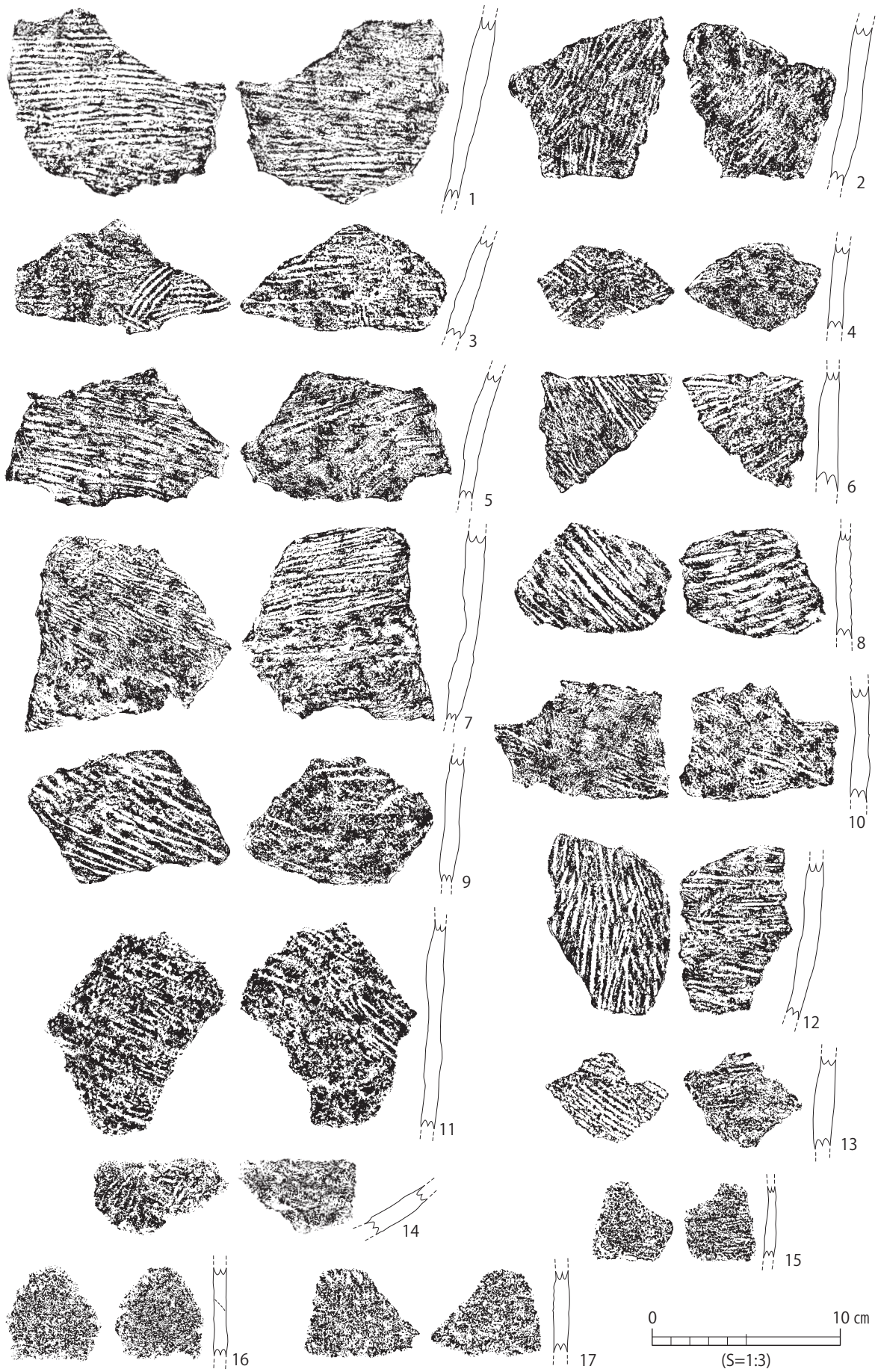
第76図は内面にナデ調整、外面に条痕を施している。1～14の外面の条痕は2・7・8以外二枚貝条痕である。15は内外面ナデ調整、16は内外面無文、17は内面ケズリ様、外面二枚貝条痕である。18～29は内面条痕、外面にナデ調整を行っている。21・27の外面は二枚貝条痕である。30は内外面にナデ調整を行っている。31～37は内面に条痕、外面は無文である。38・39は内面が条痕、外面は不明である。



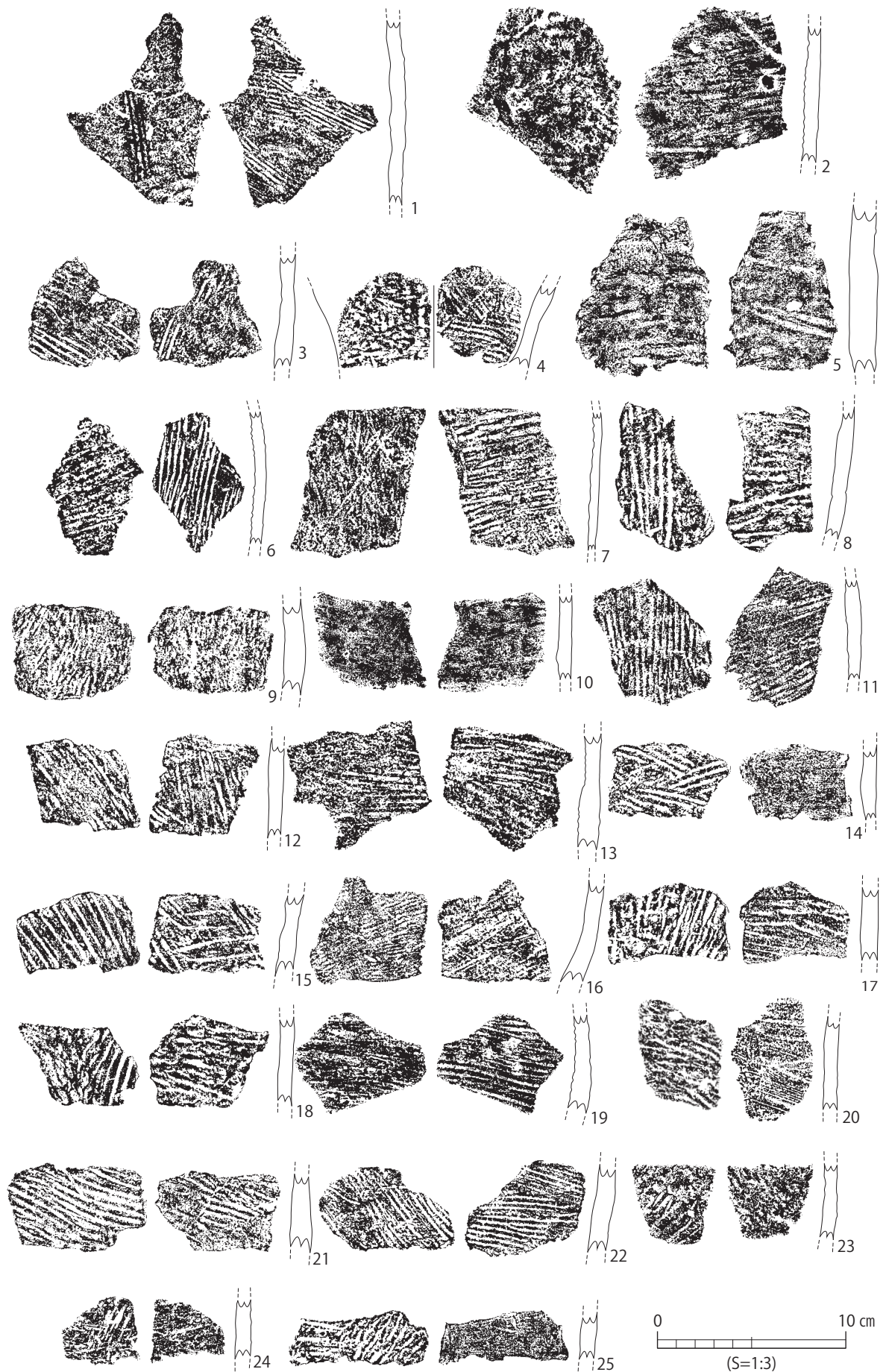
第71図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図17 (1:3)



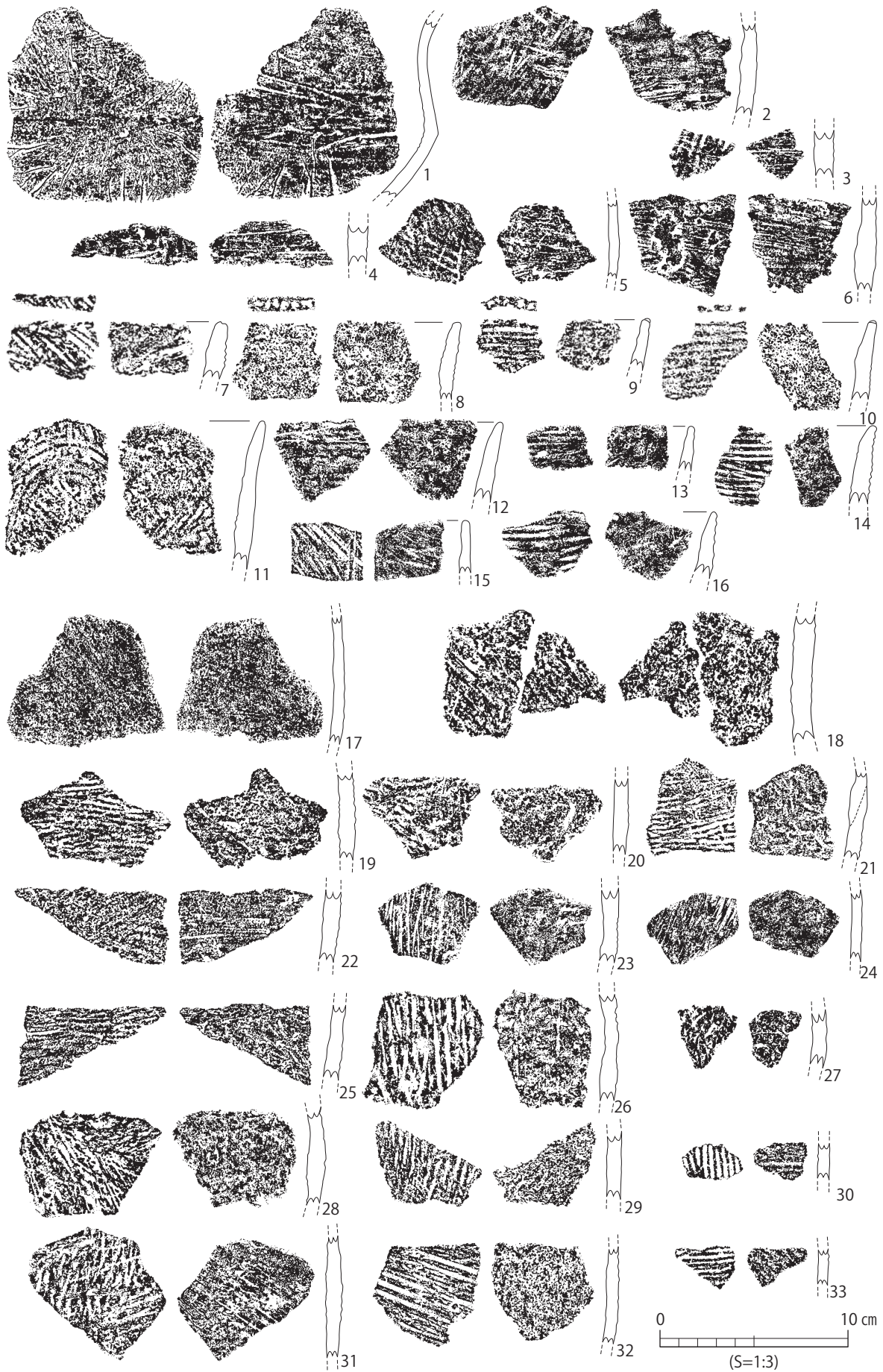
第72図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図18 (1:3)



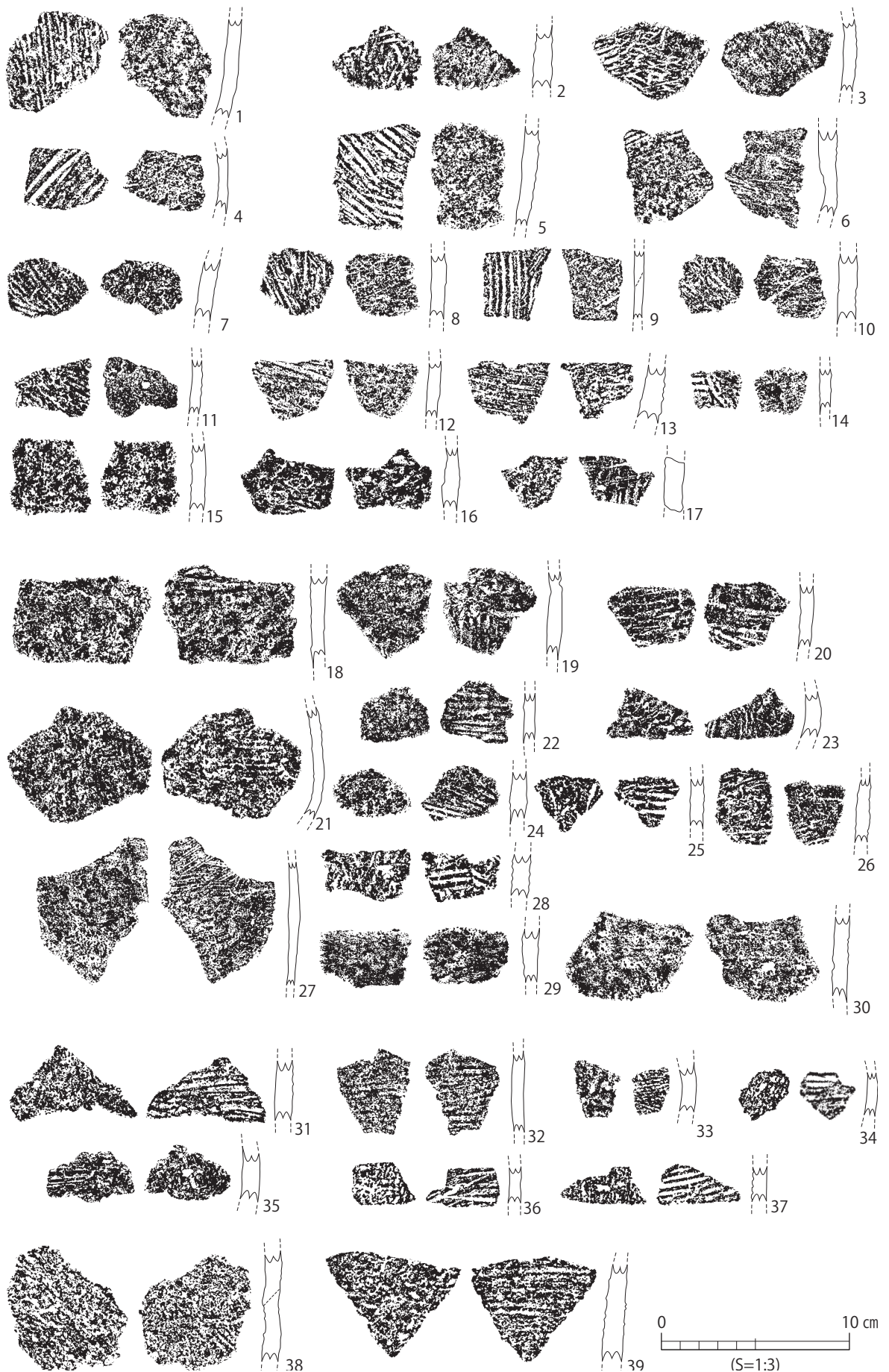
第73図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図19 (1:3)



第74図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図20 (1:3)



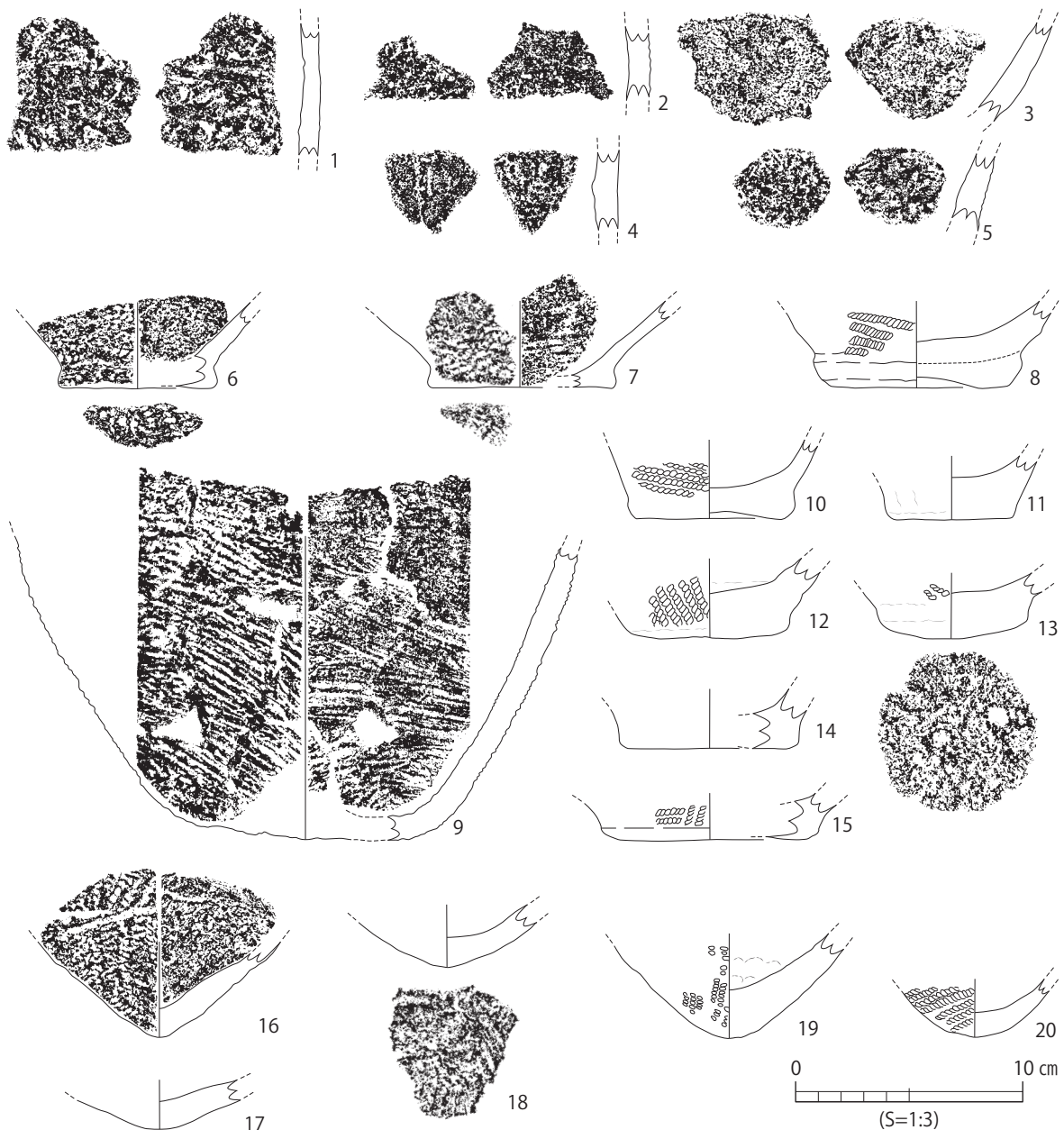
第75図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図21 (1:3)



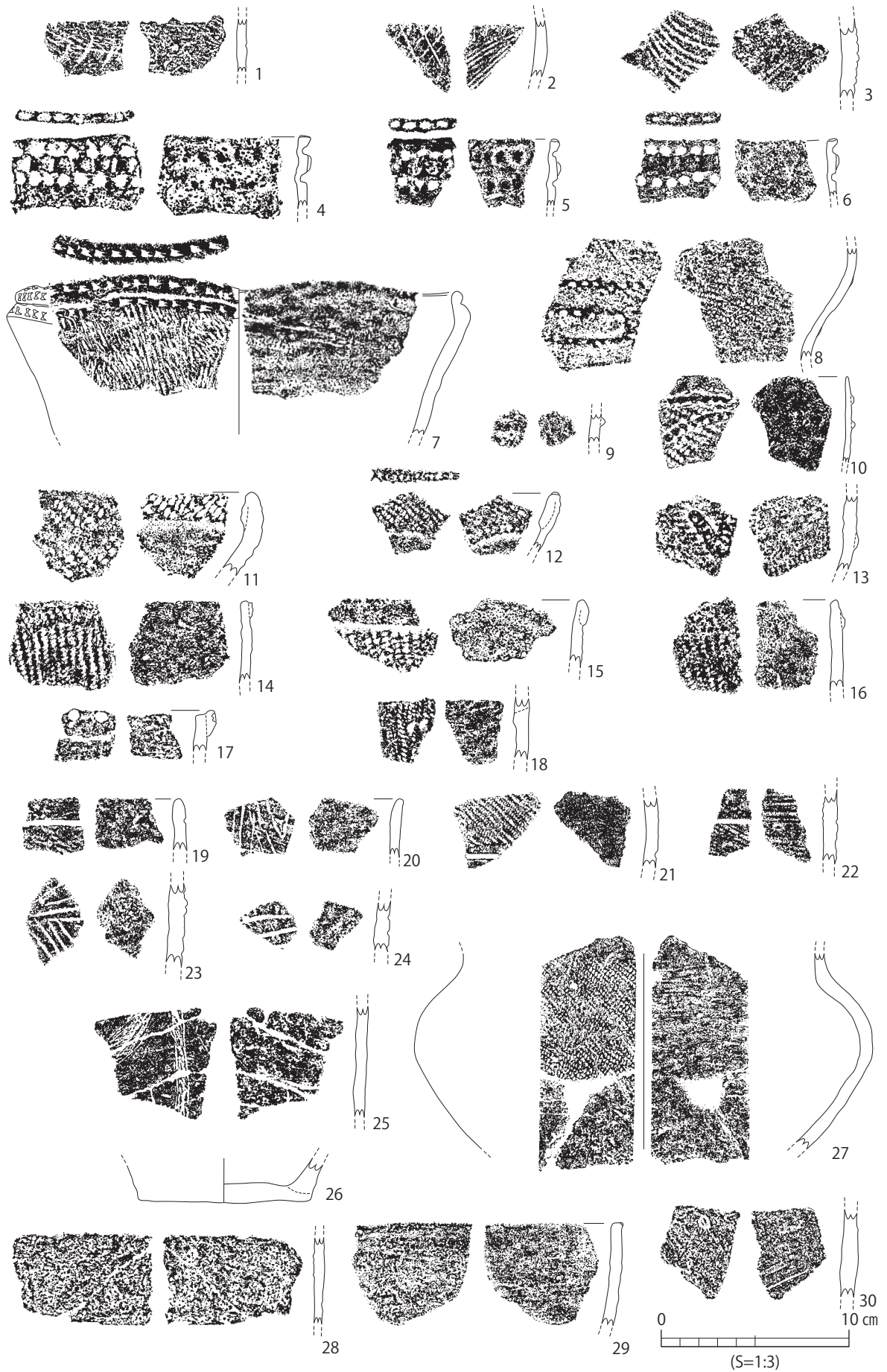
第76図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図22 (1:3)

第77図1～3・5は内外面ナデ調整、2は内面ナデ、外面無文、4は内外面無文である。6～8・10～15は平底の底部で外面に縄文LR・RLがみられ、内面に条痕、ナデを施している。菱根式相当と思われる。16～20は尖底気味の丸底で、16・19・20は外面に縄文が見られる。島大構内1次式相当と思われる。9は平丸底を呈しており、平底から丸底への過渡期を示している。

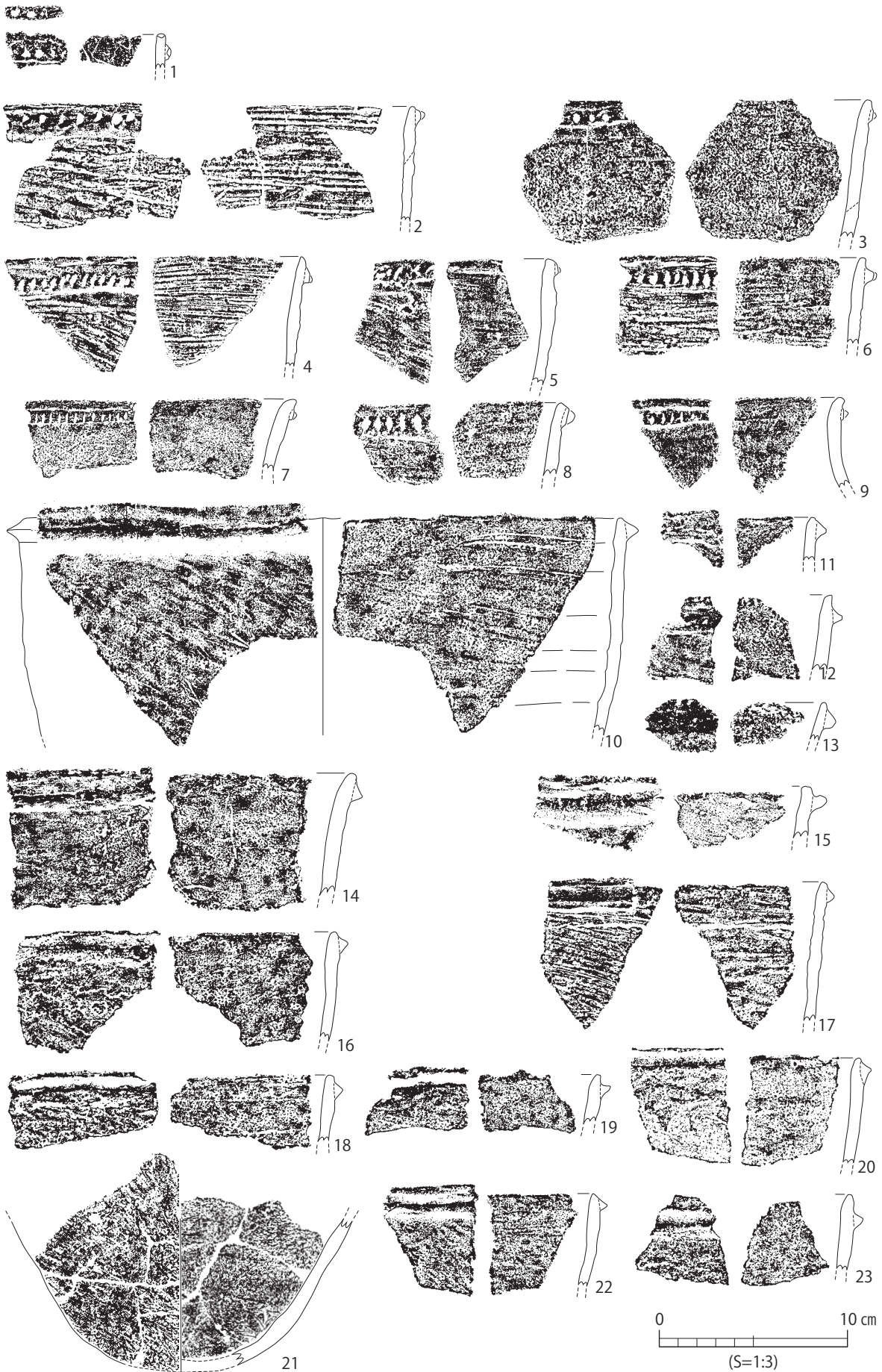
第78図1は内面ナデ調整、外面に二枚貝条痕、その上に二枚貝刺突文がみられる。長山馬籠式に類例が認められる。2は内面に二枚貝条痕、外面に斜格子の沈線文がみられる。3は内面に二枚貝条痕、外面に多条の沈線文がみられる。4～6は内面にナデ調整、外面に円形の刺突文、隆帯を持ち、口唇部に刻目が施される。縄文時代前期後葉の月崎下層式ないし彦崎Z1式相当と考えられる。7は内面にナデ調整、外面に二枚貝条痕、口縁部が内傾し、外面に沈線を挟んで刺突文が施されている。この土器は前期の終わり頃と考えられる。8は内面に条痕、外面に縄文を施し、外面に隆帯結節浮文が施文される。文様から里木I式相当と考えられる。9は内外面はナデ調整され、外面に隆帯を



第77図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図23 (1:3)



第78図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図24 (1:3)



第79図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図25 (1:3)

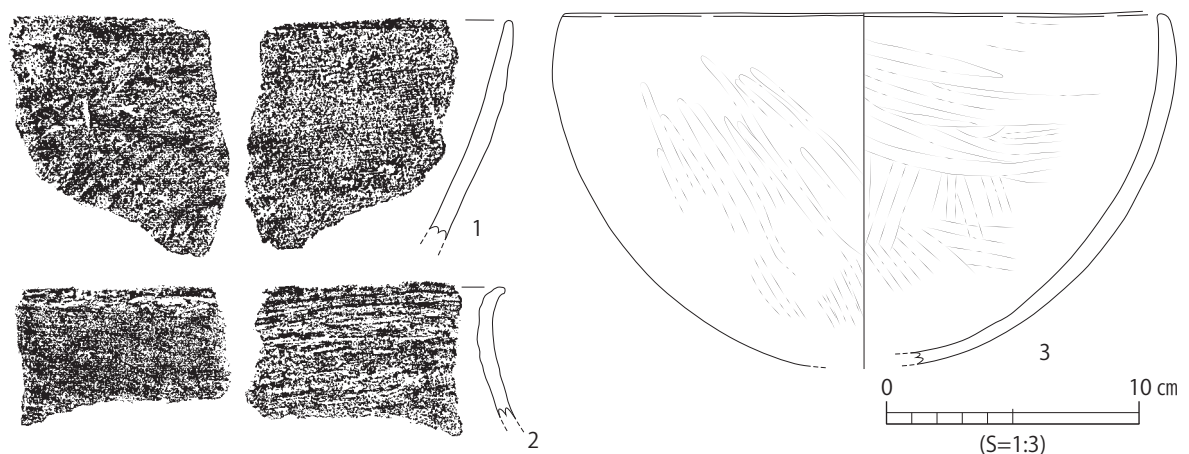
持つ。早期末~前期始め頃の土器と考えられる。10は内面がナデ調整され、外面は縄文RLが施されて二条の隆帯が貼り付けられる。北白川下層Ⅲ式相当と考えられる。11~12は口縁は内側に折り返されて縄文RLが施されており、中期の船元Ⅱ式相当と考えられる。13は外面に隆帯文が貼り付けられ縄文が施される。14~17は内面にナデ調整、外面に縄文RL・LRが施される。口縁外面に隆帯が貼り付けられることから、波子式相当と考えられる。19~25の外面には沈線文が施される。25の外面には細い線描きで沈線文が施文されるが、この文様の類例は古屋敷遺跡に認められる。27は内面にケズリとナデが併用され、外面に細かい縄文RLが施される。頸部が細く胴部が膨らむ器形と地文の組み合わせから、後期の崎ヶ鼻式相当と考えられる。28~30は内外面が無文である。いずれも縄文後期頃と考えられる。

第79図2~9は内外面の調整が二枚貝条痕、ケズリ様、ナデ調整である。口縁外面に刻目のある突帯を貼り付けており、縄文時代晩期と思われる。10~20・22・23は突帯を有し内外面の調整は条痕、ケズリ様、ナデ調整である。21は底部で外面にケズリ様、内面にナデ調整がみられる。これらも縄文時代晩期である。第80図1~3は晩期の浅鉢で、3は内外面にミガキが施される。第79図の出土遺物は層位を礫2層としているが、これらは礫2層中の上位に位置することから礫1層と混入した可能性がある。

第81・82図の土器の出土層位は砂層である。1は浅鉢で体部中央に凹線状にくぼみがあり、口縁部にかけて丁寧なナデの後に線描の文様がみられる。宮滝式相当と考えられる。2は体部が屈曲する浅鉢で、内外面には丁寧にミガキが施される。2~4は後期末~晩期初頭にかけての時期と考えられる。5~19は突帯文土器である。5~7は口唇と突帯、8~19は突帯に刻目を有する。

第82図1・2は突帯文土器であり、突帯上に沈線が入る。3~12は突帯の断面が三角形を呈した突帯文土器であり、刻目はつかない。16~18は浅鉢である。19は扁平な舟形土器である。20は皿状を呈する形態であり、口径51cm、器高5cmを計測する。一对の円形の穴が穿られ、口縁部に突起状の高まりがみられる。第83図3は深鉢で口縁が波状で内外面にミガキが施される。黒川式相当と考えられる。5・7は内外面に条痕、口縁端部に刻目を有している。前池式相当と考えられる。9~24は突帯文土器である。9~11は口唇と突帯、12~16は突帯に刻目がある。

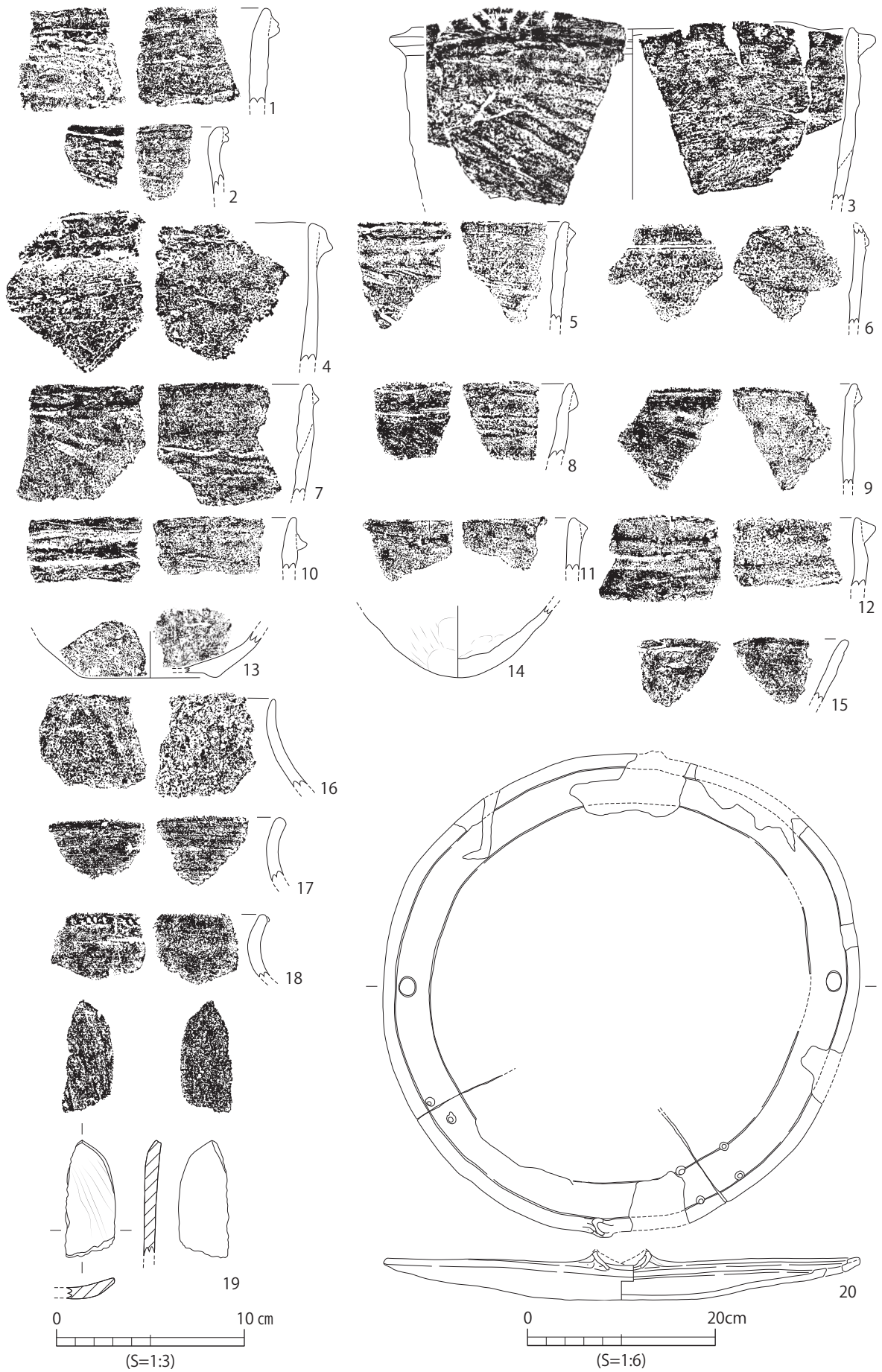
第84~87図は礫1層から出土した土器である。第84図10は口唇部から口縁部外帯に縄文LRが施されており、船元式相当と考えられる。11・12・15・16は口唇に刻目、13・14は体部に刺突



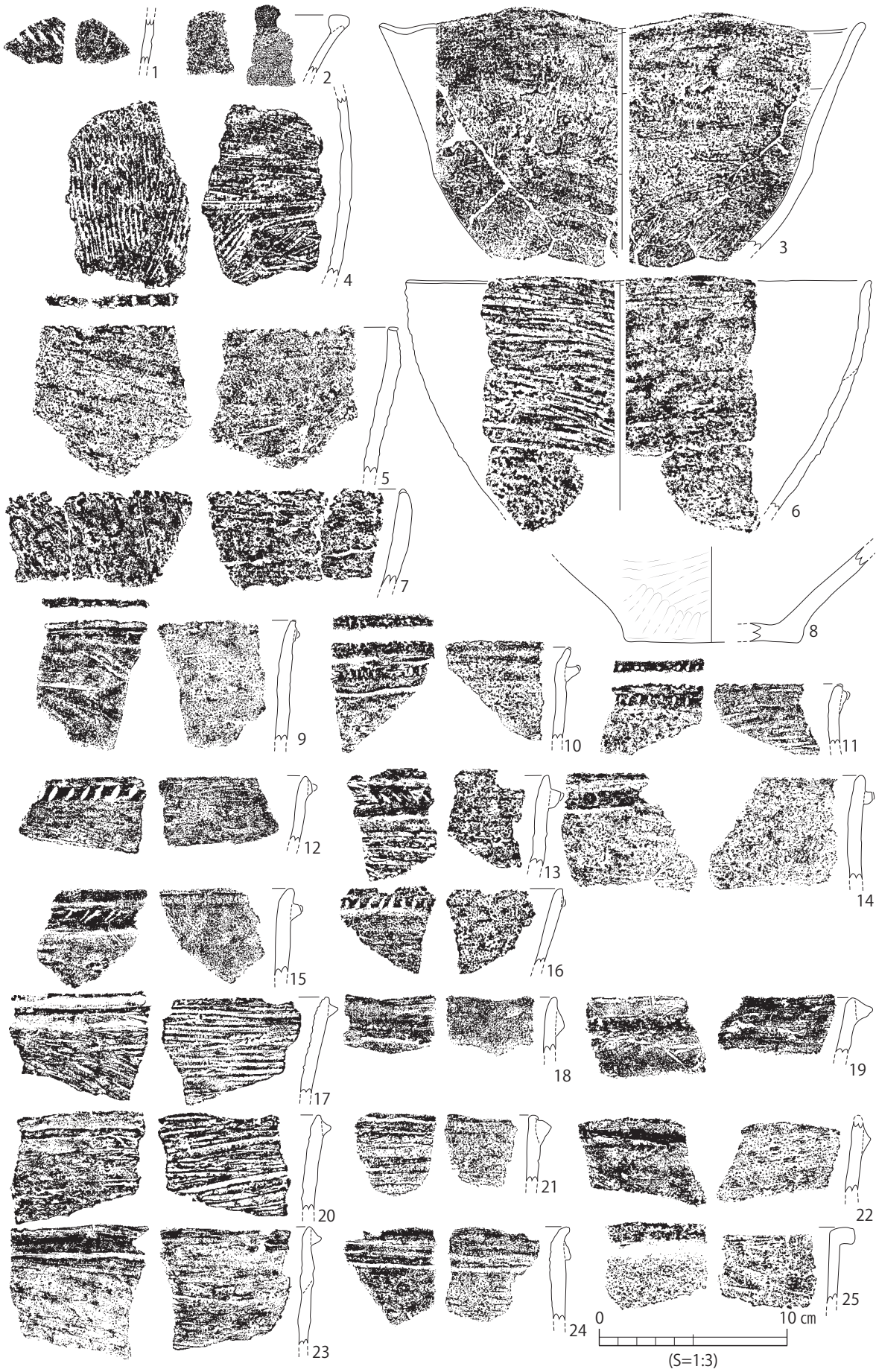
第80図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図26 (1:3)



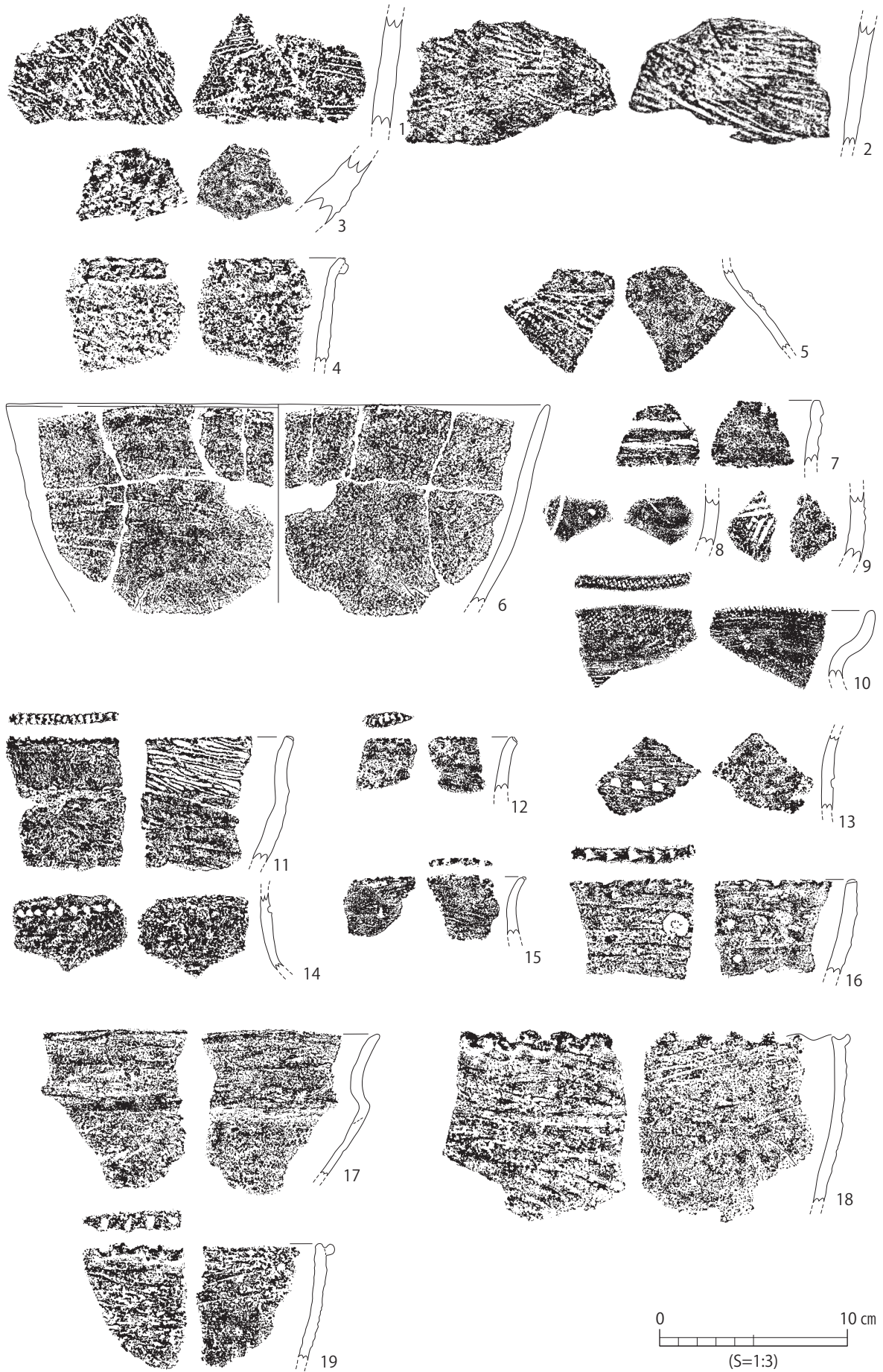
第81図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図27 (1:3)



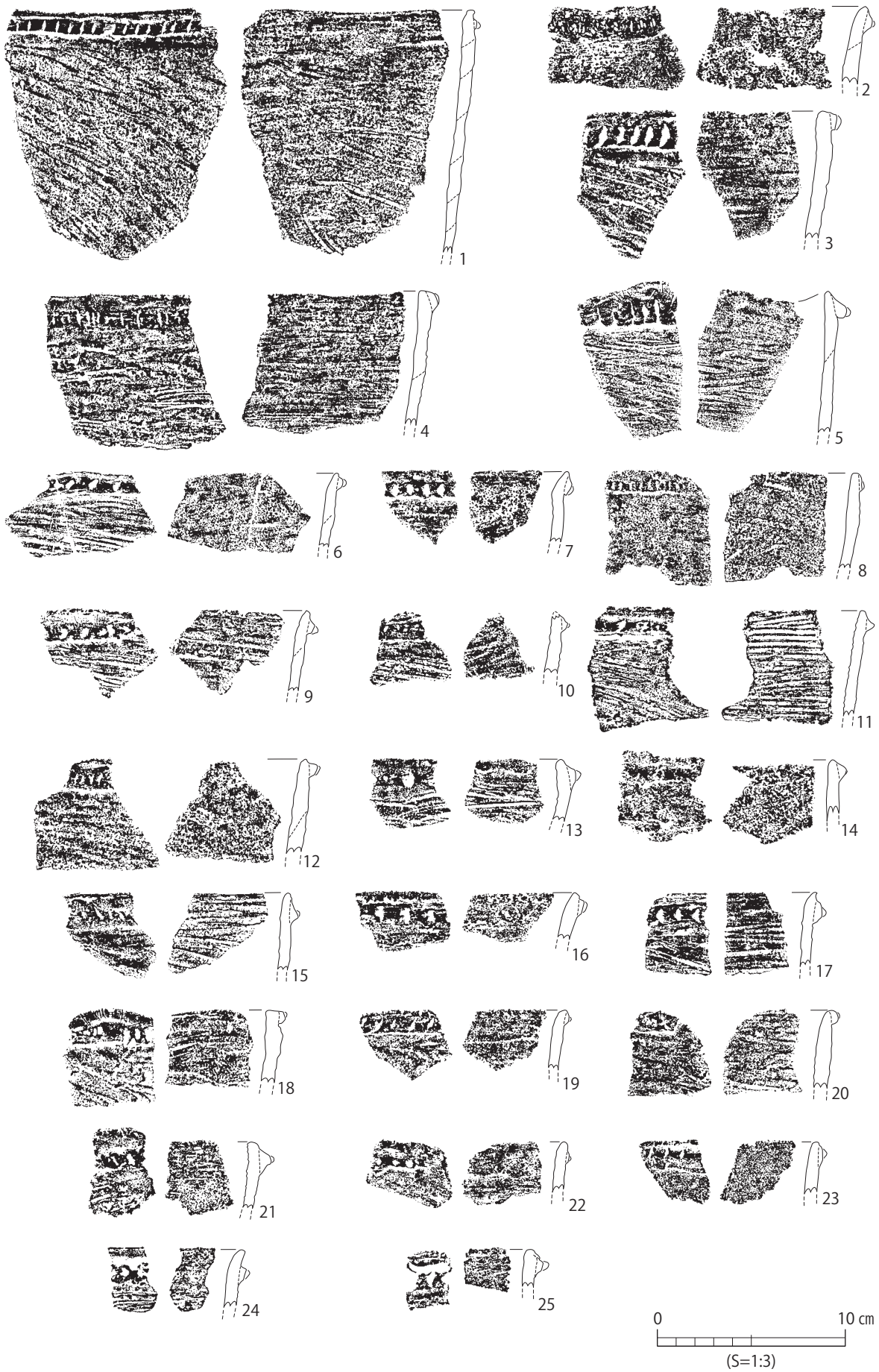
第82図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図28 (1:3) (1:6)



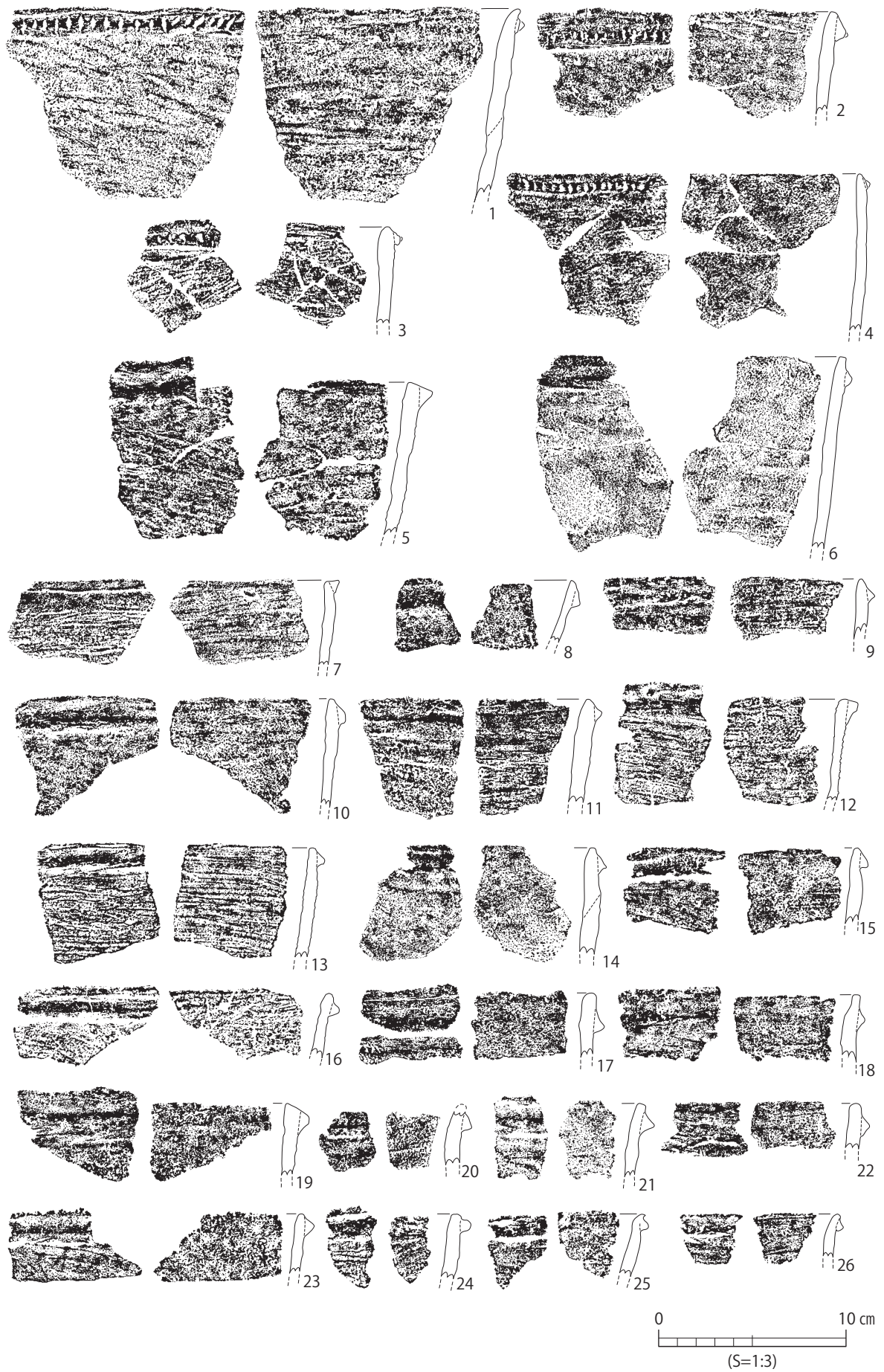
第83図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図29 (1:3)



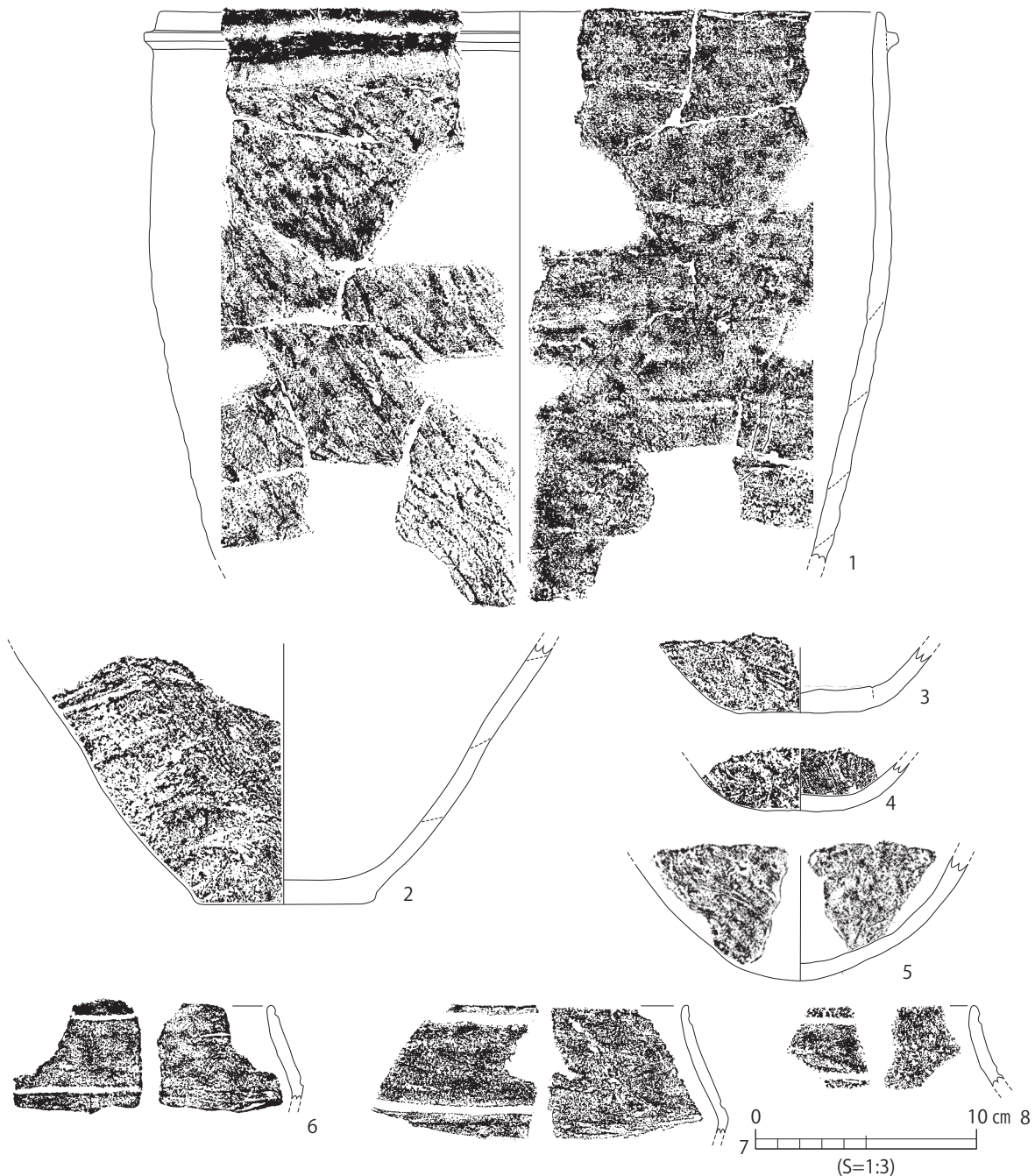
第84図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図30 (1:3)



第85図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図31 (1:3)



第86図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図32 (1:3)



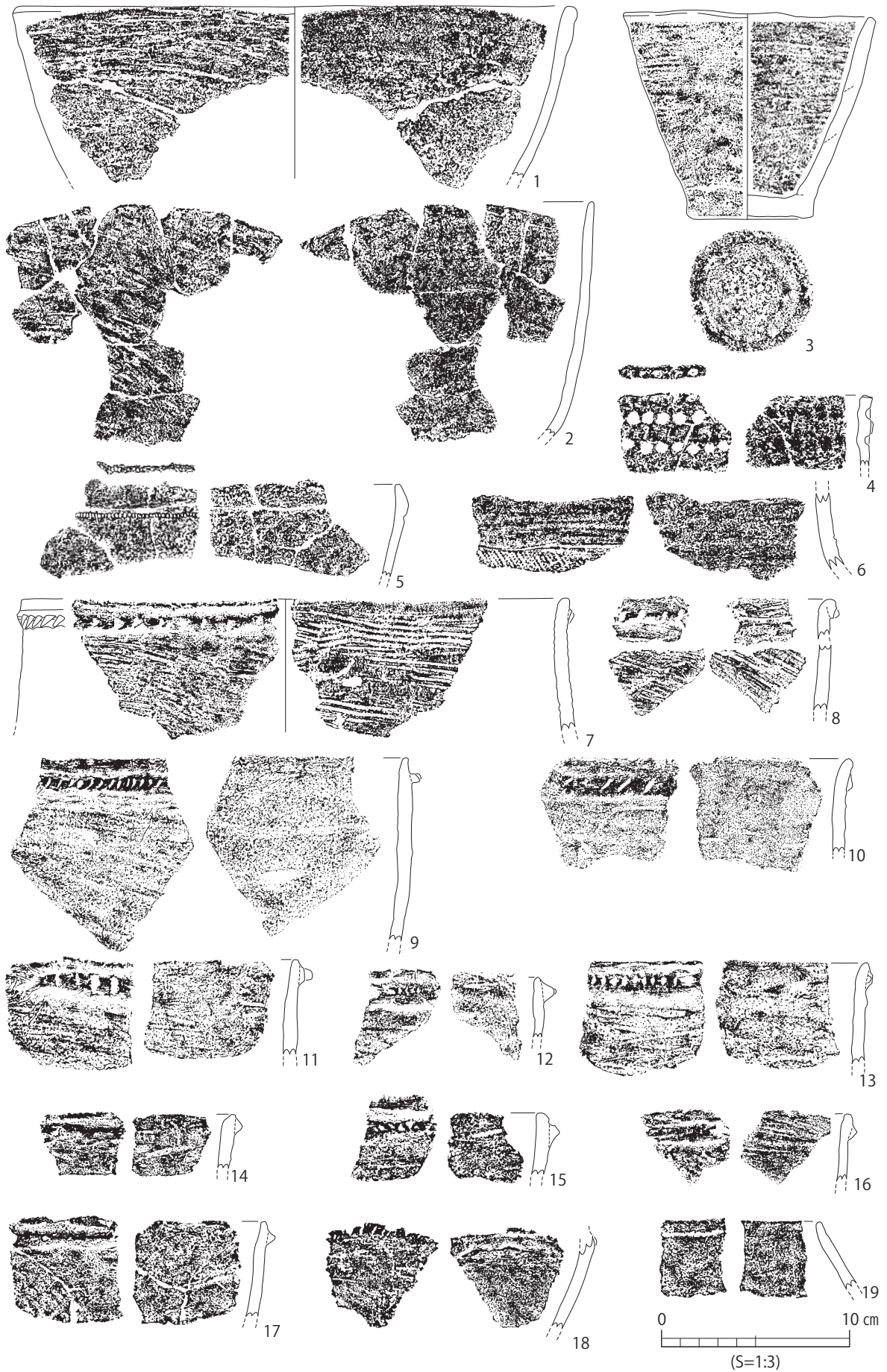
第87図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図33 (1:3)

文、18・19は口縁部に波状の突帯文を有している。これらの特徴から前池式相当と考えられる。

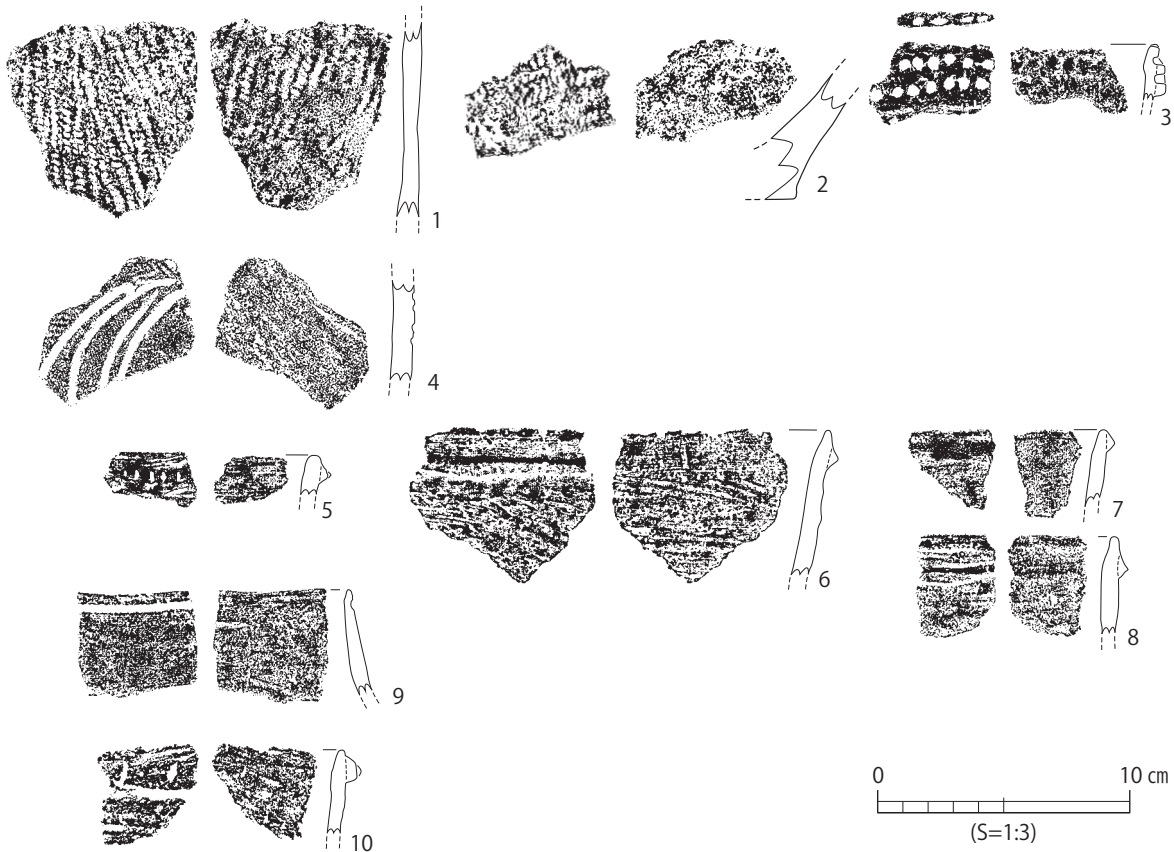
第85・第86図は突帯を伴う深鉢である。第85・86図1～4は突帯上に刻目を伴う。

第87図1は突帯を伴う深鉢で、突帯上に刻目がある。体部の下半に粘痕が確認できる(図版51)。同2～5は深鉢の底部、同6～8は浅鉢の口縁部である。

第88～第89図は砂礫層、暗灰褐色粘質土層から出土した縄文土器であり各時期が混入している。第88図3は小形の鉢でほぼ完形である。第88図4・第89図3は隆帯を挟んで二列の円形刺突文が施され、月崎下層式/彦崎Z1式相当と思われる。第88図5・6は小さい縄文を施す精緻なつくりから沖丈式相当と考えられる。第89図1・2は内外面に縄文があり胎土中に繊維を含む。第89図4は外面に擦り消し縄文がみられる。第88図7～17・第89図5～8・10は突帯文を伴う深鉢、第88図19・第89図9は浅鉢であり、いずれも晩期と思われる。



第88図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図34 (1:3)



第89図 シコノ谷遺跡 B区出土土器実測図35 (1:3)

石器

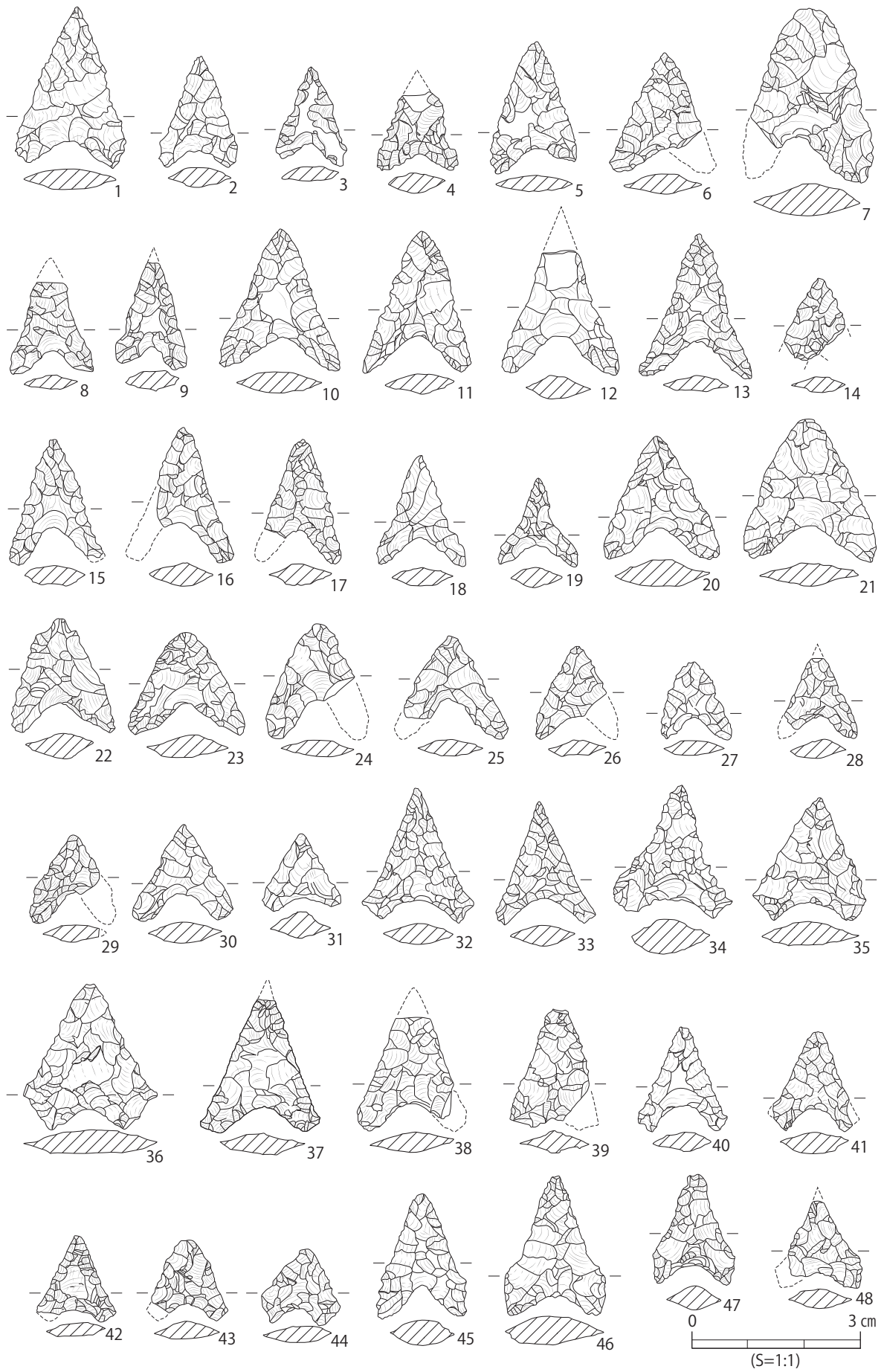
石器は礫2層・礫1層・砂層から出土しており、大部分が縄文時代、一部に弥生時代のものが含まれている。石器の器種は、主に黒曜石で石核、石鏃、周縁加工石器、尖頭器状石器、RF、使用痕ある剥片、石錐が確認され、打製石斧、磨製石斧、砥石、磨石、台石、石錘、石包丁である。

石鏃は、製品が108点（安山岩12点）で実測した点数75点、未成品33点（未実測）である。形態により逆V字形で茎先端が尖るものと平坦なもの、平基形、周辺剥離、突起形の4つに分類している。

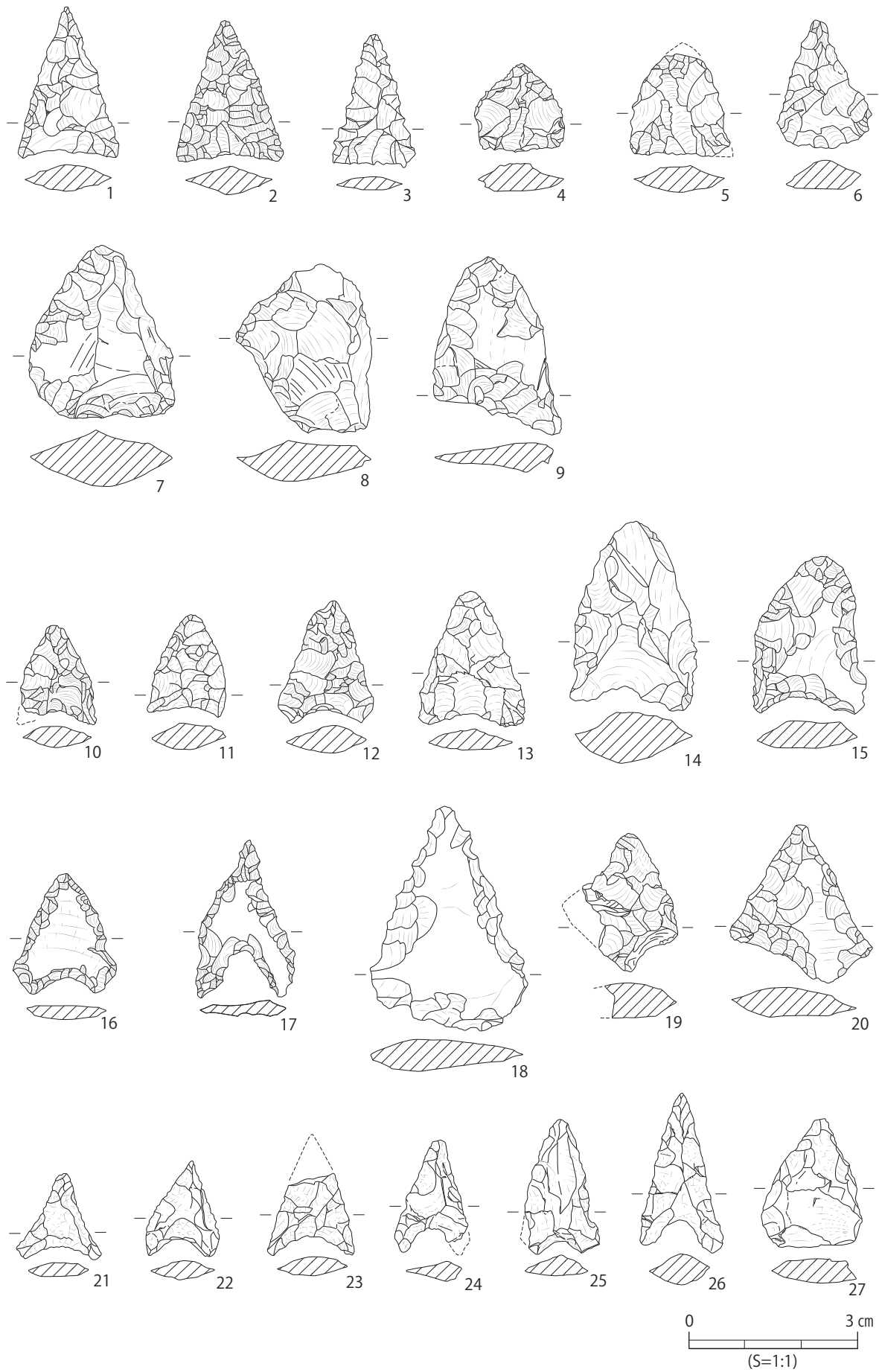
第90図は逆V字形で1～22は全長に対して茎が短いものである。23～30は全長と茎の比率が1対1に近くなる。32～44は茎の先端が切り取られたようになり、45～48は茎両端が平行になるような形態である。第91図1～15は基部が平坦な形態であり、平基形としている。10～15は基部がやや湾曲している。7～9・14・15は大型のものである。16～18は剥片のもので周囲のみ剥離がみられる。18は珪質岩製の大型品である。第91図19・20は基部に突起がある。第90図40・21～27は安山岩製のものである。逆V字で27のみ平基である。

石核は1～10が黒曜石、11・12が珪質岩である。黒曜石は5を除いていずれも下層礫層、10・11は砂層、上層礫層からの出土である。

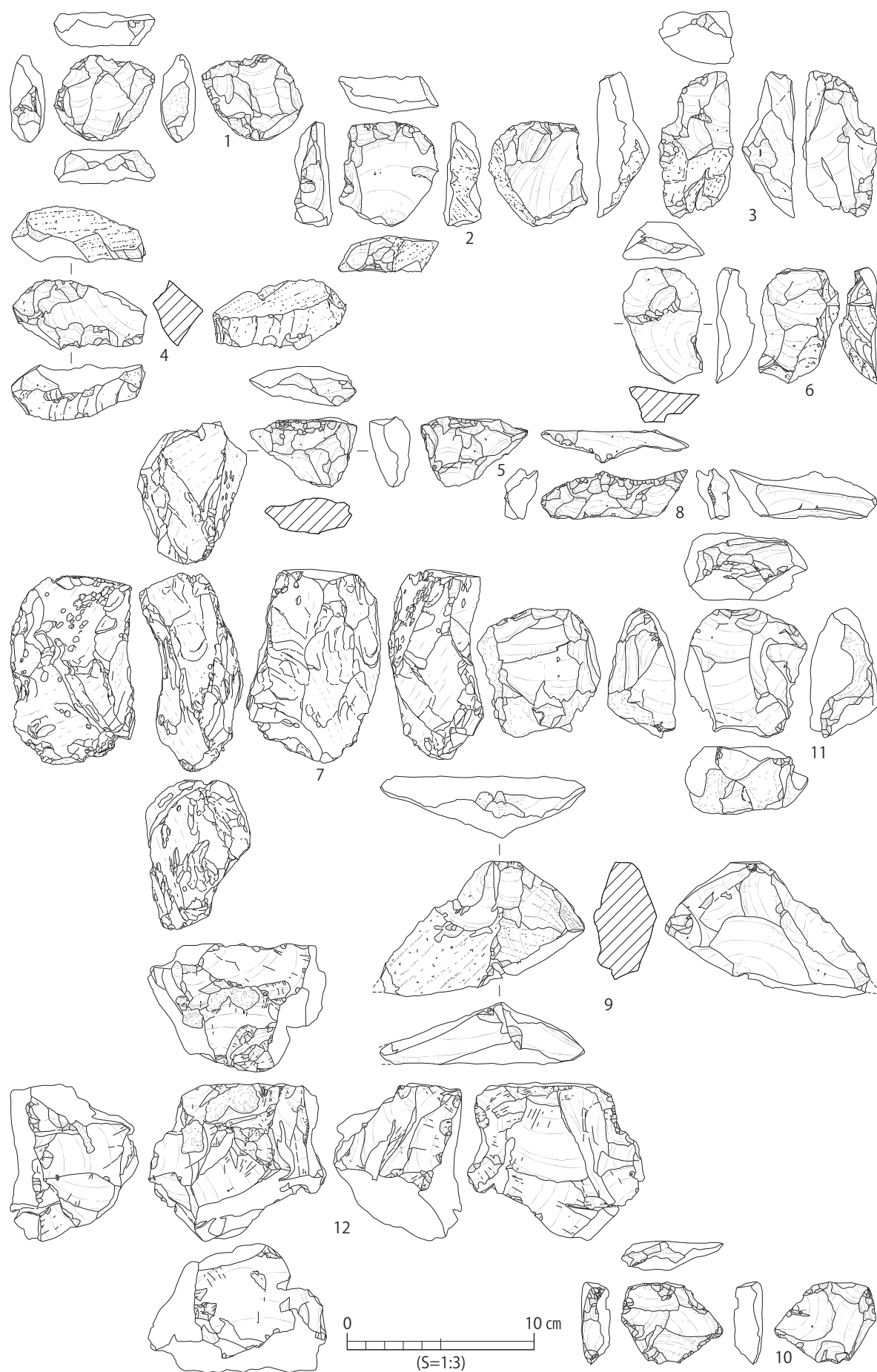
第93図1～5は石匙である。いずれも部分的に欠損しているが、刃部に使用痕が認められる。6～13は、楔形石器である。いずれも上下に使用痕と思われる敲いた痕跡が残っている。14～21がスクレーパーで14・16・18・21の側面刃部に使用痕が認められる。22～26はエンドスクレーパーで下部に刃部があり、使用痕が残っている。22・23は刃部が弧状に湾曲し、24～26は平坦である。第94図1～8は周縁加工石器で、形態が円形に近いもので周囲に刃部が加工されている。



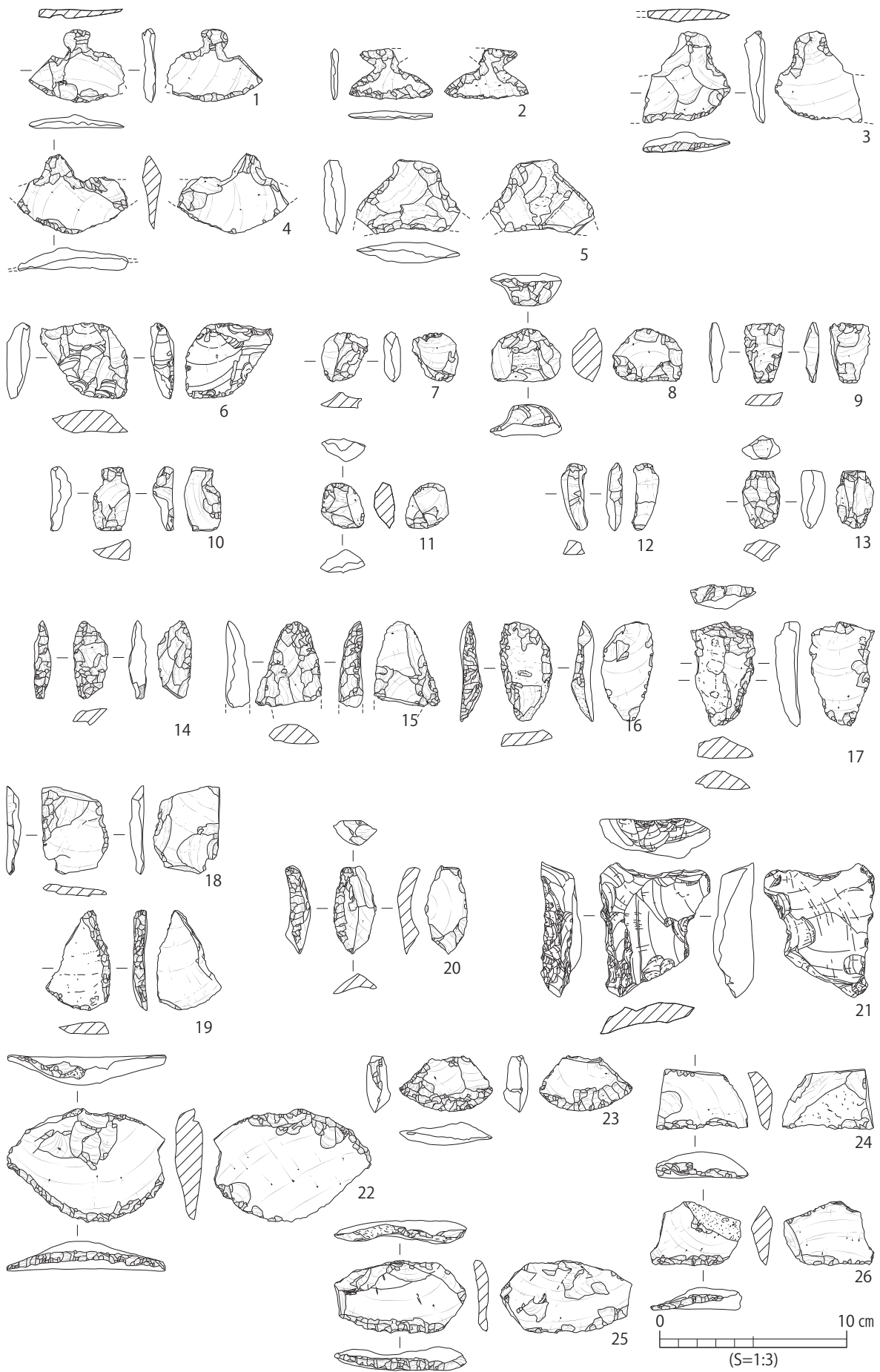
第90図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図1 (1:1)



第91図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図2 (1:1)



第92図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図3 (1:3)



第93図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図4 (1:3)

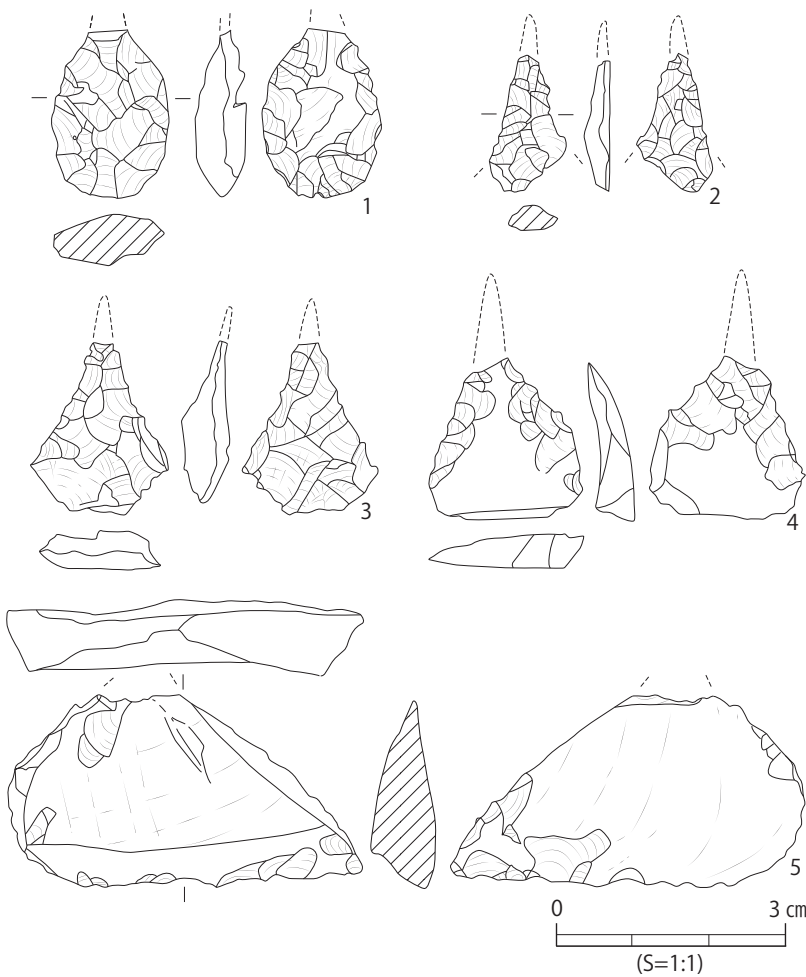


第94図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図5 (1:3)

9～11は尖頭器状石器である。10は断面に厚みがあり加工途中の可能性もある。12～17は加工痕のある剥片である。18～24は使用痕のある剥片である。第95図1～5は石錐でいずれも刃部が欠損している。

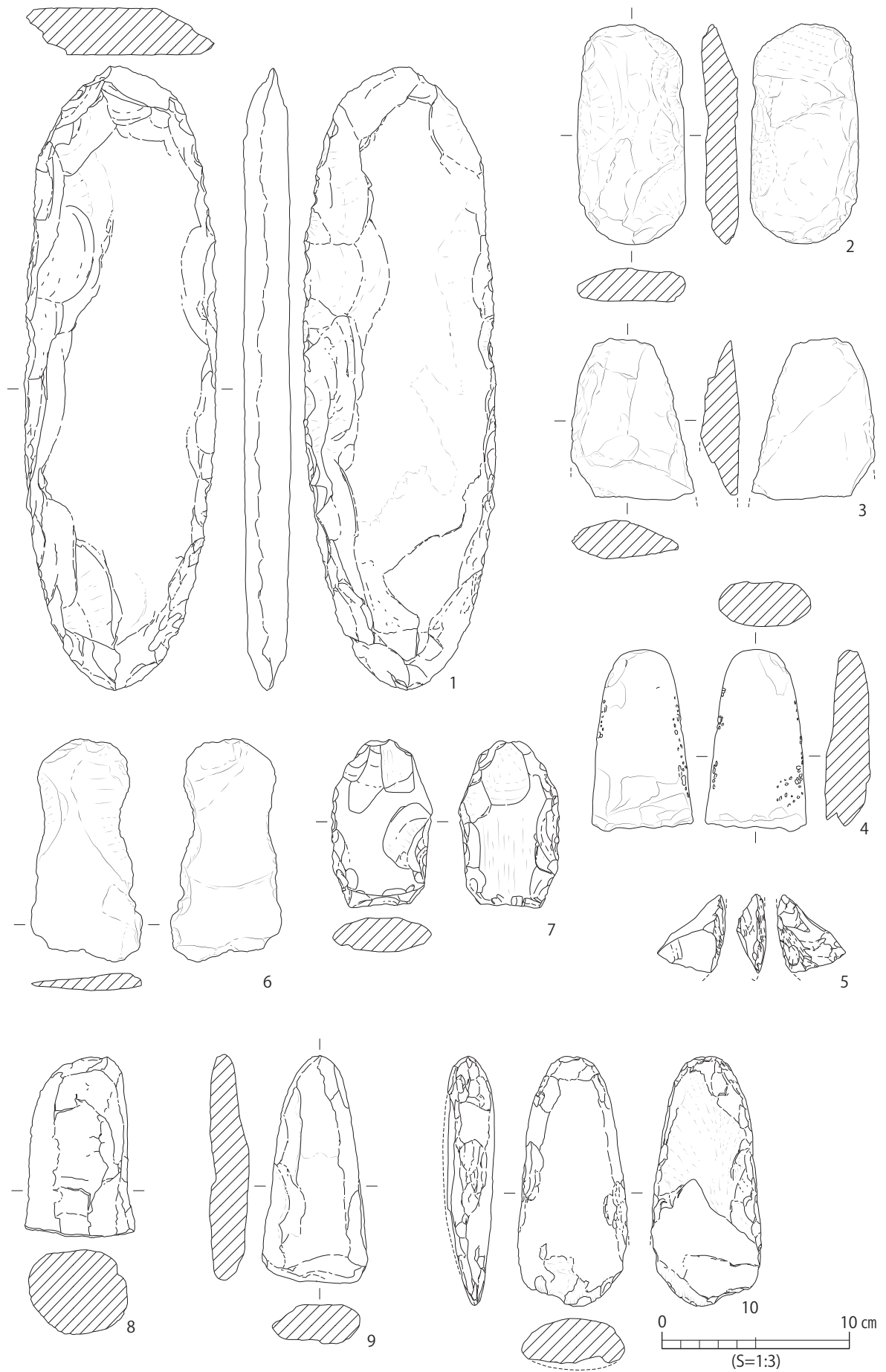
第96図は石斧である。1は大型の打製石斧で長さ33.2cm、幅10.2cmを測る。断面が平坦で周囲に刃部が加工されている。重量1405.0gの大型品であり、刃部をはじめ全体的に使用の痕跡も認められないことから、実用的なものでは無い可能性もある。2は打製石斧で刃部が丸く加工されている。3は打製石斧の頭部の破片である。6・7・9も打製石斧で9は表面の風化が著しい。4・5・10は磨製石斧である。4は刃部が欠損し、5は刃部の一部、10は使用により剥離し、全体的に表面が細かく剥離している。いずれも使用の際に欠損したものと思われる。8は石斧の未完成品で加工途中で折れたものと思われる。

第97図1は磨製石斧の未完成品で刃部にかけての破片で片面に礫皮面が残っている。2は磨製石斧の未完成品で頂部にかけての破片で両側面に礫皮面が残っている。3は磨製石斧の頂部の破片、断面が楕円形になっている。4は磨製石斧の刃部先端が使用により欠損している。5は砥石で両面が使用により平坦となっており、周囲が欠損しており全形は不明である。6は緑色凝灰岩で両側面が使用により平坦となっており、剥離により厚みが不明である。7は砥石で顔面が長方形で、側面がかなり平坦となっている。8も砥石で4面が使用により平坦となっている。9も砥石で割れており、3面に使用が認められる。

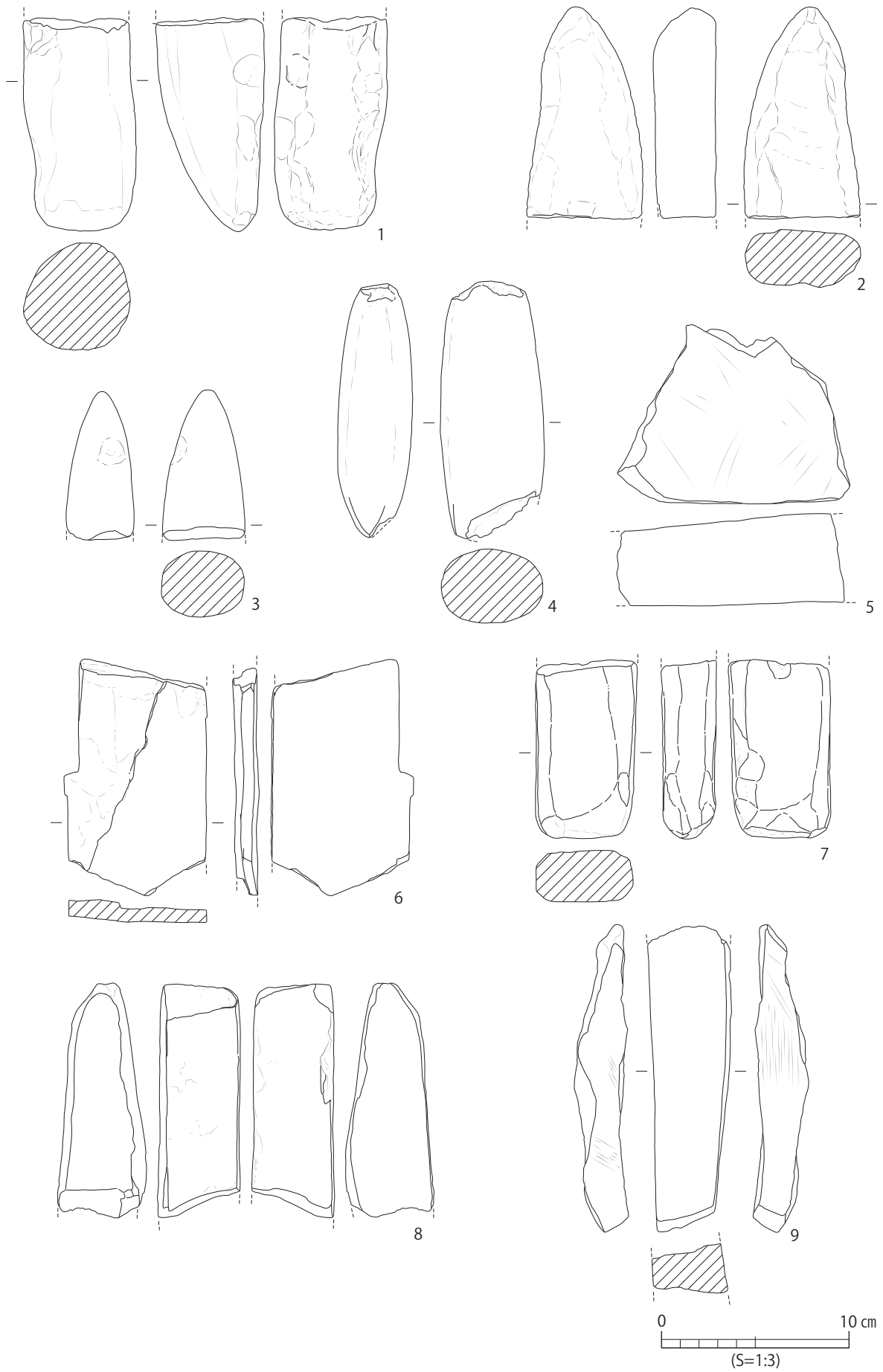


第98図は磨石である。1はやや大形で3面が平坦で、断面が3角形である。2は敲き石で下端に敲打により凹凸がみられる。手で握り打ち付けるのに適した大きさである。5は敲き石で両側面の中央と周縁に叩打の痕がみられる。掌に収まる大きさである。4は全体的に磨滅しており、両端に叩打の痕跡が残っている。5は両面が磨滅し平坦となり、両端と片方の縁に叩打痕が残る。6は両面と周囲に叩打痕がみられ、全体的に磨滅しており磨り石としても使用され、片手で握れる大きさである。7は両面に磨滅した敲打痕がみられ、石質がざらつくものの

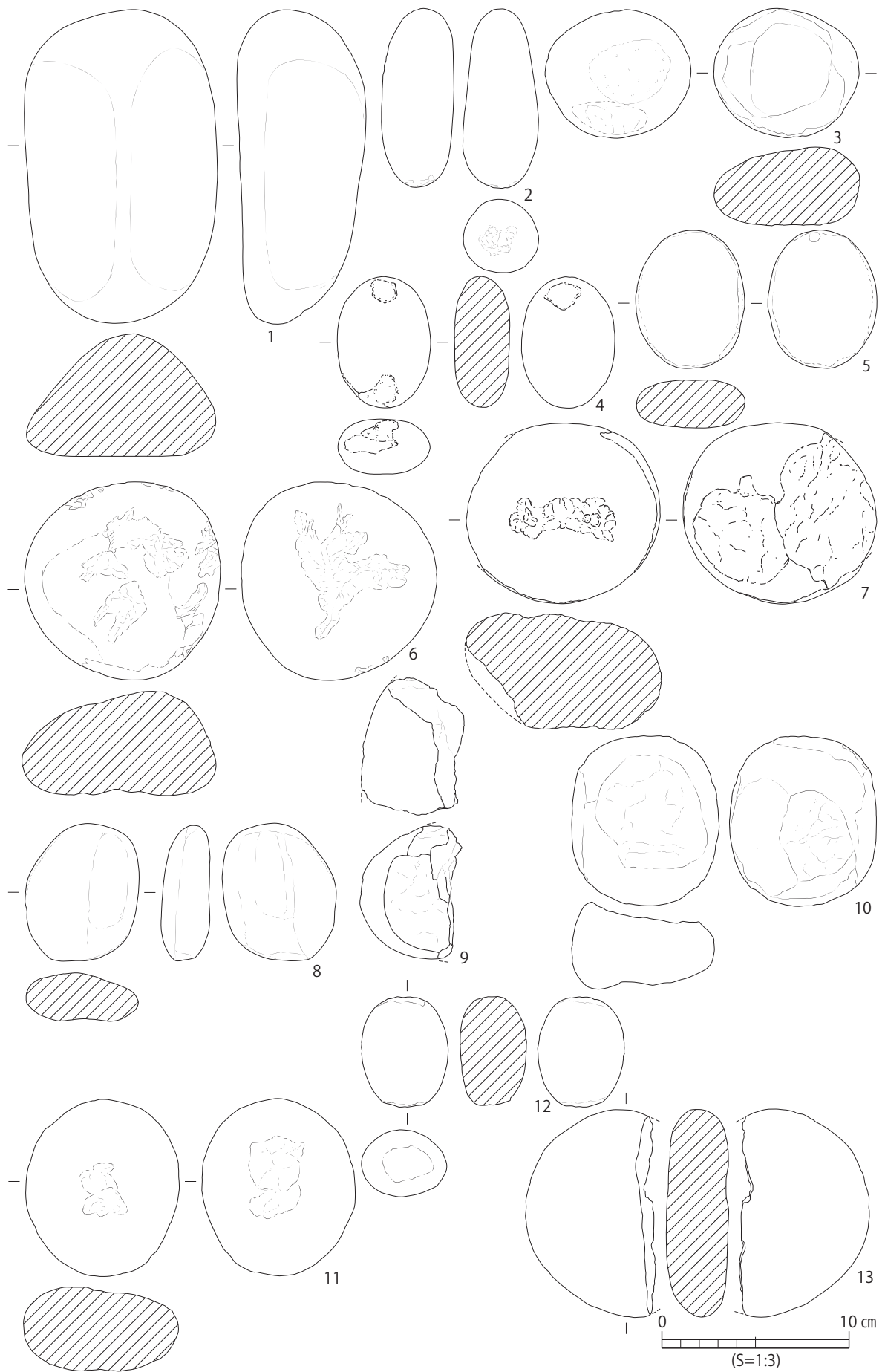
第95図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図6 (1:1)



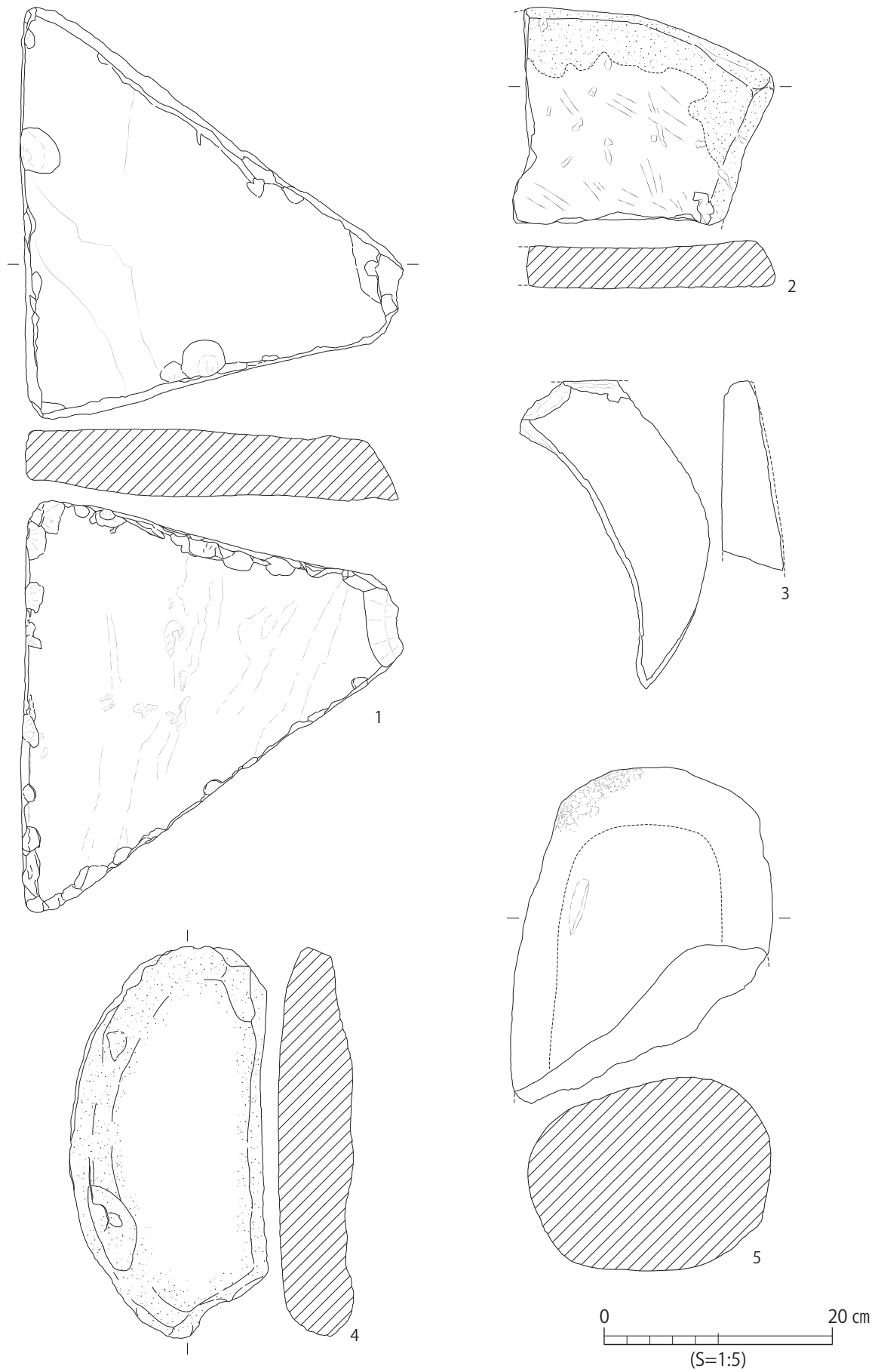
第96図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図7 (1:3)



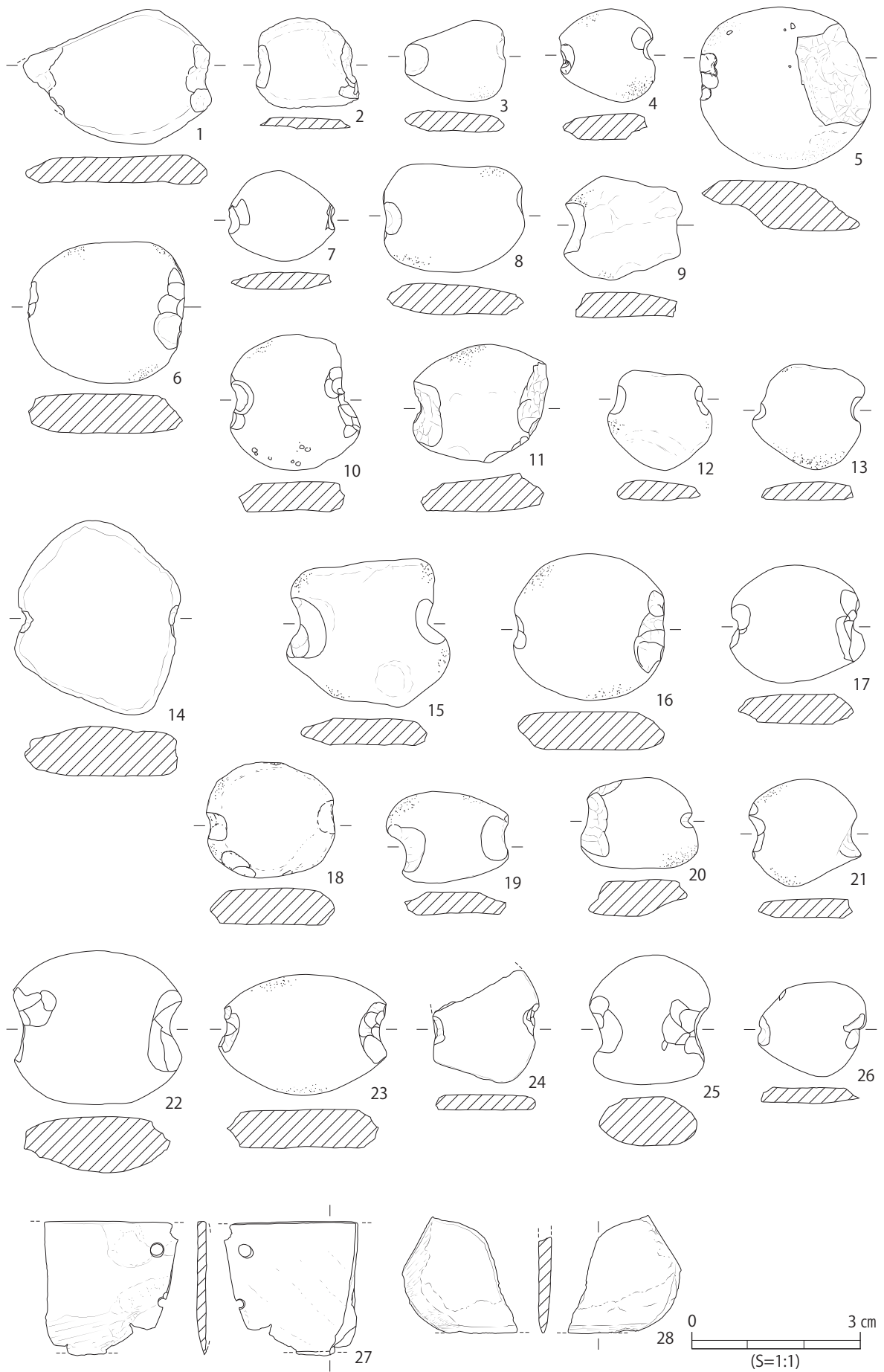
第97図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図8 (1:3)



第98図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図9 (1:3)



第99図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図10 (1:5)

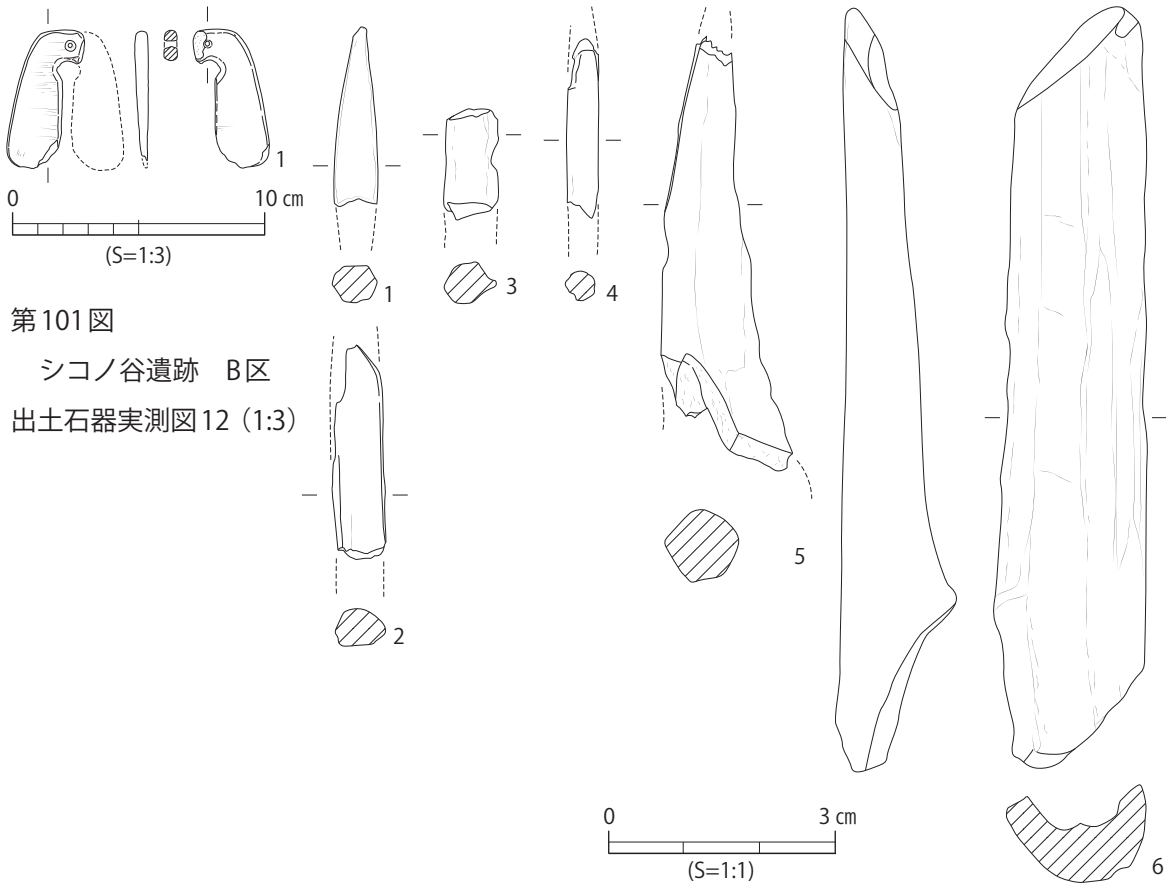


第100図 シコノ谷遺跡 B区出土石器実測図11 (1:3)

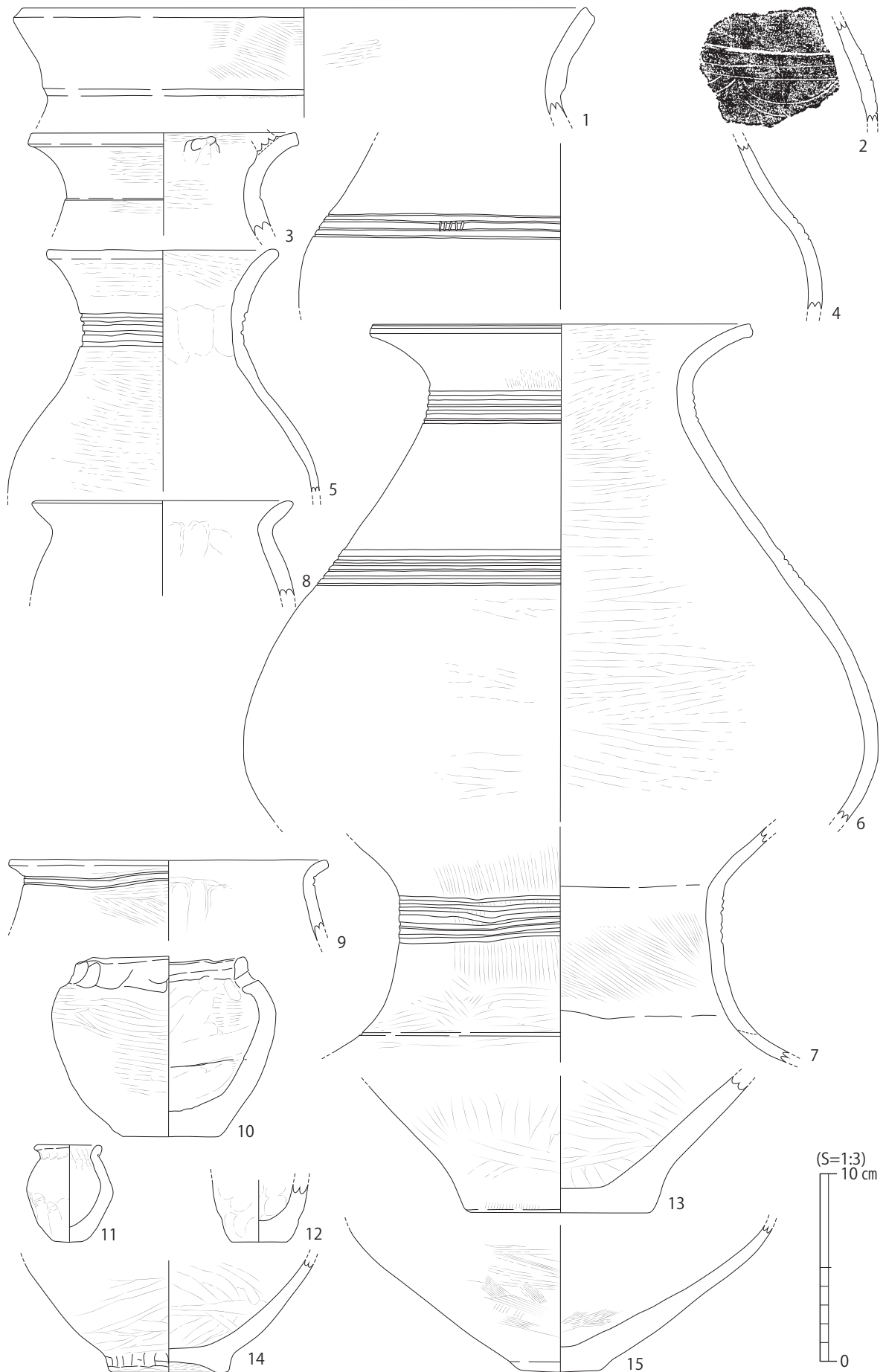
磨り石としても使用している。8は元々の石質のせいもあり全体的に磨滅している。片面に溝状に窪んだ使用痕がみられる。9は部分的な破片であり、磨り石として使用されている。10は両面にしっかりとした窪みがあり、手で握る際に持ちやすく、周縁部を磨ったと思われる。11は両面に敲打による窪みと周縁に痕跡がよく残る。12は丸みのある石で掌に収まり、両端に叩打痕が残っている。13は半分が残り、全体的に磨滅して表面が滑らかになっている。

第99図1は完形の台石で平面形が三角形、各辺の長さは34cm、36cm、40cmで厚さが6cmである。両面共に使用により平坦となっており、周辺部では光沢がみられる程である。重量は10kgの磨り石で擦っても動くことはない。2は台形を呈した台石で両面中央部に擦った痕跡が残る。2方向が割れており本来はもっと大きなものである。3は台石で全体的に欠損しており本来の形態は不明である。片面が平坦となり、使用により磨滅している。4は台石で片面と一側面に使用痕がみられるほぼ完形で両端が欠損している。5は厚さ15cm～20cmの棒状に加工されている。特に使用痕は認められない。

第100図1～26は石錘である。拳大の礫の両端を敲打し紐状のものを掛けるように加工している。大きさは、大が1・13・14・15・16・22で小は2・3・7・12・19・26で残りは中である。これらは遺跡の奥にある谷から採取した河原石と思われる。27・28は石包丁で礫1層と砂層からの出土で弥生時代と考えられる。27は中ほどの破片で上部に穿孔された穴があり、刃部が薄く研れている。28は刃部が両刃に研画れている。2点とも石材は頁岩である。第101図は耳飾りで1/2が欠損している。石材は流紋岩で頂部に円孔があり、表面を滑らかに仕上げている。



第102図 シコノ谷遺跡 B区出土骨角器実測図 (1:1)



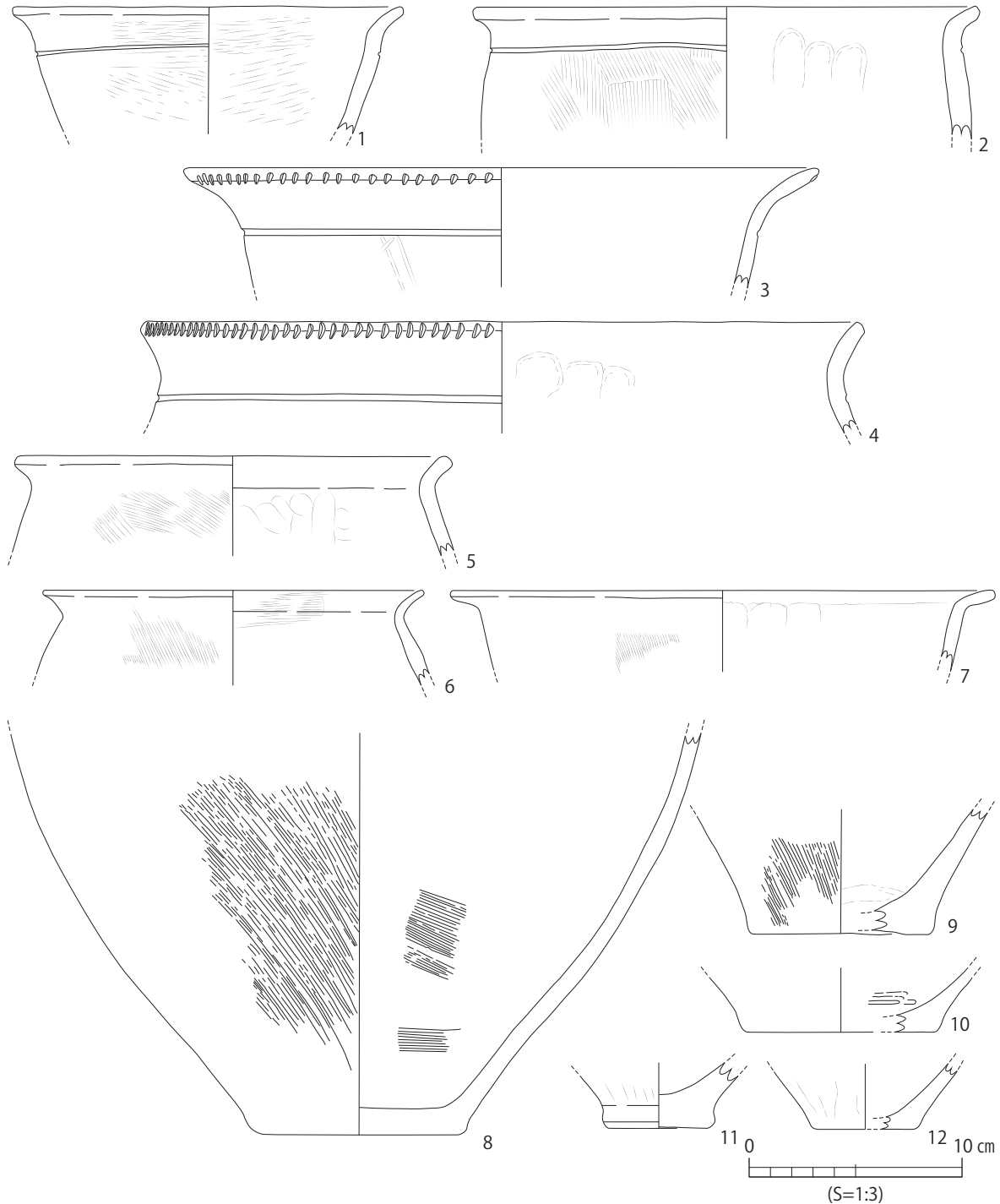
第103図 シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器実測図1 (1:3)

骨角器 (第102図)

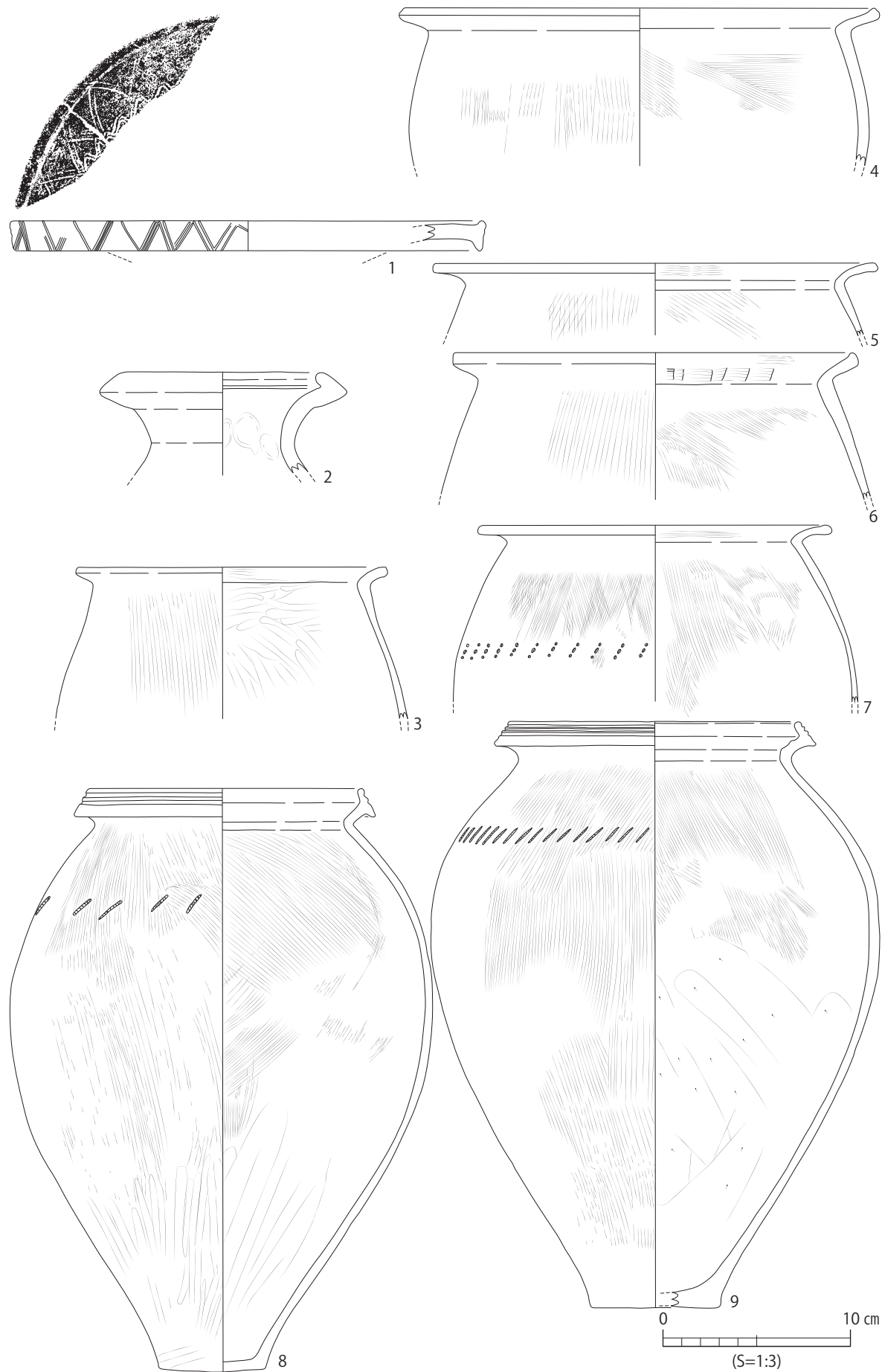
1・2は鹿角製の刺突具で、1は先端が尖っている。6は鹿の骨を使った刺突具である。4はヤス状骨角器の一部である。5は銚の可能性はある。

弥生土器 (第103～107・108図1～7)

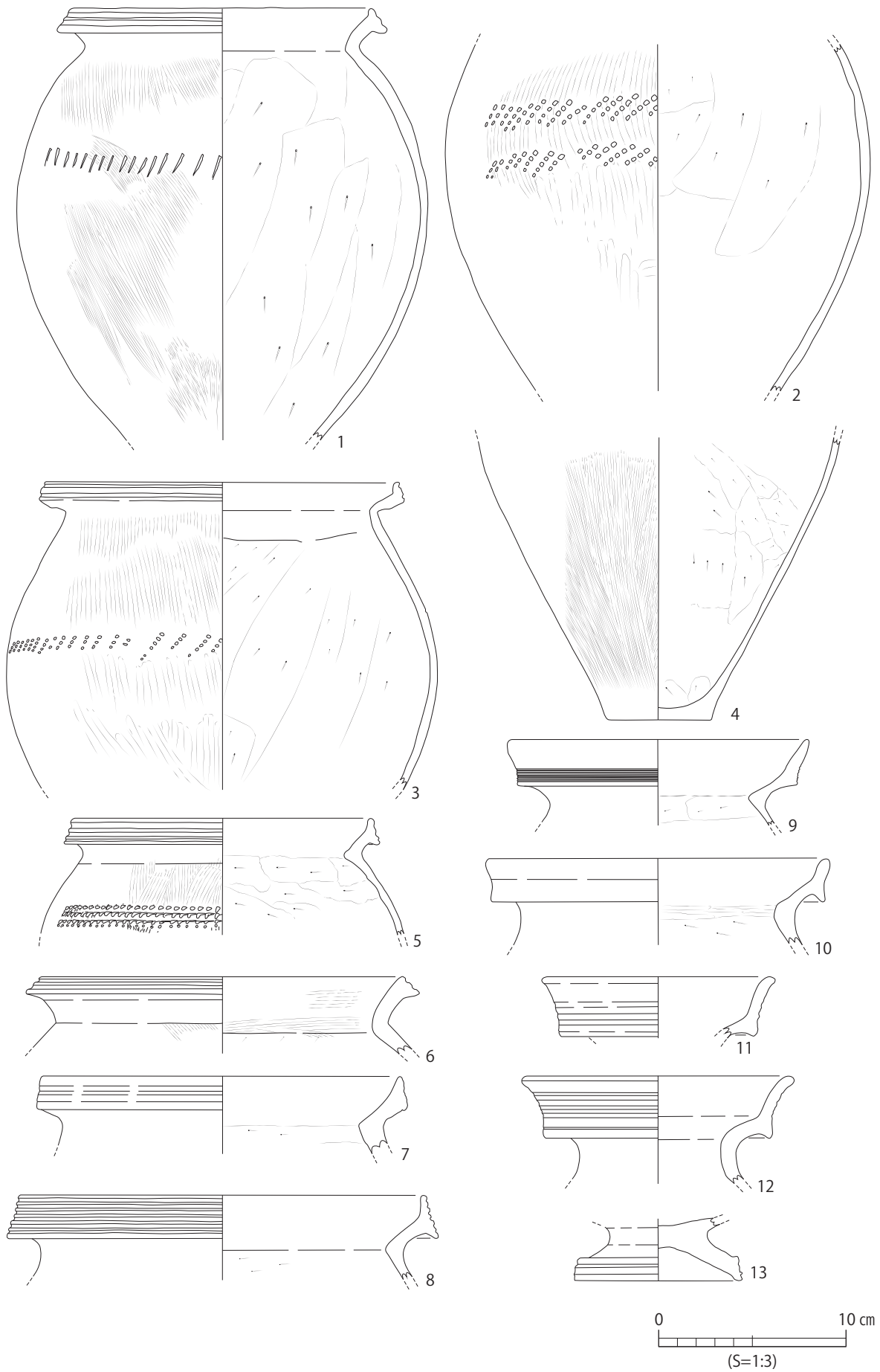
第103図は弥生時代前期の壺・甕である。1・3は壺の頸部に段を有し、内外面にヘラミガキを施している。2は壺の肩部で外面にヘラ描きで半円形、直線の文様を描いている。4～7は頸部、肩部に多条のヘラ描沈線文を施している。調整は刷毛目、ヘラミガキである。8・9は甕で、9の頸部に2本のヘラ描沈線文が施される。10は無頸壺で口縁部に一對の円孔が開けられる。11・12は甕



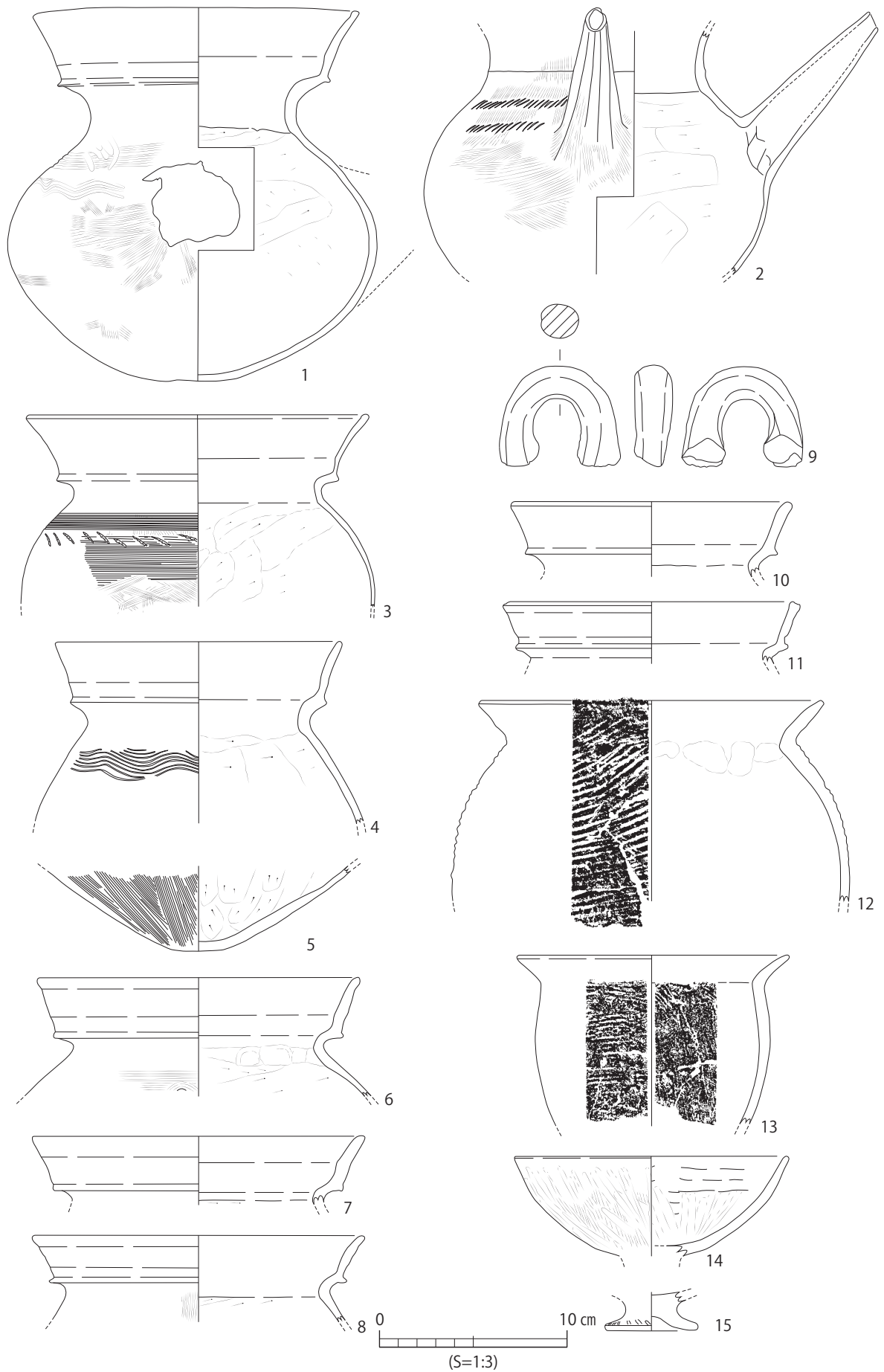
第104図 シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器実測図2 (1:3)



第105図 シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器実測図3 (1:3)



第106図 シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器実測図4 (1:3)



第107図 シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器実測図5 (1:3)

のミニチュアである。11は成形、調整の際についた指頭の痕跡が残っている。13～15は壺の底部で内外面にヘラミガキが施され、14はやや上げ底気味である。

第104図1・2は甕で頸部に一条のヘラ描沈線文が施され、1は内外面とも丁寧なヘラミガキ、2は外面頸部以下に粗いハケ目が施される。3・4は甕で口唇部に刻目を有し、頸部にヘラ描沈線文が施されている。3は体部外面の沈線から斜め方向に平行する2本の沈線が描かれている。5～7は甕で胎土に粗い砂粒を含んでいる。これらの土器は、I様式に属すもので弥生時代前期に比定される。8～12は底部にかけてのものである。

第105図1は壺の口縁部で外面と内面に楯描の文様が施される。4～7はくの字状の口縁部を持つ甕で器壁は薄くなっている。体部の内外面にハケ目調整が残る。これらはIII様式で弥生時代中期中葉に比定される。8・9は甕で口縁部に凹線が2～3条、胴部外面の肩に刺突文が廻っている。内面下半にヘラケズリを施し、上半はハケ目調整を行うことからIV様式、弥生時代中期後葉のものである。2は壺で厚みのある口縁部は内傾している。この器形から中部瀬戸内の中期から後期にみられる特徴である。

第106図1は甕の口縁部に2条の凹線文、胴部外面にハケ目、肩部に刺突が廻り、内面頸部以下をヘラケズリしている。2～5の甕も同様の調整を行っている。6は口縁部がやや肥厚し、7は口縁部が上方に伸びている。8は口縁外面の沈線6本と多条化している。9は口縁外面の上部の沈線がナデ消されている。10は外面に沈線がみられない。11・12は壺で口縁部が外反し多条化した沈線文がみられる。13は脚部である。これらはV様式、弥生時代後期に属すものである。

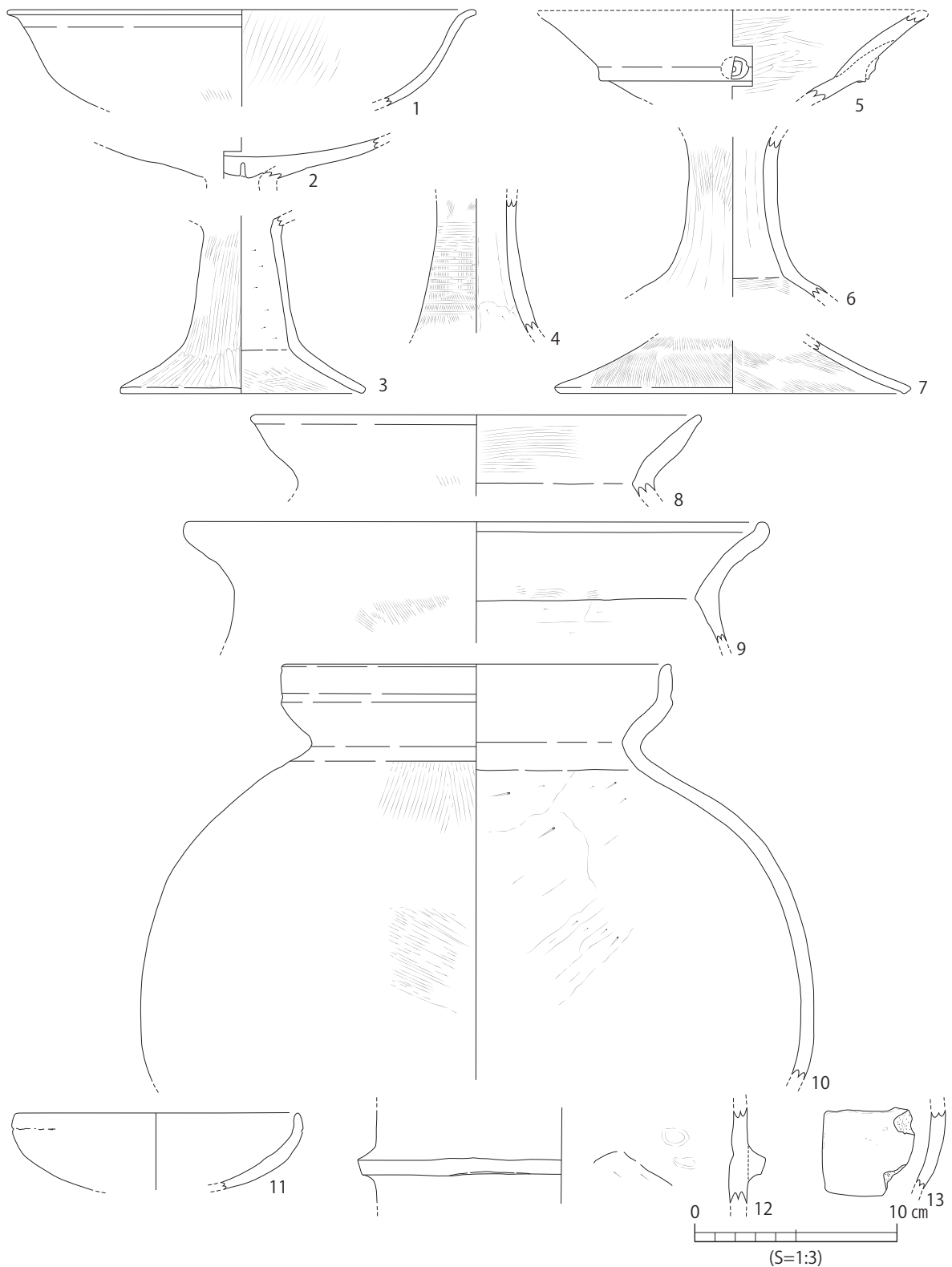
第107図1・2は把手付きの注口土器である。1は口縁部が複合口縁で下端の突出部がやや下向きとなり、器壁は薄いもので底部は平底を残しており、注口部、突手は欠損している。2は胴部の破片で細長い注口が付いている。外面に刺突文が2列施されている。9は注口土器の突手である。3は甕で口縁部が薄く、開き気味に立ち上がる。下端部の突出は水平方向となる。体部外面に平行沈線文、刺突文が施される。4は口縁部の下端の突出が緩く、胴部の肩がなで肩となり、外面に波状文が施される。6～8・10・11は複合口縁の甕である。口縁の上端が11を除いて丸みを有し、下端部は水平方向に突出する。草田5に属すと考えられる。11の口縁部は高さがやや低く、上端が平坦となる。草田7に属すと考えられる。14は高坏の坏部で内外面にヘラミガキが残っている。15は低脚坏の脚部である。12・13・第108図5は非在地系の土器である。12は口縁頸部～体部にかけて叩き調整がみられ、胎土に石英、長石の粗い砂粒を含んでいる。13は小型の甕で外面に横方向の叩きがみられる。5は壺の口縁部で外面に円形の粘土を貼り付けている。いずれも近畿地方の土器型式で庄内式併行期の土器である。

土師器 (第108図8～13)

8・9は土師器の甕で口縁部がくの字となり、内面にハケ目が見られる。10は複合口縁の退化したような口縁部で器壁が全体に厚くなり、口縁部の立ち上がりが短く直立する形態となっている。11は椀で口縁部がやや内湾しており、口縁部の内外面にナデがみられる。この4点は松山編年4期で古墳時代中期に属している。12は円筒埴輪でタガの部分である。13は製塩土器である。

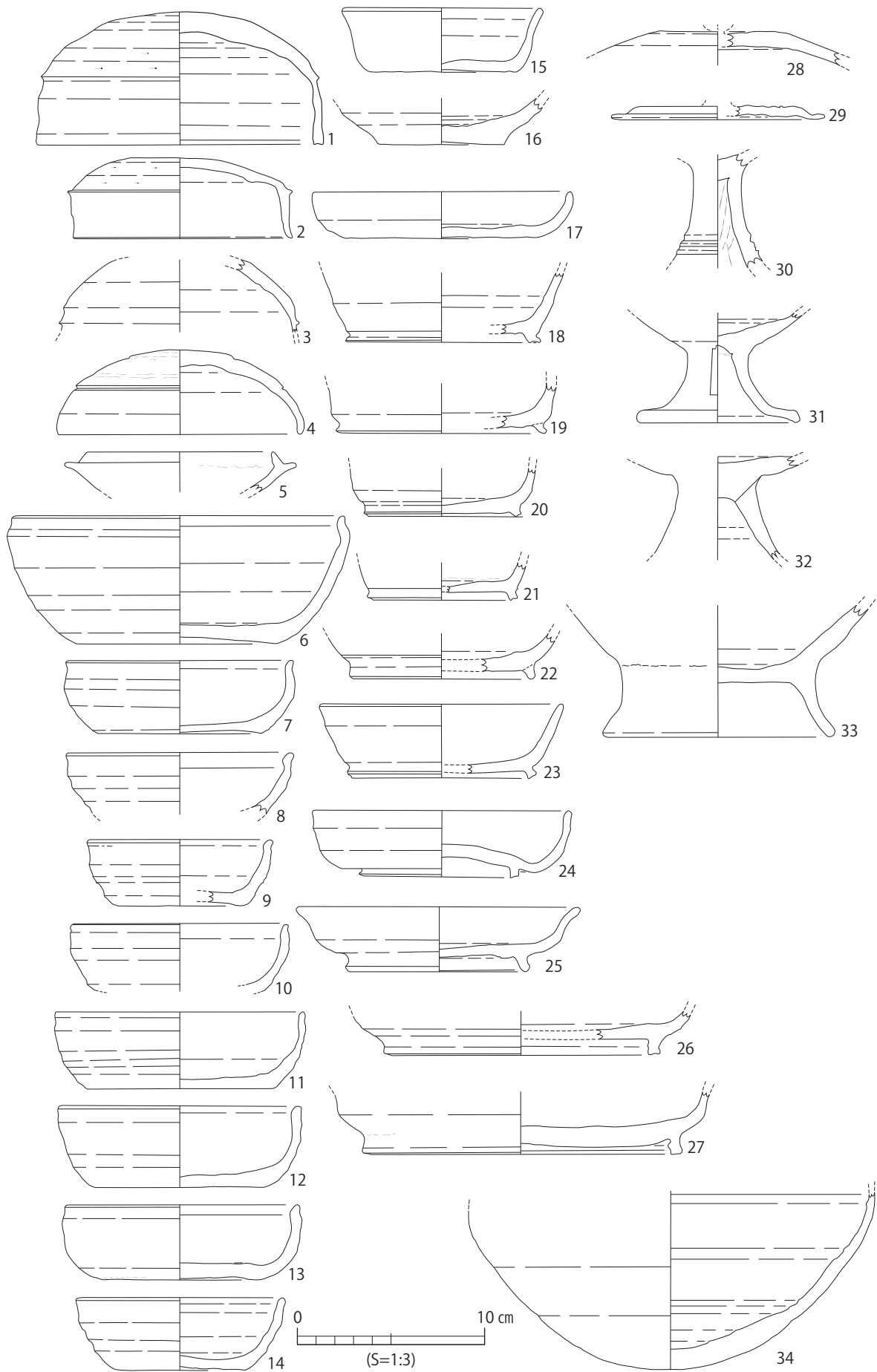
須恵器 (第109～112図)

第109図1～3は須恵器の蓋坏の蓋である。天井部外面に回転ヘラケズリが施され、天井部と口縁部の境に明瞭な稜線がみられる。4の蓋は天井部に丸味を有し、天井部との境に沈線をほどこし

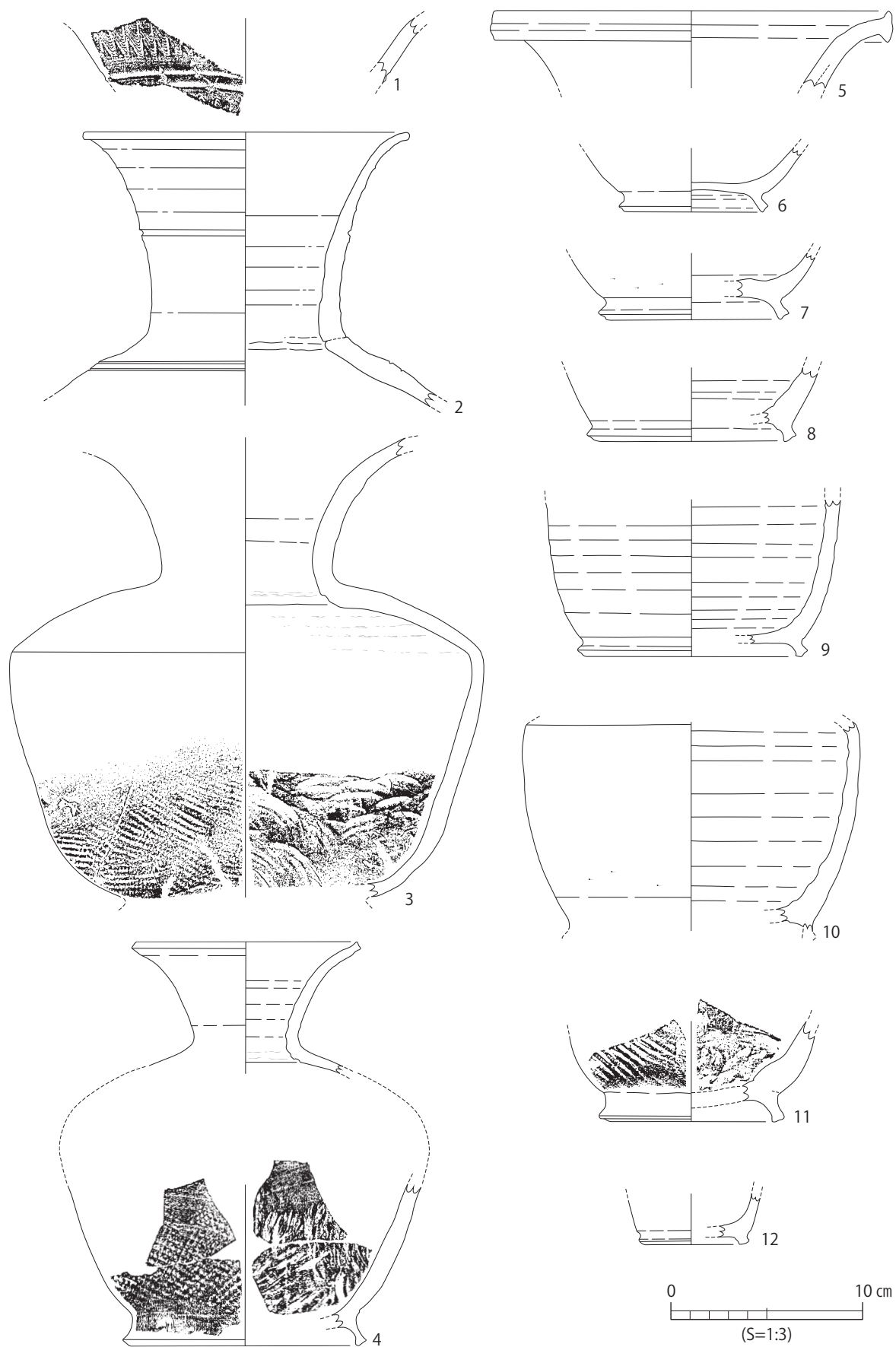


第108図 シコノ谷遺跡 B区出土土師器実測図 (1:3)

ている。5は坏身で身の立ち上がりは短く内傾している。1～3が大谷編年1期、4が5期、5が6期のものである。6～14は無高台坏で椀形を呈し、強弱はあるものの口縁部が屈曲している。6は口径17.8cmと大きく、9が11.6cmと最も小さい。15は無高台で口縁部が直線的に開くものである。17は無高台の皿である。18～24は有高台の坏で、18～21は器高が高く、22～24は器高が低くなる。26・27は有高台の皿で27はかなり大きなものである。これらは出雲国府3、4型式に属す



第109図 シコノ谷遺跡 B区出土須恵器実測図1 (1:3)



第110図 シコノ谷遺跡 B区出土須恵器実測図2 (1:3)



第111図 シコノ谷遺跡 B区出土須恵器実測図3 (1:3)

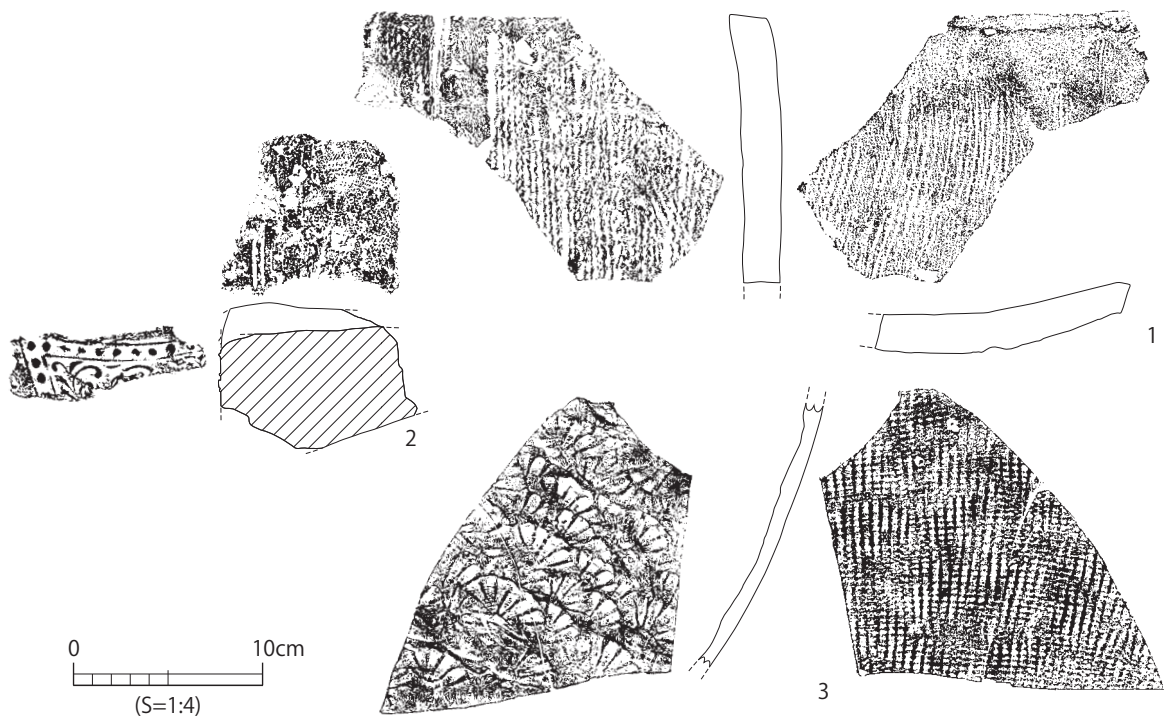
ものである。34は鉢で丸底となっている。33は足高の高台を有する坏でかなりの大型品である。焼成が軟質のもので平安時代に入るものと思われる。

第110図1は甕の口縁部で上端を欠いている。外面に整った縄文が施される。2～4は壺で2以外は有高台である。3・4の下半部には成形時の叩き痕が残っている。6～12も壺の底部で11以外はナデ調整で仕上げられる。この壺は、出雲国府3・4型式に属すものと考えられる。第111図5は焼成が良く、器壁が薄いもので外面に縄席文の叩きの後に3本の平行沈線がみられる。朝鮮半島産の陶質土器と考えられる。1は須恵器・甕である。2・3のは胴部外面の平行叩きの幅、内面の同心円の形態が整っていることから、古墳時代後期と考えられる。1は口径が38.8cmと大形で口縁外面に沈線に挟まれた波状文が3段施されている。波状文が整っていないうえに櫛の幅が広く、胴部の平行叩きの単位に幅があり同心円叩きも不正形となっている。4は内外面の叩きに幅があり粗い文様となっている。7は口縁部にヨコナデがみられ緩く屈曲している。胴部外面の平行叩きに幅があり、内面の同心円も粗いものである。9の内面の同心円は各幅が一定ではない。第112図3は甕で内面の叩きは菊花文となっている。これらの甕は内外面の叩き文の様子から平安時代に含まれるものと考えられる。

第112図1は平瓦で外面に縄目、内面に布目の後の糸切痕がみられ焼成は良いものである。2は軒平瓦で唐草文様の周囲に珠文帯をめぐらしており、出雲国分寺軒平瓦1類に属すものと考えられる。

中世土器 (第113図)

1～5は中国製白磁碗Ⅳ類で口縁部が玉縁状となっている。6～8は碗Ⅴ類である。9は白磁碗Ⅴ4類、10が白磁碗Ⅷ類の底部である。11が白磁皿Ⅵ類の底部である。13が白磁・水柱で把手の

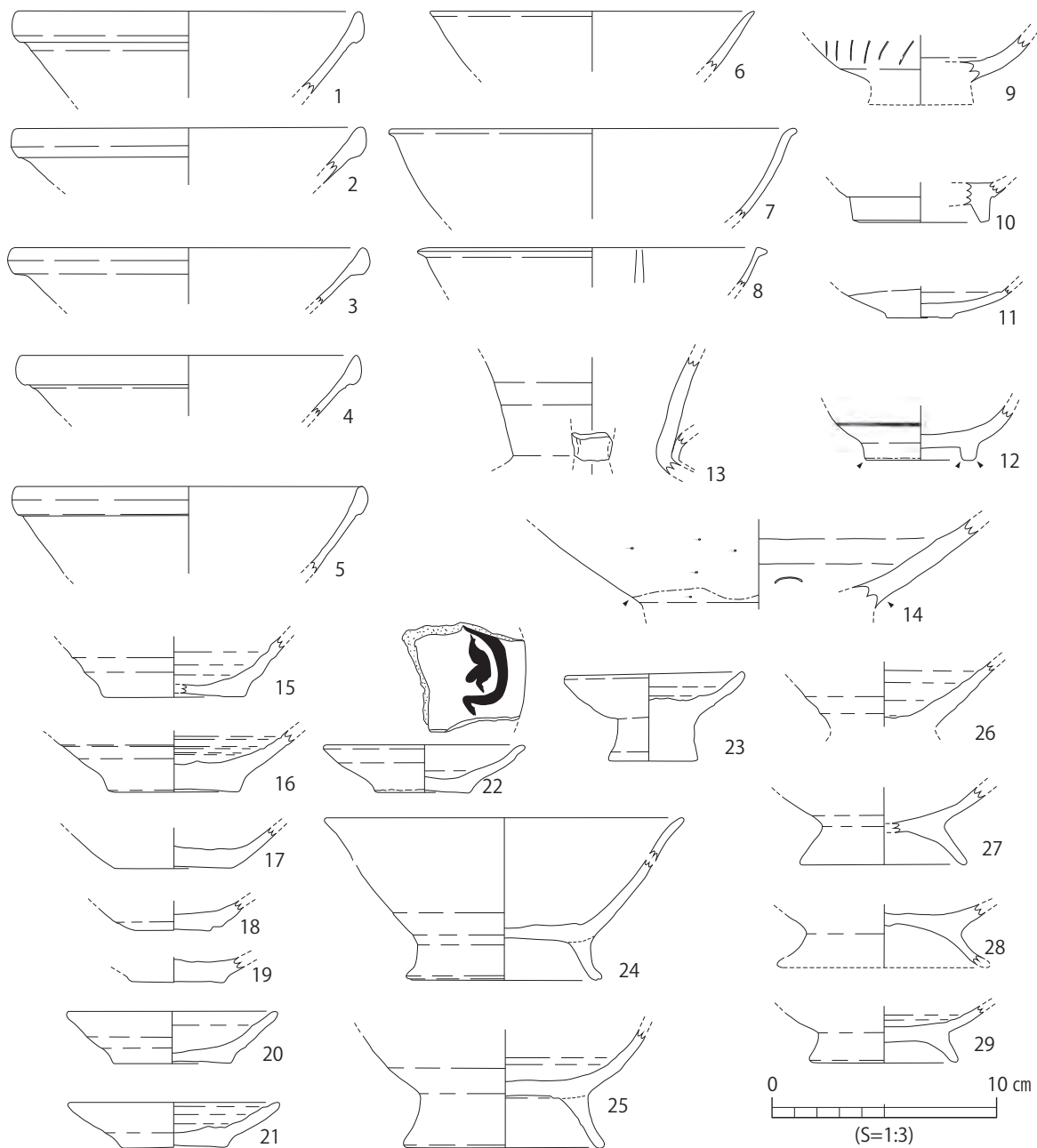


第112図 シコノ谷遺跡 B区出土須恵器実測図4 (1:4)

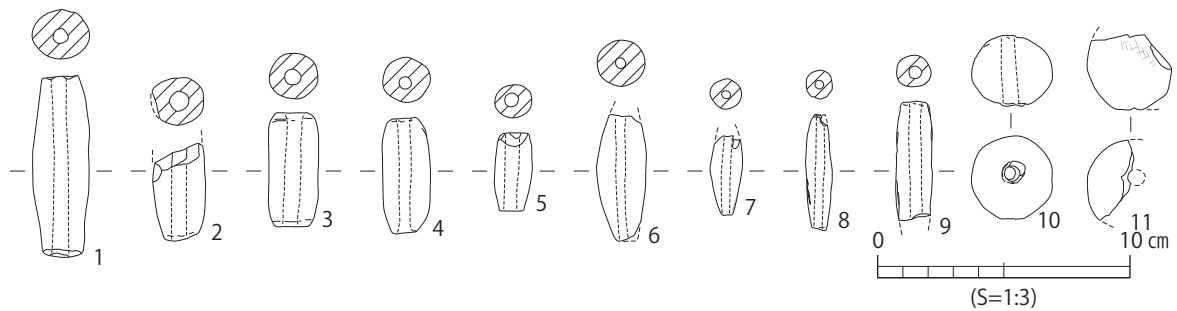
一部が確認できる。これらは大宰府の区分でC期・D期とされ概ね12世紀、一部13世紀にかかる時期のものである。15～19が土師器・坏の底部。20～22が皿である。22の内面に墨書がみられ、文字ではなく人物等の絵の可能性もある。23は柱状高台の皿である。24～29の土師器は足高高台の坏である。高台が長くなっている。この土師器は陶磁器と同様に12世紀を中心とする時期と考えられる。12は肥前系磁器の丸形碗で、年代観は17世紀第3四半期である。14は陶器の平鉢である。見込みには小型の貝目がみられ、胎土から17世紀末～18世紀前葉頃の楽山焼になる可能性がある。

土錘 (第114図)

1～9は管状形態のもので、1は全形が残っており重量33gである。6～8は中央部が膨らむ形



第113図 シコノ谷遺跡 B区出土陶磁器・土師器実測図 (1:3)



第114図 シコノ谷遺跡 B区出土土製品実測図 (1:3)

である。10・11は円形で10は完形で31 gである。礫1層、砂層からの出土であり古代から中世にかけての時期と考えられる。

木製品 (第115図～125図)

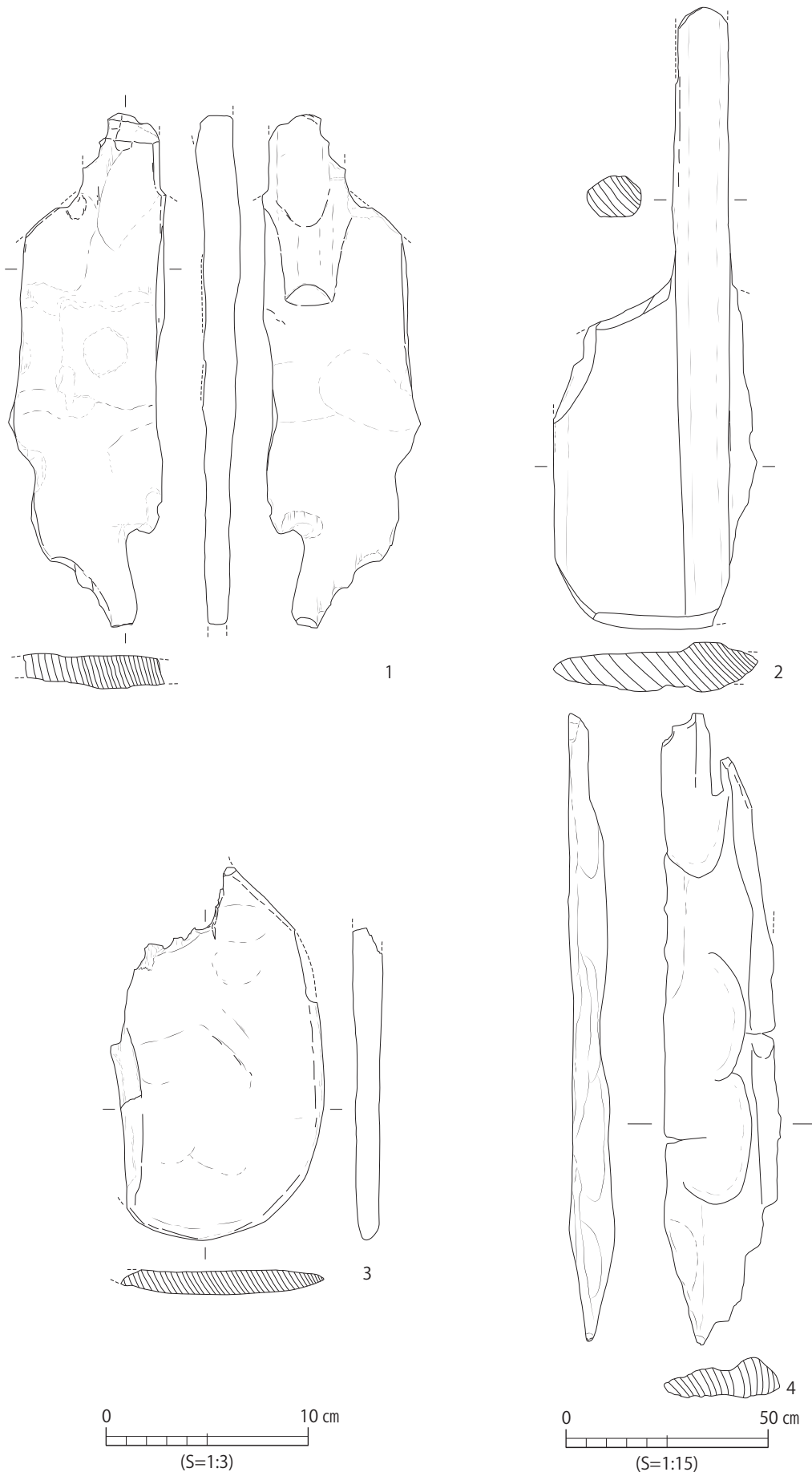
第115図4はミカン割材で長さ155cm、材の外側で厚さ10cm、断面が真に向けて三角形となり、片面に粗い加工痕が残っている。第115図1～3、第116図1～3は櫂である。第115図3・116図1・2は丸みを有している。第116図2・3は長方形を呈している。柄は一部が残るのみである。第115図1・第116図2が礫2層上層から出土し、他は砂層からの出土であり縄文時代晩期～弥生時代にかけてのものと考えられる。

第117図6はへら状の形態で湾曲部は薄くケズリ出されている。7・8・10・13は串状のもので下端を削り出している。1～5・9・11・14～23は出土時に墨書を疑う痕跡がみられ赤外線写真で確認を行っているが、文字等は確認されなかった。17は頂部付近に両側から繰り込みを行い木筒の可能性もあるが、墨書は確認できない。22は出土時に確認された人物のような模様を図化したものである。

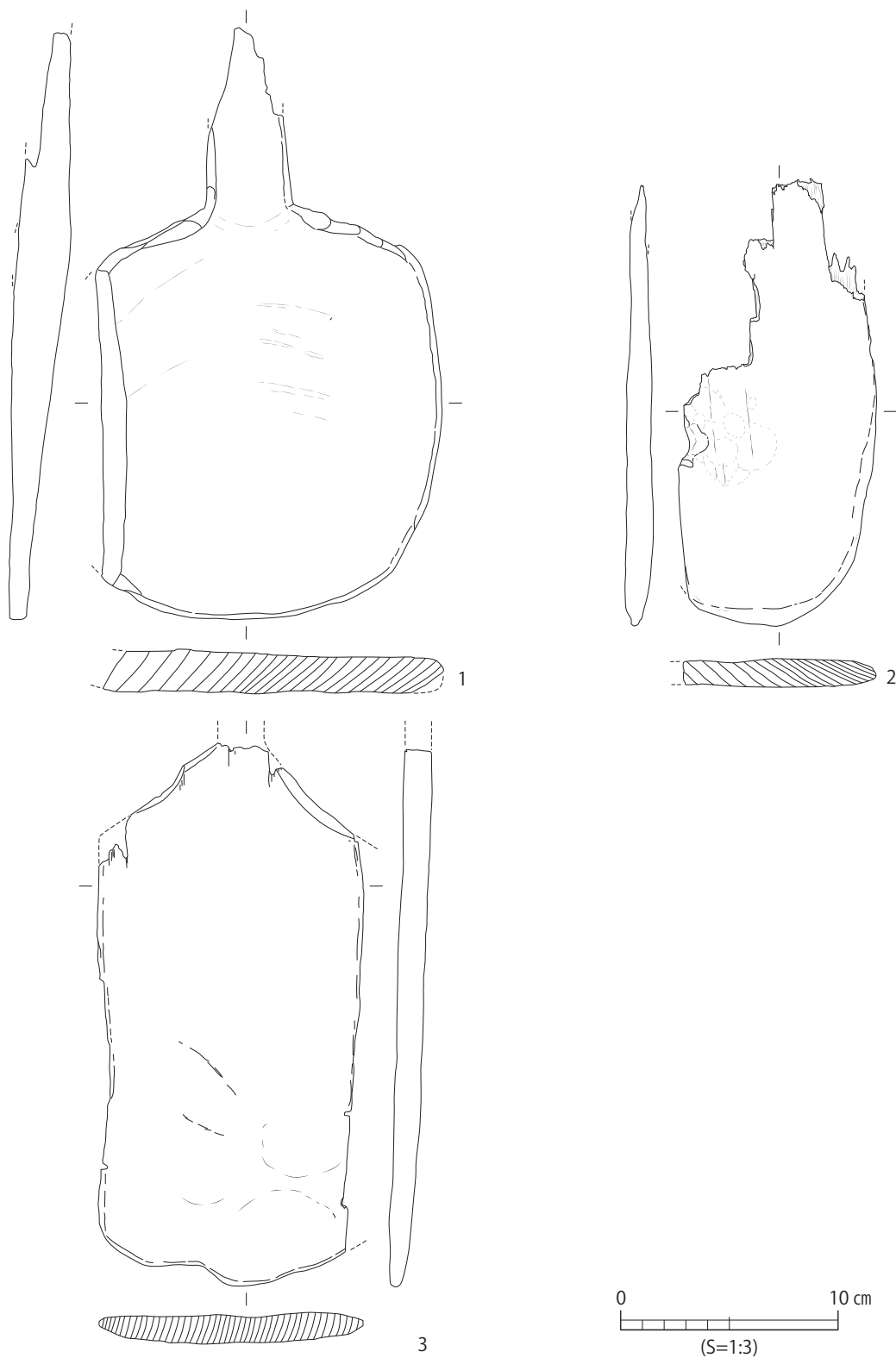
第118図1～4は火鑢白である。1は全長24.7cm、幅2.9cmを測る板状のものである。両側に9つの錐の痕跡が半円形の窪みとして残り、片面は使用後に割れており部分的に側面が細くなっている。片方の8.5cmは錐の痕跡がなく、把手のようになっていた可能性がある。2は両端を欠いており、長さ17cm、幅3cmを測り、使用による白の痕跡は片側3か所ともう一方が6か所である。3は部分的な破片で使用痕は両側に2か所づつみられる。4は棒状のもので片面に2か所使用痕が残っている。5～35は箸と思われる。礫1層、砂層、暗灰色粘土層から出土しており古代を中心とした時期と考えられる。全形が分かるものはなく、削りにより成形され、幅4～10mmまでである。

第119図1は下駄で歯を削り出しにより成形している。長さ20.5cm、楕円形を呈し、鼻緒の掛かる孔が1か所みられる。3は真持ちの丸太の先端をケズリ、コマ状に加工している。先端が使用により磨滅している。5・6は漆塗りの椀で、5は黒漆に朱で文様が描かれている。6は表裏に黒漆を塗り、外面に朱色の施文がみられる。8は断面が円形の木を片方だけ方形に削り出しており、栓等の可能性がある。9はしゃもじで全長18.5cm、幅が先端で5cmである。

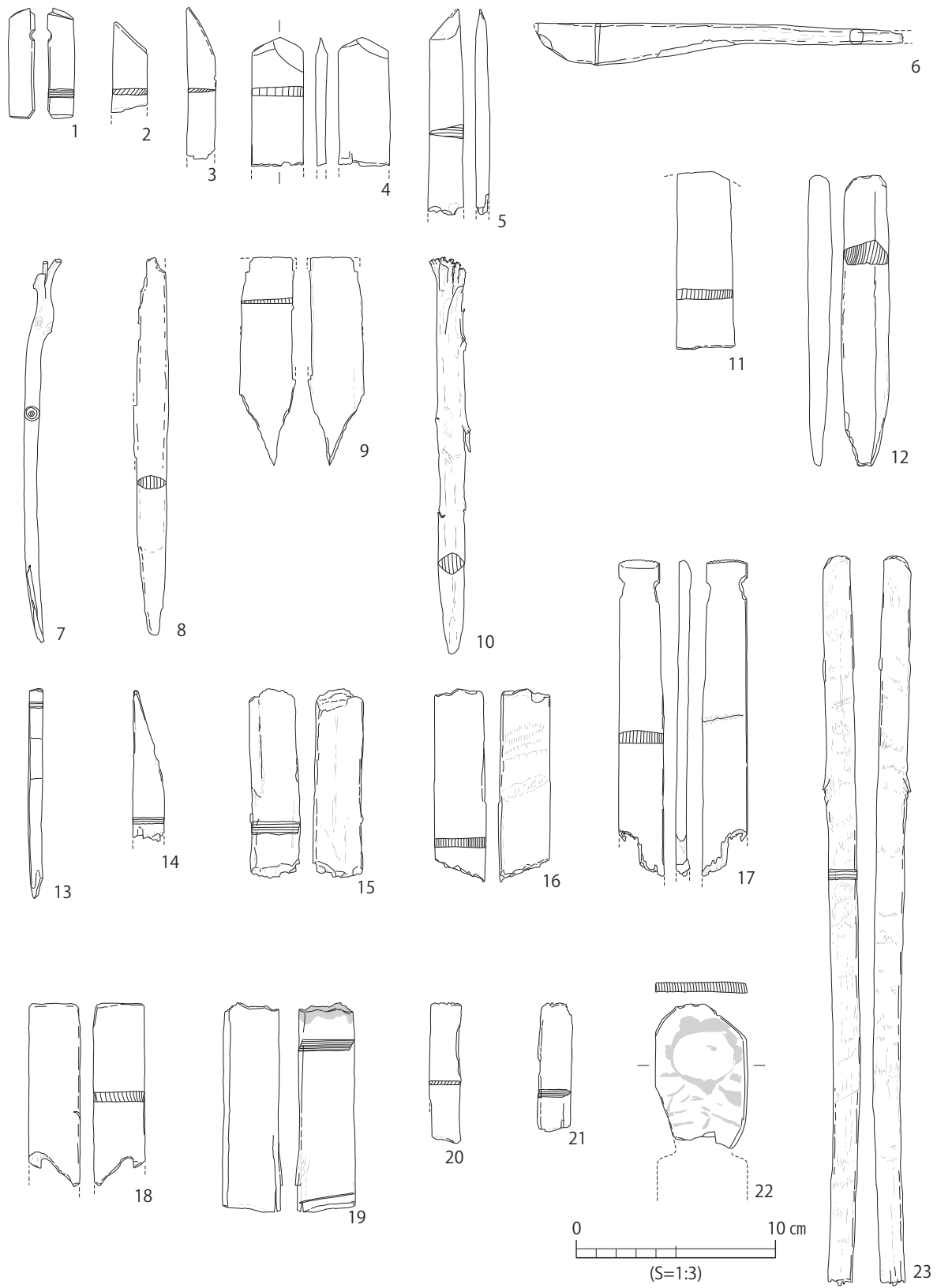
第120図12は曲げ物の枠の部分で1は厚みがあり、2は一部に繰り込みがみられる。3～15は曲げ物と思われる。3～5・8～11は底板と思われ円形に加工されている。12は曲げ物の底板を二次的に加工した可能性がある。16～21は不明であるが、20は断面が湾曲し桶の側板の可能性もある。16・17・21も桶の可能性もある。19は折敷の側板の可能性もある。



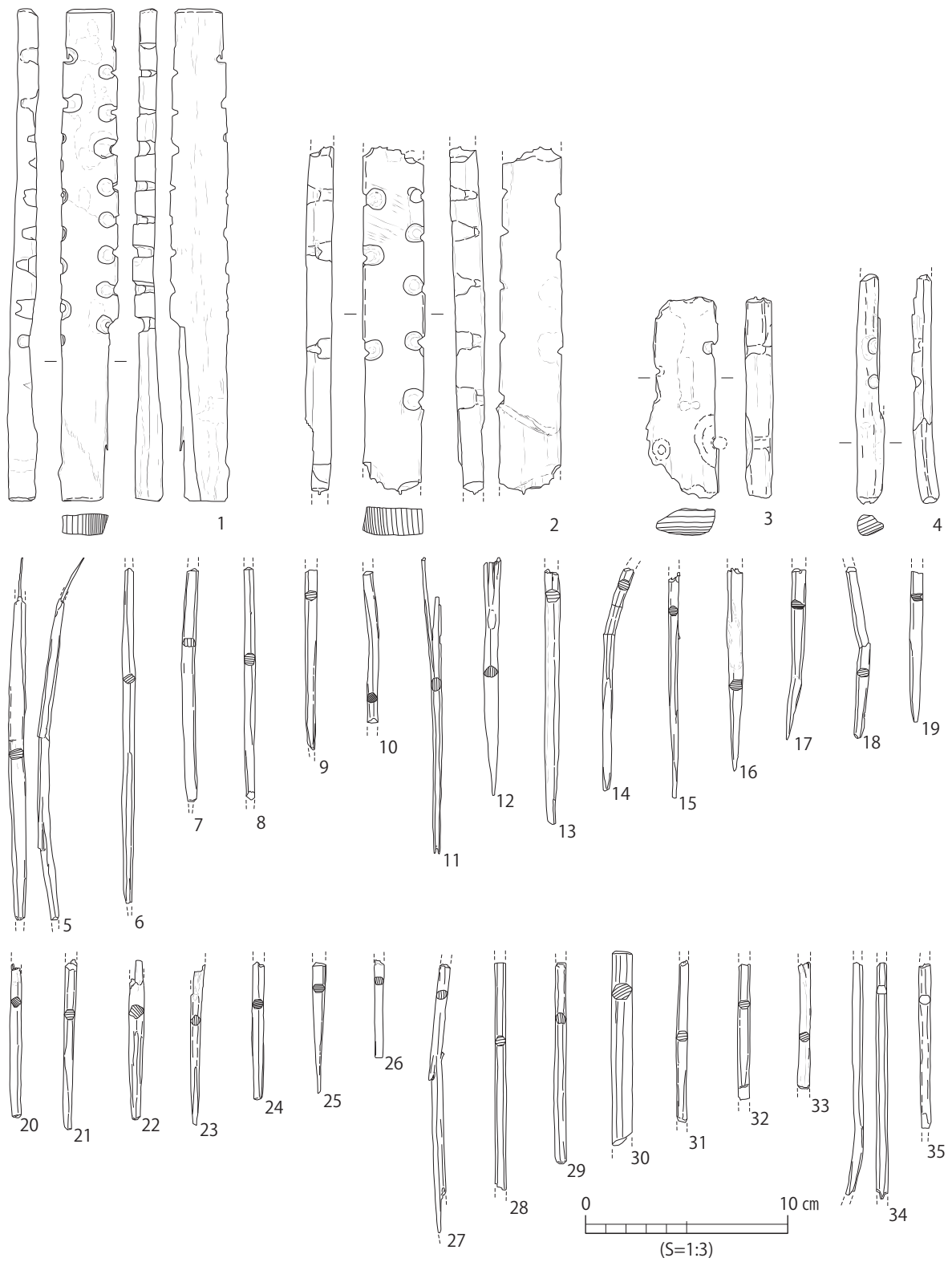
第115図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図1 (1:3)・(1:15)



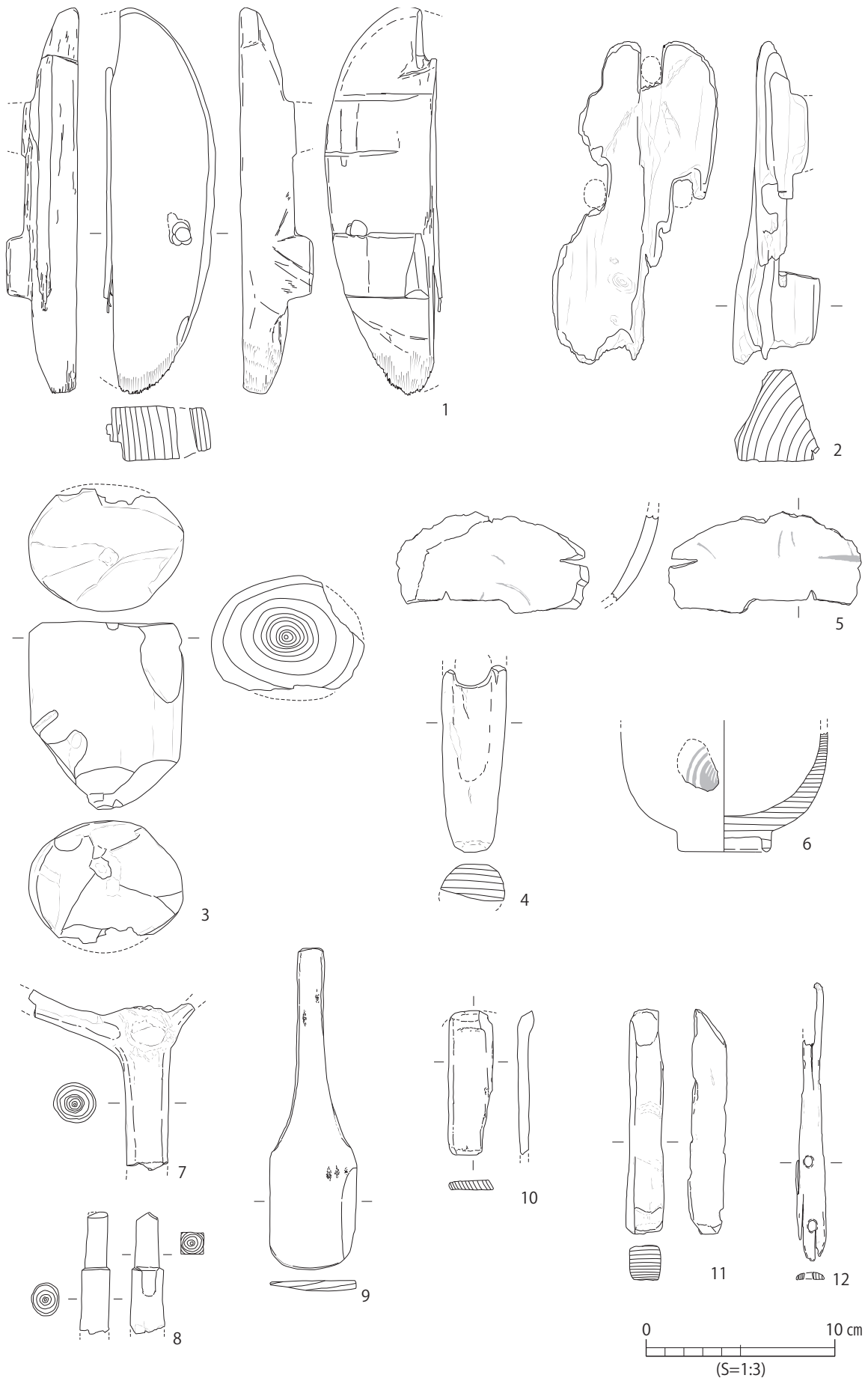
第116図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図2 (1:3)



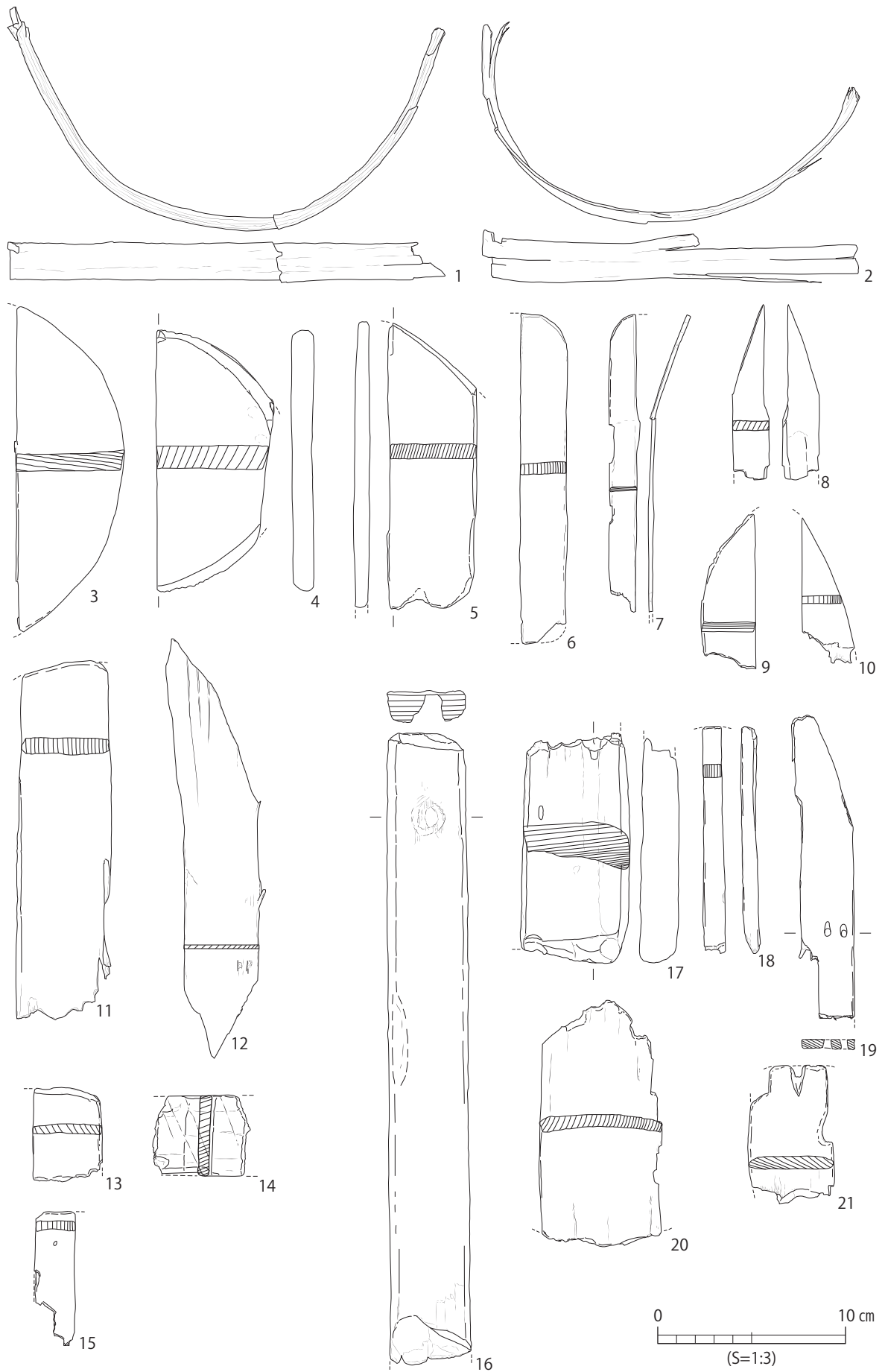
第117図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図3 (1:3)



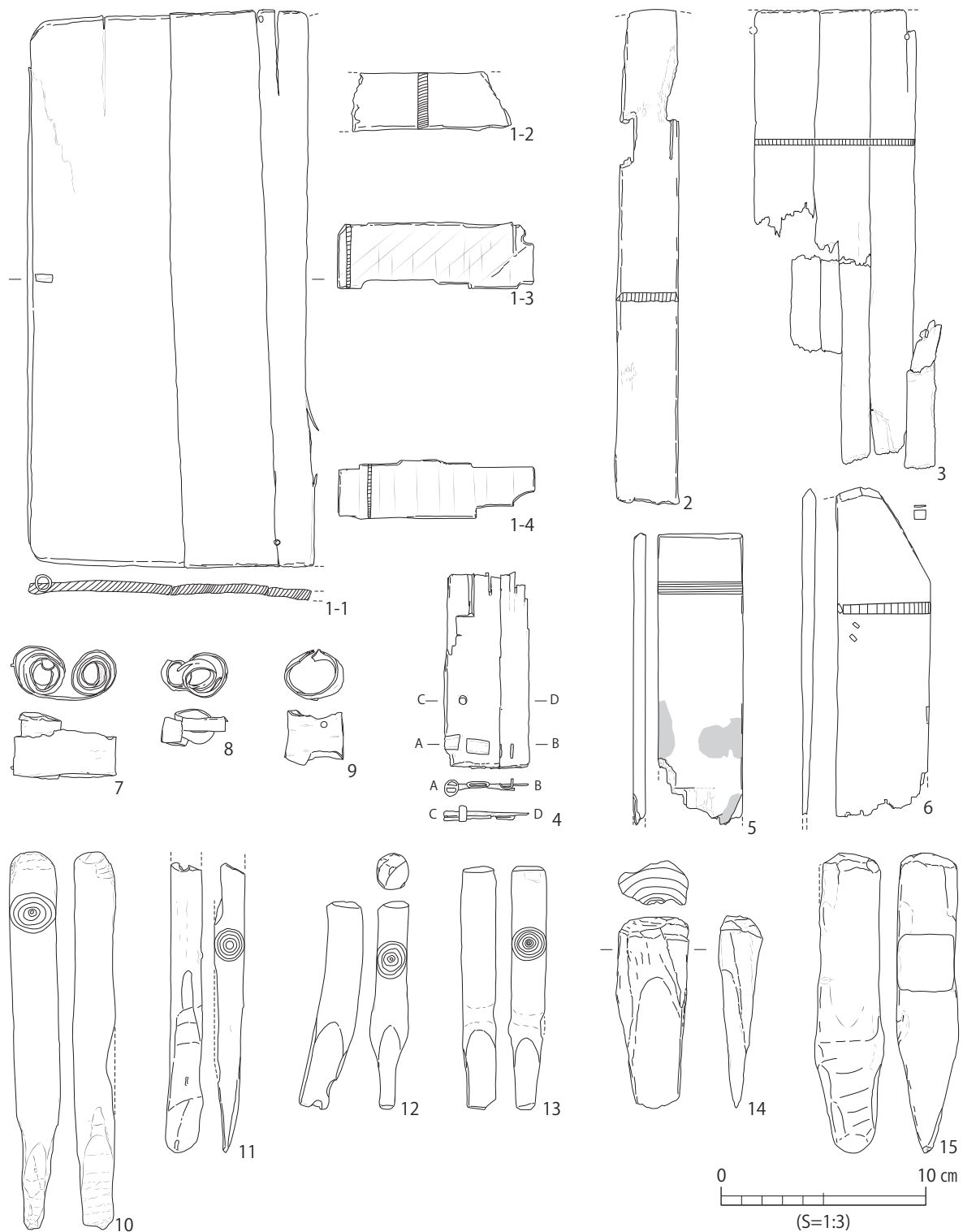
第118図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図4 (1:3)



第119図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図5 (1:3)

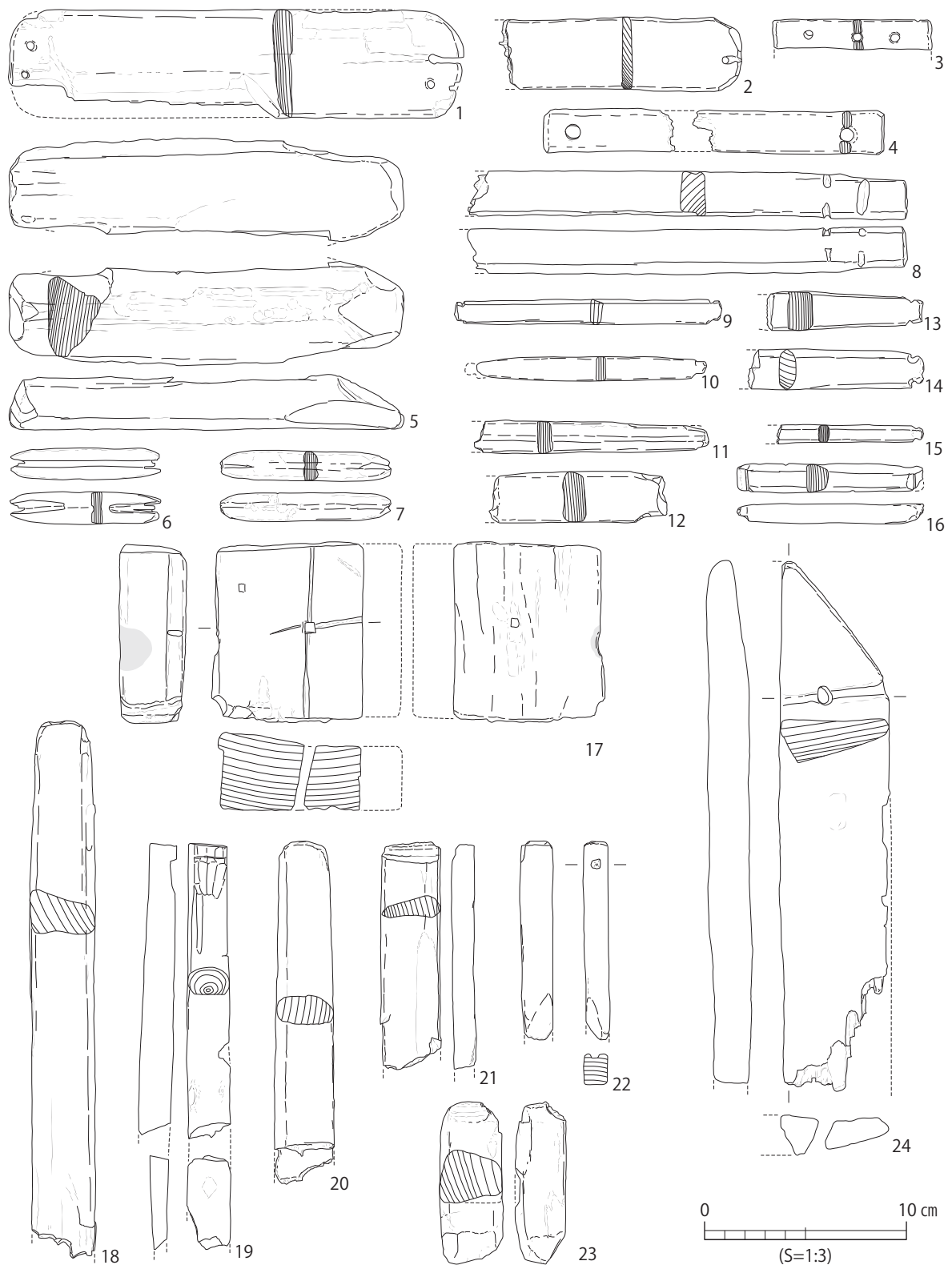


第120図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図6 (1:3)



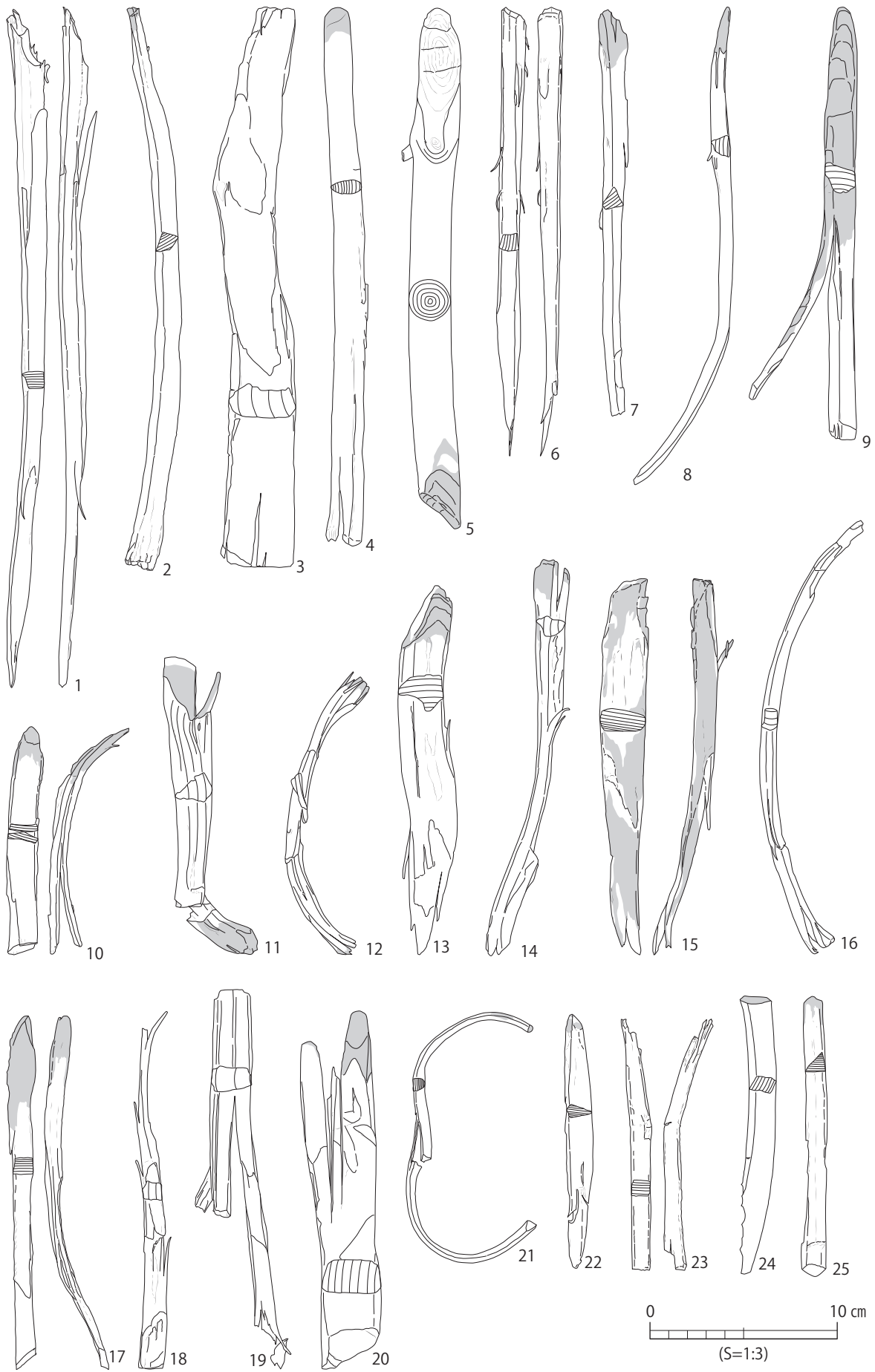
第121図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図7 (1:3)

第121図1～6は折敷である。1-1は底板か蓋板と思われ、側面中央に側板と固定していた桜皮が残っている。1-2も底板、1-3・1-4・2は側板と思われる。3は亀裂が縦方向にみられるが底板と思われる。4は中央部に木製の釘、側に桜皮で留めるようになっている。5は極めて精緻に加工され内外面が綺麗に仕上げられる。7～9は桜皮である。7は本来は長さがあったと思われる。10～15は先端が楔状に加工されている。10～13は細い丸太の先端を削り、元々の木の歪みをそのまま残している。

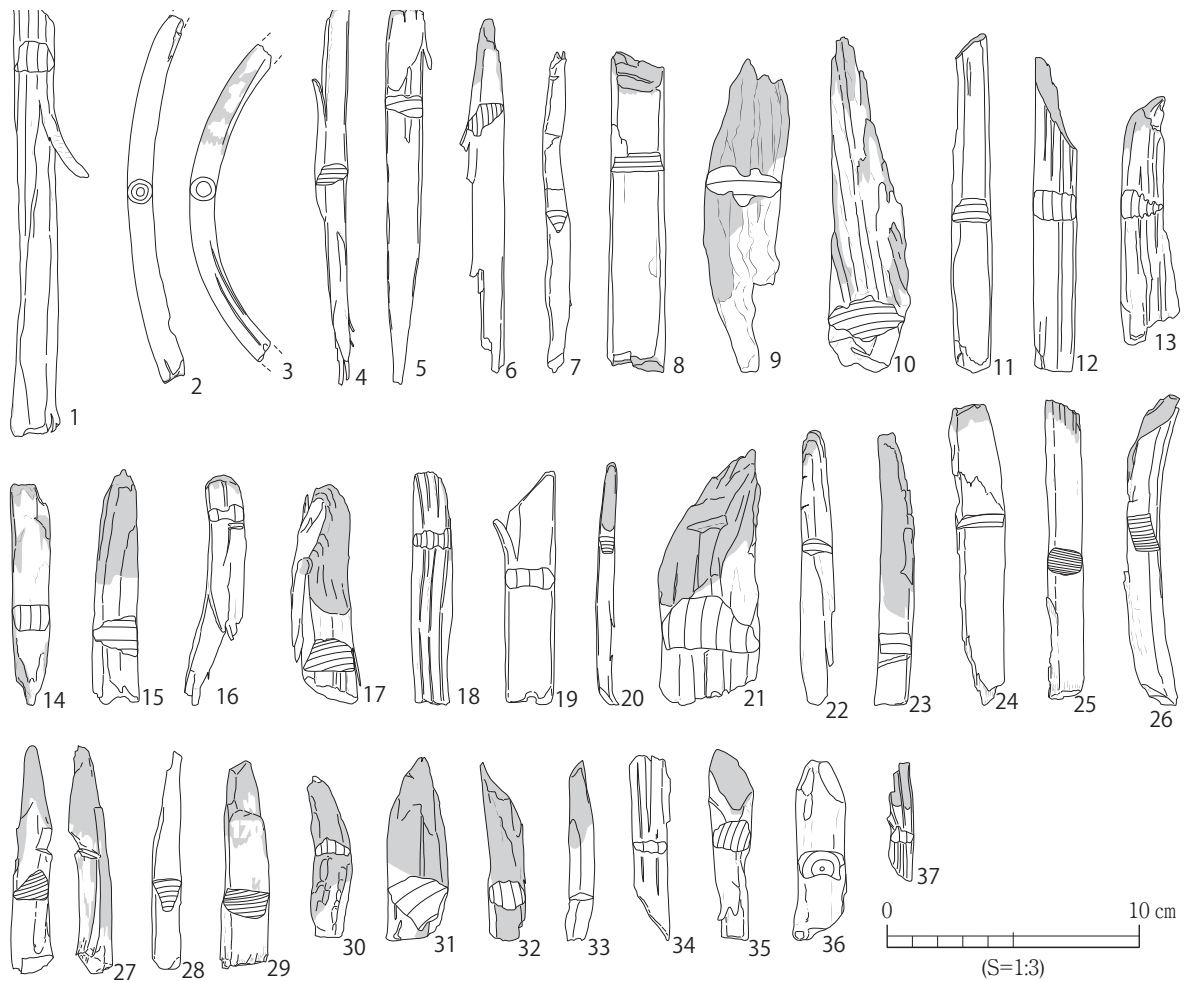


第122図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図8 (1:3)

第122図 1～4・6～7・9～16は浮子である。1は大形で両端に2つの孔が対に開けられる。4は長方形の両端に孔が開いている。6・7は板の両端を丸く加工し、溝を切り紐状のものが縛りやすく加工されている。9～16は端部両端をケズリ、紐の掛かりを作っている。17は正方形の形で中央部に孔があげられ、浮子の可能性がある。5は断面が三角形で両端を斜めに加工している。18～24は部分的に加工された材であり用途は不明である。



第123図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図9 (1:3)



第124図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図10 (1:3)

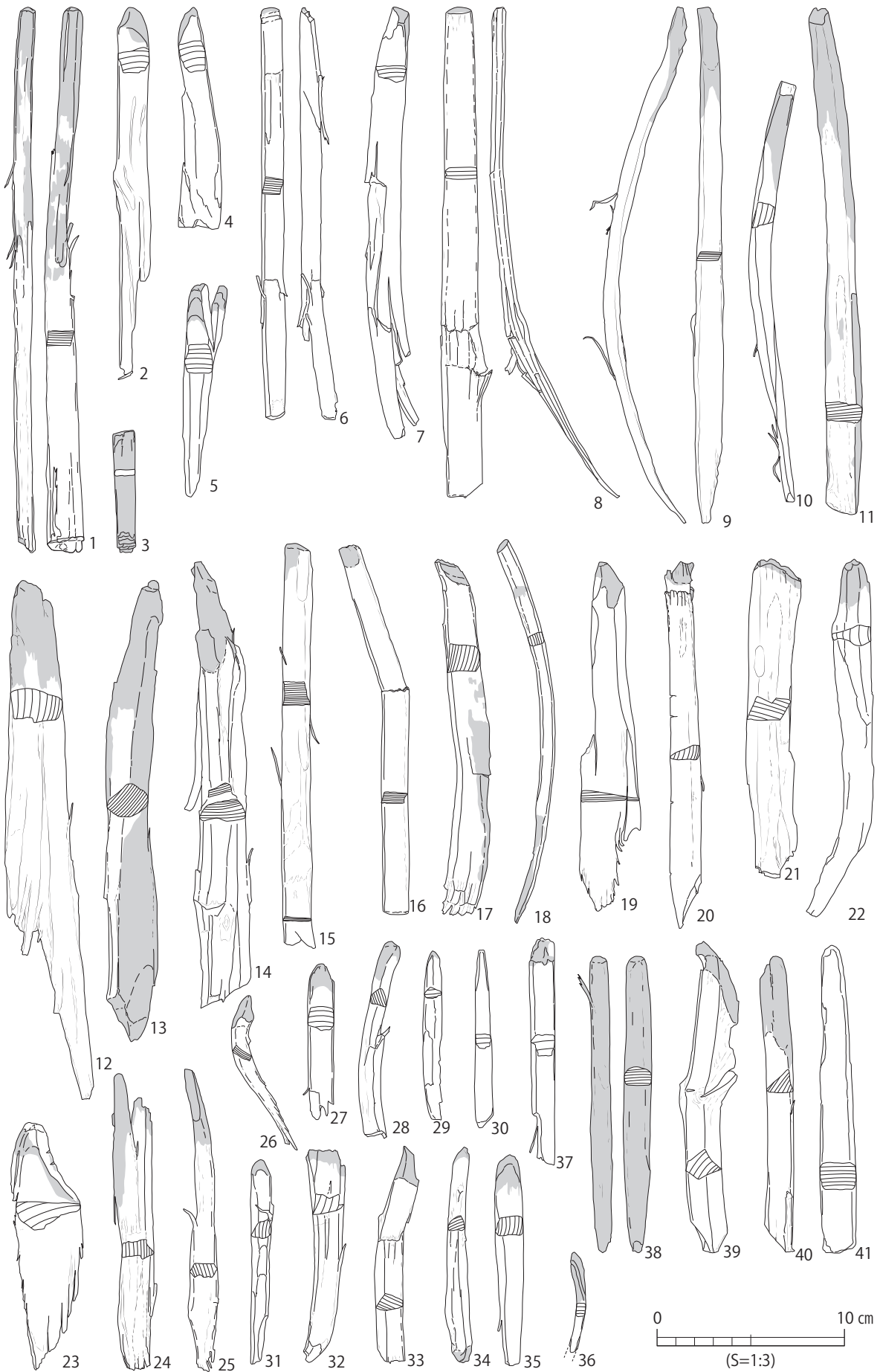
小結

今回の調査により、大橋川に隣接する谷から縄文時代早期以降中世に至る長期に渡り堆積した遺物包含層を確認している。中でも縄文時代早期の土器、石器が多く出土し、大橋川、宍道湖の沿岸部における縄文時代早期の遺跡の在り方を検討する上で貴重な資料である。また、同時期のサメの歯が156本出土したことで中海での漁撈の様子が想定される。石器の石材は、隠岐産の黒曜石が大量に出土し、石鏃が108本出土したことは特筆できる。礫層の堆積が縄文時代早期以降ということで気候の温暖化に伴い水位が上昇していく時期と合致するものである。

さらに縄文時代晩期～弥生時代前期にかけての土器が出土し、稲作導入段階の様子がうかがえる。

縄文時代以降、弥生時代、古墳時代、古代、中世と各時期の遺物が出土しており、継続的にこの一体に集落が展開していたものと考えられる。弥生土器は、縄文時代晩期から継続するように前期前半の土器がみられ、中期の後半、後期も継続してみられる。古代の須恵器も一定量みられ、対岸の出雲国分寺の瓦が出土するなど、意宇平野の周辺部の在り方を示している。

いずれの時期も住居跡等の遺構は確認していないが、出土した土器、石器の多さから考えて、縄文時代以降、遺跡周囲の丘陵部に集落が継続的に展開していたものと考えられる。



第125図 シコノ谷遺跡 B区出土木製品実測図11 (1:3)

第5章 自然科学分析

第1節 シコノ谷遺跡土層観察コメント

島根大学・総合理工学部地球科学科 酒井哲弥

遺跡周辺の地形について

和久羅山南方に位置する標高 114 m の小さな山の南に遺跡は位置する。遺跡の北には小さな谷が 2 つあり、1 つはほぼ南北に延びる短い谷、もう 1 つは遺跡から北北東方向に伸びる谷で、これは山頂付近にまで続く長い谷である（第 126 図）。

遺跡周辺の地質

鹿野ほか (1994) によると、遺跡の北方の山をつくるのは和久羅山デイサイト（または安山岩）である。遺跡周辺には、地質図では黄色で示される松江層の砂岩が分布することとなっている（第 127 図）。大橋川を挟んだ南には、松江層の玄武岩類が分布する。

遺跡の堆積物の観察結果

遺跡内に露出していた基盤は松江層の礫岩および玄武岩質凝灰角礫岩である。変質により緑色に変化した玄武岩のほか、1 つではあるが花崗岩の礫が見られた。それを覆うのが今回、問題となっ



第 126 図 遺跡周辺の地形図。（白矢印は発掘地点、赤の点線は発掘地点へと伸びる谷を示す。青矢印は東の谷から土石流が出た場合の推定される流れの進行方向。）

ている礫層である(第128図).

1. 礫層の特徴

礫層の厚さは遺跡内ではおよそ70cmで,層は南に向かって約20度で傾く.礫層の上位には砂層が重なる(後述).礫は碎屑物支持(礫支持)で,礫どうしの隙間(基質)はやや泥質な細粒~極細粒な砂で埋められる.礫サイズは中礫サイズ(4mm~64mm)から大礫サイズ(64mm~256mm)のものが主体で,まれに,巨礫(256mm以上)のものが認められる.層の中での礫サイズの変化をみると,礫層の基底付近では10mm程度の小型の中礫サイズのものが目立ち,それより上位では基底部に比べて礫サイズが大きくなる.すなわち,礫層の下部には逆級化(上位に向けて粒径が大きくなること)が見られる.大礫の周りに小型の細礫があるなど,礫サイズのそろいが悪い.礫の形については,角礫状のものもあれば,円摩を受けたものも見られる.

礫層内では,礫が配列する様子は,はっきりとは見られない.言い換えると,河原に見られような,



第127図 遺跡周辺の地質

(灰色は和久羅山デイサイト安山岩、黄色が松江層砂岩、紫色系の色がアルカリ玄武岩およびその火砕堆積物である。)鹿野ほか(1994)の地質図より引用。

礫の平らな面を上流側に傾けて並ぶような配列(インブリケーションと呼ぶ)は見られない.一部の礫は,その長軸が礫層の底面に対してほぼ垂直であったり,高角に傾く.礫層の上部10cmでは,円盤形の礫の平らな面が,上位の砂層との境界(=遺跡の表面)にほぼ平行に並ぶ.礫層の含有物として,礫層のトップ付近に長さが50cmを超えるような木片が所々に見られた.

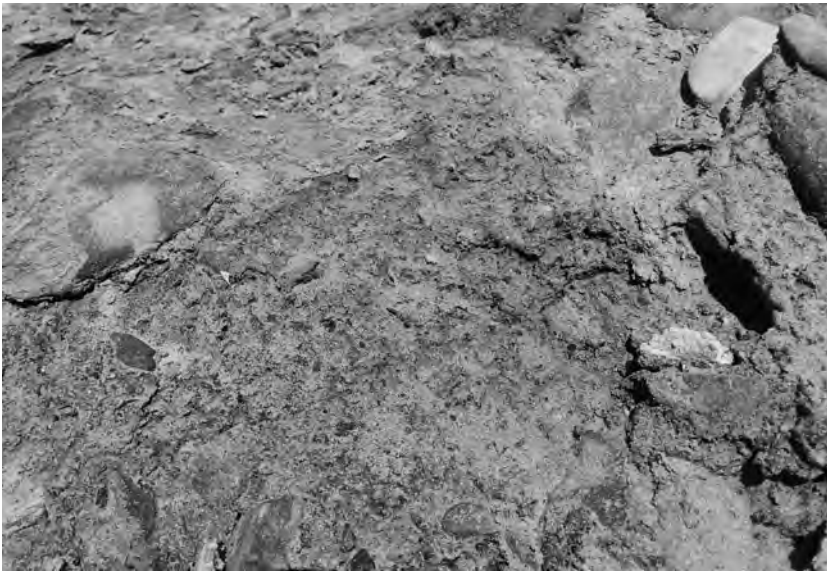
礫の間を埋める基質の砂は灰色で,堆積物の粒径は上位に向けてわずかに細粒化する傾向にある.礫層のトップ付近の基質には砂が多く含まれる(第129図).また礫層上面では,表面に斑点状をした構造が見られる(第130図).斑点の内部には周囲の灰色の砂とは異なる白色の砂が見られる.斑点の形は円形のものもあれば,かなり不規則な形をしたものもある(第130図).遺跡の断面において,一部の砂は,下位から上位に向けて礫の間を伝って連続する様子も確認された.また,礫層のトップに巨礫が点在する様子も見られた.礫層の直上の,砂の表面が,黄色くなっている部分も見受けられた.黄色の部分は表面のみに見られた.

2. 砂層の特徴

礫層を覆う砂層は厚さが最大で20cm程度で,南側(すなわち大橋川方向)に厚くなる傾向がある.砂層は中粒~極細粒の砂からなる.細礫サイズの礫や,炭質物がその内部に含まれる.大型の植物



第128図 遺跡で観察された礫層の断面。
スケールの鎌の長さは35cm.



第129図 礫層のトップの表面の写真。黒色の点は炭質物である。

片が含まれることもあり、1例ではあるが、腐食を被っていない、かなり新鮮な状態の木片を観察することができた(第131図)。砂層の内部構造として、堆積構造が見られることがある。堆積構造にはさまざまなタイプのものがあるが、ここに見られる構造は、砂層の断面で筋模様として見られるものである(流れによる堆積物の運搬によってできる構造：初生堆積構造と呼ばれる)。堆積構造は炭質物や粗い砂粒子の配列をよく観察することで、識別することができる。確認できる堆積構造は局所的には地層の底面に平行なものもあるが、湾曲しているものが主体である(第131図)。遺跡の南側の東西方向の断面では砂層が厚くなり、内部には薄い泥層が少なくとも2層挟まれる(第132図)。南北方向の断面で観察すると、これらの泥層は大局的には南に傾き、層は頻繁に途切れる様子がみられる。途切れ途切れになった泥層が、薄い板を傾けて重ねるような様子も見られる(第133図)。

砂層の中には時折、周囲と同じ色の砂または白色の砂が見られる。その形は断面で見ると円筒状であったり、かなり不規則な形をしている。遺跡南東側の端では、幅約8cmの「逆雨粒型(雨粒の形を上下逆転させた形)をした白色の砂が見られる(第134図)。



第130図 礫層表目の拡大写真.

この写真は礫層を上から撮影したもの。白色の斑点状のものは液状化した白色の砂が下位から注入したものと解釈される。

礫層の形成過程についての解釈

この礫層の形成過程を議論する前に、礫層内部に見られる円筒状の構造について議論する必要がある。円筒状の構造の成因としては、生物の巣穴を砂が埋めたこと、液状化した砂が移動したことの2つの可能性がある。円筒状の構造の内部を埋める白色の砂には見かけ、石英・長石といった鉱物粒子が多く含まれる。この特徴は礫層の基質に含まれる砂の特徴とは異なる。石英・長石粒子が多い砂は花崗岩が供給源となる砂と判断される。もし、この円筒状の構造が巣穴を埋めた砂であるならば、この層の上位に白色の砂層が存在する必要があるが、それは見られない。また、後述するように、上位の砂層にもこの白色の砂が見られ、その一部は明らかに下位からの液状化した砂の上への注入によりもたらされたものと判断される。前述のように、砂の一部は礫の隙間を伝って上位に連続する様子も確認されている。よって、この円筒状の構造の大部分は液状化した砂が基質の砂の中を通ることのできた構造と判断される。

白色の砂の起源としては、次のような可能性がある。(1) 松江層の砂岩に含まれる砂が風化に伴ってもろくなった状態にあり、それが地震などの影響により液状化を起し、礫層に下から入り込んだ。(2) 松江層や花崗岩の分布地域から運搬された砂が大橋川の北岸付近で堆積をしていた。それが地震などの影響により液状化を起し、礫層に下から入り込んだ。しかし、ここでは遺跡の南東部において下位層を観察できなかったため、どちらかの判別をつけることはできなかった。

上で述べたように礫層には液状化した砂層が下から入り込んでいる。すなわち、一度堆積物が変形を受けたため、その形成についての厳密な解釈を行うことはできない。しかし、(a) 礫と礫の間にあたる基質の堆積物の淘汰が比較的悪いこと、(b) 礫の配列にインブリケーションが見られないこと、(c) 礫層の基底に逆級化が見られること、(d) 礫層の内部に、侵食面などの堆積の一時的な休止を示すような構造がみられないことから、この層は1連の流れから堆積した可能性が高く、1回の土石流から堆積した堆積物であると解釈される。この礫層が傾いていることは、これが斜面の上で堆積したことを示す。

礫層に大きな木片が含まれることもこの礫層が土石流から堆積した可能性を強く示唆する。通常の水の流れでは、木片などの密度の小さな物質は礫とは別に浮いて運ばれることが多い。礫と大きな木片、砂といった物質が同一の層に含まれるには、それらが混在する流れから、急速に堆積する



第131図 遺跡の東壁に露出している砂層の写真。下の写真には解釈を加えている。写真中央下部の橙色の部分は腐食を免れた木片。そのすぐ左側には、茶色の炭質物の濃集したごく薄い層が右上から左下にたいへん緩い傾きで傾く様子が見られる。写真右半分の部分に炭質物が見られない砂の部分がある（点線で取り囲んだ部分）。これは下から、液状化した砂が入り込んだものと推定される。細い点線は堆積構造の一部をトレースしたものの。

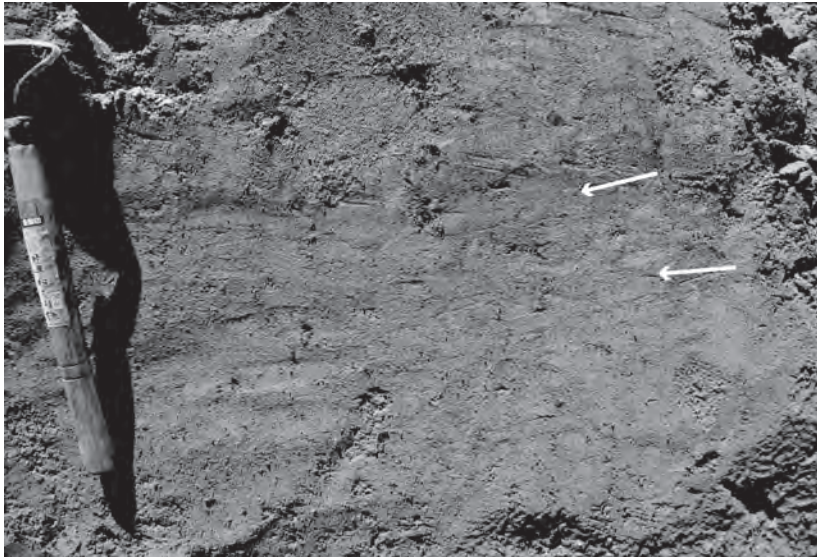


必要がある。

礫層のトップ付近や上位に重なる砂層に、黄色の物質の付着があったことを踏まえると、これは海水の影響のある水中で堆積したものと推定される。黄色の物質は、おそらくジャロサイトと呼ばれる、黄鉄鉱が風化を受けることによって形成された鉱物と考えられる。なお、堆積物中の黄鉄鉱の多くは海水の影響があり、酸素の少ない環境下で、硫酸還元バクテリアによって形成される。

礫層の分布が遺跡の西側に偏って分布することも、これが土石流によって運搬されたことで説明が可能である。第126図に示すように遺跡周辺には2本の谷がある。東側の谷は北方の山頂付近から伸びており、仮に土石流がこの谷からもたらされたとすると、流れの勢いの強い土石流は北北東から南南西に進み、谷の出口付近では、谷の中心よりも少し西に偏った位置に堆積物をもたらすこととなる（山の斜面を流れ下った土石流は、通常の川の流れと違い、急に流れの方向を変えることはできない）。

上記の内容を総合的にまとめると、この礫層は、近隣の山からもたらされた土石流が大橋川に流入し、流れが水中の斜面上で急停止することで堆積したものである可能性が高い。

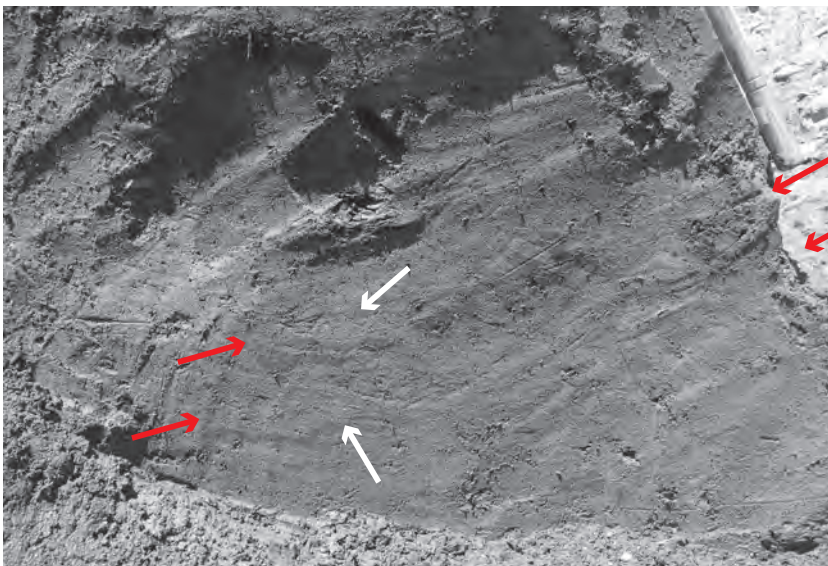


第132図 遺跡南側の東西方向の断面で観察した砂層。スケールの鎌の長さは35cm。矢印で示した2層準に薄い泥層が挟まる。

砂層と泥層の形成についての解釈

砂層も礫層と同様に、堆積後の変形を受けているため、その形成についてのより詳しい解釈を行うことは難しい。しかし、泥層が挟まれること、粒径が比較的細かいこと、一部に堆積構造が残されていることを踏まえると次のような解釈が可能である。(1) 砂層、泥層ともに南に向かって傾くことから、傾斜のある環境で堆積をした。(2) 礫層を直接覆う砂層は、土石流後の比較的弱い水流が大橋川に流れ込んだ際に堆積したものと解釈される。堆積物の運搬形態としては、浮遊(水中を浮いて移動する運ばれ方)または、掃流(底面を転がったり、飛び跳ねたりする運ばれ方)が考えられる。(3) 泥層の堆積は流れが穏やかになったタイミングで形成されたと解釈される。

泥層には生痕化石、植物の根の化石、乾裂(田圃にできる干割れ)の痕跡が見られない。乾裂や植物の根の化石が含まれないことは、これらは陸上ではなく、水中で堆積したことを示す。堆積後に巣穴を掘る生物によって乱されなかった理由としては、(a) 泥の堆積後、比較的短い間隔で砂の堆積が起きたために、生物が活動できなかった、または(b) 貧酸素的な環境であったために生物が活動できなかったことが考えられる。この場合、どちらであったか、現状では判断できない。



第133図 遺跡の南北方向の断面で見られる砂層と泥層。赤矢印で挟んだ層準が第132図に示した泥層と同じ早である。見かけ15度程度で泥層は南へ傾くが、層自体は途切れ途切れとなっている。白矢印で示した部分には途切れた泥層が薄い板を重ねたような状態になっている様子が観察される。



第134図 砂層中に見られる逆雨粒型をした白色の砂。

南北方向の断面で、泥層が断片化し、小さな板状になった泥の塊が北側に平らな面を傾けて配列する様子が見られた。これは泥が堆積したあと、ごく小規模な地すべりが発生したことでできたと解釈される。第133図のような配列は、斜面上で層状に堆積した泥層がごく小規模な地すべりによって断片化し、板状となった泥の塊にすぐ後方から移動してきた別の泥の塊がのし上げて形成されたものと解釈される。

第131図および第134図に示した液状化した砂の注入の痕跡は、砂層は堆積後に、液状化をした堆積物の注入を被ったことを表す。特に白色の砂が入り混んでいる特徴は礫層のものと共通である。液状化を引き起こした原因は、水中において、砂層の上に大量の堆積物が急速に堆積すること、地震による強い振動などが考えられる。この場合、大量の堆積物が急速に堆積したこと（礫層が堆積したこと）に原因を求めることは難しい。液状化

した砂は急速に堆積したと解釈される礫層を貫いており、その上位に重なる砂層にも入り混んでいる。このことは、急速な堆積作用が起きた後に液状化が発生したことを示しているからである。

礫層は人の手によって積まれたものか？それとも自然のものか？

この問いに対して現状では、100%自然のものである、とは言い切れない。それは、礫層が堆積した後に液状化した砂の注入を受けるなど、自然の作用による変形を受けているためである。しかし、液状化を受けていない部分では、礫の間を埋める基質は均質で、かつ基質の割合も高いことから、礫層自体は自然の堆積作用によって形成された可能性がかなり高いと言えよう。人が積んだのであれば、もう少し、礫の割合が高くて良いはずである。また、人為的に水中に堆積物をつぎつ



第135図 遺構基底部に見られた“泥層”の内部の様子。内部には薄い茶色や、薄い緑色をした粒子が見られた。

ぎと投げ込んだのであれば、礫が高角に配列している様子を説明しづらい。投げ込まれた堆積物は、着底後、横になるか、転がって運ばれて停止するためである。

引用文献

鹿野和彦・山内靖喜・高安克己・松浦浩久・豊 遙秋 (1994), 松江地域の地質, 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 126p



第136図 凹地形の拡大写真。写真手前方向が大橋川。



第137図 凹地形の拡大写真。写真手前方向が大橋川

第2節 シコノ谷遺跡

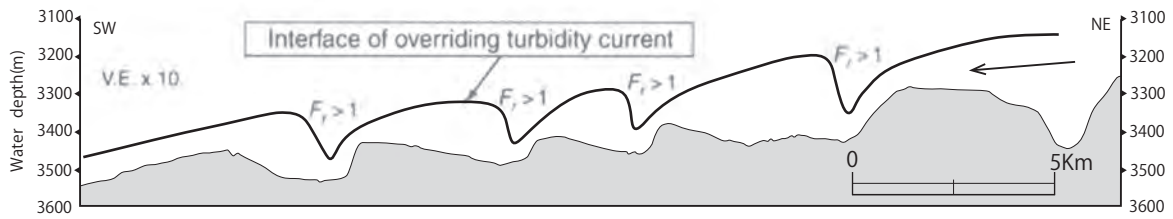
土層観察コメント2

1 遺構基底の泥について

遺構基底の表面が白色の泥層には、内部に色が異なる粒子が多数見られた。粒子の色は薄い緑を帯びたもの、茶色味を帯びたものなどが見られた（第135図）。この特徴から、この泥層はこの場所の基盤となる松江層の玄武岩質火山礫凝灰岩が強く風化を受けたものと見なされる。このため、泥層と呼ぶのは適切ではない。以下では、シンプルに「松江層」または「強風化を受けた松江層」と呼ぶこととする。

2. 松江層のトップに見られた凹凸について

松江層のトップはこの遺構内では平坦ではなく、深さ 30cm 程度の凹地形が点在をしている。この凹地形は山側から大橋川の方向に幅 30 ～



第138図 サイクリックステップの地形断面図（ただし海底の例）。黒い実線は強い流れの上面を表す（陸上であれば水面に相当）。Fildani et al(2006)より引用

50cm程度で、細長く伸びる傾向が見られる。この凹地形を詳しくみると、山側から急な段差で凹みが始まり、そこには周りより深い凹みがある。そして大橋川寄りで凹みが浅くなる傾向にある。一部の凹凸には途切れ途切れに大橋川に向かって連続する傾向が見られる。（第136図、第137図）。

上記の凹みが連続して、階段状の凹みが連続する部分では、大橋川側に向かって凹みの底が標高を下げる。階段状の段差の部分では、段差のすぐそばに円形に近い凹みが見られた。第137図の写真で、水がたまっている部分がそれに相当する。平坦に見える部分はほぼ平らか、大橋川側にやや高くなる傾向がある。

強風化を受けた松江層のトップに見られた凹みは、上記のような特徴から判断して、水流によって形成された侵食地形であると解釈される。段差のあるところのすぐ下流で凹み、その下流で平坦または少し盛り上がる地形は、サイクリックステップと呼ばれる地形（第138図）に類似する。このタイプの地形は山間域（第139図）のみならず、深海底、最近では火星にもその存在が指摘されている（Fildani et al., 2006, Yokokawa et al., 2016など）。サイクリックステップはかなり流れの速い条件下で作られる地形として知られる。

今回見つかった侵食地形に類似した地形は島根県内での山間部でも見つかっている。例えば、第140図に示したのは、隠岐・島後の隠岐の島町東郷川最上流部の様子である。この場所では、硬い岩石である玄武岩が侵食を受けた結果として小規模なサイクリックステップが形成されている。通常時の流れではなく、多量の降水に伴い出水し、早い流れが発生、それが長期に亘り何度も繰り返されたことによりこの地形は作られたと解釈される。今回見つかった、遺構内での地形も同様に、降水時の繰り返し出水に伴って形成されたと解釈される。

遺構内のサイクリックステップが形成されたタイミングについて、この地形面が大橋川の水面（＝ほぼ海面）より低いところにあることを踏まえると、この場所が海面よりも高い位置にあった時代、すなわちおよそ7,000年前頃よりも以前（おそらくは8,000年前以前）であったと解釈される。

3. 礫層の成因について

礫層そのものの特徴は、前節で記載したものに類似する。このため、詳しい観察結果はそちらを参照して頂きたい。結論のみを述べると、陸上で発生した土石流が水中に流れ込んで堆積したものと解釈される。また、今回はサメの歯化石も礫層の中から見つかっているとのことであった。サメの歯化石の産出は、食用等に利用されたあと、廃棄（？）されたサメの歯が陸上で土石流に取り込まれて、水中で堆積したものと解釈される。



第139図 山間域の河川に発達したサイクリックステップの一例。山梨県西沢溪谷・七ツ釜五段の滝の写真(Izumi et al.(2017)より引用)



第140図 隠岐の島町東郷川最上流域にみられた小規模サイクリックステップ。写真奥が下流側。

引用文献

- Fildani, A., Normark, W.R., Kostic, S., and Parker, G., 2006, Channel formation by flow stripping: large-scale scour features along the Monterey East Channel and their relation to sediment waves. *Sedimentology*, 53, 1265-1287.
- Izumi, N., Yokokawa, M. and Parker, G., 2017, Incisional cyclic steps of permanent form in mixed bedrock-alluvial rivers. *Journal of Geophysical Research (Earth Surface)*, 122, 130-152.
- Yokokawa, M., Izumi, N., Naito K., Parker, G., Yamada, T. and Greve, R., 2016, Cyclic steps on ice. *Journal of Geophysical Research (Earth Surface)*, 121, 1023-1048.

第3節 若宮谷遺跡発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント(株)

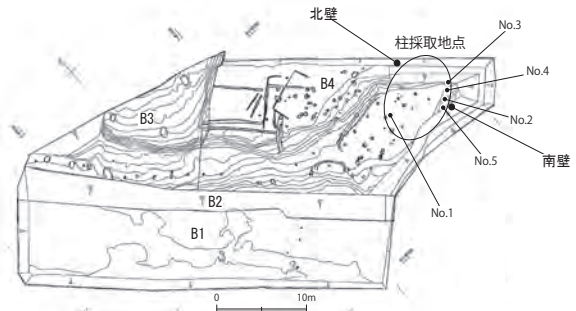
はじめに

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が、若宮谷遺跡周辺地域の古環境（古植生，堆積環境）の変遷及び、出土柱（杭）列の年代及び用材を明らかにする目的で、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターからの委託を受け、実施・報告した花粉分析、珪藻分析、植物珪酸体分析、樹種同定、AMS年代測定について、再編したものである。

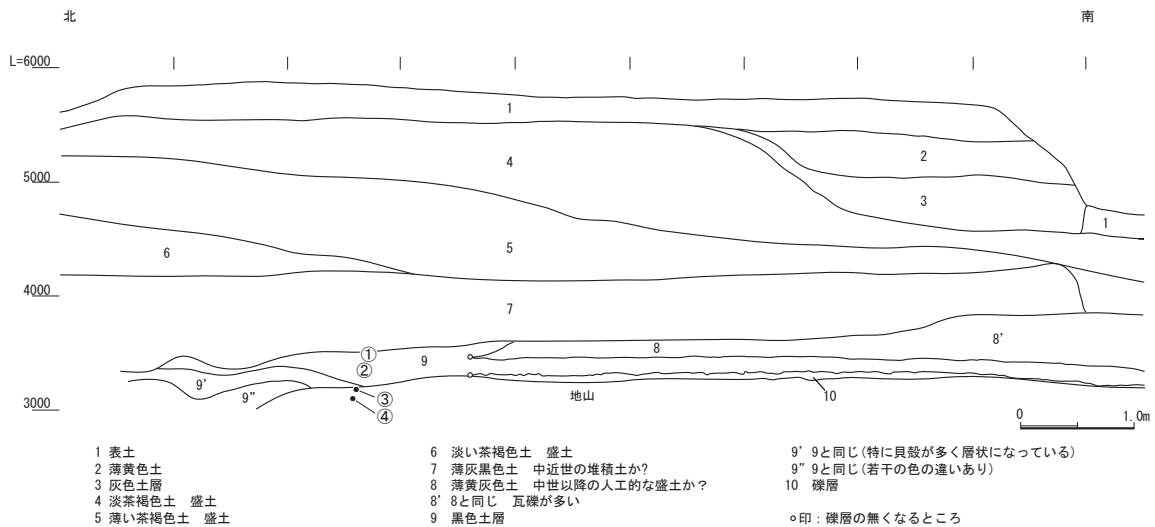
また、若宮谷遺跡は島根県東部松江市朝酌町矢田地内に位置する遺跡であり、一級河川斐伊川水系大橋川北岸に立地する。

分析試料について

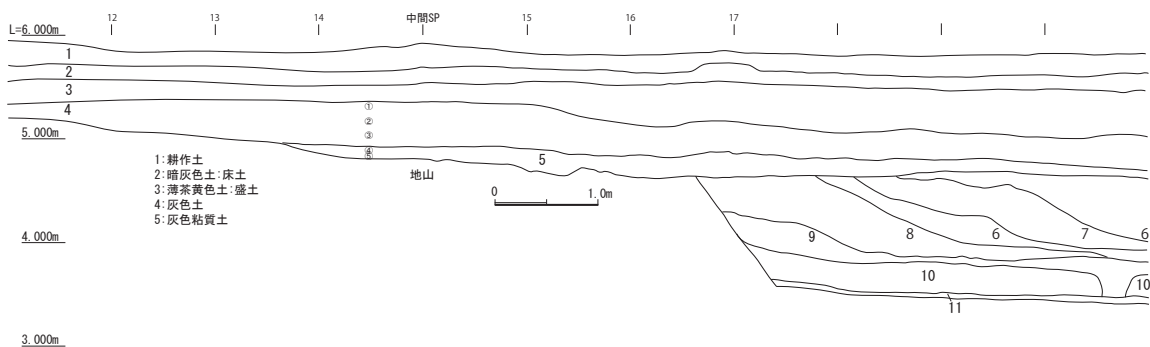
花粉分析、珪藻分析、植物珪酸体分析試料は文化財調査コンサルタント株式会社が採取し、樹種同定、AMS年代測定試料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センターにより採取・保管中の試料から御提供を受けた。第141図に試料採取地点を示し、第142、143図に試料採取地点の断面（試



第141図 試料採取地点



第142図 南壁地点断面図（試料採取位置）



第143図 南壁地点断面図（試料採取位置）

料採取位置)を示す。南壁では①～④の位置で、北壁では①～⑤の位置で分析試料を採取した。また、使用した平面図及び断面図は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより御提供を受けた原図をもとに、作成した。

分析方法

1) 微化石概査方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉(孢子)、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を5段階で示した。

2) 花粉分析方法

渡辺(2010a)に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・孢子化石の同定も行った。また中村(1974)に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科(40ミクロン以上)と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科(40ミクロン未満)に細分した。

3) 珪藻分析方法

珪藻分析は渡辺(2010b)に従って実施した。珪藻化石の観察・同定は、光学顕微鏡により400～1000倍を用いて実施した。原則的に200粒の珪藻化石の同定・計数を行ったが、全ての試料で珪藻化石が含まれていないか、含有量が極めて少ないために、200粒の計数に至らなかった。

4) 植物珪酸体分析方法

藤原(1976)のグラスビーズ法に従い行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。同定に際して第1表に示した、母植物との対応が明らかなイネ亜科の機動細胞を中心とした分類群を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が300を超えるまで計数を行った。

第1表 同定対象分類群

5) 樹種同定方法

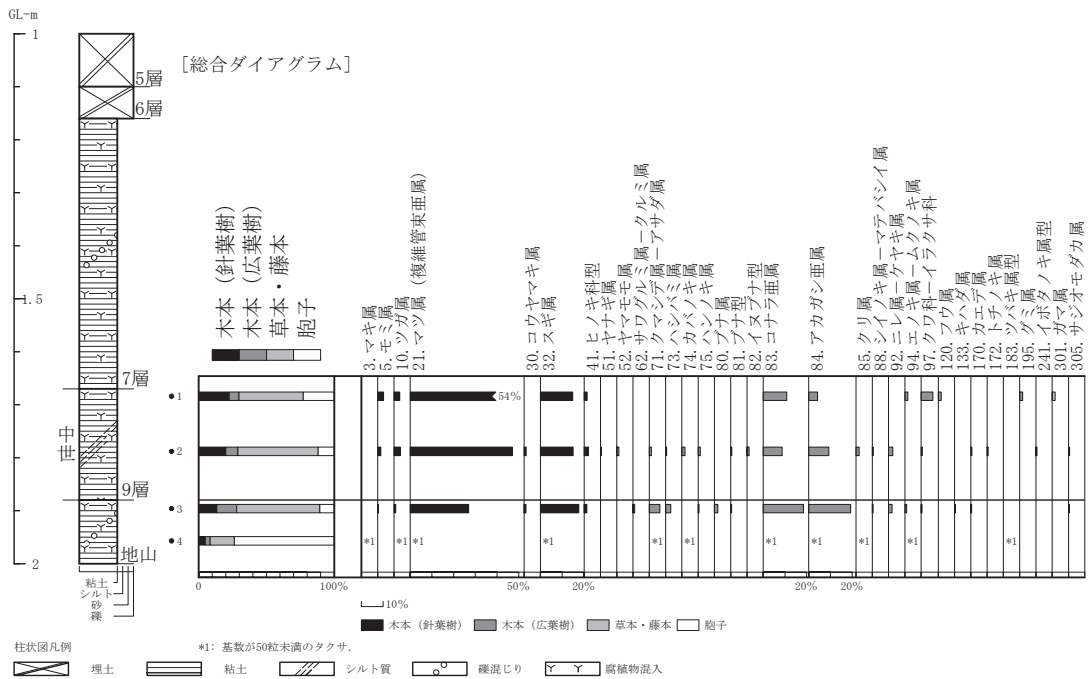
顕微鏡観察用永久プレパラートは、渡辺(2010c)に従い作成した。作成した永久プレパラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で4倍～600倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、顕微鏡写真撮影を行うとともに、島地ほか(1985)の用語に基本的に従い、記載を行った。

6) AMS年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製

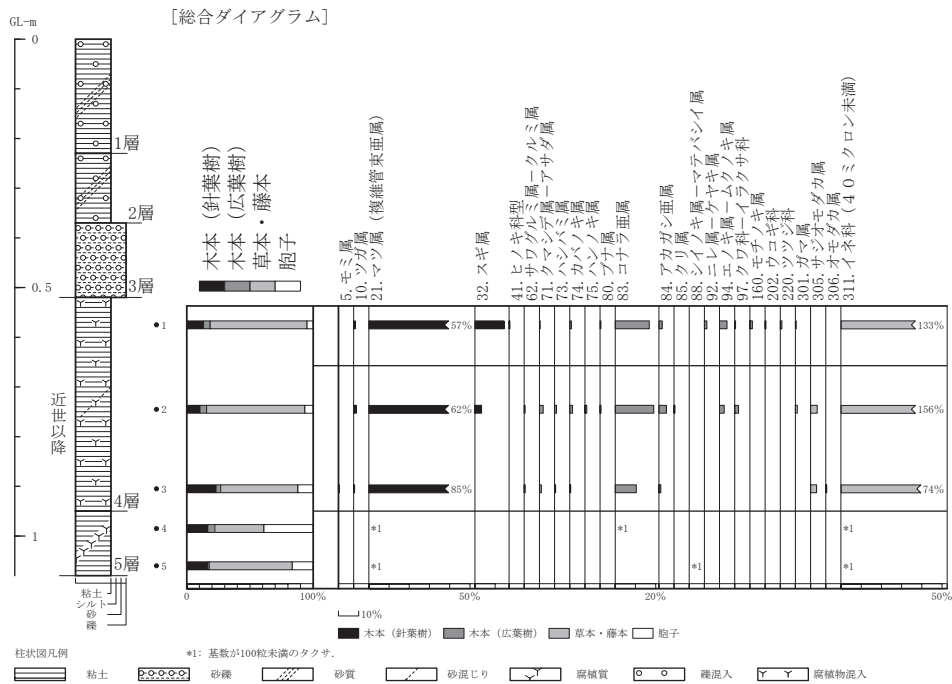
同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1 栽培植物との対応が明らかな分類群	1	イネ	イネ
	3	イネ籾殻(穎の表皮細胞)	イネ
	21	ムギ類(穎の表皮細胞)	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属(シコクビエ型)	シコクビエ
	61	キビ族型	ヒエ・アフ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アフ
	84	ウシクサ族B	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4 母植物との対応が明らかな分類群	11	サヤヌカグサ属	サヤヌカグサ・アシカキ
	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダンハ属	トダンハ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族A	チヂヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科(スゲ属など)	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科(シイ属)	シイ類
	503	ブナ科(アカガシ亜属)	カシ類
510	クスノキ科	バリバリノキなど(クスノキ以外)	
520	マンサク科(イスノキ属)	イスノキ属	
530	アブキ科	アブキ科	
540	モクレン属型	モクレン属	
570	マツ科型	マツ科	
580	マツ属型	マツ属	

B区南壁



第144図 花粉ダイア

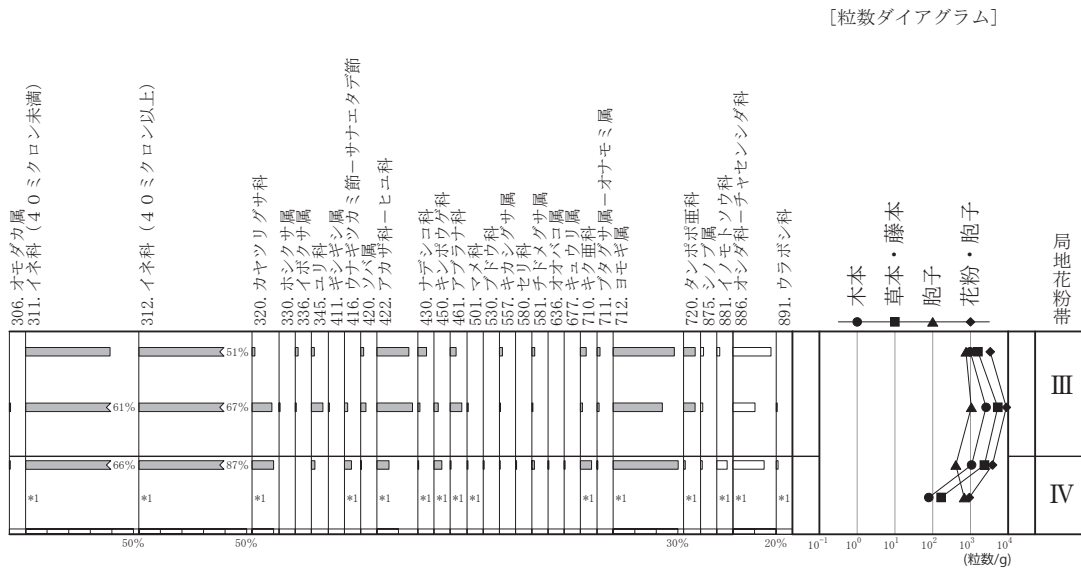
B区北壁



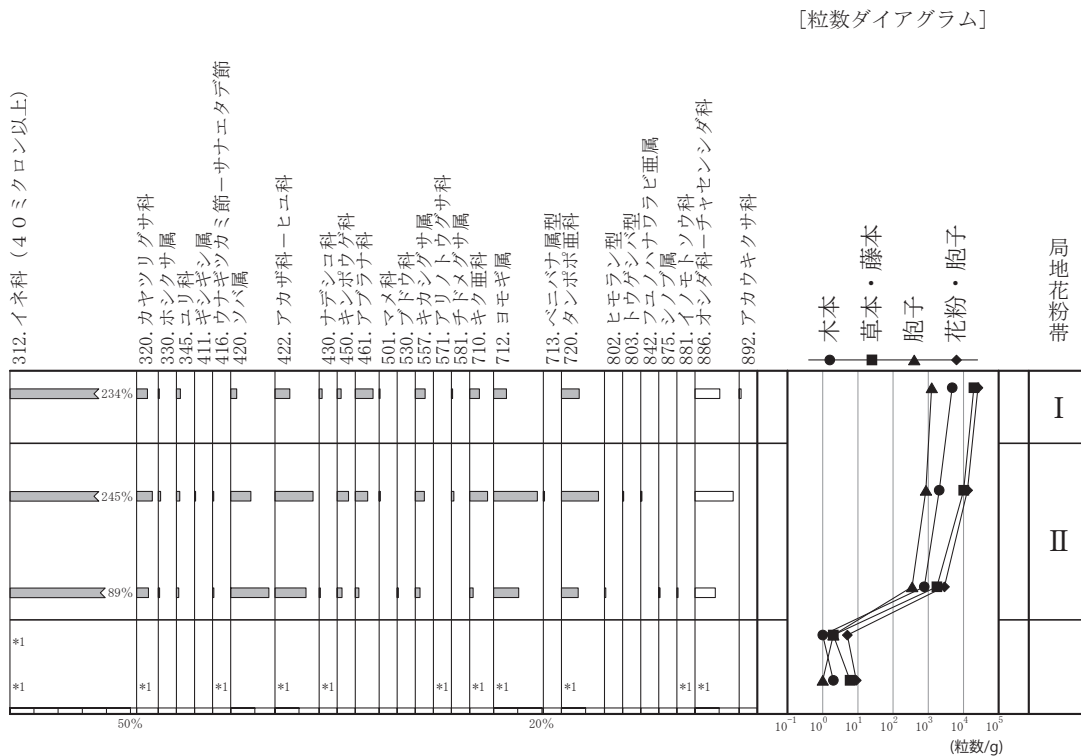
第145図 花粉ダイア

分析結果を第144、145図の花粉ダイアグラム及び第3表の花粉化石組成表に示す。

花粉ダイアグラムでは、分類ごとに百分率（百分率の算出には、木本花粉総数を基数にしている。）を算出し、分類群ごとに異なるハッチのスペクトルで表している。また左端に、分類群ごとの割合を示す「総合ダイアグラム」を、右端に分類群ごとに含有量（湿潤試料1g中の粒数）の変化を示す「粒数ダイアグラム」を配置している。木本花粉の検出量が少ない4試料の内、南壁試料No.1は上記のスペクトルで示した。その他の3試料は、検出した種類を「*」で示した。



グラム (B区南壁)



グラム (B区北壁)

以下に、地点ごとに花粉化石群集の特徴を記載する。また、花粉化石群集の時間的変遷を明らかにするために、下位から上位に向かって記載する。

① 南壁

試料No. 4 では統計処理に十分な量の木本花粉が検出できなかった。

試料No. 3 ではマツ属 (複維管束亜属)、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属がそれぞれ 20%程度の出現率を示す。草本花粉ではイネ科 (40ミクロン未満)、イネ科 (40ミクロン以上) が 50%を超え、

ヨモギ属が30%と続く。

試料No. 2、1ではマツ属（複維管束亜属）、が50%程度の出現率を示し、スギ属が15%、コナラ亜属が11%と続く。草本花粉ではイネ科（40ミクロン未満）、イネ科（40ミクロン以上）が40～50%の出現率を示し、ヨモギ属が28%アカザ科-ヒユ科が15%と続く。

② 北壁

試料No. 5、4では統計処理に十分な量の木本花粉が検出できなかった。

試料No. 3、2では、マツ属（複維管束亜属）が60%を超える出現率を示し、コナラ亜属が10～20%と続く。草本花粉ではイネ科（40ミクロン未満）、イネ科（40ミクロン以上）が70～244%の出現率を示し、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が10～20%と続く。

試料No. 1ではマツ属（複維管束亜属）が57%、コナラ亜属が17%、スギ属が14%と続く。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が234%の出現率を示すほか、イネ科（40ミクロン未満）も133%と高率である。

3) 珪藻分析結果

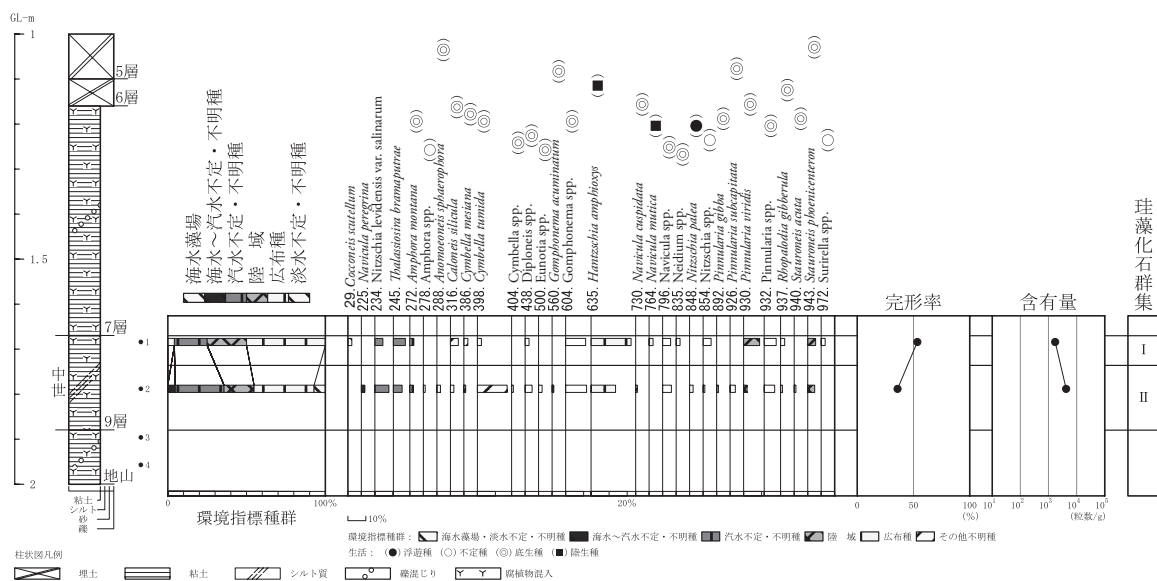
分析結果を第146図の珪藻ダイアグラム及び第147図の珪藻総合ダイアグラム、第4表の珪藻化石組成表に示す。

珪藻ダイアグラムでは計数した総数を基数にし、百分率で表した。また、環境指標種群（千葉・澤井(2014)）を基にスペクトルのハッチを変えている。さらに、環境指標種群ごとの累積グラフ、含有量グラフ、完形率グラフを付けた。珪藻総合ダイアグラムのうち、左端の「生息域別グラフ」は同定したすべての種類を対象にそれぞれの要因（生息域）ごとに累積百分率として示した。そのほかの4つのグラフは、淡水種について要因ごとに累積百分率として示した。

以下に珪藻化石群集の特徴を記載する。また、珪藻化石群集の時間的変遷を明らかにするために、下位から上位に向かって記載する。

南壁試料No. 4、3、北壁試料No. 5、4では、珪藻化石が全く検出できなかった。堆積後の化学変化で溶解したものと考えられる。

B区南壁



第146図 珪藻ダイアグラム (B区南壁)

南壁試料No. 2、1ともに海～汽水産種が15%程度含まれていた。試料No. 2では淡水・底生・止水種に分類される *Cymbella tumida* の検出量が多く、試料No. 1では陸生種の *Hantzschia amphioxys* の検出量が多かった。

4) 植物珪酸体分析結果

分析結果を第148図の植物珪酸体ダイアグラム、第5表の植物珪酸体化石組成表に示す。

植物珪酸体ダイアグラムでは、1gあたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。

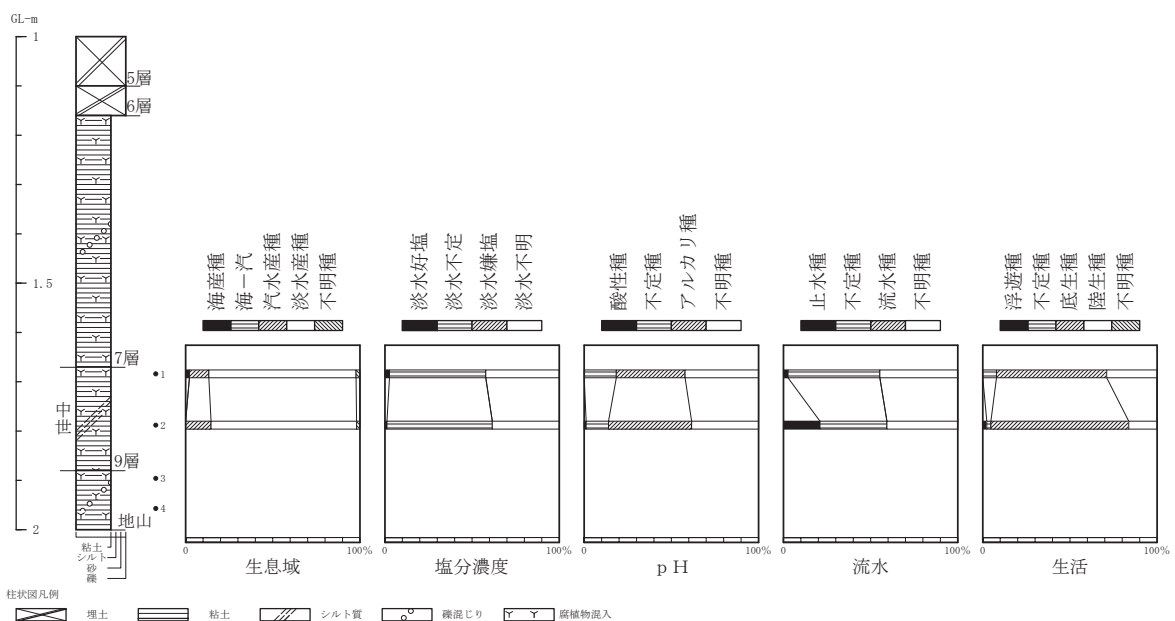
4層ではイネが検出されたほか、ササ類、特にメダケ節型、ネザサ節型の検出密度が高かった。一方5層ではイネは検出されず、ササ類の構成もチマキザサ節型、ミヤコザサ節型の割合が高かつ

第4表 珪藻化石組成表

コード	学名	生息域					B区南壁			
		水域	塩分濃度	Ph	流水	生活	1	2	3	4
29	<i>Cocconeis scutellum</i>	海					1	2.3%		
225	<i>Navicula peregrina</i>	汽水							2	2.0%
234	<i>Nitzschia levidensis</i> var. <i>salinarum</i>	汽水					2	4.5%	8	7.9%
245	<i>Thalassiosira bramaputrae</i>	汽水					3	6.8%	5	5.0%
272	<i>Amphora montana</i>	淡水	不定	アルカリ	不明	底生	1	2.3%	2	2.0%
278	<i>Amphora</i> spp.	淡水	不定	不明	不明	不定			1	1.0%
288	<i>Anomooneis sphaerophora</i>	淡水	不定	アルカリ	不定	底生			2	2.0%
316	<i>Caloneis silicula</i>	淡水	不定	アルカリ	不定	底生	2	4.5%	2	2.0%
386	<i>Cymbella mesiana</i>	淡水	不定	不明	不明	底生	1	2.3%	1	1.0%
398	<i>Cymbella tumida</i>	淡水	不定	アルカリ	止水	底生	1	2.3%	17	16.8%
404	<i>Cymbella</i> spp.	淡水	不定	不明	不明	底生			1	1.0%
438	<i>Diploneis</i> spp.	淡水	不定	不明	不明	底生	1	2.3%	4	4.0%
500	<i>Eunotia</i> spp.	淡水	不定	不明	不明	底生			2	2.0%
560	<i>Gomphonema acuminatum</i>	淡水	不定	アルカリ	止水	底生			1	1.0%
604	<i>Gomphonema</i> spp.	淡水	不定	不明	不明	底生	5	11.4%	12	11.9%
635	<i>Hantzschia amphioxys</i>	淡水	不定	アルカリ	不定	陸生	10	22.7%	14	13.9%
730	<i>Navicula cuspidata</i>	淡水	不定	アルカリ	不定	底生			1	1.0%
764	<i>Navicula mutica</i>	淡水	不定	不定	不定	陸生	1	2.3%		
796	<i>Navicula</i> spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	2	4.5%	5	5.0%
835	<i>Neidium</i> spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	1	2.3%		
848	<i>Nitzschia palea</i>	淡水	不定	不定	不定	浮遊			2	2.0%
854	<i>Nitzschia</i> spp.	淡水	不明	不明	不明	不定	2	4.5%	1	1.0%
892	<i>Pinnularia gibba</i>	淡水	不定	酸性	不定	底生			1	1.0%
926	<i>Pinnularia subcapitata</i>	淡水	不定	不定	不定	底生			3	3.0%
930	<i>Pinnularia viridis</i>	淡水	不定	不定	不定	底生	4	9.1%	2	2.0%
932	<i>Pinnularia</i> spp.	淡水	不明	不明	不明	底生	3	6.8%	6	5.9%
937	<i>Rhopalodia gibberula</i>	淡水	好塩	アルカリ	不定	底生	1	2.3%	1	1.0%
940	<i>Stauroneis acuta</i>	淡水	不定	アルカリ	不定	底生			1	1.0%
943	<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	淡水	不定	不定	不定	底生	2	4.5%	4	4.0%
972	<i>Surirella</i> spp.	淡水	不明	不明	不明	不定	1	2.3%		
海水産種合計							1	2.3%		
海～汽水産種合計									2	2.0%
汽水産種合計							5	11.4%	13	12.9%
淡水産種合計							38	86.4%	86	85.1%
合計							44		101	
含有量(粒数/g)合計							1739		4239	
完形率							23		35	
							53.3%		35.9%	

左よりカウント粒数、百分率

B区南壁



第147図 珪藻総合ダイアグラム (B区南壁)

た。

5) 樹種同定結果

顕微鏡観察の結果、全ての試料がマツ属（複維管束亜属）であった。特徴的な試料（下線試料）の記載を以下に示し、第 149 図に顕微鏡写真を示した。

(1) マツ属（複維管束亜属）*Pinus* (sub. *Diploxylon*) sp.

試料名：1(W20070601)、2(W20070604)、3(W20070602)、4(W20070603)、5(W20070605)

記載：構成細胞は仮道管、放射仮

第5表 植物珪酸体化石組成表

道管、放射柔細胞、垂直樹脂道及び水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる。早材から晩材への移行はやや急で、晩材の幅は広い。放射仮道管には鋸歯状肥厚が認められる。放射組織は単列であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を示す。エピセリウム細胞は薄壁である。垂直樹脂道は早、晩材部ともに分布し、チロソイドが見られる。分野壁孔は窓状であることなどから、マツ属（複維管束亜属）と同定した。

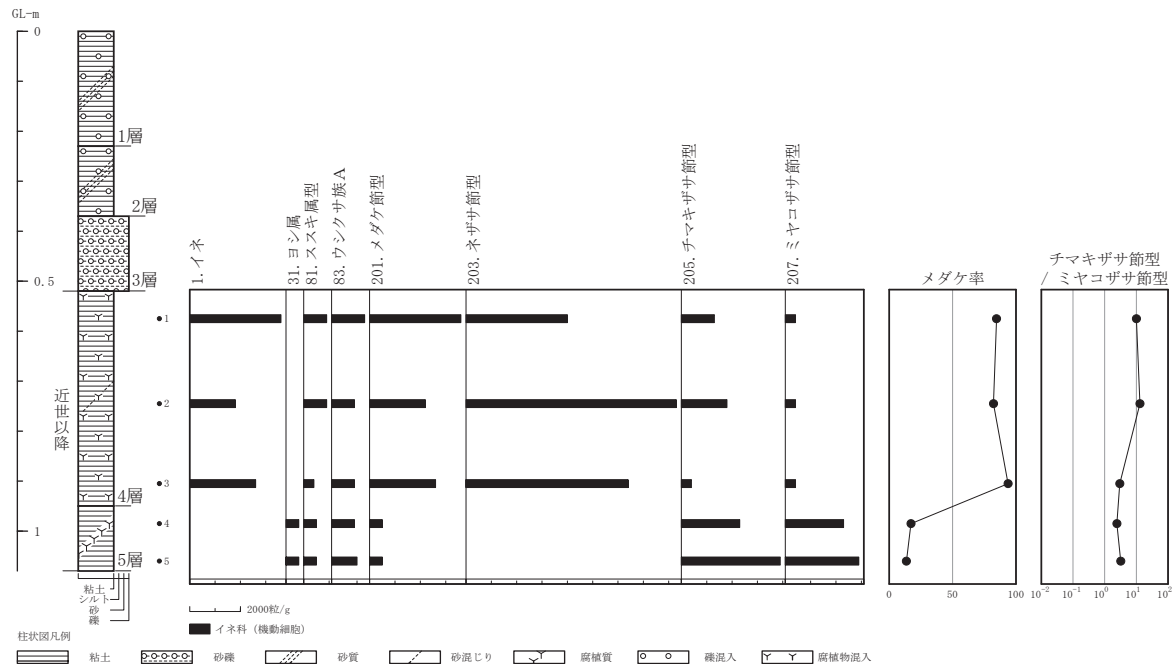
調査区		B区				
調査地点		北壁				
試料No.		1	2	3	4	5
1	イネ	8	4	6	-	-
		36	18	26	-	-
		1.05	0.52	0.75	-	-
31	ヨシ属	-	-	-	1	1
		-	-	-	5	5
		-	-	-	0.29	0.31
81	ススキ属型	2	2	1	1	1
		9	9	4	5	5
83	ウシグサ族A	0.11	0.11	0.05	0.06	0.06
		3	2	2	2	2
		13	9	9	9	10
		-	-	-	-	-
201	メダケ節型	8	5	6	1	1
		36	22	26	5	5
		0.42	0.25	0.30	0.05	0.06
203	ネザサ節型	9	19	15	-	-
		40	83	64	-	-
		0.19	0.40	0.31	-	-
205	チマキザサ節型	3	4	1	5	8
		13	18	4	23	39
		0.10	0.13	0.03	0.17	0.29
207	ミヤコザサ節型	1	1	1	5	6
		4	4	4	23	29
		0.01	0.01	0.01	0.07	0.09
プラント・オパール総数		211	206	162	78	122
カウントガラスピース数		469	470	490	455	443
カウント総数		680	676	652	533	565
試料重量(×0.0001g)		10130	10360	10250	10140	10160
ガラスピース重量(×0.0001g)		233	234	234	232	240
メダケ率(%)		84.7	82.3	93.8	17.2	13.6
チマキザサ節型/ミヤコザサ節型		10.00	13.00	3.00	2.43	3.22

6) AMS 年代測定結果

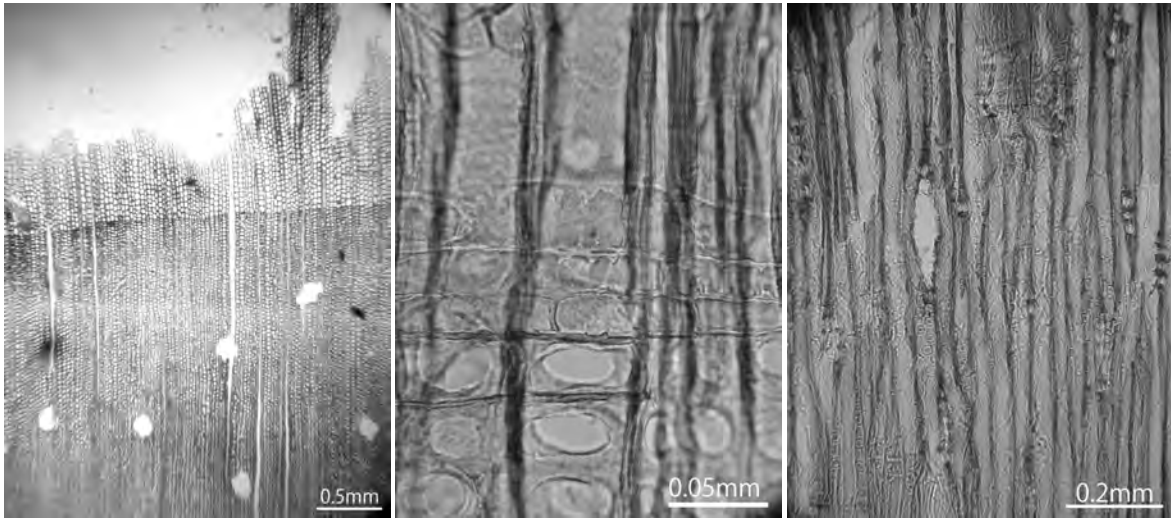
測定結果を第 150 図、第 6 表に示す。

上段 検出粒数
中段 検出密度(単位: ×100粒/g)
下段 推定生産量(単位: kg/m²・cm)

B区北壁



第 148 図 植物珪酸体ダイアグラム



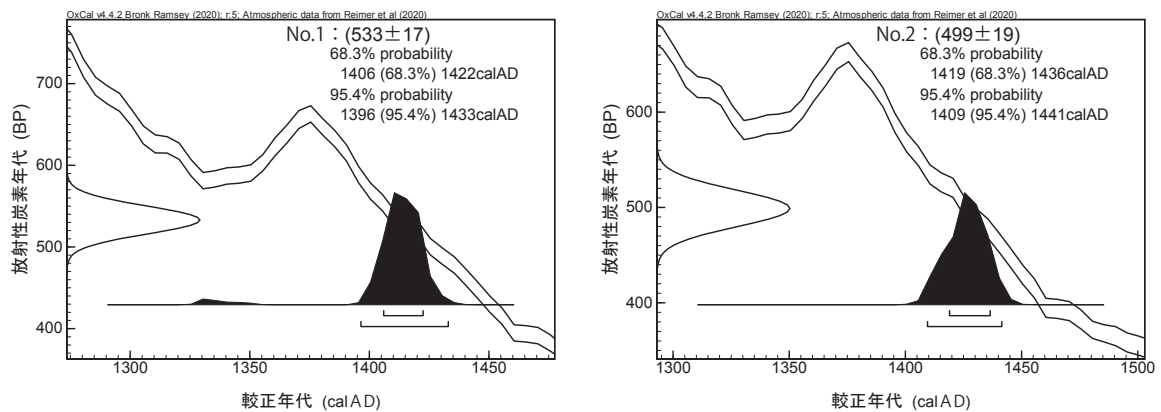
第149図 顕微鏡写真(No.1)

第6表には、試料の詳細、前処理方法、 $\delta^{13}\text{C}$ 値と4種類の測定年代を示している。第150図にはINTCAL20 (Reymer et al., 2020)を用いた暦年較正結果を示した。また、確率分布と σ 、 2σ の較正範囲を示している。

花粉分帯

第6表 年代測定結果

試料								
試料No.	遺跡	地区	出土地点 (遺構ほか)	状況	重量(g)	推定時期		
1	若宮谷遺跡	B4区東端	SB01内P57	柱 マツ属(複維管束亜属)	0.7114	15C頃		
2			SA03	柱 マツ属(複維管束亜属)	0.8136			
試料No.	前処理	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正無年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年に較正した年代範囲		測定番号
						1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
1	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)	-29.11 \pm 0.12	601 \pm 17	533 \pm 17	535 \pm 15	1406-1422 cal AD (68.3%)	1396-1433 cal AD (95.4%)	PLD-41270
2	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)	-28.59 \pm 0.12	558 \pm 19	499 \pm 19	500 \pm 20	1419-1436 cal AD (68.3%)	1409-1441 cal AD (95.4%)	PLD-41271



第150図 暦年較正結果

花粉分析結果を基に、花粉分帯を行った。

以下に、各（局地）花粉帯の特徴を記載する。また、時間的な推移が明らかになるよう、下位から上位に向かって記載を行った。

① IV帯（南壁試料No. 3）

マツ属（複維管束亜属）、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属が高率で程度の出現率を示し、他は数%までである。

② III帯（南壁試料No. 2、1）

マツ属（複維管束亜属）が増加し高率を占める。スギ属、コナラ亜属は15%、11%とやや減少する。一方、アカガシ亜属は4%まで減少する。

③ II帯（北壁試料No. 3、2）

マツ属（複維管束亜属）、が更に増加し、試料No. 3では85%を示す。コナラ亜属は増加傾向を示し、スギ属が数%以下に減少する。

④ I帯（北壁試料No. 1）

マツ属（複維管束亜属）が54%まで減少し、コナラ亜属も17%とやや減少する。一方で、スギ属は14%まで急増する。

珪藻化石群集の設定

珪藻分析結果を基に、珪藻化石群集の設定を行った。以下に、珪藻化石群集の特徴を記載する。また、時間的な推移が明らかになるよう、下位から上位に向かって記載を行った。

① II帯（南壁試料No. 2）

淡水・底生・止水種に分類される *Cymbella tumida* が特徴的に検出される。

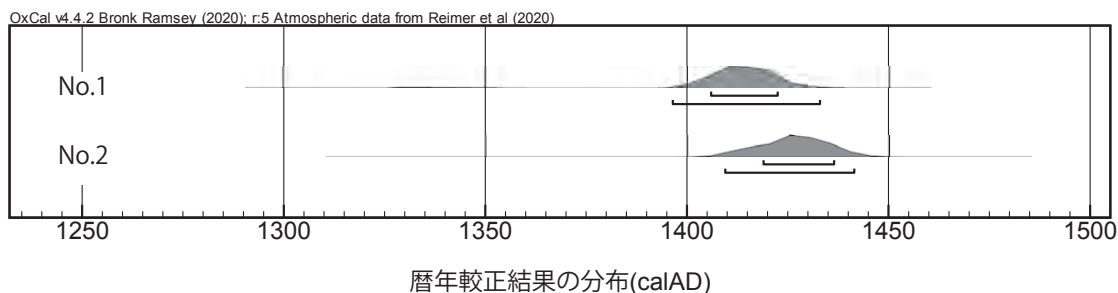
② I帯（南壁試料No. 1）

陸生種の *Hantzschia amphioxys* が特徴的に検出される。

柱の年代値について

第151図に、暦年較正結果の分布を示す。柱の年代測定結果から、試料No. 1（No. 11：B4区東端SB01内P57）は2σで14世紀末～15世紀前半、試料No. 2（No. 14：B4区東端SA03）は2σで15世紀前半の年代を得た。

柱は15世紀の遺構に伴うと考えられており、測定年代とほぼ一致した。



第151図 暦年較正結果の分布

用材について

5 試料全てがマツ属（複維管束亜属）と同定できた。島根県内の柱の用例（渡辺・中川，2013）では、マツ属（複維管束亜属）は 16/265 と 6%程度であり、比較的まれな用例である。4 本が並んで検出されたNo.6(実測番号 12)～No.9(実測番号 15)に関して、杭などの別用途の可能性もある。仮に杭とすれば島根県内の用例（渡辺・中川，2013）では 21/118 と 18%を占め、やや多い用例となる。

古環境変遷

局地花粉帯の変遷に沿って、堆積環境及び遺跡周辺地域での古植生について考察を行う。

(1) IV帯期（南壁試料No.3）：南壁地山

①：推定時期

松江平野周辺での標準的な花粉化石群集の変化を示す SB1（大西ほか，1990）との比較から、イネ科帯アカガシ亜属・コナラ亜属亜帯に対比できる。イネ科帯アカガシ亜属・コナラ亜属亜帯は、弥生時代後期～中世にかけての時期を示すとされており（渡辺・中川，2013）、この範囲のどこかの植生を示していると考えられる。

ただし土層準は地山とされており、基質が有機質の粘土であるが礫層である。基質を構成する粘土が、削平を受け消滅した上位層から下位の礫層に混入した可能性も指摘できる。

②：堆積環境

イネ科（40ミクロン以上）が高率を示しソバ属も検出されるなど、水田環境下で堆積した可能性が指摘できる。ただし前述のように、削平を受け消滅した上位層から混入した可能性もあり、堆積環境については今後の検討が必要である。

③：森林植生

前述のように堆積時期と花粉化石群集の示す時期との間にかい離が指摘されるが、ここでは花粉化石群集が一次的なものと考え、遺跡周辺の森林植生及び近隣の植生について述べる。

木本花粉ではマツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属などの二次林要素が多く検出されており、背後や大橋川対岸の丘陵にはアカマツ、ナラ類を主要素とする薪炭林が広がっていたものと考えられる。一方で、和久羅山や嵩山などには、カシ類にモミヤツガ、コウヤマキなどの温帯針葉樹を混淆した照葉樹林が広がっていたと考えられる。またスギは、谷筋や低地に分布していたと考えられる。遺跡周辺では低地が狭く谷も浅いことから、大橋川対岸が分布域の主体であった可能性も指摘できる。

④：調査地近隣の植生

草本・藤本花粉では稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、イネ科（40ミクロン未満）が続く。また、水田雑草を含むカヤツリグサ科などの湿性草本や栽培種のソバ属も検出され、水田耕作や裏作など（裏作の他、休耕田や畦畔での栽培も予想される）でのソバ栽培も行われていたと考えられる。また、畦畔や路傍にはモミギ類をはじめとするキク科草本などが生育していたと考えられる。

(2) III帯期（南壁試料No.2, 1）：南壁9層

①：推定時期

中世を示す遺物が出土している。大西ほか（1990）との比較から、イネ科帯マツ属亜帯に対比できる。イネ科帯マツ属亜帯は、中世～近世の植生を示していると考えられており（渡辺・中川，2013）、出土遺物からの推定堆積時期と一致する。

②：堆積環境

海～汽水産種の珪藻化石が検出され、大橋川の影響を少なからず受けていたと考えられる。一方検出された珪藻化石のほとんどは淡水・底生種、あるいは陸生種であり、水深のごく浅い湿地での堆積が推定できる。花粉分析で稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率を示すことを踏まえると、9層が水田作土であった可能性が指摘できる。

③：森林植生

木本花粉ではマツ属（複維管束亜属）が増加し、コナラ亜属、アカガシ亜属が減少する。薪炭林はアカマツを主体とするようになり、背後や大橋川対岸の丘陵での分布域を広げていった。前の時期に和久羅山や嵩山などに残っていた照葉樹林域が伐採され、薪炭林に置き換わっていったと考えられる。一方スギ林の分布域には、前の時期からさほど変化はなかったと考えられる。

④：調査地近隣の植生

草本・藤本花粉では、前の時期同様に稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、イネ科（40ミクロン未満）が続く。水田雑草を含むカヤツリグサ科などの湿性草本は減少傾向にあるが依然として検出される。一方でソバ属や畑作雑草、あるいは畑作物となるアカザ科－ヒユ科、アブラナ科が増加する。このことは、ソバの他、アカザ（あるいはヒユ）やナタネが栽培されていたことを示唆する可能性がある。また畦畔や路傍には、前の時期同様に、ヨモギ類をはじめとするキク科草本などが生育していたと考えられる。

(3) 近世盛土？（北壁試料No. 5, 4）：北壁 5 層

①：推定時期

花粉化石はほとんど検出されなかった。植物珪酸体分析で温暖指標のメダケ類（メダケ節型、ネザサ節型）が全く検出されず、寒冷要素のチマキザサ節型、ミヤコザサ節型のみが検出された。近世盛土とされているが、氷期に形成された地山を盛土材とした可能性が高い。

②：堆積環境・古植生

花粉化石、珪藻化石がほとんど検出されず、盛土材の堆積環境、古植生について推定できなかった。

(4) II 帯期（北壁試料No. 3, 2）：北壁 4 層

①：推定時期

近世を示す遺物が出土している。大西ほか（1990）との比較から、イネ科帯マツ属亜帯に対比できる。イネ科帯マツ属亜帯は、中世～近世の植生を示していると考えられており（渡辺・中川，2013）、出土遺物からの推定堆積時期と一致する。

②：堆積環境

花粉分析で、稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、水田雑草を含む湿性植物も多く検出される。さらに、植物珪酸体分析でもイネが少なからず検出されたことから、4層は水田作土であったと考えられる。

③：森林植生

木本花粉ではマツ属（複維管束亜属）が更に増加し、スギ属がほとんど検出されないようになる。本花粉帯の中ではコナラ亜属、アカガシ亜属が増加し、マツ属（複維管束亜属）が減少する。アカマツを主体とする薪炭林は更に広がるが、一部ではナラ類やカシ類を伴うようになったと考えられる。スギ林は伐採され、恐らく水田に変わったものと考えられる。

④：調査地近隣の植生

草本・藤本花粉では、稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、イネ科（40ミクロン未満）が続く。さらに、水田雑草を含むカヤツリグサ科などの湿性草本も検出される。一方でソバ属や畑作雑草、あるいは畑作物となるアカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ベニバナ属型も少なからず検出される。このことは、ソバの他、アカザ（あるいはヒユ）やナタネ、ベニバナが栽培されていたことを示唆する可能性がある。また畦畔や路傍には、前の時期同様に、ヨモギ類をはじめとするキク科草本などが生育していたと考えられる。

(5) I 帯期（北壁試料No.3, 2）：北壁 4 層

①：推定時期

大西ほか（1990）との比較から、イネ科花粉帯マツ属、スギ属亜帯に対比できる。イネ科花粉帯マツ属・スギ属亜帯は現代以降の植生を示していると考えられる。（渡辺・中川、2013）

②：堆積環境

花粉分析ではⅡ帯同様に、稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、水田雑草を含む湿性植物も多く検出される。さらに、植物珪酸体分析でもイネが少なからず検出されたことから、4層は引き続き水田作土であったと考えられる。

③：森林植生

木本花粉ではマツ属（複維管束亜属）がやや減少し、スギ属が急増する。スギ属は近代以降のスギ植林に由来し、薪炭林に置き換わっていったと考えられる。

④：調査地近隣の植生

草本・藤本花粉では、稲作の指標となるイネ科（40ミクロン以上）が引き続き高率を示す。イネ科（40ミクロン未満）を始め、水田雑草を含む湿性草本がやや減少傾向にあり、水田の管理が良好になったものと考えられる。一方でソバなどの畑作も引き続き行われたと考えられる。また畦畔や路傍には、引き続きヨモギ類をはじめとするキク科草本などが生育していたと考えられる。

まとめ

若宮谷遺跡で実施した花粉分析、珪藻分析、植物珪酸体分析の結果から、以下の事柄が明らかになった。

- 1) I～IV帯の局地花粉帯を設定した。松江平野周辺での標準的な花粉層序（大西ほか、1990）との比較から推定される各局地花粉帯の年代観と、出土遺物からの年代観がほぼ一致した。
- 2) 珪藻分析結果を基に、I、Ⅱ帯の珪藻化石群集を設定した。推定される堆積環境に大差なく、いずれも水田作土を示すと考えられる。
- 3) 南壁下層、北壁下層では、珪藻化石が堆積後の化学反応により溶解した可能性がある。
- 4) 花粉分析結果、植物珪酸体結果から周辺地域での古植生、珪藻分析結果から堆積環境を推定した。
- 5) 花粉分析結果などから、南壁 9 層、北壁 4 層は水田作土と考えられる。ここでは、稲作のほか

ソバなどの雑穀類も栽培されていたと考えられる。

6) 北壁5層の盛土材についての知見を得ることができた。

引用文献

- 大西郁夫・干場英樹・中谷紀子（1990）宍道湖湖底下完新統の花粉群．島根大学地質学研究報告，9，117-127.
- 千葉 崇・澤井祐紀（2014）環境指標種群の再検討と更新．Diatom，30，17-30.
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、特にイネを中心として．第四紀研究，13,187-197.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，15-29
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．276p.，文永堂，東京.
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P., Austin, W., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R., Friedrich, M., Grootes, P., Guilderson, T., Hajdas, I., Heaton, T., Hogg, A., Hughen, K., Kromer, B., Manning, S., Muscheler, R., Palmer, J., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R., Richards, D., Scott, E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., & Talamo, S. (2020). The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62.
- 渡辺正巳（2010a）花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳（2010b）珪藻分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，178-181. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳（2010c）木質遺物（埋没樹木）樹種同定．必携 考古資料の自然科学調査法，194－198. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳・中川 寧（2013）山陰の木製品の樹種と植生について．木製品から見た古代の暮らし，37-48．島根県古代文化センター．

第4節 シコノ谷遺跡発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

はじめに

本報は文化財調査コンサルタント株式会社が、遺跡周辺での古環境変遷を明らかにする目的で、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターからの委託を受け、実施・報告したし花粉分析、CNS分析、AMS年代測定及び樹種同定についての報告書を再編したものである。

またシコノ谷遺跡は、島根県東部松江市朝酌町矢田地内に位置し、一級河川斐伊川水系大橋川北岸に立地する遺跡である。

分析試料について

分析試料のほとんどは文化財調査コンサルタント株式会社が採取したが、AMS年代測定試料の一部、樹種同定試料は島根県教育委員会よりご提供を受けた。第152図に調査区の配置と試料採取位置を、第153、154図のB区No.1、2地点断面図中に、試料採取位置を示す。また、以下に示す平面図及び断面図は、島根県教育庁埋蔵文化財センターより御提供を受けた原図をもとに、作成した。

断面図（第 153 図）中に、B 区No.1 地点での試料採取位置を示す。①～⑫の位置で、花粉分析及び CNS 分析用試料を採取した。

また、断面図（第 154 図）中に、B 区No.2 地点での試料採取位置を示す。おおよそ①、②の位置で、花粉分析及び CNS 分析用試料を、②の位置で AMS 年代測定用試料を採取した。

分析方法

1) 微化石概査方法

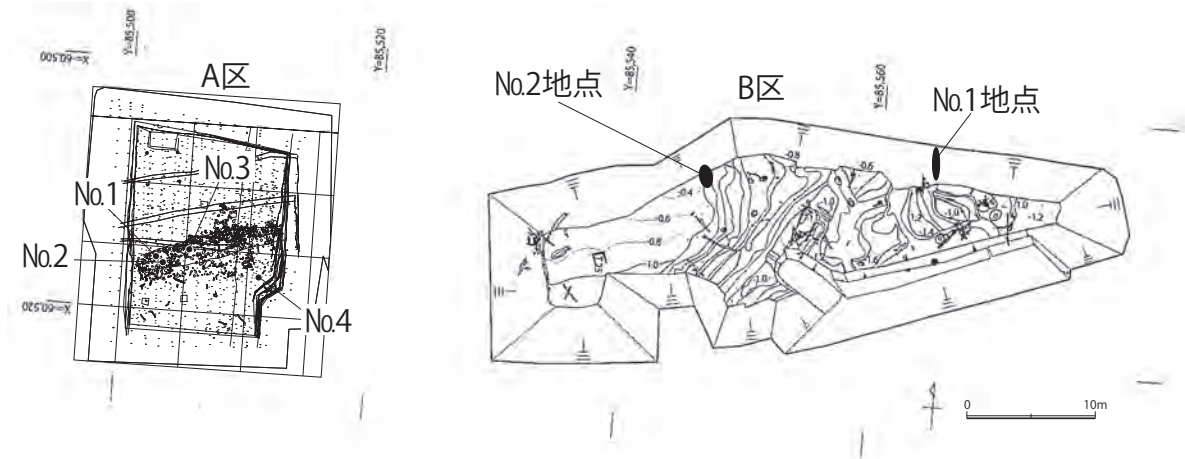
花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉(孢子)、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を 5 段階で示した。

2) 花粉分析方法

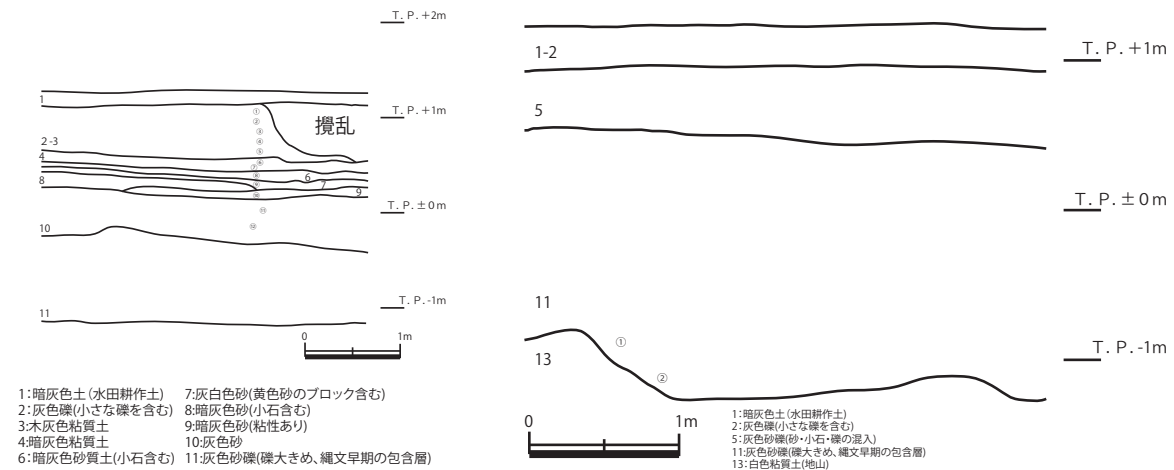
渡辺（2010a）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・孢子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ミクロン以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科（40 ミクロン未満）に細分した。

3) CNS 分析方法

前処理として、貝殻起源等の無機炭素を除去する目的で HCl 処理を行った。測定には EA-1108



第 152 図 調査区平面図（試料採取地点）



第 153 図 試料採取位置（B 区No.1 地点）

第 154 図 試料採取位置（B 区No.2 地点）

(FISONS (旧カルロエルバ社) 製元素分析機) を用い、標準試料には BBOT を使用した。解析は、三瓶 (1997) に従った。

4) AMS 年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。14 C¹⁴濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568 年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.4 (Bronk Ramsey, 2009) を利用し、INTCAL20 (Reymer et al., 2020) を用いた。

5) 樹種同定方法

顕微鏡観察用永久プレパラートは、渡辺 (2010b) に従い作成した。作成した永久プレパラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で 4 倍～ 600 倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、顕微鏡写真撮影を行うとともに、島地ほか (1985) の用語に基本的に従い、記載を行った。

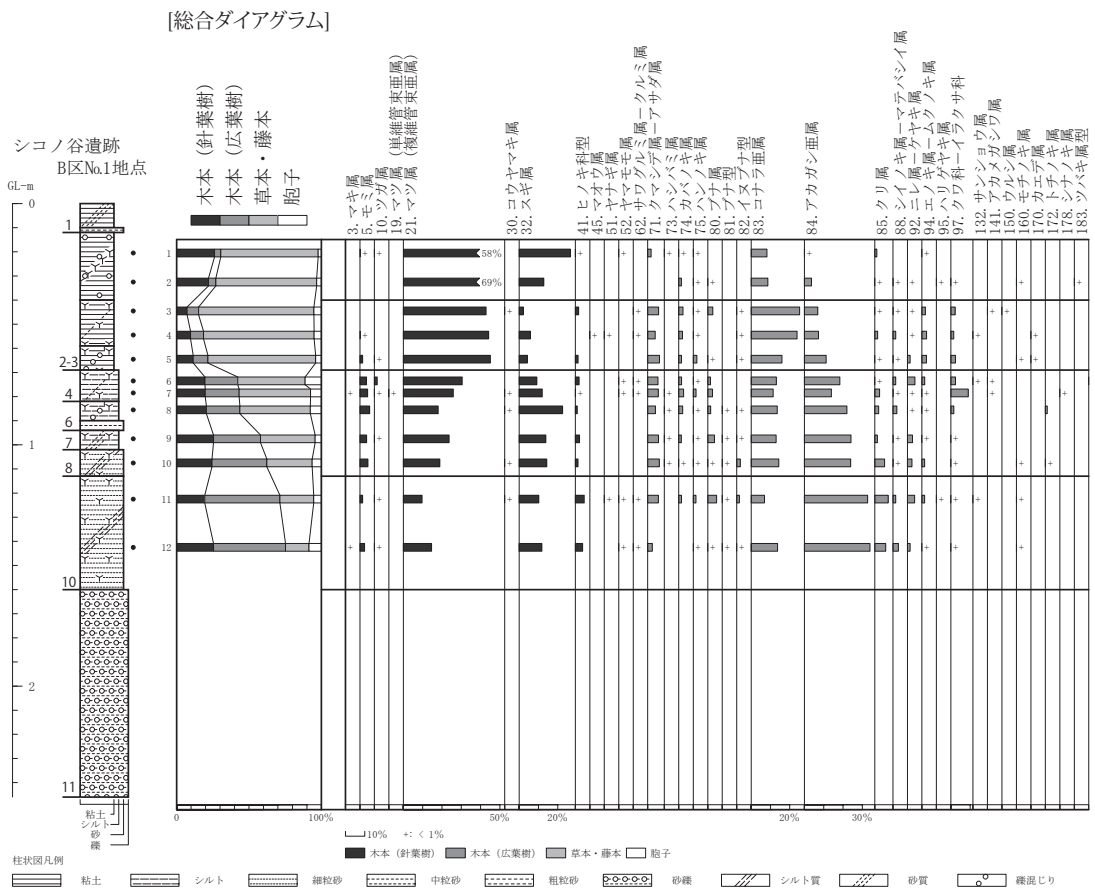
分析結果

1) 微化石概査結果

第 8 表に微化石概査結果を示す。

No. 1 地点では、全ての試料で花粉化石の含有量が多かったほか、植物片の含有量も多かった。一方、微粒炭や珪藻、植物珪酸体の含有量は、やや少なかった。火山ガラスは、ほとんど検出できなかった。

No. 2 地点では花粉化石の含有量が少なかった。試料 No. 1 では植物片が、試料 No. 2 では微粒炭が



第 155 図 花粉ダイアグラム

第7表 微化石概査結果

調査地点	試料No.	花粉	微粒炭	植物片	珪藻	植物珪酸体	火山ガラス
No.1地点	1	◎	△×	△	△×	△	△×
	2	◎	△×	△	△×	△	△×
	3	○	△	○	△	○	△×
	4	◎	△	○	◎	△	△×
	5	○	△	○	△	△×	△×
	6	○	△	◎	△	△	△×
	7	○	△	◎	△	△×	△
	8	○	○	◎	○	△	△
	9	○	△	◎	○	△	△×
	10	○	△×	◎	◎	△	△×
	11	○	△×	◎	◎	△×	△×
	12	○	△×	◎	◎	△×	△×
No.2地点	1	△	△×	◎	×	△×	△×
	2	△	◎	△×	×	△×	△

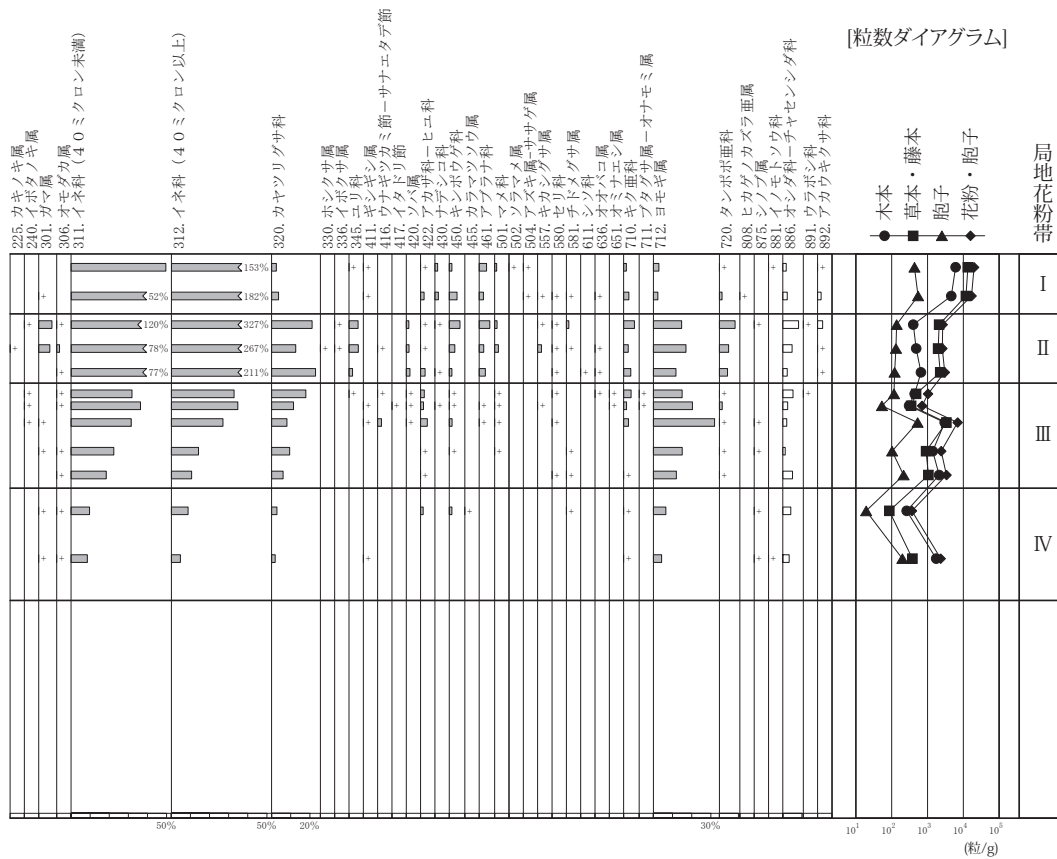
凡例 ◎ : 十分な数量が検出できる ○ : 少ないが検出できる △ : 非常に少ない
 △× : 極めてまれに検出できる × : 検出できない

極めて多く、相対的に花粉化石の含有量が少なくなった。珪藻化石は全く検出されず、植物珪酸体、火山ガラスの含有量も少なかった。

2) 花粉分析結果

分析結果を第 155、156 図の花粉ダイアグラム、第 8 表の花粉化石組成表に示す。

花粉ダイアグラムでは、分類ごとに百分率（百分率の算出には、木本花粉総数を基数にしている。）を、分類群ごとに異なるハッチのスペクトルで表した。このほか、[総合ダイアグラム]として分



ラム (B 区 No.1 地点)

類群ごとの割合を、[粒度ダイアグラム]として分類群ごとに含有量(湿潤試料 1g 中の粒数)を算出し示している。

それぞれの地点での花粉化石群集の特徴は以下の通りである。また、時間的変遷を明らかにするために、下位から上位に向かって記した。

① No. 1 地点

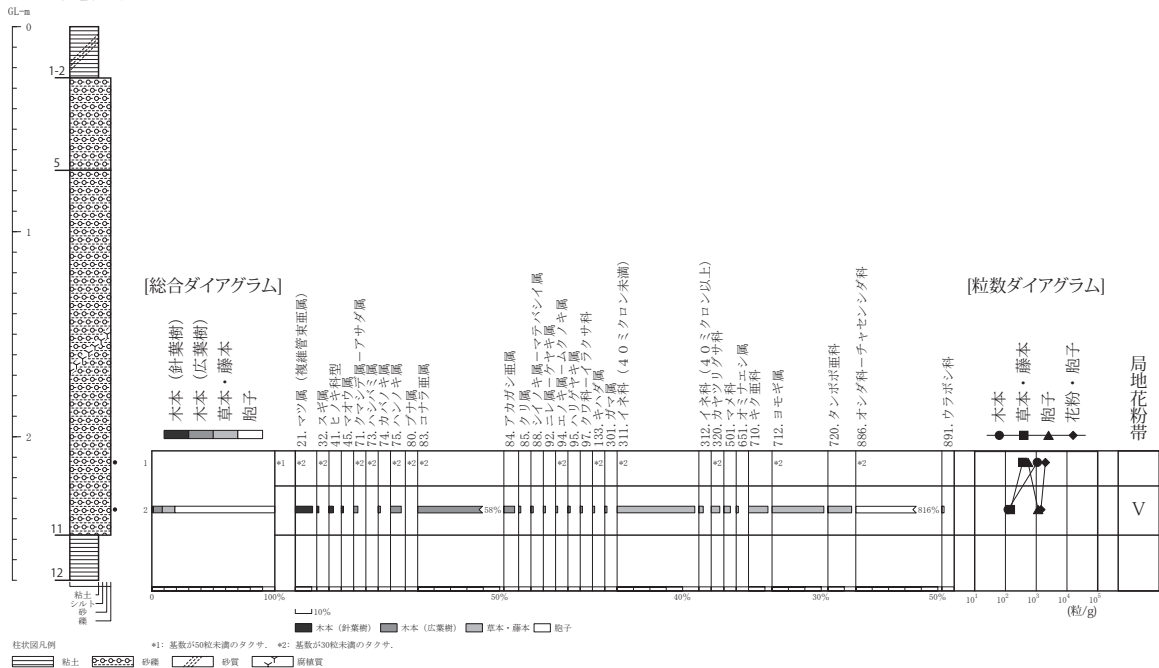
試料No. 12、11 では木本花粉の割合が 70%を超える。木本花粉ではアカガシ亜属が 30%を超え、マツ属(複維管束亜属)、スギ属、コナラ亜属が 10%程度で次ぐ。草本・藤本花粉ではイネ科(40ミクロン未満)、マツ属(複維管束亜属)、スギ属、コナラ亜属が 10%程度で次ぐ。草本・藤本花粉ではイネ科(40ミクロン未満)、イネ科(40ミクロン以上)、ヨモギ属が他の種類より高率を示すが、10%までの出現率である。

試料No. 10～6 では、木本花粉の割合が 62 から 42%へと減少し、草本・藤本花粉の割合が 31 から 47%へと増加する。木本花粉では

第8表 花粉

試料No.	1	2	3	4	5
3 マキ属 Podocarpus	1	0.4%		2	1.0%
5 モミ属 Abies	1	0.4%			3
10 ツガ属 Tsuga					2
19 マツ属(単維管束亜属) Pinus (Haploxylo)	163	57.8%	151	68.6%	99
21 マツ属(複維管束亜属) Pinus (Diploxylo)			99	42.9%	91
30 コウヤマキ属 Sciadopitys				2	0.9%
32 スギ属 Cryptomeria	75	26.6%	28	12.7%	5
41 ヒノキ科型 Cupressaceae type	2	0.7%		4	1.7%
45 マオウ属 Ephedra					1
51 ヤナギ属 Salix					1
52 ヤマモモ属 Myrica	1	0.4%			
62 サウグジュム属 Pterocarya-Juglans			2	0.9%	1
71 クマシデ属 Carpinus-Ostrya	5	1.8%		13	5.6%
73 ハシバミ属 Corylus	1	0.4%		8	3.9%
74 カバノキ属 Betula	2	0.7%	3	1.4%	5
75 ハンノキ属 Alnus	2	0.7%	1	0.5%	2
80 ブナ属 Fagus			1	0.5%	6
81 ブナ科型 Fagus crenata type					2
82 イヌブナ科型 Fagus japonica type					1
83 コナラ亜属 Quercus	23	8.2%	19	8.6%	58
84 アカガシ亜属 Cyclobalanopsis	2	0.7%	8	3.6%	16
85 クリ属 Castanea	3	1.1%	1	0.5%	3
88 シイノキ属-マテバシイ属 Castanopsis-Pasania			2	0.9%	2
92 ニレ属 Ulmus-Zelkova			2	0.9%	2
94 ヌスビ属 Celtis-Aphananthe	1	0.4%		4	1.7%
95 ハリゲヤキ属 Hemiptelea			1	0.5%	5
97 クワ科-イラクサ科 Moraceae-Urticaceae			1	0.5%	5
132 サンショウ属 Zanthoxylum					1
133 キハダ属 Pheledendron					1
141 アカガシ属 Mollotus				1	0.4%
150 ウルシ属 Rhus				1	0.4%
160 モチノキ属 Ilex			1	0.5%	
170 カエデ属 Acer					1
172 トナリ属 Aesculus					1
178 ツナギ属 Tilia					1
183 ツバキ属型 Camelia type			1	0.5%	
202 ウコギ科 Araliaceae					1
220 ツツジ科 Ericaceae				1	0.5%
225 カキノキ属 Diospyros					1
240 イボクシ属 Ligustrum					1
301 ガマ属 Typha			1	0.5%	16
306 オモダカ属 Sagittaria					1
311 イネ科(40ミクロン未満) Gramineae(<40)	140	49.6%	114	51.8%	277
312 イネ科(40ミクロン以上) Gramineae(>40)	432	153.2%	400	181.8%	755
320 カヤリクサ科 Cyperaceae	7	2.5%	8	3.6%	49
330 ホシクサ科 Ericacaulon					26
336 イボクサ属 Anellema				1	0.4%
345 ユリ科 Liliaceae	1	0.4%		11	4.8%
411 キシキシ属 Rumex	2	0.7%	1	0.5%	
416 ウナギツクサ節-サナエダ節イタドリ属 Echinocaulon-Persicaria					2
422 アカザ科-ヒユ科 Reynoutria					3
430 ナデシコ科 Caryophyllaceae	1	0.4%	4	1.8%	1
455 カラツツウ属 Thalictrum	4	1.4%	9	4.1%	13
461 アブラナ科 Cruciferae	11	3.9%	5	2.3%	13
501 マメ科 Leguminosae	3	1.1%	3	1.3%	4
502 ソラマメ属 Vicia	2	0.7%			
504 アズキ属-ササゲ属 Azukia-Vigna	1	0.4%	1	0.5%	
557 オオノグサ属 Notula			1	0.5%	1
580 せり科 Umbelliferae			1	0.5%	1
581 チドメグサ属 Hydrocotyle			1	0.5%	3
611 シン科 Lamiaceae					1
638 オオハコ属 Plantago				1	0.5%
651 オミズエン属 Patrinia					2
710 キウキ科 Oenanthaceae	4	1.4%	6	2.7%	13
711 ブタダ属-オナモミ属 Amrosia-Xanthium					5
712 ヨモギ属 Artemisia	8	2.8%	5	2.3%	34
720 タシボ科 Cichorioideae	1	0.4%	3	1.4%	19
808 ヒカゴノカスラ亜属 Subgenus Lycopodium			1	0.5%	
875 シノブ属 Davallia					1
881 イノトソウ科 Pteridaceae	1	0.4%			1
886 オンダ科-チャセンシダ科 Aspid-Asple	5	1.8%	5	2.3%	19
891 ウラボシ科 Polypodiaceae	2	0.7%	4	1.8%	1
892 アカキクサ科 Ajuliacae	2	0.7%	4	1.8%	6
898 三条溝胞子 MONOLATE-TYPE-SPORE	4	1.4%	8	3.6%	19
899 三条溝胞子 TRILATE-TYPE-SPORE	8	2.8%	8	3.6%	33
木本	282	30.6%	220	27.1%	231
草本・藤本	621	67.3%	565	69.7%	1215
胞子	20	2.2%	26	3.2%	79
含有量(粒/g)	19913.9		16979.1		2648.6
				2992.7	3039.4

シノノ谷遺跡 B区 No.2地点



第156図 花粉ダイアグラム(B区No.2地点)

化石組成表

No.1地点												No.2地点	
6	7	8	9	10	11	12	1	2	1	2			
7	3.4%	1	0.5%										
3	1.4%	2	1.0%	10	5.0%	8	3.4%	9	4.1%	3	1.4%	5	2.4%
63	30.4%	1	0.5%										
19	9.2%	24	11.9%	45	22.5%	32	13.8%	31	14.3%	22	10.1%	25	11.8%
4	1.9%	2	1.0%	2	1.0%	5	2.2%	3	1.4%	10	4.6%	8	3.8%
1	0.5%	1	0.5%										
2	1.0%	1	0.5%										
11	5.3%	11	5.5%	8	4.0%	13	5.6%	13	6.0%	12	5.5%	5	2.4%
3	1.4%	5	2.5%	4	2.0%	3	1.3%	2	0.9%	3	1.4%		
1	0.5%	3	1.5%	1	0.5%	1	0.4%	1	0.5%	3	1.4%	1	0.5%
3	1.4%	5	2.5%	3	1.5%	8	3.4%	2	0.9%	10	4.6%	2	0.9%
27	13.0%	23	11.4%	1	0.5%	2	0.9%	4	1.8%	3	1.4%	1	0.5%
38	18.4%	28	13.9%	44	22.0%	56	24.1%	52	24.0%	71	32.7%	72	34.0%
2	1.0%	5	2.5%	4	2.0%	3	1.3%	11	5.1%	15	6.9%	12	5.7%
3	1.4%	1	0.5%	4	2.0%	2	0.9%	1	0.5%	3	1.4%	6	2.8%
8	3.9%	2	1.0%	1	0.5%	6	2.6%	5	2.3%	8	3.7%	3	1.4%
3	1.4%	1	0.5%	1	0.5%	2	0.9%	3	1.4%	3	1.4%	2	0.9%
5	2.4%	18	9.0%	3	1.5%	2	0.9%	1	0.5%	2	0.9%		
1	0.5%	1	0.5%										
1	0.5%	1	0.5%										
				2	1.0%			1	0.5%	2	0.9%		
1	0.5%	1	0.5%										
1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	2	0.9%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%
66	31.9%	73	36.3%	63	31.5%	52	22.4%	40	18.4%	21	9.7%	18	8.5%
68	32.9%	70	34.8%	54	27.0%	33	14.2%	23	10.6%	19	8.8%	10	4.7%
37	17.9%	23	11.4%	16	8.0%	22	9.5%	13	6.0%	6	2.8%	4	1.9%
1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%								
2	1.0%	1	0.5%	4	2.0%								
2	1.0%	1	0.5%	1	0.5%								
4	1.9%	3	1.5%	7	3.5%	1	0.4%	1	0.5%	3	1.4%		
2	1.0%	2	1.0%	3	1.5%	1	0.4%			3	1.4%		
1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.4%			1	0.5%		
1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.4%						
1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.4%	1	0.5%	1	0.5%		
1	0.5%	1	0.5%										
8	3.9%	3	1.5%	5	2.5%			1	0.5%	1	0.5%	2	0.9%
1	0.5%	1	0.5%										
31	15.0%	41	20.4%	64	32.0%	35	15.1%	26	12.0%	14	6.5%	9	4.2%
1	0.5%	3	1.5%	1	0.5%	2	0.9%	2	0.9%				
11	5.3%	5	2.5%	4	2.0%	3	1.3%	11	5.1%	9	4.1%	7	3.3%
1	0.5%												
11	5.3%	6	3.0%	5	2.5%	4	1.7%	4	1.8%	2	0.9%	11	5.2%
32	15.5%	24	11.9%	25	12.5%	8	3.4%	7	3.2%	4	1.8%	4	1.9%
207	42.2%	201	43.2%	200	43.7%	232	58.0%	217	62.4%	212	71.4%	212	75.2%
228	46.5%	229	49.2%	223	48.7%	151	37.8%	109	31.3%	71	23.4%	46	16.3%
55	11.2%	35	7.5%	35	7.6%	17	4.3%	22	6.3%	16	5.3%	24	8.5%
1033.2		706.0		6913.6		2409.8		3390.1		367.1		2326.0	
												1992.0	1424.0

左側: 読み取り数 右側: 百分率

アカガシ亜属が24%から18%へと減少するのに対し、マツ属(複維管束亜属)が19から30%へと増加する。また、下位に比ベスギ属、コナラ亜属は高率になり、10~20%程度の出現率を示す。草本・藤本花粉ではイネ科(40ミクロン未満)、イネ科(40ミクロン以上)、カヤツリグサ科が徐々に増加する。ヨモギ属は下位に比べ増加するが、試料No.8でピークを成し、上部では減少傾向に転ずる。また、上位の3試料ではソバ属が出現した。

試料No.5~3では、木本花粉の割合が22から15%へと減少し、草本・藤本花粉の割合が74から78%へと増加する。木本花粉ではマツ属(複維管束亜属)が45%程度を示し、コナラ亜属が16から25%と増加する。一方アカガシ亜属は11から7%へ減少する。また、下位の層準で10~20%程度の出現率を示していたスギ属は、2~6%程度へと減少する。

草本・藤本花粉では、イネ科(40ミクロン以上)が200%を超える出現率を示すほか、イネ科(40ミクロン未満)が77~120%、カヤツリグサ科が12~23%、ヨモギ属が12~17%と他の種類点比べ高い出現率を示す。この外、ソバ属が1%ほどの出現率を示した。

試料No.2、1では、木本花粉の割合が27から31%へと増加し、草本・藤本花粉の割合が70から68%へと減少する。木本花粉ではマツ属(複維管束亜属)他の種類に比べ高い出現率を示すが、69から58%へと減少する。一方、スギ属が13から27%へと増加する。また、コナラ亜属が8%程度の出現率を示すが、その他の種類はほとんど検出されなくなる。草本・藤本花粉では、イネ科(40ミクロン以上)が150%を超える出現率を示すほか、イネ科(40ミクロン未満)が50%程度の出現率を示す。この外、ソラマメ属、アズキ属 - ササゲ属が僅かに出現した。

② No.2 地点

花粉化石含有量はNo.1地点に比べ少なくないが、植物片、微粒炭が多量に含まれている影響で、検出量が少なかった。このため、試料No.1では統計処理を行わず、検出できた種類を「*」で示した。試料No.2では孢子の割合が81%と高く、木本花粉、草本・藤本花粉は10%程度である。木本花粉では、コナラ亜属が58%の出現率を示す。草本花粉ではイネ科(40ミクロン未満)が47%、ヨモギ属が31%、タンポポ科が15%と続く。孢子のほとんどはオシダ科 - チャセンシダ科で、

816%を示した。

3) CNS 分析結果

16 試料の測定結果を第 157、158 図及び第 9 表に示す。これらの図表には、同時に算出した C/N 比、C/S 比も示した。それぞれの地点での CNS 測定値の特徴は以下の通りである。

① No. 1 地点

試料No. 6 より下位では C/S は 10 未満で、S が 0.2%以上であった。一方試料No. 5 より上位では C/S は 10 以上で、S が 0.2 未満であった。

② No. 2 地点

試料No. 2 では C/S は 5.76 と 10 未満で、S が 1.442%と 0.2%以上であった。一方試料No. 1 では C/S は 11.53 と 10 以上で、S が 0.117%と 0.22%未満であった。

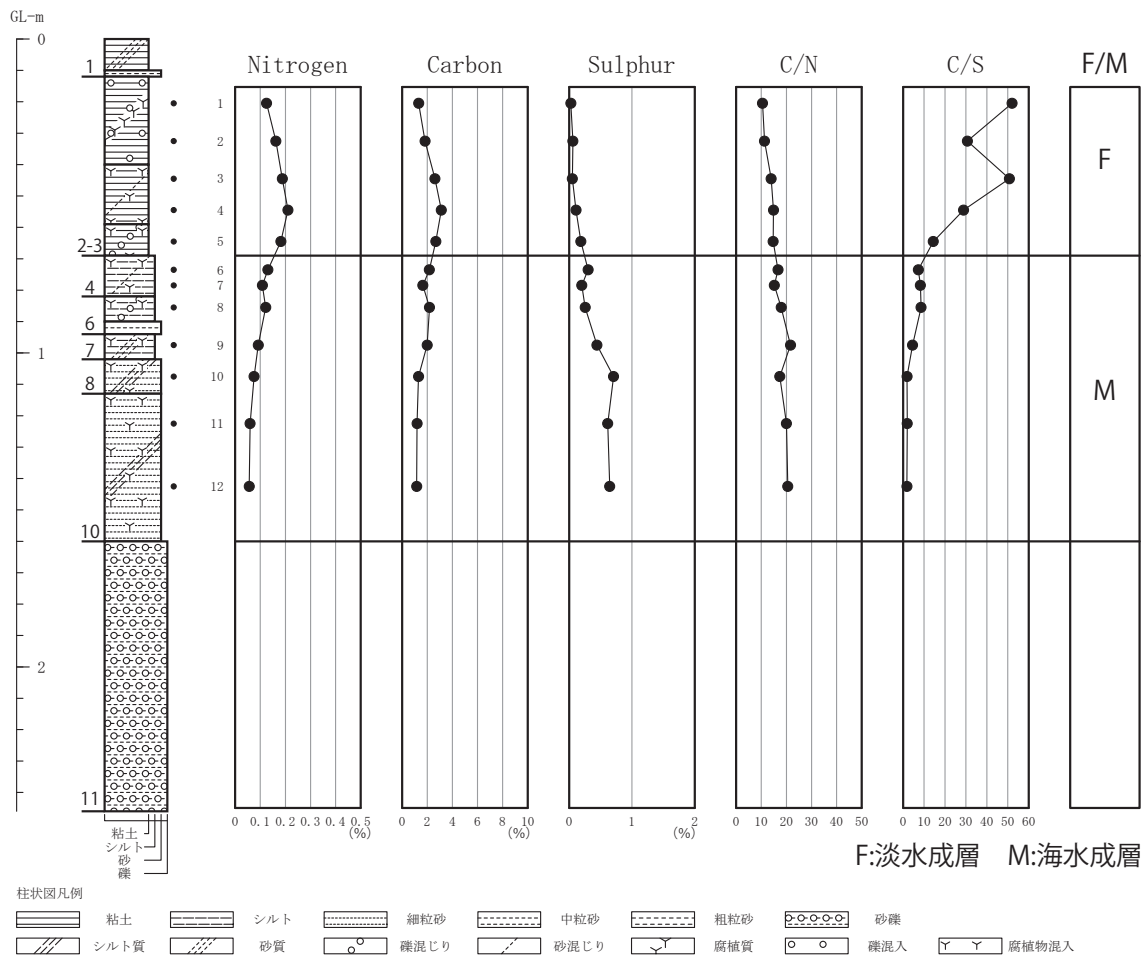
4) AMS 年代測定結果

年代測定結果を第 10 表に示す。また、OxCal ver. 4.3 (Ramsey, 2009) による各試料の暦年校正正図を第 159 図に示す。

第 10 表には、試料の詳細、前処理方法、 $\delta^{13}C$ 値と 4 種類の測定年代を示している。第 159 図には INTCAL20 (Reymer et al., 2020) を用いた暦年校正結果を示した。また、確率分布と σ 、 2σ の校正範囲を示している。

5) 樹種同定結果

シコノ谷遺跡 B区 No.1地点



第 157 図 CNS ダイアグラム(B区 No.1 地点)

第9表 CNS分析結果

地点	試料	Nitrogen (%)	Carbon (%)	Hydrogen (%)	Sulphur (%)	C/N	C/S
1	1	0.125	1.308	0.000	0.025	10.46	52.01
	2	0.162	1.826	0.000	0.060	11.27	30.68
	3	0.188	2.608	0.000	0.051	13.90	50.72
	4	0.210	3.118	0.000	0.108	14.84	28.85
	5	0.182	2.675	0.000	0.186	14.70	14.39
	6	0.130	2.167	0.000	0.300	16.64	7.22
	7	0.108	1.649	0.000	0.201	15.21	8.21
	8	0.121	2.178	0.000	0.255	17.93	8.55
	9	0.092	1.988	0.000	0.441	21.64	4.50
	10	0.075	1.306	0.000	0.706	17.35	1.85
	11	0.059	1.189	0.000	0.613	20.02	1.94
	12	0.056	1.149	0.000	0.645	20.53	1.78
2	1	0.066	1.347	0.000	0.117	20.30	11.53
	2	0.238	8.313	0.000	1.442	34.96	5.76

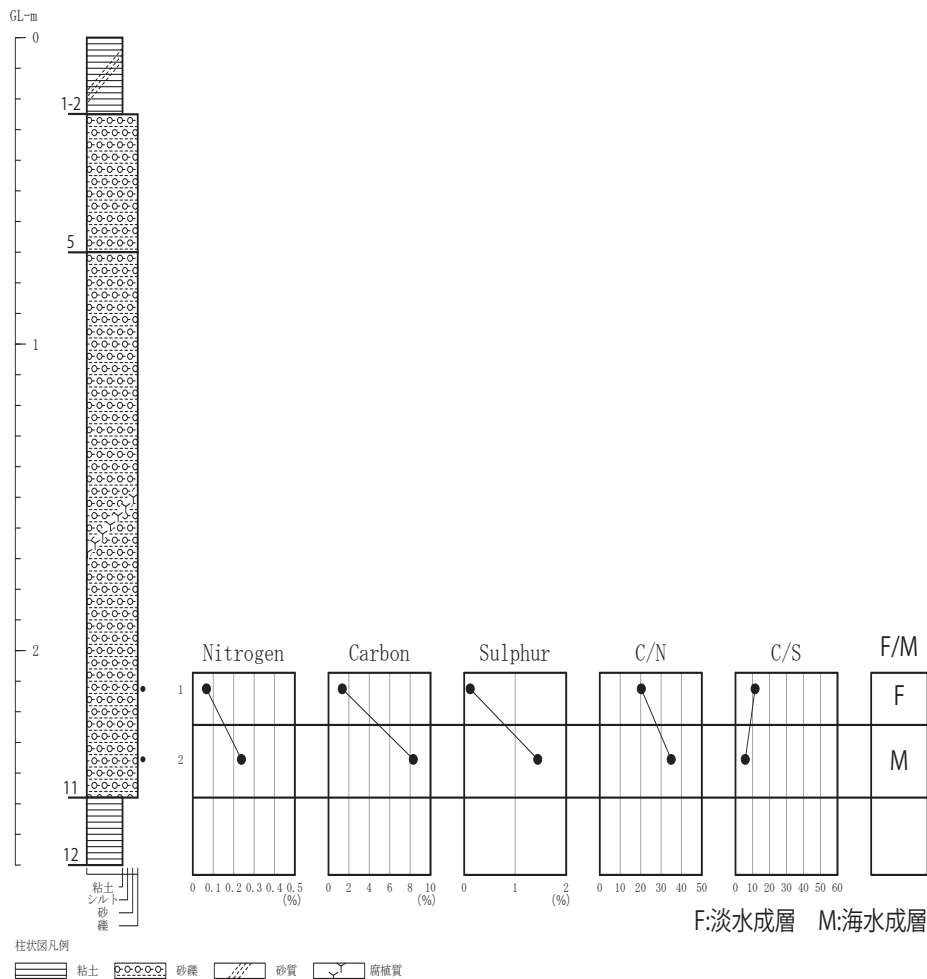
第10表に同定結果を示し、分類ごとに記載を行った。また、第160図に顕微鏡写真を示した。

(1) ハイノキ属 *Symplocos* sp.

試料No. : B-2 (W18121201)

記載：長径 30 ~ 60 μ m の楕円形の道管が、単独で散在状に多数分布する散孔材である。道管せん孔は階段せん孔で、bar は多い。放射組織は異性型で 1 ~ 3 (まれに 4) 細胞幅で、高さは 1mm までである。軸方向柔細胞は少なく、不顕著である。以上の組織上の特徴から、ハイノキ属

シコノ谷遺跡 B区 No.2地点

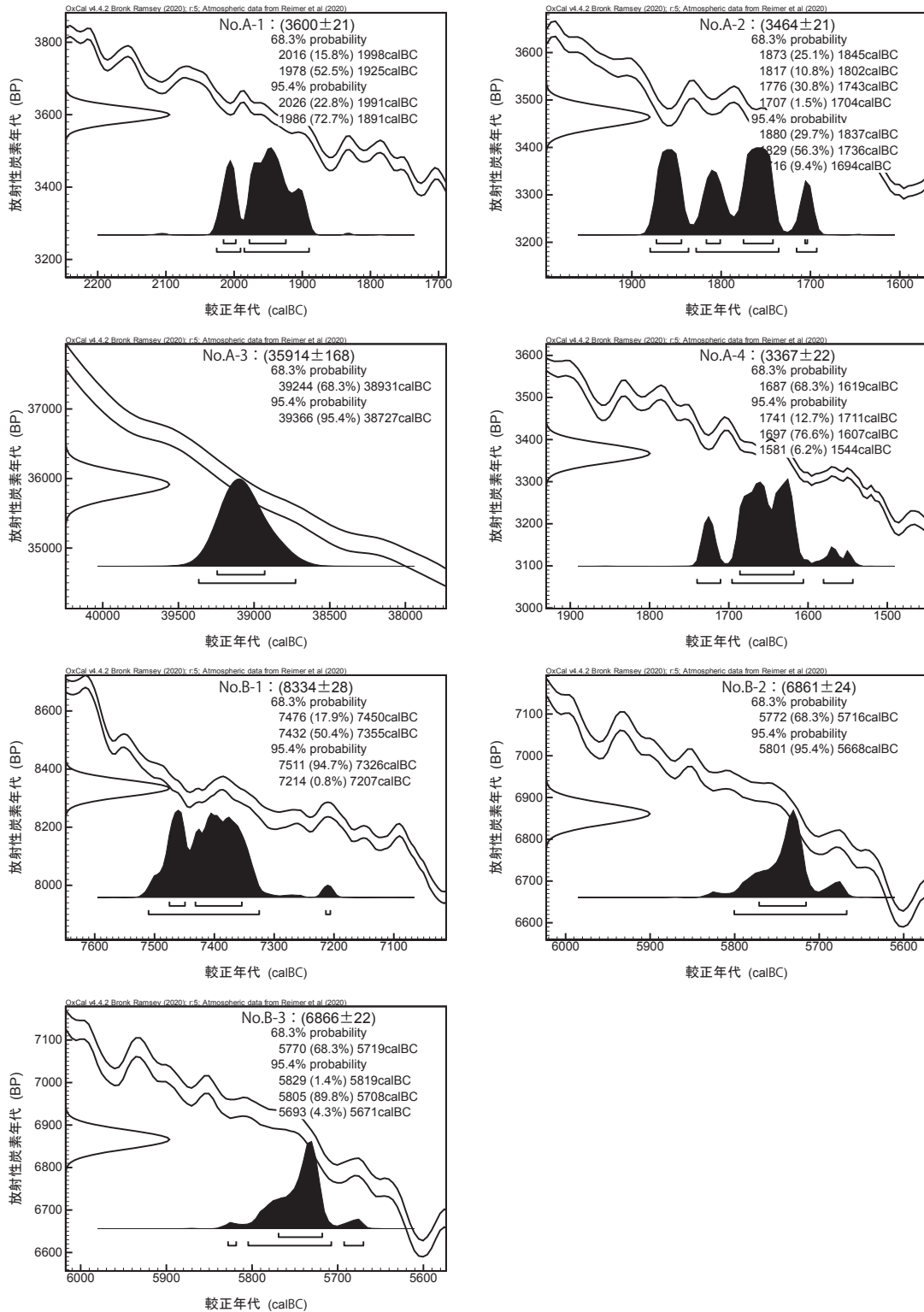


と同定した。

(2) イイギリ属 *Idesia* sp.

試料 No. : B-3(W18121202)

記載：長径 30 ~ 60 μ m の楕円形の道管が、単独ないし 2 ~ 5 個放射方向あるいは団塊状に複合して散在状に多数分布する散孔材である。道管せん孔は単せん孔で、道管壁孔は交互状。放射組織は異性型で 1 ~ 3 (まれに 4) 細胞幅で、高さは 1mm までである。軸方向柔細胞は少なく、不



第159図 暦年較正結果

第10表 年代測定結果

試料						
試料No.	遺跡	地区	出土地点 (遺構ほか)	状況	重量(g)	推定時期
A-1	シコロ谷遺跡	A区	土石流堆積物(礫層) 狹在	木片	3.163	縄文時代晩期?
A-2			土石流堆積物(礫層) 狹在	木片	5.758	縄文時代晩期?
A-3			土石流堆積物(礫層) 狹在	木片	1.5537	縄文時代晩期?
A-4			土石流堆積物(礫層) 杭	木片	2.3476	縄文時代晩期?
B-1		B区	No.2地点 試料No.2	腐植質粘土	2.8559	—
B-2			中央 レキ2(11層)内 地山直上(木88)	木片 ハイノキ属	0.4939	—
B-3			中央 レキ2(11層)内 地山直上(木89)	木片 イイギリ属	0.5287	—

試料No.	前処理	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正無年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲		測定番号
						1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
A-1	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-32.33 ± 0.14	3722 ± 21	3600 ± 21	3600 ± 20	2016-1998 cal BC (15.8%) 1978-1925 cal BC (52.5%)	2026-1991 cal BC (22.8%) 1986-1891 cal BC (72.7%)	PLD-36788
A-2	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-29.52 ± 0.12	3539 ± 21	3464 ± 21	3465 ± 20	1873-1845 cal BC (25.1%) 1817-1802 cal BC (10.8%) 1776-1743 cal BC (30.8%) 1707-1704 cal BC (1.5%)	1880-1837 cal BC (29.7%) 1829-1736 cal BC (56.3%) 1716-1694 cal BC (9.4%)	PLD-36789
A-3	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-27.87 ± 0.18	35962 ± 169	35914 ± 168	35910 ± 170	39244-38931 cal BC (68.3%)	39366-38727 cal BC (95.4%)	PLD-36790
A-4	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-32.02 ± 0.19	3483 ± 22	3367 ± 22	3365 ± 20	1687-1619 cal BC (68.3%)	1741-1711 cal BC (12.7%) 1697-1607 cal BC (76.6%) 1581-1544 cal BC (6.2%)	PLD-36791
B-1	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-29.92 ± 0.24	8416 ± 28	8334 ± 28	8335 ± 30	7476-7450 cal BC (17.9%) 7432-7355 cal BC (50.4%)	7511-7326 cal BC (94.7%) 7214-7207 cal BC (0.8%)	PLD-37571
B-2	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-32.38 ± 0.25	6984 ± 24	6861 ± 24	6860 ± 25	5772-5716 cal BC (68.3%)	5801-5668 cal BC (95.4%)	PLD-37572
B-3	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)	-31.04 ± 0.26	6967 ± 22	6866 ± 22	6865 ± 20	5770-5719 cal BC (68.3%)	5829-5819 cal BC (1.4%) 5805-5708 cal BC (89.8%) 5693-5671 cal BC (4.3%)	PLD-37573

顕著である。以上の組織上の特徴から、イイギリ属と同定した。

花粉分帯

花粉分析結果を基に局地花粉帯を設定した(花粉分帯を実施した)。それぞれの局地花粉帯の特徴を以下に示す。また、花粉化石群集の時間的な変化が明瞭になるように、下位から記載を行った。

(1) V帯: No. 2 地点試料No. 2

コナラ亜属が高率を示す。

(2) IV帯: No. 1 地点試料No. 12、11

アカガシ亜属が高率を示し、マツ属(複維管束亜属)、スギ属、コナラ亜属が次ぐ。

(3) III帯: No. 1 地点試料No. 10～6

アカガシ亜属が減少し、マツ属(複維管束亜属)が増加する。また、スギ属、コナラ亜属はIV帯に比べ高率になる。草本花粉ではイネ科(40ミクロン以上)が徐々に増し、上位の3試料ではソバ属

も出現する。

(4) II帯：No. 1 地点試料No. 5～3

マツ属（複維管束亜属）が高率を示し、コナラ亜属が次ぐ。III帯まで高率で出現していたスギ属、アカガシ亜属は低率になる。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が極めて高い出現率を示し、ソバ属も出現する。

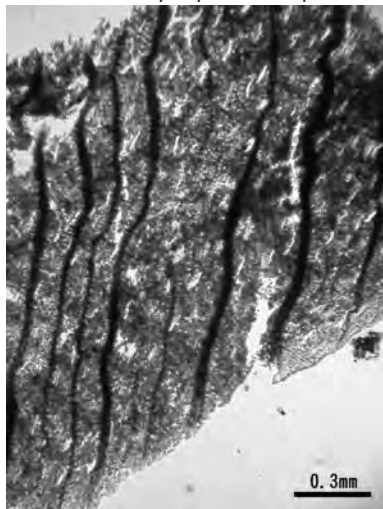
(5) I帯：No. 1 地点

マツ属（複維管束亜属）高率を示すほか、スギ属が増加する。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、ソラマメ属、アズキ属 - ササゲ属が僅かに出現する。

従来の分析結果との比較

大橋川の対岸に位置する灘遺跡では、平安時代以前、平安～近世と近世以降の堆積物を対象とした花粉分析が行われていた（渡辺，2017）。ここでは、今回と同様にマツ属（複維管束亜属）の増加と、スギ属、アカガシ亜属の減少で特徴付けられる花粉化石群集（局地花粉帯）III～I帯が得られていた。各局地花粉帯と、今回の局地花粉帯を対比すると、以下のようになる。

ハイノキ属 *Symplocos* sp.: 試料NoB-2(W18121201)



横断面



放射断面



接線断面

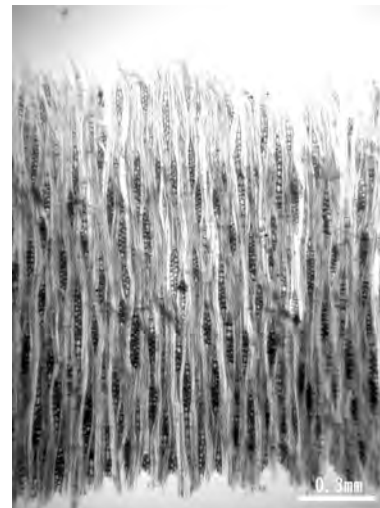
イイギリ属 *Idesia* sp.: 試料NoB-3(W18121202)



横断面



放射断面



接線断面

第160図 樹種同定顕微鏡写真

(1) 灘遺跡Ⅲ帯：シコノ谷遺跡Ⅳ帯

アカガシ亜属が高率を示し、マツ属（複維管束亜属）、スギ属、コナラ亜属が次ぐ。

(2) 灘遺跡Ⅱ帯：シコノ谷遺跡Ⅲ帯

アカガシ亜属が減少し、マツ属（複維管束亜属）が増加する。

(3) 灘遺跡Ⅰ帯：シコノ谷遺跡Ⅱ帯

マツ属（複維管束亜属）が高率を示し、コナラ亜属が次ぐ。Ⅲ帯まで高率で出現していたスギ属、アカガシ亜属は低率になる。

土石流の発生時期について

年代測定結果を、第161図にまとめた。試料No. A-3のみ $35,910 \pm 170$ yrBP と極めて古い値を示した。一方、その他の3試料は比較的近接した結果であった。試料No. A-1～3が土石流堆積物と考えられる礫層中に狭在した木片であったことから、試料No. A-3は、谷埋め堆積物に含まれていたものが土石流により浸食され、再堆積したものであったと考えられる。

また、試料No. A-1と2の値も、 2σ の範囲で重なりがなかった。試料No. 1が古い年代を示すことから、試料No. A-3と同様に再堆積したものと考えられる。一方、試料No. 4が最も新しい値を示すが、試料No. A-4は礫層に刺さった杭であったことから、礫層堆積後の年代を示すと考えられる。これらのことから礫層を堆積した土石流は、試料No. A-2の示す縄文時代後期のBC1900～1700年頃に発生したものと考えられる（ ^{14}C 年代では、草創期（約13,000 - 10,000年前）、早期（約10,000 - 6,000年前）、前期（約6,000 - 5,000年前）、中期（約5,000 - 4,000年前）、後期（約4,000 - 3,000年前）、晩期（約3,000 - 2,300年前）であり、暦年較正年代では、草創期（約15,000 - 12,000年前）、早期（約12,000 - 7,000年前）、前期（約7,000 - 5,500年前）、中期（約5,500 - 4,500年前）、後期（約4,500 - 3,300年前）、晩期（約3,300 - 2,800年前）となる。：起点はAD1,950年）。これに対し、出土遺物から土石流堆積物（礫層）の発生時期は縄文時代晩期と考えられている。今後、年代測定試料と遺物、礫層の関係について再検討が必要である。また、縄文時代を細分した境界の実年代について、地域毎に異なることが知られている。松江地域でも縄文時代を細分した境界の実年代について再考が必要かもしれない。

古環境について

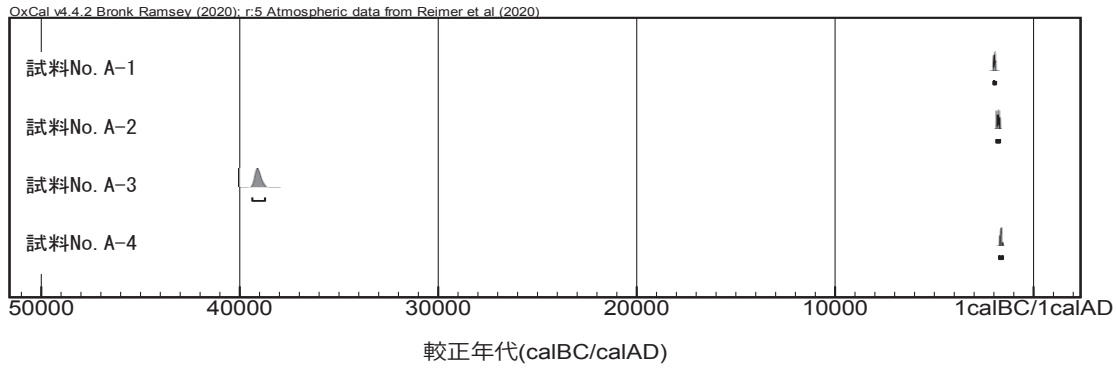
B区での花粉分析結果を基に、調査地周辺の古植生について考察する。また、植生変遷を明確にするために、過去から現在へ向かい、局地花粉帯に沿って考察を行う。

(1) V帯期（縄文時代早期）：No. 2地点

11層から縄文時代早期の遺物、縄文時代早期を示す木片（No. B-2、3）が出土していた。また、最下位に相当するNo. 2地点試料No. 2（No. B-1）から縄文時代早期に相当する $8,335 \pm 30$ yrBP の年代値が得られていた。

CNS分析では最下層の試料No. 2が海水成層と判断され、大橋川の中で堆積したものと考えられる。ただし、直上の試料No. 1は淡水成層と判断され、標高がT.P. -1.0ほどであることを踏まえると、大橋川の水位の変化により調査地の淡水・汽水環境が頻繁に変化していた可能性が指摘できる。

花粉分析結果では、花粉化石の検出量が少なかったもののコナラ亜属が卓越した。渡辺・中川



第161図 暦年較正結果の分布(A区)

(2013)によれば、8,300yrBP頃は山陰地方中央部の地域花粉帯でエノキ属-ムクノキ属帯 ブナ属亜帯に相当する。宍道湖底の花粉分析結果（大西ほか，1990）では、エノキ属-ムクノキ属帯 ブナ属亜帯にはエノキ属-ムクノキ属に加え、コナラ亜属、ブナ属が高い出現率を示している。今回の分析結果ではブナ属が全く検出されないものの、コナラ亜属が高率であり、大西ほか（1990）の分析結果と一致する。ブナ属が全く検出されないことは、木本花粉の検出量が少ないことによる「データのブレ」に起因すると考えられる。

この時期には、最終氷期からの名残でミズナラが背後から周辺の丘陵に分布していたと考えられる。また、水辺にはアシ類などのイネ科や、スゲ類などのカヤツリグサ科などの草本が繁茂し、やや離れてヨモギ類やタンポポ類などのキク科やマメ科などの草本が繁茂していたと考えられる。

(2) IV帯期（平安時代以前）No.1 地点試料No.12、11

対岸の灘遺跡との対比から、平安時代以前の花粉化石群集を示していると考えられる。

CNS分析では海水成層と判断され、大橋川の中で堆積したものと考えられる。

大橋川の水辺には、アシ類などのイネ科や、スゲ類などのカヤツリグサ科などの草本が繁茂し、やや離れてヨモギ類やタンポポ類などのキク科やマメ科などの草本が繁茂していたと考えられる。

背後から周囲の丘陵には、カシ類を主要素としモミやツガを混淆する照葉樹林が広く分布する一方で、アカマツやコナラ類を主要素とする薪炭林（里山）も広がり始めていたと考えられる。また、谷筋にスギ林が分布していたと考えられる。

(3) III帯期（平安時代～近世頃）No.1 地点試料No.10～6

対岸の灘遺跡との対比から、平安時代～近世頃の花粉化石群集を示していると考えられる。

CNS分析では海水成層と判断され、大橋川の中で堆積したものと考えられる。

草本花粉の割合が急増し、イネ科（40ミコ以上）の増加傾向も著しいことから、調査地近辺での開発が進み、近辺で稲作が始まった可能性が指摘できる。特に後半（試料No.8～6）では栽培種であるソバ属も検出され、近辺での畑作も指摘できる。

背後から周囲の丘陵に分布したカシ類を主要素としモミやツガを混淆する照葉樹林は急激に分布を縮小し、アカマツやコナラ類を主要素とする薪炭林（里山）が徐々に広がり始めていたと考えられる。また、後半には谷筋のスギ林が縮小する。開墾によって水田へと変わった可能性が指摘できる。

(4) II帯期（近世以降）No.1 地点試料No.5～3

対岸の灘遺跡との対比から、近世以降の花粉化石群集を示していると考えられる。

CNS 分析では淡水成層と判断される。後述のように水田環境であったと推定される。

イネ科（40 ミクロン以上）が極めて高い出現率を示すほか、オモダカ属やホシクサ属、イボクサ属キカシグサ属などの水田雑草を伴うことから、調査地が水田に変わったと考えられる。イネ科（40 ミクロン未満）やカヤツリグサ科は、水田雑草あるいは大橋川の水辺に生育していたものと考えられる。また、水田の周囲にはヨモギ類やタンポポ類などのキク科やマメ科などの草本が繁茂していたと考えられる。またソバ属も出現し、裏作、休耕田や畦で栽培されていたことが示唆される。

(5) I 帯期（近代～現代）No. 1 地点試料No. 2、1

CNS 分析では淡水成層と判断される。後述のように水田環境であったと推定される。

イネ科（40 ミクロン以上）が引き続き高い出現率を示すが、水田雑草の種類、量が減る。水田の管理が進み、水田雑草が減少した可能性が指摘できる。イネ科（40 ミクロン未満）やカヤツリグサ科は、水田雑草あるいは大橋川の水辺に生育していたものと考えられる。また、水田の周囲にはヨモギ類やタンポポ類などのキク科やマメ科などの草本が繁茂していたと考えられる。またソラマメ属やアズキ属 - ササゲ属なども出現し、休耕田や畦で栽培されていたことが示唆される。

まとめ

シコノ谷遺跡で花粉分析、CNS 分析、AMS 年代測定及び樹種同定を実施した結果、以下の事柄が明らかになった。

1) 花粉分析結果を基に、I～V帯の局地花粉帯を設定した。また、対岸の灘遺跡での花粉分析結果と対比し、堆積時期（花粉帯の示す時期）を推定した。

2) CNS 分析によって、海水成層、淡水成層の判断を行った。淡水成層とした層準（2-3層：II帯、I帯）は水田耕作土と考えられる。また、縄文時代早期には大橋川の水位が-1.0m付近で停滞し、僅かに上昇下降をしていたと考えられた。

3) A区のAMS年代測定結果から、土石流は縄文時代後期（BC1900～1700年頃）に発生したのと考えられ、出土遺物から推定される土石流堆積物（礫層）の発生時期（縄文時代晩期）と異なった。今後、年代測定試料と遺物、礫層の関係について再検討が必要である。また、縄文時代を細分した境界の実年代について、地域毎に異なることが知られている。松江地域でも縄文時代を細分した境界の実年代について再考が必要かもしれない。

4) B区のAMS年代測定結果として、11層下底から縄文時代早期、11層中から縄文時代前期の年代値が得られた。

5) 花粉分析結果などを基に、シコノ谷遺跡周辺地域の古環境変遷を推定した。

特筆すべき点は、以下の通りである。

- ① 縄文時代早期には、ミズナラ林が広がっていた。
- ② 対岸の灘遺跡との間で、周囲の丘陵の植生に、大きな差は認められなかった。
- ③ 平安時代頃に調査地点が水田化した。周辺地域では時期未定のIV帯で稲作、ソバ栽培が行われていた。
- ④ 遺跡内での生業、畑作物として、灘遺跡では認められなかったソラマメ類、アズキ類が検出された。

引用文献

- 大西郁夫・干場英樹・中谷紀子（1990）宍道湖湖底下完新統の花粉群. 島根大学地質学研究報告, 9, 117-127.
- 三瓶（1997）C・N・Sによる堆積環境評価. 海跡湖堆積物からみた汽水域の環境変化 - その地域性と一般性 - 平成8年度報告・資料集 文部省科学研究費補助金 [基盤研究 A(1)] 課題番号 07309009 研究代表者 島根大学・高安克己, 247-252.
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造. 276p., 文永堂, 東京.
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、特にイネを中心として. 第四紀研究, 13,187-197.
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P., Austin, W., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R., Friedrich, M., Grootes, P., Guilderson, T., Hajdas, I., Heaton, T., Hogg, A., Hughen, K., Kromer, B., Manning, S., Muscheler, R., Palmer, J., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R., Richards, D., Scott, E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., & Talamo, S. (2020). The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62.
- 文化財調査コンサルタント株式会社（2014）大橋川改修発掘調査に係る自然科学分析業務報告書. 101-.
- 渡辺正巳（2010a）花粉分析法. 必携 考古資料の自然科学調査法, 174-177. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳（2010b）木質遺物（埋没樹木）樹種同定. 必携 考古資料の自然科学調査法, 194 - 198. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳（2017）灘遺跡における古環境変遷. 斐伊川水系大橋川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘報告書, 1,101-113. 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター.

第5節 シコノ谷遺跡出土縄文土器の年代測定

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

はじめに

本報は文化財調査コンサルタント株式会社が、シコノ谷遺跡出土縄文土器の編年資料とする目的で島根県教育庁埋蔵文化財調査センターからの委託を受け実施・報告した AMS 年代測定業務の概報である。

また、シコノ谷遺跡は島根県東部、松江市朝酌町内に位置する遺跡である。

分析試料について

島根県教育庁埋蔵文化財センターにより採取・保管されていた「おこげ」の付着した縄文土器を、年代測定試料として御提供を受けた。また、当社試験室において各土器より「おこげ」を削り取り、年代測定試料とした。分析試料の一覧を、第 11 表(第 11 表には、樹種同定結果、年代測定前処理法、年代測定結果も併記。)に示す。

AMS 年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。C¹⁴濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568 年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.4 (Bronk

Ramsey, 2009) を利用し、INTCAL20 (Reymer et al., 2020) を用いた。

AMS 年代測定結果

測定結果を第 11 表、第 162 図に示す。

第 11 表には、試料の詳細、前処理方法、 $\delta^{13}\text{C}$ 値と 4 種類の測定年代を示している。第 162 図には INTCAL20 (Reymer et al., 2020) を用いた暦年較正結果を示した。また、確率分布と σ 、 2σ の構成範囲を示している。

土器の年代値について

縄文時代の暦年値については、弥生時代以降と異なり土器編年と暦年較正 C^{14} 年代値との関連が明らかになっていない。また、土器編年と C^{14} 年代の関係も、日本国内の地域によって異なることが知られている。今回の年代測定結果に関連する縄文時代早期は C^{14} 年代値との関係から一般に 10,000 ~ 6000 年前、縄文時代前期は 6,000 ~ 5,000 年前、中期は 5,000 ~ 4,000 年前とされている。一方暦年較正 C^{14} 年代値で、それぞれのしきい値 (年代) はおよそ 11,500、6,800、5,700、4,500 年前となる。

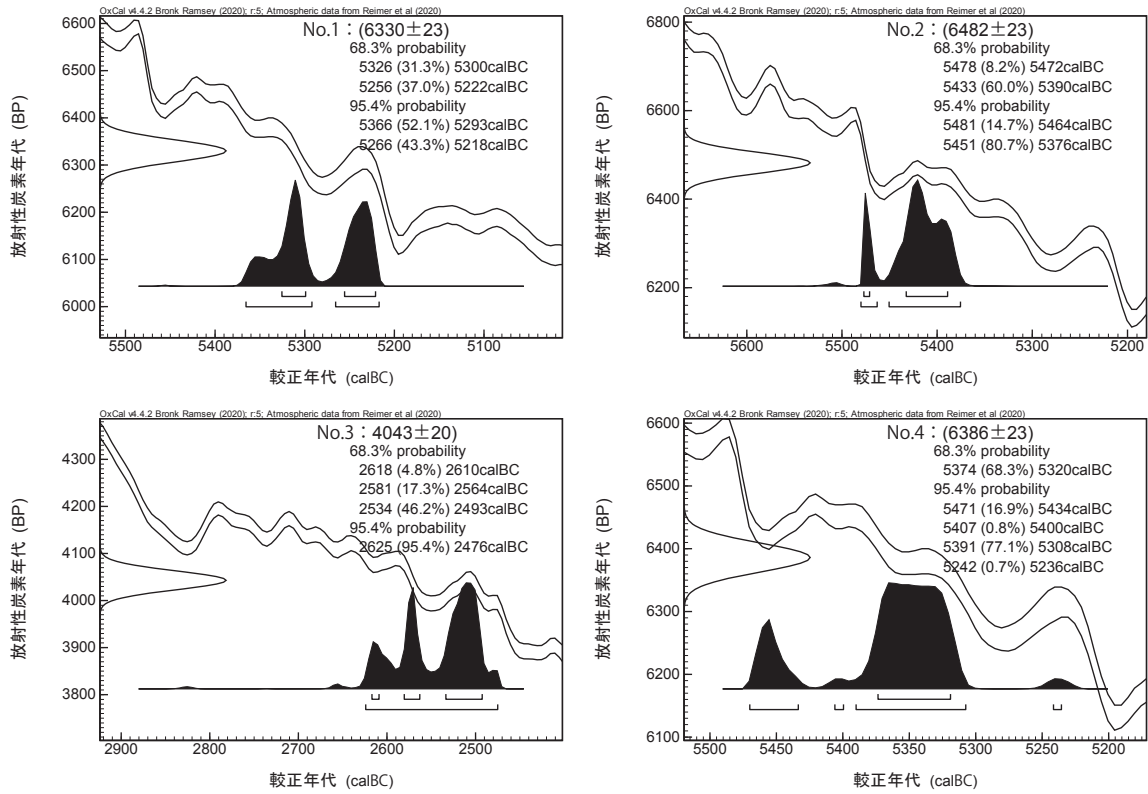
年代測定結果を第 163 図にまとめた、試料 No. 1 (No. ② : B 区縄文土器) は 2σ で 5,366 ~ 5218 calBC (7,316 ~ 7,168 calyaBP) : 縄文時代早期後葉、試料 No. 2 (No. 212 : B 区縄文土器、深鉢) は 2σ で 5,481 ~ 5,376 calBC (7,431 ~ 7,326 calyaBP) : 縄文時代早期後葉、試料 No. 3 (No. 286 : B 区 P-328, 329 縄文土器) は 2σ で 2,625 ~ 2,476 calBC (4,575 ~ 4,426 calyaBP) : 縄文時代中期中頃、試料 No. 4 (No. 1075 : B 区 P-568 縄文土器) は 2σ で 5,471 ~ 5,236 calBC (7,421 ~ 7,186 calyaBP) : で縄文時代早期後葉の年代を得た。

土器片の年代値については、試料 No. 1 は縄文時代早期後葉、試料 No. 2 は縄文時代早期、試料 No. 4 は縄文時代早期後葉と推定されており、本結果もこれらの推定年代を支持するものである。

一方、試料 No. 3 は縄文時代前期末 (3,750 calBC (5,700 calBP) 頃) と想定されていたが、年代測定結果は 1,000 年程度新しい年代であった。この原因として、土器編年と暦年較正 C^{14} 年代値の地域的差異による可能性が指摘できる。また、土器形式の見直しが必要かもしれない。

第 11 表 分析試料一覧

試料No.	遺跡	地区	試料			重量 (g)	推定時期	前処理	測定番号	
			出土地点 (遺構ほか)	実測No.	状況					
1	シノノ谷遺跡	B 区	-	②	土器片付着 おこげ	0.205	縄文時代早期後葉	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%,塩 酸:1.2%)	PLD-41272	
2				土器片付着 おこげ	1.016	縄文時代早期	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%,塩 酸:1.2%)	PLD-41273		
3				P-328, 329	286	土器片付着 おこげ	0.03	縄文時代前期末	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%,塩 酸:1.2%)	PLD-41274
4				P-568	1075	土器片付着 おこげ	0.287	縄文時代早期後葉	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%,塩 酸:1.2%)	PLD-41275
試料No.	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正無年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲			測定番号		
					1 σ 暦年代範囲		2 σ 暦年代範囲			
1	-26.13 ± 0.14	6349 ± 23	6330 ± 23	6330 ± 25	5326-5300 cal BC (31.3%) 5256-5222 cal BC (37.0%)	5366-5293 cal BC (52.1%) 5266-5218 cal BC (43.3%)		PLD-41272		
2	-25.01 ± 0.14	6482 ± 23	6482 ± 23	6480 ± 25	5478-5472 cal BC (8.2%) 5433-5390 cal BC (60.0%)	5481-5464 cal BC (14.7%) 5451-5376 cal BC (80.7%)		PLD-41273		
3	-25.57 ± 0.17	4053 ± 21	4043 ± 20	4045 ± 20	2618-2610 cal BC (4.8%) 2581-2564 cal BC (17.3%) 2534-2493 cal BC (46.2%)	2625-2476 cal BC (95.4%)		PLD-41274		
4	-26.46 ± 0.14	6410 ± 23	6386 ± 23	6385 ± 25	5374-5320 cal BC (68.3%)	5471-5434 cal BC (16.9%) 5407-5400 cal BC (0.8%) 5391-5308 cal BC (77.1%) 5242-5236 cal BC (0.7%)		PLD-41275		

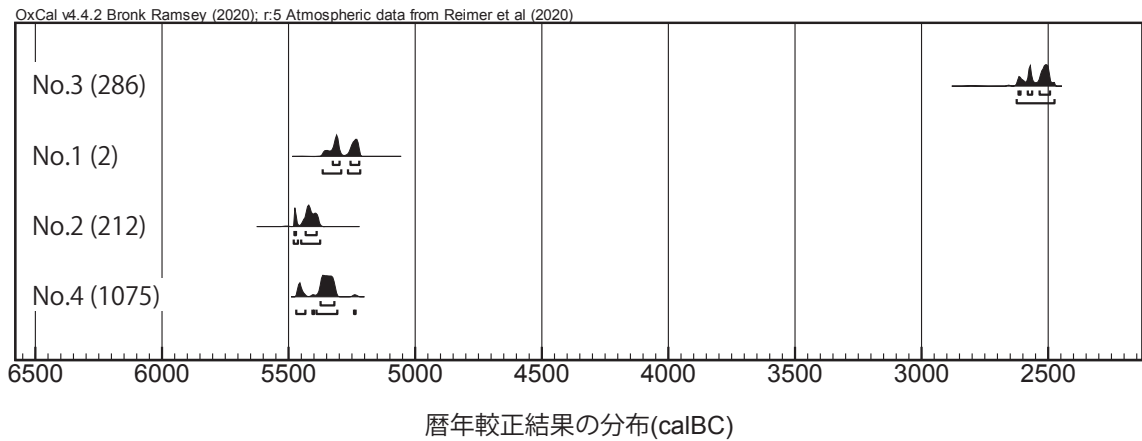


第 162 図 暦年較正結果

引用文献

Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

Reimer, P., Austin, W., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R., Friedrich, M., Grootes, P., Guilderson, T., Hajdas, I., Heaton, T., Hogg, A., Hughen, K., Kromer, B., Manning, S., Muscheler, R., Palmer, J., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R., Richards, D., Scott, E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., & Talamo, S. (2020). The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62.



第 163 図 暦年較正結果の分布

第6節 シコノ谷遺跡・若宮谷遺跡から出土した動物遺存体

東海大学海洋学部 丸山 真史

1. 概要

シコノ谷遺跡、若宮谷遺跡は大橋川下流の北岸に位置する遺跡であり、それぞれ縄文時代と中世の動物遺存体が出土している。シコノ谷遺跡では、谷地形に堆積した縄文時代の遺物包含層（礫層）の土壌を水洗篩別により採取したものである。礫層から出土した動物遺存体は、破片数にして1025点以上にのぼり、そのうち種類や部位を同定したものは744点を数える。その内訳は、哺乳類が563点、魚類が181点である。若宮谷遺跡では中世の貝層が形成されており、その貝層の水洗篩別により採取したものを含む。貝類を除く出土した動物遺存体は34点であり、そのうち種類や部位を同定したものは22点を数える。その内訳は、魚類が7点、哺乳類が15点である。

2. 種類別の特徴

a) シコノ谷遺跡

魚類 サメ類の歯が156点と最も多く、フグ科19点、マダイ2点、クロダイ属4点、計181点を同定した。サメ類は歯の形質的特徴からメジロザメ科の一種と同定でき、生態からドタブカと推定される。歯はいずれも顎骨から遊離しており、上顎歯の左62点、右61点、下顎歯の左12、右7点であり、残りは上顎5点、下顎5点、上下左右不明4点である。フグ科は前上顎骨（右）1点、前上顎骨と歯骨の区別できないものが18点である。マダイは前頭骨3点、上後頭骨2点である。クロダイ属は、前上顎骨（左3右1）4点である。このほか種類が判明しない前頭骨1点と上後頭骨4点がある（写真図版1-5・6）。

哺乳類 イノシシ299点、シカ255点、ヒト8点、ツキノワグマ1点、計563点を同定した。イノシシは、遊離歯167点、指骨（基節骨5、中節骨15、末節骨3）23点、距骨（左5右10）15点などが出土している。これらのうち被熱して白色ないし黒色を呈するものが4点、右尺骨、右脛骨1点ずつは近位端が、右橈骨1点、中手骨/中足骨2点は遠位端が癒合していない。遊離歯のうち上顎、下顎後臼歯には未萌出のもの、咬耗が始まったもの、著しく咬耗しているものなどがあり、幼獣、若獣、成獣が含まれており、第3後臼歯では咬耗が進行しているものが大部分を占めることから、成獣の比率は高い。シカは、遊離歯61点、指骨（基節骨13中節骨6末節骨8）27点、距骨（左11右13）24点などが出土している。指骨4点、枝角1点、中足骨1点は被熱して黒色ないし白色を呈する。枝角のうち1点は落角である。中手骨/中足骨のうち6点は遠位端が癒合していない。上顎、下顎後臼歯には未萌出のもの、咬耗が始まったもの、著しく咬耗しているものなどがあり、幼獣、若獣、成獣が含まれており、第3後臼歯の大部分は咬耗が進行しており、成獣の比率が高い。ヒトは、頭蓋骨4点、大腿骨2点、遊離歯と椎骨が1点ずつ、計8点が出土している。ツキノワグマは、上腕骨（右）1点が出土しており、遠位部に解体痕と思われる切傷2条がみられる。

b) 若宮谷遺跡

魚類 スズキ属、クロダイ属、タイ科が2点ずつ、トビエイ科1点を同定した。スズキ属とタイ科はいず

第12表 シコノ谷遺跡の哺乳類集計表

種類	頭蓋骨		下顎骨		椎骨	肩甲骨		上腕骨		橈骨		尺骨		寛骨		大腿骨		脛骨		踵骨		距骨		その他	計
	左	右	左	右		左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右		
イノシシ	1	3				1	1	1	6	2	3	4	4	4			2	3	4	2	4	5	10	遊離歯167下顎骨1肩甲骨1尺骨1手根骨L4R3中手骨L1R5大腿骨1膝蓋骨L2R1不明1腓骨1足根骨L1中足骨R2指骨23中手骨/中足骨14	299
ニホンジカ		4				5	4	2	3	4	2	2	3	2	1	4	2	3	4	3	2	11	13	枝角12遊離歯61下顎骨1肩甲骨1手根骨L9R7中手骨R2不明3大腿骨1膝蓋骨L1R1脛骨2腓骨2踵骨1足根骨L7R2中足骨R2不明10指骨27中手骨/中足骨22	255
ツキノワグマ								1																	1
ヒト					1																			頭蓋骨4遊離歯1大腿骨2	8

れも椎骨、クロダイ属は上後頭骨と前上顎骨（左）、トビエイ科は尾棘である。これらのほか、コチ科と思われる椎骨、マダイと思われる後側頭骨（右）があるが、同定には至らなかった。

鳥類 種類不明の手根中手骨（左）1点が出土している。

哺乳類 イノシシ2点、シカ13点、計15点を同定した。イノシシは頭蓋骨（左）と下顎骨（左）である。シカは指骨（基節骨2、中節骨2、末節骨2）6点、枝角（左1右1）が2点ずつ、脛骨（右）、踵骨（右）、距骨（右）、中心+第4足根骨（右）、中足骨（右）が1点ずつである。指骨と脛骨以下の部位は同一個体である。枝角のうち1点は落角であり、もう1点は斧あるいは鑿様の工具痕がみられる。

3. 考察

a) シコノ谷遺跡

シコノ谷遺跡では多数の動物遺存体が出土しており、漁撈を示す魚類、狩猟を示す哺乳類が出土している。これらは礫層から出土したものであり、原位置を留めておらず、実際に利用された動物種の一部と推測される。当遺跡における最大の特徴は、サメ類の歯が大量に出土したことであり、本州では最多である。ドタブカと推定され、1mは越える比較的大きな個体である。サメの歯は、脱落するとすぐに生え替わるように、顎骨には常に数列の歯列が形成されており、1個体の歯数は多い。サメの顎骨は軟骨であり、遺跡で保存されていることはほとんどない。本資料も、すべて顎骨から遊離状態で出土しており、重複する歯種の特定は困難であり、個体数の推定には及ばなかったが、できる限り上下、左右を分類した結果、最大数は上顎歯の左側が62点となった。ドタブカの歯列は上下左右の片側14本前後であり、単純計算では5個体と推定される。サメ類の肉は食用となり、歯は歯根を穿孔した垂飾などにも利用される。今回は椎骨が出土していないことから、肉の利用を考えるよりも、装身具などの素材として歯が持ち込まれたことが考えられる。また、歯には加工痕がみられないことから、象徴的なものであった可能性もある。いずれにしても原位置を留めていないため、相伴遺物などとあわせてさらなる検討が必要である。

b) 若宮谷遺跡

若宮谷遺跡でも、魚類と哺乳類、種類は不明であるが鳥類も出土している。貝層が形成されるほどの大量の貝類にも関わらず、魚類は少量に留まる。注目されるのは、シカの後肢で脛骨より下部がまとまって出土していることである。付着する肉量が多い大腿骨はないが、シカの足1本が廃棄されたものと推測される。このことはシカを解体して、枝肉の単位としての足1本を想定することができる。京都市の平安京左京六条三坊一町跡で安土桃山期の井戸から出土したシカの足3本がある（丸山・松井2005）。当資料から、中世にはすでにこのような枝肉がつくられていたことを窺い知ることができる。また、加工痕のみられる鹿角や落角も出土している。貝層を形成した集団は、水産資源の獲得に重点をおいていたと推測されるが、解体された枝肉は外部から持ち込まれたと考えられる。あるいは自ら狩猟していたとすれば、複合的な生業形態の集団であったことが想定される。

4. まとめ

シコノ谷遺跡では大量の動物遺存体が出土しており、メジロザメ科の歯はドタブカと推定され、特筆すべきは出土量が全国的にみても多いことである。サメは肉が食用にもなり、歯は垂飾などに加工され、象徴的に扱われた可能性もある。一方、若宮遺跡では魚骨の出土は少ないが、貝層が形成されていることから、漁撈に従事する集団と推測される。そこにおける狩猟対象獣であるシカの出土は、外部との交易、あるいは複合的な生業を示唆するものとして興味深い。

サメの歯の同定は、東海大学海洋学部の堀江琢氏からご教示を得た。記して、感謝の意を表す。

参考文献

丸山真史・松井章 2005「平安京左京六条三坊五町から出土した脊椎動物遺存体」『平安京左京六条三坊五町』（財）京都市埋蔵文化財研究所 pp.126-137



1 マダイ (前頭骨) 2,3 クロダイ属 (前上顎骨) 4 フグ科 (前上顎骨) 5,6 不明魚類 (5 前頭骨 6 上後頭骨)
 7~15 イノシシ (7 前頭骨 8 肩甲骨 9,10 橈骨 11 大腿骨 12,13 踵骨 14,15 距骨)
 16~25 シカ (16. 枝角 17 下顎骨 18 肩甲骨 19,20 上腕骨 21 橈骨 22 中手骨 23 踵骨 24,25 距骨) 26 ツキノワグマ上腕骨

写真図版 1 動物遺存体 (シコノ谷遺跡)

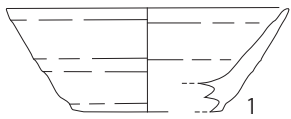

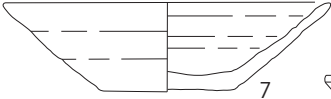
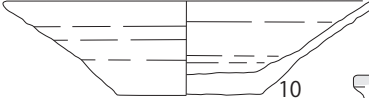

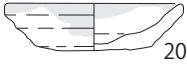
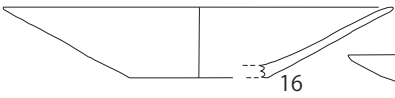
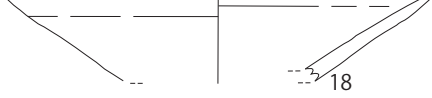
第6章 総括

第1節 若宮谷遺跡

若宮谷遺跡の調査では、東側に位置するシコノ谷と同様に谷底を埋める礫層中に縄文時代から弥生時代の遺物が含まれており、集落の存在が確認された。東側福富町福富松ノ前遺跡（松江市・2020）において縄文時代晩期を中心とする時期の土器、石器がまとまって出土している。遺物に石錘がみられ、魚骨、獣骨も含まれており、漁撈、狩猟の様子がうかがわれるなど遺跡の立地、内容が共通する遺跡である。

B 4 区の丘陵斜面から検出したSD09 は、平面形が「L」字状で溝内から弥生時代後期末～古墳時代前期の土器が出土し、竪穴建物の壁際溝と考えられる。後世の耕作により上部が削られており、他の溝状遺構の軸方向がSD05は平行し、SD07はずれて位置することなどから集落として一定期間継続していたものと思われる。

この場所から 1.5 m程低い谷部において2間×3間の堀立柱建物跡（SB01）を検出している。建物の北側にシジミと一部サルボウを含む貝塚がみられた。北側の隣接地を松江市文化振興財団が調査（仁木・2020）したところ同様の貝層がみられ10×15mの範囲が想定され、一定期間この場が集落として使われていたと思われる。貝層中には中世後半の土師器、陶磁器、木器が含まれていた。備前焼播鉢の分類がIV Aで、時期は14世紀後半～15世紀前半とされる。青磁碗はD類に属すもので、備前焼と同様の時期である。土師器は第34図1が口径と底径の差が少なく器高があるものである。

	坏	皿
14c 後半		
15c 前半		
		
		
		
15c 後半		
		

る。6は口径が広がり器高が低くなる。9・10は体部が外反し、14・15は器壁が薄く、直線的に開いており、胎土が白っぽくなる。10・15は、松江市下黒田遺跡（松江市・1988）の備前焼壺に共伴した土師器と同形態で従来15世紀という時期が考えられており、出雲市築山遺跡（高橋・2013）の土師器分類ではF-1,F-2とされるものが15世紀という時期が考えられている。第164図に土師器の形態変遷図を示しているが、従来10の形態を15世紀と考え、その前段階として13世紀の形状を残す1の形態が考えられる。10との間には、6の様に器高が低くなり体部が外反するようになる。16以降は、器壁が極めて薄く直線的に開く形態で胎土が白っぽくなる。益田地域の編年試案（東山・2020）で示される中世IV-3の時期と並行するものである。建物SB01

第164図 若宮谷遺跡遺跡 土師器変遷図（1：3）

の柱と柵列のAMS年代測定から14世紀末～15世紀前半の数値が出ており、土器、陶磁器の年代観と同様の時期と考えられる。第164図16の器壁が薄く、胎土が白い特徴は、今後の検討を必要とするが、在地土師器の中での変化ではなく山口県大内式などの外からの影響も考慮する必要がある。

第2節 シコノ谷遺跡

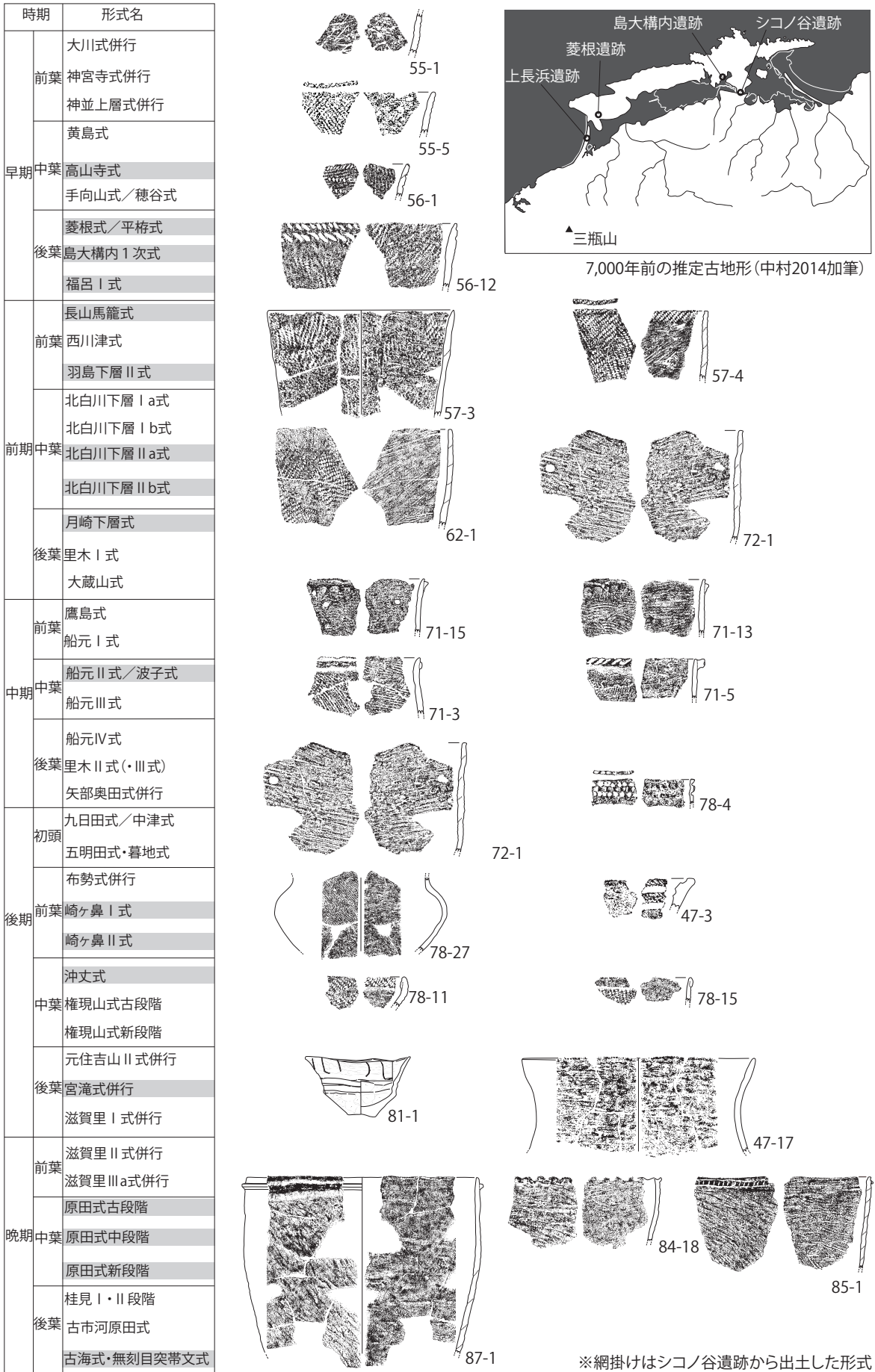
シコノ谷遺跡は、山塊からの支谷が大橋川に向けて位置し、土石流により砂礫層が堆積していた。基盤層の松江層を掘り込んだ川筋がみられ、大橋川の水面が低い時期の痕跡と考えられる。海水面の高さは、最終氷期最盛期以降に急上昇し、7,000年前に現在と同じレベルに達していたとされている。(中村・2014) 礫層中の縄文土器は早期以降の土器を含み、中でも早期後葉から前期前葉にかけての量が多くみられる。気候変動により海水面の上昇が始まったことで礫層が厚く堆積していったと考えられる。縄文時代後期から晩期にかけても一定量の土器がみられる。遺跡の東側に同立地の福富松ノ前遺跡(松江市・2020)があり、縄文時代晩期～弥生時代前期の土器が出土している。この遺跡からは炭化米が出土しており、当地方で稲作が始まったころの遺跡である。大橋川の南岸に注ぐ馬橋川沿いの石台遺跡でも縄文時代晩期の土器、農耕用とされる大型の打製石斧が出土している。シコノ谷遺跡でも、土器の外面に靨痕を残す縄文時代晩期の土器がみられることから、中海から大橋川の沿岸部において初期の稲作が行われていたと考えられる。

島根県の縄文時代の遺跡数を型式別にその推移をまとめられた幡中氏(幡中・2014)によると、早期から晩期にかけて増減を伴いながら徐々に増加していく傾向があるとされている。本遺跡では、縄文時代早期後葉から前期前葉にピークがあり、中期、後期が少なく晩期にもう一つのピークがみられる。最も古い段階は、早期中葉の高山寺式相当の土器で1点みられる。早期後葉の土器の特徴である胎土中に繊維を含むものが多くみられ「繊維土器」と呼称されている、条痕地に縄文が施される土器群で中国地方から近畿地方、北陸地方の主に日本海側を中心にみられる縄文条痕文系土器とされるものである。今回出土した土器は、礫層を相当量水洗したことで確認している。その特徴から分類を行い、図面を掲載している。繊維土器としては、羽状縄文、刺突文・沈線文を持つ宮ノ下式、表裏縄文、条痕に隆帯のある長山馬籠式、表裏に条痕を持つものがある。前期には北白川下層Ⅲ式相当、月崎下層式/彦崎Z1式相当、中期の波子式、船元Ⅱ式相当、後期が崎ヶ鼻式、沖丈式、宮滝式相当、晩期が中葉段階原田式相当の時期である。早期後葉、前期前葉と晩期に出土量のピークがあり、その間も遺跡自体は継続していたと思われる。

出土量の多い繊維土器と突帯文土器について統計的に現れる傾向を整理し、繊維土器の組成に関しては山陰地方における同時代の遺跡との比較検討を試みる。

繊維土器

本遺跡B区の礫2層からは縄文や条痕を施した厚手の土器片が1169点出土している。厚さは4～18mmと測定値に幅があるが平均は8mmを計測し、そのうち7mmを超えるものが74%(608点)を占める。厚手土器の胎土には繊維がみられるものが68%(795点)あり、これらは繊維土器とよばれる縄文早期後葉の土器にみられる特徴である。土器に練り込まれた繊維痕は短いものが多く、細くカールしたものや繊維状のものがみられる。繊維土器が出土する島根県内の遺跡として、縄文早期後葉の出雲市菱根遺跡、出雲市上長浜遺跡、松江市島根大学構内1次遺跡(以下、島大構内1次)が



第165図 シコノ谷遺跡 縄文土器変遷図 (1:3)

あげられる(柳浦2020)。菱根遺跡、島大構内1次遺跡から出土した土器は、縄文早期後葉を示す型式となっている(以下、型式は岡田2008)。

器形が復元できるものは少ないが、比較的上半部の残りのよい個体(第54図1・2・6、第57図1・3、第62図1・2・6、第72図1)は、いずれも寸胴形を呈した直口の深鉢である。復元される口径は、第57図3は26cm、第62図2は17cmを計測する。底部の出土量は少ないが平底のもの(第77図6～8、10～15)が比較的多く、ついで尖底気味の丸底(第77図16～20)であり、平丸底(第77図9)も少量ながら認められる。底部の外面に縄文を施すものが多く、第77図9は外面に縄文、内面に条痕を施文する。

土器に施文する地文には縄文と条痕がある。縄文の撚りは左撚りのLR系が65%(512点)であり、そのうち単節LRは49%(384点)、前々段多条LRが16%(125点)である。右撚りのRL系は19%(125.5点、註1)で、その大半は単節RLの15%(118.5点)である。施文方向は斜位のものが多く、方向を違えて交錯し羽状を呈するものも3%(21点)確かめられた。条痕原体の多くは貝殻と思われ、圧痕から二枚貝と条痕幅の広い巻貝が推定される。巻貝と思われる幅広条痕は土器内面の調整に使用される。条痕の施文方向は斜位ないし横位のものが多くみられる。

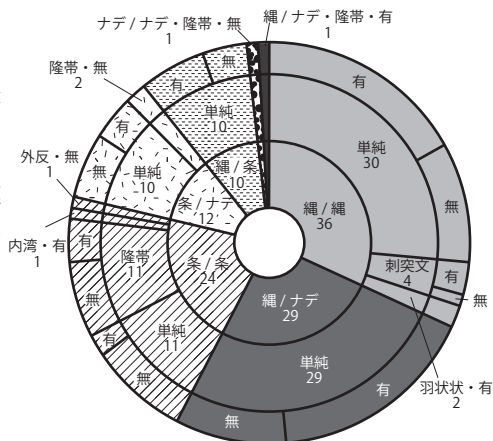
地文以外の文様として沈線文・刺突文・隆帯文がある。第55図-1は細目の沈線でやや乱雑に斜

格子文を描き、沈線の間隔は短く端部は不揃いに交差している。文様にみられる形式から、早期中葉の高山寺式の押型文土器に相当するものと思われる(柳浦2020)。第56図1～16は内外面に縄文を施し(以下、表裏縄文)、外面には斜位の刺突による1～3条の列点文を配する。刺突文を伴う表裏縄文であることから、早期後葉の菱根式(宮ノ下式)に相当するものと思われる。第71図1～17は口縁外帯に隆帯文を貼り付けている。第71図1～12は粘土紐の隆帯を貼り付け、隆帯上に刺突を加えるものがある。第71図13～17は隆帯の下端に波状を呈する指押さえの痕を残している。口縁外帯に隆帯文を貼り付ける型式は縄文早期後葉から前期前葉にかけて知られており、地文が縄文である第71図1は早期後葉の福呂I式に相当し、それ以外は地文が条痕であることから前期前葉の長山馬籠式に相当するものと思われる。

カーボンが付着した繊維土器について放射性炭素年代測定を行っている(5章4節)。その測定値は長山馬籠式相当とした第71図5が約7200年前、同じく長山馬籠式とした第71図15は約7300年前、縄文/条痕の底部である第77図9は約7200年前である。山陰地方では当該期に相当する比較資料がみあたらないが、早期中葉である手向山式の妙見遺跡資料が約8900年前、前期前葉である西川津式の西川津遺跡資料が約7100年前の年代を示すの

調整	形態	その他	口縁端部	点数
縄/縄	単純口縁	羽状状	有	2
			無	0
		刺突文	有	3
			無	1
			-	19
縄/ナデ※	単純口縁	-	有	19
			無	10
		-	有	4
			無	6
			-	1
ナデ/縄文	隆帯	-	有	0
			無	1
			-	4
条/条	単純口縁	直立	有	7
			無	0
			-	1
	隆帯	-	内湾	1
			外反	0
			-	2
条/ナデ※	単純口縁	-	有	4
			無	6
			-	0
ナデ/ナデ	隆帯	-	有	2
			無	1

※は磨減も含む



第13表 シコノ谷遺跡B区出土繊維土器集計 (口縁部)

で型式の前後関係について整合性が確かめられる(柳浦 2014)。

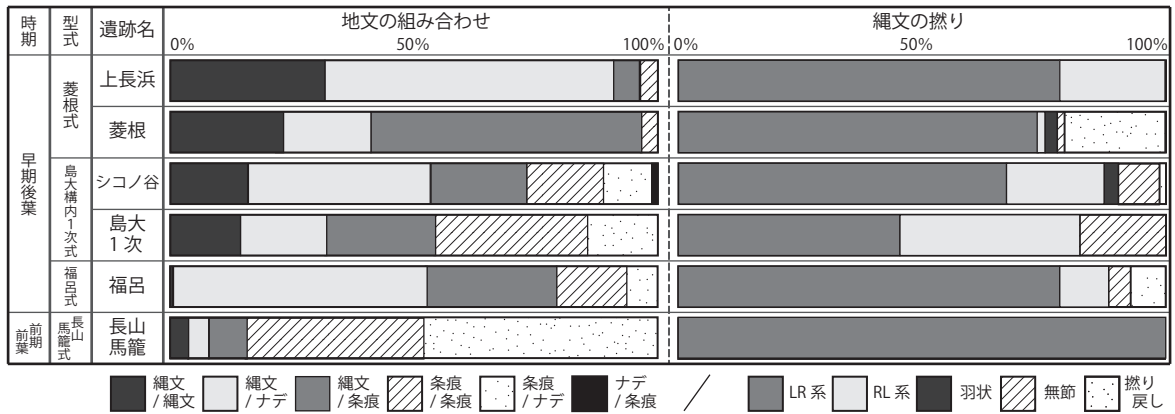
地文である縄文と条痕の組み合わせにはいくつかのパターンがあり、主だったものとして、表裏縄文、表面-縄文/裏面-ナデ(以下、縄文/ナデ)、縄文/条痕、条痕/条痕、条痕/ナデ、ナデ/条痕の6パターンがあげられる。本遺跡にみられる地文の組み合わせについて、口縁部分(表13)と破片総数(表14)にわけて分類を行った。口縁部分を別途に抽出した理由は、比較的識別が容易であり点数も多く、口唇を跨ぐ表裏の組み合わせが特定できることによる。

口縁部分は細片を含めてすべて掲載しており、点数は113点になる。地文に縄文を伴うものが66%(75点)を占め、そのうち表裏縄文が32%(36点)、縄文/ナデが26%(29点)、縄文/条痕は9%(10点)である。表裏縄文には刺突文4%(4点)のものと羽状文2%(2点)が含まれる。地文に縄文を用いないものは34%(38点)である。そのうち条痕/条痕は12%(24点)、条痕/ナデは9%(12点)である。口縁の形状は平縁ないし波状のものが87%(98点)、口縁の外側に隆帯文を貼り付けるものが13%(15点)である。条痕/条痕の平縁には大きく外反するもの(第72図7)と内湾するもの(第72図2)がみられる。口唇部に刻目を伴うものは52%(59点)である。口唇部の刻目は、地文に縄文を伴う場合は63%(75点)と高く、縄文を伴わない場合は29%(38点)に低下する傾向が認められる。

破片総数でみると表裏縄文は14%(169点)、縄文/ナデは34%(403点)、縄文/条痕は18%(211点)、条痕/条痕は14%(168点)、条痕/ナデは9%(100点)、ナデ/条痕2%(19点)、ナデ/ナデ6%(67点)、不明3%(32点)である。破片総数では表裏縄文の割合は口縁部のみを抽出した場合と比べて18%減少している。代わって縄文/ナデと縄文/条痕は8~9%増加する。表裏縄文には口縁の内側のみに縄文を配し、胴部以下は条痕やナデ調整を施すものが少なからず認められる。地文に縄文を伴う割合は67%(783点)であり、また外面に縄文を伴わない条痕/条痕や条痕/ナデも口縁部分とほぼ同じ割合となる。胴部や底部のみの破片には、表裏縄文のうち胴部以下の調整を変えたものが含まれており、口縁部分と破片総数における割合の違いは表裏縄文における調整方法を反映している可能性が高い。表裏縄文のうち約半数は、口縁の裏側のみに縄文を配し、胴部以下にナデ調整ないし条痕調整を行っていたことが推測される。

地文の組み合わせの組成比と縄文の撚りの組成比について、小林氏の研究に基づいて周辺遺跡と比較したのが表14である(小林2000 本遺跡データ“ナデ/ナデ”および“不明”は除外 註2)。地文の組み合わせのうち表裏縄文は上長浜遺跡で32%と高く、菱根遺跡25%、本遺跡16%、島大構内1次遺跡14%と続き、福呂遺跡と長山馬籠遺跡は5%以下となる。地文に縄文を伴う比率は菱根遺跡と上長浜遺跡では95%を超え、ついで福呂遺跡79%、本遺跡69%、島大構内1次遺跡54%、長山馬籠遺跡16%となる。条痕/条痕は長山馬籠遺跡と島大構内1次が30%以上であり、ついで本遺跡16%、福呂遺跡14%と続き、菱根遺跡と上長浜遺跡は5%以下となる。縄文の撚りについてはいずれの遺跡もLR系が最も多く、資料点数の僅かな長山馬籠遺跡は100%、上長浜遺跡と福呂遺跡は80%前後、菱根遺跡74%、本遺跡68%と何れも2/3を超えるが、島大構内1次遺跡は48%で過半を割っている。逆にRL系は島大構内1次遺跡が最も多く37%、上長浜遺跡と本遺跡が約20%、福呂遺跡10%、菱根遺跡は1%となる。無節も島大構内1次遺跡が17%と最も高く、本遺跡が9%、福呂遺跡と菱根遺跡は5%以下となる。島大構内1次遺跡はLR系の割合が低く、代わりにRL系や無節の割合が高くなる傾向を示している。羽状縄文は菱根遺跡で3%確認され、本遺跡は羽状に見え

分類	表	内	点数	分類	表	内	点数	分類	表	内	点数
縄文/縄文	LR	LR	98	縄文/ナデ	前々段多条RL	ナデ	23	縄文/条痕	無節L	条痕	14
	RL	RL	30		無節R	ナデ	15		無節R	条痕	13
	LR	LR前々段多条	22		羽状LR	ナデ	12		羽状LR	条痕	12
	無節L	無節L	5		RL(羽状)	ナデ	3		前々段多条LR	条痕	11
	前々段多条LR	前々段多条LR	4		前々段多条	ナデ	2		前々段多条RL	条痕	11
	無節R	無節R	4		複節LR	ナデ	2		撚糸文	条痕	2
	複節LR	単節LR	2		撚り戻しLRL	ナデ	1		撚り戻しRRL	条痕	1
	LR羽状	LR	1		特殊縄文	ナデ	1		条痕/条痕	条痕	168
	LR	RL	1		撚り戻しLLR	ナデ	1		条痕/ナデ	条痕	100
	前々段多条	前々段多条	1		無節R	無文	5		ナデ/条痕	ナデ	5
無節L	撚り不明	1	無節R	無文	5	無文/条痕	無文	14			
縄文/ナデ	LR	ナデ	184	縄文/条痕	LR	条痕	89	ナデ/ナデ	ナデ	5	
	前々段多条LR	ナデ	99		RL	条痕	39	無文/無文	無文	62	
	RL	ナデ	49		前々段多条	条痕	19	不明	-	-	32



第14表 シコノ谷遺跡B区出土繊維土器集計(破片総数)と周辺遺跡との比較グラフ

るものを含める3%である。

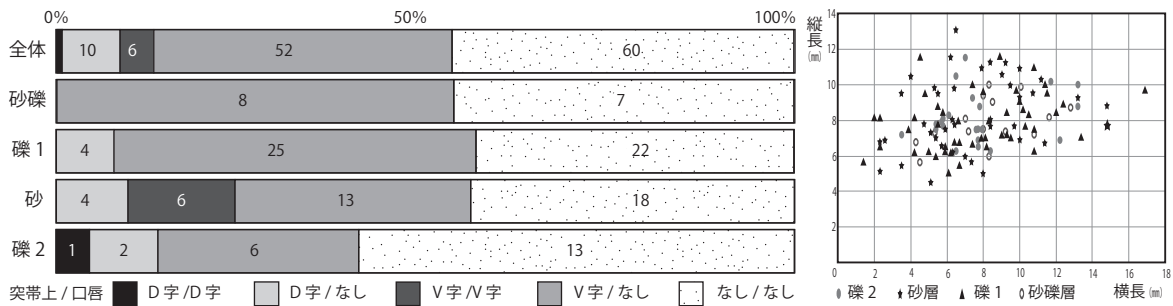
遺跡を単位とする比較では、本遺跡の組成は示準遺跡である菱根遺跡と島大構内1次遺跡の中間の様相を示している。菱根式の特徴とされる表裏縄文の比率は島大構内1次遺跡よりやや高く、島大構内1次遺跡で多い条痕/条痕は菱根遺跡より高くなる。縄文の撚りでは、島大構内1次遺跡で顕著にみられるRL系と無節が一定量を占めており、菱根遺跡にみられる羽状縄文も少量ながら含まれる。本遺跡の組成は島大構内1次遺跡に近いが、前段階の菱根遺跡にみられる様相も色濃く残しているといえる。上長浜遺跡の組成は表裏縄文の比率が高く、菱根遺跡に近い組成をみせている。

島根県東部の平野部に位置する上長浜遺跡、菱根遺跡、シコノ谷遺跡、島大構内1次遺跡の組成は、鳥取県の中山間地に位置する福呂遺跡、長山馬籠遺跡と比較したときにみられるほどの極端な相違はなく漸移的であり、地理的環境も反映している可能性がある。縄文時代の島根半島は地続きではなく宍道湖・中海が日本海と繋がった内海をなしていたものと推定されている。上長浜遺跡、菱根遺跡、シコノ谷遺跡、島大構内1次遺跡はいずれもこの古内海沿岸部に立地している。これら地理的環境を同じくする古内海沿岸部に成立した集落は、土器製作に関わる情報のある程度共有し、前段階の要素を踏襲しつつ時代の変遷とともに新たな要素を加えたのではないと思われる。

突帯文土器

本遺跡B区の突帯文土器は暗灰色粘質土層から礫2層にかけて出土しているが、層位的には河川堆積による砂層(縄文後期~古墳)が縄文晩期に相当するものと思われる。下位の礫2層から取り上げられた突帯文土器は、いずれも砂層との境目から出土しており砂層最下部から混入したものと考えられる。上位である礫1層と暗灰色粘質土層は、縄文時代から古代にかけての遺物が混在していることから、古代以降に土砂崩れによって流れ込んだものと思われる。

シコノ谷遺跡から出土した突帯文土器の口縁部は細片を含めてすべて掲載しており、B区の点数



第15表 シコノ谷遺跡B区出土突帯文土器集計/突帯の位置

は129点である(表15)。突帯の形状は様々あるが、口唇端部と突帯上端とのあいだに若干の間隔をあけ、断面三角形の粘土紐を貼り付けたものが多い。突帯上と口唇部に刻目を施すものがあり、刻目の形状は正面形がD字状の「D字刻目」と断面がV字状である「V字刻目」が認められる。突帯文土器に捺されるD字刻目は小型化するとされるが、本遺跡にみられるものは総じて小振りである。刻目は突帯上ないし突帯上+口唇部に施文され、口唇部のみに施文したものはない。突帯上に刻目を伴うものは53% (69点)、突帯上+口唇部は10% (7点)である。それ以外のものとして突帯上に一条の沈線を廻らしたものが2点ある(第82図1・2)。刻目の分類はV字刻目が83% (58点)、D字刻目が16% (11点)である。これらの突帯文土器に伴う底部は第79図-21にみられるような平丸底になるものと思われる。

層位的にみると、礫2層は刻目を伴うものは41% (9点)である。突帯上の刻目はD字刻目が14% (3点)で、そのうち口唇にもD字刻目を伴うものが5% (2点)、V字刻目は27% (6点)である。砂層では刻目を伴うものは56% (23点)へと増加する。突帯上の刻目はD字刻目が10% (4点)、V字刻目が46% (19点)で、そのうち口唇にもV字刻目を伴うものが15% (6点)ある。礫2層から砂層にかけて刻目を伴う比率が微増し、刻目はD字からV字の比率が高くなる傾向が認められる。口唇の刻目は礫2層ではD字刻目で、砂層ではV字刻目が施される。

突帯文の貼り付け位置はバラつきがあるが、平均すると口唇端部から7.7mmの位置に8.1mm程度突出させている。なかでも口唇端部から6～9mmの範囲に5～8mm程度突出させるものが多くみられる。層位的にみると礫2層より砂層にかけて貼り付け位置が上昇するものが現れるが、平均値でみると礫2層が7.7mmに対して砂層が7.4mmとその差は僅かである。

B区出土の突帯文土器は礫2層から砂層にかけて層位に伴う若干の変化が認められるものの、形式的にまとめられる資料といえる。突帯文に刻目を伴うものと伴わないものはほぼ同数であり、そのうち口唇部に刻目を伴うものは約10%である。刻目の分類ではD字刻目が減少しつつあり、V字刻目が主体となる時期である。突帯の貼り付け位置にはバラつきがあるが、口唇部と突帯の間が若干離れる中位とされるものが多い(家根1981)。砂層には突帯文土器とともに少量の弥生前期前半代の土器(第103図1・2・9)を伴っており、柳浦氏による突帯文土器編年の突帯4期(縄文晩期後葉)に相当するものと思われる(柳浦2020)。

石器

黒曜石はチップの重量が22.258kgとかなりの量が出土している。石鏃は図示したもので75点、その外に33点(黒曜石製29点)出土し、1遺跡からの出土数としては多いものである。石鏃に使用された石材では圧倒的に黒曜石が多く、サヌカイト製はわずかに7%である。隠岐産黒曜石の研究(島根県・2018)で示された、山陰中部の状況と同様である。石鏃は主に早期後葉～前期前葉を

中心とする時期と思われる。形態は、逆V字、平基、突起、剥片の4形態に分類し、石鏃と同様の時期にサメの歯も出土しており、その形態が逆V字の石鏃と良く類似している。

A区では縄文時代後期の土器が主体として出土し、石器（スクレーパー）に使用された石材は珪質岩である。早期が黒曜石主体で安山岩が少量、後期に珪質岩が使用される様になるという傾向がみられた。黒曜石は大量に出土し、チップも多くみられるが図示した石核が最も大きいもので、産地である程度加工され、日本海を経由して運ばれたと思われる。特殊な石器として、96図1の大型石斧がみられる、長さ33.2cm、重量1,405gと極めて大型である。使用痕も認められず、通常の石斧としての用途ではなく祭祀的なものと思われる。

動物遺存体

サメの歯が156点確認されており全国で3番目の出土数である。他の2遺跡（財北海道・2008）は北海道恵庭市西島松5遺跡（292点）、石狩市志美第4遺跡（272点）であり、いずれも装身具に利用されたものである。県内では、美保関サルガ鼻洞窟からは加工品が1点出土している。シコノ谷遺跡から出土した歯には加工がみられず、縄文時代早期の中海は、日本海と広く繋がっていたことから、食料としたものと思われる。現在の中海、大橋川ではサメは確認されていない。サメの歯以外にも魚骨、イノシシ、鹿などの獣骨も含まれ、遺跡北側の山林での狩猟が想定される。

縄文時代以降も集落は継続しており、弥生時代、古墳時代、古代、中世に至る各時期の遺物が出土している。縄文時代晩期～弥生時代前期にかけての時期に稲作が伝わったものと思われる。弥生時代は中期後葉から後期にかけての土器が出土し砂層からの出土ということで全形を残している。後期末に畿内からの搬入費と思われる庄内式の土器がみられ、出雲地方の他の遺跡で出土する時期と一致するものである。奈良時代の須恵器と共に出雲国分寺の軒平瓦、平瓦が出土し、木製品に火鑽臼がみられ、燃えさしが103点確認された。木筒状の木製品もみられるが、赤外線文字等は確認できていない。川を挟んで出雲国分寺までの距離が近いこともあり人々の往来が想定される。

【参考文献】

- 島根県教育委員会2017『官道下遺跡・灘遺跡』斐伊川水系大橋川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1
 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団2020『福富松ノ前遺跡』松江市文化財調査報告書 第194集
 二木聡2020『32島根県 第Ⅱ部各都道府県の動向』日本考古学年報72（2019年度版）一般社団法人日本考古学協会
 財団法人北海道埋蔵文化財センター2008『恵庭市 西島松5遺跡（6）』
 松江市教育委員会1988『下黒田遺跡』松江市建設部建設課・松江市教育委員会
 高橋周2013「出雲平野における中世土師器の様相」『山陰中世土器研究1-西尾克己さん還暦記念論集-』山陰中世土器検討会
 東山信治2020『益田地域の土師器』中世石見における在地領主の動向検討会資料島根県古代文化センター
 島根県古代文化センター2018『石材利用から見た山陰縄文石器群の地域展開』島根県古代文化センター研究論集第19集
 岡山県備前市縄文委員会2013『備前市埋蔵文化財調査報告書11 備前焼詳細分布報告書』
 幡中光輔2014「2.山陰地方縄文関係資料集」『古代文化センターテーマ研究論集 第13集 山陰地方の縄文文化』
 柳浦俊一2014「2.山陰地方縄文関係資料集」『古代文化センターテーマ研究論集 第13集 山陰地方の縄文文化』
 柳浦俊一2020「山陰地方における押型文末期とその後の土器」『九州縄文時代早期研究ノート第6号』九州縄文時代早期研究会
 柳浦俊一2020「山陰地方の縄文早期末前期初頭土器編年の概要と課題」『本州西部の早期末前期初頭土器編年』関西縄文研究会
 岡田憲一2008「縄文条痕文系土器（西日本）」『総覧縄文土器』UM Promotion
 『上長浜貝塚』出雲市教育委員会1996
 小林青樹2000「福呂遺跡出土土器の特徴」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 福呂遺跡Ⅰ』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 家根祥多1981「晩期の土器 近畿地方の土器」『縄文文化の研究第4巻 縄文土器Ⅱ』雄山閣
 中村唯史2014「縄文時代の島根県の古地形と三瓶火山の活動の影響」『古代文化センターテーマ研究論集 第13集 山陰地方の縄文文化』
 註1. 縄文土器の分類や鑑定等について島根県埋蔵文化財調査センター柳浦俊一氏、石器の分類・鑑定は島根県教育庁文化財課稲田陽介氏の協力を得た。
 註2. 表裏で地文が違うものは0.5点としてカウントして土器個体数を算出している。
 註3. 小林氏が作表したデータに、本遺跡と上長浜遺跡のデータを追加している。作表にあたり小林氏分類による“D：内外縄文+条痕”は“縄文/縄文”、“E：外面縄文+条痕文・内面条痕文のみ”は“縄文/条痕”に包摂している。本遺跡にみられる“ナデ/条痕”の項目を新たにに加え、地文の伴わない“ナデ/ナデ”および“不明”を除外している。また遺跡を単位とした比較にするため、層位の違いである“福呂Ⅰ”と“福呂Ⅱ”は“福呂遺跡”として包摂している。

第16表 若宮谷遺跡出土遺物観察表

A区 遺物

図	番号	写真	層位	種別	器種	石材	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	重さ	色 調	胎 土	焼成	調整・文様・備考
9	1	11	耕作土	石器	石鏃 未成品	黒曜石	2.6	2.4	0.6	3.5	-	-	-	-
9	2	11	側溝内	石器	コア	安山岩	4.6	3.7		50.5	-	-	-	-
9	3	11	SD01	須恵器	蓋				(1.2)		外：青灰色 内：青灰色	5PB5/1 5PB5/1	密(白色 粒を含む)	良好 外：回転ヘラケズリ 内：回転方向のナデ
9	4	11	P-9	須恵器	壺甕				(4.9)		外：青灰色 内：青灰色	5PB5/1 5PB5/1	密(白色 粒を含む)	良好 外：並行たたき 内：ナデ
9	5	11	側溝内	須恵器	壺甕				(3.6)		外：暗オリーブ灰色 内：暗オリーブ灰色	2.5GY7/1 2.5GY7/1	密(砂粒 を少量含 む)	良好 外：並行たたき、薄く自然釉かかる 内：青海波文
9	6	11	SD01	土製品	土製支脚		9.2	6.0			外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	5Y7/3 5Y7/3	密(砂粒 を多く含 む)	良好
9	7	11	耕作土	土製品	土錘		4.2	1.4		7.5	外：淡橙色 内：淡橙色	5YR8/4 5YR8/4	密(砂粒 を少量含 む)	良好
9	8	11	耕作土	土製品	土錘		3.3	1.3		7.0	外：淡橙色 内：淡橙色	5YR8/4 5YR8/4	密(砂粒 を少量含 む)	良好
9	9	11	耕作土	磁器	染付皿				(1.5)		外：透明釉 内：透明釉	-	白色	良好 肥前系 蛸唐草文 19世紀前半代
9	10	11	耕作土	磁器	色絵皿				(0.9)		外：透明釉 内：透明釉	-	白色	良好 肥前系 草花文カ 18世紀後半代
9	11	11	耕作土	磁器	染付碗				(5.2)	(1.6)	外：透明釉 内：透明釉	-	白色	良好 肥前系 18世紀代

B区 土器

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色 調	胎 土	焼成	調整・文様	備 考
13	1	11	SK01	縄文	不明	-	-	(1.7)	外：褐灰色 内：褐灰色	7.5Y4/1 7.5Y4/1	密(砂粒含む)	良好	縄文/ナデ
15	1	11	SK02	陶器	香炉	7.5	4.8	5.9	外：灰釉 内：灰釉	-	茶褐色	良	肥前系 半筒形香炉 九陶1期(小物成2号窯指標)
15	2	11	SK02	磁器	染付皿	13.3	5.7	3.7	外：透明釉 内：透明釉	-	白色	良好	肥前系 丸形皿 山水文 九陶II-2期
15	3	11	SK02	陶器	染付皿	13.25	5.3	3.5	外：透明釉 内：透明釉 灰白色 灰白色	5GY8/1	白色	良好	肥前系 丸形皿 山水文 九陶II-2期
15	4	11	SK02	須恵器	甕			(2.9)	外：灰色 内：灰色	N 4/4 N 4/4	密(白色粒、砂粒含む)	良好	外：波状文・沈線 内：自然釉
15	5	11	SK02	須恵器	甕			(2.3)	外：灰色 内：灰色	N 6/6 N 6/6	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	外：並行たたき 内：同心円状の当て具痕
15	6	11	SK02	須恵器	甕			(3.0)	外：薄い青灰色と薄 黒灰色 内：薄い茶褐色	N 5/5 N 6/6	密(1mm以下の白色砂粒を多く含む)	良好	外：並行たたき、カキ目 内：同心円状の当て具痕
15	7	11	SK02	須恵器	甕			(2.6)	外：灰色 内：灰色	N 5/5 N 6/6	密(1mm以下の白色砂粒を含む)	良好	外：並行たたき 内：同心円状の当て具痕
15	8	11	SK02	須恵器	甕			(4.4)	外：灰色 内：灰色	N 6/6 N 6/6	密(1mm前後の白色砂粒をまばらに含む)	良好	外：並行たたき 内：同心円状の当て具痕
20	1	12	SD09	古式土師器	高環脚部		(13.3)	(2.9)	外：乳白色 内：乳白色	10YR8/1 10YR8/1	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	風化のため調整不明
20	2	12	SD09	古式土師器	壺脚部		19.0	(3.8)	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	10YR8/3 10YR8/3	密(2~3mmの砂粒を含む)	良好	風化のため調整不明
20	3	12	SD09	古式土師器	脚部			(2.6)	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	7.5Y8/3 7.5Y8/3	密	良好	風化のため調整不明
20	4	12	SD09	古式土師器	低脚環		7.1	(3.2)	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	7.5Y8/3 7.5Y8/3	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	風化のため調整不明
20	5	12	SD09	古式土師器	壺	20.0		(9.6)	外：浅黄褐色 内：褐色	7.5Y8/3 7.5YR6/6	密(1mm前後の砂粒を多く含む)	良	風化のため調整不明
20	6	12	SD09	古式土師器	甕	(17.5)		(5.0)	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	10YR8/3 10YR8/3	密(砂粒含む)	不良	風化のため調整不明
20	7	12	SD09	古式土師器	甕			(11.5)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密(砂粒含む)	不良	外：- 内：ヘラケズリ
20	8	12	SD09	古式土師器	甕	(24.0)		(22.4)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密(1mm前後の砂粒を含む)	良	外：- 内：ヘラケズリ
27	1	13	調査区内表探	縄文	深鉢			(6.0)	外：褐灰色 内：褐灰色	10YR6/1 10YR6/1	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外：刻目突帯、ナデ 内：ナデ 突帯文土器
27	2	13	礫層	縄文	深鉢			(3.0)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密(1mm前後の砂粒を含む)	良好	外：突帯、条痕 内：条痕 突帯文土器
27	3	13	礫層	縄文	深鉢			(3.6)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 10YR8/2	微細粒	良好	外：刻目突帯、条痕 内：条痕 突帯文土器
27	4	13	礫層	縄文	深鉢			(3.1)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/1 10YR8/1	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	外：突帯、条痕 内：条痕 突帯文土器
27	5	13	礫層	縄文	深鉢			(2.2)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密(1mm以下の微砂粒を含む)	良好	外：突帯、条痕 内：条痕 突帯文土器
27	6	13	礫層	縄文	深鉢			(2.4)	外：明灰褐色 内：明灰褐色	7.5YR7/2 7.5YR7/2	密(1mm以下の微砂粒を含む)	良好	外：- 内：- 突帯文土器
27	7	13	礫層	縄文	深鉢			(2.0)	外：明褐色 内：明褐色	7.5YR7/2 7.5YR7/2	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外：刻目突帯、条痕 内：- 突帯文土器
27	8	13	礫層	縄文	深鉢			(3.5)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/2 10YR8/2	2mm以下の砂粒を少量含む	良好	外：突帯 ナデ 内：ナデ 突帯文土器
27	9	13	礫層	縄文	深鉢			(1.8)	外：灰白色 内：灰白色	10YR8/1 10YR8/1	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外：突帯、条痕 内：条痕 突帯文土器
27	10	13	礫層	縄文	深鉢			(1.9)	外：にぶい黄褐色 内：灰黒色	10YR6/3 10YR6/3	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外：突帯二枚貝による刺突、 条痕 内：条痕 突帯文土器
27	11	13	礫層	縄文	深鉢			(4.6)	外：灰白色 内：灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外：刻目突帯、ナデ 内：ナデ 突帯文土器
27	12	13	礫層	縄文	深鉢			(4.2)	外：褐灰色 内：褐灰色	10YR6/1 10YR6/1	密(1mm前後の白色砂粒を多く含む)	良好	外：突帯 内：条痕 突帯文土器
27	13	13	北壁 縄文1	縄文	深鉢			(2.9)	外：明褐色 内：明褐色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	密(1mm前後の砂粒を含む)	良好	外：突帯、条痕 内：条痕 突帯文土器
27	14	13	砂礫層	縄文	深鉢			(4.4)	外：灰黄褐色 内：褐灰色	10YR6/2 10YR5/1	密(1mm前後の白色砂粒を少量含む)	良好	外：突帯、条痕 内：横方向の条痕 突帯文土器

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	調整・文様	備考	
27	15	13	砂礫層	縄文	鉢カ			(1.6)	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	密	良好	外:突帯 内:マメツ	突帯土器
27	16	13	砂礫層	縄文	深鉢			(3.4)	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密(1mm前後の砂粒をまばらに含む)	良好	外:突帯、マメツ 内:マメツ	突帯土器
27	17	13	砂礫層	縄文	深鉢			(6.0)	外:明褐色 内:明褐色	7.5YR7/2 7.5YR7/2	密(1mm以下の白色砂粒を含む)	良好	外:条痕 内:条痕	
27	18	13	礫層	縄文	-			(4.5)	外:明褐色 内:明褐色	7.5YR7/2 7.5YR7/2	密(微砂粒を含む)	良好	外:2条沈線、条痕 内:条痕	
27	19	13	礫層	縄文	深鉢			(1.6)	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	不良	外:条痕、隆帯 内:条痕	
27	20	13	礫層	縄文	鉢カ			(1.6)	外:明褐色 内:明褐色	7.5YR7/2 7.5YR7/2	密(1mm以下の白色砂粒を少量含む)	良好	外:ナデ 内:ナデ	
27	21	13	礫層	縄文	浅鉢			(2.2)	外:褐灰色 内:褐灰色	7.5YR6/1 7.5YR6/1	精製	良好	外:ミガキ 内:ミガキ	黒川式相当カ
27	22	13	礫層	縄文	壺カ			(5.3)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/2	密	良好	外:沈線、縄文 内:条痕	擦り消し縄文
27	23	13	攪乱	縄文	深鉢カ			(3.7)	外:褐灰色 内:褐灰色	10YR6/1 10YR5/1	密(1mm前後の砂粒を含む)	良好	外:条痕、隆帯 内:条痕	
27	24	13	礫層	縄文	深鉢カ			(2.7)	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密	不良	外:縄文カ 内:指頭圧痕カ	
27	25	13	礫層	縄文	深鉢カ			(2.7)	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 10YR8/2	密	良好	外:縄文RL 内:条痕	
27	26	13	礫層	縄文	深鉢カ			(2.9)	外:灰白色 内:灰白色	10YR7/1 10YR7/1	密	不良	外:3条沈線、条痕 内:マメツ	
27	27	13	礫層	縄文	土器片 鉢カ			(3.1)	外:灰白色 内:灰白色	10YR7/1 10YR7/1	密(1mm以下の白色砂粒を含む)	良好	外:条痕 内:条痕	
27	28	13	礫層	縄文	深鉢カ			(4.7)	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	10YR6/2 10YR6/2	密	良好	外:条痕 内:条痕	
27	29	13	礫層	縄文	土器片 鉢			-	外:黒褐色 内:黒褐色	10YR3/1 10YR2/1	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外:縄文LR 内:条痕	
27	30	13	砂礫層	縄文	深鉢	(7.0)		(3.0)	外:にぶい褐色 内:明褐色	5YR7/3 7.5YR8/2	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外:条痕 内:条痕	平底
27	31	13	砂礫層	縄文	深鉢カ			(9.5)	外:明褐色 内:明褐色	5YR7/2 7.5YR7/2	密(1mm前後の白色砂粒を含む)	良好	外:条痕(ななめ方向) 内:条痕(横方向)	
30	1	15	礫層	弥生	壺	(21.0)		(2.0)	外:浅黄褐色 内:明褐色	7.5YR8/3 7.5YR7/1	1mm前後の砂粒を多く含む	良好	外:沈線、ナデ 内:ナデ	広口壺
30	2	15	砂礫層	弥生	壺	(18.6)		(1.0)	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	1mm前後の砂粒を多く含む	不良	外:2条凹線、ナデ 内:ナデ	IV様式
30	3	15	礫層	弥生	壺	(23.9)		(1.8)	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	外:2条凹線、ナデ 内:ナデ	IV様式
30	4	15	礫層	弥生	甕	(12.0)		(2.1)	外:黄褐色 内:灰黄褐色	10YR6/2 10YR6/2	1mm前後の白色砂粒を含む	良好	外:ナデ 内:ナデ	IV様式
30	5	15	礫層	弥生	壺	(20.6)		(5.8)	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	1mm前後の砂粒を含む	良好	外:3条擬凹線、横ナデ 内:横方向のミガキ	V様式
30	6	15	礫層	弥生	甕	(12.4)		(2.6)	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/2	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	外:3条擬凹線、横ナデ 内:横ナデ、ケズリ	V様式
30	7	15	礫層	弥生	壺	(14.2)		(3.4)	外:灰白色 内:灰白色	10YR7/1 10YR7/2	微細粒を含む	良好	外:2条擬凹線、ナデ、丹塗 内:ナデ、ケズリ、丹塗	V様式
30	8	15	礫層	弥生	壺	(12.8)		(3.3)	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/1 10YR8/1	砂粒なし	不良	外:3条擬凹線、ナデ 内:ナデ、ケズリ	V様式
30	9	15	礫層	弥生	壺	(14.2)		(3.2)	外:淡赤褐色 内:淡赤褐色	2.5YR7/4 2.5YR7/3	1mm前後の白色砂粒と赤褐色くされ砂粒を含む	不良	外:7条擬凹線、ナデ、丹塗 内:ナデ、ケズリ、丹塗	V様式
30	10	15	礫層	弥生	甕	(17.0)		(3.7)	外:灰白色 内:灰白色	10YR7/1 10YR7/1	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	-	
30	11	15	礫層	弥生	壺	(20.2)		(5.2)	外:灰褐色 内:灰褐色	7.5YR6/2 7.5YR6/2	1mm前後の白色砂粒を多く含む	良好	-	
30	12	15	礫層	弥生	壺・甕		(7.4)	(3.8)	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	7.5YR8/4 7.5YR8/4	2~3mmの砂粒を多く含む	良好	外:ミガキ、横ナデ 内:指頭圧痕、ナデ	
30	13	15	礫層	弥生	甕		(4.0)	(1.3)	外:灰白色 内:褐灰色	5YR8/2 5YR6/1	1mm前後の白色砂粒を多く含む	良好	外:ナデ 内:ナデ	
30	14	15	礫層	弥生	高坏	(21.0)		(5.1)	外:灰白色 内:灰白色	10YR7/1 10YR7/1	1mm前後の砂粒を多く含む	良好	外:ミガキ 内:-	
30	15	15	北壁 縄文2	弥生	高坏	(18.4)		(2.7)	外:灰白色 内:灰白色	10YR7/1 10YR7/1	微細粒を含む	良好	外:斜格子文 内:-	III様式
30	16	15	中世 包含層	古式 土器	低脚坏		(5.3)	(1.7)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	5YR7/3 5YR7/3	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	外:ナデ 内:ナデ	III様式
30	17	15	礫層	古式 土器	鼓形器 台	(15.9)		(3.4)	外:淡褐色 内:にぶい褐色	5YR8/3 5YR7/3	砂粒を含まない	良好	-	III様式
30	18	15	礫層	古式 土器	坏			(2.6)	外:明褐色 内:明褐色	7.5YR7/1 7.5YR7/1	微細粒を含む	良好	外:ミガキ、丹塗 内:ミガキ、丹塗	
31	1	15	中世 包含層	須恵器	坏蓋			(1.2)	外:灰白色 内:灰白色	7.5Y7/1 7.5Y7/1	密	良好	外:回転ナデ、ケズリ 内:ナデ	
31	2	15	中世 包含層	須恵器	坏蓋	(12.6)		(1.3)	外:灰色 内:灰色	N4/4 N4/4	1mm以下の砂粒を含む	良好	マメツ	
31	3	15	包含層	須恵器	坏蓋			(2.0)	外:灰色 内:灰色	N5/5 N5/5	1mm以下の砂粒を含む	良好	マメツ	
31	4	15		須恵器	坏蓋			(1.1)	外:灰色 内:灰色	N 6/6 N 6/6	1mm以下の砂粒を含む	良好	外:ナデ 内:ナデ	
31	5	15	中世 包含層	須恵器	坏	(11.0)		(3.0)	外:灰色 内:灰色	N 5/5 N 5/5	1mm以下の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
31	6	15	礫層	須恵器	高台付 坏	(11.0)		(2.9)	外:灰色 内:灰色	N 5/5 N 5/5	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
31	7	15	SD06	須恵器	高台付 坏	(11.8)		(3.0)	外:灰色 内:灰色	N 5/5 N 6/1	1mm以下の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	国庁-5型
31	8	15		須恵器	坏		(7.8)	(1.9)	外:にぶい赤褐色 内:にぶい赤褐色	10YR6/4 10YR6/4	精製	良好	外:回転ナデ、糸切り 内:回転ナデ	
31	9	15		須恵器	坏		(8.0)	(2.7)	外:オリーブ灰色 内:オリーブ灰色	5GY6/1 5GY6/1	1mm以下の白色砂粒を含む	良好	外:回転糸切り、ナデ 内:回転ナデ	
31	10	15	礫層	須恵器	坏		(7.9)	(2.1)	外:オリーブ灰色 内:オリーブ灰色	5GY5/1 5GY5/1	1mm前後の白色砂粒を多く含む	良好	外:回転糸切り、ナデ 内:回転ナデ	
31	11	15	中世 包含層	須恵器	坏		(6.4)	(1.4)	外:灰白色 内:灰白色	5Y7/1 5Y7/1	1mm前後の砂粒を含む	不良	外:回転糸切り、ナデ 内:回転ナデ	
31	12	15	礫層	須恵器	高台付 坏		(9.2)	(3.3)	外:灰白色 内:灰白色	N7/1 N7/1	1mm前後の白色砂粒を含む	不良	マメツ	
31	13	15	礫層	須恵器	高台付 坏			(1.3)	外:灰色 内:灰色	7.5Y5/1 7.5Y5/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外:回転糸切り、ナデ 内:ナデ	
31	14	15	貝層	須恵器	高台付 盤			(1.3)	外:灰色 内:灰色	N6/1 N6/1	1mm以下の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	外:回転糸切り、ナデ 内:ナデ	国庁3~4
31	15	15	SD11	須恵器	高台付 盤			(1.9)	外:灰色 内:灰色	N5/1 N5/1	1mm前後の白色砂粒を含む	良好	外:回転糸切り、ナデ 内:ナデ	国庁3~4

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色 調	胎 土	焼成	調整・文様	備 考	
31	16	15	サブトレ	須恵器	高台付 盤		(8.9)	(2.0)	外：灰色と灰赤色 内：灰色と灰赤色	N5/ 10R4/2 N5/ 10R4/2	1mm前後の白色砂粒を含む	不良	外：回転糸切り、ナデ 内：ナデ	国庁3～4
31	17	15		須恵器	高環		(11.0)	(2.2)	外：灰白色 内：灰白色	N7/1 N7/1	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	古墳時代 後期
31	18	15		須恵器	高環			(4.8)	外：灰色 内：灰色	N6/1 N6/1	ほとんど砂粒はない	良好	外：2条沈線、回転ナデ 内：ナデ	古墳時代 後期 二段透し三 方
31	19	15		須恵器	高環			(3.9)	外：灰色 内：灰色	N6/1 N6/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	マメツ	透し二ヶ所
31	20	15		須恵器	高環			(4.3)	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y7/1 7.5Y7/1	1mm前後の砂粒を含む	良好	マメツ	古墳時代 後期
31	21	15		須恵器	高環			(3.2)	外：灰色 内：灰色	N5/5 N5/5	1mm以下の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	マメツ	古墳時代 後期
31	22	15		須恵器	高環			(6.0)	外：灰色 内：灰色	N6/6 N6/6	ほとんど砂粒はない	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	透し二ヶ所 古墳時代 後期
31	23	15		須恵器	高環			(4.9)	外：灰白色 内：灰白色	N7/1 N7/1	1mm前後の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	-	古墳時代 後期
31	24	15		須恵器	長頸壺			(9.3)	外：灰色 内：灰色	N4/ N6/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：しぼり痕、2条沈線 内：しぼり痕	
31	25	15		須恵器	壺			(3.2)	外：灰白色 内：灰白色	7.5Y7/1 7.5Y7/1	ほとんど砂粒はない	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
31	26	15	中世 包含層	須恵器	壺			(2.9)	外：灰色 内：灰色	N5/1 N5/1	白、黒の砂粒を含む	良好	外：回転ナデ、自然釉 内：ナデ	
31	27	15		須恵器	長頸壺			(5.2)	外：灰色 内：灰色	N6/1 N6/1	1mm前後の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	国庁2～4
31	28	15		須恵器	壺		(7.0)	(2.9)	外：灰色 内：青灰色	N6/1 N5/1	2～3mmの大きな砂粒をまばらに含み、それ以外は1mm前後の白色砂粒と微砂粒	良好	外：回転ナデ、高台付 内：ナデ	国庁2～4
31	29	15		須恵器	壺			(2.8)	外：灰白色 内：灰白色	N7/1 N7/1	ほとんど砂粒はない	良好	外：回転ヘラケズリ、自然釉 内：ナデ	国庁2～4
31	30	15		須恵器	壺カ			(2.5)	外：灰色 内：灰色	N5/1 N6/1	1mm前後の砂粒を含む	良好	外：並行たつき 内：ナデ	
32	1	16		須恵器	薬壺カ			(4.3)	外：灰白色 内：灰白色	N7/1 N7/1	1mm以下の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	外：回転ナデ、高台付カ 内：回転ナデ	
32	2	16		須恵器	鉄鉢形	(22.8)		(7.9)	外：灰色 内：灰色	N4/ N4/	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	
32	3	16		須恵器	環			(4.0)	外：灰色 内：灰色	N6/1 N6/1	1mm前後の砂粒を含む	良好	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	
32	4	16		須恵器	甕			(3.8)	外：灰色 内：灰色	N5/1 N5/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき、自然釉 内：青海波痕	
32	5	16	中世 包含層	須恵器	甕			(5.7)	外：明褐色 内：灰色	5YR7/1 N 5/	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：横ナデ 内：横ナデ後線刻文様	
32	6	16		須恵器	甕			(5.5)	外：赤灰色 内：灰色	2.5YR5/1 N5/	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	7	16		須恵器	甕			(4.9)	外：灰白色 内：灰白色	10YR7/1 10YR7/1	ほとんど砂粒はない	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	8	16		須恵器	甕			(7.5)	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/1	2～3mmの白色砂粒をまばらに含む	良好	外：沈線、波状文 内：ナデ	
32	9	16		須恵器	不明			(6.8)	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/1	1mm以下の白い砂粒を霜降り状に含む	良好	外：横ナデ 内：同心円状の当て具痕	
32	10	16		須恵器	甕			(4.2)	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	11	16		須恵器	甕			(3.4)	外：灰色 内：灰色	N6/1 N6/1	ほとんど砂粒はない	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	12	16		須恵器	甕			(2.4)	外：灰色 内：灰色	N5/ N5/	1mm前後の砂粒を含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	13	16	中世 包含層	須恵器	甕			(12.5)	外：黄灰色 内：灰褐色	2.5Y6/1 7.5YR5/1	1mm前後の砂粒を含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	14	16		須恵器	甕			(3.5)	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	15	16		須恵器	甕			(6.3)	外：灰色 内：灰色	N7/1 N7/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	16	16	中世 包含層	須恵器	甕			(9.4)	外：灰色 内：灰色	7.5Y6/1 N6/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具痕	
32	17	16	中世 包含層	須恵器	甕			(8.8)	外：灰色 内：灰色	N5/ N6/1	ほとんど砂粒はない	良好	外：並行たつき、自然釉 内：同心円状の当て具痕	
33	1	19	中世 包含層 排水用の 溝	土製品	管状土 錘	長さ (3.4)	径 1.0	孔 0.3	くすんだ赤灰色	10R5/2	精製 (砂粒含まない)	良好	手捏ね成形のちナデ	
33	2	19		土製品	管状土 錘	長さ (3.0)	径 1.0	孔 0.4	にぶい赤褐色	2.5YR4/3	精製 (砂粒含まない)	良好	手捏ね成形のちナデ	
33	3	19		貝層	管状土 錘	長さ (3.3)	径 1.1	孔 0.3	褐色	2.5YR6/6	精製 (砂粒含まない)	良好	手捏ね成形のちナデ	
33	4	19	中世 包含層	土製品	管状土 錘	長さ 3.8	径 1.0	孔 0.3	にぶい赤褐色	2.5YR6/3	精製 (砂粒含まない)	良好	手捏ね成形のちナデ	
33	5	19	中世 包含層	土製品	管状土 錘	長さ (3.7)	径 1.4	孔 0.5	暗灰色	N3/	精製 (砂粒含まない)	良好	手捏ね成形のちナデ	
33	6	19	南斜面	土製品	球状土 錘	長さ (3.7)	径 (3.5)	孔 1.3	黄褐色	10YR5/6	ほとんど砂粒はない	不良	-	
33	7	19	中世 包含層	土製品	支脚			(7.1)	灰白色	10YR8/1	砂粒を多く含む	良好	指おさえ、ナデ	
33	8	19		須恵器	竈	(11.2)	(5.9)	(11.2)	にぶい黄褐色	10YR7/3	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	良好	指おさえ、ナデ	
34	1	16	中世 包含層	中世 土師器	環	(11.2)	(5.0)	4.1	にぶい褐色	7.5YR7/4	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	14世紀後 半
34	2	16	中世 包含層	中世 土師器	環		(5.2)	(2.0)	褐色	7.5YR6/1	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	14世紀後 半
34	3	16	中世 包含層	中世 土師器	環		(4.9)	(2.2)	灰黄褐色	7.5YR6/2	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	14世紀後 半
34	4	16	中世 包含層	中世 土師器	環		5.5	(2.1)	褐色、 褐色	7.5YR6/6 7.5YR6/1	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	14世紀後 半
34	5	16	中世 包含層	中世 土師器	環		5.6	(2.7)	にぶい黄褐色	7.5YR7/4	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	14世紀後 半
34	6	16	中世 包含層	中世 土師器	環	(13.1)	5.8	3.6	外：淡褐色、 内：にぶい褐色	5YR7/4 5YR8/4	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	15世紀前 半
34	7	17	中世 包含層	中世 土師器	環	12.8	5.2	3.5	灰黄褐色	10YR6/2	密 (砂粒を少し含む)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	15世紀前 半
34	8	16	中世 包含層	中世 土師器	環	(12.3)	5.0	3.3	にぶい褐色	7.5YR7/3	密 (砂粒を含まず)	良好	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	15世紀前 半

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	焼成	調整・文様	備考
34	9	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(12.8)	(4.5)	3.2	にぶい橙色	7.5YR7/3	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	スス付着 15世紀前半
34	10	17	中世 包含層	中世 土師器	坏	(14.4)	5.7	3.3	橙色	5YR7/6	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀前半
34	11	16	中世 包含層	中世 土師器	坏		(4.3)	(3.3)	橙色	5YR7/6	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀前半
34	12	16	中世 包含層	中世 土師器	坏		5.0	(1.8)	にぶい橙色	10YR7/4	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀前半
34	13	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(12.6)	5.0	(2.4)	淡橙色	5YR8/4	密(砂粒を含まず)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀後半
34	14	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(13.6)	4.9	2.7	浅黄橙色	7.5YR8/4	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀後半
34	15	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(14.4)	5.5	(2.4)	灰白色	7.5YR8/2	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀後半
34	16	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(15.6)	(5.5)	(2.8)	にぶい橙色	7.5YR7/4	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀後半
34	17	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(15.4)	(5.4)	(2.7)	灰白色	10YR7/1	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	15世紀後半
34	18	16	中世 包含層	中世 土師器	坏	(16.9)	(7.6)	(3.5)	にぶい橙色	7.5YR8/4	密(微砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	スス付着 15世紀後半
34	19	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(7.6)	(4.2)	2.0	橙色	5YR7/8	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
34	20	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(6.8)	4.2	2.0	灰白色	5YR8/2	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	スス付着
34	21	17	中世 包含層	中世 土師器	皿	(7.4)	4.4	2.0	にぶい橙色	5YR6/4	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
34	22	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(7.6)	4.0	2.2	にぶい橙色	5YR7/4	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
34	23	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(7.6)	3.6	2.0	にぶい橙色	5YR7/4	密(砂粒を少し含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
34	24	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(6.9)	(4.8)	1.5	にぶい橙色	7.5YR7/3	密(砂粒を含まず)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
34	25	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(7.2)	3.4	1.8	にぶい橙色	7.5YR7/3	密(砂粒を含まず)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
34	26	16	中世 包含層	中世 土師器	皿	(8.5)	3.3	1.5	にぶい黄橙色	10YR7/2	密(砂粒を含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
35	1	17	SX02	陶器	壺		(5.0)	(2.5)	にぶい赤褐色	7.5YR4/3	灰色	良好	備前系 底部回転糸切り痕	
35	2	17	礫層	陶器	擂鉢	(29.4)		(6.2)	灰黄褐色	10YR6/3	薄褐色	良好	備前系 条線8条 IV A-1期	
35	3	17	2層	陶器	擂鉢	(30.0)		(3.5)	暗赤灰色	2.5YR3/1	灰褐色	良好	備前系 条線6条~ IV A-1期	
35	4	17	中世 包含層	陶器	擂鉢	(28.6)		(6.9)	赤褐色	10YR4/4	白色粒(長石)を含む	良好	備前系 条線6条~ IV A-2期	
35	5	17		陶器	折縁鉢			(4.3)	灰釉		灰白色	良好	瀬戸美濃系 折縁輪花	
35	6	17	中世 包含層	陶器	鉢	(32.4)		(2.7)	灰釉		灰白色	良好	瀬戸美濃系 卸皿	漆継
35	7	17	中世 土師器	擂鉢				(3.9)	黄灰色	2.5YR6/1	1~3mmの白色砂粒を 少量含む	良好	外:ハケ目 内:5条の掃り目	
35	8	17	礫層	中世 土師器	擂鉢	(27.2)		(4.7)	外:浅黄橙色 内:褐灰色	7.5YR8/3 7.5YR4/1	1~4mmの白色砂粒を 少量含む	不良	外: 内:摺り目あり	
35	9	17	中世 包含層	磁器	青磁碗		(5.7)	(2.8)	青磁釉		灰白色	不良	中国龍泉系 見込蓮花B-1類カ	
35	10	17	中世 包含層	磁器	青磁碗	(16.8)		(4.8)	青磁釉		灰白色	良好	中国龍泉系カ ラマ運弁カ D類	被熱
35	11	17		磁器	青磁碗	(14.8)		(2.3)	青磁釉		灰色	良好	中国龍泉系 D類	
35	12	17	中世 包含層	磁器	青磁碗	(14.6)		(4.0)	青磁釉		灰色	良好	中国龍泉系 D類	
35	13	17	中世 包含層	磁器	青磁碗	(17.2)		(3.0)	青磁釉		灰白色	良好	中国龍泉系 D類カ	
35	14	17		磁器	青磁碗		(6.4)	(3.0)	青磁釉		灰白色	良好	中国龍泉系 (片切彫)蓮花文 B-2類	
35	15	17	中世 包含層	磁器	青磁碗	(11.9)		(3.0)	青磁釉		灰白色	良好	中国龍泉系 弦文 D類カ	
35	16	17	中世 包含層	磁器	青磁碗		(5.4)	(2.1)	青磁釉		薄褐色	良好	中国龍泉系カ	スス付着
35	17	17	中世 包含層	磁器	青磁皿	(12.1)	(6.0)	2.9	青磁釉		灰白色	良好	中国 見込み丸剥ぎ 貫入	
35	18	17		磁器	青磁皿			(1.8)	青磁釉		灰白色	良好	中国 稜花皿	
35	19	17	中世 包含層	磁器	白磁碗		(4.9)	(2.0)	透明釉		灰色	良好	中国 II類	
35	20	17	中世 包含層	磁器	白磁碗	(16.8)		(4.1)	透明釉		灰白色	良好	中国 C群	
35	21	17	中世 包含層	磁器	白磁皿	(9.5)		(2.0)	透明釉		白色	良好	中国 D群	
35	22	17	中世 包含層	磁器	白磁皿		(7.2)	(1.3)	透明釉		白色	良好	中国 B群	
35	23	17	礫層	磁器	白磁碗			(1.5)	透明釉		白色	良好	中国 IV類	
35	24	17	中世 包含層	陶器	天目碗		(2.9)	(1.1)	鉄釉		灰色	良好	中国	漆付着

B区 石器

図	番号	写真	層位	器種	石材	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	重さ	備考
28	1	14	中世包含層	石鏃	安山岩	1.9	1.4	0.2	0.5	
28	2	14	中世包含層	石鏃	黒曜石	1.9	1.3	0.3	0.5	
28	3	14	礫層	石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.4	
28	4	14	中世包含層	石鏃	黒曜石	1.2	0.9	0.15	0.16	
28	5	14	中世包含層	石鏃	黒曜石	1.7	1.0	0.15	0.3	
28	6	14	中世包含層	石鏃	安山岩	1.8	1.7	0.4	1.5	
28	7	14	中世包含層	石鏃	安山岩	1.3	1.4	0.3	0.5	
28	8	14	中世包含層	石鏃未成品	黒曜石	1.9	1.8	0.5	2.0	
28	9	14	SK01	石鏃未成品	黒曜石	2.0	1.6	0.5	1.5	
28	10	14	中世包含層	石鏃未成品	黒曜石	1.6	1.4	0.3	0.58	
28	11	14	中世包含層	石鏃	安山岩	2.1	1.3	0.3	0.5	
28	12	14	SK01	未成品	黒曜石	3.45	1.2	0.9	3.5	
28	13	14	SK01	スクレイパー	黒曜石	6.1	4.0	1.1	21.0	
28	14	14	礫層	石錘	黒曜石	3.0	1.0	0.4	1.0	縄文時代
29	1	14	中世包含層	石錘	流紋岩	19.6	7.2	4.4	813.0	
29	2	14	砂礫	石錘	凝灰岩	4.7	3.4	0.8	18.5	
29	3	14	礫層	石錘	凝灰岩	13.6	8.2	3.0	285.0	
29	4	14	中世包含層	石錘	珪質岩	10.9	11.8	4.4	661.0	
29	5	14	中世包含層	石錘	石英質脈石	8.0	10.6	3.1	351.0	
29	6	14		石錘カ	凝灰岩	12.8	8.4	5.0	630.0	
29	7	14	中世包含層	砥石	砂岩	14.0	7.9	3.5	676.5	
29	8	14	茶褐色土層	砥石	凝灰岩	6.0	4.9	2.5	91.0	
29	9	14	中世包含層	磨製石斧	灰色砂岩	9.7	4.8	3.3	222.0	
29	10	14	中世包含層	磨製石斧	流紋岩	12.3	4.6	2.9	247.0	
29	11	14		打製石斧	流紋岩	12.0	9.3	3.7	540.0	縄文時代晩期
29	12	14	中世包含層	石錘カ	砂岩	14.5	12.2	4.4	1048.0	

金属関連遺物

図	番号	写真	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)	備考
36	1	18		碗形鍛冶宰	6.6	4.5	2.0	72.5	
36	2	18	中世包含層	鉄滓	6.0	10.9	3.3	215	
36	3	18	中世包含層	羽口	5.0	4.8	2.3	29.0	
36	4	18	中世包含層	鉄鍋	5.8	4.6	0.3	28.5	
36	5	18	礫層	鉄鍋	3.5	2.0	0.4	10.0	
36	6	18	中世包含層	火打ち金	12.8	2.5	0.4	49.5	
36	7	18	包含層	鏃	12.2	0.5	0.5	22.5	
36	8	18	中世包含層	鏃	8.9	2.5	0.2	17.0	
36	9	18	中世包含層	責め金具カ	3.1	1.5	0.2	3.5	
36	10	19	SD01	飾り金具	3.0	0.3	0.1	不能	銅製品
36	11	18	中世包含層	刀子	14.7	1.4	0.2	13.0	
36	12	19		不明	9.6	0.35	0.35	7.5	銅製品
36	13	18	中世包含層	釣り針	2.6	2.0	0.8	3.0	
36	14	18	礫層	小鉄板	4.8	1.4	0.3	15.5	
36	15	18		釘	2.5	0.7	0.2	1.0	
36	16	18	礫層 東	釘状	4.4	0.6	0.5	8.5	
36	17	18	礫層	釘	2.7	0.5	0.5	1.5	
36	18	18	中世包含層	釘状	9.5	0.75	0.4	14.5	
36	19	18	造成土	釘	8.3	0.4	0.4	8.0	
36	20	18	中世包含層	釘	7.1	0.1	0.3	8.0	
36	21	18		釘カ	5.8	1.0	0.3	4.0	
36	22	18	中世包含層	釘状	5.0	0.6	0.5	14.0	
36	23	18	包含層	釘	5.0	1.5	0.4	14.0	
36	24	18	礫層	釘カ	4.0	0.5	0.5	12.5	
36	25	18	礫層	釘カ	3.7	1.5	0.3	4.0	
36	26	18	南壁掘削	釘カ	3.2	0.4	0.4	3.0	
36	27	19	中世包含層	火箸	31	0.5	0.5	43.5	

銭貨

図	番号	写真	層位	名称	初 鑄 年		銭径	孔径	銭厚	重さ	備考
36	28	17		皇宋通宝	1032	北宋	2.45	0.60	0.11	4.0	
36	29	17		紹聖元宝	1094	北宋	2.42	0.55	0.1	4.0	
36	30	17		至和元宝	1054	北宋	2.45	0.65	0.12	3.0	
36	31	17		聖宋元宝	1101	北宋	2.39	0.65	0.11	3.0	
36	32	17		洪武通宝	1368	明	2.25	0.55	0.18	2.5	
36	33	17		□寧□□			2.42	0.65	0.1	2.5	
36	34	17		天聖元宝	1023	北宋	2.48	0.55	0.13	2.5	
36	35	17		□□□宝			2.38	0.65	0.09	2.5	
36	36	17		開元通宝	621	唐	2.55	0.65	0.11	3.5	
36	37	17		政和通宝	1111	北宋	2.53		0.14	2.0	

木製品

図	番号	写真	出土地点	層位	器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	樹種	色調	備考
26	1	13	B区	SA01-1	杭	71	11				
26	2	13	B区	SA01-2	杭	65.6	11.9				
26	3	13	B区	SA01-3	杭	85.2	13				
26	4	13	B区	SA01-4	杭	46.6	13				
26	5	13	B区	SB01	柱	55	21				
37	1	20	B区	中世包含層	桶	23.8	5.5	1.0			
37	2	20	B区	中世包含層	桶	14.6	4.2	1.0			
37	3	20	B区	中世包含層	桶カ	8.0	7.3	1.6			
37	4	20	B区	中世包含層	折敷カ	13.0	5.3	0.3			
37	5	20	B区	中世包含層	桶の底	8.0	6.8	1.2			
37	6	20	B区	中世包含層	折敷カ	21.8	2.7	0.7			
37	7	20	B区	中世包含層	曲物カ	10.0	3.0	0.2			
37	8	20	B区	中世包含層	桶の底カ	29.5	10.8	1.6	スギ		V字状溝
37	9	21	B区	中世包含層	曲物の底		19.2	0.8	スギ	内：黒漆	
37	10	20	B区	SD01 付近	桶カ	13.2	3.8	2.7			
37	11	20	B区	中世包含層	曲物	21.0	4.7	0.5			
38	1	21	B区	SD11	下駄	22.7	9.8	3.0	キリ		
38	2	21	B区	中世包含層	下駄	19.2	8.7	3.0			
38	3	21	B区	中世包含層	栓	4.0	2.8	1.3			
38	4	21	B区	中世包含層	漆椀	14.6	8.5	5.5	ケリ	外：黒漆 内：赤漆	
38	5	21	B区	貝層	箸	8.9	径0.6				
38	6	21	B区	中世包含層	棒状	20.4	3.5		マツ属複雑管束亜属		
38	7	21	B区	中世包含層	棒状	6.2	3.2	23.3	マツ属複雑管束亜属		
38	8	21	B区	中世包含層	鋸状	32.6	2.3	1.0	アスナロ属		
38	9	21	B区	中世包含層	横杵	40.2	径 4.2		マツ属複雑管束亜属		
39	1	21	B区	中世包含層	齋串カ	33.8	3.1	0.8			
39	2	21	B区	中世包含層	齋串カ	33.9	2.1	0.8			
39	3	21	B区	中世包含層	齋串状	24.7	1.7	0.8			
39	4	21	B区	中世包含層	木札	25.0	3.9	0.2	スギ		
39	5	21	B区	中世包含層	棒状	14.7	0.7	0.3			
39	6	21	B区	中世包含層	棒状	14.0	0.9	0.8			
39	7	21	B区	中世包含層	棒状	18.2	0.5	0.4			
39	8	21	B区	貝層	燃えさし	7.8	0.9	0.8			
39	9	21	B区	明褐色粘土	燃えさし	4.7	0.8	0.8			
39	10	21	B区	貝層	燃えさし	10.1	1.6	0.6			
39	11	21	B区	貝層	燃えさし	8.5	3.5	2.6			
40	1	22	B区	中世包含層	角棒状	22.4	3.3	2.0			
40	2	22	B区	耕作土	板状	24.8	7.0	1.0			
40	3	22	B区	SD01 付近	不明	30.4	4.2	1.2			
40	4	22	B区	SD01 付近	不明	32.3	1.3	1.0			孔 2
40	5	22	B区	中世包含層	板状	38.0	2.0	1.0			端に孔
40	6	22	B区	中世包含層	不明	23.2	7.6	3.1	スギ		建材を杭に転用カ 鉄釘×4
40	7	22	B区	中世包含層	棒状	10.8	1.6	1.6			芯持ち材
40	8	22	B区	中世包含層	板状	9.7	4.7	1.2			
40	9	22	B区	中世包含層	棒状	10.7	5.8	2.3-48			
40	10	22	B区	中世包含層	板状	12.8	4.1	0.7			

第17表 シコノ谷遺跡 出土遺物観察表

A区 土器

図版	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	焼成	調整・文様	備考
47	1	34	礫層	縄文	不明			(3.4)	0.5	外: 灰白色 内: 明褐色	7.5Y8/1 7.5Y7/1	φ~1mmの砂粒を多く含む	良 外: 縄目 内: マメツ	前期末カ
47	2	34	砂礫層	縄文	浅鉢カ			(3.0)	0.7	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/2	φ~0.5mmの長石を少量含む	良 外: ミガキ、刻目突帯 内: マメツ	
47	3	34		縄文	浅鉢カ			(2.9)	1.0	外: 黒褐色 内: にぶい褐色	7.5Y7/1 7.5Y7/3	φ~3mmの砂粒を多く含む	良 外: ナデ 内: RL、沈線	崎ヶ鼻II式相当
47	4	34		縄文	不明			(2.3)	0.8	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	10YR7/2 10YR5/2	1.5mm大の砂粒を多く含む	良 外: LR、沈線 内: ナデ	崎ヶ鼻I~II式
47	5	34		縄文	浅鉢カ			(3.0)	0.5	外: 明褐色 内: 灰褐色	7.5YR7/2 7.5YR6/2	φ~7mmの砂粒を少量含む	良 外: 六条沈線 内: ナデ	沖丈式相当
47	6	34	砂礫層	縄文	不明			(2.7)	0.6	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/2	φ~2mmの白色粒子を含む	良 外: RL、沈線文 内: ナデ	崎ヶ鼻I式相当
47	7	34		縄文	不明			(3.6)	0.6	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR5/3	φ1mm大の砂粒を多く含む	良 外: RL、二条沈線 内: ナデ	沖丈式相当
47	8	34		縄文	深鉢	(29.8)		(8.0)	0.7	外: にぶい褐色 内: 灰褐色	7.5YR5/3 7.5YR5/2	φ~1mmの砂粒を多く含む	良 外: 貝殻条痕、沈線 内: ミガキ	沖丈式相当
47	9	34		縄文	深鉢			(5.0)	0.8	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	10YR7/2 10YR6/2	φ0.5mmの砂粒を少量含む	良 外: 貝殻条痕、沈線 内: 貝殻条痕のちミガキ	沖丈式相当
47	10	34		縄文	不明			(3.2)	0.6	外: 灰黄色 内: 灰黄色	2.5YR7/2 2.5YR7/2	φ0.5mmの砂粒を少量含む	良 外: LR、ケズリ 内: ナデ、ケズリ	沖丈式相当
47	11	34	礫層	縄文	鉢			(3.3)	0.6	外: 褐色 内: にぶい黄褐色	10YR4/1 10YR6/3	φ~1.5mmの砂粒を少量含む	良 外: ナデ 内: ナデ	沖丈式相当
47	12	34		縄文	深鉢			(4.3)	0.8	外: 灰黄褐色 内: 明褐色	10YR6/2 7.5YR7/2	φ~0.5mmの砂粒を少量含む	良 外: RL、ミガキ、沈線 内: ミガキ、ケズリ	沖丈式相当
47	13	34	小礫層	縄文	深鉢			(6.1)	0.6	外: 暗灰黄色 内: 暗灰黄色	2.5YR4/2 2.5YR7/2	精緻な胎土	良 外: ケズリ 内: ケズリのち貝殻条痕	後期~晩期
47	14	34		縄文	深鉢			(5.3)	0.5	外: 灰黄褐色 内: 明褐色	10YR6/2 7.5YR7/2	φ~0.8mmの砂粒を少量含む	良 外: RL、二枚貝条痕 内: 二枚貝条痕	沖丈式相当
47	15	34		縄文	不明			(5.3)	0.5	外: 明褐色 内: 褐色	7.5YR7/2 7.5YR6/3	φ~0.5mmの長石を少量、雲母を微量に含む	良 外: LR、擦り消し 内: ケズリのちナデ	沖丈式相当
47	16	34		縄文	不明			(5.2)	0.6	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/2	φ~0.5mmの長石を少量、雲母を微量に含む	良 外: LR、擦り消し 内: ケズリ様の調整	沖丈式相当
47	17	34	砂層	縄文	深鉢	(33.0)		(13.3)	0.9	外: にぶい褐色 内: 赤褐色	7.5YR7/3 10YR6/6	φ~3mmの砂粒を多量に含む	良 外: 巻貝条痕 内: 巻貝条痕	
47	18	34	砂礫層	縄文	鉢	(15.0)		(8.8)	0.5	外: 灰黄褐色 内: 灰褐色	10YR6/2 7.5YR5/2	φ0.5mm以下の雲母を少量含む	良 外: 巻貝条痕 内: 巻貝条痕	
47	19	34		縄文	深鉢	(38.0)		(18.2)	0.7	外: 黒褐色 内: 灰黄褐色	10YR3/1 10YR6/2	φ~1mmの白色粒子を少量含む	良 外: 二枚貝条痕 内: 二枚貝条痕のちナデ	
48	1	34	砂礫層	縄文	深鉢			(6.0)	0.7	外: 浅黄色 内: にぶい褐色	2.5YR7/3 7.5YR7/3	φ~3mmの長石を少量含む	良 外: 二枚貝条痕 内: 二枚貝条痕	
48	2	34	砂層	縄文	深鉢	(30.7)		(9.1)	0.7	外: 黒褐色 内: 灰褐色	7.5YR3/2 7.5YR6/2	φ~0.5mmの砂粒を少量含む	良 外: ケズリのち貝殻条痕 内: ナデ	
48	3	34	砂礫層	縄文	深鉢			(14.0)	0.9	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR5/3	φ~0.5mmの砂粒を少量含む	良 外: 貝殻条痕のちナデ 内: 貝殻条痕	
48	4	34		縄文	深鉢		(9.0)	(1.4)	1.4	外: 褐色 内: 明褐色	7.5R6/1 7.5YR7/2	φ~1mmの砂粒を少量含む	良 外: 一部に貝殻条痕カ 内: ナデカ	平底
48	5	34		縄文	深鉢		(9.4)	(1.5)	1.3	外: 灰白色 内: 褐色	7.5R8/2 7.5YR4/1	φ~2mmの白色砂粒を少量含む	良 外: 圧痕あり 内: ナデ	樹脂サンプル
48	6	34		縄文	深鉢		8.6	(2.9)	0.7	外: 灰白色 内: 明褐色	7.5R8/1 7.5YR7/2	φ~1mmの砂粒、φ~0.5mmの雲母を微量に含む	良 外: ナデ 内: ナデ	平底
48	7	34		縄文	深鉢	(25.4)		(12.6)	0.7	外: 明褐色 内: 灰褐色	7.5YR7/2 7.5YR5/2	φ~4mmの長石を多く含む	良 外: ケズリのちナデ 内: ケズリのちナデ	
48	8	34		縄文	深鉢			(6.5)	0.7	外: 明褐色 内: 明褐色	7.5YR7/2 7.5YR7/2	φ~4mmの長石を多く含む	良 外: ケズリのちナデ 内: ケズリのちナデ	
48	9	34		縄文	不明		(7.2)	(7.2)	0.7	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	10YR5/2 10YR5/2	φ~3mmの長石を少量、雲母を微量に含む	良 外: ケズリのちナデ 内: ケズリのちナデ	後期
48	10	34	礫層	縄文	鉢	13.4		6.3	0.6	外: 灰褐色 内: 黄灰色	2.5YR4/1 2.5YR5/1	φ~0.5mmの白色砂粒を多く含む	良 外: ミガキ 内: ミガキ	
48	11	34	砂礫層	縄文	鉢		(9.8)	(9.0)	0.8	外: にぶい褐色 内: 黄灰色	7.5YR7/4 2.5YR5/1	φ~1mmの砂粒を少量含む	良 外: 貝殻条痕 内: ケズリのちナデ	平底
48	12	34		縄文	深鉢		10.8	(1.6)	1.5	外: 灰褐色 内: 灰褐色	7.5YR6/2 7.5YR6/2	φ~2mmの砂粒を少量含む	良 外: 圧痕 内: 押痕	平底、後期
48	13	34		縄文	鉢			(3.6)	0.8	外: 灰黄色 内: 灰黄色	2.5YR7/2 2.5YR7/2	φ~2mmの長石を少量含む	良 外: 指圧のち貝殻条痕 内: ナデ	貼り付け足カ
49	1	35		縄文	深鉢				0.55	外: 灰黄色 内: 灰黄色	2.5YR6/2 2.5YR6/2	φ~1mmの砂粒を少量含む	良 外: マメツ 内: 貝殻条痕	突帯文土器
49	2	35	砂層	縄文	深鉢				0.8	外: 灰白色 内: にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	φ~2mmの長石を少量含む	良 外: ケズリ、突帯(刻目) 内: マメツ	突帯文土器
49	3	35		縄文	深鉢				0.65	外: 灰褐色 内: 灰褐色	7.5YR5/2 7.5YR5/2	φ~0.5mmの砂粒を少量含む	良 外: マメツ 内: ナデ	突帯文土器
49	4	35	礫層	縄文	深鉢				0.7	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	10YR4/2 10YR6/3	φ~2mm大の砂粒を含む	良 外: マメツ 内: ナデ	スス付着。晩期、突帯文土器
51	1	36	礫層直下	弥生	壺			(4.3)		外: 灰白色 内: にぶい黄褐色	10YR8/1 10YR7/2	φ~2mmの長石を多く含む	良 外: ナデ、沈線文 内: ミガキ	I様式
51	2	36	礫層直下	弥生	壺			(6.7)		外: 明褐色 内: 明褐色	7.5YR7/1 7.5YR7/1	φ~2mmの長石を少量含む	良 外: ハケ目、沈線文 内: ハケ目	I様式
51	3	36	礫層直下	弥生	蓋	(25.8)		(7.2)		外: 褐色 内: 褐色	10YR6/1 10YR6/1	φ~2mmの長石を少量含む	良 外: ミガキ 内: ハケ目のちミガキ	脚部
51	4	36	礫層上面	土製品	円筒埴輪			(5.4)		外: 灰色 内: 明褐色	7.5YR8/2 7.5YR7/2	φ~1mmの砂粒、φ~2mmの黒色粒を少量含む	良 外: ハケのち横ナデ 内: 横ナデ	継ぎ目あり
51	5	36	礫層直上	須恵器	甗			(4.7)		外: 黄灰色 内: 灰色	2.5YR5/1 10YR5/1	φ~2mmの白色粒子を微量に含む	良 外: 並行たたき 内: 同心円状の当て具痕	
51	6	36	礫層上面	須恵器	甗			(5.0)		外: 灰色 内: 灰色	7.5YR6/1 N6/	φ~4mmの白色粒子を微量に含む	良 外: 並行たたき 内: 同心円状の当て具痕	
51	7	36	礫層上面	須恵器	甗			(6.2)		外: 黄灰色 内: 黄灰色	2.5YR5/1 2.5YR5/1	φ~2mmの白色粒子を微量に含む	良 外: 並行たたき 内: 同心円状の当て具痕	
51	8	36	礫層直上	須恵器	甗			(5.0)		外: 褐色 内: 褐色	10R6/1 10R6/1	φ~1mmの白色粒子を微量に含む	良 外: 並行たたき 内: 同心円状の当て具痕	
51	9	36	礫層	須恵器	壺カ		6.0	(3.0)		外: 灰白色 内: 灰白色	N7/ N7/	φ~0.5mm大の白色粒子を微量に含む	良 外: ケズリのち回転ナデ 内: 回転ナデ	
51	10	36	礫層直下	陶質土器	壺			(2.4)		外: 灰色 内: 灰色	N5/ N4/	φ~1mmの白色粒子を少量含む	良 外: 沈線、縄帯文、横ナデ 内: ナデ	朝鮮系
51	11	36	礫層上面	磁器	白磁碗	17.4		(4.2)		透明釉		白色	良 中国 IV類	

図版	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	焼成	調整・文様	備考
51	12	36	礫層上面	磁器	青磁盤			(1.9)		青磁釉	灰白色	良	中国龍泉系 鎬 蓮弁文	
51	13	36	礫層直上	陶器	擂鉢					外：にぶい赤褐色 内：にぶい橙色	2.5YR5/4 2.5YR6/4 φ～3mmの白色粒子を少量含む	良	備前系 火罨	
51	14	36	礫層上面	陶器	甕			(5.0)		外：灰赤色 内：灰赤色	2.5YR6/2 2.5YR6/2 φ～3mmの白色粒子を少量含む	良	備前系	
51	15	36	礫層直上	陶器	甕			(4.7)		鉄釉	褐色	良	肥前系 格子目叩き 17世紀カ	

A区 石器

図	番号	写真	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
49	5	35		スクレーパー	珪質岩	8.8	5.9	2.6	80.0	
49	6	35	礫層	スクレーパー	珪質岩	7.0	5.2	1.8	71.0	
49	7	35	礫層	スクレーパー	珪質岩	7.9	4.6	2.1	81.0	
49	8	35		スクレーパー	珪質岩	8.9	7.8	2.4	163.0	
49	9	35	礫層	磨製石斧	頁岩	12.2	6.3	5.6	318.5	
49	10	35	礫層	石錘	流文岩	9.4	7.9	1.9	200.0	
49	11	35	礫層	石錘	安山岩	7.2	7.5	1.2	96.5	
49	12	35	砂礫層	石錘	流文岩	6.5	5.5	2.1	117.0	
49	13	35		石鏃	黒曜石	2.6	1.6	0.5	1.33	

A区 木製品

図	番号	写真	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅	厚さ	樹種	備考
50	1	35	A		弓状	95.5	5	3.5		縄文時代
50	2	35	A		杭	98.5	12.3	11.3		縄文時代
50	3	35	A	礫層上面	栓	8.65	1.8	1.8		

B区 縄文土器

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調	胎土	外	内	備考	
55	1	36	礫2層中央	不明	1.1	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～4mmの砂粒を中量含む	ナデ・押型文	ナデ	高山寺式相当
55	2	36	礫2層東側	不明	1.0	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～2mmの白色粒子を微量に含む	撫糸文	二枚貝条痕	含繊維
55	3	36	礫2層中央	深鉢カ	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：2.5Y3/1 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	羽状 LR	LR	
55	4	36	礫2層	不明	1.2	外：灰黄色 内：黄褐色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y4/1	φ～4mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR	
55	5	36	礫2層中央	深鉢	1.0	外：褐灰色 内：灰褐色	外：7.5YR4/1 内：7.5YR4/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	羽状 LR	LR	含繊維
55	6	36	礫2層東	深鉢	0.9	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/4 内：10YR7/2	φ～5mmの長石を少量含む	羽状 LR	LR、条痕	含繊維
55	7	36	礫2層	深鉢	0.9	外：黒褐色 内：黒褐色	外：7.5YR3/1 内：7.5YR3/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	羽状 LR	LR、条痕	含繊維
55	8	36	礫2層	深鉢カ	0.8	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR4/2	緻密	羽状 LR	LR、条痕	
55	9	36	礫2層南	不明	1.2	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR5/1 内：10YR6/2	1～3mmの白色砂粒を多く含む	羽状 LR	LR、ナデ	含繊維
55	10	36	礫2層北	不明	1.0	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	羽状 LR	LR、ナデ	
55	11	36	礫2層	不明	0.8	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y7/2	φ～4mmの砂粒を少量含む	羽状 LR	LR	
55	12	36	礫2層南	深鉢カ	0.9	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	1～3mmの白色砂粒をまばらに含む	羽状 LR	LR、ナデ	含繊維
55	13	36	礫2層中央	不明	1.0	外：にぶい橙色 内：黒褐色	外：7.5YR7/3 内：7.5YR3/1	φ～1mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR、条痕	含繊維
55	14	36	礫2層中央	土器片鉢カ	0.7	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	1mm以下の白色砂粒を含む	羽状 LR	LR、ナデ	
55	15	36	礫2層中央	深鉢カ	0.9	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/2	φ～5mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR、条痕	
55	16	36	礫2層西	不明	0.7	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～5mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR	含繊維
55	17	36	礫3中央	不明	0.9	外：オリーブ褐色 内：黄褐色	外：2.5Y4/3 内：2.5Y5/3	φ～3mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR	
55	18	36	礫2層南	不明	0.8	外：褐灰色 内：黒褐色	外：7.5YR4/1 内：2.5Y3/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR	含繊維
55	19	36	礫2層中央	不明	0.7	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	外：10YR5/3 内：10YR3/1	1mm前後の砂粒を含む	羽状 LR	LR、ナデ	含繊維
55	20	36	礫2層中央南	不明	0.9	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	羽状 LR	LR	
55	21	36	礫2層中央南	深鉢カ	1.0	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR6/3	1～5mmの白色砂粒をまばらに含む	羽状 LR	LR、ナデ	含繊維
55	22	36	礫2層北	不明	0.7	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～4mmの砂粒を僅かに含む	羽状 LR	LR	
56	1	37	礫2層東	深鉢カ	0.7	外：浅黄褐色 内：浅黄褐色	外：10YR8/3 内：10YR8/4	φ～1mmの雲母・φ～長石を少量含む	RL・刺突文(下から)	RL	菱根式相当
56	2	37	礫2層	深鉢カ	0.8	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/3 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	無節R・刺突文(下から)	縄文カ	菱根式相当 含繊維
56	3	37	礫2層中央	不明	0.8	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	RL・刺突文(下から)	RL	菱根式相当 含繊維
56	4	37	礫2層南	不明	0.6	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR5/1	φ～1mmの砂粒を少量含む	RL・刺突文(下から)	RL、条痕	菱根式相当
56	5	37	礫2層中央	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	RL・刺突文(下から)	RL	菱根式相当 含繊維
56	6	37	礫2層東	不明	0.7	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR4/2	φ～6mmの長石を少量含む	RL・刺突文(下から)	RL	菱根式相当
56	7	37	礫2層中央	深鉢カ	0.9	外：にぶい黄褐色 内：灰色	外：10YR6/4 内：N6/	φ～5mmの砂粒を少量含む	LR・刺突文(横から)	ナデ	菱根式相当

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
56	8	37	礫2層東	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR7/3	φ～5mmの長石を中量含む	RL・刺突文(横から)	RL	菱根式相当
56	9	37	礫2層西端	不明	0.8	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR3/1 内：10YR6/4	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR・刺突文(横から)	二枚貝条痕	含繊維
56	10	37	礫2層(拡張部)	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR6/3	φ～1mmの砂粒を微量に含む	LR・刺突文(横から)	ナデ	含繊維
56	11	37	礫2層南	不明	1.1	外：灰褐色 内：黒褐色	外：7.5YR6/2 内：2.5Y3/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LR・刺突文(横から)	LR	菱根式相当
56	12	37	礫2層	深鉢	1.1	外：黒褐色 内：オリーブ褐色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/3	φ～5mmの長石を多量に含む	LR・刺突文(斜めから)	LR・ナデ	菱根式相当
56	13	37	礫2層中央	不明	0.9	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR5/1 内：10YR5/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	条痕カ・刺突文(斜めから)	条痕カ	
56	14	37	礫2層	不明	1.3	外：にぶい黄褐色 内：灰白色	外：10YR7/1 内：10YR7/2	φ～1mmの砂粒を微量に含む	縄文・刺突文(斜めから)	二枚貝条痕	含繊維
56	15	37	礫2層東側	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～5mmの砂粒を少量含む	LR・刺突文(矢羽根状)	LR	
56	16	37	礫2層	不明	0.9	外：灰白色 内：褐灰色	外：10YR8/2 内：10YR4/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	条痕カ・刺突文(円形)	二枚貝条痕	含繊維
56	17	37	礫2層東側	不明	1.0	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR7/3	φ～5mmの砂粒を微量に含む	RL・刺突文(半裁竹管状)	RL	島大構内1次式相当カ 含繊維
56	18	37	礫2層南	不明	0.9	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/2 内：2.5Y5/2	φ～1mmの白色砂粒を微量に含む	LR・沈線	LR	
56	19	37	礫2層	深鉢	0.8	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR6/4	φ～5mmの砂粒を多く含む	RL・沈線	RL	宮ノ下式相当カ 含繊維
56	20	37	礫2層中央	不明	1.0	外：灰色 内：灰色	外：N6/ 内：5Y5/1	φ～1mmの白色砂粒を微量に含む	LR・沈線2条	条痕のちナデ	
56	21	37	礫2層中央	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR6/2	φ～2mmの白色砂粒を微量に含む	LR・刺突文(半裁竹管状)	LR	島大構内1次式相当カ
56	22	37	礫2層東側	不明	0.8	外：褐灰色 内：灰褐色	外：7.5YR4/1 内：7.5YR4/2	φ～1mmの砂粒を微量に含む	RL・沈線	RL	
57	1	37	礫2層	深鉢	1.0	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/4 内：10YR5/4	φ～3mmの長石を少量含む	LR	LR	含繊維
57	2	37	礫2層	深鉢	0.7	外：灰黄褐色 内：黒褐色	外：10YR4/2 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	LR	LR、条痕	
57	3	37	礫2層	深鉢	0.9	外：にぶい黄色 内：にぶい黄色	外：2.5Y6/4 内：2.5Y6/4	微砂粒含む	LR	LR	含繊維
57	4	37	礫2層	不明	0.7	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR、条痕	
57	5	37	礫2層	深鉢	1.0	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：2.5Y3/1 内：10YR5/3	φ～1mmの白色砂粒を微量に含む	LR	LR	口唇刻目、含繊維
57	6	37	礫2層	不明	0.9	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/2 内：2.5Y4/2	φ～2mmの白色砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	7	37	礫2層東	不明	0.8	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：7.5YR3/1	φ～1mmの砂粒を中量含む	LR	LR	含繊維
57	8	37	礫2層中央	不明	1.0	外：浅黄色 内：にぶい黄褐色	外：2.5Y7/3 内：10YR7/3	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	9	37	礫2層中央	不明	0.7	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	やや粗めの胎土	LR	LR	含繊維
57	10	37	礫2層中央	不明	0.8	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	11	37	礫2層中央	不明	0.7	外：にぶい褐色 内：灰褐色	外：7.5YR5/3 内：7.5YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	LR	LR	含繊維
57	12	37	礫2層	不明	0.8	外：灰褐色 内：にぶい褐色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR5/3	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	13	37	礫2層東	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR5/6	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	14	37	礫2層	不明	0.8	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR4/2	φ～1mmの白色砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	15	37	礫2層東側	不明	0.8	外：黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y4/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	LR	LR	口唇刻目
57	16	37	礫2層中央	不明	0.9	外：灰黄褐色 内：黒褐色	外：10YR4/2 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
57	17	37	礫2層	不明	0.8	外：黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y4/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	LR	LR	口唇刻目
57	18	37	礫2層東	深鉢カ	0.8	外：明黄褐色 内：暗灰黄色	外：10YR7/6 内：2.5Y5/2	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LR	RL	
57	19	37	礫2層北	不明	0.9	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：2.5Y3/1 内：10YR4/2	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LR	RL	特殊な口縁
57	20	37	礫2層中央	深鉢	1.0	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	外：10YR5/3 内：10YR6/1	φ～4mmの長石を多量に含む	前々段多条LR	前々段多条LR	穿孔あり、含繊維
57	21	37	礫2層中央	深鉢	0.8	外：黒褐色 内：灰褐色	外：7.5YR3/1 内：7.5YR5/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	前々段多条LR	前々段多条LR	口唇刻目、突帯
57	22	37	礫2層中央	不明	1.0	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR7/2	φ～5mmの砂粒を少量含む	前々段多条LR	前々段多条LR	口唇刻目、含繊維
57	23	37	礫2層	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR6/3	φ～2mmの長石を微量に含む	前々段多条LR	前々段多条LR	口唇刻目、含繊維
58	1	38	礫2層中央	深鉢	0.7	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～5mmの長石を少量含む	RL	RL	含繊維
58	2	38	礫2層	不明	0.9	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR7/4	φ～1mmの砂粒を微量に含む	RL	RL	含繊維
58	3	38	礫2層東	不明	0.7	外：にぶい褐色 内：黒色	外：5YR6/4 内：7.5YR2/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	RL	RL	口唇刻目
58	4	38	礫2層東	不明	0.9	外：明黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/6 内：10YR6/4	φ～5mmの砂粒を少量含む	RL	RL	
58	5	38	礫2層南	不明	0.8	外：明黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/6 内：10YR6/4	φ～2mmの砂粒を微量に含む	RL	RL、ナデ	含繊維
58	6	38	礫2層東	不明	0.7	外：灰褐色 内：黒褐色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR3/1	φ～4mmの雲母を少量含む	RL	RL	含繊維
58	7	38	礫2層	深鉢	0.9	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/3	φ～4mmの長石を微量に含む	無節L	無節L	含繊維
59	1	38	礫3	深鉢カ	0.9	外：黒褐色 内：黒褐色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y3/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
59	2	38	礫2層	深鉢カ	0.9	外：黄褐色 内：黒褐色	外：2.5Y5/4 内：2.5Y3/1	微砂粒のみ含む	LR	LR、ナデ	含繊維
59	3	38	礫2層	深鉢	0.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/2	φ～4mmの砂粒を多量に含む	LR	LR	含繊維
59	4	38	礫2層	不明	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
59	5	38	礫2層東	不明	0.8	外:黒褐色 内:黄褐色	外:2.5Y3/1 内:2.5Y5/3	緻密	LR	LR	含繊維
59	6	38	礫2層東	不明	0.5	外:黒色 内:黒色	外:10YR2/1 内:10YR2/1	緻密	LR	LR	
59	7	38	礫2層東	不明	0.9	外:暗灰黄色 内:暗灰黄色	外:2.5Y4/2 内:2.5Y4/2	φ~5mmの砂粒を多量に含む	LR	LR	含繊維
59	8	38	礫2層	深鉢カ	1.3	外:にぶい褐色 内:黒褐色	外:7.5YR5/4 内:7.5YR3/1	φ~3mmの砂粒を少量含む	LR	LR	含繊維
59	9	38	礫2層東	不明	0.8	外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	外:10YR6/3 内:10YR6/2	φ~3mmの白色粒子を少量含む	LR	LR	含繊維
59	10	38	礫2層南	不明	1.1	外:にぶい黄褐色 内:褐灰色	外:10YR6/4 内:10YR4/1	φ~3mmの砂粒を多量に含む	LR	LR	含繊維
59	11	38	礫2層南	深鉢	1.1	外:にぶい黄褐色 内:褐灰色	外:10YR7/3 内:7.5YR4/1	φ~4mmの砂粒を少量含む	LR	LR	含繊維
59	12	38	礫2層	深鉢カ	0.9	外:黒褐色 内:黄灰色	外:2.5Y3/1 内:2.5Y4/1	φ~5mmの砂粒を多量に含む	LR	LR	含繊維
59	13	38	礫2層東	不明	1.0	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	外:10YR6/2 内:10YR6/2	φ~2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR、ナデ	含繊維
59	14	38	礫2層南	不明	0.9	外:にぶい黄褐色 内:褐灰色	外:10YR5/3 内:10YR4/1	φ~4mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	
59	15	38	礫2層中央	不明	0.9	外:黄灰色 内:黄灰色	外:2.5Y6/1 内:2.5Y6/1	φ~5mmの砂粒を少量含む	LR	LR	含繊維
59	16	38	礫2層南	深鉢	1.2	外:黄灰色 内:黄灰色	外:2.5Y5/1 内:2.5Y6/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	LR	LR	含繊維
59	17	38	礫2層中央	不明	0.8	外:灰黄褐色 内:黒褐色	外:10YR4/2 内:10YR3/1	φ~2mmの白色砂粒を少量含む	LR	LR、ナデ	
59	18	38	礫2層北	不明	1.0	外:黒褐色 内:黒褐色	外:10YR3/1 内:10YR3/1	φ~4mmの砂粒を多量に含む	LR	LR	含繊維
59	19	38	礫2層	不明	0.9	外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	外:10YR5/2 内:10YR4/3	φ~3mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
59	20	38	礫2層	不明	0.9	外:黄灰色 内:黄灰色	外:2.5Y4/1 内:2.5Y6/1	1mm前後の白色砂粒を多く含む	LR	LR	含繊維
59	21	38	礫2層中央	不明	0.8	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	外:10YR4/2 内:10YR5/2	φ~2mmの白色粒子を微量に含む	LR	LR	含繊維
59	22	38	礫2層最下層	不明	0.5	外:褐灰色 内:褐灰色	外:10YR4/1 内:10YR4/1	φ~2mmの白色粒子を微量に含む	LR	LR	
59	23	38	礫2層西	不明	0.8	外:褐灰色 内:灰黄褐色	外:10YR4/1 内:10YR5/2	φ~5mmの砂粒を少量含む	LR	LR	
59	24	38	礫2層中央	不明	0.8	外:黒褐色 内:灰黄褐色	外:10YR3/1 内:10YR4/2	φ~2mmの砂粒を多く含む	LR	LR、ナデ	含繊維
59	25	38	礫2層西	不明	1.1	外:にぶい黄褐色 内:黒褐色	外:10YR5/3 内:10YR3/1	φ~3mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	含繊維
59	26	38	礫2層東	不明	0.7	外:黒褐色 内:黒褐色	外:7.5YR3/1 内:7.5YR3/1	φ~4mmの長石を多量に含む	LR	LR	含繊維
60	1	38	礫2層中央南	不明	0.7	外:灰黄褐色 内:黒褐色	外:10YR5/2 内:10YR3/1	φ~3mmの砂粒を少量含む	LR	LR	
60	2	38	礫2層	不明	1.0	外:にぶい黄褐色 内:黒褐色	外:10YR6/4 内:10YR3/1	φ~2mmの砂粒を微量に含む	LR	LR	
60	3	38	礫2層中央	不明	0.7	外:にぶい褐色 内:灰黄褐色	外:7.5YR6/4 内:10YR6/2	φ~3mmの砂粒を少量含む	LR	LR	
60	4	38	礫2層中央	不明	1.1	外:暗灰黄色 内:暗灰黄色	外:2.5Y5/2 内:2.5Y5/2	φ~5mmの砂粒を少量含む	LR・条痕	LR	含繊維
60	5	38	礫2層西	不明	0.7	外:灰黄褐色 内:褐灰色	外:10YR6/2 内:10YR6/1	φ~2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	6	38	礫2層北	不明	0.8	外:にぶい褐色 内:灰褐色	外:7.5YR6/3 内:7.5YR4/2	φ~5mmの砂粒を多く含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	7	38	礫2層	不明	1.0	外:暗灰黄色 内:浅黄色	外:2.5Y5/2 内:2.5Y7/3	φ~7mmの長石を多く含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	8	38	礫2層中央北	不明	1.1	外:黒褐色 内:黄灰色	外:2.5Y3/1 内:2.5Y6/2	φ~3mmの砂粒を微量に含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	
60	9	38	礫2層中央	不明	1.2	外:黒褐色 内:褐灰色	外:10YR3/1 内:10YR5/1	φ~5mmの長石を多く含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	10	38	礫2層南側溝	不明	0.8	外:灰白色 内:灰白色	外:10YR7/1 内:10YR7/1	緻密	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	
60	11	38	礫2層	不明	1.0	外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	外:10YR5/2 内:10YR6/3	φ~5mmの砂粒を多く含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	12	38	礫2層中央	不明	0.7	外:黄褐色 内:暗灰黄色	外:2.5Y5/6 内:2.5Y5/2	φ~3mmの長石を少量含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	13	38	礫2層最下層	不明	0.5	外:灰黄褐色 内:褐灰色	外:10YR4/2 内:10YR4/1	φ~2mmの白色粒子を多く含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	
60	14	38	礫2層東	不明	0.9	外:にぶい黄褐色 内:黒褐色	外:10YR6/4 内:10YR3/2	φ~6mmの砂粒を多く含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	
60	15	38	礫2層東	不明	0.8	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	外:10YR4/2 内:10YR4/2	φ~2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	前々段多条カ LR	含繊維
60	16	38	礫2層中央北	不明	1.0	外:褐灰色 内:灰黄褐色	外:10YR4/1 内:10YR6/2	緻密	複節 LR カ	単節 LR	含繊維
60	17	38	礫2層東	不明	1.0	外:にぶい黄褐色 内:黄灰色	外:10YR6/3 内:2.5Y5/1	φ~5mmの砂粒を微量に含む	無節 L	無節 L	含繊維
60	18	38	礫2層中央	深鉢	0.7	外:黒褐色 内:黒褐色	外:5YR2/1 内:10YR3/1	φ~1mmの砂粒を微量に含む	無節 L	無節 L	含繊維
60	19	38	礫2層	不明	0.9	外:黒色 内:褐灰色	外:10YR7/1 内:10YR5/1	φ~3mmの砂粒を少量含む	無節 L	無節 L	含繊維
60	20	38	礫2層東	不明	0.7	外:黄灰色 内:浅黄色	外:2.5Y5/1 内:2.5Y7/3	φ~3mmの砂粒を微量に含む	無節 L	無節 L	
60	21	38	礫2層中央	不明	0.9	外:黒褐色 内:黒褐色	外:2.5Y3/1 内:2.5Y3/2	φ~2mmの砂粒を微量に含む	無節 L	無節 L	含繊維
61	1	38	礫2層	不明	0.8	外:にぶい黄褐色 内:黒色	外:10YR7/3 内:5Y2/1	φ~4mmの砂粒を少量含む	RL	RL	含繊維
61	2	38	礫2層	深鉢カ	1.0	外:黒褐色 内:黒褐色	外:10YR3/1 内:10YR3/1	φ~4mmの砂粒を少量含む	RL	RL	含繊維
61	3	38	礫2層中央	不明	0.9	外:オリーブ黒色 内:灰色	外:5Y3/1 内:5Y5/1	φ~1mmの砂粒を微量に含む	RL	RL	含繊維
61	4	38	礫2層	不明	0.8	外:褐灰色 内:褐灰色	外:10YR4/1 内:10YR4/1	φ~3mmの白色粒を微量に含む	RL、2条沈線	RL	含繊維
61	5	38	礫2層中央	深鉢カ	1.0	外:黒褐色 内:灰黄褐色	外:10YR3/1 内:10YR4/2	φ~4mmの砂粒を少量含む	RL	RL	含繊維
61	6	38	礫2層南	不明	1.0	外:黄灰色 内:黄灰色	外:2.5Y4/1 内:2.5Y6/1	φ~3mmの砂粒を少量含む	RL	RL	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
61	7	38	礫2層中央	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	外：10YR7/4 内：10YR3/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	RL	RL、ナデ	
61	8	38	礫2層中央	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR5/3	φ～3mmの砂粒を少量含む	RL	RL	
61	9	38	礫2層東	不明	0.9	外：オリーブ褐色 内：褐色	外：2.5Y4/3 内：10YR4/4	φ～3mmの砂粒を微量に含む	RL	RL	含繊維
61	10	38	礫2層	不明	0.9	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR5/2	φ～7mmの砂粒を少量含む	RL	RL、ナデ	含繊維
61	11	38	礫2層	不明	0.9	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR4/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	RL	RL	
61	12	38	礫2層	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	外：10YR7/3 内：10YR3/1	φ～2mmの白色粒子を微量に含む	RL	RL	
61	13	38	礫2層東	不明	0.7	外：褐色 内：明黄褐色	外：10YR4/4 内：10YR6/6	φ～2mmの砂粒を微量に含む	RL	RL	
61	14	38	礫2層中央	不明	0.8	外：黄灰色 内：灰色	外：2.5Y4/1 内：5Y4/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	RL	RL	含繊維
61	15	38	礫2層南	深鉢	0.8	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y4/2	φ～6mmの長石を多量に含む	無節R	無節R	含繊維
61	16	38	礫2層	不明	0.9	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	無節R	無節R	
61	17	38	礫2層北	不明	0.9	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	無節R	無節R	含繊維
61	18	38	礫2層	不明	0.7	外：黒褐色 内：褐灰色	外：10YR3/1 内：10YR4/1	φ～2.5mmの砂粒を微量に含む	無節R	無節R	含繊維
62	1	38	礫2層	深鉢	0.9	外：明黄褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y7/6 内：2.5Y4/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	LR	(二枚貝)条痕	含繊維、スス付着
62	2	39	礫2層	深鉢	1.0	外：黒褐色 内：暗褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/3	あまり砂粒は見られない、	LR	(二枚貝)条痕	含繊維、スス付着
62	3	39	礫2層西	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	外：10YR4/3 内：10YR5/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	(二枚貝)条痕	含繊維
62	4	39	礫2層中央	深鉢	0.8	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～5mmの白色粒子を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
62	5	39	礫2層中央	深鉢	0.8	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～4mmの長石を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
62	6	39	礫2層中央	深鉢	0.9	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR5/2	φ～3mmの白色粒子を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
62	7	39	礫2層	深鉢	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：7.5YR3/1	φ～4mmの砂粒を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
62	8	39	礫2層南	不明	0.9	外：褐灰色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR6/3	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
62	9	39	礫2層中央	不明	0.9	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	前々段多条カ RL	(二枚貝)条痕	含繊維
62	10	39	礫2層南	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：黒褐色	外：10YR6/2 内：10YR3/1	φ～5mmの砂粒を多く含む	無節R	条痕	含繊維
62	11	39	礫2層西	不明	0.9	外：黒色 内：灰黄褐色	外：10YR2/1 内：10YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	LR	二枚貝条痕	含繊維
62	12	39	礫2層中央	不明	1.1	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR6/2 内：7.5YR4/1	φ～5mmの砂粒を少量含む	LR	二枚貝条痕	含繊維
62	13	39	礫2層東	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR5/2 内：10YR5/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	LR	二枚貝条痕	含繊維
62	14	39	礫2層東	不明	0.8	外：黒色 内：黒色	外：2.5Y2/1 内：2.5Y2/1	緻密	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	
62	15	39	礫2層	不明	0.8	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
62	16	39	礫2層	不明	0.9	外：黒色 内：灰黄褐色	外：2.5Y2/1 内：10YR4/2	φ～2.5mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
62	17	39	礫2層	不明	0.8	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/2	φ～6mmの砂粒を多く含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
62	18	39	礫2層西	不明	0.9	外：灰褐色 内：黒色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR2/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	
62	19	39	礫2層南	不明	1.0	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR5/2	φ～4mmの長石を多く含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	
62	20	39	礫2層北	不明	0.7	外：にぶい褐色 内：灰褐色	外：7.5YR6/4 内：7.5YR4/2	φ～2.5mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
62	21	39	礫2層中央	不明	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
62	22	39	礫2層東	不明	0.9	外：にぶい黄色 内：灰黄色	外：2.5Y6/3 内：2.5Y6/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	1	39	礫2層西	不明	0.8	外：褐灰色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：10YR3/1	φ～6mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	2	39	礫2層中央南	深鉢	0.7	外：黒色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y5/2	1mm以下の白色砂粒・雲母を含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	3	39	礫2層中央	不明	0.9	外：黄灰色 内：黒褐色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y3/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	4	39	礫2層西	不明	1.2	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	外：10YR5/4 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	5	39	礫2層	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	6	39	礫2層東	不明	0.9	外：にぶい褐色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR5/4 内：10YR6/3	φ～4mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	7	39	礫2層東	深鉢カ	1.1	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	8	39	礫2層東	不明	1.2	外：褐灰色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：10YR3/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	9	39	礫2層北	深鉢カ	1.1	外：黄白色 内：黒褐色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y3/1	φ～2mmの長石を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	10	39	礫2層東	深鉢	0.8	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/2	φ～5mmの砂粒を少量含む	LRカ	二枚貝条痕	
63	11	39	礫2層中央	不明	0.9	外：灰褐色 内：黒褐色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR3/1	φ～1mmの白色粒子を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	
63	12	39	礫2層東	不明	0.9	外：オリーブ褐色 内：黒褐色	外：2.5Y4/3 内：2.5Y3/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	13	39	礫2層東	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	φ～2mmの白色粒子を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	14	39	礫2層	不明	0.8	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR4/2	φ～3mmの長石・φ～1mmの雲母を微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	15	39	礫2層東	深鉢	0.8	外：灰黄褐色 内：黒褐色	内：10YR5/2 内：7.5YR3/1	φ～5mmの長石を多く含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
63	16	39	礫2層	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/3 内：10YR4/2	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	17	39	礫2層 北	不明	0.8	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～5mmの長石を少量 含む	LRカ	二枚貝条痕	含繊維
63	18	39	礫2層 北	不明	0.9	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR5/2 内：7.5YR4/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	LRカ	二枚貝条痕	
63	19	39	礫2層 東	不明	0.7	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/2	φ～3mmの長石を少量 含む	LRカ	二枚貝条痕	
63	20	39	礫2層 中央	不明	0.8	外：黒褐色 内：黒褐色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y3/1	φ～2mmの長石を少量 含む	LRカ	二枚貝条痕	
63	21	39	礫2層 東側	不明	1.0	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR7/3 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	複節カ LR	二枚貝条痕	含繊維
63	22	39	礫2層 中央	深鉢	0.9	外：暗灰黄色 内：黒褐色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y3/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	無節L	条痕	含繊維
63	23	39	礫2層 東	不明	1.0	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR4/2 内：10YR4/1	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	無節L	条痕	
63	24	39	礫2層 中央	不明	0.8	外：灰褐色 内：灰黄褐色	外：7.5YR4/2 内：10YR5/2	緻密	無節L	条痕	含繊維
63	25	39	礫2層 中央	不明	1.1	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR4/2	緻密	無節L	条痕	含繊維
63	26	39	礫2層 北	不明	1.0	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	φ～2mmの白色粒子を 少量含む	無節L	条痕	含繊維
63	27	39	礫2層 北	不明	0.7	外：灰色 内：黒色	外：5Y4/1 内：N5/	緻密	無節L	条痕	含繊維
63	28	39	礫2層 拡張	不明	1.1	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/2	φ～6mmの白色粒子を 多く含む	無節L	条痕	含繊維
63	29	39	礫2層	不明	1.0	外：にぶい橙色 内：灰褐色	外：7.5YR6/4 内：5.5YR4/2	φ～1mmの白色粒子を 微量に含む	無節L	条痕	含繊維
63	30	39	礫2層 西	不明	0.9	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR5/2 内：7.5YR5/1	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	無節L	条痕	含繊維
63	31	39	礫2層 中央北	不明	1.0	外：黒褐色 内：褐灰色	外：5Y3/1 内：10YR6/1	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕の ち無節L	二枚貝条痕	含繊維
64	1	40	礫2層	不明	1.1	外：黒色 内：黒褐色	外：10YR2/1 内：10YR3/2	1mm前後の白色砂粒を 含む	RL	二枚貝条痕	含繊維
64	2	40	礫2層 中央	不明	1.0	外：暗灰黄色 内：黒褐色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y3/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	RL	二枚貝条痕	
64	3	40	礫2層 北	深鉢	1.2	外：黒褐色 内：黒色	外：10YR3/2 内：10YR2/1	1mm前後の砂粒を含む	RL	二枚貝条痕	含繊維、スス付着
64	4	40		土器片 錘カ	1.1	外：黒色 内：灰黄褐色	外：10YR2/1 内：10YR4/2	1mm前後の砂粒を含む	RL	二枚貝条痕	スス付着
64	5	40	礫2層 東	不明	0.7	外：明黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/6 内：10YR6/4	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	RL	二枚貝条痕	
64	6	40	礫2層 中央	不明	1.3	外：灰黄褐色 内：黒色	外：10YR4/2 内：10YR2/1	1mm前後の白色砂粒を まばらに含む	RL	二枚貝条痕	含繊維
64	7	40	礫2層 南	不明	0.8	外：暗灰黄色 内：黒色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y2/1	φ～3mmの砂粒を少量 含む	RL	二枚貝条痕	
64	8	40	礫2層 中央	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/4 内：10YR5/2	φ～2mmの白色粒子を 少量含む	RL	二枚貝条痕	
64	9	40	礫2層	深鉢	1.0	外：黒色 内：黒褐色	外：2.5Y2/1 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	RLカ	二枚貝条痕	含繊維
64	10	40	礫2層 西	不明	1.0	外：黒褐色 内：オリーブ褐色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/3	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	RLカ	二枚貝条痕	含繊維
64	11	40	礫2層 北	不明	1.0	外：オリーブ褐色 内：にぶい黄褐色	外：2.5Y4/3 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	RLカ	二枚貝条痕	含繊維
64	12	40	礫2層	不明	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/2 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を少量 含む	RLカ	二枚貝条痕	含繊維
64	13	40	礫2層 東	不明	1.0	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR7/3	φ～3mmの砂粒を少量 含む	RLカ	二枚貝条痕	含繊維
64	14	40	礫2層 南	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR4/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	RLカ	二枚貝条痕	
64	15	40	礫2層	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：黒褐色	外：10YR6/2 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	RLカ	二枚貝条痕	
64	16	40	礫2層 東	不明	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	RLカ	二枚貝条痕	
64	17	40	礫2層 中央南	不明	1.1	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR4/3	φ～3mmの長石を微量 に含む	前々段多条カ RL	ナデ	含繊維
64	18	40	礫2層 中央	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR7/2	φ～3mmの長石を少量 含む	前々段多条カ RL	ナデ	含繊維
64	19	40	礫2層 東	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR6/3	φ～1mmの砂粒・雲母 を微量に含む	前々段多条カ RL	ナデ	含繊維
64	20	40	礫2層 東	不明	0.8	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y5/2	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	前々段多条カ RL	ナデ	含繊維
64	21	40	礫2層	深鉢	1.0	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR4/2	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	前々段多条カ RL	二枚貝条痕	含繊維
64	22	40	礫2層 東	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	外：10YR5/3 内：2.5Y3/1	φ～4mmの白色粒子を 少量含む	撚り戻し	条痕	含繊維
65	1	40	礫2層 中央	深鉢	1.0	外：灰褐色 内：灰黄褐色	外：7.5YR4/2 内：10YR4/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	前々段多条カ RL	二枚貝条痕	含繊維
65	2	40	礫2層 中央	深鉢カ	0.95	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/3 内：10YR4/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	前々段多条カ RL	二枚貝条痕	含繊維
65	3	40	礫2層 中央	不明	0.9	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	前々段多条カ RL	二枚貝条痕	含繊維
65	4	40	礫2層	深鉢	0.95	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	φ～3mmの砂粒を中量 に含む	無節R	二枚貝条痕	含繊維
65	5	40	礫2層 東	不明	0.9	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR5/2	φ～4mmの砂粒を少量 含む	無節R	二枚貝条痕	含繊維
65	6	40	礫2層	不明	0.8	外：褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/4 内：10YR4/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	無節R	ナデ	含繊維
65	7	40	礫2層	不明	1.0	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR4/2	φ～7mmの砂粒を少量 含む	無節R	二枚貝条痕	含繊維
65	8	40	礫2層	不明	0.95	外：黒褐色 内：黒褐色	外：7.5YR3/1 内：10YR3/1	φ～4mmの砂粒を微量 に含む	無節R	条痕	含繊維
65	9	40	礫2層	不明	1.0	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～4mmの砂粒を中量 含む	無節R	条痕	含繊維
65	10	40	礫2層 東	不明	0.85	外：黄褐色 内：暗灰黄色	外：10YR5/6 内：2.5Y5/2	φ～3mmの雲母を微量 に含む	無節R	条痕	含繊維
65	11	40	礫2層	不明	0.75	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～4mmの砂粒を少量 含む	無節R	条痕	含繊維
65	12	40	礫2層 東	不明	1.05	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR5/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	無節R	巻貝条痕カ	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
66	1	40	礫3層	深鉢	0.95	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの白色砂粒を少量含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	2	40	礫4層	不明	0.6	外：褐灰色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：10YR3/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	3	40	礫2層	不明	0.75	外：灰黄褐色 内：灰褐色	外：10YR4/2 内：7.5YR4/2	φ～3mmの長石を少量含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	4	40	礫2層中央	不明	0.85	外：褐灰色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/3	φ～3mmの長石を少量含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	5	40	礫2層南	不明	1.05	外：にぶい赤褐色 内：褐灰色	外：5YR5/3 内：5YR5/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	6	40	礫2層中央	深鉢カ	0.85	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	7	40	礫2層中央	深鉢	0.9	外：黒褐色 内：灰褐色	外：7.5YR3/1 内：7.5YR4/2	φ～5mmの長石を少量含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	8	40	礫2層中央	不明	0.7	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～4mmの砂粒を少量含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	9	40	礫2層	不明	0.7	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/2	φ～3mmの白色粒子を微量に含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	10	40	礫2層南	不明	1.0	外：にぶい赤褐色 内：赤灰色	外：2.3YR3/3 内：2.5Y5/1	φ～2mmの白色砂粒を微量に含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	11	40	礫2層東	不明	0.85	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/4 内：10YR6/3	φ～5mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	12	40	礫2層	不明	0.85	外：にぶい褐色 内：黒褐色	外：2.5Y5/3 内：7.5YR3/1	φ～1mmの白色粒子を微量に含む	LR	ナデ	口唇施文、含繊維
66	13	40	礫2層中央	不明	0.65	外：黒褐色 内：褐灰色	外：2.5Y3/1 内：7.5YR4/1	φ～4mmの長石を少量含む	LR	ナデ	含繊維
66	14	40	礫2層	深鉢	1.0	外：黒色 内：褐灰色	外：2.5Y2/1 内：7.5YR5/1	φ～5mmの砂粒を少量含む	LR、条痕	ナデ	含繊維
66	15	40	礫2層中央	不明	0.75	外：明黄褐色 内：明黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR6/4	φ～2mmの白色砂粒を少量含む	LR	ナデ	
66	16	40	礫2層南	不明	0.75	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR7/4	φ～3mmの長石を少量含む	LR	ナデ	含繊維
66	17	40	礫2層中央	不明	0.65	外：明黄褐色 内：黒色	外：5YR5/6 内：7.5YR2/1	φ～3mmの白色粒を少量・雲母を多く含む	LR	ナデ	
66	18	40	礫2層東	不明	0.9	外：にぶい褐色 内：黒色	外：2.5Y6/4 内：2.5Y2/1	φ～5mmの長石を少量含む	LR	ナデ	含繊維
66	19	40	礫2層東	不明	0.85	外：黒褐色 内：黄灰色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	LR	ナデ	含繊維
66	20	40	礫2層	不明	0.85	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR6/2	1mm以下の白色粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
66	21	40	礫2層南	深鉢	0.6	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：2.5Y3/1 内：10YR6/3	φ～2mmの砂粒を微量に含む	無節L	ナデ	口唇施文、スス付着
66	22	40	礫2層東	不明	0.8	外：黄褐色 内：黄褐色	外：10YR5/6 内：10YR5/6	φ～2mmの砂粒を微量に含む	無節L	ナデ	口唇施文、含繊維
66	23	40	礫2層東	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～3mmの長石を少量含む	RL	ナデ	口唇施文、含繊維
66	24	40	礫2層中央	不明	0.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～4mmの砂粒を微量に含む	RL	ナデ	口唇施文、含繊維
66	25	40	礫2層中央	不明	0.9	外：黒褐色 内：黒色	外：10YR3/1 内：7.5YR2/1	φ～1mmの白色粒子を微量に含む	RL	ナデ	口唇施文、含繊維
66	26	40	礫2層	不明	0.85	外：黒色 内：黒色	外：2.5Y2/1 内：2/1YR2/1	φ～2mmの長石を微量に含む	RL	ナデ	含繊維
66	27	40	礫2層	不明	0.7	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR4/2	φ～3mmの砂粒を微量に含む	無節R	ナデ	口唇施文、含繊維
66	28	40	礫2層	不明	0.7	外：黒色 内：明黄褐色	外：10YR2/1 内：10YR6/6	φ～4mmの砂粒を少量含む	無節R	ナデ	
66	29	40	礫2層西	不明	0.65	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR6/2	やや粗目	無節R	ナデ	
66	30	40	礫2層南	不明	0.95	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR6/4	φ～4mmの長石を少量含む	前々段多条	ナデ	口唇施文、含繊維
66	31	40	礫2層	不明	0.8	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR5/4	φ～3mmの長石を多く含む	前々段多条	ナデ	口唇施文、含繊維
67	1	41	礫2層	深鉢	0.8	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR5/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに、微砂粒を含む	LR	ナデ	含繊維
67	2	41	礫2層中央	深鉢	0.85	外：黒色 内：黄褐色	外：2.5Y2/1 内：2.5Y5/3	1～3mmの白色砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
67	3	41	礫2層中央	深鉢	0.9	外：にぶい黄色 内：にぶい黄色	外：2.5Y6/3 内：2.5Y6/3	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
67	4	41	礫2層	深鉢	0.85	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR5/1	1mm前後の白色砂粒をまばらに、微砂粒を含む	LR	ナデ	含繊維
67	5	41	礫2層	深鉢	0.85	外：褐灰色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：10YR3/1	1mm前後の砂粒を含む	LR	ナデ	
67	6	41	礫2層中央	深鉢	1.05	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/2 内：10YR4/2	1～3mmのやや大きな白色砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
67	7	41	礫2層	深鉢	0.95	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	1mm前後の白色砂粒を含む	LR	ナデ	含繊維
67	8	41	礫2層	深鉢	0.9	外：黒色 内：灰黄褐色	外：10YR2/1 内：10YR5/2	1mm前後の白色砂粒をまばらに、微砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維、スス付着
67	9	41	礫2層中央	深鉢カ	0.8	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	1mm前後の砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	
67	10	41	礫2層	深鉢	1.05	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR4/2	微砂粒を多く含む	LR	ナデ	
67	11	41	礫2層中央	深鉢	1.05	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	1～3mmのやや大きな白色砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
67	12	41	礫2層	深鉢	0.9	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR4/2	1mm前後の白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
67	13	41	礫2層中央	深鉢	0.95	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR5/2	1～3mmの大きな白色砂粒、微砂粒を含む	LR	ナデ	スス付着
67	14	41	礫2層東	不明	0.9	外：褐灰色 内：黒色	外：10YR4/1 内：10YR2/1	φ～3mmの白色粒子を微量に含む	LR	ナデ	
67	15	41	礫2層南	深鉢	0.95	外：黒色 内：灰黄褐色	外：10YR2/1 内：10YR5/2	1～3mmのやや大きな白色砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
67	16	41	礫2層中央	不明	1.0	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/2	1mm前後の砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
67	17	41	礫2層中央	不明	0.95	外：黒色 内：暗灰黄色	外：2.5Y2/1 内：2.5Y4/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	LR	ナデ	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調	胎土	外	内	備考	
67	18	41	礫2層中央	不明	1.1	外：黒褐色 内：黄灰色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/1	φ～1mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	含繊維
68	1	41	礫2層中央	不明	0.95	外：黒色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR2/1 内：10YR6/3	1mm前後の砂粒を含む	LR	ナデ	含繊維
68	2	41	礫2層中央	深鉢	0.8	外：黒色 内：黒色	外：10YR2/1 内：10YR2/1	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
68	3	41	礫2層	深鉢	0.9	外：黒色 内：黒色	外：10YR2/1 内：10YR2/1	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	
68	4	41	礫2層	土器片錘	1.0	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/3	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
68	5	41	礫2層	不明	0.75	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR5/2 内：10YR4/1	φ～5mmの砂粒を少量含む	LR	ナデ	含繊維
68	6	41	礫2層南	深鉢	1.15	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR5/3	1～5mmの大きめの砂粒を含む	LR	ナデ	
68	7	41	礫2層	不明	1.05	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/2 内：10YR3/1	1mm以下の砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
68	8	41	礫2層	不明	0.9	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	ほとんど砂粒は見られない	LR	ナデ	含繊維
68	9	41	礫2層西	深鉢	0.65	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	1mm以下の白色砂粒を多く含む	LR	ナデ	炭化物付着
68	10	41	礫2層中央	深鉢	1.2	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/3 内：10YR6/3	1mm前後の砂粒を少量含む	LR	ナデ	含繊維
68	11	41	礫2層東	不明	0.85	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	外：10YR5/3 内：10YR4/1	φ～1mmの白色粒子を微量に含む	LR	ナデ	
68	12	41	礫2層	不明	0.75	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR6/2	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
68	13	41	礫2層南	不明	1.0	外：黒色 内：暗褐色	外：10YR2/1 内：10YR3/3	砂粒は見られない	LR	ナデ	
68	14	41	礫2層中	不明	0.45	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～1mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	
68	15	41	礫2層	深鉢	0.8	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	外：10YR4/3 内：10YR3/1	ほとんど砂粒は見られない	LR	ナデ	含繊維
68	16	41	礫2層	不明	0.7	外：にぶい黄色 内：黒褐色	外：2.5Y6/3 内：2.5Y3/1	φ～3mmの長石を多く含む	LR	ナデ	含繊維
68	17	41	礫2層東側	不明	1.0	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR5/2	φ～4mmの砂粒を中量含む	LR	ナデ	
68	18	41	礫2層南	不明	1.05	外：黒褐色 内：褐灰色	外：10YR3/1 内：10YR4/1	1mm前後の白色砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
68	19	41	礫2層中央	深鉢	1.0	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～1mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	含繊維
68	20	41	礫2層東	不明	0.5	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	
68	21	41	礫2層南	深鉢	0.65	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/4 内：10YR6/3	1mm以下の白色砂粒を含む	LR	ナデ	
68	22	41	礫2層西端	深鉢	0.6	外：灰白色 内：灰黄色	外：2.5Y7/1 内：2.5Y7/2	1mm以下の白色砂粒を含む	LR	ナデ	
68	23	41	礫2層	土器片錘力	1.35	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR7/3	1～3mmの白色砂粒をまばらに含む	LR	ナデ	含繊維
68	24	41	礫2層中央	不明	0.7	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	外：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3	φ～4mmの長石を少量含む	LR	ナデ	
68	25	41	礫2層中央	不明	0.9	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/2 内：10YR4/2	1mm前後の砂粒、雲母を多く含む	LR	ナデ	含繊維
68	26	41	礫2層	不明	0.9	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR5/3	φ～1mmの白色粒子を微量に含む	LR	ナデ	
68	27	41	礫2層東	不明	1.0	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR4/2 内：10YR4/1	φ～3mmの砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
68	28	41	礫2層東	不明	0.85	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	外：10YR6/3 内：10YR4/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	LR	ナデ	含繊維
68	29	41	礫2層南	不明	1.2	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR7/2	φ～4mmの長石を少量含む	LR	ナデ	含繊維
69	1	42	礫2層	深鉢	1.0	外：暗灰黄色 内：黒褐色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y3/1	φ～1mmの砂粒を微量に含む	前々段多条カ LR	ナデ	含繊維
69	2	42	礫2層	不明	0.95	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/4	φ～5mmの砂粒を多く含む	前々段多条カ LR	ナデ	含繊維
69	3	42	礫2層	不明	0.85	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR4/1	φ～1mmの砂粒を微量に含む	前々段多条カ LR	ナデ	含繊維
69	4	42	礫2層東	不明	0.65	外：にぶい黄褐色 内：灰褐黄色	外：10YR5/4 内：10YR5/2	1mm前後の白色砂粒を含む	前々段多条カ LR、ナデ	ナデ	
69	5	42	礫2層北	不明	0.8	外：黒褐色 内：黒色	外：10YR3/1 内：2.5Y2/1	φ～2mmの長石を微量に含む	前々段多条カ LR	ナデ	含繊維
69	6	42	礫2層西	不明	0.75	外：暗灰黄色 内：黄灰色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y6/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	ナデ	
69	7	42	礫2層中央	不明	0.75	外：灰褐色 内：黒褐色	外：7.5YR5/2 内：7.5YR3/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	ナデ	
69	8	42	礫3	不明	0.75	外：にぶい褐色 内：にぶい黄色	外：7.5YR5/4 内：2.5Y6/4	φ～3mmの長石を少量含む	前々段多条カ LR	ナデ	
69	9	42	礫2層	不明	0.85	外：にぶい褐色 内：明褐色	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	ナデ	
69	10	42	礫3	不明	0.65	外：にぶい黄褐色 内：黄灰色	外：10YR7/3 内：2.5Y6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	ナデ	
69	11	42	礫2層東	不明	0.85	外：黒色 内：灰黄褐色	外：10YR2/1 内：10YR5/2	φ～1mmの長石、φ～0.5mmを雲母を微量に含む	前々段多条カ LR	ナデ	含繊維
69	12	42	礫2層中央	不明	0.75	外：黒褐色 内：黒褐色	外：7.5YR3/1 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	前々段多条カ LR	ナデ	
69	13	42	礫2層	不明	0.7	外：にぶい褐色 内：褐灰色	外：7.5YR6/3 内：7.5YR5/1	やや粗目	前々段多条カ LR	ナデ	含繊維
69	14	42	礫2層南	不明	1.05	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR6/2 内：10YR6/1	φ～3mmの砂粒を多く含む	LR	ナデ	含繊維
69	15	42	礫2層中央	不明	1.1	外：褐灰色 内：灰褐色	外：7.5YR4/1 内：7.5YR4/2	φ～3mmの長石を少量含む	LR	ナデ	含繊維
69	16	42	礫2層東	不明	0.85	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR6/2 内：10YR6/1	φ～3mmの砂粒を微量に含む	複節カ LR	ナデ	含繊維
69	17	42	礫2層東側	不明	1.15	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR6/3	φ～3mmの砂粒を微量に含む	無節 L	ナデ	含繊維
69	18	42	礫2層西	不明	0.7	外：黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y4/1	緻密	無節 L	ナデ	含繊維
69	19	42	礫2層東	不明	0.65	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR2/1 内：7.5YR6/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	無節 L	ナデ	

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
69	20	42	礫2層	不明	1.05	外: 灰黄色 内: 黒褐色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y3/1	φ~2mmの砂粒を多量に含む	無節L	ナデ	
69	21	42	礫2層 東側	不明	1.1	外: にぶい黄橙色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/2	φ~3mmの砂粒を微量に含む	無節L	ナデ	含繊維
69	22	42	礫2層	不明	0.6	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR6/2	φ~3mmの砂粒を多く含む	無節L	ナデ	
69	23	42	礫2層	不明	1.0	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR4/1 内: 7.5YR4/1	φ~4mmの砂粒を少量含む	無節L	ナデ	含繊維
69	24	42	礫2層 東	不明	0.85	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR7/2	φ~4mmの砂粒を微量に含む	無節L	ナデ	含繊維
69	25	42	礫2層 東	不明	0.85	外: 褐色 内: 灰褐色	外: 7.5YR4/4 内: 7.5YR4/2	φ~3mmの白色粒子を少量含む	無節L	ナデ	含繊維
69	26	42	礫2層 東	不明	0.75	外: 褐灰色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/1 内: 10YR5/3	緻密	無節L	ナデ	
69	27	42	礫2層	不明	0.95	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR4/2 内: 10YR4/1	φ~1mmの白色粒子を微量に含む	無節L	ナデ	含繊維
69	28	42	礫2層	不明	1.0	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	緻密	撚り戻し	ナデ	
69	29	42	礫2層 南	不明	1.3	外: 黒褐色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/2	φ~4mmの砂粒を少量含む	特殊なLRカ	ナデ	含繊維
69	30	42	礫2層	不明	0.8	外: 黒褐色 内: 黒色	外: 7.5YR3/1 内: 7.5YR2/1	φ~3mmの砂粒を微量に含む	前々段多条カ RL	ナデ	含繊維
70	1	42	礫2層	深鉢	1.05	外: 黒色 内: 暗褐色	外: 10YR2/1 内: 10YR3/3	砂粒は見られない	RL	ナデ	スス付着
70	2	42	礫2層 中央南	土器片鉢	1.1	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/2 内: 10YR5/2	1mm前後の白色砂粒を含む	RL	ナデ	含繊維
70	3	42	礫2層 北	土器片鉢カ	1.05	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR6/1	1~3mmの白色砂粒を含む	RL	ナデ	含繊維
70	4	42	礫2層 中央北	不明	1.0	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/3 内: 10YR3/1	微砂粒を含む	RL	ナデ	スス付着
70	5	42	礫2層 中央南	不明	0.85	外: 灰黄褐色 内: 黒色	外: 10YR4/2 内: 7.5YR2/1	φ~4mmの砂粒を少量含む	RL	ナデ	
70	6	42	礫2層 東	不明	0.85	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR5/2	φ~5mmの長石を多く含む	RL	ナデ	含繊維
70	7	42	礫2層	不明	0.9	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR5/1 内: 10YR6/1	φ~2mmの長石を少量含む	RL	ナデ	
70	8	42	礫2層 中央南	不明	0.8	外: 灰白色 内: 灰黄褐色	外: 2.5Y7/1 内: 10YR6/2	ほとんど砂粒は見られない	LR	ナデ	含繊維
70	9	42	礫2層 中央	不明	0.65	外: 褐色 内: 灰黄褐色	外: 7.5YR4/3 内: 10YR4/2	φ~1mmの長石を微量に含む	LR	ナデ	含繊維
70	10	42	礫2層 南	不明	1.1	外: 黒褐色 内: にぶい褐色	外: 7.5YR3/1 内: 7.5YR5/4	φ~2mmの砂粒を少量に含む	LR	ナデ	含繊維
70	11	42	礫2層 中央	不明	0.75	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/4 内: 10YR6/3	φ~1mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	
70	12	42	礫2層 東西端	不明	0.55	外: 褐灰色 内: 明黄褐色	外: 7.5YR6/1 内: 2.5Y6/6	φ~2mmの長石を少量含む	LR	ナデ	含繊維
70	13	42	礫2層 中央	不明	0.9	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR4/2 内: 10YR6/4	φ~1mmの白色粒子、φ~2mmの雲母を微量に含む	LR	ナデ	含繊維
70	14	42	礫2層 中央南	不明	0.55	外: にぶい褐色 内: 褐灰色	外: 7.5YR5/3 内: 7.5YR4/1	φ~1mmの白色粒子を微量に含む	LR	ナデ	含繊維
70	15	42	礫2層 中央南	不明	0.8	外: 黒褐色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/2	φ~3mmの砂粒を少量含む	無節R	ナデ	含繊維
70	16	42	礫2層 中央	不明	1.05	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR6/3	φ~1mmの砂粒を微量に含む	無節R	ナデ	含繊維
70	17	42	礫2層 西端	不明	0.7	外: 黒褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR5/2	φ~1mmの砂粒を微量に含む	無節R	ナデ	含繊維
70	18	42	礫2層 西側	不明	0.95	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR6/2	φ~4mmの砂粒を少量含む	無節R	ナデ	含繊維
70	19	42	礫2層 中央	不明	1.0	外: 黒褐色 内: 褐灰色	外: 10YR3/1 内: 10YR6/1	φ~4mmの白色粒子を少量含む	無節R	ナデ	含繊維
70	20	42	礫2層	不明	0.6	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR5/2	φ~2mmの砂粒を微量に含む	無節R	ナデ	含繊維
70	21	42	礫2層 中央	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 7.5YR3/1 内: 10YR3/1	緻密	無節R	ナデ	含繊維
70	22	42	礫2層 西	不明	0.8	外: 褐灰色 内: 灰褐色	外: 7.5YR5/1 内: 7.5YR6/2	φ~4mmの砂粒を少量含む	LR	ケズリ	含繊維
70	23	42	礫2層	不明	0.95	外: 黒褐色 内: 灰褐色	外: 7.5YR3/1 内: 7.5YR5/2	φ~2mmの砂粒を微量に含む	LR	ケズリ	含繊維
70	24	42	礫2層 東	不明	0.95	外: にぶい黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/3 内: 10YR4/1	φ~3mmの砂粒を微量に含む	LR	ケズリ	含繊維
70	25	42	礫2層 東	不明	0.95	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR5/2 内: 7.5YR6/2	φ~1mmの白色粒子を微量に含む	LR	ケズリ	含繊維
70	26	42	礫2層 東	不明	0.65	外: 黒褐色 内: にぶい黄色	外: 2.5Y3/2 内: 2.5Y6/4	φ~3mmの砂粒を少量含む	LR	ケズリ	含繊維
70	27	42	礫2層	不明	0.85	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/2	φ~2mmの砂粒を微量に含む	LR	ケズリ	含繊維
70	28	42	礫2層 中央	深鉢	0.95	外: 黒色 内: 褐灰色	外: 10YR2/1 内: 10YR5/1	1~3mmの大きめな砂粒を含む	LR	ケズリ	含繊維
70	29	42	礫2層	深鉢	1.05	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/3 内: 10YR3/1	1mm以下の白色砂粒を多く含む	LR	ケズリ	含繊維
70	30	42	礫2層 中央	深鉢	0.8	外: 灰黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR3/1	1mm以下の白色砂粒を多く含む	LR	ケズリ	
71	1	43	礫2層	深鉢カ	0.7	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~2mmの長石を少量含む	ナデ、隆帯	RL	福呂I式相当 口唇RL
71	2	43	礫2層 東側	不明	0.85	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/1	φ~7mmの砂粒を少量含む	条痕、隆帯	条痕	
71	3	43	礫2層	深鉢	0.85	外: 褐灰色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/3	φ~3mmの長石を少量含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 長山馬籠式相当
71	4	43	礫2層 北側溝	不明	1.0	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/2	φ~6mmの砂粒を多く含む	条痕、隆帯(刻目)	条痕	
71	5	43	礫2層	深鉢カ	0.85	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~3mmの長石を少量含む	条痕、隆帯(刻目)	条痕	含繊維 AMS分析 長山馬籠式相当
71	6	43	礫2層	不明	0.95	外: 黒褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR4/3	φ~1mmの砂粒を微量に含む	条痕、隆帯(刻目)	条痕	長山馬籠式相当
71	7	43	礫2層 中央	不明	0.85	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/4 内: 10YR7/2	φ~4mmの砂粒を少量に含む	条痕、隆帯	条痕	長山馬籠式相当
71	8	43	礫2層	不明	0.7	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/2	φ~5mmの砂粒を少量に含む	条痕、隆帯	条痕	長山馬籠式相当

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
71	9	43	礫2層	深鉢	0.65	外: 黒褐色 内: オリーブ褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y4/3	φ~3mmの砂粒を微量 に含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 長山馬籠式相当
71	10	43	礫2層 東	深鉢カ	0.65	外: にぶい赤褐色	外: 5Y4/4 内: 7.5YR4/1	φ~2mmの白色粒子を 少量含む	条痕、隆帯	条痕	長山馬籠式相当
71	11	43	礫2層 中央	不明	0.7	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 7.5YR3/1	φ~1mmの石英を微量 に含む	条痕、隆帯	条痕	口唇条痕 長山馬籠式相当
71	12	43	礫2層	深鉢	0.6	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	φ~4mmの長石を少量 含む	条痕、隆帯	条痕	口唇条痕、含繊維 長山馬籠式相当
71	13	43	礫2層 東	深鉢	0.75	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~4mmの砂粒を微量 に含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 長山馬籠式相当
71	14	43	礫2層	深鉢	0.7	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~7mmの砂粒を少量 含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 長山馬籠式相当
71	15	43	礫2層	深鉢	0.7	外: 黒褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR4/3	φ~1mmの長石を少量 含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 AMS分析 長山馬籠式相当
71	16	43	礫2層 東	深鉢	0.8	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~5mmの砂粒を少量 含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 長山馬籠式相当
71	17	43	礫2層 東	深鉢	0.65	外: 黒褐色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y4/2	φ~2mmの砂粒を微量 に含む	条痕、隆帯	条痕	含繊維 長山馬籠式相当
72	1	43	礫2層 東	深鉢	0.8	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/1	φ~5mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	2	43	礫2層 南	深鉢	0.95	外: 黒色 内: 黒褐色	外: 7.5YR7/1 内: 7.5YR3/1	φ~6mmの長石を中量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	3	43	礫2層	深鉢	0.85	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	φ~2mmの白色粒子を 少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	4	43	礫2層 中央	深鉢	0.8	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/2	φ~3mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	口唇条痕、穿孔あり、 含繊維
72	5	43	礫2層 西	不明	0.85	外: 黒褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR6/2	φ~3mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	口唇条痕、 含繊維
72	6	43	礫2層	深鉢	0.85	外: 黒褐色 内: 黄褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y4/1	φ~2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	7	43	礫2層 東	不明	0.75	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR5/2	φ~5mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	口唇条痕、含繊維
72	8	43	礫2層 西	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	φ~5mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	口唇条痕、含繊維
72	9	43	礫2層	不明	0.8	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR5/1 内: 10YR5/1	φ~3mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	10	43	礫2層 中央	不明	0.9	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/2	1mm以下の白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	11	43	礫2層 中央	不明	0.65	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/4 内: 10YR5/2	φ~1mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	口唇条痕、含繊維
72	12	43	礫2層 中央	不明	0.9	外: 灰黄色 内: 暗赤灰色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y3/1	φ~2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	13	43	礫2層 東	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/2	φ~3mmの長石を微量 に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	14	43	礫2層 中央北	不明	0.95	外: 灰白色 内: 黒褐色	外: 10YR7/1 内: 10YR3/1	微砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	15	43	礫2層 東	不明	0.6	外: にぶい褐色 内: 黒褐色	外: 7.5YR5/4 内: 7.5YR3/1	1~3mmの白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	16	43	礫2層 中央	不明	0.75	外: 明黄褐色 内: 黄褐色	外: 10YR6/4 内: 2.5Y5/3	φ~5mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	17	43	礫2層 東	不明	0.95	外: 黒色 内: 褐灰色	外: 7.5YR2/1 内: 7.5YR4/1	1mm前後の砂粒をまば らに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	18	43	礫2層	不明	1.15	外: にぶい黄褐色 内: 黒色	外: 10YR5/3 内: 10Y2/1	1mm前後の白色砂粒を まばらに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	19	43	礫2層 中央	不明	1.15	外: 灰黄褐色 内: 黒色	外: 10YR5/2 内: 10YR2/1	3mm前後の白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	20	43	礫2層 北	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 7.5YR3/1 内: 7.5YR3/1	3mm前後の白色砂粒を まばらに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	21	43	礫2層 東	不明	0.85	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/3 内: 10YR3/1	1mm前後の白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
72	22	43	礫2層 中央	不明	0.85	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/1	1mm前後の白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	23	43	礫2層	不明	1.0	外: 暗灰黄色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y4/2 内: 2.5Y4/2	φ~4mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	24	43	礫2層 中央北	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y6/2	φ~4mmの砂粒を少量 に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	25	43	礫2層 東側	不明	1.0	外: 明黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/6 内: 10YR6/2	φ~5mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
72	26	43	礫2層 南	不明	0.75	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR3/1	φ~5mmの長石を多く 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
72	27	43	礫2層 東	不明	0.9	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/2 内: 10YR4/2	φ~6mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
72	28	43	礫2層 北	不明	0.85	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/2 内: 2.5Y3/1	φ~3mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	1	43	礫2層	深鉢	0.9	外: 黒色 内: 灰黄褐色	外: 10YR2/1 内: 10YR4/2	1mm前後の砂粒、雲母 を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	2	43	礫2層 中央	深鉢	0.95	外: 黒色 内: 黒色	外: 10YR2/1 内: 10YR2/1	1mm前後の白色砂粒を 多く含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	3	43	礫2層 東	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	1~3mmの白色砂粒を 多く含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	4	43	礫2層	深鉢	0.85	外: 黒色 内: 黒褐色	外: 10YR2/1 内: 10YR3/1	1~3mmの白色砂粒を 少量、微砂粒を多く含 む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	5	43	礫2層 中央	深鉢	0.85	外: 黄灰色 内: 黄灰色	外: 2.5Y4/1 内: 2.5Y6/1	1~3mmの白色砂粒を まばらに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	6	43	礫2層 中央	不明	1.0	外: 黒色 内: 褐灰色	外: 7.5YR2/1 内: 2.5Y5/1	1mm前後の白色砂粒を 多く含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	7	43	礫2層	深鉢	1.0	外: 黄灰色 内: 黒褐色	外: 2.5Y4/1 内: 2.5Y3/1	1~5mmの白色砂粒を 多く含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	8	44	礫2層 西	土器片鉢カ	0.75	外: 黒褐色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/2	1mm前後の白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	9	44	礫2層 東	深鉢	0.75	外: 黒褐色 内: 灰褐色	外: 2.5Y3/1 内: 7.5YR4/2	1mm前後の白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	10	44	礫2層	深鉢	0.9	外: 黒褐色 内: 灰褐色	外: 7.5YR3/2 内: 7.5YR5/2	1~3mmの白色砂粒を 含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	11	44	礫2層	深鉢	0.65	外: 褐色 内: 黒褐色	外: 7.5YR4/3 内: 10YR3/0	1~5mmの白色砂粒を 多く含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	12	44	礫2層 中央南	深鉢	0.9	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR5/3	ほとんど砂粒は見られ ない	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
73	13	44	礫2層	不明	1.1	外: 黒褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR6/4	1~3mmの白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	14	44	礫2層	不明	1.05	外: 褐灰色 内: 灰褐黄色	外: 10YR5/1 内: 10YR5/2	1~3mmの白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
73	15	44	礫2層	不明	0.45	外: にぶい黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR6/3 内: 10YR4/1	φ~3mmの白色粒子を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
73	16	44	礫2層中央	不明	0.7	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR4/2	1~3mmの砂粒を微量に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
73	17	44	礫2層東	不明	0.75	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/1 内: 10YR6/2	φ~2mmの白色粒子を微量に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	1	44	礫2層西	深鉢カ	0.75	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~2.5mmの長石を微量に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
74	2	44	礫2層	深鉢	0.75	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/3 内: 10YR3/1	φ~5mmの長石を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	3	44	礫2層中央	不明	0.9	外: 黒色 内: 灰黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR5/2	1mm以下の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	4	44	礫2層中央	深鉢	0.9	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/2 内: 10YR4/1	1mm以下の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	5	44	礫2層東	土器片鉢カ	1.45	外: にぶい黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/3 内: 10YR6/1	1mm前後の白色砂粒・5mm以上の砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	6	44	礫層	不明	0.55	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR6/2 内: 10YR5/1	φ~3mmの砂粒を多量に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
74	7	44	礫2層西	深鉢	0.45	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/2 内: 2.5Y3/2	緻密	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
74	8	44	礫2層中央	不明	0.8	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/2 内: 7.5YR6/4	ほとんど砂粒は見られない	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	9	44	礫2層東	土器片鉢カ	0.85	外: 褐灰色 内: にぶい褐色	外: 7.5YR4/1 内: 7.5YR5/3	1~3mmの比較的大きな白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	10	44	礫2層	深鉢カ	0.85	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/2	φ~3mmの長石を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	11	44	礫2層中央	深鉢カ	0.75	外: にぶい黄褐色 内: 黄褐色	外: 10YR6/3 内: 2.5Y5/3	φ~2mmの長石を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
74	12	44	礫2層北	不明	0.7	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/2	1mm前後の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	13	44	礫2層東	不明	1.0	外: 褐灰色 内: 黒褐色	外: 7.5YR4/1 内: 7.5YR3/1	φ~3mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
74	14	44	礫2層東	不明	0.8	外: 黒色 内: 黒色	外: 7.5YR2/1 内: 7.5YR2/1	1mm前後の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	15	44	礫2層南	不明	0.85	外: にぶい黄褐色 内: 灰白色	外: 10YR5/7/2 内: 10YR7/1	1mm前後の白色砂粒・1mm以下の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	16	44	礫2層北	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 7.5YR3/1 内: 7.5YR3/1	1mm以下の白色砂粒をまばらに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	17	44	礫2層東	不明	0.9	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR5/4 内: 10YR3/1	1mm以下の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	18	44	礫2層中央	不明	0.8	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	1mm以下の白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	19	44	礫2層	深鉢カ	0.85	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/2	φ~3mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	20	44	礫2層	不明	0.85	外: 灰黄褐色 内: 黒色	外: 10YR5/2 内: 10YR2/1	ほとんど砂粒は見られない	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	21	44	礫2層北	不明	1.0	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR6/1	1~3mmの白色砂粒をまばらに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	22	44	礫2層中央	不明	1.0	外: 褐灰色 内: 黒褐色	外: 7.5YR5/1 内: 7.5YR2/1	1~2mmの白色砂粒をまばらに含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	23	44	礫2層拡張	不明	0.9	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/2 内: 10YR4/2	φ~3mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
74	24	44	礫2層東	不明	0.9	外: 灰色 内: 灰色	外: 5Y5/1 内: 5Y4/1	φ~1.5mmの白色粒子を微量に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
74	25	44	礫2層	不明	0.95	外: 褐色 内: 黒色	外: 7.5YR4/6 内: 7.5YR2/1	微砂粒を少し含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維
75	1	44	礫2層	不明	0.6	外: 明褐灰色 内: 明褐灰色	外: 5YR7/1 内: 5YR7/2	φ~5mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕	巻貝条痕	
75	2	44	礫2層東	不明	0.85	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ~3mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕	巻貝条痕	含繊維
75	3	44	礫2層東	不明	1.05	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/2 内: 10YR4/1	φ~1mmの白色粒子を微量に含む	二枚貝条痕	巻貝条痕	含繊維
75	4	44	礫2層拡張	不明	0.95	外: 黄灰色 内: 黄灰色	外: 2.5Y4/1 内: 2.5Y5/1	φ~1mmの砂粒を微量に含む	二枚貝条痕	巻貝条痕	含繊維
75	5	44	礫2層北	不明	0.7	外: 黒褐色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/2	φ~5mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕	巻貝条痕	
75	6	44	礫2層東	不明	0.95	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	φ~5mmの砂粒を多く含む	二枚貝条痕	巻貝条痕	
75	7	44	礫2層南	不明	1.0	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/2 内: 2.5Y3/1	φ~5mmの長石を少量含む	(二枚貝)条痕	ケズリカ	含繊維
75	8	44	礫2層東	不明	0.8	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	φ~5mmの砂粒を多く含む	(二枚貝)条痕	ナデ	
75	9	44	礫2層	不明	0.65	外: 黒褐色 内: 黄褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/3	φ~2mmの砂粒を少量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	含繊維
75	10	44	礫2層北	不明	0.75	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	φ~3mmの長石を中量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	含繊維
75	11	44	礫2層中央	深鉢	1.05	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/2	φ~4mmの砂粒を微量に含む	(二枚貝)条痕	ナデ	含繊維
75	12	44	礫2層東	深鉢	0.75	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/2	φ~3mmの長石を少量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	
75	13	44	礫2層	不明	0.75	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/2	φ~3mmの白色粒子を少量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	
75	14	44	礫2層中央	深鉢	0.8	外: 黒褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR3/1	φ~3mmの白色粒子を少量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	
75	15	44	礫2層西	不明	0.5	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/2	φ~2mmの白色粒子を少量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	含繊維
75	16	44	礫2層中央南	深鉢	0.75	外: 灰黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR3/1	φ~3mmの白色粒子を少量含む	(二枚貝)条痕	ナデ	
75	17	44	礫2層中央	不明	0.6	外: 黒色 内: 灰黄褐色	外: 10YR2/1 内: 10YR4/1	φ~1mmの砂粒を微量に含む	二枚貝条痕	条痕カ	
75	18	44	礫2層中央	不明	0.95	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR7/3 内: 2.5Y3/1	φ~2mmの砂粒を微量に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
75	19	44	礫2層	不明	0.85	外：灰褐色 内：褐灰色	外：10YR5/1 内：10YR5/1	φ～5mmの長石を多量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	
75	20	44	礫2層	不明	0.75	外：黒色 内：灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y2/1	φ～5mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	21	44	礫2層 西	不明	0.9	外：灰黄色 内：褐灰色	外：2.5Y6/2 内：10YR5/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	22	44	礫2層 中央	不明	0.95	外：黒褐色 内：黒褐色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y3/1	φ～3mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	
75	23	44	礫2層 中央	不明	0.8	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR6/1 内：7.5YR4/1	φ～3mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	24	44	礫2層 西側	不明	0.6	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	
75	25	44	礫2層 中央	不明	0.65	外：黒色 内：黒褐色	外：2.5Y2/1 内：2.5Y3/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	26	44	礫2層 西	不明	0.95	外：にぶい 褐色 内：褐灰色	外：5YR6/3 内：10YR4/1	φ～3mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	27	44	礫2層 中央	不明	0.75	外：暗灰黄色 内：黒褐色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y3/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	28	44	礫2層 西	不明	0.85	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR6/2 内：10YR6/1	φ～3mmの白色粒子を 微量に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	29	44	礫2層	不明	0.8	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～4mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	30	44	礫2層 東	不明	0.75	外：褐灰色 内：暗灰黄色	外：10YR4/1 内：2.5Y5/2	φ～5mmの白色粒子を 少量含む	二枚貝条痕	ケズリカ	
75	31	44	礫2層 東	不明	0.85	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	32	44	礫2層 中央	不明	0.7	外：灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を多く 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
75	33	44	礫2層	不明	0.75	外：褐灰色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：2.5Y3/1	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	二枚貝条痕	ナデ	
76	1	45	礫2層 東	不明	0.7	外：にぶい 褐色 内：にぶい 黄褐色	外：7.5YR5/4 内：10YR6/3	φ～0.5mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	2	45	礫2層 中央	不明	0.95	外：褐灰色 内：黒褐色	外：10YR4/1 内：10YR3/1	φ～4mmの長石を多量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	3	45	黒色粘土層	不明	0.7	外：にぶい 黄色 内：黒褐色	外：2.5Y6/3 内：2.5Y3/1	φ～4mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	4	45	礫2層	不明	0.7	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR5/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	5	45	礫2層 東	不明	0.85	外：にぶい 褐色 内：黒褐色	外：7.5YR5/4 内：7.5YR3/1	φ～5mmの砂粒を多く 含む	二枚貝条痕	ナデ	
76	6	45	礫2層	不明	0.95	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/2	φ～4mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	7	45	礫2層 東	不明	0.9	外：にぶい 黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR5/2	φ～2mmの白色粒子を 少量含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	8	45	礫2層 中央	不明	0.8	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	9	45	礫2層 中央	不明	0.65	外：褐灰色 内：黄灰色	外：10YR4/1 内：2.5Y4/1	φ～1mmの白粒、雲母 を微量に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	10	45	礫2層 北	不明	0.95	外：暗灰黄色 内：黒褐色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y3/1	φ～7mmの長石を少量 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	11	45	礫2層 西側	不明	0.55	外：灰黄褐色 内：黒褐色	外：10YR4/2 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	
76	12	45	礫2層 東	不明	0.55	外：にぶい 黄褐色 内：にぶい 黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR7/4	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	二枚貝条痕	ナデ	
76	13	45	礫2層 南	不明	1.15	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/2	φ～5mmの長石を多く 含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	14	45	礫2層	不明	0.75	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	φ～3mmの白色粒子を 微量に含む	二枚貝条痕	ナデ	
76	15	45	礫2層	不明	0.75	外：黒褐色 内：黒褐色	外：10YR3/1 内：10YR3/1	φ～3mmの砂粒を多量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	
76	16	45	礫2層	不明	0.9	外：黒褐色 内：にぶい 黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR7/2	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ナデ	含繊維
76	17	45	礫2層 東	不明	1.05	外：暗灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y5/1	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕	ケズリ	
76	18	45	礫2層 中央南	深鉢	0.8	外：黄灰色 内：灰黄色	外：2.5Y6/1 内：2.5Y6/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	19	45	礫2層 南	不明	0.8	外：黄灰色 内：暗灰黄色	外：2.5Y5/1 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	20	45	礫2層 中央	不明	0.75	外：黄灰色 内：黒褐色	外：2.5Y5/1 内：2.5Y3/1	φ～4mmの長石を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	21	45	礫2層	不明	0.55	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR5/2	φ～5mmの砂粒を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	
76	22	45	礫2層 中央	不明	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	φ～2mmの白色砂粒を 少量含む	ナデ	二枚貝条痕	
76	23	45	礫2層 東	不明	0.95	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR5/2 内：10YR4/1	φ～1mmの白色粒子を 微量に含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	24	45	礫2層 東	不明	0.85	外：にぶい 黄褐色 内：褐灰色	外：10YR6/3 内：10YR4/1	φ～4mmの砂粒を多く 含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	25	45	礫2層 中央	不明	0.75	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	26	45	礫2層 東	不明	0.75	外：灰黄褐色 内：にぶい 黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/4	φ～3mmの長石を多く 含む	ケズリカ	二枚貝条痕	含繊維
76	27	45	礫2層 東	不明	0.5	外：黒褐色 内：灰黄褐色	外：10YR3/2 内：10YR4/2	φ～5mmの砂粒を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	
76	28	45	礫2層 東	不明	1.0	外：にぶい 黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/4 内：10YR6/2	φ～4mmの砂粒を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	29	45	礫2層 東	不明	0.8	外：黒褐色 内：にぶい 黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR4/3	φ～5mmの長石を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	スス付着
76	30	45	礫2層 東	深鉢カ	0.9	外：灰黄褐色 内：灰黄色	外：10YR6/2 内：2.5Y6/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ナデ	二枚貝条痕	含繊維
76	31	45	礫2層 北	不明	1.05	外：黄褐色 内：黒褐色	外：2.5Y5/3 内：2.5Y3/1	φ～4mmの砂粒を少量 含む	無文	条痕	
76	32	45	礫2層	不明	0.65	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y4/2	φ～6mmの長石を微量 に含む	無文	条痕	
76	33	45	礫2層 南	不明	0.85	外：にぶい 黄褐色 内：にぶい 黄褐色	外：10YR7/4 内：10YR7/4	φ～2mmの砂粒を少量 含む	無文	条痕	
76	34	45	礫2層	不明	0.6	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y5/2	φ～5mmの長石を微量 に含む	無文	条痕	

挿入	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
76	35	45	礫2層北	不明	0.9	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR5/2	φ ~ 3mmの砂粒を少量含む	無文	条痕	含繊維
76	36	45	礫2層北 拡張	不明	0.7	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/4 内: 10YR3/1	緻密	無文	条痕	
76	37	45	礫2層南 拡張	不明	0.75	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR7/2 内: 7.5YR3/1	φ ~ 4mmの砂粒を微量に含む	無文	条痕	
76	38	45	礫2層南	不明	0.7	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/3 内: 10YR4/2	φ ~ 6mmの長石を多く含む	マメツ	条痕	
76	39	45	礫2層	不明	0.9	外: 黒褐色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y4/2	φ ~ 3mmの長石を多く含む	マメツ	条痕	含繊維
77	1	45	礫2層南	不明	0.7	外: にぶい黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y6/3 内: 2.5Y6/2	φ ~ 2mmの白色砂粒を微量に含む	ナデ	ナデ	含繊維
77	2	45	礫2層	不明	0.95	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/3 内: 10YR6/3	φ ~ 2mmの白色砂粒を微量に含む	ナデ	ナデ	含繊維
77	3	45	礫2層	不明	1.05	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/2	ほとんど砂粒は見られない	ナデ	ナデ	腰部付近
77	4	45	礫2層東	不明	1.0	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR5/2	φ ~ 4mmの白色粒子を少量含む	ナデ	ナデ	含繊維
77	5	45	礫2層中央南	不明	1.1	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/4 内: 10YR4/3	φ ~ 4mmの砂粒を多量に含む	ナデ	ナデ	
77	6	45	礫2層	深鉢	1.3	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR6/2 内: 10YR4/1	φ ~ 2mmの白色砂粒を微量に含む	LR	ナデ	平底、菱根式相当カ
77	7	45	礫2層中央	深鉢カ	1.15	外: にぶい黄褐色 内: 黒色	外: 10YR5/4 内: 10YR2/1	微砂粒を含む	LR	二枚貝条痕	含繊維、平底、菱根式相当カ
77	8	45	礫2層	不明	1.8	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR5/3	1mm前後の白色砂粒を多く含む	RL	ナデ	含繊維、平底、菱根式相当
77	9	47	礫2層	深鉢	1.1	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR5/4 内: 10YR3/1	φ ~ 6mmの砂粒を少量含む	RL、条痕	二枚貝条痕	平丸底、AMS分析
77	10	45	礫2層西	深鉢カ	1.45	外: 褐色 内: 褐灰色	外: 10YR4/4 内: 10YR5/1	微砂粒を多く含む	RL	マメツ	平底、菱根式相当
77	11	45	礫2層	不明	1.7	外: 明黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/6 内: 10YR6/3	1mm以下の小さな砂粒を多く含む	マメツ	ナデ	平底、菱根式相当
77	12	45	礫2層	深鉢	1.8	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR3/1	1 ~ 3mmの砂粒を微量に含む	RL	マメツ	平底、菱根式相当
77	13	45	礫2層	深鉢カ	1.6	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/4 内: 10YR5/3	1mm前後の白色粒を多く含む	LR	マメツ	平底、菱根式相当
77	14	45	礫2層中央	深鉢	1.65	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR5/2 内: 10YR4/1	1mm前後の白色粒を多く含む	マメツ	ナデ	含繊維、平底、菱根式相当
77	15	45	礫2層東	深鉢	1.35	外: 明褐色 内: にぶい褐色	外: 10YR5/6 内: 10YR5/3	1mm前後の白色粒を多く含む	RL	不明	含繊維、平底、菱根式相当
77	16	45	礫2層	深鉢	1.15	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR5/2	φ ~ 2mmの砂粒を微量に含む	LR	ナデ	丸底
77	17	45	黒色粘土	深鉢	1.35	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR6/1 内: 10YR6/1	1mm前後の白色粒を多く含む	ナデ	ナデ	含繊維、丸底、島大溝内1次式相当
77	18	45	礫2層東側溝	深鉢	1.3	外: 黒色 内: 黒褐色	外: 7.5YR2/1 内: 7.5YR3/1	1mm前後の砂粒を多く含む	条痕	不明	含繊維、丸底、島大溝内1次式相当
77	19	45	礫2層	突底鉢	1.45	外: 褐色 内: 灰黄褐色	外: 7.5YR4/4 内: 7.5YR5/2	1mm前後の白色粒を多く含む	RL	ナデ	含繊維、丸底、島大溝内1次式相当カ
77	20	45	礫2層	深鉢	0.85	外: 灰黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR4/2 内: 10YR3/1	1mm前後の白色粒を含む	RL	ナデ	含繊維、丸底、島大溝内1次式相当
78	1	46	礫2層東	不明	0.65	外: 黒色 内: 黒褐色	外: 2.5Y2/1 内: 10YR3/1	緻密	二枚貝条痕・二枚貝刺突文	ナデ、ケズリ	
78	2	46	礫2層中央	不明	0.7	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR6/4	φ ~ 4mmの砂粒を少量含む	斜格子沈線文	二枚貝条痕	
78	3	46	礫2層	不明	0.75	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR5/1 内: 7.5YR6/1	φ ~ 3mmの砂粒を少量含む	多条沈線文	二枚貝条痕	
78	4	46	礫2層	不明	0.45	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR7/3 内: 2.5Y3/1	φ ~ 6mmの長石を多く含む	円形刺突文、隆帯	ナデ	月先下層 / 彦崎Z I 式相当
78	5	46	礫2層中央	深鉢	0.45	外: 黒褐色 内: 褐灰色	外: 7.5YR3/1 内: 7.5YR4/1	φ ~ 4mmの砂粒を少量含む	円形刺突文、隆帯	ナデ	月先下層 / 彦崎Z I 式相当
78	6	46	礫2層	深鉢カ	0.5	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR5/2 内: 7.5YR4/1	φ ~ 4mmの砂粒を多く含む	円形刺突文、隆帯	ナデ	月先下層 / 彦崎Z I 式相当
78	7	46	礫2層	深鉢	0.85	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR4/1 内: 7.5YR4/1	φ ~ 3mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕、刺突、沈線文	ナデ	敦賀(前期末)に類例AMS分析
78	8	46	礫2層	深鉢	0.6	外: 灰黄褐色 内: 明黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/6	φ ~ 3mmの長石を微量に含む	隆帯結節浮文	条痕	里木 I 式相当 含繊維
78	9	46	礫2層東側	不明	0.45	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/2	φ ~ 3mmの砂粒を多く含む	ナデ、隆帯	ナデ	早期末 ~ 前期始カ
78	10	46	礫2層東側	不明	0.4	外: 灰褐色 内: 褐灰色	外: 7.5YR4/2 内: 7.5YR4/2	φ ~ 2mmの白色砂子を微量に含む	隆帯、RL	ナデ	北白川下層 III 式相当カ
78	11	46	礫2層東	深鉢	0.9	外: 褐灰色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR6/4	φ ~ 3mmの長石を多く含む	RL	ナデ、RL 隆帯	船元 II 式相当カ
78	12	46	礫2層	深鉢	0.75	外: 黒褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR3/1 内: 10YR5/4	φ ~ 2mmの砂粒を少量含む	ナデ、RL 隆帯	ナデ、RL 隆帯	船元 II 式相当カ
78	13	46	礫2層東	深鉢カ	0.65	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/2	φ ~ 5mmの長石を多く含む	隆帯、縄文	ナデ	船元 II 式相当カ
78	14	46	砂礫層中央	深鉢	0.5	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄色	外: 10YR7/2 内: 2.5Y7/2	φ ~ 3mmの砂粒を多く含む	RL、隆帯	ナデ	波子式相当
78	15	46	礫2層	不明	0.65	外: にぶい黄褐色 内: 7 明黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR6/6	φ ~ 1mmの雲母・白色粒を中量含む	LR、隆帯	ナデ	波子式相当
78	16	46	礫2層	深鉢カ	0.85	外: 黄褐色 内: 灰黄色	外: 2.5Y5/3 内: 2.5Y6/2	φ ~ 2mmの砂粒を多量に含む	RL、隆帯	ナデ	波子式相当
78	17	46	礫2層東	不明	0.95	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/4 内: 10YR6/3	φ ~ 2mmの長石を少量含む	ナデ、隆帯、刺突文	ケズリのちナデ	波子式相当
78	18	46	礫2層北側溝	不明	0.7	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR5/2	φ ~ 2mmの白色砂子を少量含む	LR	ナデ、ケズリ	
78	19	46	礫2層南	不明	0.75	外: 黄褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y5/3 内: 2.5Y3/2	φ ~ 1mmの砂粒を微量に含む	ナデ	ナデ	黒川式相当
78	20	46	礫2層中央	不明	0.6	外: にぶい褐色 内: 灰褐色	外: 7.5YR5/3 内: 7.5YR6/2	φ ~ 4mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕、沈線	ケズリ	
78	21	46	礫2層東側	不明	0.75	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y3/1	φ ~ 1mmの砂粒を微量に含む	RL、沈線	ミガキ	
78	22	46	礫2層	不明	0.75	外: 灰黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y7/2 内: 2.5Y6/2	φ ~ 2mmの白色粒子を微量に含む	ナデ、沈線	二枚貝条痕	
78	23	46	礫2層	不明	1.0	外: 灰黄褐色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/1	φ ~ 4mmの砂粒を少量含む	沈線文	マメツ	
78	24	46	礫2層東	不明	0.7	外: 灰黄褐色 内: 暗灰黄色	外: 10YR6/1 内: 2.5Y5/2	φ ~ 2mmの砂粒を微量に含む	LR、沈線	マメツ	

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
78	25	46	礫2層	不明	0.6	外：にぶい黄褐色 内：灰黄色	外：10YR7/2 内：2.5Y7/2	φ～2mmの白色砂子を 少量含む	ナデ、沈線文	ケズリ	古屋敷遺跡に類例あり
78	26	46	礫2層	深鉢	0.85	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	1mm前後の砂粒を含む	ナデ	ナデ	前期カ
78	27	46	礫2層	深鉢	0.8	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR5/2	φ～3mmの長石を微量 に含む	RL	ケズリ	崎ヶ鼻式相当
78	28	46	礫2層	不明	0.45	外：灰黄褐色 内：黒褐色	外：10YR4/2 内：10YR3/1	φ～4mmの長石を多く 含む	無文	無文	後期カ
78	29	46	礫2層	深鉢	0.75	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ケズリ	ナデ	後期カ
78	30	46	礫2層	不明	0.8	外：褐灰色 内：灰黄色	外：10YR4/1 内：2.5Y6/2	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	無文	巻貝条痕カ	後期カ
79	1	46	礫2層 東	深鉢	0.7	外：黒褐色 内：灰褐色	外：7.5YR3/1 内：7.5YR4/2	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	ケズリ、突帯・ 口唇(刻目D字)	ケズリ	突帯文土器
79	2	46	礫2層	深鉢	0.6	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	二枚貝条痕、突 帯(刻目D字)	二枚貝条痕	突帯文土器
79	3	46	礫2層	深鉢	0.6	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/3 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	ケズリ様、突 帯(刻目D字)	ミガキ	突帯文土器
79	4	46	礫2層 上面	深鉢	0.6	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕、突 帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
79	5	46	礫2層	深鉢	0.8	外：褐灰色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/1 内：10YR6/3	φ～2mmの砂粒を多く 含む	ケズリ様、突 帯(刻目V字)	ケズリ様	突帯文土器
79	6	46	礫2層	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/3	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	二枚貝条痕、突 帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
79	7	46	礫2層	深鉢カ	0.65	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/3	φ～2mmの白色粒子を 少量含む	ナデ、突帯(刻 目V字)	ナデ	突帯文土器
79	8	46	礫2層	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	ケズリ様、突 帯(刻目V字)	ケズリ様	突帯文土器
79	9	46	礫2層	深鉢	0.75	外：暗灰黄色 内：灰黄褐色	外：2.5Y5/2 内：10YR6/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ナデ、突帯(刻 目V字)	ケズリのちナ デ	突帯文土器
79	10	46	礫2層	深鉢カ	0.65	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	ケズリ、突帯	巻貝条痕カ	突帯文土器 スス付着
79	11	46	礫2層	深鉢カ	0.75	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	突帯	横ナデ	突帯文土器
79	12	46	礫2層	深鉢カ	0.75	外：褐灰色 内：褐色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y6/6	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	ナデ、突帯	ケズリのちナ デカ	突帯文土器
79	13	46	礫2層 東	深鉢カ	0.65	外：にぶい黄褐色 内：明黄褐色	外：10YR5/4 内：10YR6/6	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	まめつ、突帯	まめつ	突帯文土器
79	14	46	礫2層	深鉢カ	0.8	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ケズリのち指 ナデ、突帯	ケズリのち指 ナデ	突帯文土器
79	15	46	礫2層	深鉢カ	0.75	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	ナデ、突帯	横ナデ	突帯文土器
79	16	46	礫2層	深鉢カ	0.6	外：褐灰色 内：褐灰色	外：7.5YR4/1 内：7.5YR4/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯	ナデ	突帯文土器 スス付着
79	17	46	礫2層	深鉢カ	0.6	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/3	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
79	18	46	礫2層	深鉢カ	0.65	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	巻貝条痕、突 帯	指ナデ	突帯文土器
79	19	46	礫2層	深鉢カ	0.7	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y5/2	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	突帯	横ナデ	突帯文土器
79	20	46	礫2層	深鉢カ	0.55	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR4/2 内：7.5YR4/2	φ～4mmの砂粒を少量 含む	ケズリ様、突 帯	ケズリ様	突帯文土器
79	21	46	礫2層	深鉢	0.7	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/3 内：10YR7/2	1mm前後の砂粒を含む	不明	不明	含繊維 晩期、丸底
79	22	46	礫2層	深鉢カ	0.6	外：黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y5/1	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	ケズリ、突帯	横ナデ	突帯文土器
79	23	46	礫2層	深鉢カ	0.7	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
80	1	47	礫2層	深鉢	0.7	外：灰褐色 内：灰黄褐色	外：7.5YR6/2 内：10YR5/2	φ～5mmの砂粒を少量 に含む	ミガキ	ケズリ、ミガ キ	
80	2	47	礫2層	浅鉢	0.65	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	ミガキ	ナデ	
80	3	47	礫2層	浅鉢	0.6	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR5/2 内：7.5YR6/1	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	ミガキ	ケズリ、ミガ キ	スス付着
81	1	50	砂層	鉢	0.5	外：黄褐色 内：黄褐色	外：2.5Y5/3 内：2.5Y4/1	1mm大の砂粒を多く含 む	ケズリ様、凹 線、沈線文	ケズリ様	後期末～晩期初
81	2	47	砂2層	浅鉢	0.55	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y5/2	φ～3mmの砂粒を少量 に含む	二枚貝条痕、 ミガキ	ミガキ	後期末～晩期初、 補修孔あり
81	3	47	砂層	深鉢	0.45	外：暗オリーブ褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/3 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ミガキ・ナデ、 突帯、沈線内 刺突	ミガキ・ケズ リ	後期末～晩期初
81	4	47	砂2層 西端	不明	0.55	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR5/1 内：10YR6/1	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	ナデ、沈線	ケズリ様	後期末～晩期初
81	5	47	砂2層 西端	深鉢カ	0.6	外：黒褐色 内：暗灰黄色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯・口唇(刻 目V字)	巻貝条痕	突帯文土器
81	6	47	砂礫2層	深鉢	0.6	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR6/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯・口唇(刻 目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
81	7	47	砂2層 西	深鉢カ	0.55	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯・口唇(刻 目V字)	巻貝条痕	突帯文土器
81	8	47	砂2層	深鉢	0.65	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ナデ、突帯(刻 目)	二枚貝条痕	突帯文土器
81	9	47	砂2層	深鉢カ	0.7	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR7/3	φ～3mmの砂粒を多く 含む	巻貝条痕、突 帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
81	10	47	砂2層	深鉢カ	0.65	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR6/1 内：10YR6/1	φ～3mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
81	11	47	砂2層	深鉢カ	0.6	外：灰褐色 内：灰褐色	外：5YR5/2 内：5YR6/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	ナデ、突帯(刻 目)	ケズリのちナ デ	突帯文土器
81	12	47	砂2層 西	深鉢カ	0.65	外：黄灰色 内：灰黄色	外：2.5Y6/1 内：2.5Y6/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	突帯(刻目V 字)	ミガキ・ケズ リ	突帯文土器 スス付着
81	13	47	砂2層	深鉢カ	0.6	外：暗灰黄色 内：浅黄色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y7/3	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ケズリのちナ デ、突帯	ナデ	突帯文土器

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
81	14	47	砂2層西	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ケズリ、突帯(刻目)	二枚貝条痕	突帯文土器
81	15	47	砂2層	深鉢カ	0.65	外：暗黄灰色 内：暗黄灰色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/2	φ～3mmの砂粒を多く含む	ケズリ、突帯(刻目)	ケズリ・ミガキ	突帯文土器
81	16	47	砂2層西	深鉢カ	0.8	外：暗黄灰色 内：にぶい黄褐色	外：2.5Y5/2 内：10YR6/3	φ～2.5mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、突帯(刻目)	ケズリのちナデ	突帯文土器
81	17	47	砂2層	深鉢カ	0.5	外：灰褐色 内：灰褐色	外：5YR5/2 内：5YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
81	18	47	砂2層	深鉢カ	0.7	外：灰色 内：灰色	外：5Y5/1 内：5Y5/1	φ～1mmの白色砂子を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
81	19	47	砂2層西南	深鉢カ	0.6	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	外：10YR7/2 内：10YR6/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
82	1	48	砂2層西端	深鉢	0.95	外：褐灰色 内：灰黄褐色	外：10YR5/1 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ケズリ、突帯(沈線)	ミガキ	突帯文土器
82	2	48	砂2層	深鉢	0.55	外：にぶい黄色 内：黄褐色	外：2.5Y6/3 内：2.5Y5/3	φ～2mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯(沈線)	ナデ	突帯文土器
82	3	48	砂1・2層	深鉢	0.55	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR6/1 内：10YR6/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯	巻貝条痕	突帯文土器 スス付着
82	4	48	砂2層	深鉢カ	0.65	外：暗黄灰色 内：にぶい黄色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y6/3	φ～3mmの砂粒を多く含む	ケズリ様、突帯	ケズリのちナデ	突帯文土器
82	5	48	砂2層	深鉢	0.6	外：灰黄色 内：黄灰色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y5/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	ケズリ、突帯	ケズリ	突帯文土器
82	6	48	砂2層西端	深鉢	0.55	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR6/2 内：7.5YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯、沈線	ナデ	突帯文土器
82	7	48	砂2層西南	深鉢	0.85	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～1mmの砂粒を微量に含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
82	8	48	砂2層西端	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	ケズリ、突帯	ナデ	突帯文土器
82	9	48	砂2層西南	深鉢	0.55	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR5/1 内：10YR5/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	ミガキ様、突帯	ナデ	突帯文土器
82	10	48	砂2層西南	深鉢	0.65	外：褐灰色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR6/1 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	ケズリ、突帯	ナデ	突帯文土器
82	11	48	砂2層西端	深鉢	0.85	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
82	12	48	砂2層	深鉢	0.7	外：明褐灰色 内：灰褐色	外：7.5YR7/2 内：7.5YR6/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	ナデ、突帯	ケズリのちナデ	突帯文土器
82	13	48	砂2層	-	0.85	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR3/1 内：10YR7/2	1mm前後の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	平底
82	14	48	砂2層	深鉢	0.75	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/4 内：10YR5/2	1mm前後の白色砂粒を含む	-	-	含繊維、丸底
82	15	48	砂2層西端	浅鉢	0.55	外：にぶい黄褐色 内：褐灰色	外：10YR7/2 内：6/1	φ～3mmの砂粒を多く含む	ミガキ	ナデ	晩期
82	16	48	砂2層	浅鉢	0.5	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR5/2 内：7.5YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	ナデ	ナデ	晩期
82	17	48	砂2層	浅鉢	0.65	外：暗黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	ナデ	ミガキ	晩期
82	18	48	砂2層	浅鉢	0.65	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR6/2 内：7.5YR5/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	ナデ、口唇刻目	ナデ	晩期
82	19	48	砂2層	舟形土器	0.55	外：黄褐色 内：黒褐色	外：2.5Y5/3 内：2.5Y3/1	やや粗	-	ミガキ	
82	20	50	砂2層	浅鉢	0.6	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR4/2	2mm大の砂粒を含む	ナデ、突起×2	ミガキ	穿孔×2、 補修孔×6
83	1	48	砂1層	不明	0.55	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR4/2 内：10YR4/1	緻密	ナデ、刺突文	ナデ	早期カ
83	2	48	砂1層	浅鉢	0.45	外：褐灰色 内：褐灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5YR5/1	φ～1mmの砂粒を微量に含む	ナデ	ナデ	晩期カ
83	3	48	砂1層	深鉢	0.6	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ケズリのちミガキ	ミガキ	黒川式相当 スス付着
83	4	48	砂1層	深鉢カ	0.55	外：灰黄色 内：黒褐色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y3/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	後期カ
83	5	48	砂1層	深鉢	0.75	外：褐灰色 内：褐灰色	外：7.5YR6/1 内：5YR6/1	φ～3mmの砂粒を多く含む	巻貝条痕、口唇刻目	ナデ	前池式相当
83	6	48	砂1層	深鉢	0.65	外：明褐灰色 内：褐灰色	外：7.5YR7/1 内：7.5YR5/1	φ～3mmの砂粒を多く含む	二枚貝条痕	ケズリのちナデ	後～晩期
83	7	48	砂1層	深鉢	0.65	外：明褐灰色 内：明褐灰色	外：7.5YR7/1 内：7.5YR7/2	φ～5mmの砂粒を多く含む	二枚貝条痕、口唇刻目	二枚貝条痕	前池式相当
83	8	48	砂1層	不明	0.85	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR4/3 内：10YR4/3	1～3mmの砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	後期カ、平底
83	9	48	砂1層	深鉢	0.65	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、突帯・口唇刻目	ナデ	突帯文土器
83	10	48	砂1層	深鉢	0.55	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/3 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を多く含む	ケズリ、突帯・刻目	ケズリのちナデ	突帯文土器
83	11	48	砂1層	深鉢	0.6	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR4/2 内：10YR5/2	φ～2mmの砂粒を微量に含む	不明、突帯・刻目	二枚貝条痕	突帯文土器
83	12	49	砂1層	深鉢カ	0.6	外：暗黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y5/1	φ～3mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
83	13	49	砂1層	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目)	巻貝条痕	突帯文土器
83	14	49	砂1層	深鉢	0.7	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/1	φ～4mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、突帯(刻目)	ナデ	突帯文土器
83	15	49	砂1層	深鉢	0.75	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR6/3	φ～3mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯(刻目)	ナデ	突帯文土器
83	16	49	砂1層	深鉢	0.45	外：にぶい褐色 内：灰白色	外：5YR7/4 内：7.5YR8/1	φ～4mmの砂粒を多く含む	二枚貝条痕、突帯(刻目)	マメツ	突帯文土器
83	17	49	砂1層	深鉢カ	0.55	外：灰黄色 内：黄灰色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/1	φ～2mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
83	18	49	砂1層	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
83	19	49	砂1層	深鉢	0.7	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯	ミガキ	突帯文土器
83	20	49	砂1層	深鉢カ	0.7	外：褐灰色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/1 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯	巻貝条痕	突帯文土器
83	21	49	砂1層	深鉢	0.65	外：明褐灰色 内：褐灰色	外：5YR7/1 内：7.5YR6/1	φ～2mmの砂粒を微量に含む	巻貝条痕、突帯	巻貝条痕	突帯文土器
83	22	49	砂1層	深鉢	0.6	外：灰褐色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR6/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を多く含む	ナデ、突帯	マメツ	突帯文土器

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調	胎土	外	内	備考	
83	23	49	砂1層	深鉢	0.5	外: 灰黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y7/2 内: 2.5Y7/2	φ〜3mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、突帯	ケズリ様	突帯文土器
83	24	49	砂1層	深鉢	0.7	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR5/2	φ〜4mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯	巻貝条痕	突帯文土器
83	25	49	砂1層	深鉢	0.65	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR4/1 内: 7.5YR4/1	φ〜3mmの砂粒を多く含む	突帯カ	ケズリ様	スス付着
84	1	49	礫1層	深鉢	0.8	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 7.5YR4/1 内: 10YR5/2	1〜3mmの白色砂粒を含む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	含繊維 早期
84	2	49	礫2層 東	深鉢	0.7	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 7.5YR3/1 内: 10YR3/3	1mm前後の白色砂粒を含む	条痕	条痕	含繊維 早期
84	3	49	礫1層	深鉢	1.5	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/1	1mm前後の白色砂粒を多く含む	LR	マメツ	含繊維 早期
84	4	49	礫1層	深鉢	0.6	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/2 内: 2.5Y3/2	φ〜4mmの砂粒を多く含む	LR、隆帯	不明	含繊維、長山馬籠式相当
84	5	49	礫1層	深鉢	0.45	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR4/1 内: 7.5YR4/1	φ〜4mmの砂粒を多く含む	RL、隆帯	ナデ	彦崎ZⅡ式相当
84	6	49	礫1層	深鉢	0.65	外: 灰褐色 内: 灰褐色	外: 5YR6/2 内: 5YR6/2	φ〜3mmの砂粒を少量含む	ケズリのちミガキ	ミガキ	後期後葉カ
84	7	49	礫1層	深鉢	0.7	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR5/1	φ〜2mmの砂粒を少量含む	凹線文	ナデ	スス付着 宮式相当カ
84	8	49	礫1層	不明	0.65	外: にぶい黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR3/1	φ〜1mmの砂粒を微量を含む	ナデ、沈線、 擦りけし縄文	横ナデ	後期中葉カ
84	9	49	礫1層	不明	0.9	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR5/3	φ〜3mmの砂粒を少量含む	沈線文	ナデ	後期カ
84	10	49	礫1層	深鉢	0.85	外: 灰褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y4/1 内: 2.5Y3/1	φ〜2mmの砂粒を微量を含む	ナデ	ナデ	船元式相当カ
84	11	49	礫1層	深鉢	0.7	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 7.5YR5/1 内: 7.5YR5/1	φ〜4mmの砂粒を少量含む	ナデ、口唇刻目	条痕	前池式相当カ
84	12	49	礫1層	深鉢	0.5	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR5/2	φ〜3mmの砂粒を少量含む	ナデ、口唇刻目	ナデ	前池式相当カ
84	13	49	礫1層	深鉢	0.6	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR6/2	φ〜4mmの白色粒子少量含む	巻貝条痕、刺突文	ナデ	前池式相当カ
84	14	49	礫1層 西側	不明	0.45	外: 黄褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y5/3 内: 2.5Y3/2	φ〜1mmの砂粒を微量を含む	ナデ、刺突文	ナデ	前池式相当カ
84	15	49	礫1層	深鉢	0.5	外: にぶい黄褐色 内: 明褐色	外: 10YR7/2 内: 7.5YR7/1	φ〜3mmの砂粒を少量含む	ナデ、口唇刻目	ナデ	前池式相当カ
84	16	49	礫1層	深鉢	0.7	外: 灰黄色 内: 黄褐色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/1	φ〜4mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、口唇刻目	ナデ	前池式相当カ
84	17	49	礫1層	浅鉢	0.55	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/2 内: 10YR5/2	φ〜2mmの砂粒を微量を含む	ケズリのちミガキ	ケズリのちミガキ	黒川式相当カ
84	18	49	礫1層	深鉢	0.6	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR6/3	φ〜3mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、波状突帯	ケズリのちミガキ	前池式相当カ
84	19	49	礫1層 中央	深鉢	0.55	外: 明褐色 内: 明褐色	外: 7.5YR7/2 内: 7.5YR7/2	φ〜5mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、波状突帯	ミガキ	前池式相当カ
85	1	50	礫1層	深鉢	0.6	外: 明褐色 内: 明褐色	外: 7.5YR7/2 内: 7.5YR7/2	φ〜4mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	2	50	礫1層	深鉢	0.7	外: 灰白色 内: 灰白色	外: 10YR8/2 内: 10YR8/1	φ〜6mmの砂粒を多く含む	まめつ、突帯(刻目V字)	マメツ	突帯文土器
85	3	50	礫1層	深鉢	0.9	外: 灰白色 内: 明褐色	外: 10YR8/2 内: 7.5YR7/2	φ〜2.5mmの砂粒を多く含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	4	50	礫1層	深鉢	0.65	外: にぶい橙色 内: 明褐色	外: 7.5YR7/4 内: 7.5YR7/2	φ〜4mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	5	50	礫1層	深鉢	0.75	外: 明褐色 内: にぶい橙色	外: 7.5YR7/2 内: 7.5YR7/4	φ〜1mmの砂粒を微量を含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	6	50	礫1層	深鉢	0.65	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄色	外: 10YR7/2 内: 2.5Y7/2	φ〜2mmの砂粒を少量含む	条痕、突帯(刻目V字)	条痕	突帯文土器
85	7	50	礫1層	深鉢	0.6	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄色	外: 10YR7/2 内: 2.5Y7/2	φ〜2mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯(刻目V字)	ナデ	突帯文土器
85	8	50	礫1層	深鉢	0.6	外: 灰白色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR8/2 内: 10YR7/3	φ〜3mmの砂粒を微量を含む	まめつ、突帯(刻目V字)	ミガキ	突帯文土器
85	9	50	礫1層	深鉢	0.65	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/2	φ〜3mmの砂粒を少量含む	条痕、突帯(刻目D字)	条痕	突帯文土器
85	10	50	礫1層	深鉢	0.65	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/2	φ〜2mmの砂粒を多く含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	ナデ	突帯文土器
85	11	50	礫1層	深鉢カ	0.6	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR7/3	φ〜2mmの砂粒を少量含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	12	50	礫1層	深鉢	0.8	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/2	φ〜7mmの砂粒を少量含む	条痕、突帯(刻目V字)	条痕	突帯文土器
85	13	50	礫1層	深鉢	0.75	外: 灰黄色 内: 灰黄褐色	外: 2.5Y6/2 内: 10YR6/2	φ〜2mmの砂粒を微量を含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	14	50	礫1層	深鉢カ	0.7	外: 灰黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/2	φ〜2mmの砂粒を少量含む	突帯(刻目V字)	マメツ	突帯文土器
85	15	50	礫1層	深鉢	0.7	外: にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR7/2 内: 10YR6/2	φ〜2mmの砂粒を微量を含む	ケズリ様、突帯(刻目V字)	巻貝条痕	突帯文土器
85	16	50	礫1層	深鉢	0.75	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR7/3 内: 10YR7/3	φ〜2mmの砂粒を少量含む	ナデ、突帯(刻目V字)	ナデ	突帯文土器
85	17	50	礫1層	深鉢	0.55	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 7.5YR6/1 内: 10YR6/2	φ〜3mmの砂粒を微量を含む	二枚貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	18	50	礫1層	深鉢	0.85	外: 灰黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y7/2 内: 2.5Y6/2	φ〜2mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目V字)	二枚貝条痕	突帯文土器
85	19	50	礫1層	深鉢	0.65	外: 黒褐色 内: 黄褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/1	φ〜2mmの砂粒を微量を含む	条痕、突帯(刻目V字)	ナデ	突帯文土器
85	20	50	礫1層 中央	深鉢	0.8	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR7/2	φ〜2mmの砂粒を少量含む	条痕、突帯(刻目D字)	条痕	突帯文土器
85	21	50	礫1層	深鉢カ	0.65	外: 暗灰黄色 内: にぶい黄色	外: 2.5Y5/2 内: 2.5Y6/3	φ〜3mmの砂粒を少量含む	ケズリ様、突帯(刻目V字)	ケズリ様	突帯文土器
85	22	50	礫1層	深鉢	0.5	外: にぶい褐色 内: 灰褐色	外: 7.5YR6/3 内: 7.5YR6/2	φ〜5mmの砂粒を少量含む	巻貝条痕、突帯(刻目D字)	巻貝条痕	突帯文土器
85	23	50	礫1層	深鉢	0.75	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/2	φ〜0.5mmの黒雲母を微量を含む	ナデ、突帯(刻目V字)	ナデ	突帯文土器

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
85	24	50	礫1層	深鉢カ	0.55	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/2	φ～4mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯(刻目D 字)	ケズリ様	突帯文土器
85	25	50	礫1層	深鉢カ	0.6	外：にぶい黄橙色 内：灰黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR6/2	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	突帯(刻目V 字)	ケズリ様	突帯文土器
86	1	50	礫1層	深鉢	0.8	外：にぶい黄橙色 内：灰黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	二枚貝条痕、 突帯(刻目V 字)	ケズリのちナ デ	突帯文土器
86	2	50	礫1層	深鉢	0.75	外：灰黄褐色 内：にぶい黄橙色	外：10YR6/2 内：10YR7/2	φ～5mmの砂粒を少量 含む	ケズリ、突帯 (刻目V字)	条痕のちナデ	突帯文土器
86	3	50	礫1層	深鉢	0.7	外：褐灰色 内：にぶい橙色	外：7.5YR5/1 内：7.5YR7/3	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯(刻目V 字)	二枚貝条痕	突帯文土器
86	4	50	礫1層	深鉢	0.7	外：明褐灰色 内：明褐灰色	外：7.5YR7/2 内：7.5YR7/1	φ～2mmの砂粒を多く 含む	ケズリ様、突 帯(刻目V字)	ケズリのちナ デ	突帯文土器
86	5	50	礫1層	深鉢カ	0.75	外：にぶい黄褐色 内：明褐灰色	外：10YR7/2 内：7.5YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
86	6	50	礫1層	深鉢	0.7	外：褐灰色 内：褐灰色	外：2.5Y6/1 内：2.5Y6/1	φ～2mmの砂粒を多く 含む	マメツ、突帯	ケズリのちナ デ	突帯文土器
86	7	50	礫1層	深鉢	0.6	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/3	φ～2mmの砂粒を少量、 φ～1mmの雲母を含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕の ちナデ	突帯文土器
86	8	50	礫1層	深鉢カ	0.55	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR4/1 内：10YR4/1	φ～1mmの白色粒子を 微量に含む	マメツ、突帯	マメツ	突帯文土器
86	9	50	礫1層	深鉢	0.65	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR6/3	φ～2.5mmの砂粒を少 量含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
86	10	50	礫1層	深鉢カ	0.65	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
86	11	50	礫1層	深鉢	0.85	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/3	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	条痕、突帯	巻貝条痕	突帯文土器
86	12	50	礫1層	深鉢カ	0.55	外：灰黄色 内：にぶい黄褐色	外：2.5Y7/2 内：10YR7/2	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
86	13	50	礫1層	深鉢カ	0.65	外：黄灰色 内：灰黄色	外：2.5Y5/1 内：2.5Y6/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
86	14	50	礫1層	深鉢	0.85	外：褐灰色 内：褐灰色	外：10YR5/1 内：10YR6/1	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器 スス付 着
86	15	50	礫1層	深鉢カ	0.7	外：黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y6/1 内：2.5Y6/1	φ～3mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯	巻貝条痕	突帯文土器
86	16	50	礫1層	深鉢カ	0.5	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR6/2	φ～2.5mmの砂粒を少 量含む	ケズリ様、突 帯	ケズリ様	突帯文土器
86	17	50	礫1層	深鉢	0.6	外：褐灰 内：褐灰色	外：10YR6/1 内：10YR6/1	φ～3mmの白色粒子を 少量含む	横ナデ、突帯	横ナデ	突帯文土器
86	18	50	礫1層	深鉢	0.85	外：にぶい橙色 内：橙色	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/6	φ～3mmの砂粒を少量 含む	横ナデ、突帯	横ナデ	突帯文土器
86	19	50	礫1層	深鉢	0.75	外：灰白色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR6/4	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	ケズリ様、突 帯	ナデ	突帯文土器
86	20	50	礫1層	深鉢	0.65	外：黄灰色 内：黄灰色	外：2.5Y4/1 内：2.5Y6/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	突帯	ナデ	突帯文土器
86	21	50	礫1層	深鉢	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ケズリ様、突 帯	ケズリのちナ デ	突帯文土器
86	22	50	礫1層	深鉢	0.65	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR6/2 内：2.5Y7/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	突帯	ケズリ様	突帯文土器
86	23	50	礫1層	深鉢カ	0.7	外：灰黄色 内：にぶい黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/3	φ～2mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯	ケズリのちナ デ	突帯文土器
86	24	50	礫1層	深鉢カ	0.75	外：灰黄色 内：浅黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y7/3	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ケズリ様、突 帯	ケズリ様	突帯文土器
86	25	50	礫1層	深鉢	0.65	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
86	26	50	礫1層	深鉢カ	0.55	外：褐灰色 内：褐灰色	外：7.5YR6/1 内：7.5YR5/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ナデ、突帯	ナデ	突帯文土器
87	1	51	礫1層	深鉢	0.7	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR6/2 内：7.5YR6/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	巻貝条痕、突 帯	巻貝条痕	突帯文土器 樹脂サ ンプル
87	2	51	礫1層	深鉢	0.7	外：黄褐色 内：明黄褐色	外：10YR8/8 内：10YR6/6	1～3mmの砂粒を多く 含む	ケズリ様	ケズリ様	平底
87	3	51	礫1層	深鉢カ	0.75	外：灰黄褐色 内：灰白色	外：10YR6/2 内：10YR7/1	微砂粒を含む	ナデ	ケズリのちナ デ	平丸底
87	4	51	礫1層	深鉢カ	0.85	外：灰黄褐色 内：褐灰色	外：10YR5/2 内：10YR4/1	1mm以下の白色砂粒を 含む	ケズリ様	条痕	平丸底
87	5	51	礫1層	深鉢カ	0.9	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/3 内：10YR5/3	1mm前後の砂粒を多く 含む	ナデ	指頭圧痕	丸底 含繊維
87	6	51	礫1層	浅鉢	0.65	外：灰黄色 内：灰黄色	外：2.5Y6/2 内：2.5Y7/2	φ～2mmの白色粒子を 微量に含む	ナデ、沈線	ケズリ様のち ナデ	二重圏線文
87	7	51	礫1層	浅鉢	0.6	外：暗灰黄色 内：黄灰色	外：2.5Y4/2 内：2.5Y4/1	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	ナデ、沈線	ミガキ	二重圏線文
87	8	51	礫1層	浅鉢	0.75	外：赤灰色 内：黄灰色	外：2.5YR4/1 内：2.5Y6/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ナデ、沈線	ナデ・ケズリ	二重圏線文
88	1	52	砂礫層	深鉢	0.7	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR6/2 内：7.5YR5/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕	ミガキ	
88	2	52	砂礫層	深鉢カ	0.6	外：明褐灰色 内：明褐灰色	外：7.5YR7/2 内：7.5YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ケズリ様	ケズリのちナ デ	
88	3	47	砂礫層	鉢	0.65	外：灰褐色 内：褐灰色	外：7.5YR5/2 内：5YR5/1	2mm以上の砂粒を多く含 む	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
88	4	52	砂礫層	深鉢カ	0.45	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/2	φ～4mmの砂粒を多く 含む	刻目、隆帯、 円形刺突文	ナデ	月崎下層式 / 彦崎 Z I 式相当
88	5	52	砂礫層	深鉢	0.45	外：にぶい黄色 内：にぶい黄色	外：2.5Y6/4 内：2.5Y6/4	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ケズリのちナ デ、沈線文	ナデ	沖丈式相当
88	6	52	砂礫層	浅鉢	0.85	外：灰褐色 内：にぶい黄褐色	外：7.5YR4/2 内：10YR7/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ナデ、沈線、 RL	ナデ	沖丈式相当
88	7	52	砂礫層	深鉢	0.65	外：灰白色 内：灰白色	外：10YR8/2 内：10YR8/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	二枚貝条痕、 突帯(刻目V 字)	二枚貝条痕	突帯文土器
88	8	52	砂礫層	深鉢	0.65	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯(刻目V 字)	二枚貝条痕	突帯文土器
88	9	52	砂礫層	深鉢	0.6	外：明褐灰色 内：明褐灰色	外：7.5YR7/1 内：7.5YR7/1	φ～5mmの砂粒を微量 に含む	ケズリ様、突 帯(刻目V字)	ケズリ様	突帯文土器
88	10	52	砂礫層	深鉢カ	0.75	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR6/2	φ～4mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯(刻目V字)	ナデ	突帯文土器

挿図	番号	写真	層位	器種	平均厚さ (cm)	色調		胎土	外	内	備考
						外	内				
88	11	52	砂礫層	深鉢	0.7	外：灰褐色 内：にぶい褐色	外：7.5YR6/2 内：17.5YR6/3	φ～4mmの砂粒を少量 含む	二枚貝条痕、 突帯（刻目V字）	二枚貝条痕	突帯文土器
88	12	52	砂礫層	深鉢	0.5	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ケズリ様、突 帯（刻目V字）	ケズリ様	突帯文土器
88	13	52	砂礫層	深鉢	0.6	外：明褐色 内：にぶい褐色	外：5YR7/2 内：5YR7/3	φ～3mmの砂粒を多く 含む	巻貝条痕、突 帯（刻目V字）	ケズリ	突帯文土器
88	14	52	砂礫層	深鉢カ	0.6	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR6/2 内：10YR7/3	φ～3mmの砂粒を少量 含む	ケズリのちナ デ、突帯	ケズリのちナ デ	突帯文土器
88	15	52	砂礫層	深鉢カ	0.75	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR6/4	φ～1mmの砂粒を少量、 φ～3mmの雲母を微量 に含む	二枚貝条痕、 突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
88	16	52	砂礫層 中央北	深鉢	0.45	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR6/3	φ～2mmの砂粒を少量 含む	ミガキカ、突 帯	ミガキ	突帯文土器
88	17	52	砂礫層	深鉢カ	0.45	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	外：10YR7/2 内：10YR7/2	φ～3mmの砂粒を多く 含む	ナデ、突帯	二枚貝条痕	突帯文土器
88	18	52	砂礫層	深鉢カ	0.65	外：暗灰黄色 内：黄灰色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/1	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	巻貝条痕、突 帯（刻目）	ナデ	胴部突帯カ
88	19	52	砂礫層	浅鉢カ	0.45	外：灰白色 内：にぶい黄褐色	外：10YR8/2 内：10YR7/4	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	ナデ、沈線文	ナデ	
89	1	52	砂礫層	深鉢カ	0.8	外：褐色 内：黄褐色	外：10YR4/4 内：10YR5/6	あまり砂粒は見られな い、	RL	RL	含繊維 早・前期 胴部～底部
89	2	52	砂礫層	深鉢カ	1.2	外：黄褐色 内：黄褐色	外：2.5Y5/3 内：2.5Y5/3	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	LR	ナデ、	菱根式相当、平底
89	3	52	砂礫層	深鉢カ	0.6	外：黒色 内：黄灰色	外：2.5Y2/ 内：2.5Y4/1	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	刻目、円形刺 突文、隆帯 ナデ、4条沈線、 LR	ナデ	月崎下層式 / 彦崎 Z I 式相当
89	4	52	砂礫層	浅鉢	0.8	外：灰黄褐色 内：灰白色	外：10YR6/2 内：10YR7/1	φ～2mmの砂粒を少量 含む		ナデ	擦り消し縄文
89	5	52	砂礫層	深鉢カ	0.65	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～3mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯（刻目V字）	巻貝条痕	突帯文土器
89	6	52	砂礫層	深鉢カ	0.7	外：暗灰黄色 内：暗灰黄色	外：2.5Y5/2 内：2.5Y5/2	φ～2mmの砂粒を少量 含む	巻貝条痕、突 帯	二枚貝条痕	突帯文土器
89	7	52	砂礫層	深鉢カ	0.55	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外：10YR5/2 内：10YR5/2	φ～1mmの砂粒を微量 に含む	ナデ、突帯	ケズリのちナ デ	突帯文土器
89	8	52	砂礫層	深鉢	0.6	外：褐色 内：褐色	外：7.5YR4/1 内：7.5YR6/1	φ～4mmの砂粒を少量 含む	ミガキカ、突 帯	ミガキ	突帯文土器
89	9	52	砂礫層	深鉢	0.6	外：黒褐色 内：黒褐色	外：2.5Y3/1 内：2.5Y3/1	φ～3mmの砂粒を微量 に含む	ミガキカ、沈 線文	ミガキカ	スス付着
89	10	52	暗灰褐色 粘質土層	深鉢	0.55	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	外：5YR6/3 内：5YR6/3	φ～2mmの砂粒を微量 に含む	巻貝条痕、突 帯（刻目）	ケズリのちナ デ	突帯文土器

B区 石器

図	番号	写真	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
90	1	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.9	2.0	0.4	1.4	逆V字
90	2	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.4	0.7	逆V字
90	3	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.2	0.3	逆V字
90	4	52	礫2層	石鏃	黒曜石	(1.4)	1.5	0.4	0.6	逆V字
90	5	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.4	1.5	0.3	0.7	逆V字
90	6	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	1.6	0.4	0.7	逆V字
90	7	52	礫2層	石鏃	黒曜石	3.1	(2.2)	0.6	2.4	逆V字
90	8	52	礫2層	石鏃	黒曜石	(1.65)	1.5	0.3	0.6	逆V字
90	9	52	礫2層	石鏃	黒曜石	(1.9)	1.3	0.3	0.5	逆V字
90	10	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.5	2.2	0.4	1.2	逆V字
90	11	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.1	1.9	0.4	0.9	逆V字
90	12	52	礫2層	石鏃	黒曜石	(2.2)	2.1	0.4	1.3	逆V字
90	13	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.6	2.0	0.3	0.6	逆V字
90	14	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	(1.15)	0.3	0.4	逆V字
90	15	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.3	1.7	0.3	0.8	逆V字
90	16	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.3	(1.3)	0.4	0.7	逆V字
90	17	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.1	(1.3)	0.4	0.6	逆V字
90	18	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.9	1.5	0.3	0.3	逆V字
90	19	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	1.4	0.4	0.3	逆V字
90	20	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	2.1	0.5	1.3	逆V字
90	21	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.4	2.2	0.4	1.6	逆V字
90	22	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.1	1.8	0.5	1.1	逆V字
90	23	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.8	2.1	0.4	0.9	逆V字
90	24	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.1	(1.6)	0.3	0.7	逆V字
90	25	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.9	(1.85)	0.3	0.6	逆V字
90	26	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	(1.25)	0.3	0.3	逆V字
90	27	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.4	逆V字
90	28	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.4	逆V字
90	29	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	(1.2)	0.3	0.4	逆V字
90	30	52	礫2層	石鏃	黒曜石	1.8	1.8	0.4	0.6	逆V字
90	31	52	礫2層	石鏃	安山岩	1.3	1.3	0.4	0.4	逆V字
90	32	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.4	2.0	0.4	1.0	逆V字 (端部平坦)
90	33	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	1.8	0.3	0.6	逆V字 (端部平坦)
90	34	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.4	2.1	0.6	1.6	逆V字 (端部平坦)
90	35	52	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	2.0	0.4	1.1	逆V字 (端部平坦)
90	36	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.7	2.4	0.4	2.0	逆V字 (端部平坦)
90	37	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.4	2.1	0.4	1.1	逆V字 (端部平坦)
90	38	53	礫2層	石鏃	黒曜石	(1.95)	(1.65)	0.3	1.0	逆V字 (端部平坦)
90	39	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.1	(1.4)	0.4	0.9	逆V字 (端部平坦)
90	40	53	礫2層	石鏃	安山岩	1.9	1.6	0.4	0.6	逆V字 (端部平坦)

図	番号	写真	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
90	41	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.8	1.4	0.4	0.5	逆V字(端部平坦)
90	42	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	1.4	0.2	0.4	逆V字(端部平坦)
90	43	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.4	1.4	0.3	0.4	逆V字(端部平坦)
90	44	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.4	1.4	0.3	0.4	逆V字(端部平坦)
90	45	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	1.6	0.5	1.0	逆V字(端部平坦)
90	46	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.5	1.8	0.5	1.4	逆V字(端部平坦)
90	47	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.0	1.5	0.5	0.7	逆V字(端部平坦)
90	48	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	(1.3)	0.3	0.5	逆V字(端部平坦)
91	1	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.7	1.8	0.5	1.9	平基
91	2	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.5	1.9	0.5	1.5	平基
91	3	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.3	1.5	0.2	0.6	平基
91	4	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.6	1.6	0.5	1.1	平基
91	5	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.8	1.8	0.5	1.6	平基
91	6	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.3	1.7	0.5	1.6	平基
91	7	53	礫2層	石鏃	黒曜石	3.1	2.5	1.0	6.8	平基
91	8	53	礫2層	石鏃	黒曜石	3.0	(2.4)	0.7	4.4	平基
91	9	53	礫2層	石鏃	黒曜石	3.2	2.3	0.5	2.9	平基
91	10	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.8	1.4	0.4	0.8	平基
91	11	53	礫2層	石鏃	黒曜石	1.7	1.4	0.5	1.0	平基
91	12	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	1.7	0.5	1.4	平基
91	13	53	礫2層	石鏃	安山岩	2.4	1.9	0.4	1.5	平基
91	14	53	礫2層	石鏃	黒曜石	3.4	2.2	0.9	6.2	平基
91	15	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.0	2.8	0.5	3.1	平基
91	16	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.2	1.8	0.3	0.9	剥片
91	17	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.8	1.7	0.3	1.0	剥片
91	18	53	礫2層	石鏃	珩質岩	4.0	2.8	0.6	5.5	剥片
91	19	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.6	(1.7)	0.7	2.2	突起
91	20	53	礫2層	石鏃	黒曜石	2.8	2.6	0.5	2.5	突起
91	21	53	礫2層	石鏃	安山岩	1.5	1.5	0.3	0.2	逆V字
91	22	53	礫2層	石鏃	安山岩	1.7	1.3	0.3	0.3	逆V字
91	23	53	礫2層	石鏃	安山岩	(1.45)	1.5	0.3	0.6	逆V字
91	24	53	礫2層	石鏃	安山岩	2.0	(1.3)	0.4	0.6	逆V字
91	25	53	礫2層	石鏃	安山岩	2.4	(1.3)	0.4	1.0	逆V字
91	26	53	礫2層	石鏃	安山岩	2.9	1.5	0.6	1.3	逆V字
91	27	53	礫2層	石鏃	安山岩	2.3	1.5	0.4	1.8	平基
92	1	54	礫2層	石核	黒曜石	4.4	5.1	1.7	39.4	
92	2	54	礫2層	石核	黒曜石	5.4	5.0	1.8	46.3	
92	3	54	礫2層	石核	黒曜石	(7.6)	3.9	2.7	59.8	
92	4	54	礫2層	石核	黒曜石	3.7	7.1	2.7	56.1	
92	5	54	礫2層	石核	黒曜石	3.7	5.6	2.0	35.0	
92	6	54	礫2層	石核	黒曜石	5.8	4.0	1.8	32.4	
92	7	54	礫層	石核	黒曜石	10.4	6.4	4.2	281.0	
92	8	54	礫2層	石核	黒曜石	2.6	7.6	1.5	17.8	
92	9	54	礫2層	石核	黒曜石	6.1	(11.2)	3.3	166.9	
92	10	54	砂2層	石核	黒曜石	4.4	5.5	1.5	29.2	
92	11	54	礫2層	石核	珩質岩	6.7	6.3	3.4	156.9	
92	12	54	礫2層	石核	珩質岩	8.3	9.4	5.8	437.7	
93	1	54	礫2層	石匙	黒曜石	3.9	5.1	0.7	8.6	
93	2	54	礫2層	石匙	黒曜石	2.7	4.4	0.4	3.7	
93	3	54	礫2層	石匙未成品	黒曜石	5.1	(4.8)	1.0	16.9	
93	4	54	礫2層	石匙未成品	黒曜石	4.6	(6.4)	1.2	20.9	
93	5	54	礫2層	石匙	サヌカイト	(4.0)	(5.5)	1.0	21.2	
93	6	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	4.0	4.4	1.2	20.2	
93	7	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	2.6	2.4	8.0	4.8	
93	8	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	2.8	3.7	1.6	15.7	
93	9	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	3.1	2.1	0.7	4.5	
93	10	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	3.4	1.9	1.1	5.6	
93	11	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	2.4	2.3	1.1	5.7	
93	12	54	礫2層	楔形石器	サヌカイト	3.4	1.1	0.8	3.8	
93	13	54	礫2層	楔形石器	黒曜石	3.1	2.0	1.3	7.4	
93	14	54	礫2層	スクレーパー	黒曜石	4.1	1.8	0.9	5.7	
93	15	54	礫2層	スクレーパー	黒曜石	(4.6)	3.5	1.2	16.4	
93	16	54	礫2層	スクレーパー	黒曜石	5.3	2.7	0.8	13.4	
93	17	54	礫2層	スクレーパー	黒曜石	5.5	3.3	1.2	21.0	
93	18	54	礫2層	スクレーパー	サヌカイト	4.6	3.5	0.7	11.3	
93	19	54	礫2層	スクレーパー	安山岩	5.4	3.4	0.7	12.2	
93	20	54	礫2層	スクレーパー	黒曜石	4.7	2.3	1.0	9.0	
93	21	54	礫1層	スクレーパー	珩質岩	7.1	5.9	1.6	58.7	
93	22	54	礫2層	エンドスクレーパー	黒曜石	6.0	8.3	1.5	63.4	
93	23	54	礫2層	エンドスクレーパー	黒曜石	3.0	4.9	1.2	13.0	
93	24	54	礫2層	エンドスクレーパー	黒曜石	3.2	4.8	1.1	19.0	
93	25	54	礫1層	エンドスクレーパー	黒曜石	3.7	7.0	0.8	25.0	
93	26	54	礫2層	エンドスクレーパー	黒曜石	3.4	4.7	1.0	14.0	
94	1	55	礫2層	周縁加工石器	黒曜石	2.0	1.5	0.5	1.3	

図	番号	写真	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
94	2	55	礫2層	周縁加工石器	黒曜石	2.2	1.8	0.5	2.3	
94	3	55	礫2層	周縁加工石器	黒曜石	3.8	3.8	1.1	17.8	
94	4	55	礫2層	周縁加工石器	黒曜石	3.7	3.7	1.1	14.8	
94	5	55	礫2層	周縁加工石器	黒曜石	3.0	3.1	0.9	7.5	
94	6	55	礫2層	周縁加工石器	黒曜石	3.0	3.1	0.9	8.3	
94	7	55	礫1層	周縁加工石器	黒曜石	3.9	3.6	1.3	18.0	
94	8	55	礫2層	周縁加工石器	安山岩	5.7	5.0	0.8	24.0	
94	9	55	礫2層	尖頭器状石器	黒曜石	6.5	3.5	1.2	21.4	
94	10	55	礫2層	尖頭器状石器	黒曜石	7.2	3.9	3.0	73.8	
94	11	55	砂礫2層	尖頭器状石器	サヌカイト(安山岩)	7.8	2.8	0.9	15.7	
94	12	55	礫2層	RFカ	黒曜石	3.3	2.3	1.0	7.9	
94	13	55	礫2層	RFカ	黒曜石	2.8	3.0	0.7	4.5	
94	14	55	礫2層	RFカ異形石匙	黒曜石	3.3	4.1	1.1	12.7	
94	15	55	礫2層	RFカ	黒曜石	2.9	3.5	0.8	7.1	
94	16	55	礫2層	RFカ	黒曜石	3.6	2.4	0.8	6.3	
94	17	55	礫2層	RFカ	黒曜石	1.9	1.8	0.6	1.6	
94	18	55	礫2層	UF 使用痕ある	黒曜石	8.7	4.8	0.9	23.8	
94	19	55	礫2層	UF 使用痕ある	黒曜石	4.3	6.2	1.4	37.5	
94	20	55	礫2層	UF 使用痕ある	黒曜石	2.9	4.4	1.0	9.8	
94	21	55	礫2層	UF 使用痕ある	黒曜石	2.9	2.6	0.8	5.8	
94	22	55	礫3層	UF 使用痕ある	黒曜石	3.3	3.7	0.8	8.3	
94	23	55	礫2層	UF 使用痕ある	サヌカイト	(5.9)	2.9	1.1	17.4	
94	24	55	礫2層	UF 使用痕ある	サヌカイト	(3.0)	2.6	0.8	7.2	
95	1	55	礫2層	未製品(石錘)	黒曜石	(2.2)	1.6	0.7	2.3	
95	2	55	礫2層	未製品(石錘)	黒曜石	(2.2)	(1.0)	0.3	0.4	
95	3	55	礫2層	未製品(石錘)	黒曜石	(2.2)	1.8	0.7	1.5	
95	4	55	礫2層	未製品(石錘)	黒曜石	(2.2)	2.1	0.5	1.9	
95	5	55	礫2層	未製品(石錘)	黒曜石	(2.5)	4.7	0.9	9.9	
96	1	55	礫2層	大型打製石斧	頁岩	33.2	10.2	2.0	1,405.0	
96	2	55	礫2層	打製石斧	安山岩	11.7	5.7	1.7	180.0	
96	3	55	礫2層	打製石斧	安山岩	8.6	6.6	2.1	113.0	
96	4	55	礫2層	打製石斧	頁岩	9.4	4.8	2.4	177.5	
96	5	55	礫2層	打製石斧	頁岩	4.2	3.5	1.6	18.0	
96	6	55	礫2層	打製石斧	安山岩	11.7	6.0	0.9	86.0	
96	7	55	砂礫層	打製石斧	頁岩	9.0	5.4	1.8	121.0	
96	8	55	砂礫1層	石斧未成品	玄武岩	9.7	5.9	4.9	475.0	
96	9	55	砂礫1層	打製石斧	玄武岩	12.2	5.6	2.0	174.0	
96	10	55	礫2層	打製石斧	安山岩	13.3	5.8	2.4	253.0	
97	1	56	砂礫層	磨製石斧	玄武岩	11.5	5.8	5.8	608.0	
97	2	56	礫層	磨製石斧	安山岩	11.2	6.2	3.3	389.0	
97	3	56	砂礫層	磨製石斧	玄武岩	7.9	4.4	3.5	170.0	
97	4	56	排土中	磨製石斧	片岩	13.6	5.5	3.9	498.0	
97	5	56	礫2層	台石	流紋岩	12.3	9.5	5.0	784.0	
97	6	56	礫2層	板状石	凝灰岩	13.1	7.6	1.0	124.0	
97	7	56	砂礫1層	砥石	玄武岩	9.5	5.4	2.7	272.0	
97	8	56	礫層	砥石	安山岩	12.5	4.3	4.6	400.0	
97	9	56	暗灰色粘質土層	砥石	流紋岩	16.5	4.5	2.6	246.0	
98	1	56	礫2層	磨石	花崗岩	16.8	10.2	6.5	1,557.0	
98	2	56	礫2層	敲石	花崗岩	9.6	4.0	4.0	206.0	
98	3	56	礫2層	敲石	玄武岩	6.9	7.8	4.2	306.0	
98	4	56	礫2層	敲石	玄武岩	7.0	5.0	3.0	157.0	
98	5	56	礫2層	敲石	流紋岩	7.4	5.8	2.6	169.0	
98	6	56	礫2層	敲石	安山岩	10.6	10.5	5.6	799.0	
98	7	56	礫2層	敲石	安山岩	9.7	10.3	6.1	699.0	
98	8	56	礫2層	磨石	安山岩	7.5	6.1	26.0	157.0	
98	9	56	礫2層	磨石	砂岩	7.3	5.1	(5.0)	247.0	
98	10	56	礫2層	敲石	玄武岩	9.1	7.9	4.6	474.0	
98	11	56	砂礫層	敲石	砂岩	9.5	8.2	4.9	477.0	
98	12	56	砂1層	敲石	花崗岩	5.9	4.6	3.5	141.0	
98	13	56	砂1層	磨石	砂岩	11.1	(6.9)	3.4	350.0	
99	1	57	礫2層	台石	安山岩	33.2	36.0	5.9	10,500.0	
99	2	57	礫2層	石皿カ	デイサイト	23.0	19.0	4.3	2,900.0	
99	3	57	礫2層	台石	安山岩	27.0	10.5	5.2	2,048.0	
99	4	57	礫2層	石皿カ	玄武岩	34.1	17.4	6.6	5,800.0	
99	5	57	礫1層	石棒カ	安山岩	(27.8)	20.7	16.0	9,900.0	
100	1	57	礫3層	石錘	流紋岩	10.2	7.2	1.6	121.0	
100	2	57	礫2層	石錘	頁岩	5.5	4.8	0.6	22.0	
100	3	57	礫2層 東側洗い	石錘	流紋岩	5.4	4.4	1.1	1.2	
100	4	57	礫2層	石錘	流紋岩	5.0	5.0	1.4	40.0	
100	5	57	礫2層	石錘	安山岩	9.0	8.6	2.6	245.0	
100	6	57	礫2層	石錘	流紋岩	8.3	7.5	2.1	213.0	
100	7	57	第2砂礫層	石錘	流紋岩	5.7	4.8	0.9	31.5	
100	8	57	礫2層	石錘	流紋岩	7.5	5.8	1.6	103.0	
100	9	57	礫2層	石錘	流紋岩	6.2	5.6	1.3	51.0	

図	番号	写真	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
100	10	57	礫2層	石錘	流紋岩	6.9	7.2	1.6	108.0	
100	11	57	礫2層	石錘	流紋岩	7.2	6.3	2.2	111.0	
100	12	57	砂礫2層	石錘	流紋岩	5.6	5.1	1.0	31.0	
100	13	57	砂礫2層	石錘	流紋岩	6.3	5.5	1.1	42.0	
100	14	57	礫層	石錘	流紋岩	9.8	8.6	2.6	301.0	
100	15	57	礫層	石錘	流紋岩	8.7	7.8	1.3	123.0	
100	16	57	礫1層	石錘	流紋岩	8.0	7.8	2.0	211.0	
100	17	57	砂礫	石錘	安山岩	7.2	6.3	1.6	94.0	
100	18	57	礫1層	石錘	流紋岩	6.8	6.2	1.9	114.0	
100	19	57	砂礫	石錘	流紋岩	6.5	4.9	1.2	53.0	
100	20	57	礫層	石錘	流紋岩	6.3	4.8	1.8	64.0	
100	21	57	礫2層	石錘	流紋岩	6.0	5.8	1.0	43.0	
100	22	57	砂1層	石錘	流紋岩	9.0	8.2	3.0	309.5	
100	23	57	砂2層	石錘	流紋岩	8.9	6.4	2.0	168.0	
100	24	57	砂2層	石錘	安山岩	5.9	5.4	0.8	35.0	
100	25	57		石錘	デイサイト	6.5	6.1	2.5	147.0	
100	26	57	砂1層	石錘	流紋岩	5.9	5.2	0.9	38.5	
100	27	57	砂1層	石包丁	頁岩	7.2	7.1	0.5	41.0	
100	28	57	礫1層	石包丁	頁岩	6.3	5.2	0.7	41.0	
101	1	66	排土中	耳飾	流紋岩	5.5	2.1	0.5	10.0	

B区 骨角器

図	番号	写真	層位	種別	器種	長さ	径	重さ	備考	
102	1	66	礫2層	骨角器	鹿	刺突具	(2.3)	0.6	0.4	
102	2	66	礫2層	骨角器	鹿	刺突具	(2.8)	0.7	0.9	
102	3	66	礫2層	骨角器	鹿	不明	(1.5)	0.7	0.7	
102	4	66	礫2層	骨角器	鹿	ヤス状	(2.4)	0.5	0.3	
102	5	66	礫2層	骨角器	鹿	離頭鉚	(5.7)	1.5	5.1	
102	6	66	礫2層	骨角器	鹿	刺突具	10.1	2.0	13.1	

B区 縄文以外の土器

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	焼成	調整・文様	備考
									外	内				
103	1	58	礫2層	弥生土器	壺	(30.0)		(5.8)	外: にぶい橙色 内: 灰白色	外: 5YR7/4 内: 5YR8/2	やや粗 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目 内: ミガキ	I 様式
103	2	58	砂1層	弥生土器	壺			(5.8)	外: 灰白色 内: 灰白色	外: 10YR7/1 内: 2.5YR7/1	密 (1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	外: 縞、施文 内: ミガキ	I 様式
103	3	58	礫1層	弥生土器	甗	(14.0)		(5.5)	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR5/3	密 (1mm前後の砂粒を多く含む)	良好	外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、ナデ	口縁に突起物貼り付け
103	4	58		弥生土器	壺			(8.8)	外: 浅黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/1	やや粗 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 刻目、沈線、ミガキ 内: ミガキ	I 様式
103	5	59	砂礫層	弥生土器	甗	(12.4)		(13.7)	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/3 内: 10YR6/3	粗 (1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 4条の沈線、ミガキ 内: ミガキ、指頭圧痕	I 様式
103	6	58		弥生土器	壺	20.0		(26.6)	外: 褐色 内: 褐色	外: 10YR4/4 内: 10YR4/4	密 (4mm以下の砂粒を多く含む)	良好	外: 5条の沈線、ハケ目後ナデ 内: ミガキ	I 様式
103	7	59		弥生土器	壺			(13.0)	外: 褐灰色 内: 灰黄褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR6/2	密 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 6条の沈線、ハケ目、ミガキ 内: ハケ目、ナデ	I 様式
103	8	58	礫層	弥生土器	甗	(13.4)		(5.0)	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/3 内: 10YR6/3	密 (1~4mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ナデ 内: ナデ、指頭圧痕	I 様式
103	9	58	砂2層	弥生土器	甗	(16.8)		(4.3)	外: 黒色 内: 黒褐色	外: 5Y2/1 内: 10YR3/1	密 (1~2mmの砂粒を含む)	良好	外: ミガキ 内: ミガキ、ユビナデ	I 様式
103	10	59	砂礫層	弥生土器	小壺	9.0	5.2	9.6	外: にぶい黄褐色 内: 黄灰色	外: 10YR6/4 内: 2.5Y5/1	φ~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: ナデ、ミガキ 内: ハケ目のちナデ	孔2ヶ
103	11	58	砂礫層	弥生土器	小型壺	3.7	1.8	5.2	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR5/1	密 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ナデ 内: ナデ	I 様式
103	12	58	礫層	弥生土器	ミニチュア土器		(2.6)	3.5	外: 黒色 内: 黒色	外: 5Y2/1 内: 2.5Y2/1	密 (2~3mmの白色砂粒を少量含む)	良好	外: ナデ 内: ナデ、指頭圧痕	I 様式
103	13	58	砂層	弥生土器	壺		9.6	(7.3)	外: 灰黄色 内: 黄灰色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/1	粗 (1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ミガキ 内: ミガキ	I 様式
103	14	58		弥生土器	壺		(6.0)	(6.0)	外: 黒褐色 内: 黄灰色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y6/1	密 (1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ミガキ 内: ミガキ	I 様式
103	15	58	砂1層	弥生土器	壺		(4.2)	(7.9)	外: 明黄褐色 内: 黒褐色	外: 10YR6/8 内: 2.5Y3/1	密 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目 内: ミガキ	I 様式
104	1	58	砂礫層	弥生土器	甗	(18.4)		(5.9)	外: 黄褐色 内: 明黄褐色	外: 2.5Y5/3 内: 10YR6/8	密 (1~3mmの白色砂粒を多く含む)	良好	外: ミガキ、沈線 内: ミガキ	I 様式
104	2	58	礫1層	弥生土器	甗	(26.0)		(6.0)	外: 灰白色 内: 灰白色	外: 10YR7/1 内: 10YR7/1	密 (1~3mmの白色砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、沈線、ナデ 内: 指ナデ	I 様式
104	3	58	砂1層	弥生土器	甗	(30.0)		(5.8)	外: 浅黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/1	やや粗 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 刻目、沈線、ミガキ 内: ミガキ	I 様式
104	4	58	砂1層	弥生土器	甗	(34.0)		(5.0)	外: 黄灰色 内: 黄灰色	外: 2.5Y6/1 内: 2.5Y6/1	やや粗 (1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 刻目、沈線、ミガキ 内: ミガキ	I 様式
104	5	58	砂礫層	弥生土器	甗	(23.0)		(4.6)	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	外: 10YR6/2 内: 10YR6/2	密 (2~4mmの白色砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: ナデ、指ナデ	I 様式

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	調整・文様	備考	
104	6	58	礫1層	弥生土器	甕	(18.0)		(4.5)	外: 褐灰色 内: 褐灰色	外: 10YR4/1 内: 10YR4/1	密(1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、横ナデ 内: マメツ	外面スス付着
104	7	58	礫1層	弥生土器	甕	(22.7)		(4.3)	外: 暗灰黄色 内: 灰黄色	外: 2.5Y5/2 内: 2.5Y7/2	密(1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: マメツ	
104	8	58		弥生土器	壺		(9.7)	(18.9)	外: 褐色 内: にぶい黄褐色	外: 7.5Y5/2 内: 2.5Y7/2	密(1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: マメツ	
104	9	58		弥生土器	壺・甕類		(8.4)	(5.6)	外: 褐色 内: にぶい黄褐色	外: 7.5Y4/4 内: 2.5Y6/3	粗(2mm前後の砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、ミガキ 内: ミガキ	
104	10	58	砂層	弥生土器	壺		(9.0)	(3.0)	外: 灰色 内: 黄灰色	外: 5Y6/1 内: 2.5Y6/1	密(白色砂粒を含む)	良好	外: マメツ 内: ミガキ	
104	11	58	礫層	弥生土器	壺		4.8	(3.1)	外: 黒褐色 内: 黒褐色	外: 2.5Y3/2 内: 7.5Y3/1	密(1mm以下の石英を少量含む)	良好	外: ミガキ、ナデ 内: ナデ	
104	12	58	礫1層	弥生土器	甕		(4.6)	(3.1)	外: 灰黄色 内: 黄褐色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y5/3	密(1~2mmの白色砂粒を多く含む)	良好	外: ミガキ 内: ミガキ	
105	1	59	礫層	弥生土器	壺	(25.0)		(1.6)	外: 暗灰黄色 内: にぶい黄色	外: 2.5Y5/2 内: 2.5Y6/3	密(1mm以下の白色砂粒を多く含む)	良好	外: 鋸歯紋。波状文 内: ナデ	Ⅲ様式
105	2	59	礫層	弥生土器	壺	(16.2)		(5.6)	外: 黄褐色 内: 黄褐色	外: 10YR5/6 内: 10YR5/6	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	外: マメツ 内: マメツ	Ⅲ様式
105	3	59	砂1層	弥生土器	甕	(16.4)		(7.9)	外: 黒色 内: 灰黄褐色	外: 7.5Y2/1 内: 10YR6/2	密(1mm前後の砂粒をごく少量含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: ミガキ	Ⅲ様式
105	4	59	砂礫層	土師器	甕	(25.0)		(8.4)	外: 黄褐色 内: 灰黄色	外: 2.5Y5/3 内: 2.5Y7/2	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目 内: ハケ目	Ⅲ様式
105	5	59	礫層	弥生土器	甕	(22.0)		(4.8)	外: 褐灰色 内: 灰黄色	外: 10YR5/1 内: 2.5Y6/2	密(1mm程度の白色砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目 内: ハケ目	Ⅲ様式
105	6	59	礫2層	弥生土器	甕	(21.8)		(8.0)	外: 灰黄色 内: 黄灰色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/1	密(1mm前後の長石・石英を含む)	良好	外: ハケ目、横ナデ 内: ハケ目、横ナデ	Ⅲ様式
105	7	59	砂1層	弥生土器	甕	(19.4)		(10.0)	外: 灰白色 内: 灰白色	外: 2.5Y8/2 内: 5Y8/1	密	良好	外: 刺突文、ハケ目、ナデ 内: ハケ目	Ⅲ様式
105	8	59	礫2層	弥生土器	甕	14.6	5.7	31.1	外: 浅黄色 内: 浅黄色	外: 2.5Y7/4 内: 2.5Y7/3	密	良好	外: ハケ目、ミガキ 内: ハケ目、ミガキ	Ⅳ様式
105	9	59	砂層	弥生土器	甕	(15.5)	(8.6)	31.3	外: 明黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR6/6 内: 10YR7/3	φ~2mmの白色粒子を少量含む	良好	外: ハケ目 内: ハケ目、ケズリ	Ⅳ様式
106	1	60	礫1層	弥生土器	甕	(16.0)		(23.5)	外: 灰色、黄褐色 内: 灰色	外: N4/ 2.5Y5/3 内: N4/	密(1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: ミガキ	V様式
106	2	60		弥生土器	甕			(18.1)	外: 黒褐色 内: 黄褐色	外: 2.5Y3/1 内: 2.5Y5/3	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 刺突文、ハケ目、ミガキ 内: ケズリ、ミガキ	V様式
106	3	60	礫1層	弥生土器	甕	(19.0)		(16.8)	外: 黒色 内: 浅黄色	外: 2.5Y2/1 内: 2.5Y7/3	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 2条凹線、刺突文、ハケ目、ケズリ 内: ケズリ、ナデ	V様式
106	4	60	砂1層	弥生土器	甕		(5.2)	(15.3)	外: 褐灰色 内: 黒褐色	外: 10YR4/1 内: 10YR3/1	密(1mm以下の石英を含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: ケズリ、ナデ	V様式
106	5	60	砂礫層	弥生土器	甕	(16.4)		(6.3)	外: 黒色 内: にぶい黄褐色	外: 2.5Y8/2 内: 10YR5/3	密(1mm前後の長石・石英を含む)	良好	外: 4条の凹線、刺突文、ハケ目 内: ナデ、ケズリ	V様式
106	6	60		弥生土器	甕	(19.2)		(4.2)	外: 灰黄色 内: 黄褐色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y5/3	密(1mm程度の白色砂粒を多く含む)	良好	外: ナデ 内: ケズリ、マメツ	V様式
106	7	60	礫層	弥生土器	甕	(19.4)		(3.3)	外: 黄褐色 内: 黄褐色	外: 10YR5/6 内: 10YR5/6	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ナデ 内: ケズリ、ナデ	V様式
106	8	60	礫層	弥生土器	甕	(18.0)		(4.8)	外: 黄灰色 内: 黄灰色	外: 2.5Y6/1 内: 2.5Y6/1	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 6条の凹線文、ナデ 内: ケズリ、マメツ	V様式
106	9	60	礫層	弥生土器	甕	(19.0)		(5.3)	外: 灰黄褐色 内: にぶい黄褐色	外: 10YR5/2 内: 10YR7/3	密(1mm以下の石英を含む)	良好	外: 疑凹線、ナデ 内: ケズリ、ナデ	スス付着
106	10	60	砂層	弥生土器	甕	(18.0)		(4.6)	外: 灰黄色 内: にぶい黄色	外: 2.5Y6/2 内: 2.5Y6/3	密(少量の雲母、3mm以下の石英・長石を含む)	良好	外: ナデ 内: ケズリ、ナデ	V様式
106	11	60	礫層	弥生土器	甕	(11.8)		(3.3)	外: にぶい褐色 内: にぶい赤褐色	外: 7.5YR5/3 内: 2.5Y4/4	密(1mm前後の砂粒を多く含む)	良好	外: 凹線文状の沈線、ナデ 内: ナデ	V様式
106	12	60	礫層	弥生土器	甕	(14.0)		(5.7)	外: 明黄褐色 内: にぶい橙色	外: 10YR6/6 内: 5YR6/4	やや粗(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 5条の凹線、ナデ 内: ナデ	V様式
106	13	60		弥生土器	高坏		(8.8)	(3.4)	外: 黄灰色 内: 黄灰色	外: 2.5Y5/1 内: 2.5Y5/1	密(1mm以下の白色砂粒を含む)	良好	外: 3条の沈線、ナデ 内: ナデ	V様式
107	1	62		弥生土器	注口土器	(17.1)		20.0	外: 浅黄色 内: にぶい黄褐色	外: 2.5Y7/3 内: 10YR7/2	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 5条の沈線、波状文、ハケ目 内: ケズリ	草田5
107	2	62		弥生土器	注口土器			(14.0)	外: 灰白色 内: 灰白色	外: 2.5Y8/1 内: 2.5Y8/2	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: 2段の刺突文、ハケ目 内: ケズリ	草田5
107	3	61	砂1層	弥生土器	注口土器			(5.5)	外: 暗灰黄色 内: 暗灰黄色	外: 2.5Y4/2 内: 2.5Y4/2	密(1~2mmの石英を多く含む)	良好	外: ナデ 内: ナデ	草田5
107	4	61	礫層	弥生土器	甕	(17.0)		(10.6)	外: 灰黄色 内: 黄灰色	外: 2.5Y7/2 内: 2.5Y6/1	密(1~2mmの雲母を多く含む)	良好	外: 6条の沈線、刺突文 内: ケズリ	草田5
107	5	61	砂層	弥生土器	甕	(16.0)		(9.8)	外: 灰白色・黒色 内: 灰白色	外: 2.5Y8/1 2.5Y2/1 内: 2.5Y8/1	密(1~2mmの砂粒を少量含む)	良好	外: 波状文、ナデ 内: ケズリ、ナデ	草田5
107	6	61	砂1層	弥生土器	甕		(3.0)	(4.3)	外: 灰黄色 内: 灰色	外: 2.5Y7/2 内: 5Y6/1	密(1mm前後の砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目 内: ケズリ	草田5
107	7	61	砂1層	弥生土器	甕	(17.2)		(6.3)	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄色	外: 10YR5/3 内: 2.5Y6/3	密(1mm前後の砂粒を多く含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: ケズリ、マメツ	草田5
107	8	61	礫1層	弥生土器	甕	(19.0)		(4.3)	外: 黄灰色 内: 灰黄色	外: 2.5Y4/1 内: 2.5Y7/2	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外: ナデ 内: ナデ、ケズリ	草田5
107	9	61	礫1層	弥生土器	甕	(14.4)		(4.7)	外: 灰白色 内: 灰白色	外: 2.5Y7/1 内: 2.5Y7/1	密(1~2mmの長石・石英・雲母を少量含む)	良好	外: ハケ目、ナデ 内: ケズリ、マメツ	草田5

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	調整・文様	備考	
107	10	61	礫1層	弥生土器	甕	(14.6)		(4.0)	外:黒褐色 内:にぶい黄褐色	外:2.5Y3/1 内:10YR6/4	密(1mm前後の砂粒を多く含む)	良好	外:ナデ 内:マメツ	草田7
107	11	61	砂層	弥生土器	甕	(15.0)		(3.3)	外:黒色 内:にぶい黄色	外:2.5Y2/1 内:2.5Y6/3	密	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	草田7
107	12	61	砂1層	弥生土器	甕	(18.6)		(6.2)	外:黒色 内:にぶい赤褐色	外:10YR2/1 内:5YR4/4	密(1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外:平行タタキ、ナデ 内:ハケ目、ナデ	庄内式
107	13	61	砂2層	弥生土器	甕	(14.6)		(9.1)	外:黒色 内:にぶい黄褐色	外:10YR2/1 内:10YR5/4	密(1mm前後の砂粒を少量含む)	良好	外:タタキ 内:平行オサエ、ナデ	庄内式
107	14	61	砂1層	弥生土器	高坏	(14.6)		(4.9)	外:黄灰色 内:黄灰色	外:2.5Y7/2 内:2.5Y6/2	密	良好	外:ハケ目のちミガキ、ナデ 内:ミガキ	草田5
107	15	61	砂礫層	弥生土器	皿		(4.2)	(2.1)	外:灰白色 内:灰白色	外:2.5Y7/1 内:2.5Y7/1	密(砂粒多く含む)	良好	外:ハケ目のちナデ 内:ヘラミガキ	草田5
108	1	61	礫1層	弥生土器	高坏	(18.0)		(4.7)	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	外:10YR6/2 内:10YR6/2	密(1~2mmの長石・石英・雲母を少量含む)	良好	外:ミガキ 内:ミガキ	草田5
108	2	61	砂1層	弥生土器	高坏			(1.9)	外:浅黄褐色 内:明黄褐色	外:10YR8/4 内:10YR7/6	微小な雲母を多く含む	良好	外:ミガキカ 内:ミガキカ	草田5
108	3	61	砂層	弥生土器	高坏	(12.0)		(8.8)	外:灰白色 内:明褐色	外:7.5YR8/2 内:7.5YR7/1	φ~2mmの白色粒子を少量含む	良好	外:ハケ目、ミガキ 内:ハケ目、ケズリ	草田5
108	4	61	砂1層	弥生土器	高坏			(7.0)	外:灰黄色 内:灰黄色	外:2.5Y7/2 内:2.5Y7/2	密	良好	外:ハケ目のちミガキ 内:ケズリ	草田5
108	5	61	砂層	弥生土器	器台 or 壺	(19.4)		(4.1)	外:灰黄色 内:黄褐色	外:2.5Y6/2 内:2.5Y5/3	密(1~2mmの砂粒を少量含む)	良好	外:ナデ 内:ミガキ	弥生後期
108	6	61		弥生土器	高坏			(8.5)	外:灰黄色 内:灰黄色	外:2.5Y6/2 内:2.5Y6/2	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外:ハケ目、ミガキ 内:ハケ目、ケズリ	草田5
108	7	61	砂1層	弥生土器	高坏		(17.0)	(2.6)	外:灰黄色 内:灰黄色	外:2.5Y7/2 内:2.5Y6/2	密	良好	外:ハケ目 内:ハケ目	草田5
108	8	62	礫2層	弥生土器	甕	(16.0)		(4.7)	外:灰黄褐色 内:黄褐色	外:10YR6/2 内:2.5Y7/3	密(1~3mmの砂粒を多く含む)	良好	外:ミガキ 内:ハケ目のちミガキ	松山4
108	9	61	礫層	弥生土器	甕	(23.2)		(5.8)	外:黒色 内:黄褐色	外:2.5Y2/1 内:2.5Y6/2	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外:ハケ目、ナデ 内:ヘラケズリ、ナデ	松山4
108	10	61		弥生土器	壺	(19.0)		(20.6)	外:明黄褐色 内:明黄褐色	外:10YR6/6 内:10YR6/6	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外:ハケ目、ナデ 内:ケズリ、ナデ	松山4
108	11	61	礫層	弥生土器	坏	(14.1)		(4.2)	外:褐色 内:褐色	外:7.5Y8/2 内:7.5Y8/2	砂粒を含まない	良好	外:ナデ 内:ハケ目、ナデ	松山4
108	12	61	礫層	弥生土器	円筒埴輪			(4.7)	外:灰白色 内:灰白色	外:2.5Y8/2 内:2.5Y8/2	やや粗(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外:- 内:ケズリ	
108	13	61		弥生土器	製塩土器			(3.9)	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	外:7.5Y7/3 内:7.5Y7/3	1mm前後の砂粒をまばらに含む	良好	外:- 内:-	
109	1	62		須恵器	坏蓋	(13.1)		(6.1)	外:灰色 内:にぶい黄褐色	外:7.5Y6/1 内:10YR7/2	1mm前後の砂粒をまばらに含む	やや不良	外:回転ヘラケズリ、ナデ 内:回転ナデ	出雲1期
109	2	62	砂層	須恵器	蓋	(11.7)		(4.3)	外:灰色 内:灰色	外:N5/ 内:N5/	1mm前後の砂粒を含む	良好	外:回転ヘラケズリ、 内:回転ナデ	出雲1期
109	3	63	砂層	須恵器	坏蓋			(3.9)	外:灰色 内:灰色	外:7.5Y6/1 内:7.5Y6/1	砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	出雲1期
109	4	63		須恵器	坏蓋	(12.8)		(4.5)	外:灰白色 内:灰色	外:7.5Y7/1 内:7.5Y6/1	ほとんど砂粒を含まない	やや不良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	出雲5期
109	5	63	礫層	須恵器	坏身	(10.0)		(2.2)	外:灰色 内:灰色	外:10Y6/1 内:7.5Y6/1	砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	出雲6期
109	6	62		須恵器	坏	(17.3)	(10.6)	(6.9)	外:灰色 内:灰オリブ色	外:5Y5/1 内:5Y5/2	1mm前後の砂粒をまばらに含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	7	62	礫1層	須恵器	坏	(12.1)	(8.7)	(3.9)	外:灰色 内:灰色	外:5Y5/1 内:5Y5/1	1mm前後の砂粒をまばらに含む	良好	外:不明 内:不明	付着物が多い
109	8	63	礫1層	須恵器	坏	(12.0)		(3.3)	外:灰色 内:灰色	外:7.5Y6/1 10Y5/1 内:7.5Y6/1	ほとんど砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
109	9	63	砂層	須恵器	坏	(10.0)	(7.0)	(3.5)	外:灰色 内:灰色	外:7.5Y5/1 内:7.5Y6/1	1mm前後の砂粒をまばらに含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	10	63	砂1層	須恵器	坏	(7.3)		(3.7)	外:灰オリブ色 内:灰オリブ色	外:7.5Y5/2 内:7.5Y5/2	ほとんど砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	
109	11	62	礫層	須恵器	坏	(13.4)	(9.9)	(4.1)	外:灰色 内:灰色	外:7.5Y5/1 内:7.5Y5/1	1mm以下の白い砂粒を含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	12	62		須恵器	坏	(13.0)	(8.8)	(4.5)	外:灰オリブ色 内:灰オリブ色	外:5Y6/2 内:5Y6/2	1mm以下の白い砂粒を含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	13	62	礫1層	須恵器	坏	(12.3)	(6.6)	(4.0)	外:灰オリブ色 内:灰色	外:5Y6/2 内:5Y4/1	1mm以下の白い砂粒を含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	14	63	礫層	須恵器	坏	(11.1)	(6.8)	(3.9)	外:灰色 内:灰色	外:5Y4/1 内:5Y4/1	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	15	63	礫層	須恵器	燈明皿	(10.7)	(7.8)	(3.5)	外:灰色 内:灰色	外:5Y4/1 内:5Y4/1	密(1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	16	63	砂層	須恵器	坏(皿)		(6.7)	(2.5)	外:灰黄色 内:灰白色	外:2.5Y6/2 内:2.5Y7/2	1mm以下の白い砂粒を含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	17	63	礫層	須恵器	皿	(14.0)	(10.4)	(2.5)	外:灰黄色 内:黄灰色	外:2.5Y7/2 内:2.5Y6/1	砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	18	63	礫層	須恵器	高台付坏		(10.4)	(3.7)	外:灰白色 内:灰白色	外:2.5Y7/1 内:2.5Y7/1	砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	19	63	暗灰色粘質土層	須恵器	高台付坏		(10.8)	(2.6)	外:灰色 内:灰色	外:7.5Y5/1 内:7.5Y5/1	砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	20	63	礫層	須恵器	高台付坏		(7.8)	(2.6)	外:灰色 内:灰色	外:7.5Y6/1 内:7.5Y6/1	微砂粒を含む	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	
109	21	63	暗灰色粘質土層	須恵器	高台付坏		(8.0)	(2.0)	外:オリブ灰色 内:オリブ灰色	外:2.5GY6/1 内:2.5GY6/1	砂粒を含まない	良好	外:回転ナデ、回転糸切り 内:回転ナデ	

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	調整・文様	備考	
109	22	63	礫層	須恵器	高台付坏		(9.5)	(2.4)	外：オリブ灰色 内：オリブ灰色	外：2.5GY6/1 内：2.5GY6/1	白色砂粒をまばら に含む	良好	外：回転ナデ、回転糸 切り 内：回転ナデ	
109	23	63	暗灰色粘 質土層	須恵器	坏	(13.0)	(9.4)	(3.9)	外：オリブ灰色 内：オリブ灰色	外：2.5GY6/1 内：2.5GY6/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転糸 切り 内：回転ナデ	
109	24	62	砂層	須恵器	坏	(13.8)	7.8	3.5	外：オリブ灰色 内：オリブ灰色	外：2.5GY5/1 内：2.5GY5/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転糸 切り 内：回転ナデ	
109	25	63	礫層	須恵器	坏	(15.1)	(9.4)	(3.5)	外：暗緑灰色 内：オリブ灰色	外：10G4/4 内：2.5GY6/1	白色砂粒をまばら に含む	良好	外：回転ナデ、1条沈 線 内：回転ナデ	
109	26	63	礫層	須恵器	坏		(13.8)	(2.4)	外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	白色砂粒をまばら に含む	良好	外：回転ナデ、回転糸 切り後ナデ 内：回転ナデ	
109	27	63		須恵器	盤		(16.0)	(3.3)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転糸 切り 内：回転ナデ	
109	28	63	礫層	須恵器	蓋			(2.0)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	1mm前後の砂粒を まばらに含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
109	29	63	砂1層	須恵器	蓋			(0.8)	外：灰色 内：灰色	外：N6/1.4/1 内：N6/1	白色砂粒をまばら に含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
109	30	63	砂礫1 層	須恵器	高坏			(6.1)	外：灰白色、灰色 内：灰白色	外：10Y7/1 10Y4/1 内：10Y7/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ 内：しぼり痕	
109	31	62		須恵器	高坏		(8.3)	(5.9)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	黒色、白色砂粒を まばらに含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
109	32	63		須恵器	高坏			(5.6)	外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	黒色、白色砂粒を まばらに含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	2ヶ所透かし
109	33	62		須恵器	高台付坏		(11.8)	(7.0)	外：灰白色 内：灰白色	外：7.5Y7/1 内：7.5Y7/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転糸 切り 内：回転ナデ	
109	34	62	礫層	須恵器	鉄鉢型			(9.5)	外：灰色 内：灰色	外：10Y5/1 内：10Y4/1	1mm前後の白い砂 粒を含む	良好	外：ヘラケズリ、ナデ 内：回転ナデ	
110	1	63	礫層	須恵器	壺			(3.4)	外：灰色 内：灰白色	外：7.5Y6/1 内：10Y7/1	1mm前後の白い砂 粒をまばらに含む	やや不 良	外：2条沈線、波状文 内：回転ナデ	
110	2	62		須恵器	壺	(15.4)		(12.9)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	1～5mmの白色砂 粒を含む	良好	外：2ヶ所に2条沈線 内：回転ナデ	
110	3	62	砂層	須恵器	壺			(24.0)	外：灰色、灰白色 内：灰色	外：N4/ 7.5Y7/1 内：5Y6/1	砂粒を含まない	良好	外：横ナデ 内：ナデ	
110	4	63	暗灰色粘 質土層	須恵器	壺			(21.0)	外：灰褐色 内：灰褐色	外：7.5YR6/2 内：7.5YR6/2	1mm以下の砂粒を 含む	良好	外：ナデ 内：ナデ	
110	5	63	礫層	須恵器	壺	(21.6)		(4.0)	外：灰白色、灰色 内：灰色	外：5Y7/1 、5/1 内：5Y6/1	1mm前後の胎土化 した黒色砂粒を含 む	良好	外：ナデ 内：ナデ	
110	6	63	礫層	須恵器	坏		(7.2)	(3.4)	外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	砂粒を含まない	良好	外：静止糸切り後回転 ナデ 内：回転ナデ	
110	7	63	礫層	須恵器	壺		(90.0)	(3.4)	外：灰色 内：灰色	外：10Y5/1 内：10Y5/1	1mm前後の白い砂 粒をまばらに含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
110	8	63	砂礫層	須恵器	壺		(9.7)	(3.8)	外：灰色 内：灰色	外：10Y5/1 内：10Y5/1	微砂粒を含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
110	9	63		須恵器	壺		(11.2)	(8.2)	外：灰色 内：灰色	外：10Y5/1 内：10Y5/1	1mm前後の白い砂 粒をまばらに含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
110	10	63		須恵器	壺			(11.0)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	1mm前後の白い砂 粒をまばらに含む	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
110	11	63		須恵器	壺		(8.5)	(5.2)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
110	12	63		須恵器	壺		(5.0)	(2.6)	外：オリブ黒色 内：灰色	外：10Y3/1 内：10Y5/1	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
111	1	63	砂1層	須恵器	甕	(37.0)		(37.8)	外：暗オリブ灰 色 内：灰色	外：2.5GY4/1 内：7.5Y5/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	外：沈線、波状文、平 行たつき 内：ナデ、同心円状の 当て具痕	
111	2	64		須恵器	甕			(8.0)	外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具 痕	
111	3	64		須恵器	甕			(12.7)	外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具 痕	
111	4	64		須恵器	壺			(11.2)	外：灰色 内：灰色	外：10Y5/1 内：10Y6/1	白色砂粒を微小に 含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具 痕	
111	5	65	暗灰色粘 質土層	陶質土器	-			(2.5)	外：灰色 内：灰色	外：N4/ 10Y5/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	外：縄痕、沈線 内：ナデ	
111	6	65	礫1層	須恵器	不明			(4.0)	外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	白色砂粒を微小に 含む	良好	外：並行たつきカ 内：ナデ	
111	7	64		須恵器	甕			(21.6)	外：灰色 内：灰色	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	1mm前後の白い砂 粒をまばらに含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具 痕	
111	8	64		須恵器	壺			(5.4)	外：灰色 内：灰色	外：10Y5/1 内：10Y5/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	外：ナデ 内：ナデ	
111	9	64	南側溝 灰色砂層	須恵器	甕カ			(7.0)	外：灰色 内：灰色	外：5Y6/1 内：5Y6/1	1mm以下の黒色砂 粒を含む	良好	外：並行たつき 内：同心円状の当て具 痕	
111	10	64	暗灰色粘 質土層	須恵器	高台付壺カ			(2.4)	外：灰色 内：灰色	外：5Y6/1 内：5Y6/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	外：並行たつき後ナデ 内：たつき痕	高台が付
112	1	64		瓦	軒平瓦				外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	5mm前後の白い砂 粒をまばらに含む	良好	ヘラ切り調整	
112	2	64		瓦	平瓦				外：灰色 内：灰色	外：10Y6/1 内：10Y6/1	ほとんど砂粒を含 まない	良好	糸切り痕、網目平行た つき	
112	3	64	礫1層	須恵器	甕				外：灰色 内：灰色	外：N5/ 内：N5/	まれに白色砂粒含 む	良好	外：細格子目文 内：花文	
113	1	65	礫層	磁器	白磁碗	(15.2)		(3.6)	透明釉	-	白色	良好	白磁碗IV類	
113	2	65	暗褐色粘 質土層	磁器	白磁碗	(15.3)		(2.5)	透明釉	-	白色	良好	白磁碗IV類	

図	番号	写真	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	焼成	調整・文様	備考
113	3	65	礫層	磁器	白磁碗	(15.4)		(2.5)	透明釉	-	乳白色	普通	白磁碗Ⅳ類	
113	4	65	礫層	磁器	白磁碗	(15.0)		(2.7)	透明釉	-	白色	良好	白磁碗Ⅳ類	
113	5	65		磁器	白磁碗	(15.4)		(3.9)	透明釉	-	黄白色	良好	白磁碗Ⅳ類	
113	6	65	礫層	磁器	白磁碗	(14.3)		(2.2)	透明釉	-	灰白色	良好	白磁碗Ⅴ類	
113	7	65		磁器	白磁碗	(18.0)		(4.1)	透明釉	-	白色	良好	白磁碗Ⅴ類	
113	8	65	砂礫層	磁器	白磁碗	(14.7)		(1.8)	透明釉	-	白色	良好	白磁碗Ⅴ/Ⅷ類	
113	9	65		磁器	白磁碗			(2.1)	透明釉	-	灰白色	良好	白磁碗Ⅴ4類	
113	10	65	暗褐色粘質土層	磁器	白磁碗	(5.4)		(1.8)	透明釉	-	灰白色	良好	白磁碗Ⅷ類 見込み釉剥ぎ	
113	11	65		磁器	白磁皿		(2.9)	(1.4)	透明釉	-	灰白色	良好	白磁皿Ⅵ1a類	
113	12	65	礫2層	磁器	染付碗		(4.8)	(2.5)	透明釉	-	白色	良好	丸形碗 胴部：圏線 東大構内Ⅲa期	
113	13	65	礫層	磁器	水注			(3.7)	透明釉	-	灰色	良好	大宰府C/D期	
113	14	65	T28	陶器	平鉢			(5.2)	灰釉	-	灰褐色	良好	貝目 楽山焼カ	
113	15	65		土師器	高台付坏		(6.1)	(2.7)	浅橙色	5YR8/4	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	16	65		土師器	高台付坏		(5.5)	(2.7)	にぶい黄橙色	10YR7/3	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転系 切り後ナデ 内：回転ナデ	
113	17	65	暗灰色粘質土層	土師器	高台付坏		(5.7)	(1.8)	にぶい橙色	7.5Y7/3	微砂粒を含む	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	18	65	掘削土	土師器	皿		(3.4)	(1.3)	灰褐色	7.5YR4/2	砂粒を少し含む	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	19	65		土師器	皿		(4.1)	(1.2)	にぶい橙色	2.5YR6/4	砂粒を少し含む	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	20	65	暗灰色粘質土層	土師器	皿		(5.2)	(2.3)	灰褐色	10YR6/2	微砂を含む	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	21	65	暗灰色粘質土層	土師器	皿		(4.6)	(2.0)	にぶい橙色	7.5YR7/3	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	22	65	礫層	土師器	坏		(4.0)	(2.1)	黒褐色	7.5YR3/2	淡い白灰色	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	23	65	暗灰色砂質土層	土師器	高台付の坏	7.8	3.8	4.0	灰白色	7.5YR8/1	1mm以下の砂粒を 少量含む	良好	外：回転ナデ、回転系 切り 内：回転ナデ	
113	24	65	砂礫層	土師器	高台付坏	(15.9)	(8.2)	(7.3)	暗赤橙色	7.5Y3/2	砂粒微小	良好	外：横ナデ、回転系切 り後貼り付け高台 内：横ナデ	
113	25	65		土師器	高台付碗		(8.6)	(5.2)	にぶい黄橙色	10YR7/3	砂粒少	良好	外：横ナデ、回転系切 り後貼り付け高台 内：横ナデ	
113	26	65	暗灰色粘質土層	土師器	高台付坏			(3.0)	にぶい黄橙色	10YR7/2	砂粒を含まない	良好	外：回転系切り 内：回転ナデ	
113	27	65	暗灰色粘質土層	土師器	高台付坏		(7.2)	(3.5)	灰黄色	2.5Y7/2	微砂多い	良好	外：横ナデ、回転系切 り後貼り付け高台 内：横ナデ	
113	28	65	暗灰色粘質土層	土師器	高台付坏		(9.0)	(2.6)	浅黄色	2.5Y7/3	砂粒少し	良好	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
113	29	65		土師器	高台付坏		(6.3)	(2.5)	にぶい黄橙色	10YR7/2	砂粒を含まない	良好	外：回転ナデ、回転系 切り後ナデ 内：回転ナデ	

B区 土製品

図	番号	写真	層位	種別	器種	長さ	径	孔径	重さ	色調		胎土	焼成	備考
114	1	66	礫層	土製品	土錘	7.2	2.5	0.6	33.0	灰白色	5Y7/1	精製	良好	
114	2	66	砂層	土製品	土錘	(4.0)	2.0	0.7	12.0	灰白色	5Y7/1	精製	良好	
114	3	66	灰色粘質土層	土製品	土錘	4.5	2.0	0.6	19.0	オリーブ黒色	5Y3/1	精製	良好	
114	4	66	礫層	土製品	土錘	4.6	1.9	0.6	17.0	オリーブ黒色	7.5Y4/1	精製	良好	
114	5	66	礫層	土製品	土錘	3.1	1.5	0.5	6.0	灰白色	7.5Y7/1	精製	良好	
114	6	66	礫層	土製品	土錘	(5.0)	2.0	0.4	14.0	灰色	5Y5/1	1mm前後の砂粒含む	良好	
114	7	66	礫層	土製品	土錘	(3.2)	1.3	0.3	4.0	灰色	5Y4/1	1mm前後の砂粒含む	良好	
114	8	66	礫層	土製品	土錘	4.6	1.1	0.4	5.0	オリーブ黒色	5Y3/1	精製	良好	
114	9	66	礫層	土製品	土錘	(4.8)	1.4	0.5	8.0	灰色	5Y5/1	精製	良好	
114	10	66	砂層	土製品	土錘	(3.3)	(3.6)	0.6	14.0	暗褐色	10YR3/3	1mm前後の白い砂粒をまばらに含む	良好	
114	11	66	礫層	土製品	土錘	3.3	3.2	0.6	31.0	褐灰色	10YR6/1	1mm前後の白い砂粒をまばらに含む	良好	

B区 木製品

図	番号	写真	層位	器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	樹種	備考
115	1	66	東端礫2層	權	25.5	7.7	1.7	ヤマグワ	片面凸部有
115	2	66	砂2層/礫2層の直上	權	30.0	9.3	2.3	スギ	片面凸部有
115	3	66	西側砂1層	權	18.5	10.5	1.3	ヤマグワ	全体に摩滅
115	4	66		ミカン割材	155.0	29.0	10.0		縄文時代～弥生前期
116	1	66	砂2層	權	27.0	15.5	2.4	スギ	
116	2	66	礫2層	權	20.8	9.2	1.3		全体に摩滅
116	3	66	西側砂層	權	25.0	12.1	1.3	スギ	
117	1	67	茶褐色粘質土層	木筒状カ	5.7	1.3	0.4		
117	2	67	西側砂層	木筒状カ	4.5	1.8	0.25		祭祀具の可能性もあり
117	3	67	礫1層	祭祀具カ	7.5	1.4	0.2		人形カ、刀カ
117	4	67	礫1層	不明	6.4	2.5	0.55		祭祀具カ
117	5	67	砂1層	不明	10.2	1.8	0.6		大刀形祭祀具カ
117	6	67	礫1層	薙刀	18.4	2.0	0.7	マツ属複雑管束亜属	祭祀具
117	7	67	礫1層	串状	19.2	0.7	0.7		芯持材・未使用の燃え差しか
117	8	67	礫1層	斎串カ	19.0	1.7	0.65		
117	9	67	礫1層	斎串カ	10.6	2.7	0.3		曲物を転用カ、墨痕カ
117	10	67	砂1層	燃え差しか	19.9	1.4	1.2		燃え差しなら未使用、斎串カ
117	11	67	暗灰褐色粘質土層	不明	8.9	2.8	0.5		木筒カ
117	12	67	暗灰褐色粘質土層	不明	14.4	2.3	1.2		木筒の可能性
117	13	67	砂1層	不明	10.3	0.7	0.3		木筒カ
117	14	67	西側砂層	木筒状カ	7.6	1.6	0.35		祭祀具の可能性もあり
117	15	67	礫1層	木筒カ	9.4	2.4	0.6		三文字以上
117	16	67	礫1層	木筒カ	9.7	2.5	0.5		曲物の底板の一部カ
117	17	67	礫1層	木筒	15.9	2.2	0.65	スギ	
117	18	67	砂1層層	木筒状カ	9.15	2.6	0.4		
117	19	67	東側礫1層	木筒状カ	10.5	2.9	0.6		
117	20	67	東側礫1層	木筒状カ	7.0	1.5	0.2		
117	21	67	東側礫1層	木筒状カ	6.5	1.7	0.4		
117	22	67	暗灰褐色粘質土層	人形木筒	7.4	4.8	0.5	ヒノキ	祭祀具
117	23	67	暗灰褐色粘質土層	木筒カ	36.0	1.4	0.5		
118	1	67	礫1層	火鑽白	24.6	2.7	1.0	スギ	ほぼ完形
118	2	67	黒褐色粘質土層	火鑽白	17.3	3.0	1.3	スギ	
118	3	67	礫1層	火鑽白	10.2	3.5	1.3		
118	4	67	礫1層	火鑽白	11.5	1.3	0.9		
118	5	67	礫1層	箸	18.0	0.7	0.5		
118	6	67	礫1層	箸	16.5	0.7	0.5		
118	7	67	礫1層	箸	11.4	0.6	0.4		
118	8	67	礫1層	箸	11.4	0.5	0.6		
118	9	67	礫1層	箸	9.0	0.7	0.5		
118	10	67	礫1層	箸	7.5	0.6	0.5		
118	11	67	礫1層	箸	14.65	0.5	0.7		
118	12	67	礫1層	箸	11.8	0.8	0.6		
118	13	67	礫1層	箸	12.6	0.7	0.6		
118	14	67	礫1層	箸	10.9	0.5	0.5		折れ
118	15	67	礫1層	箸	11.0	0.5	0.5		
118	16	67	礫1層	箸	10.0	0.7	0.6		
118	17	67	礫1層	箸	8.5	0.7	0.4		
118	18	67	礫1層	箸	8.5	0.5	0.6		
118	19	67	礫1層	箸	7.4	0.6	0.35		
118	20	67	礫1層	箸	7.6	0.5	0.45		
118	21	67	礫1層	箸	8.4	0.5	0.5		
118	22	67	礫1層	箸	7.9	0.7	0.9		
118	23	67	礫1層	箸	8.0	0.5	0.5		
118	24	67	礫1層	箸	6.7	0.6	0.45		
118	25	67	礫1層	箸	6.5	0.65	0.4		
118	26	67	礫1層	箸	4.8	0.4	0.4		
118	27	67	砂1層	箸	8.3	0.6	0.5		折れ

図	番号	写真	層位	器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	樹種	備考
118	28	67	南側溝灰色砂層	箸	11.0	0.5	0.5		
118	29	67	南側溝灰色砂層	箸	10.0	0.5	0.5		
118	30	67	砂1層	箸状	9.6	1.0	0.8		
118	31	67	南側溝灰色砂層	箸	8.0	0.5	0.5		
118	32	67	南側溝灰色砂層	箸	6.7	0.5	0.5		
118	33	67	南側溝灰色砂層	箸	6.3	0.5	0.5		
118	34	67	暗灰褐色粘質土層	箸	11.3	0.5	0.5		
118	35	67	暗灰褐色粘質土層	箸	8.1	0.6	0.4		
119	1	68	礫1層	下駄	20.5	5.7	4.7		
119	2	68	砂1層	下駄	17.0	8.0	4.8		
119	3	68	礫1層	独染カ	10.2	8.5	6.5		
119	4	68	礫1層	糸巻カ	10.1	3.5	2.0		
119	5	68	黒褐色粘質土層	椀	10.0	5.5	0.8		黒赤漆塗
119	6	68	試掘 第6層	椀	11.0	11.0	6.4		
119	7	68	礫1層	タモ枠	9.4	8.7	2.0		
119	8	68	暗灰褐色粘質土層	弓カ栓カ	8.4	2.3	1.9		ゆはずの部分カ
119	9	68	礫1層	しゃもじ	19.6	5.0	0.6	スギ	祭祀具カ
119	10	68	砂1層	不明	8.8	2.7	0.6		
119	11	68	礫1層	不明	11.9	1.3	1.8		賽子(さいころ)カ
119	12	68	礫1層	不明	14.8	1.6	0.4		
120	1	68	礫1層	曲物	22.0	2.0	0.7		枠
120	2	68	礫1層	曲物	20.0	2.2	0.1		枠
120	3	68	暗灰褐色粘質土層	曲物	17.2	5.7	1		
120	4	68	礫1層直上	曲物	14.0	6.3	1.2		底板
120	5	68	礫1層	曲物	15.3	4.7	0.75		底板
120	6	68	礫1層	曲物	17.5	2.5	0.6		底板カ
120	7	68	礫1層	曲物カ	15.6	1.5	0.2		底板カ、蓋板カ、又は祭祀具カ
120	8	68	礫1層	曲物カ	8.05	1.6	0.45		祭祀具カ
120	9	68	礫1層	曲物カ	8.2	3	0.5		底板カ、祭祀具カ
120	10	68	礫1層	曲物カ	7.5	2.75	0.4		
120	11	68	暗灰褐色粘質土層	曲物	19.0	5.0	0.9		底板
120	12	68	砂1層	曲物カ	22.3	4.0	0.2		曲物の底板を再利用カ、未使用の燃え差しカ既符木筒
120	13	68	暗灰褐色粘質土層	曲物カ	4.9	3.6	0.5		底板カ
120	14	68	砂1層	曲物	3.4	3.2	0.4		曲物の枠
120	15	68	暗灰褐色粘質土層	曲物カ	7.1	2.1	0.5		底板カ
120	16	68	礫1層	不明	33.6	4.2	1.6		桶カ
120	17	69	暗灰褐色粘質土層	不明	12.1	5.6	2.0		桶の一部カ
120	18	68	西側砂層	不明	12.1	1.0	0.7		曲物の底板の再利用カ
120	19	69	暗灰褐色粘質土層	不明	16.0	2.9	0.5		折敷の側板カ
120	20	69	暗灰褐色粘質土層	板状	13.0	6.4	0.6		暗桶の一部カ
120	21	68	暗灰褐色粘質土層	不明	7.3	4.5	0.55		桶の一部カ
121	1	69	黒褐色粘質土層	折敷	27.1	9.3	0.5		底板カ蓋板、桜皮残る
121	1	69	黒褐色粘質土層	不明	7.8	2.9	0.5		折敷の底板カ、木筒片
121	1	69	黒褐色粘質土層	曲物	9.6	3.1	0.2		側板
121	1	69	黒褐色粘質土層	曲物	9.6	3.0	0.15		側板
121	2	69	礫1層	折敷カ	25.2	3.0	0.45		底板カ
121	3	69	礫1層	折敷	22.7	9.0	0.3		底板
121	4	69	礫1層	曲物・折敷	9.9	4.3	0.5		木釘、桜皮で留める
121	5	69	礫1層	折敷	14.3	4.1	0.55		
121	6	69	礫1層	不明	13.9	4.0	0.6		折敷の底板の転用カ、もしくは船形木製品、中程に竹製の楔状のもの三ヶ所あり
121	7	69	礫1層～砂1層	桜皮	5.1	2.5	3.3		
121	8	69	砂1層	桜皮	3.5	2.2	1.8		
121	9	69	砂1層	桜皮	3.0	2.5	2.5		
121	10	69	礫1層	楔状	18.6	2.0	2.2		
121	11	69	東側礫1層	楔状	14.15	1.5	1.0		
121	12	69	東側礫1層	楔状	10.4	1.9	1.8		
121	13	69	礫1層	楔状	12.00	1.7	1.6		
121	14	69	暗灰褐色粘質土層	楔	9.6	3.6	2.1		
121	15	69	暗灰褐色粘質土層	楔状	14.75	3.4	3.0		楔カ栓カ・芯持材

図	番号	写真	層位	器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	樹種	備考
122	1	69	黒褐色粘質土層	浮子	22.5	5.4	1.0		両端部に2孔一対の孔
122	2	69	砂1層	浮子	11.8	3.6	4.5	スギ	端部に孔(径2.5)
122	3	69	暗灰褐色粘質土層	浮子カ	7.9	1.7	0.1		2孔
122	4	69	東側、礫1層~砂1層	浮子	17.0	2.1	0.4		両端部に孔(0.45)
122	5	69	砂1層	船形カ	19.7	4.6	2.7		
122	6	69	黒褐色粘質土層	浮子	7.7	1.6	0.5		
122	7	69	礫1層	浮子	8.5	1.5	0.6		
122	8	69	礫1層	火鑽白	21.7	2.2	1.25		未使用カ
122	9	69	暗灰色粘質土層	浮子	13.3	1.2	0.5		
122	10	69	礫1層	浮子	11.4	1.2	0.5		
122	11	69	黒褐色粘質土層	浮子	11.3	1.5	0.8		端部折り痕
122	12	69	黒褐色粘質土層	浮子カ	8.7	2.5	1.15		
122	13	69	暗灰褐色粘質土層	浮子	7.6	1.9	1.2		端部折り
122	14	69	暗灰褐色粘質土層	浮子	8.7	2.1	20.8		端部折り
122	15	69	砂1層	浮子カ	7.2	1.0	0.6		竹製カ
122	16	69	砂1層	浮子	9.3	1.4	1.1		端部折り
122	17	69	暗灰褐色粘質土層	不明	9.0	7.3	3.8		浮子カ
122	18	69	暗灰褐色粘質土層	不明	26.6	3.1	2.2		全体に摩滅、
122	19	69	試掘 第9層	不明	19	2.0	1.35		半裁端部加工、試掘
122	20	69	暗灰褐色粘質土層	不明	17.0	3.0	1.3		
122	21	69	暗灰褐色粘質土層	不明	11.1	3.0	0.6		切断痕
122	22	69	暗灰褐色粘質土層	不明	9.8	1.6	1.2		
122	23	69	暗灰褐色粘質土層	不明	8.0	3.0	2.6		両端部に加工痕、一端が炭化
122	24	69	礫1層	不明	26.2	5.5	2.1		浮子または椅子
123	1	70	礫1層	燃えさし	36.3	1.6	1.2		未使用、最大
123	2	70	礫1層	燃えさし	30.0	1.4	0.9		割板材
123	3	70	礫1層	燃えさし	30.0	3.6	1.8		割板材
123	4	70	礫1層	燃えさし	28.8	1.65	0.8		板材
123	5	70	礫1層	燃えさし	27.8	2.7	2.2		芯持材
123	6	70	礫1層	燃えさし	24.0	1.3	1.3		未使用
123	7	70	礫1層	燃えさし	21.7	1.4	1.1		割板材
123	8	70	礫1層	燃えさし	25.5	1.0	1.2		割板材
123	9	70	礫1層	燃えさし	23.1	1.6	1.6		割板材
123	10	70	礫1層	燃えさし	7.0	1.6	1.0		
123	11	70	礫1層	燃えさし	16.4	2.0	1.5		割板材
123	12	70	礫1層	燃えさし	15.1	2.0	0.5		割板材
123	13	70	礫1層	燃えさし	19.8	2.4	2.0		
123	14	70	礫1層	燃えさし	21.5	1.5	1.1		割板材
123	15	70	礫1層	燃えさし	20.2	2.5	1.2		割板材
123	16	70	礫1層	燃えさし	23.4	0.8	1.1		割板材
123	17	70	礫1層	燃えさし	19.0	1.5	0.9		割板材
123	18	70	礫1層	燃えさし	19.1	1.0	1.0		割板材
123	19	70	礫1層	燃えさし	20.4	2.2	1.4		割板材
123	20	70	礫1層	燃えさし	19.2	3.2	1.8		割板材
123	21	70	礫1層	燃えさし	13.0	0.7	0.7		祭祀用カ 箸状
123	22	70	礫1層	燃えさし	15.9	1.4	1.0		割板材
123	23	70	礫1層	燃えさし	10.6	1.2	0.8		未使用 割板状
123	24	70	礫1層	燃えさし	14.9	1.4	0.9		割板状
123	25	70	礫1層	燃えさし	15.0	1.2	1.0		
124	1	71	礫1層	燃えさし	15.3	1.7	1.2		割板材
124	2	71	礫1層	燃えさし	14.4	1.0	0.9		芯持材
124	3	71	礫1層	燃えさし	12.3	1.0	0.9		芯持材
124	4	71	礫1層	燃えさし	15.3	1.4	0.9		割板材
124	5	71	礫1層	燃えさし	15.0	1.5	0.8		割板材
124	6	71	礫1層	燃えさし	14.1	1.5	1.3		割板材
124	7	71	礫1層	燃えさし	12.7	0.9	0.9		割板材
124	8	71	礫1層	燃えさし	12.8	2.1	0.8		割板材
124	9	71	礫1層	燃えさし	12.4	3.0	1.6		
124	10	71	礫1層	燃えさし	13.4	3.0	1.9		割板材

図	番号	写真	層位	器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	樹種	備考
124	11	71	礫1層	燃えさし	13.5	1.6	1.0		割板材
124	12	71	礫1層	燃えさし	12.5	1.7	1.2		割板材
124	13	71	礫1層	燃えさし	9.8	1.7	1.1		
124	14	71	礫1層	燃えさし	8.8	1.5	1.0		割板材
124	15	71	礫1層	燃えさし	9.3	1.9	1.6		割板材
124	16	71	礫1層	燃えさし	9.1	1.4	0.7		割板材
124	17	71	礫1層	燃えさし	8.8	2.1	1.3		
124	18	71	礫1層	燃えさし	9.2	1.5	0.7		割板材
124	19	71	礫1層	燃えさし	9.1	2.0	0.8		割板材
124	20	71	礫1層	燃えさし	7.7	0.6	0.7		箸状
124	21	71	礫1層	燃えさし	10.2	3.9	2.2		割板材
124	22	71	礫1層	燃えさし	11.0	1.2	0.7		割板材
124	23	71	礫1層	燃えさし	10.8	1.4	0.8		割板材
124	24	71	礫1層	燃えさし	12.0	2.0	0.5		割板材
124	25	71	礫1層	燃えさし	11.9	1.4	1.1		割板材
124	26	71	礫1層	燃えさし	9.4	1.5	0.9		割板材
124	27	71	礫1層	燃えさし	9.2	1.7	1.2		
124	28	71	礫1層	燃えさし	8.7	1.1	1.3		未使用 割板材
124	29	71	礫1層	燃えさし	8.2	1.9	1.1		割板材
124	30	71	礫1層	燃えさし	6.4	1.4	0.6		
124	31	71	礫1層	燃えさし	7.3	2.4	2.2		
124	32	71	礫1層	燃えさし	7.1	1.6	1.1		
124	33	71	礫1層	燃えさし	7.3	1.0	0.3		割板材
124	34	71	礫1層	燃えさし	7.4	1.4	0.5		割板材
124	35	71	礫1層	燃えさし	7.6	1.5	1.3		
124	36	71	礫1層	燃えさし	7.2	2.0	1.0		割板材
124	37	71	礫1層	燃えさし	4.7	0.9	0.7		割板材
125	1	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	29.2	1.8	0.8		割板材
125	2	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	19.8	1.7	1.0		割板材
125	3	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	8.6	1.1	0.4		竹カ
125	4	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	11.7	1.4	1.6		割板材
125	5	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	11.4	1.7	1.5		板割材
125	6	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	22.0	1.3	0.9		割板材
125	7	72	暗灰褐色粘質土層	燃えさし	23.2	1.7	0.9		割板材
125	8	72	砂1層	燃えさし	26.0	1.9	0.7		割板材
125	9	72	砂1層	燃えさし	27.4	1.3	0.5		板割材
125	10	72	砂1層	燃えさし	22.5	1.1	1.3		板割材
125	11	72	砂1層	燃えさし	27.0	2.0	1.0		板割材
125	12	72	砂1層	燃えさし	27.7	3.4	2.0		板割材
125	13	72	砂1層	燃えさし	24.7	2.9	1.6		
125	14	72	砂1層	燃えさし	23.8	3.0	2.0		
125	15	72	砂1層	燃えさし	21.6	1.5	1.2		板割材
125	16	72	砂1層	燃えさし	19.8	1.3	0.55		細板状
125	17	72	砂1層	燃えさし	19.0	2.1	1.5		板割材
125	18	72	砂1層	燃えさし	20.6	0.8	0.6		割板材
125	19	72	砂1層	燃えさし	18.6	3.2	0.6		板割材
125	20	72	砂1層	燃えさし	19.3	1.6	0.8		板割材
125	21	72	砂1層	燃えさし	17.1	2.5	1.3		板割材
125	22	72	砂1層	燃えさし	19.2	2.0	1.0		割板材
125	23	72	砂1層	燃えさし	13.3	3.7	1.4		割板材
125	24	72	砂1層	燃えさし	15.8	1.7	0.8		板割材
125	25	72	礫1層	燃えさし	16.1	1.6	0.7		板割材
125	26	72	砂1層	燃えさし	8.3	1.0	0.4		
125	27	72	砂1層	燃えさし	8.3	1.4	1.3		割板材
125	28	72	砂1層	燃えさし	11.4	1.2	0.9		
125	29	72	礫1層	燃えさし	8.1	0.9	0.6		祭祀用カ
125	30	72	砂1層	燃えさし	9.5	1.0	0.7		未使用
125	31	72	砂1層	燃えさし	11	1.1	0.5		割板材
125	32	72	砂1層	燃えさし	8.3	1.7	1.1		割板材

図	番号	写真	層位	器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚み	樹種	備考
125	33	72	砂1層	燃えさし	11.5	1.5	1.0		板割材
125	34	72	砂1層	燃えさし	11.4	1.2	0.8		
125	35	72	砂1層	燃えさし	11.3	1.5	1.0		板割材
125	36	72	砂1層	燃えさし	5.4	0.4	0.6		祭祀用カ 簀状
125	37	72	砂1層	燃えさし	12.2	1.2	1.1		割板材
125	38	72	礫1層	燃えさし	13.6	1.4	0.75		割板材
125	39	72	砂1層	燃えさし	16.7	2.5	1.6		
125	40	72	砂1層	燃えさし	15.8	1.5	1.25		割板材
125	41	72	砂1層	燃えさし	16.5	1.95	1.5		未使用 割板材

B区 サメの歯

図	番号	写真	出土地	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	種類	部位 (上下前奥)	備考
	1		試掘 T27		1.5	1.2	0.33	メジロザメ科	下	根本欠
	2		東側	礫2層	1.2	1.7	0.2		上	根本欠
	3		東側	礫2層	1.2	1.2	0.11		上	根本欠
	4	72	東側	砂1層	2.4	2.5	1.28		上	根本一部欠
	5		東側	礫2層	2.1	2.1	0.88		上	根本一部欠
	6		東側	礫2層	2.1	1.7	0.78		上	根本一部欠
	7	72	東側	礫2層	2.0	2.0	0.61		上	根本一部欠
	8		東側	礫2層	1.6	1.9	0.52		下カ	根本一部欠
	10		東側	礫2層	1.5	1.3	0.32		上	根本欠
	11		東側	礫2層	1.3	0.8	0.17		下カ	根本一部欠
	12	72	東側	礫2層	2.1	2.1	0.79		上	
	13		東側	礫2層	-	-	0.02		-	小片の為計測不能
	14		東側	礫2層	2.0	2.1	0.77		上	根本一部欠
	15		東側	礫2層	1.6	1.8	0.42		上	根本一部欠
	16		東側	礫2層	1.7	1.8	0.52		上	根本欠
	17		東側	礫2層	1.5	1.8	0.35		上	
	18		東側	礫2層	1.8	1.7	0.46	ヤジブカ	下	根本一部欠
	19	72	東側	礫2層	2.1	2.0	0.84			
	20		東側	礫2層	1.9	2.0	0.88			
	21		東側	礫2層	1.8	1.8	0.67			
	22		東側	礫2層	1.4	1.4	0.39			
	23		東側	礫2層	1.8	1.5	0.55			根本一部欠
	24		東側	礫2層	1.8	1.6	0.59			
	25		東側	礫2層	1.8	1.4	0.54		下カ	根本一部欠
	26		東側	礫2層	1.2	0.7	0.09		-	根本無
	27		東側	礫2層	2.0	1.3	0.57		下カ	根本欠
	28	72	東側	礫2層	1.5	1.9	0.33		下カ	根本欠
	29		東側	礫2層	1.5	1.5	0.29		上	
	30	72	東側	礫2層	2.0	1.8	0.7		上	
	31		東側	礫2層	1.9	1.7	0.56		上	
	32		東側	礫2層	2.0	2.3	0.99		上	完形
	33		東側	礫2層	2.1	1.9	0.76		上	
	34	72	東側	礫2層	2.0	1.8	0.77		上	一部欠
	35		東側	礫2層	2.1	2.3	1.2		上	
	36		東側	礫2層	1.8	1.9	0.73		上	
	37		東側	礫2層	2.2	2.3	0.8		上	
	38	72	東側	礫2層	2.0	2.4	1.06		上	
	39		東側	礫2層	1.9	2.0	0.79		上	
	40		東側	礫2層	1.7	1.9	0.6		上	
	41		東側	礫2層	1.8	1.9	0.71		上	
	42		東側	礫2層	2.1	1.5	0.49		上	根本一部欠
	43		東側	礫2層	1.2	1.3	0.3		下	根本一部欠
	44		東側拡張部	礫2層	2.3	2.3	1.42			完形
	45	72	東側拡張部	礫2層	1.8	1.8	0.61			
	46		東側拡張部	礫2層	2.2	2.0	0.86			根本一部欠
	47	72	東側拡張部	礫2層	1.7	1.7	0.42			完形
	48		東側拡張部	礫2層	1.3	1.4	0.16			根本欠
	49		東側	礫2層	1.8	2.1	0.61		上	根本一部欠
	50		東側	礫2層	1.7	1.6	0.42		下カ	根本一部欠
	51		東側	礫2層	1.7	1.3	0.48		下	根本一部欠
	52		東側	礫2層	1.3	1.7	0.26		上	根本欠
	53		東側	礫2層	1.2	1.2	0.26		上	根本欠
	54		東側	礫2層	0.9	0.8	0.05		-	根本欠
	55		東側	礫2層	2.1	1.9	0.78		上前歯	漆カ
	56		東側	礫2層	2.0	2.0	0.88		上	根本一部欠
	57		東側	礫2層	1.9	1.8	0.89		上	鏃?
	58		東側	礫2層	1.6	1.9	0.46		上	根本欠

図	番号	写真	出土地	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	種類	部位(上下前奥)	備考
	59		東側	礫2層	1.2	1.7	0.32		上	根本欠
	60		東側	礫2層	1.4	1.7	0.29		上奥歯	根本欠
	61		東側	礫2層	1.8	1.2	0.53		下	根本欠
	62		東側	礫2層	1.5	2.5	1.14		-	エナメル質欠
	63		東側	礫2層	2.0	2.1	0.74		下カ	完形
	64		東側	礫2層	2.1	1.9	0.96		上	一部欠
	65		東側	礫2層	1.9	2.4	0.93		上	完形
	66		東側	礫2層	1.7	1.9	0.8		上	
	67		東側	礫2層	2.0	1.9	0.79		上	一部欠
	68		東側	礫2層	1.7	1.8	0.5		上	
	69		東側	礫2層	1.7	2.0	0.54		上	一部欠
	70		東側	礫2層	1.5	1.7	0.4		上	根本欠
	71		東側	礫2層	1.7	1.7	0.47		上	
	72		東側	礫2層	1.8	1.4	0.38		下カ	根本欠
	73		東側	礫2層	1.6	0.9	0.24		下	一部欠
	74		東側	礫2層	1.3	1.3	0.24		上	根本欠
	75		東側	礫2層	1.0	1.4	0.16		上	根本欠
	76		東側	礫2層	-	-	0.03		-	
	77		東側	礫2層	1.6	1.7	0.21		上	根本欠
	78		中央	礫2層	1.9	1.9	0.81		上	根本一部欠
	79		東側	礫2層	1.8	2.0	0.74		上	一部欠
	80		東側	礫2層	1.6	1.9	0.39		上	
	81		東側	礫2層	2.2	1.8	0.87		上	根本一部欠
	82		東側	礫2層	1.7	1.5	0.5		下	根本欠
	83		東側	礫2層	2.0	1.6	0.56		下カ	根本欠
	84		東側	礫2層	1.6	1.4	0.49		上	根本欠
	85		東側	礫2層	2.0	1.4	0.4		上	根本欠
	86		東側	礫2層	1.9	1.9	0.6		下	一部欠
	87		東側	礫2層	1.4	1.6	0.35		下	一部欠
	88		東側	礫2層	2.0	1.5	0.42		上	根本欠
	89		中央	礫2層	1.6	1.9	0.5		上	根本一部欠
	90		東側	礫2層	1.9	1.9	0.63		上	根本一部欠
	91		東側	礫2層	1.6	1.6	0.4		上	一部欠
	92		東側	礫2層	1.9	1.8	0.62		上	
	93		東側	礫2層	1.1	1.3	0.08		上カ	根本欠
	94		中央	礫2層	2.0	2.1	0.69		上	
	95		中央	礫2層	0.8	0.5	0.05		-	根本欠
	96		東側	礫2層	1.9	1.4	0.47		下	根本一部欠
	97		東側	礫2層	1.7	1.7	0.44		上	
	98		中央	礫2層	1.5	1.6	0.34		上	
	99		中央	礫2層	1.9	1.3	0.51		下	根本一部欠
	100		中央	礫2層	1.6	1.4	0.19		上カ	根本欠
	101		中央	礫2層	1.7	1.8	0.5		上	根本一部欠
	102		中央	礫2層	1.9	1.9	0.56		上	根本一部欠
	103		中央	礫2層	1.7	2.0	0.6		上	根本一部欠
	104		中央	礫2層	1.6	1.7	0.35		上	根本欠
	105		中央	礫2層	1.6	1.6	0.37		上	根本欠
	106		中央	礫2層	1.5	1.1	0.25		下	根本欠
	107		中央	礫2層	2.3	2.4	1.17		上	完形
	108		東側	礫2層	1.4	1.7	0.31		下	完形
	109		東側	礫2層	1.8	1.5	0.52		下	根本一部欠
	110		東側	礫2層	2.1	1.7	0.6		下	根本一部欠
	111		東側	礫2層	1.6	1.6	0.47		上	根本一部欠
	112		東側	礫2層	1.7	1.6	0.46		上	根本一部欠
	113		中央	礫2層	1.6	1.7	0.45		上	根本一部欠
	114		中央	礫2層	1.1	1.2	0.08		上	根本欠
	115		中央	礫2層	1.5	1.7	0.27		下	根本欠
	116		中央	礫2層	1.7	1.7	0.4		上	根本一部欠
	117		中央	礫2層	1.9	2.1	0.85		上	完形
	118		東側	礫2層	1.5	1.5	0.39		上	根本欠
	119		東側	礫2層	1.6	1.6	0.34		上	根本一部欠
	120		東側	礫2層	1.3	1.5	0.24		上	根本欠
	121		東側	礫2層	2.4	2.2	1.14		上	根本一部欠
	122		東側	礫2層	1.2	1.0	0.15		-	根本一部欠
	123		東側	礫2層	1.2	2.0	1.05		上	根本一部欠
	124		東側	礫2層	2.0	1.8	0.66		上	根本一部欠
	125		東側	礫2層	1.7	1.7	0.47		上	根本一部欠
	126		東側	礫2層	1.8	1.7	0.48		上	根本一部欠
	127		東側	礫2層	1.6	1.3	0.27		上	根本欠
	128		東側	礫2層	1.8	1.9	0.52		上	根本一部欠
	129		東側	礫2層	2.0	1.5	0.48		下	根本一部欠
	130		東側	礫2層	1.7	1.7	0.37		上	根本一部欠
	131		中央	礫2層	1.7	1.9	0.54		上	根本一部欠

図	番号	写真	出土地	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	種類	部位 (上下前奥)	備考
	132		中央	礫2層	1.6	1.5	0.35		上	根本一部欠
	133		中央	礫2層	1.8	1.4	0.36		上	根本欠
	134		東側	礫2層	2.0	1.6	0.57		下	根本一部欠
	135		東側	礫2層	1.5	1.2	0.38		上	根本欠
	136		東側	礫2層	1.3	0.8	0.24		-	根本欠
	137		東側拡張部	礫2層	1.9	1.8	0.61		上	根本一部欠
	138		東側拡張部	礫2層	1.8	2.0	0.61		上	一部欠
	139		東側拡張部	礫2層	1.6	1.5	0.43		上	根本一部欠
	140		東側拡張部	礫2層	1.8	1.6	0.35		上	根本一部欠
	141		東側拡張部	礫2層	2.0	1.8	0.65		上	根本一部欠
	142		東側拡張部	礫2層	2.0	2.0	0.6		上	
	143		東側拡張部	礫2層	1.2	1.6	0.21		上	根本欠
	144		東側拡張部	礫2層	1.5	1.8	0.36		上	根本欠
	145		東側	礫2層	1.5	1.8	0.36		上	根本一部欠
	146		東側拡張部	礫2層	1.7	1.5	0.35		上カ	根本一部欠
	147		東側拡張部	礫2層	1.1	1.3	0.18			根本欠
	148		東側拡張部	礫2層	2.1	2.1	0.91			
	149		東側拡張部	礫2層	1.7	1.3	0.43			根本一部欠
	150		東側拡張部	礫2層	1.5	1.6	0.25			根本一部欠
	151		東側拡張部	礫2層	1.9	1.6	0.59			根本欠
	152		廃土中		2.0	2.0	0.53			根本一部欠
	153		廃土中		1.5	0.9	0.16			先端部
	154		廃土中		1.2	0.9	0.08			先端部
	155		廃土中		1.3	1.1	0.1			先端部
	156		廃土中		1.3	0.7	0.09			先端部



若宮谷遺跡
写真図版



1. 若宮谷遺跡 遠景（西から）



2. 若宮谷遺跡 全景（西から）



1. 若宮谷遺跡 A1区調査後（北から）



2. 若宮谷遺跡 A2区（西から）



1. 若宮谷遺跡 B1区掘削後（東から）



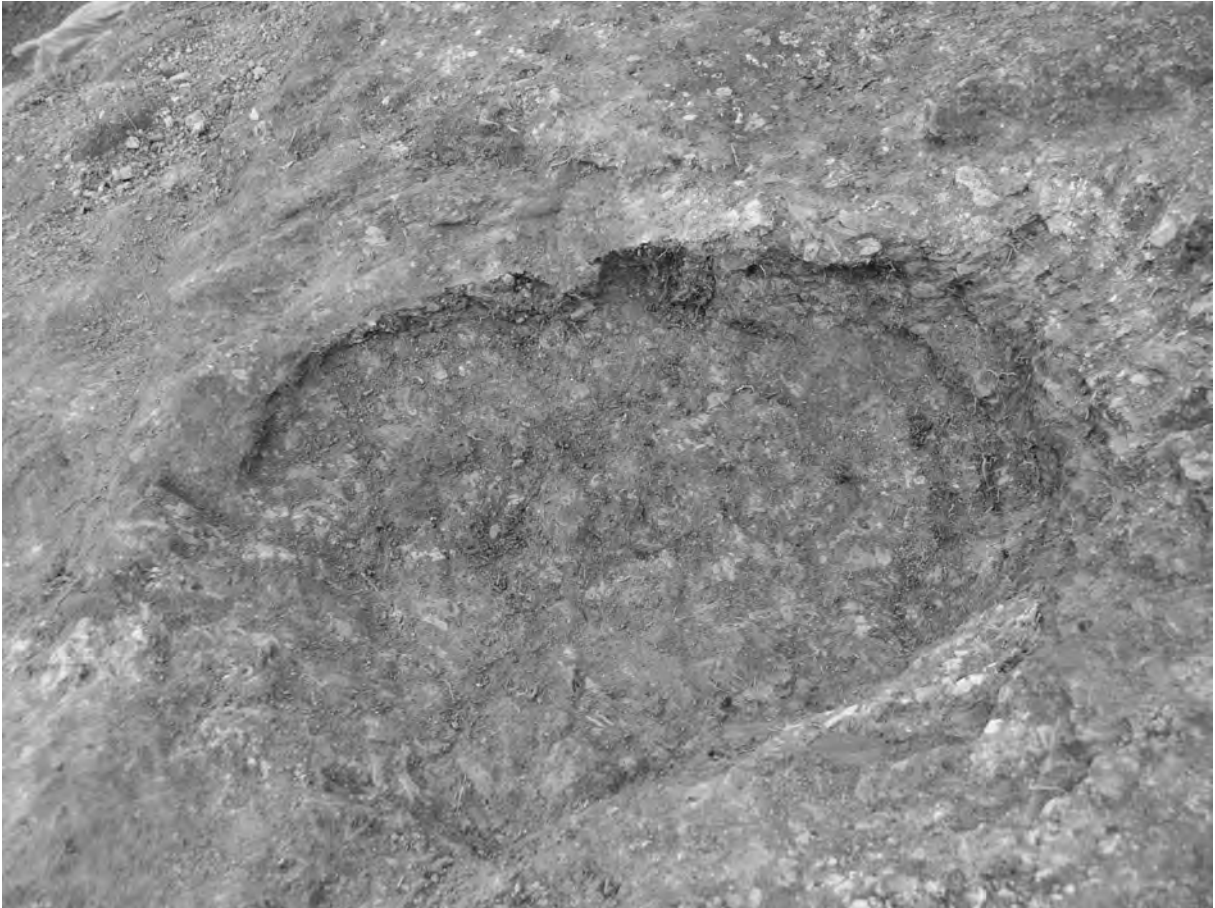
2. 若宮谷遺跡 B1区礎検出面（南東から）



1. 若宮谷遺跡 B2区 (南東から)



2. 若宮谷遺跡 B3区 SK02 完屈状況 (北から)



1. 若宮谷遺跡 B3区 SK03 完掘状況 (南東から)



2. 若宮谷遺跡 B4区 (南東から)



1. 若宮谷遺跡 B4区 (北西から)



2. 若宮谷遺跡 B4区 SD09 (北東から)



1. 若宮谷遺跡 B4区 (南東から)



2. 若宮谷遺跡 B4区 (南から)



1. 若宮谷遺跡 B4区 SA12 (南西から)



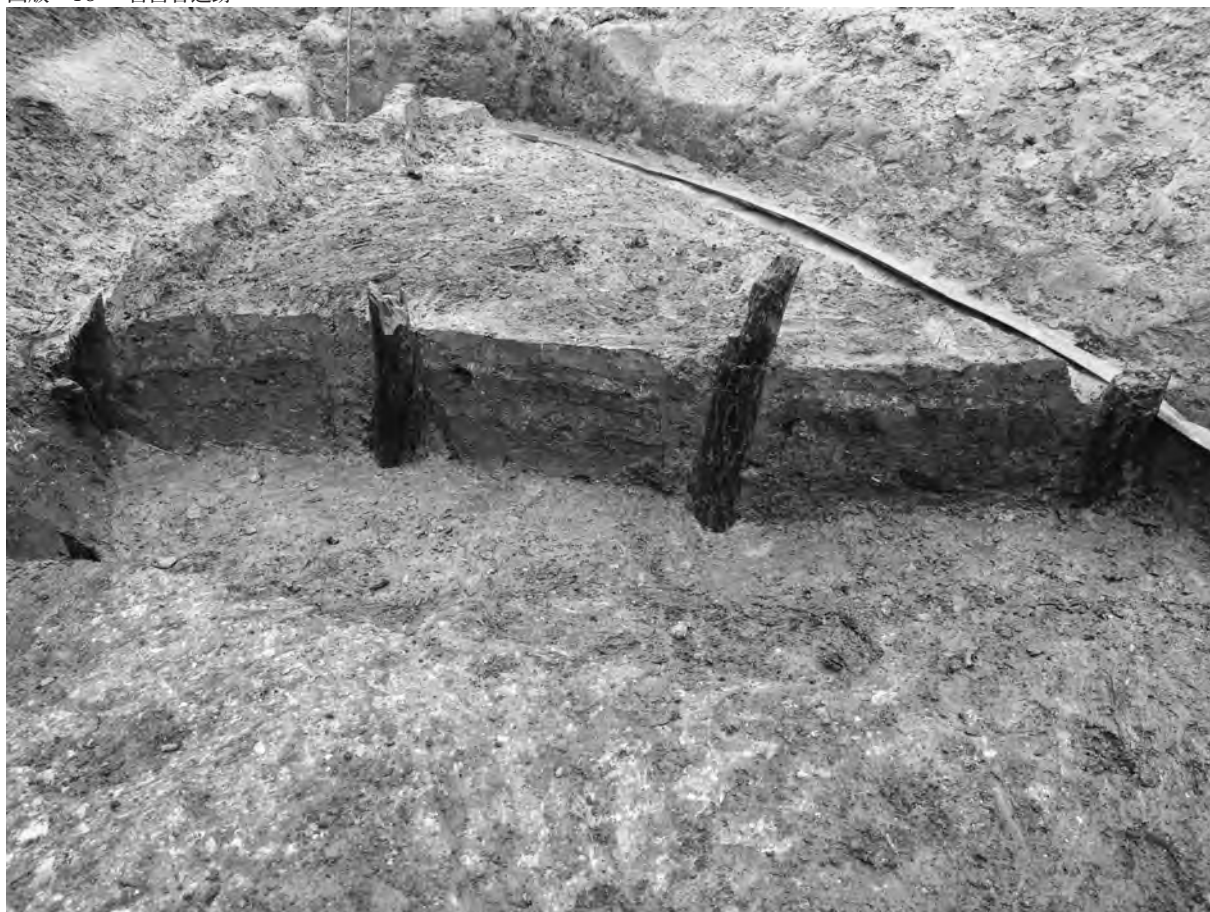
2. 若宮谷遺跡 B4区 SB01 (南西から)



1. 若宮谷遺跡 B4区SB01 P-75 (南西から)



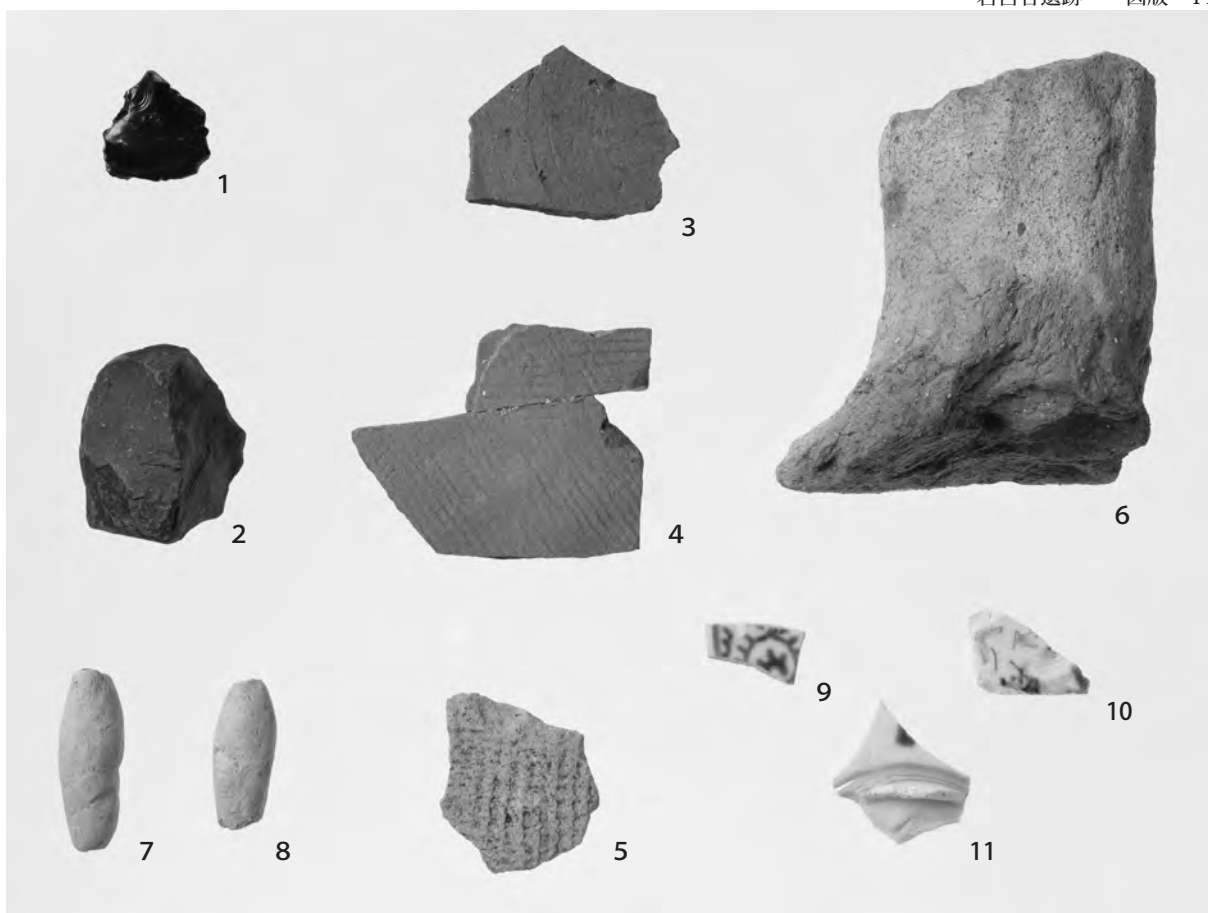
2. 若宮谷遺跡 B4区下駄出土状況



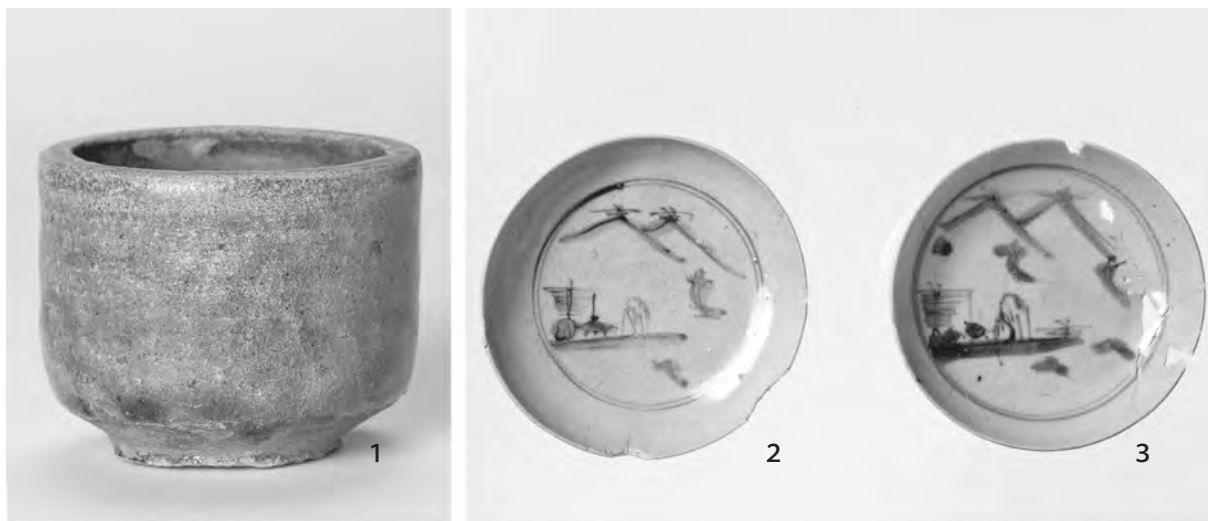
1. 若宮谷遺跡 B4区杭列（北西から）



2. 若宮谷遺跡 B4区南壁土層堆積状況（北から）



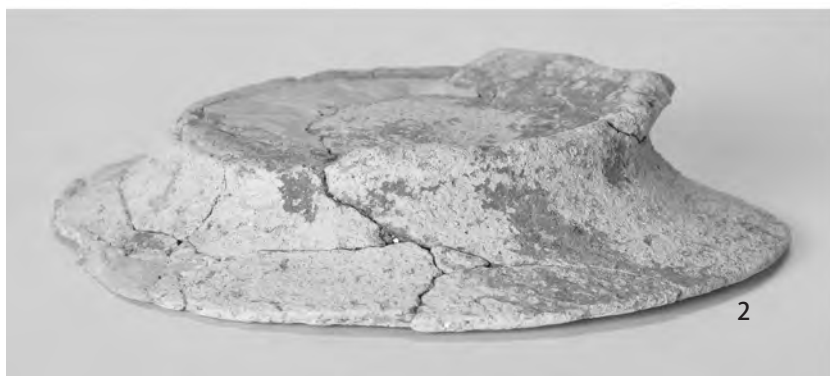
1. 若宮谷遺跡 A区出土遺物 (第9図)



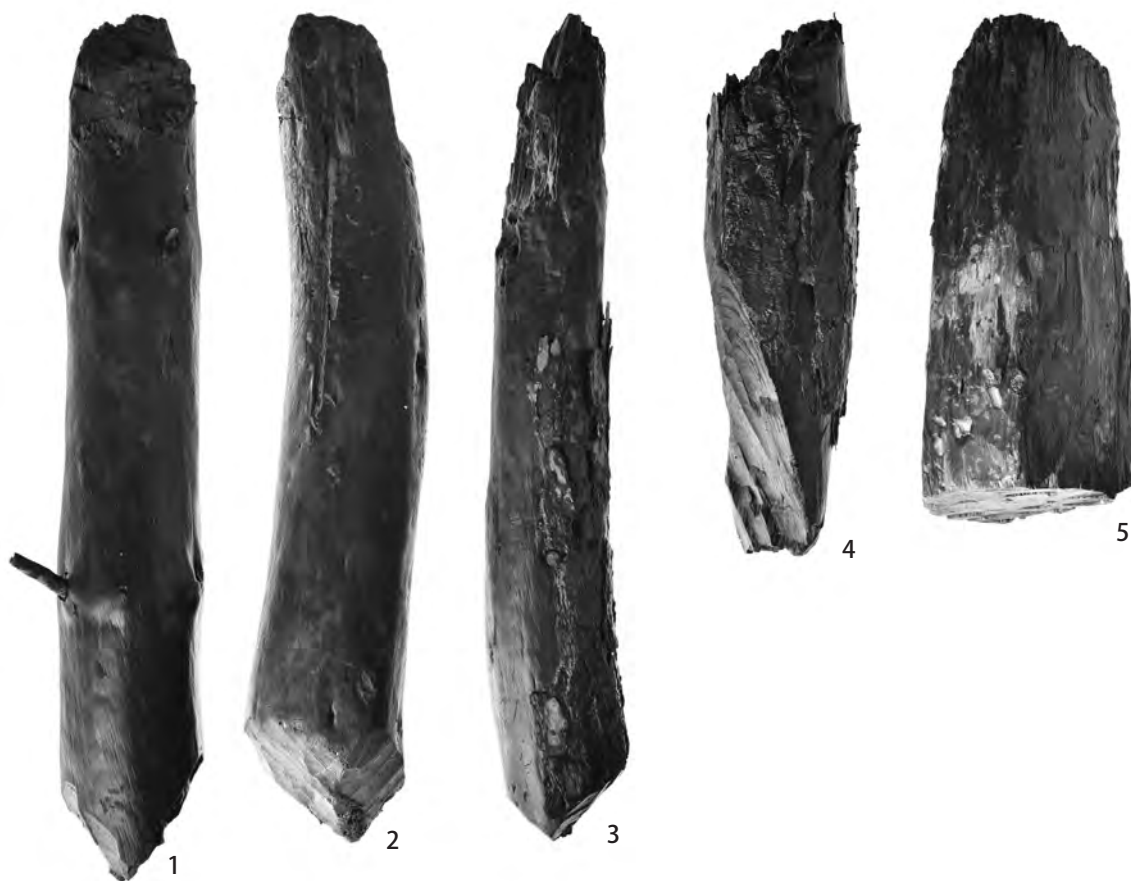
2. 若宮谷遺跡 B3区SK02出土遺物 (第13・15図)



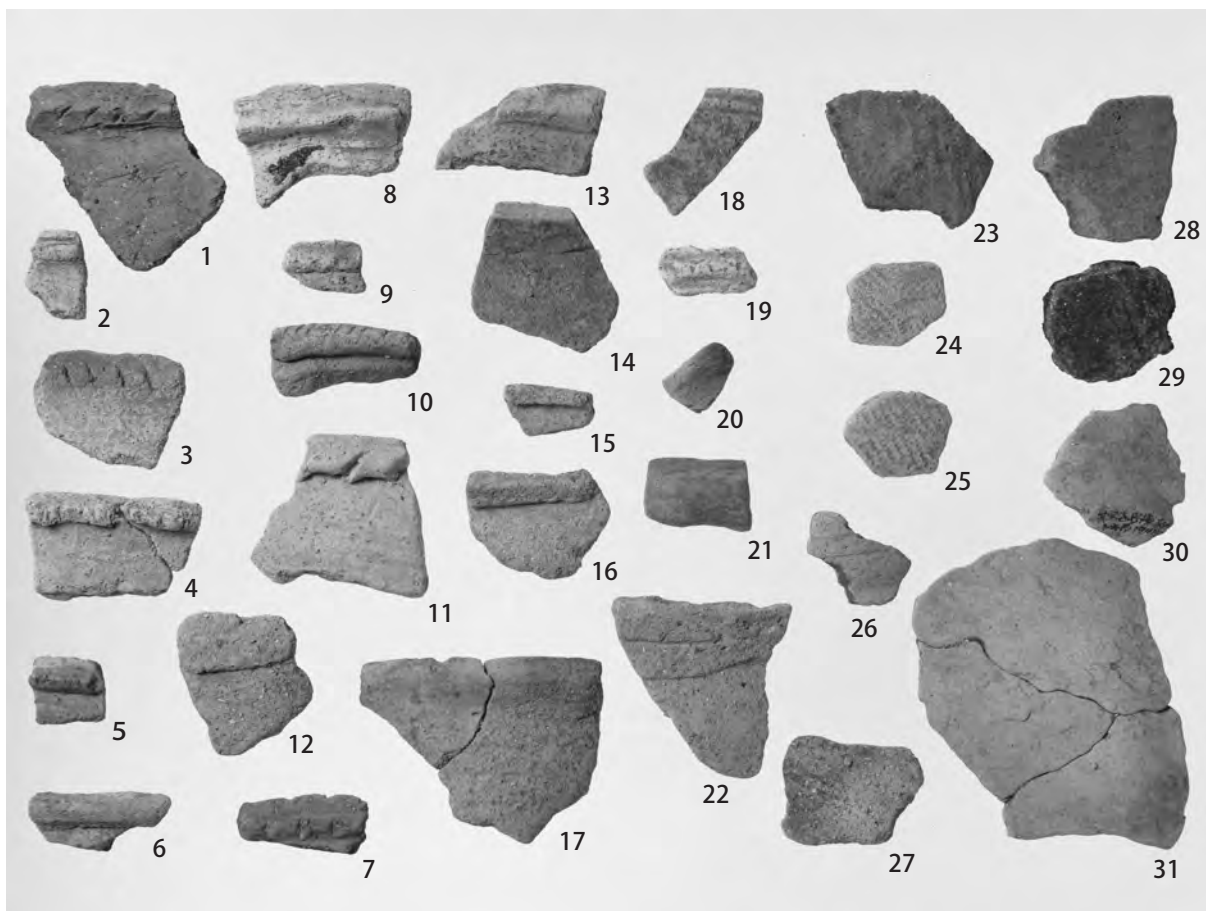
1. 若宮谷遺跡 B4区SD09出土遺物(第20図)



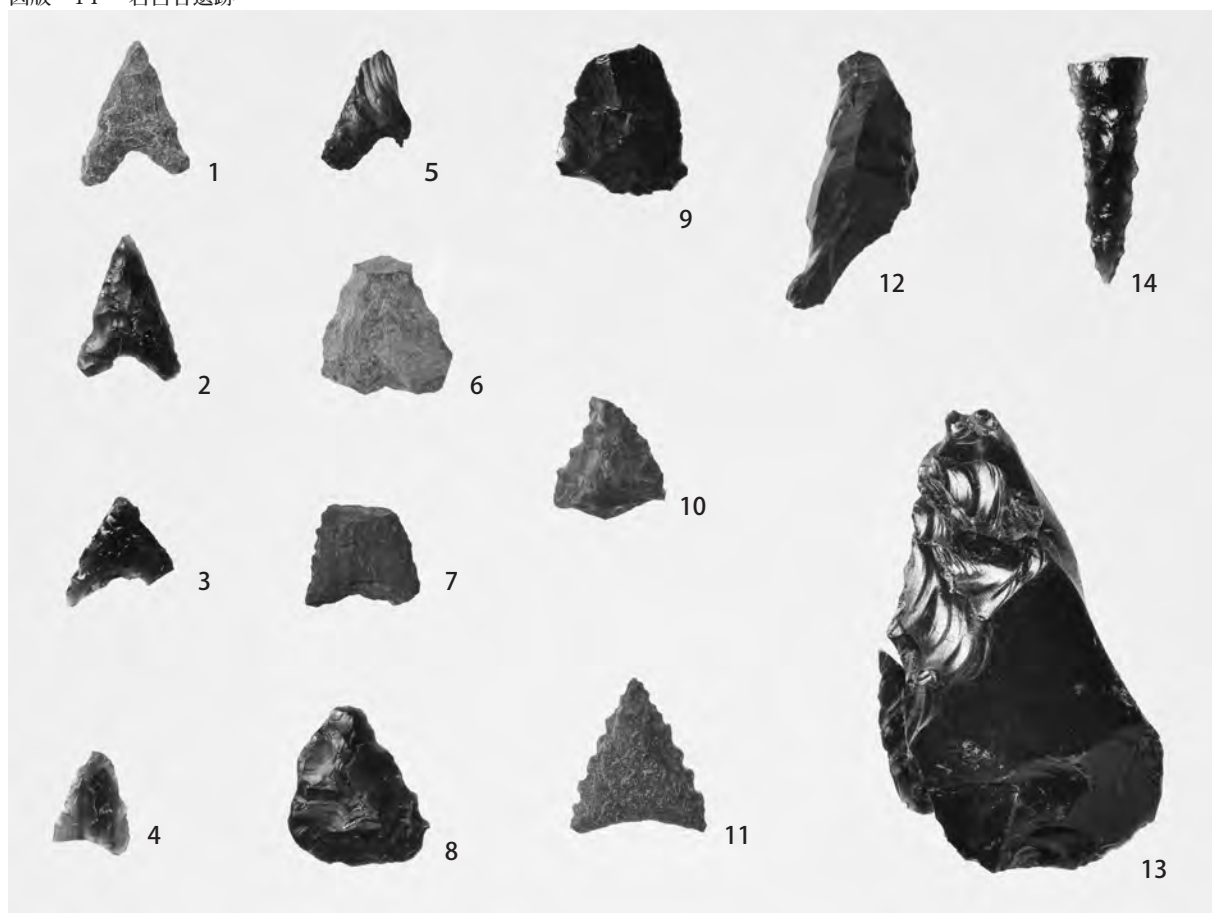
2. 若宮谷遺跡 B4区SD09出土遺物(第20図)



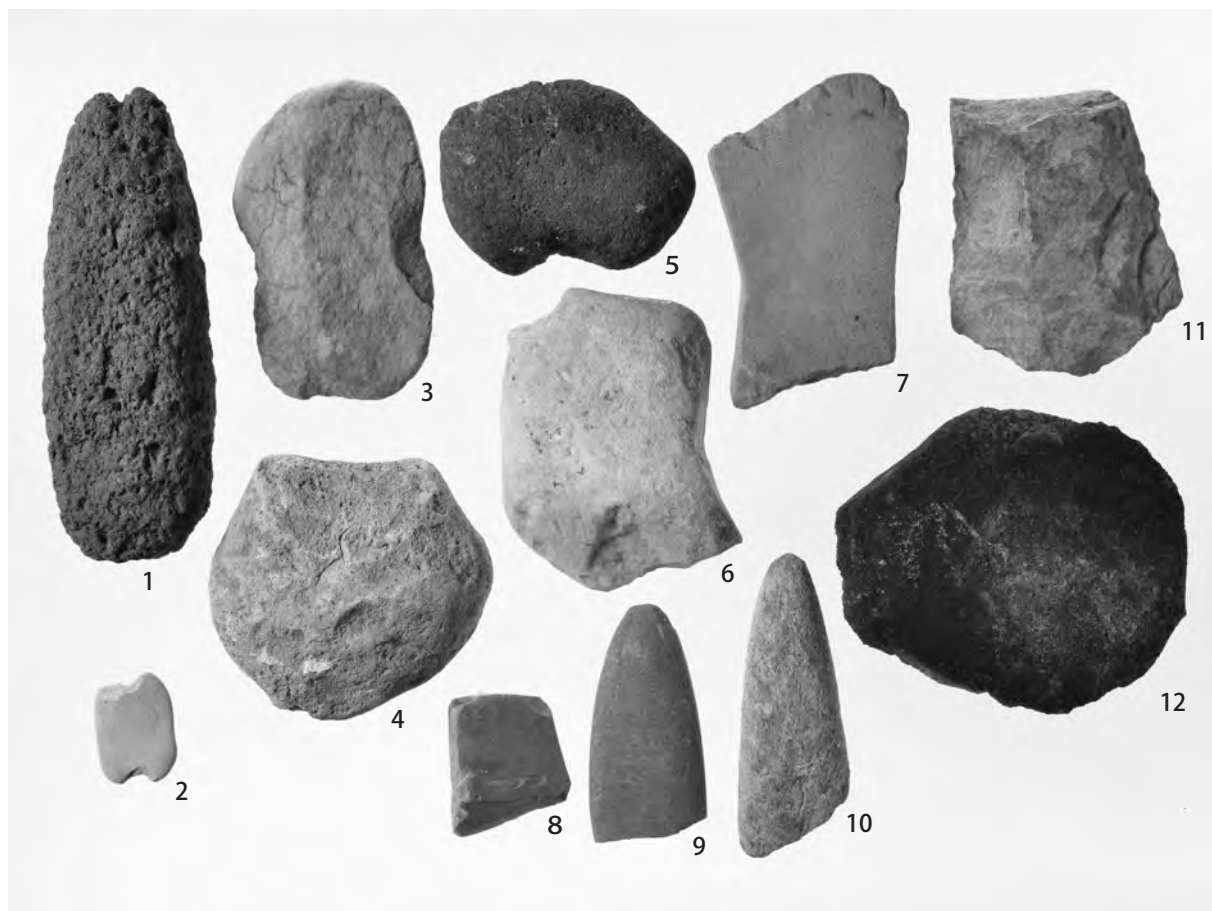
1. 若宮谷遺跡 B4区杭列、SB01出土遺物 (第26図)



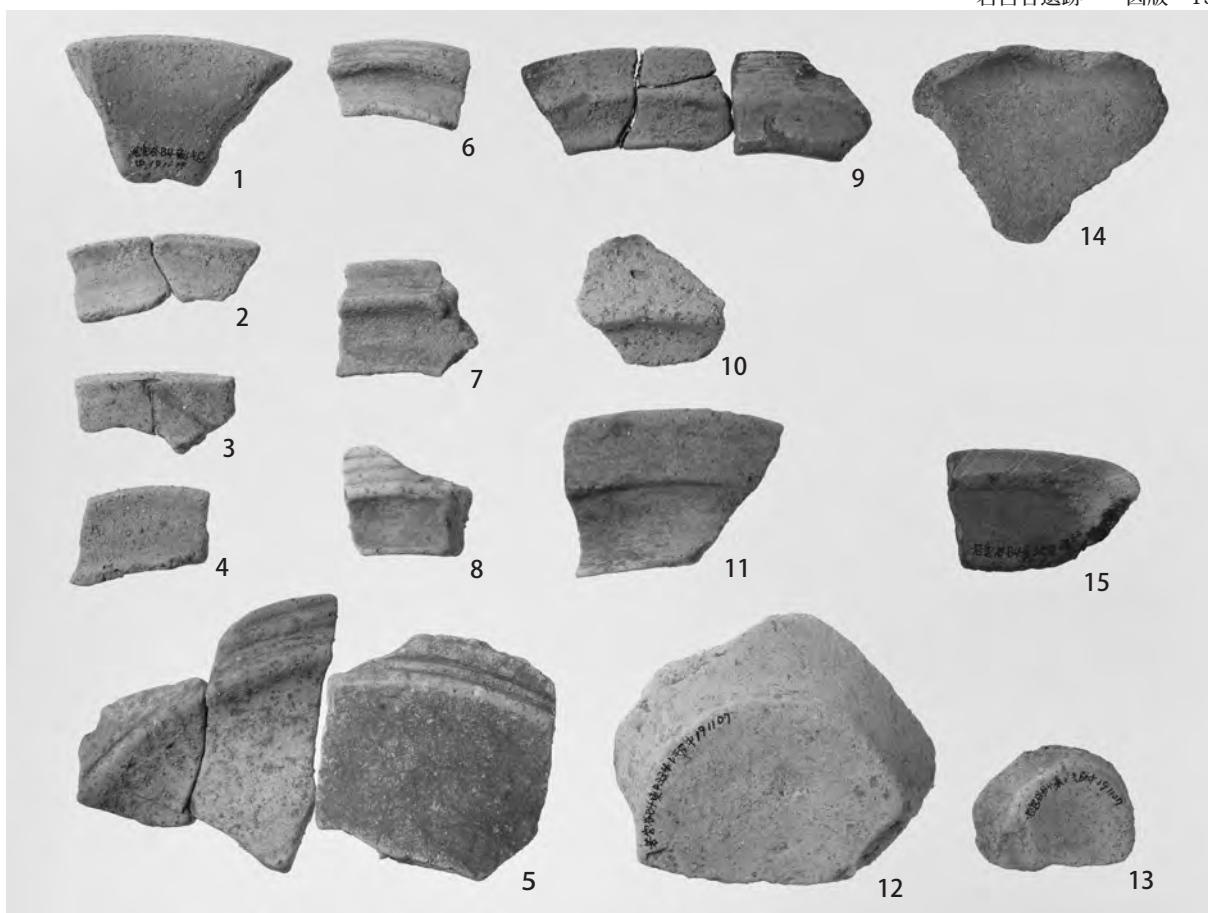
2. 若宮谷遺跡 B4区出土土器 (第27図)



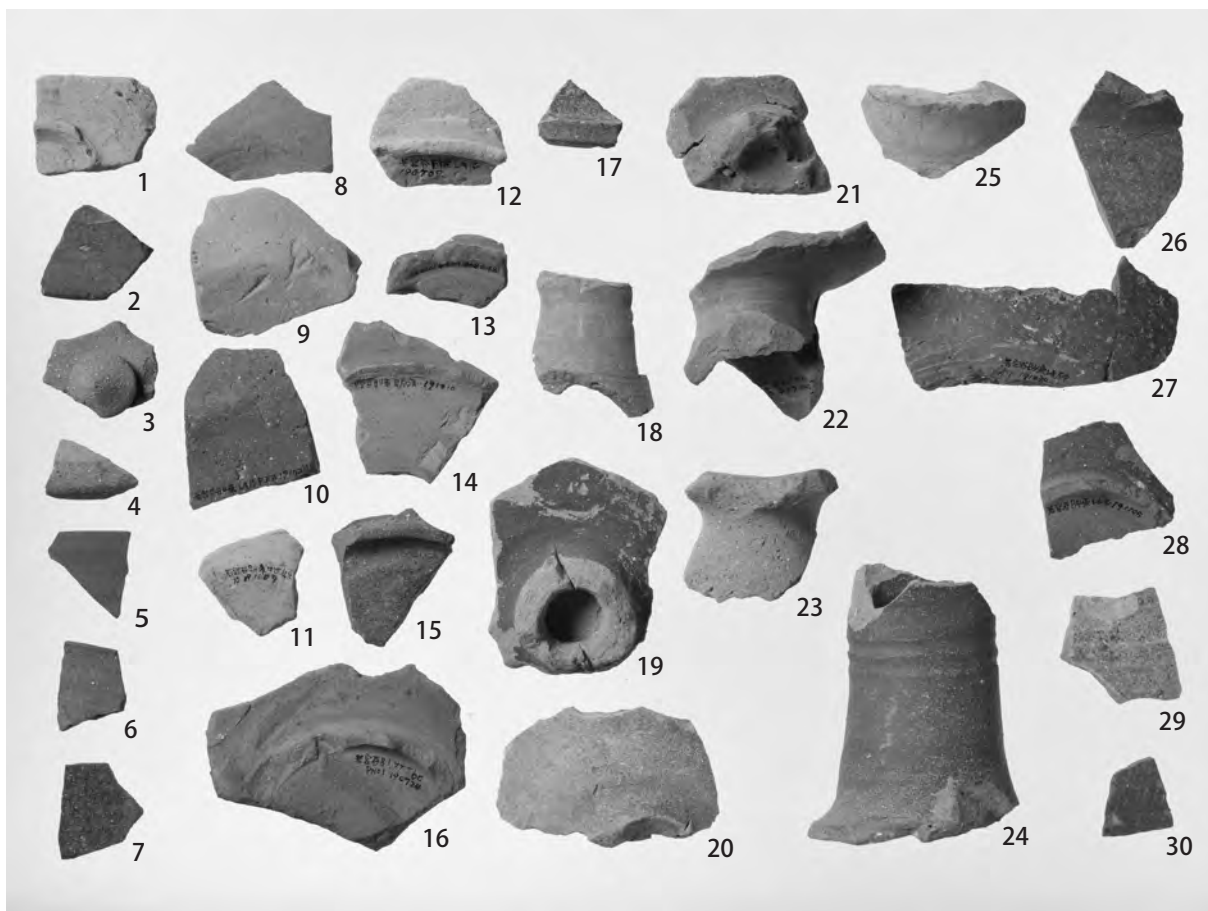
1. 若宮谷遺跡 B4区出土石器 (28 図)



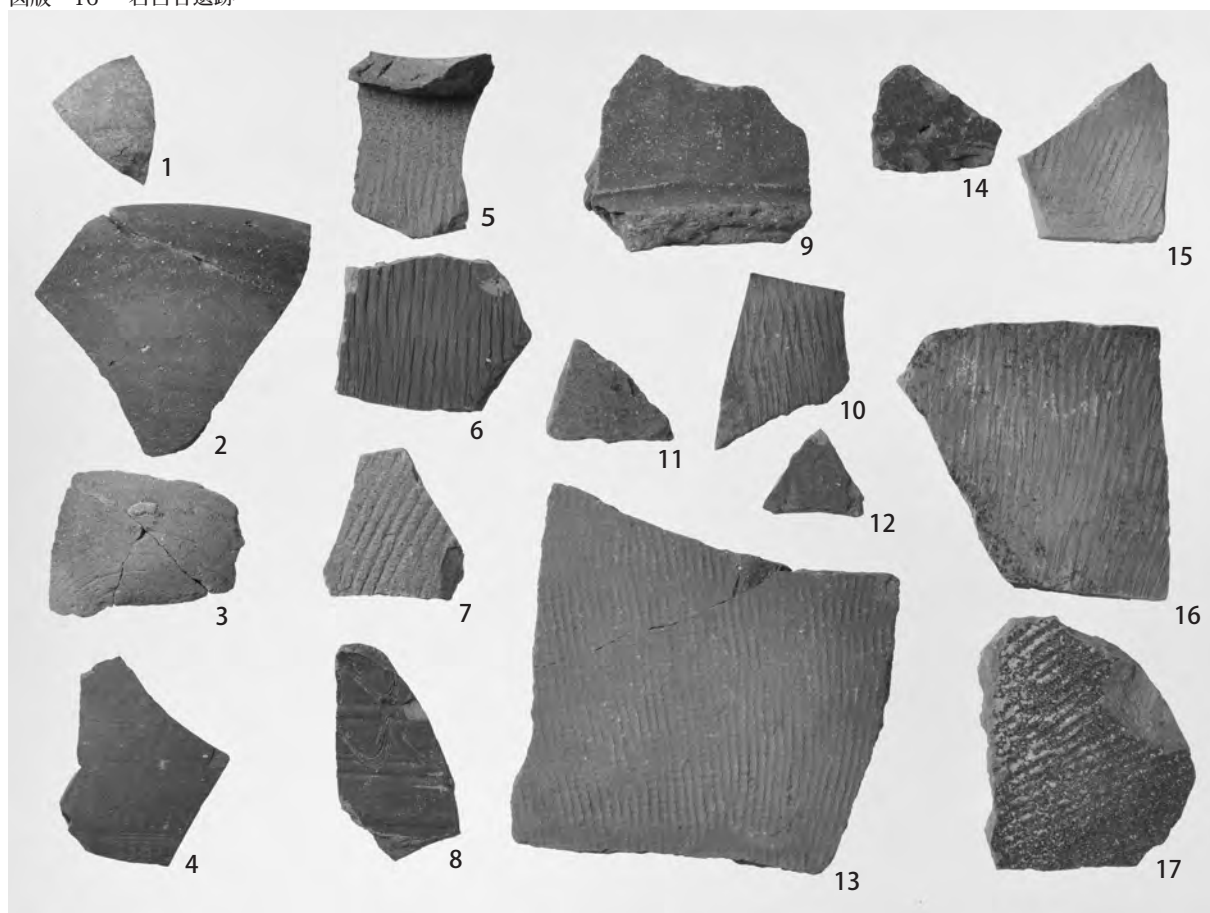
2. 若宮谷遺跡 B4区出土石器 (第 29 図)



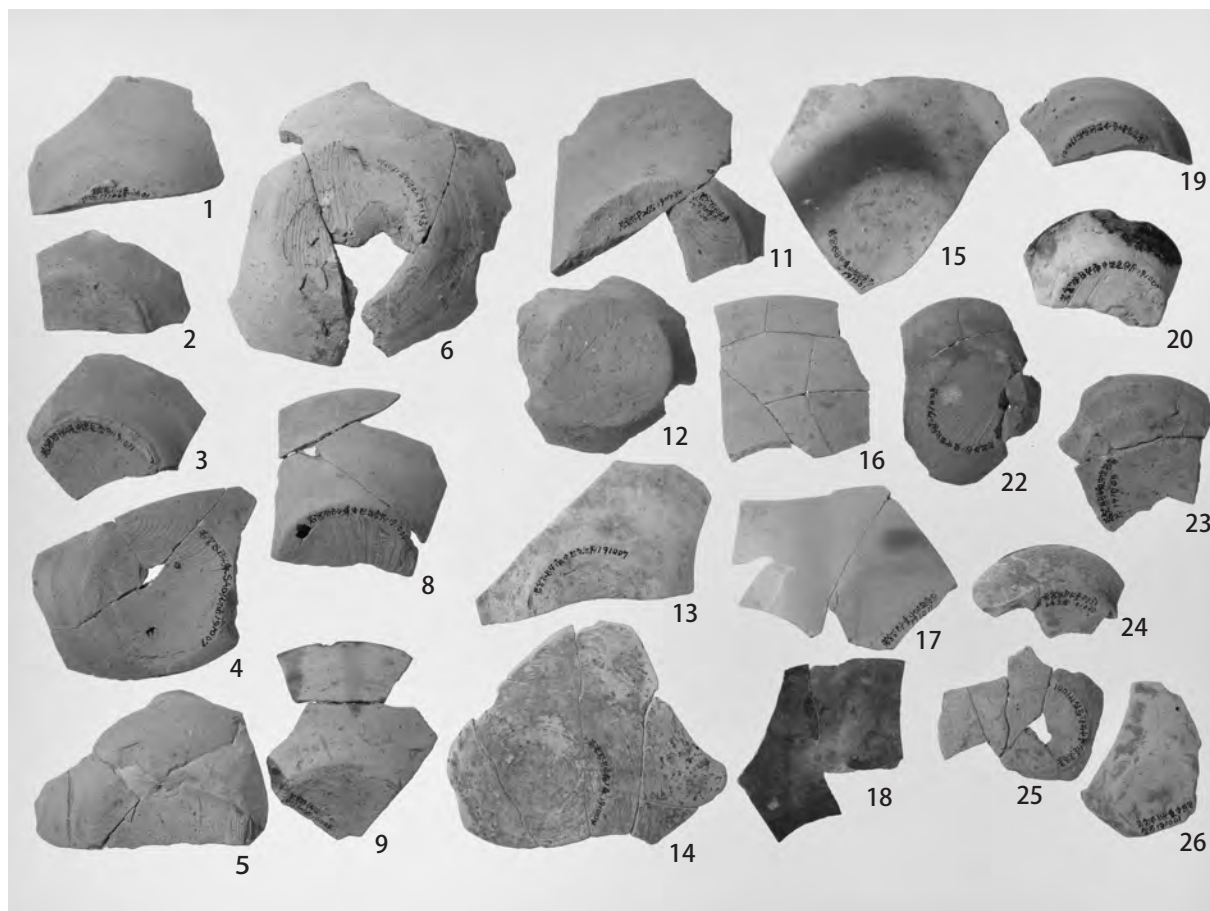
1. 若宮谷遺跡 B4区出土弥生土器 (第30図)



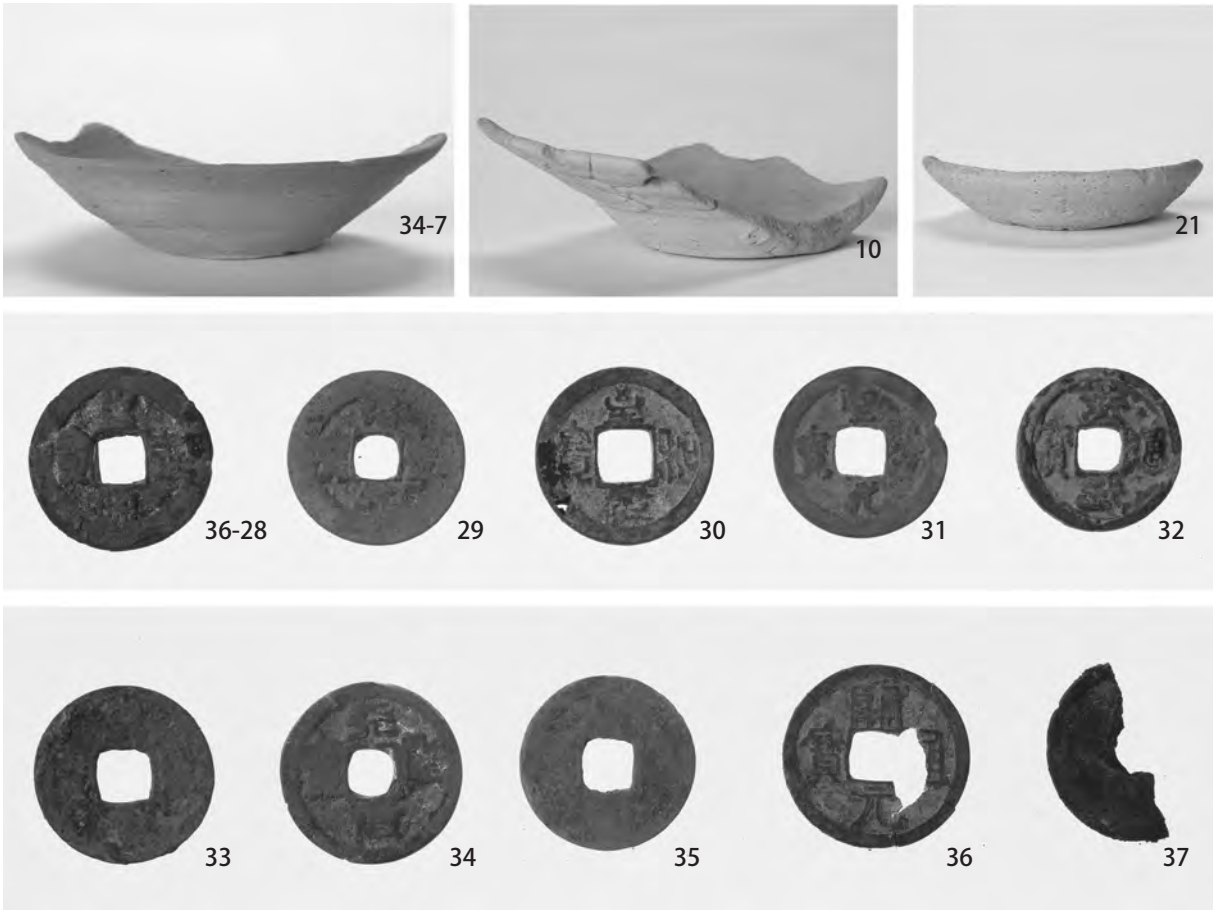
2. 若宮谷遺跡 B4区出土須恵器 (第31図)



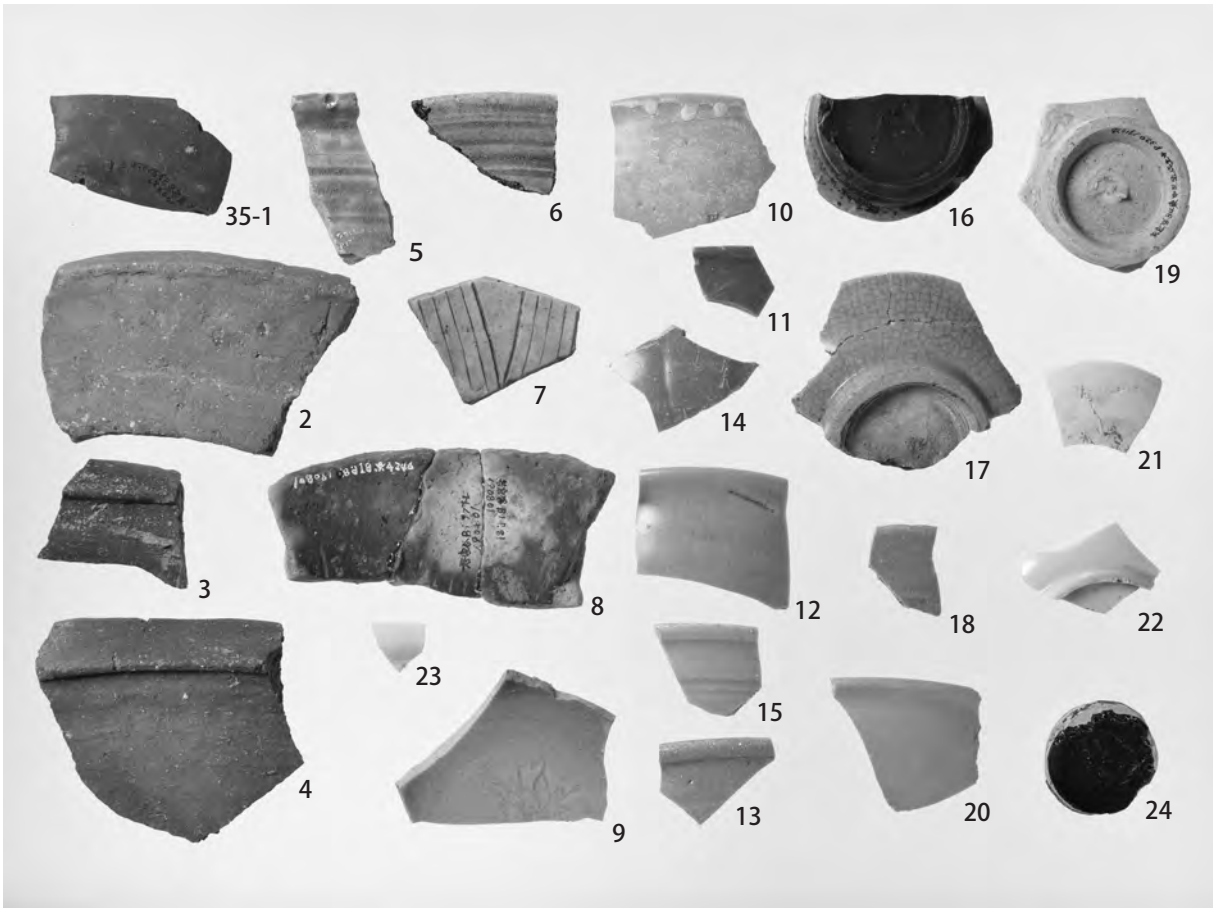
1. 若宮谷遺跡 B4区出土須恵器 (第32図)



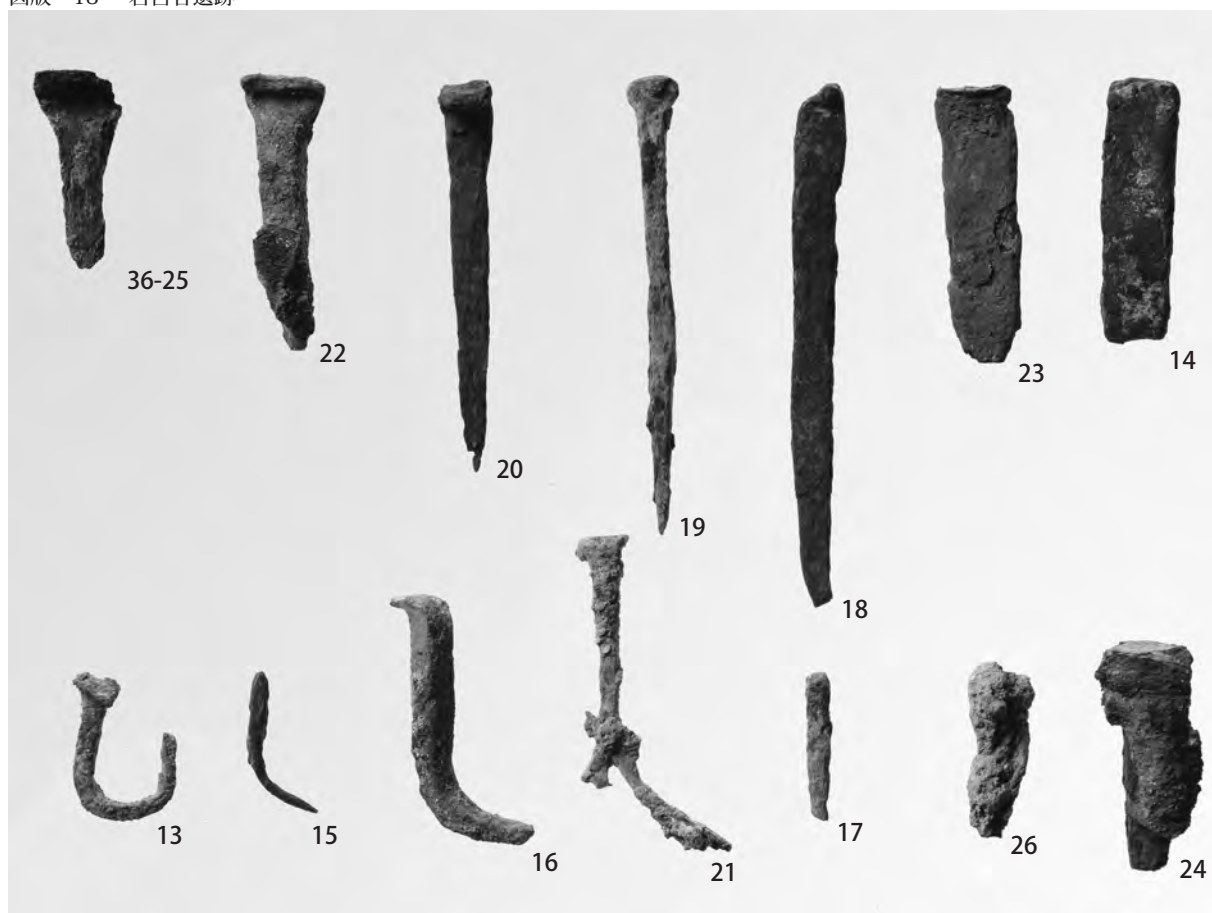
2. 若宮谷遺跡 B4区出土土師器 (第34図)



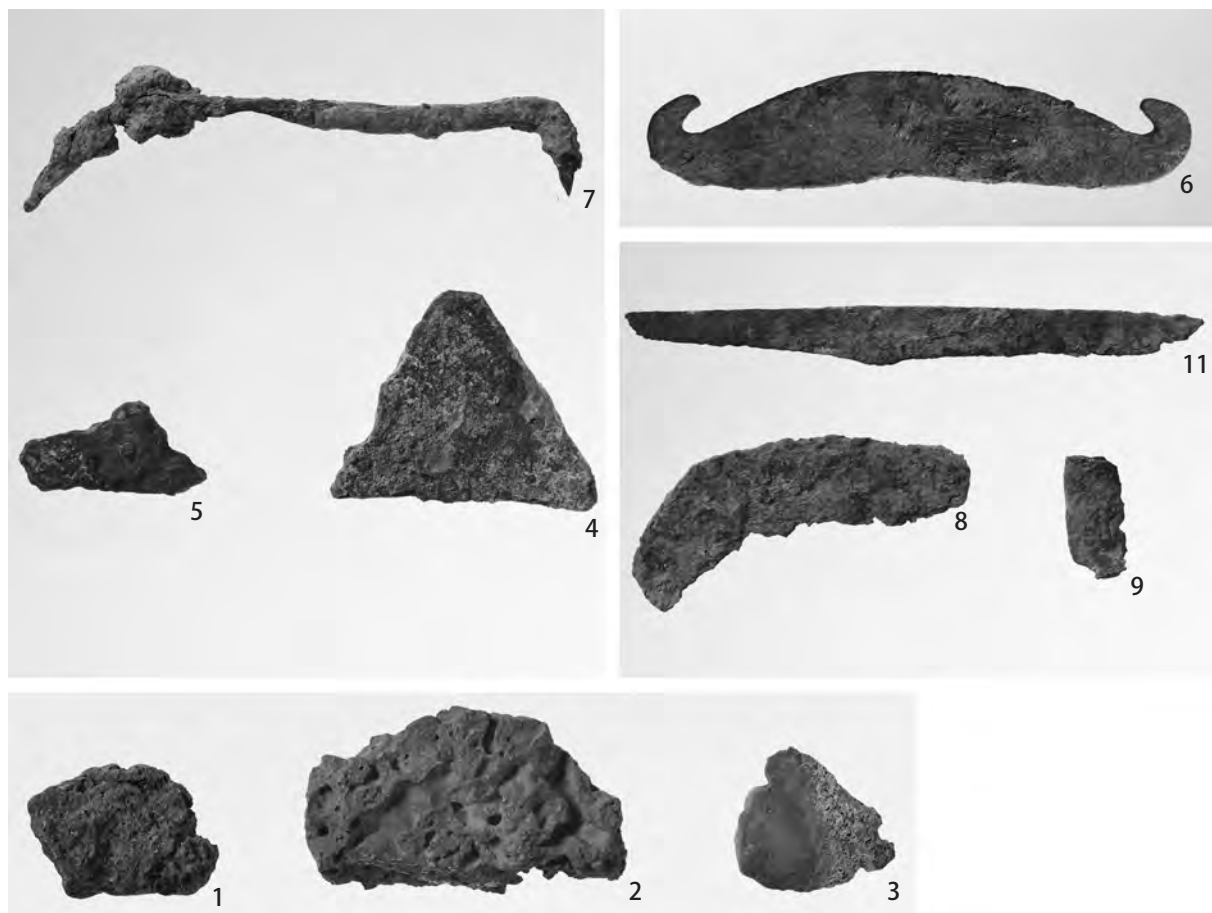
1. 若宮谷遺跡 B4 区出土土師器 (上)、古銭 (中、下)、(第 34 図・36 図)



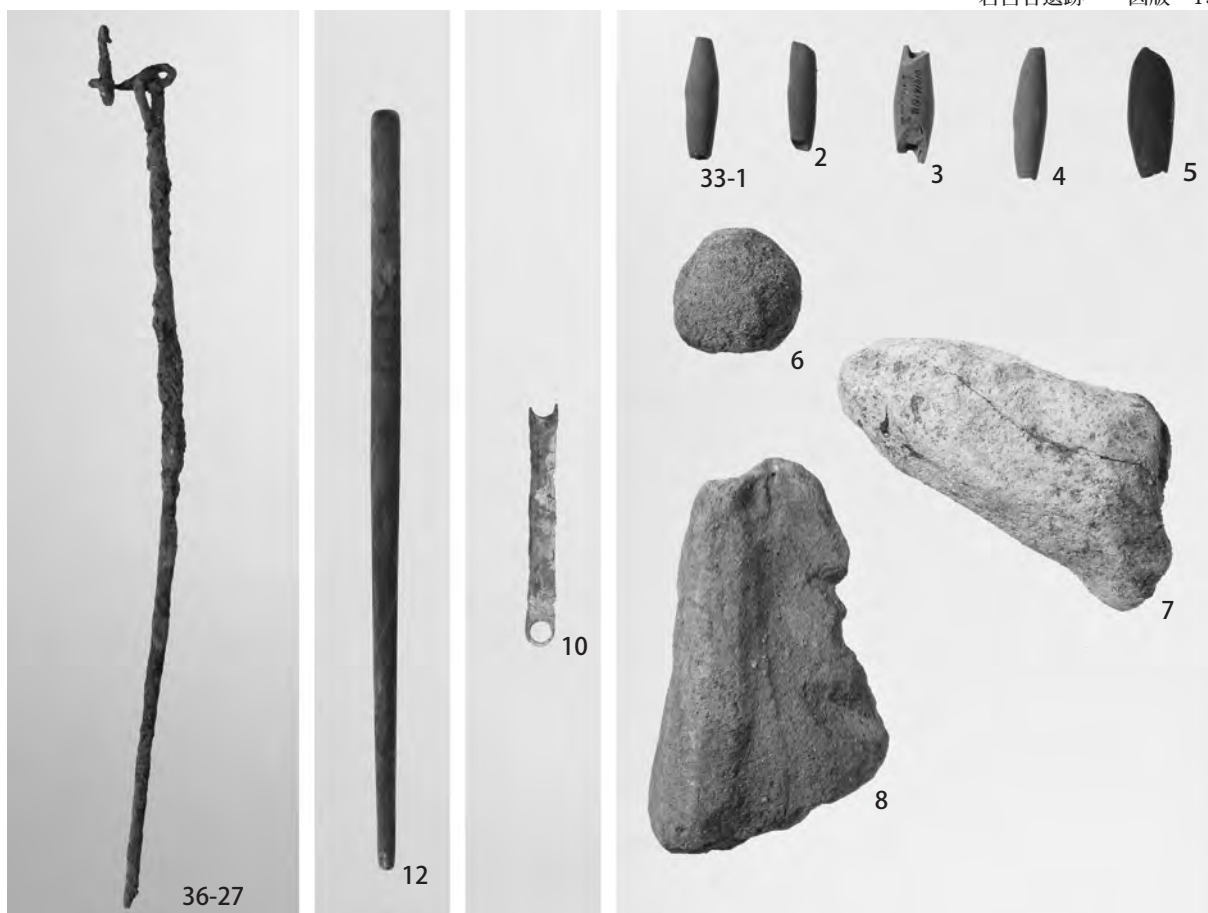
2. 若宮谷遺跡 B4 区出土陶磁器 (第 35 図)



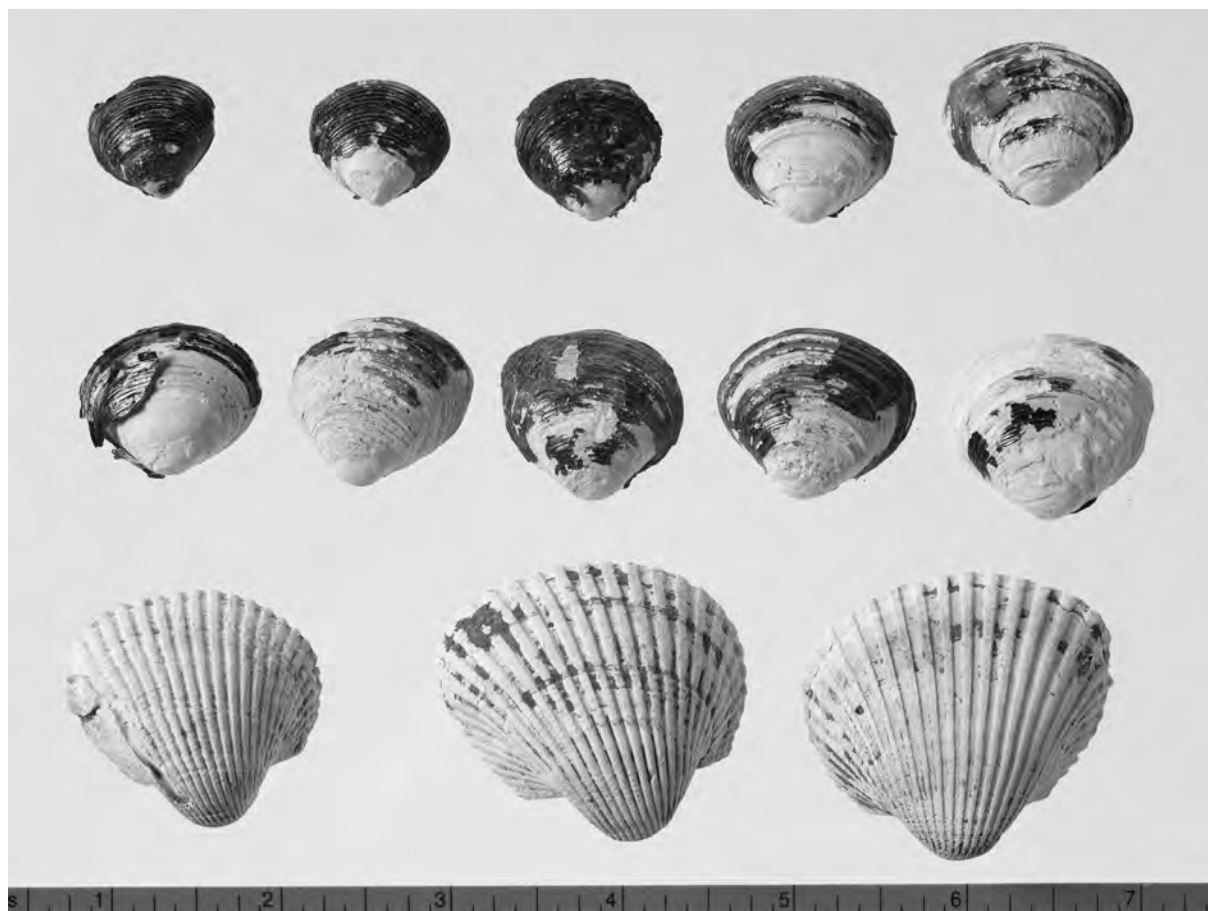
1. 若宮谷遺跡 B4区出土鉄器 (第36図)



2. 若宮谷遺跡 B4区出土鉄器、鉄滓、羽口 (第36図)



1. 若宮谷遺跡 B4区出土鉄器、土師器 (第33図・36図)



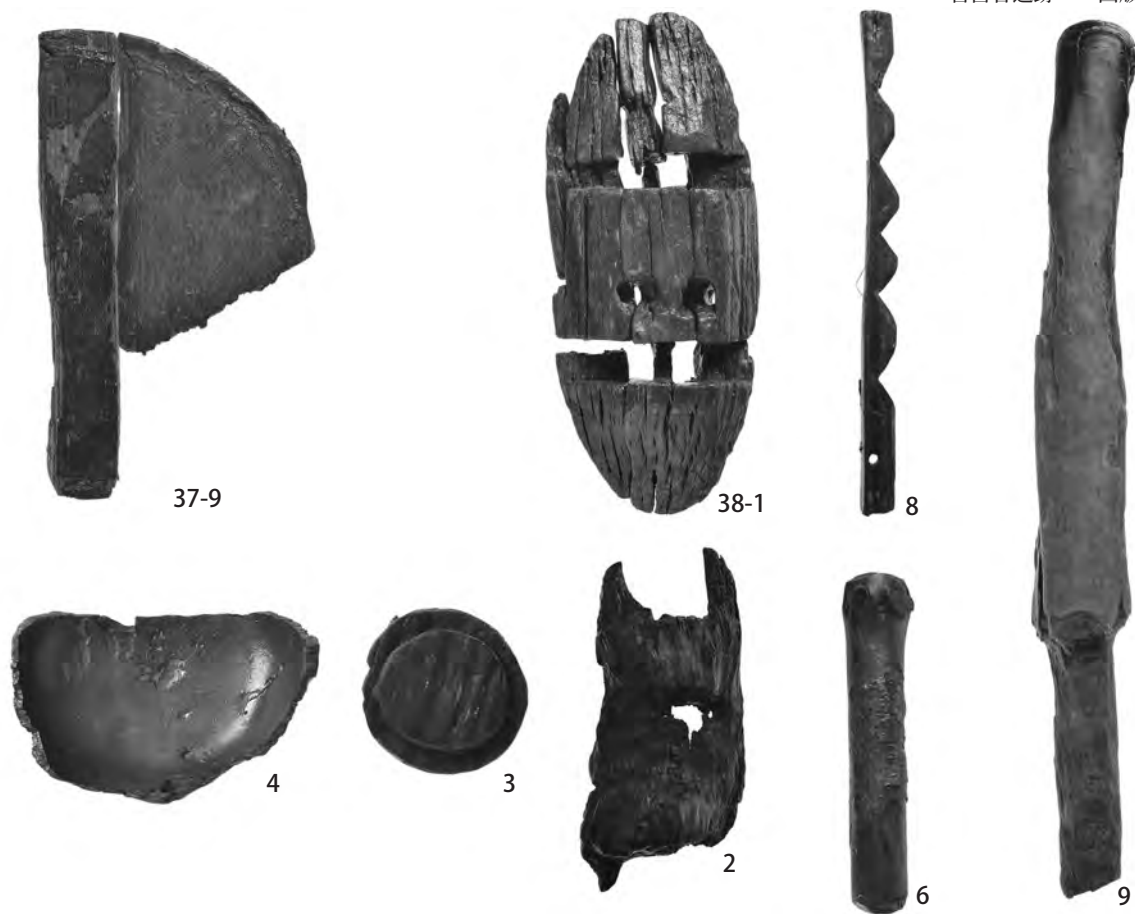
2. 若宮谷遺跡 B4区出土遺物 (シジミ、サルボウ)



1. 若宮谷遺跡 B4区出土遺物（桃の種、松ボックリ）



2. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品（第37図）



1. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品 (第37図・38図)



2. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品 (第38図・39図)



1. 若宮谷遺跡 B4区出土木製品 (第40図)



シコノ谷遺跡
写真図版



1. シコノ谷遺跡 遠景（南から）



2. シコノ谷遺跡 全景（東から）



1. シコノ谷遺跡 全景（上空から）



2. シコノ谷遺跡 全景（西から）



1. シコノ谷遺跡 A区礫層検出状況（南から）



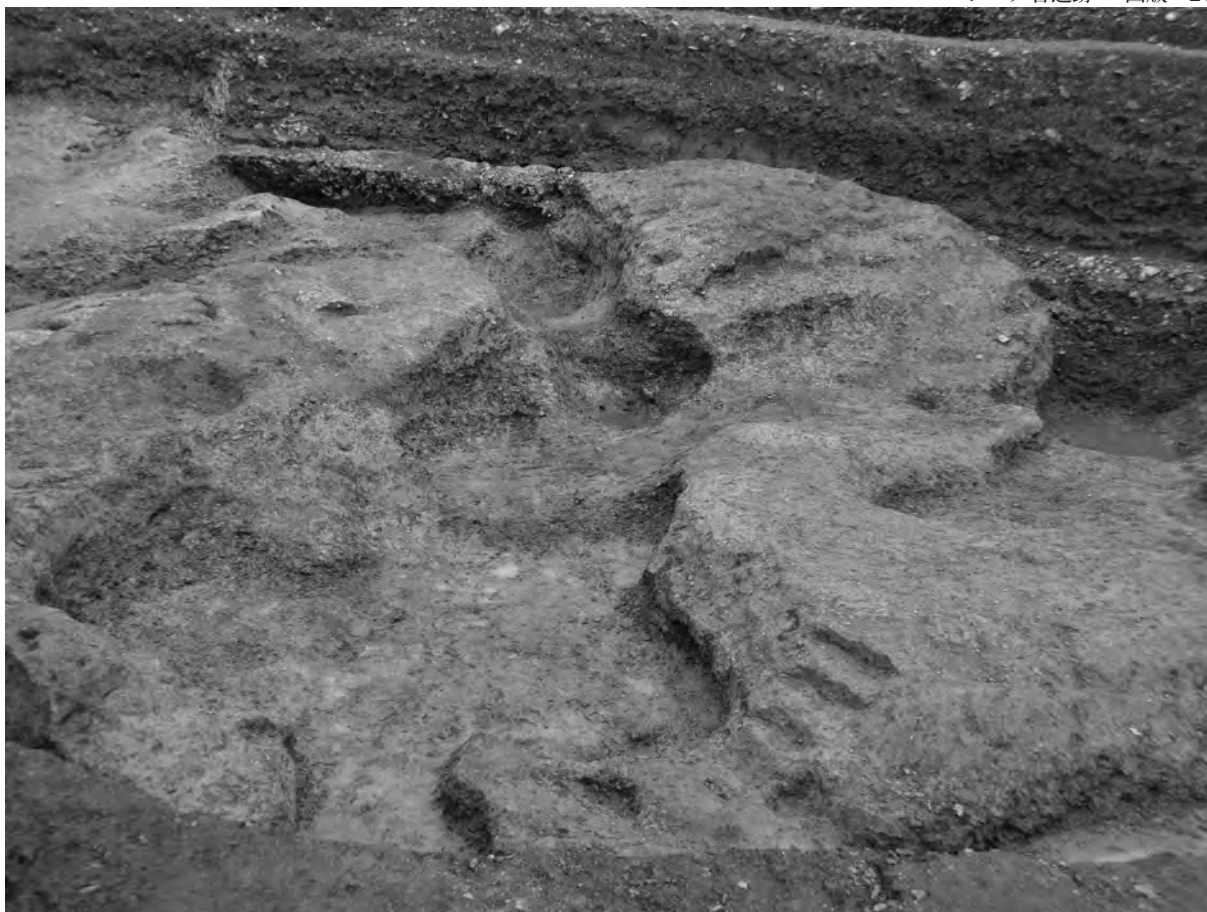
2. シコノ谷遺跡 A区（南西から）



1. シコノ谷遺跡 A区縄文土器(47-8)出土状況



2. シコノ谷遺跡 B区完掘状況(東から)



1. シコノ谷遺跡 B区凹地形（南から）



2. シコノ谷遺跡 B区凹地形（北から）



1. シコノ谷遺跡 B区北壁土層堆積状況（南から）



2. シコノ谷遺跡 B区南壁土層堆積状況（北から）



1. シコノ谷遺跡 B区西壁土層堆積状況（東から）



2. シコノ谷遺跡 B区縄文土器（83-3）出土状況



1. シコノ谷遺跡 B区縄文土器(82-20)出土状況



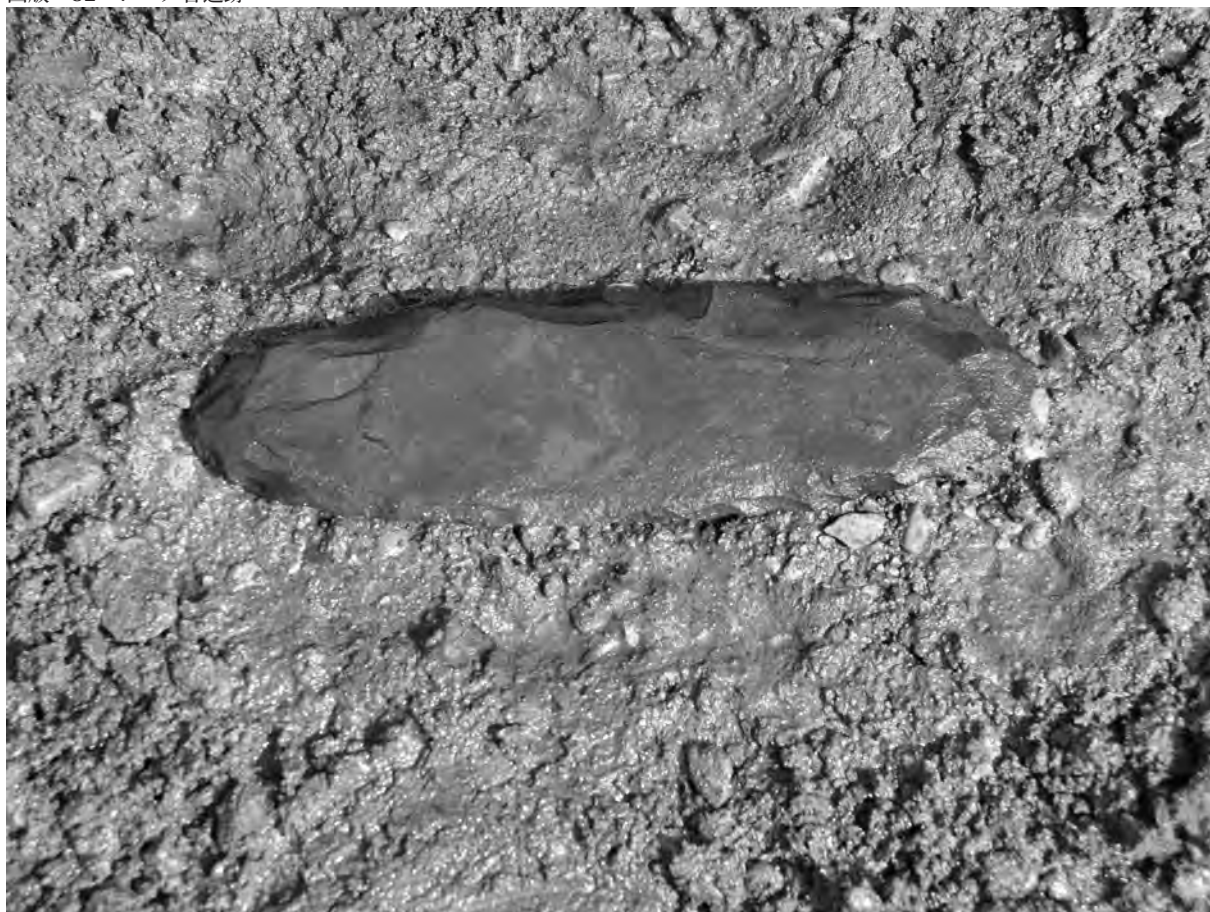
2. シコノ谷遺跡 B区縄文土器(88-3)出土状況



1. シコノ谷遺跡 B区縄文土器(81-2)出土状況



2. シコノ谷遺跡 B区木器(116-1)出土状況



1. シコノ谷遺跡 B区石器 (96-1) 出土状況



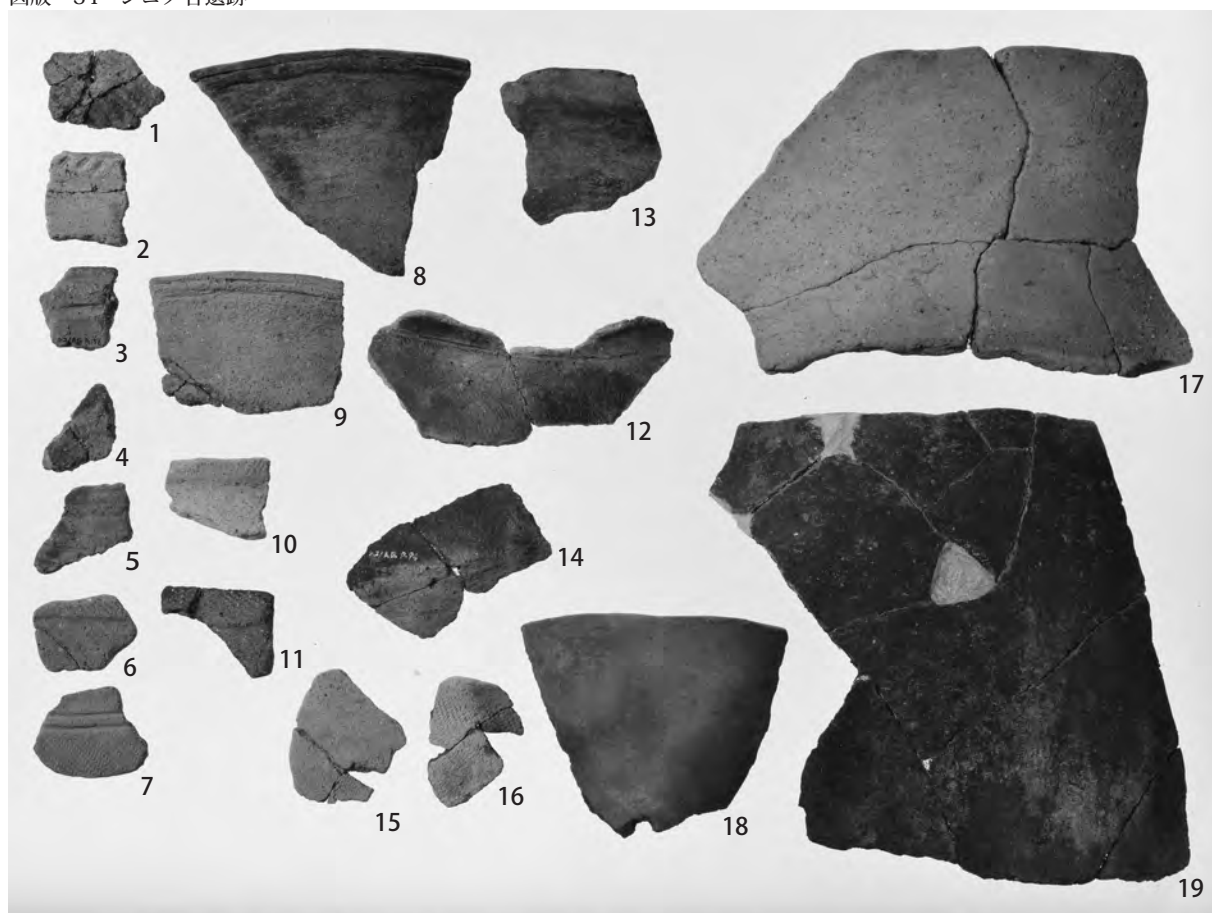
2. シコノ谷遺跡 B区弥生土器 (103-10) 出土状況



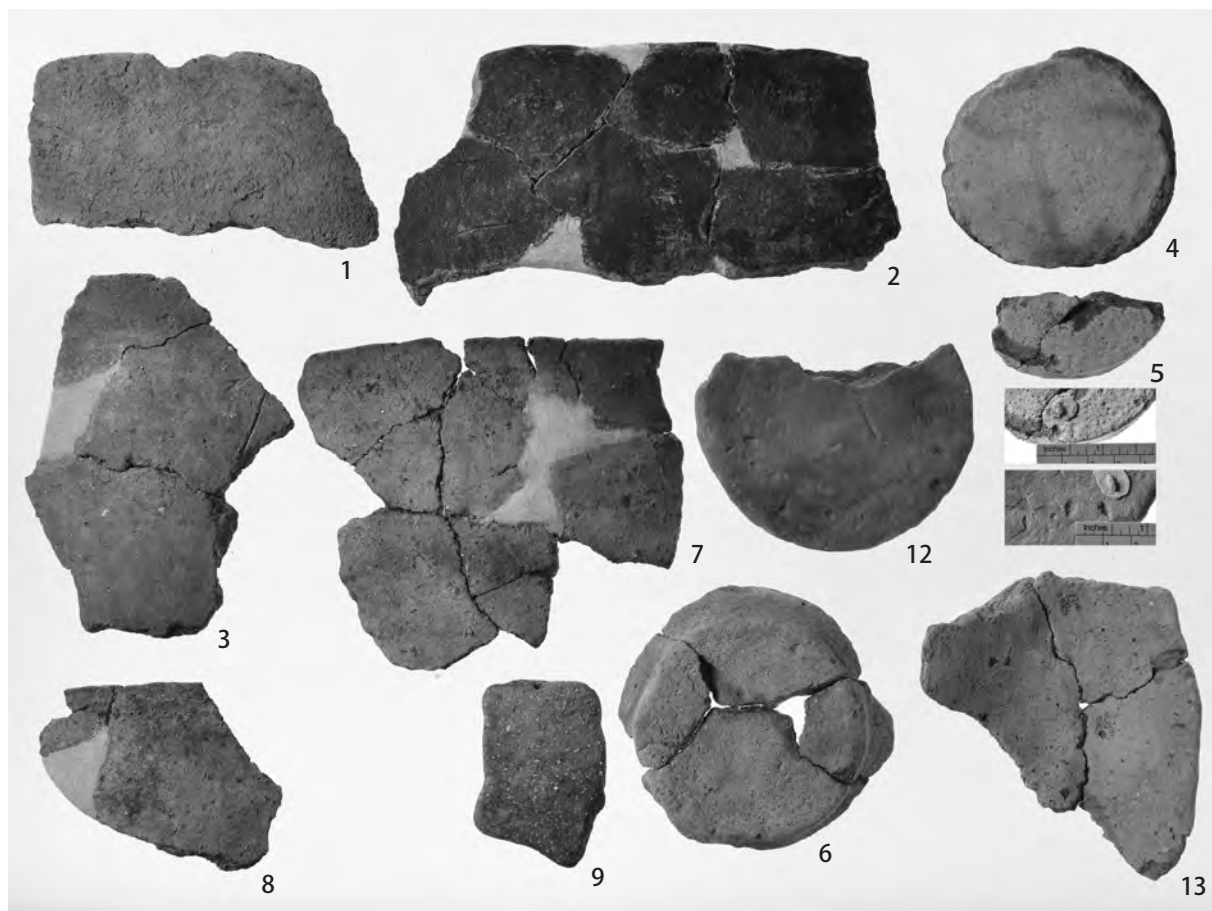
1. シコノ谷遺跡 B区須恵器 (109-2) 出土状況



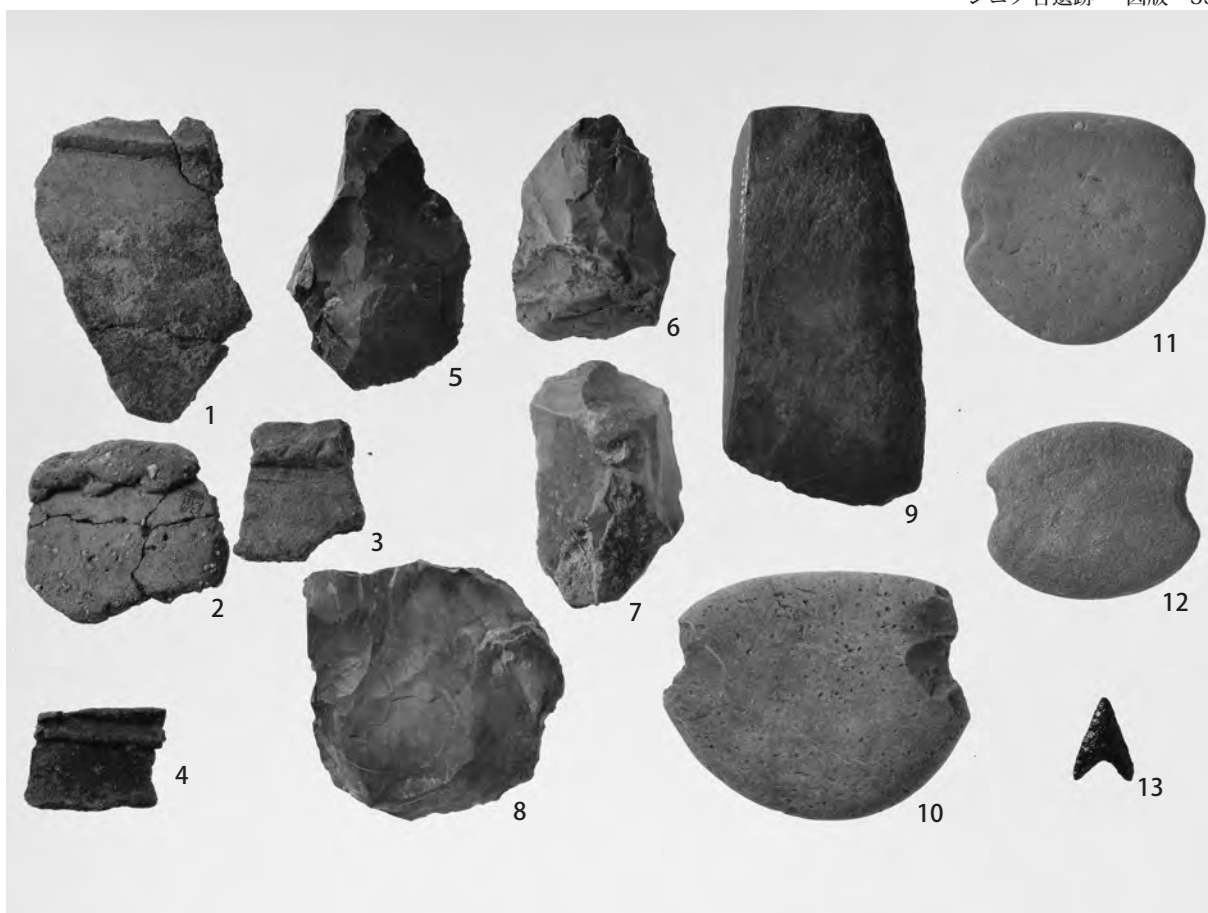
2. シコノ谷遺跡 B区軒平瓦 (112-2) 出土状況



1. シコノ谷遺跡 A区出土縄文土器 (第47図)



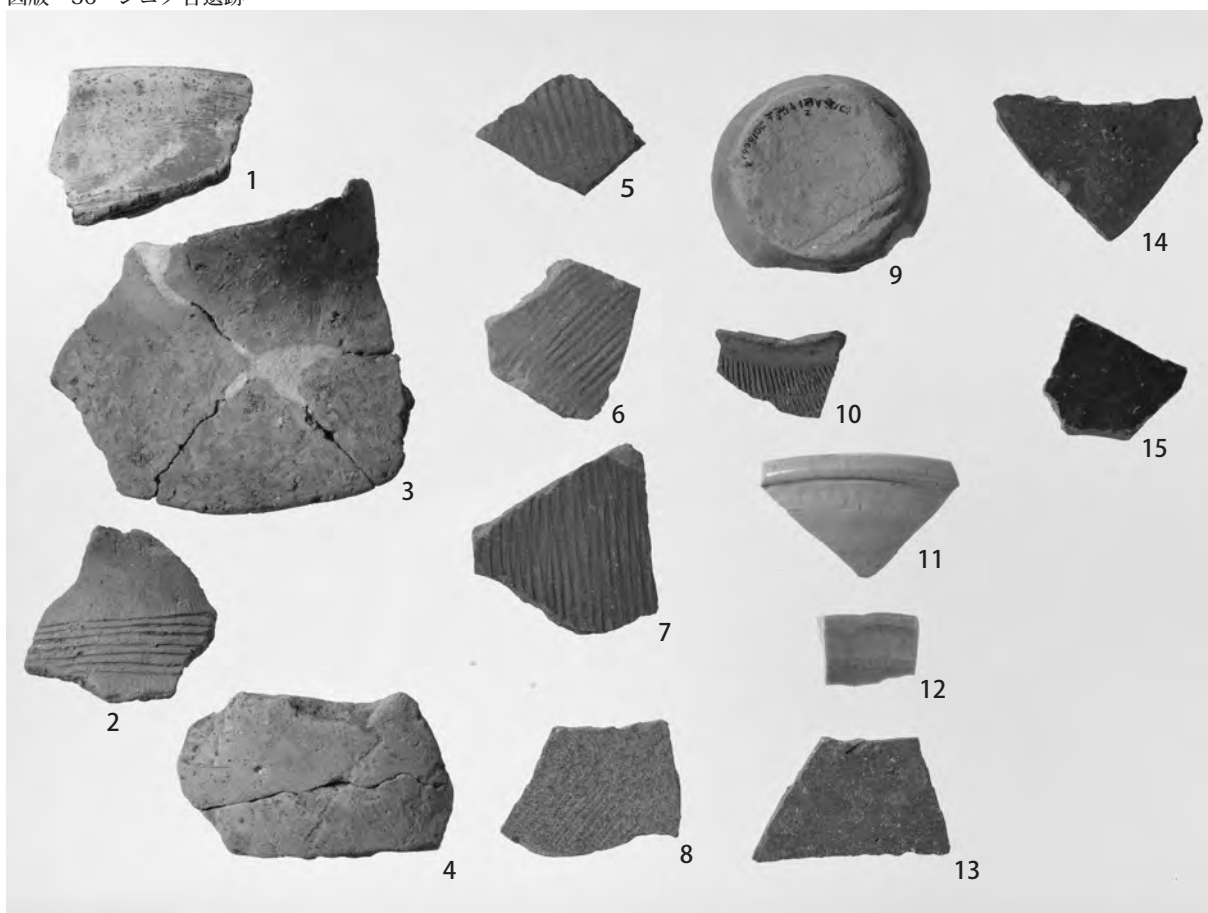
2. シコノ谷遺跡 A区出土縄文土器 (第48図)



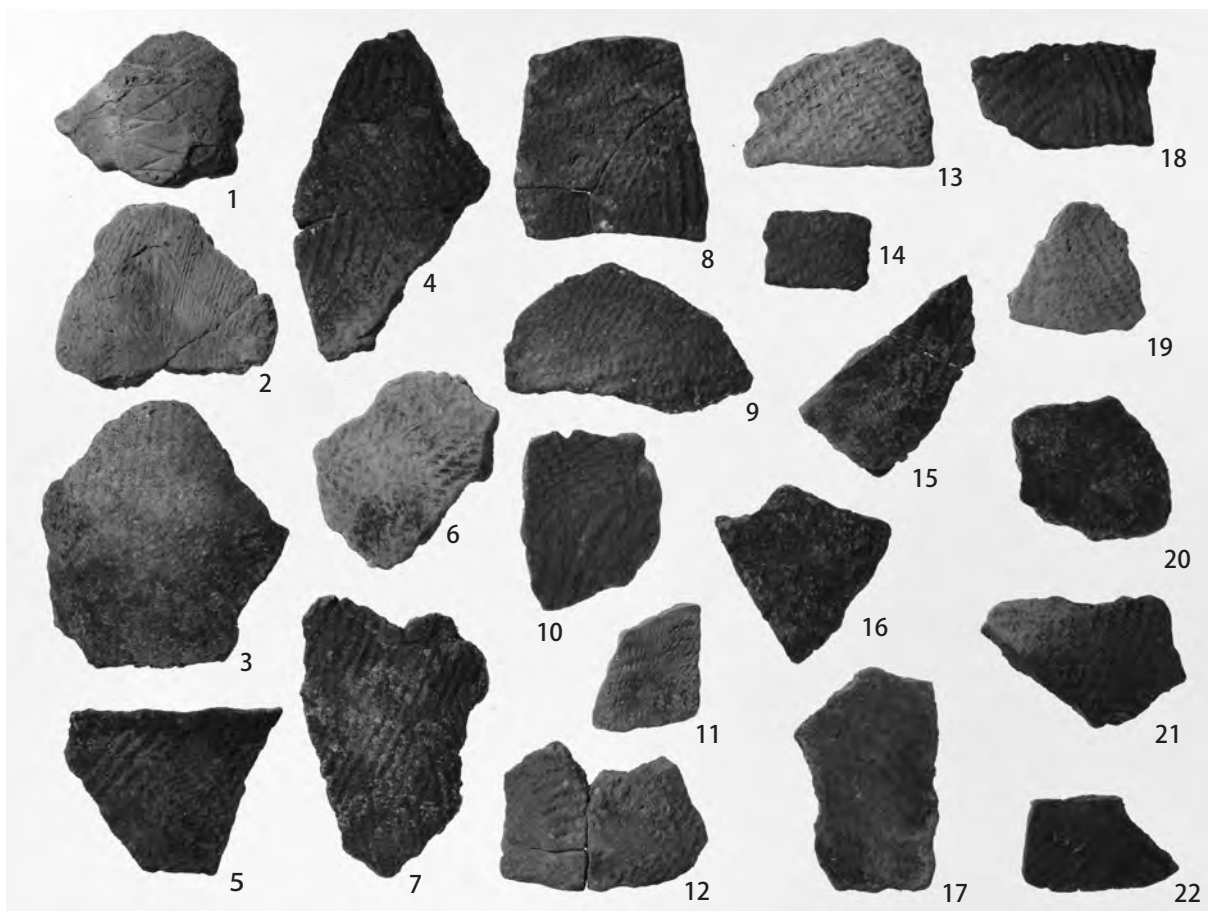
1. シコノ谷遺跡 A区出土遺物 (第49図)



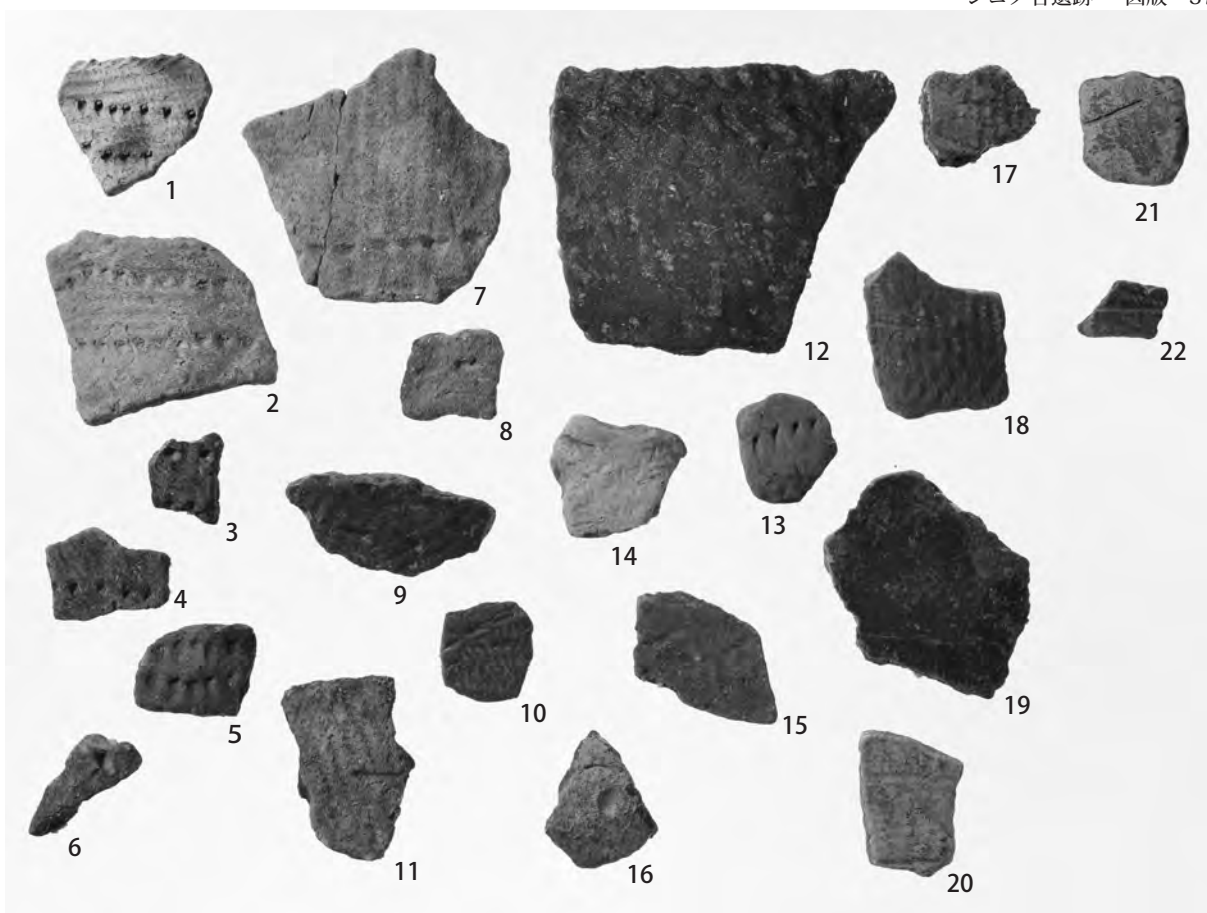
2. シコノ谷遺跡 A区出土遺物 (第48図・50図)



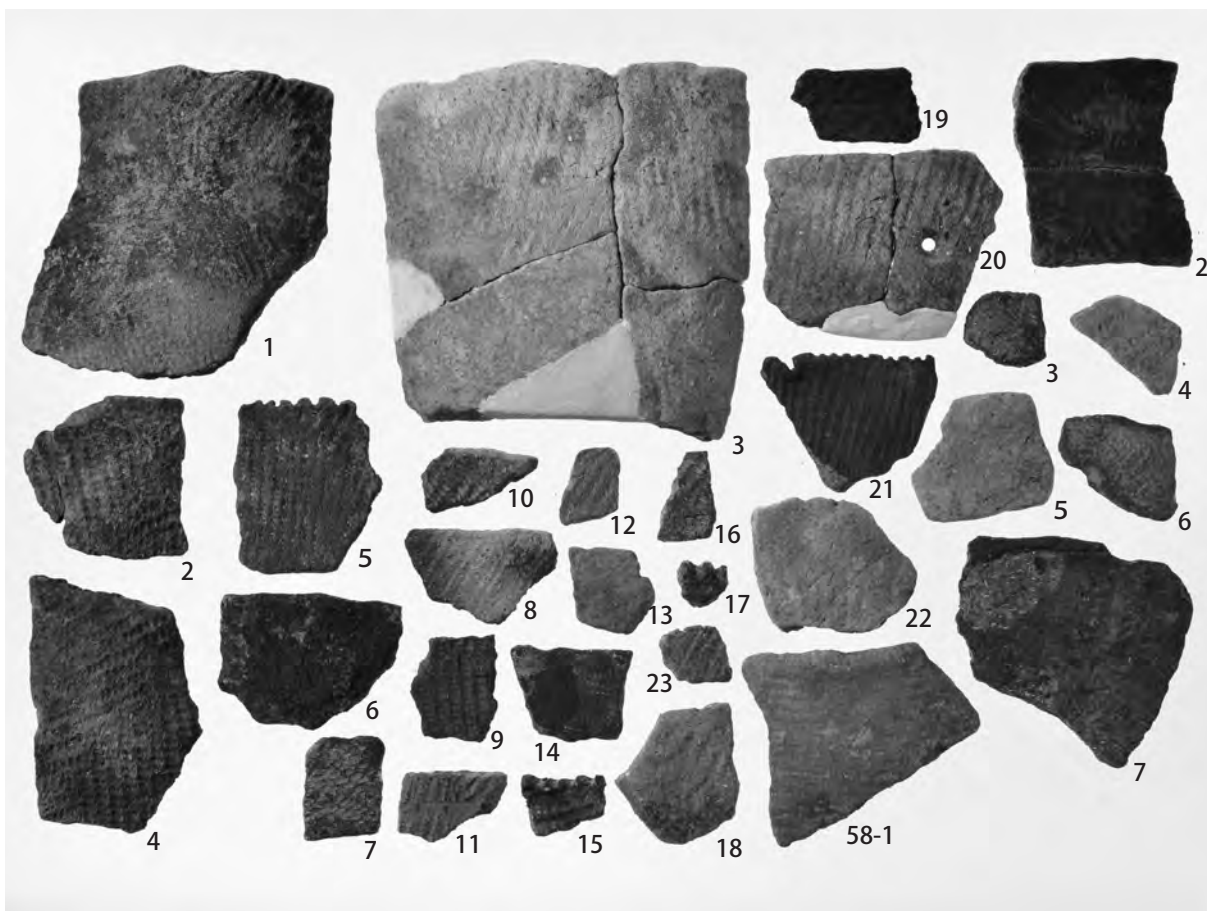
1. シコノ谷遺跡 A区出土遺物 (第51図)



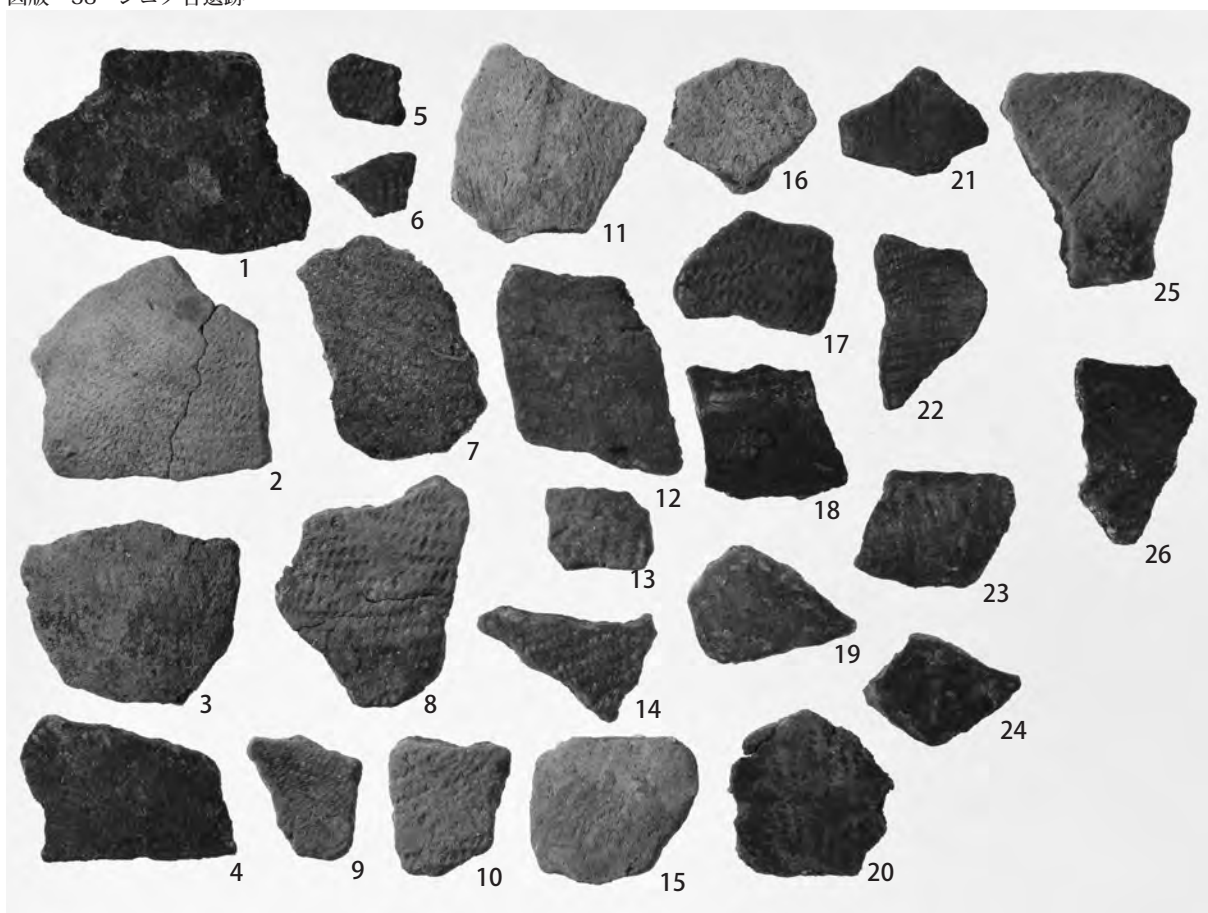
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第55図)



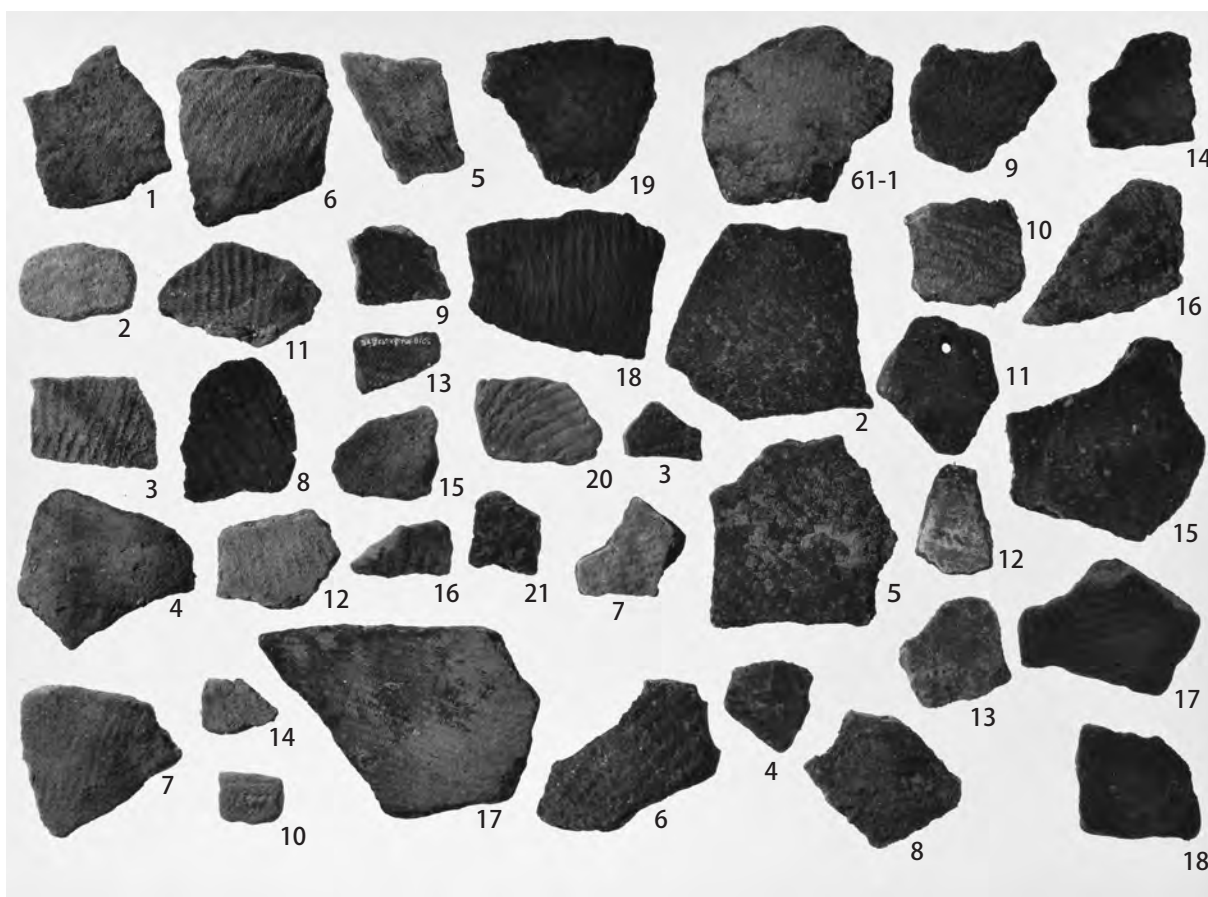
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第56図)



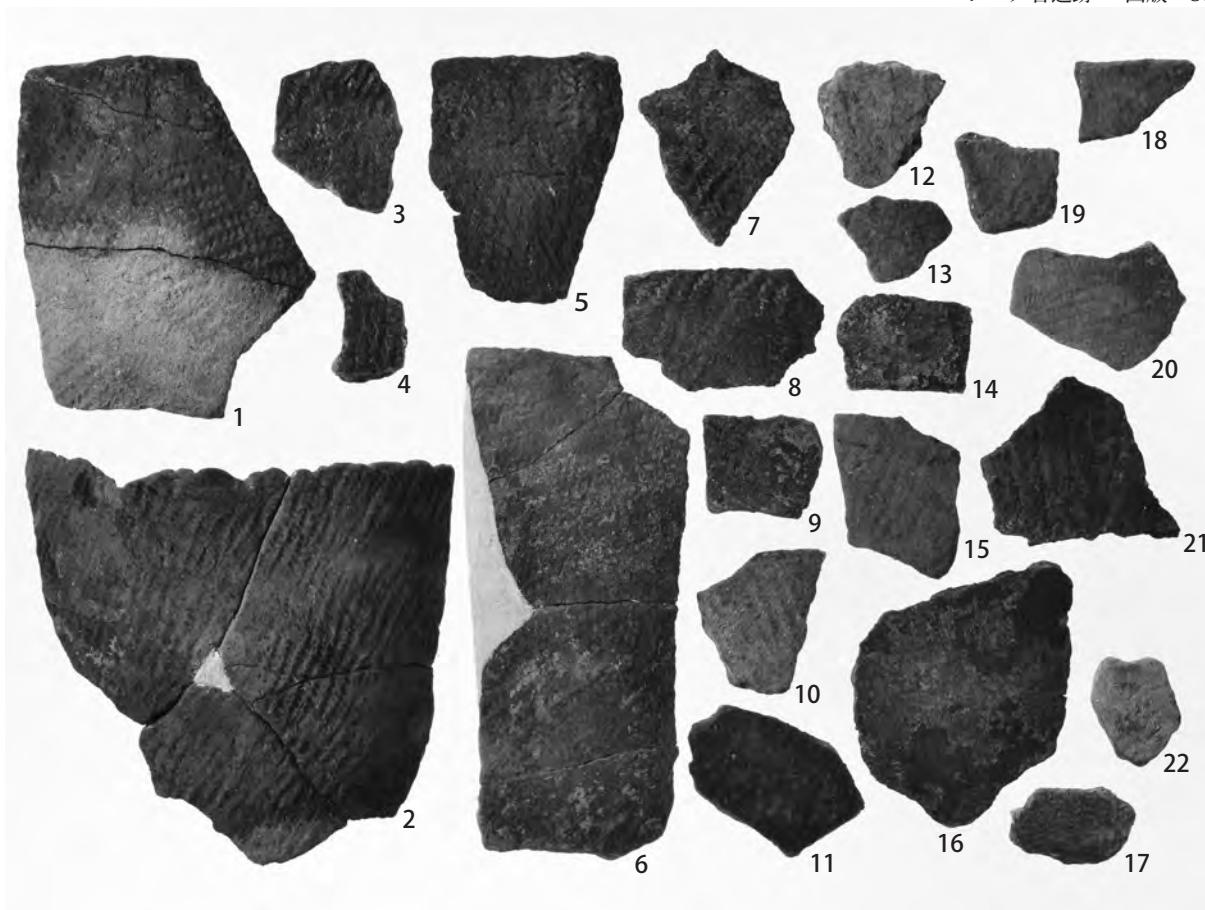
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第57図・58図)



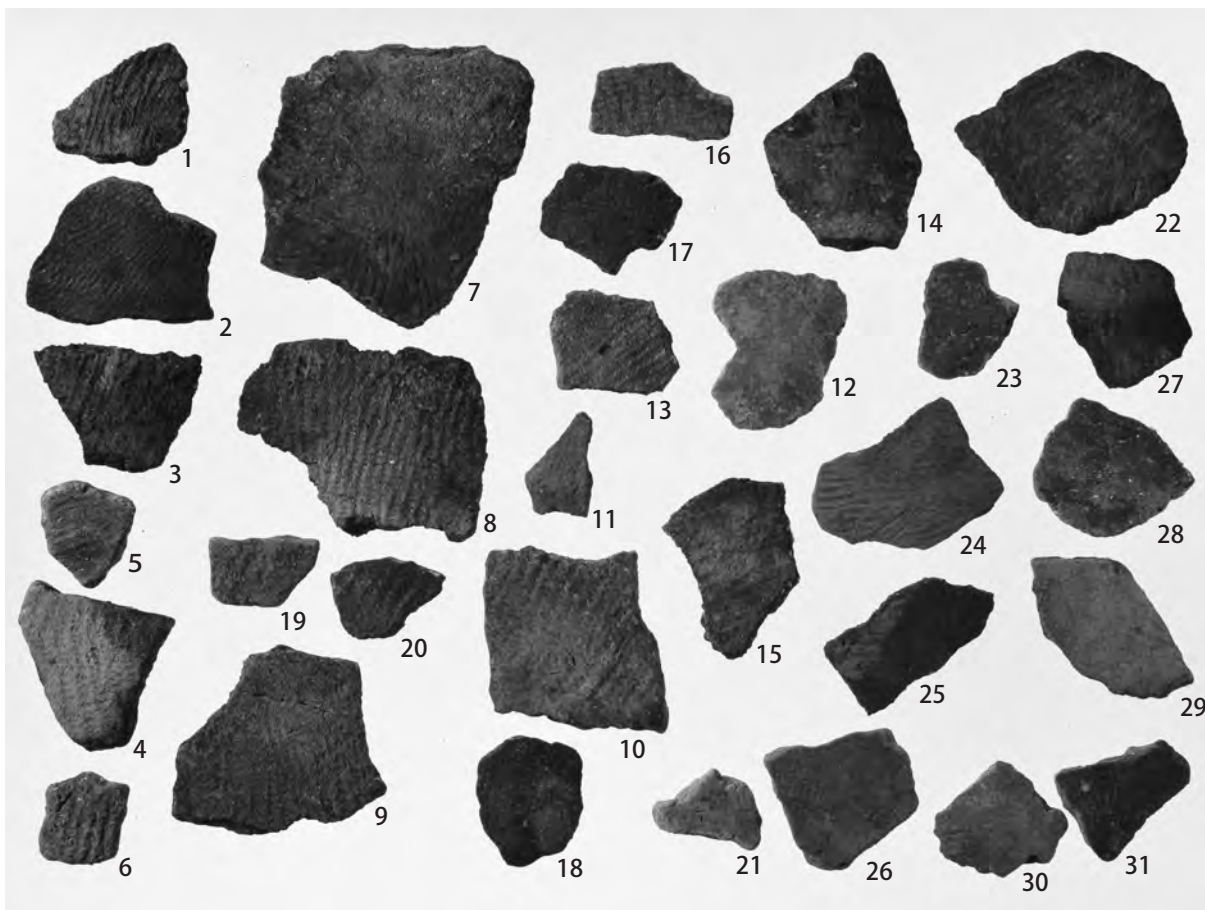
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第59図)



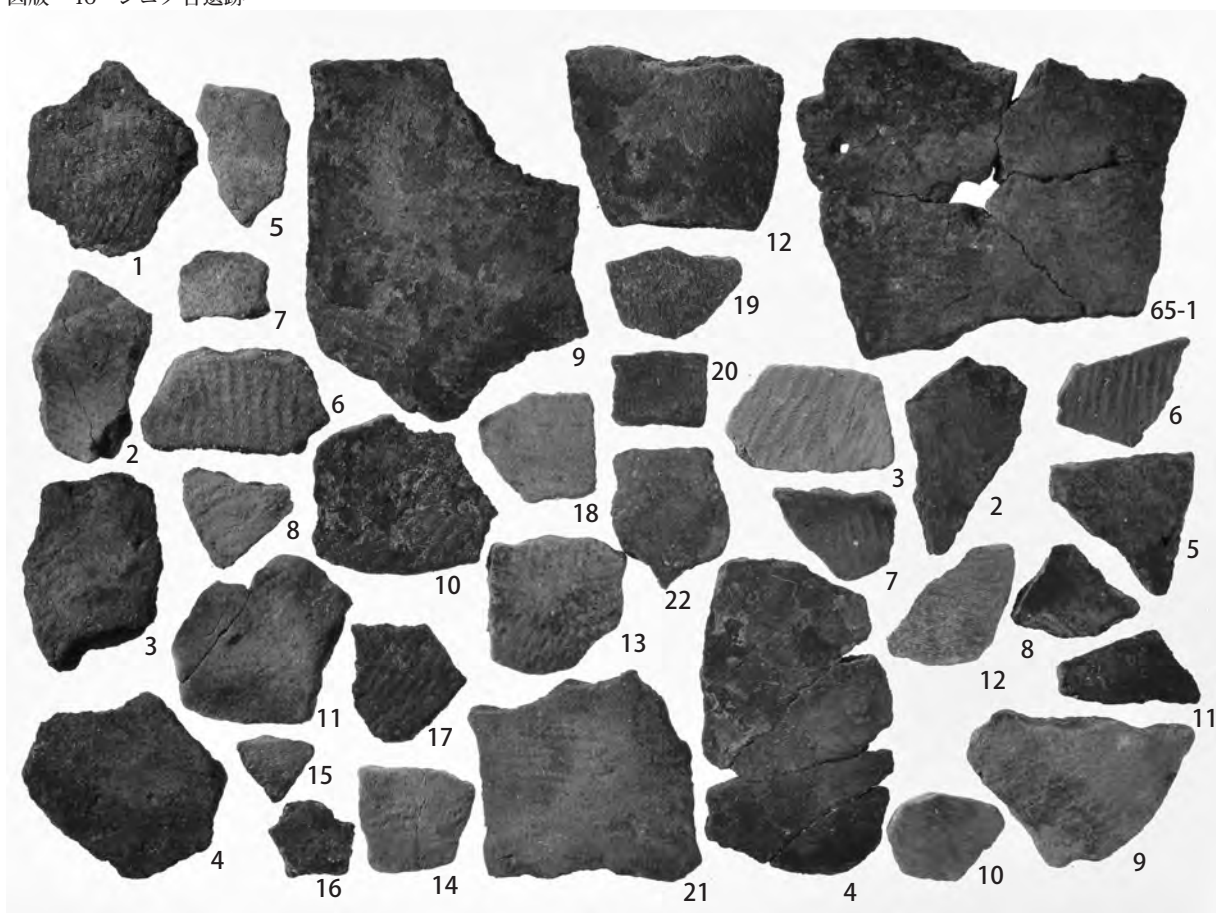
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第60図・61図)



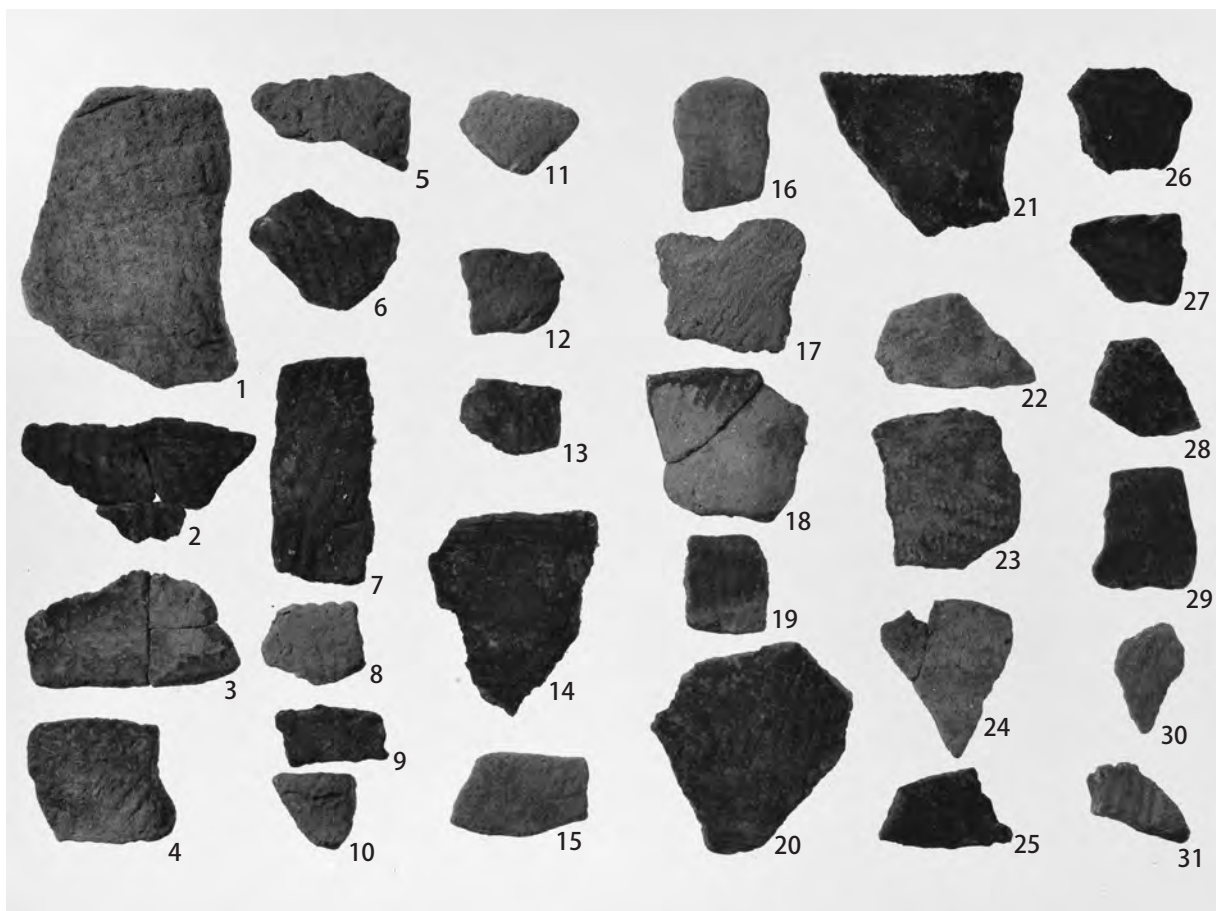
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第62図)



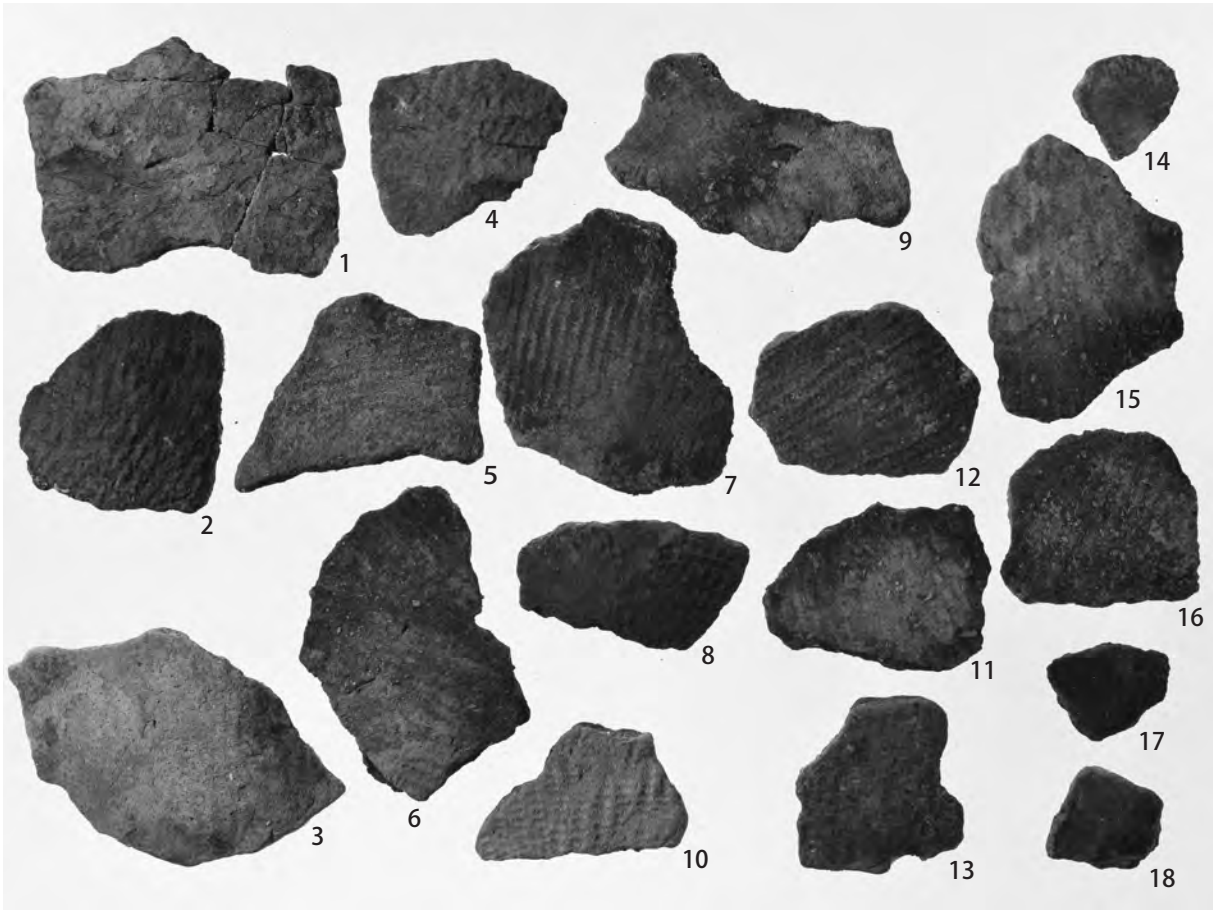
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第63図)



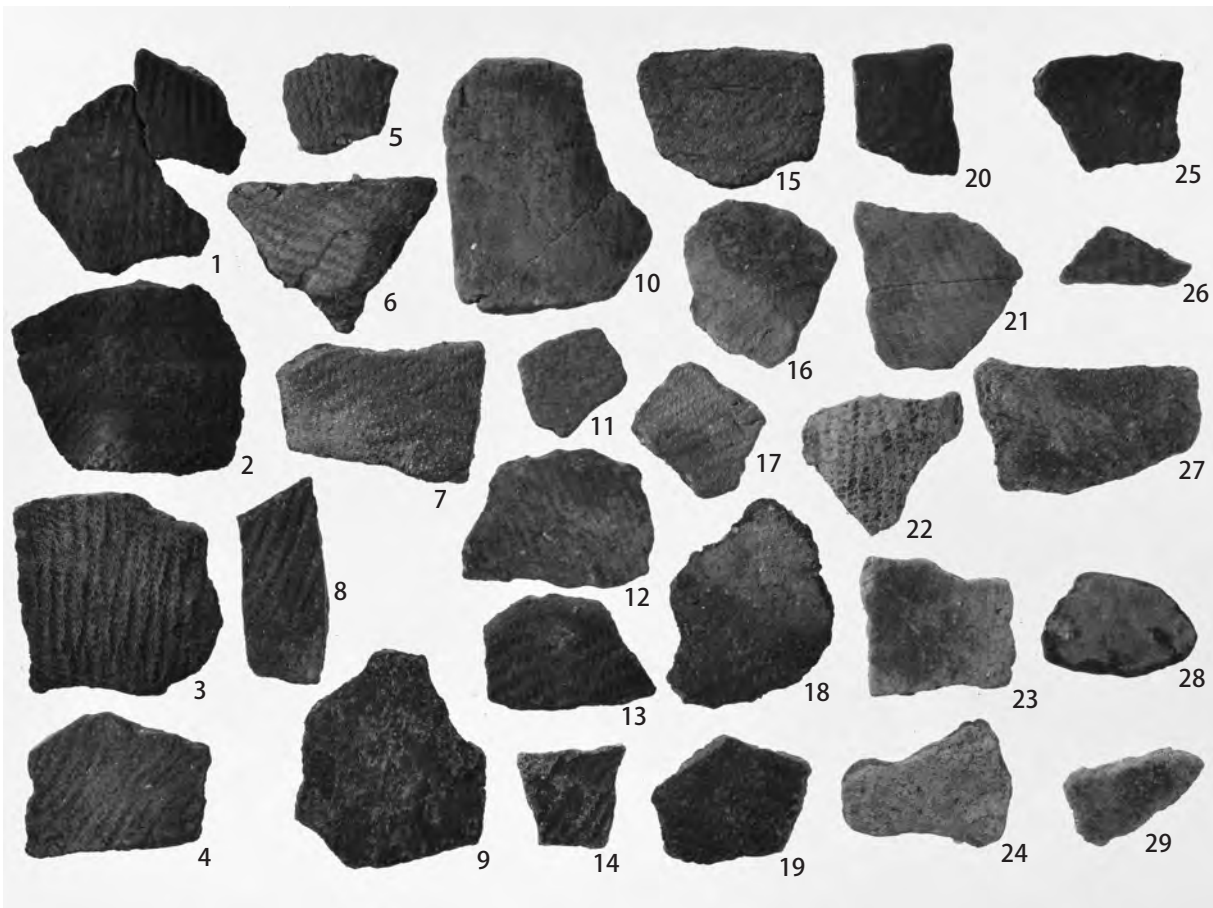
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第64・65図)



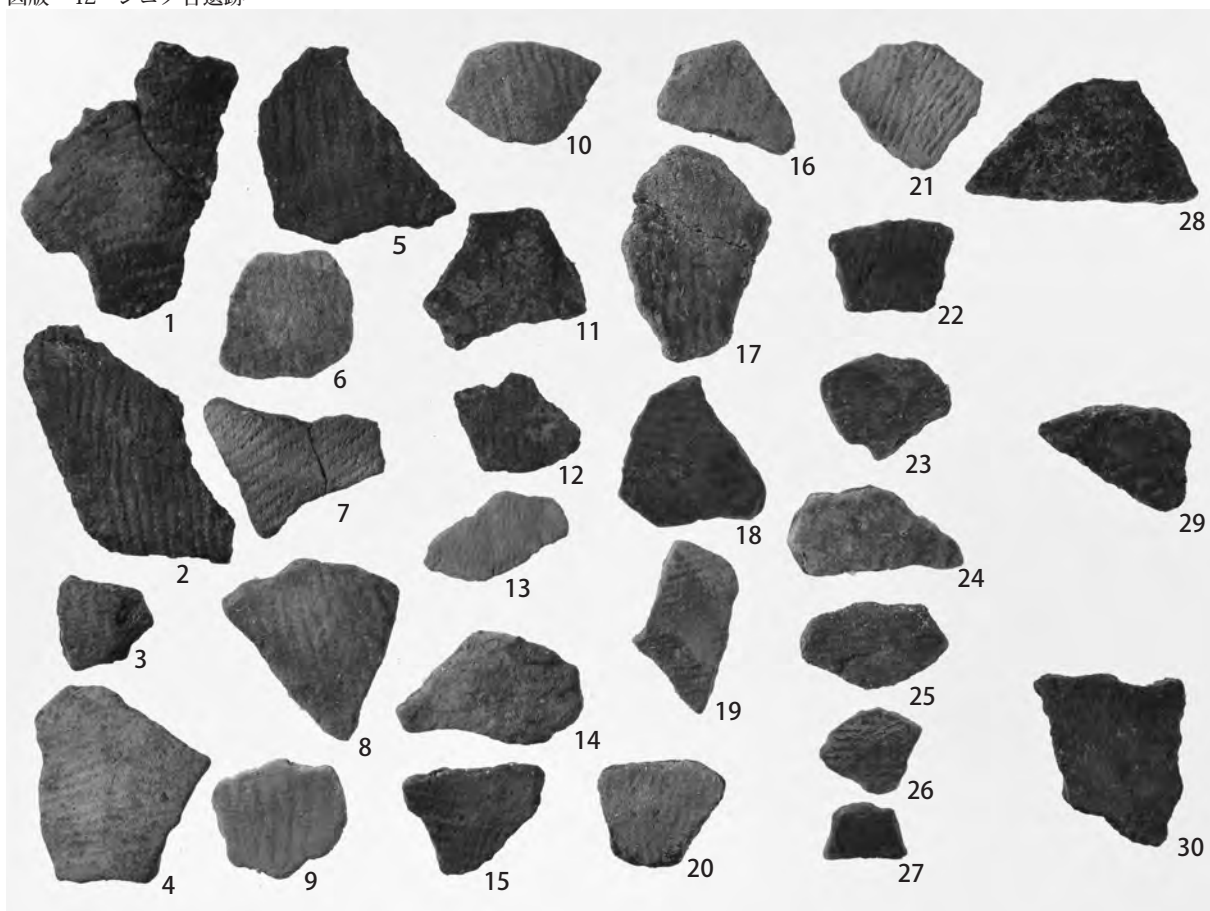
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第66図)



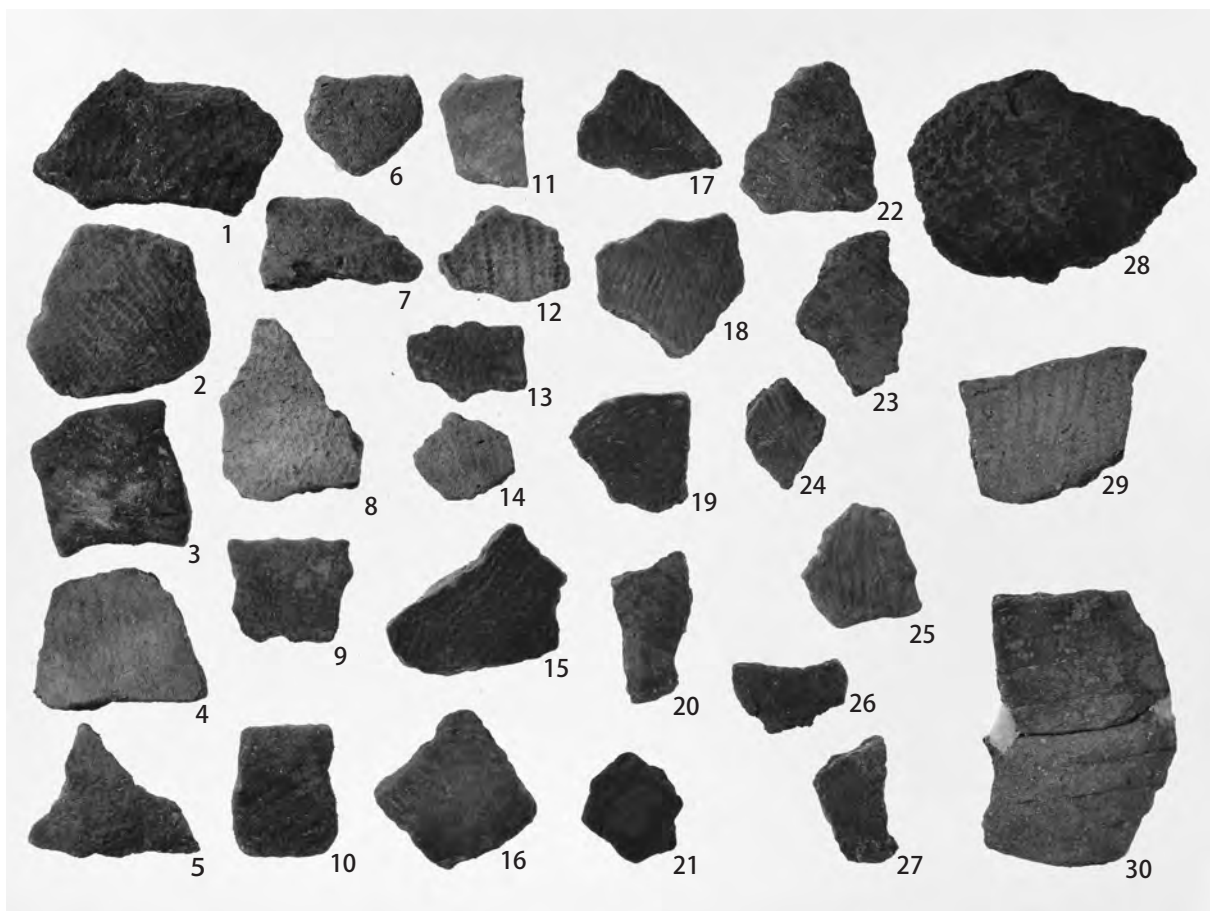
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第 67 図)



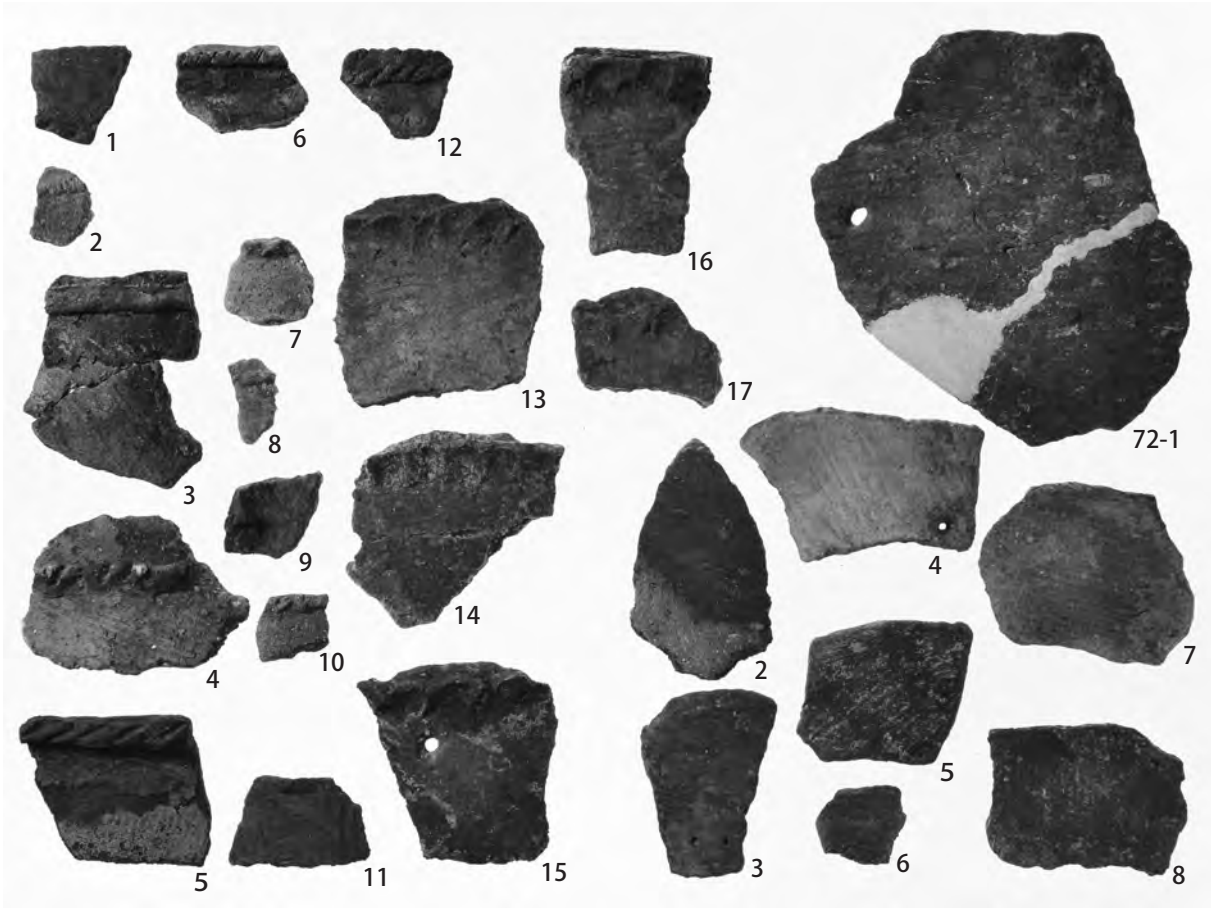
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第 68 図)



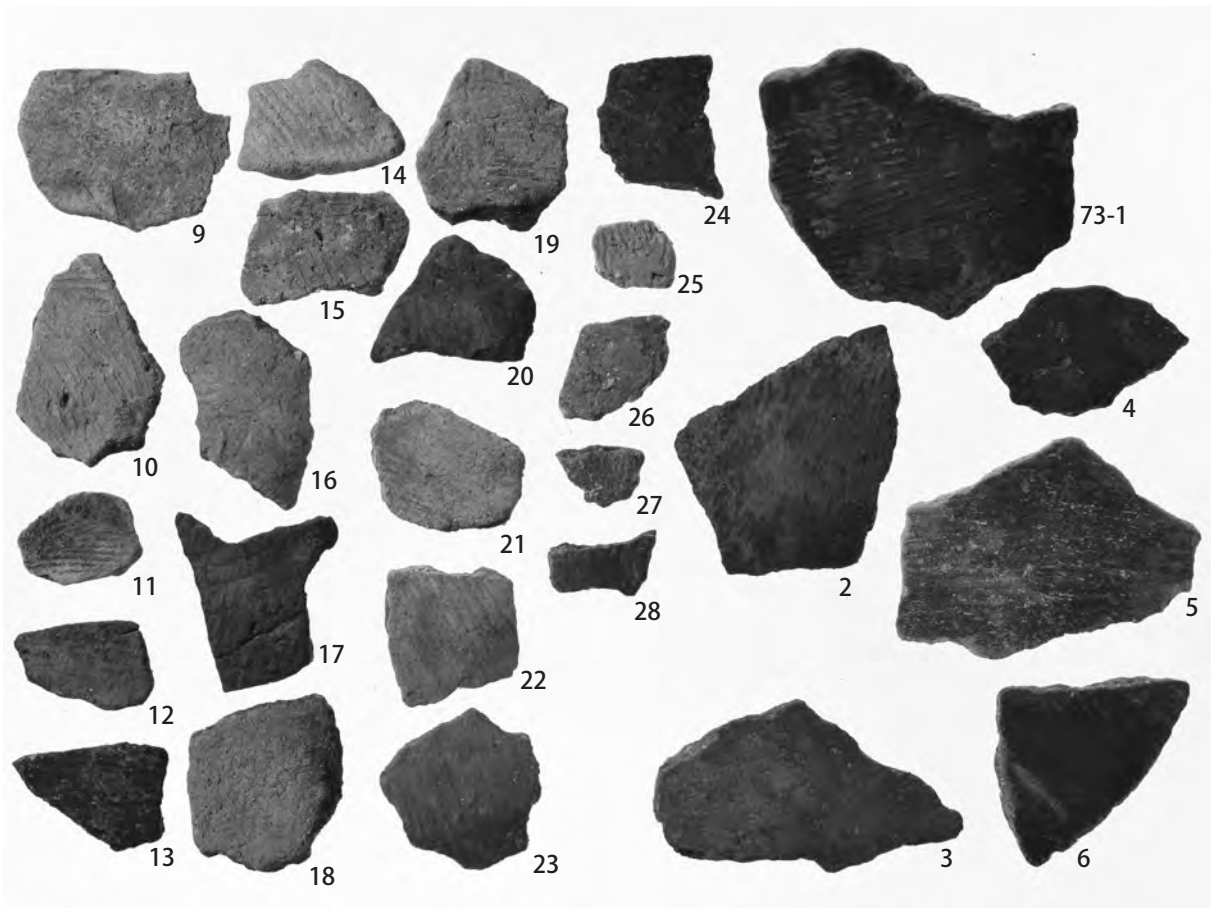
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第69図)



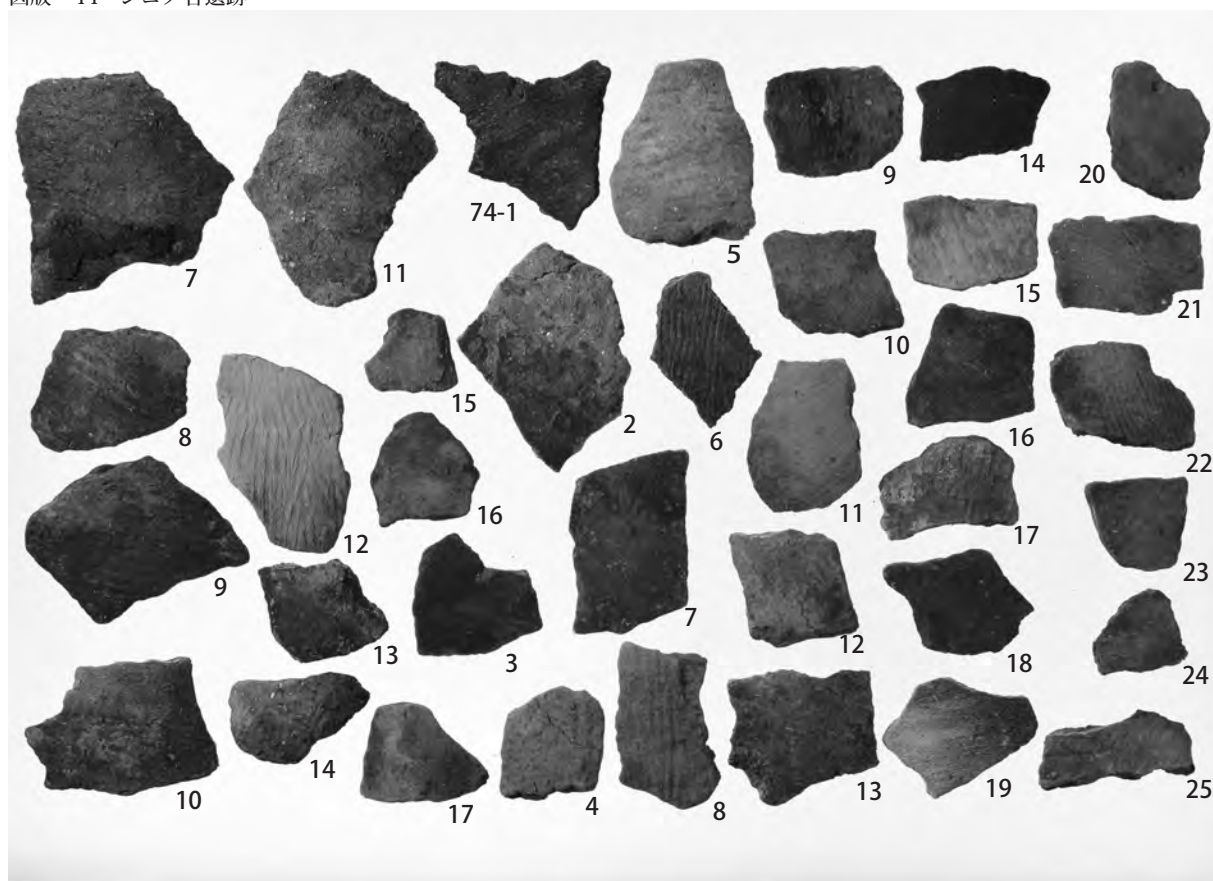
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第70図)



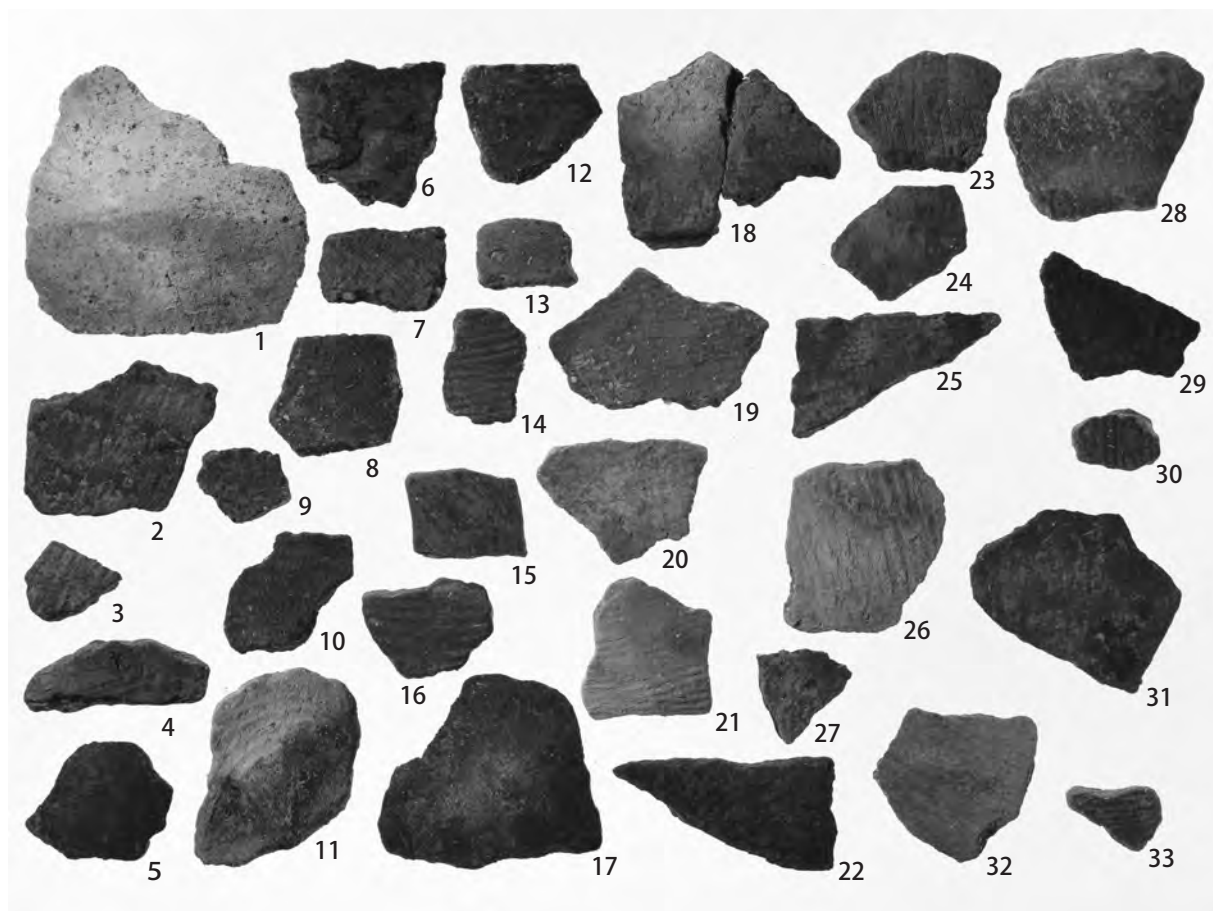
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第71図・72図)



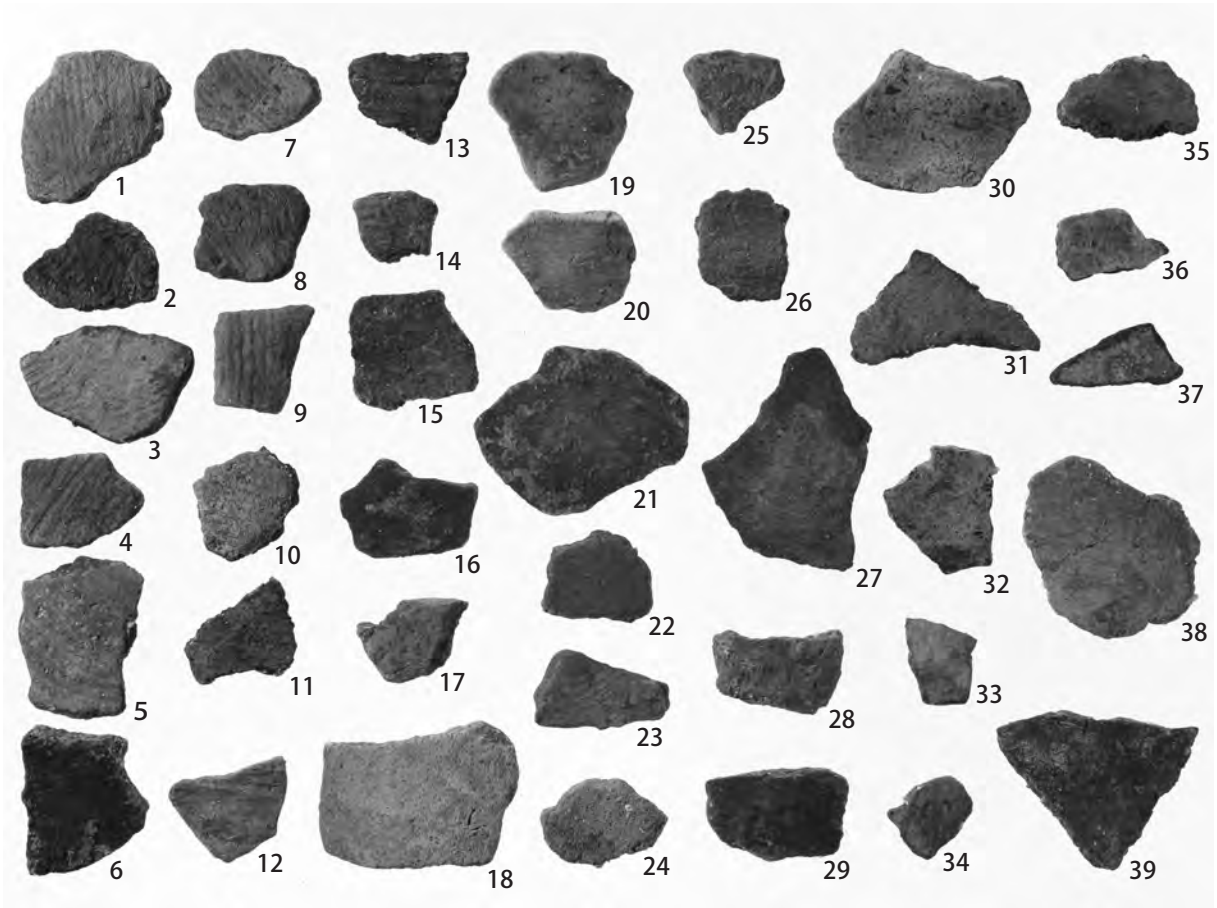
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第72図・73図)



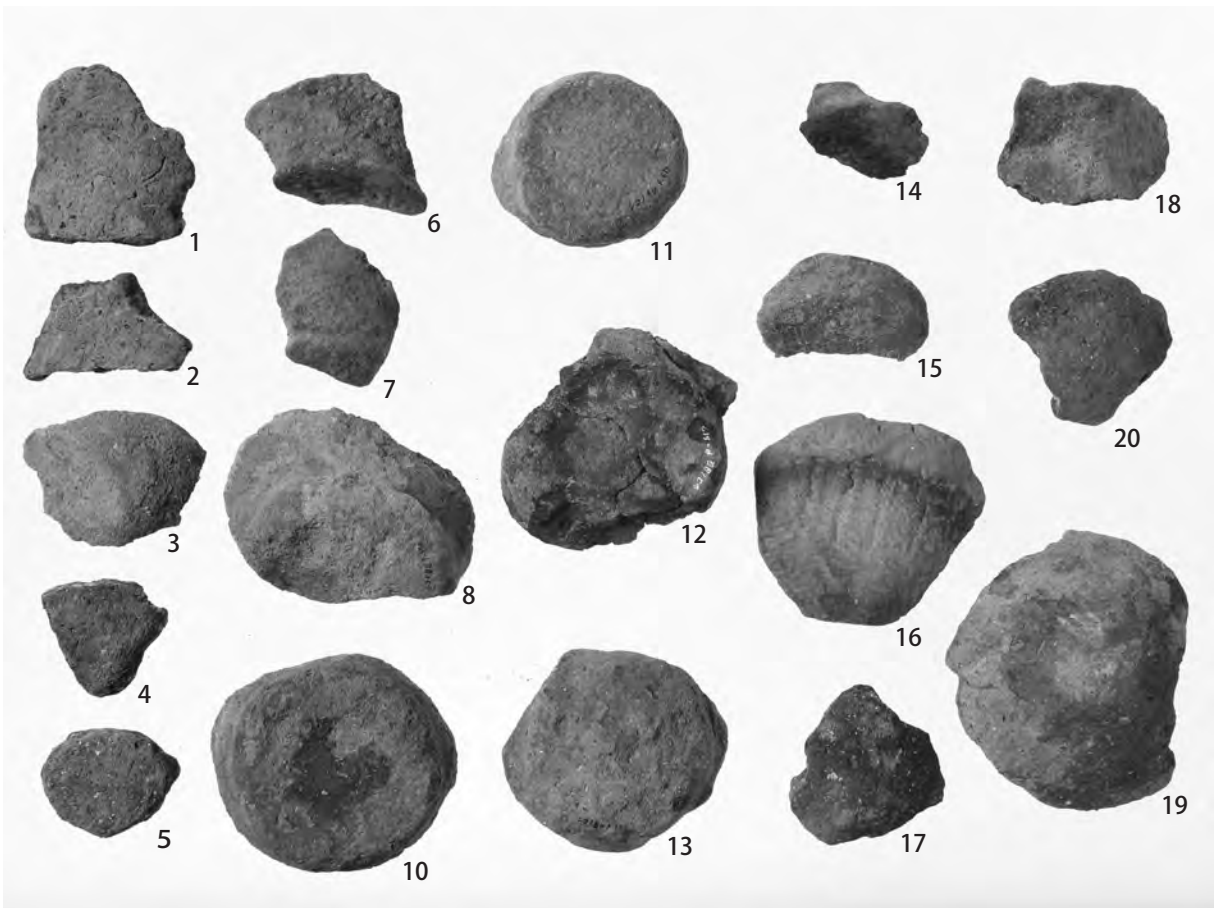
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第73図・74図)



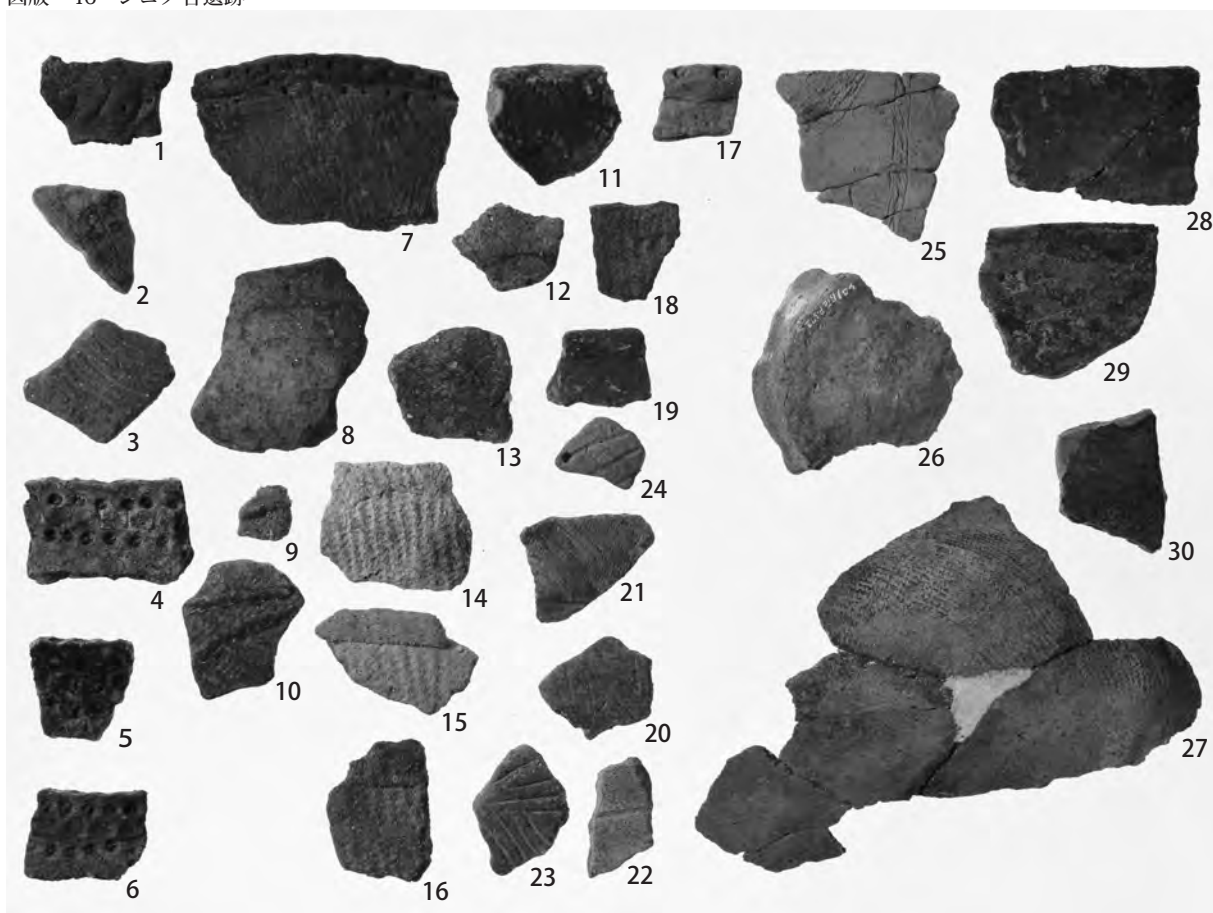
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第75図)



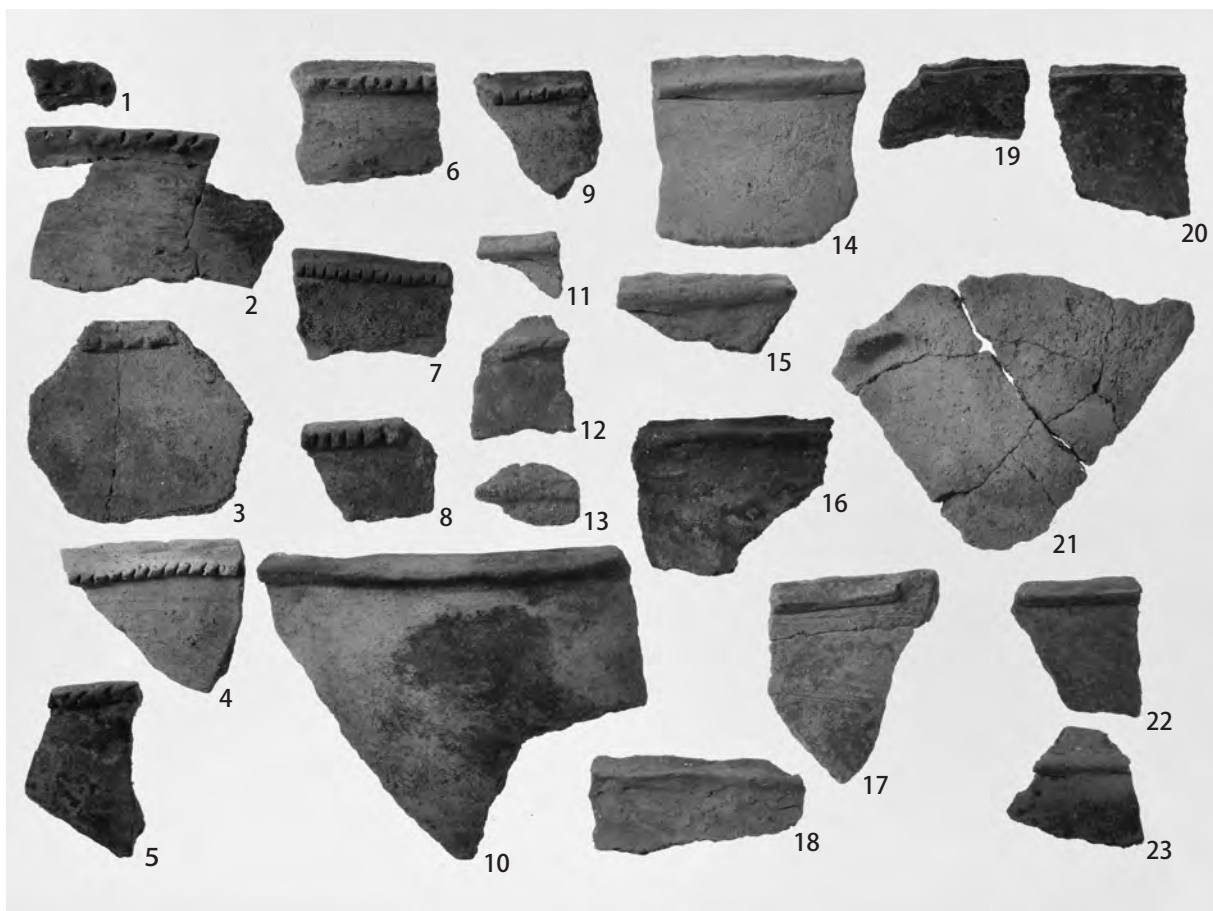
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第76図)



2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第77図)



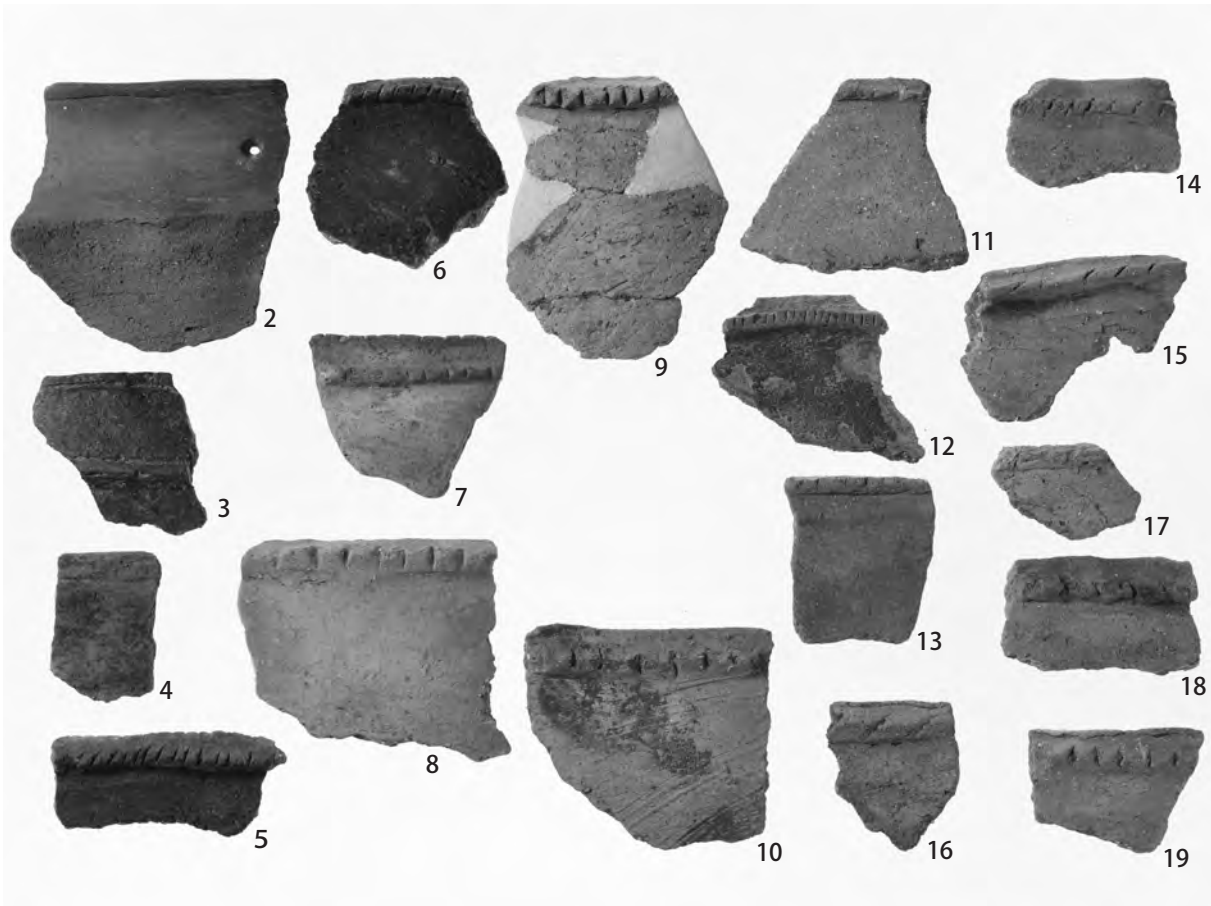
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第78図)



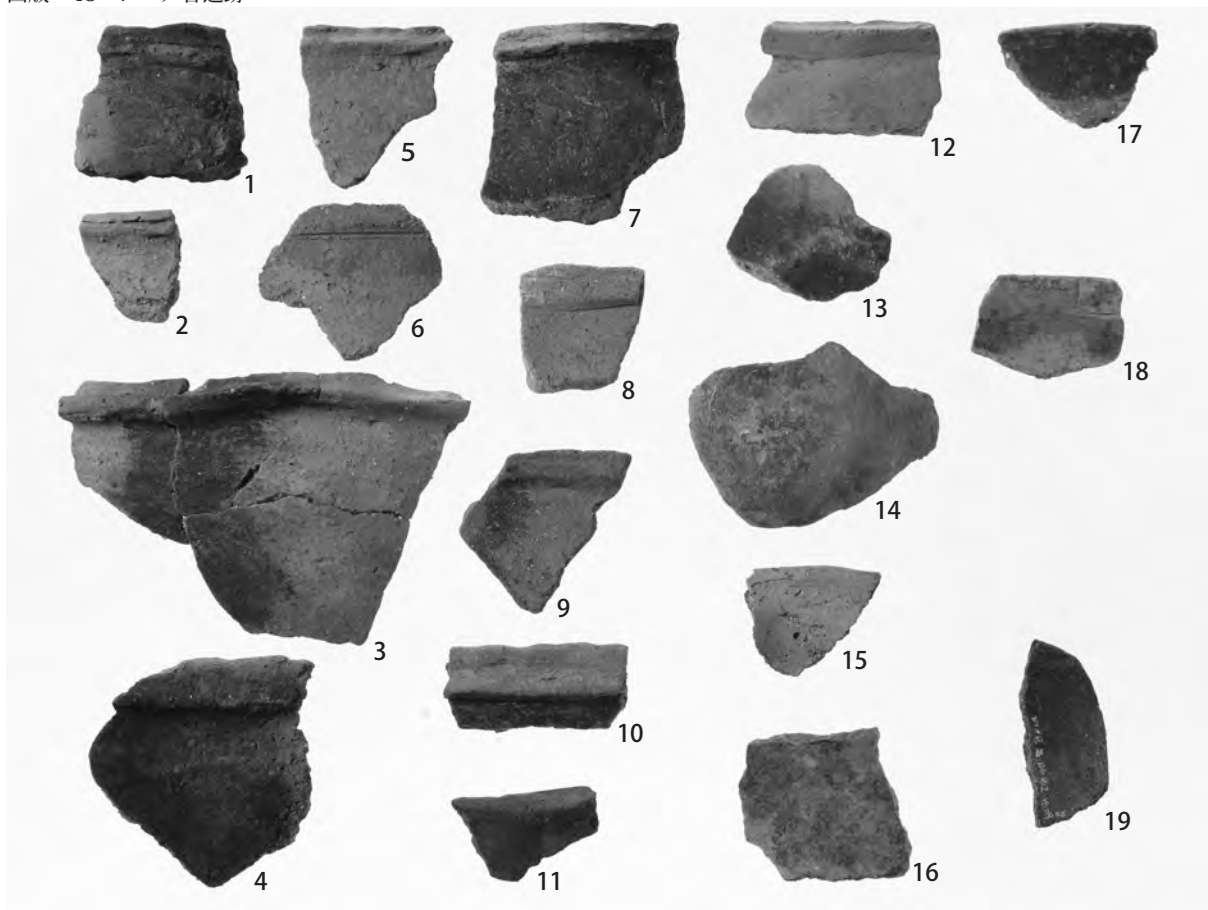
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第79図)



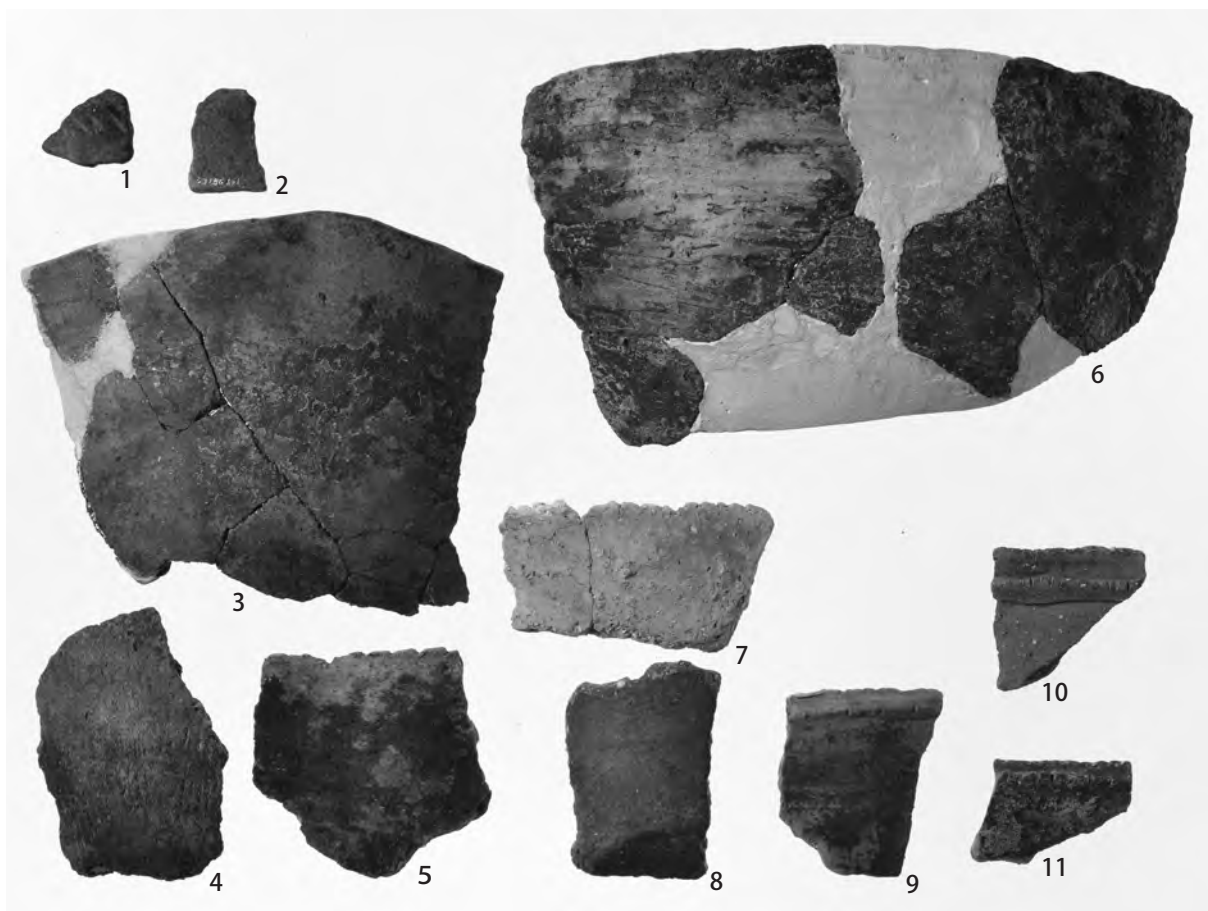
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第77図・80図・88図)



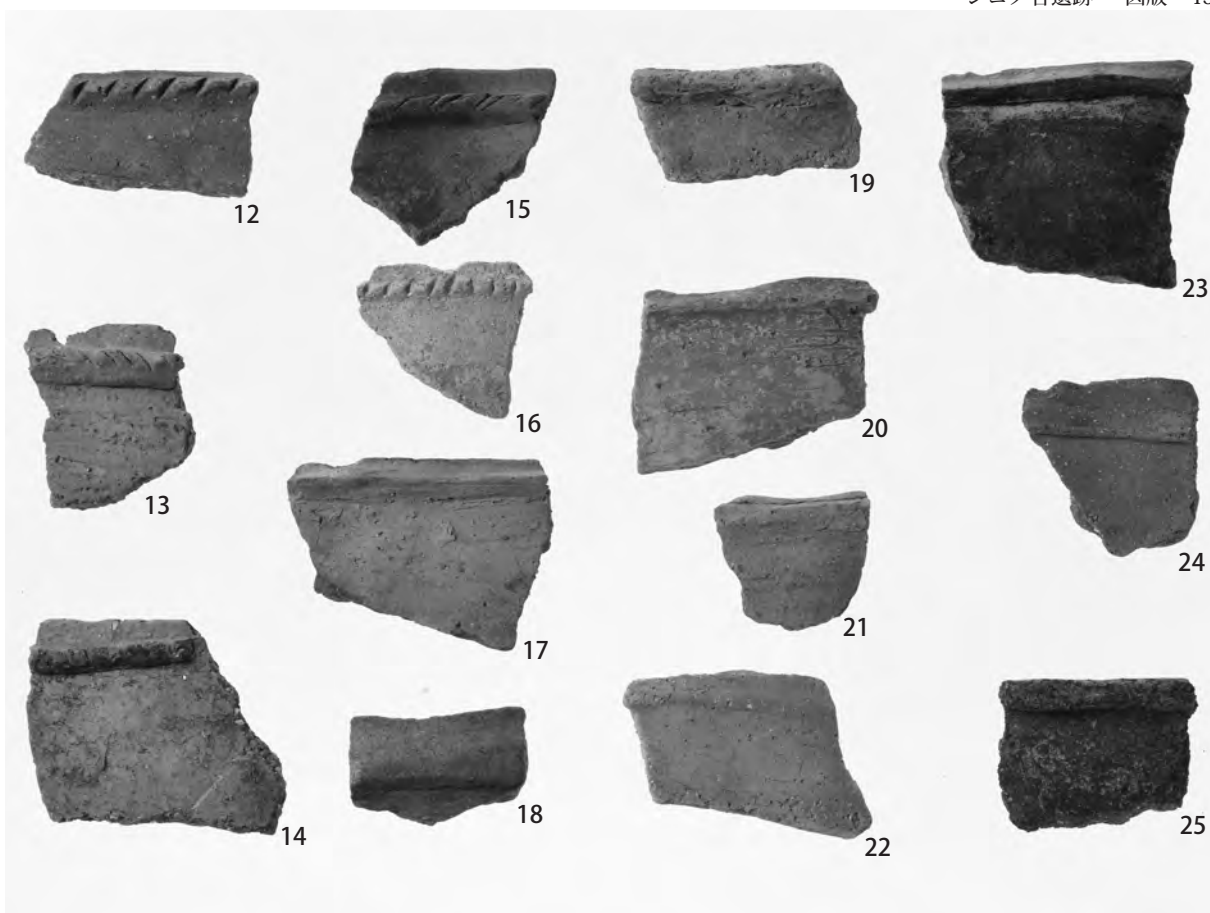
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第81図)



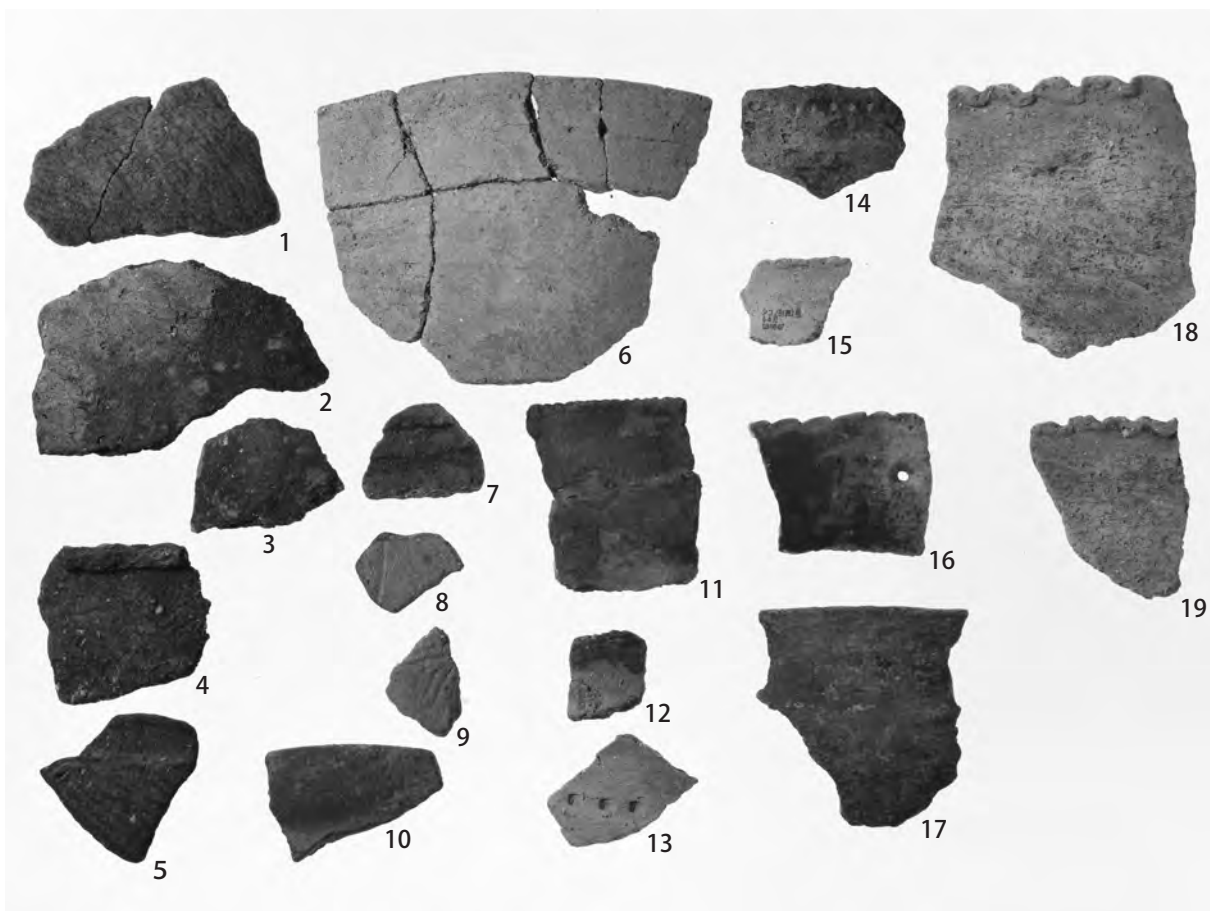
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第82図)



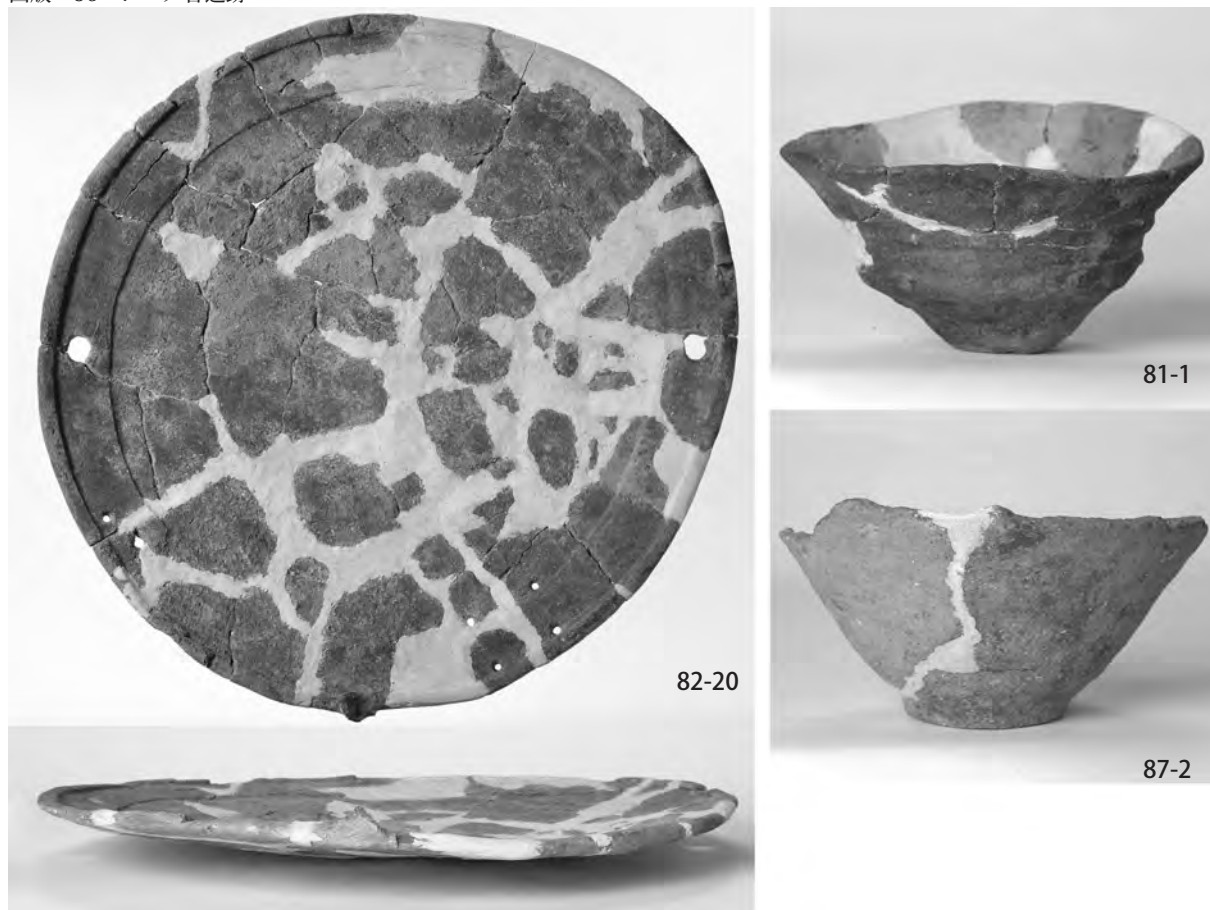
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第83図)



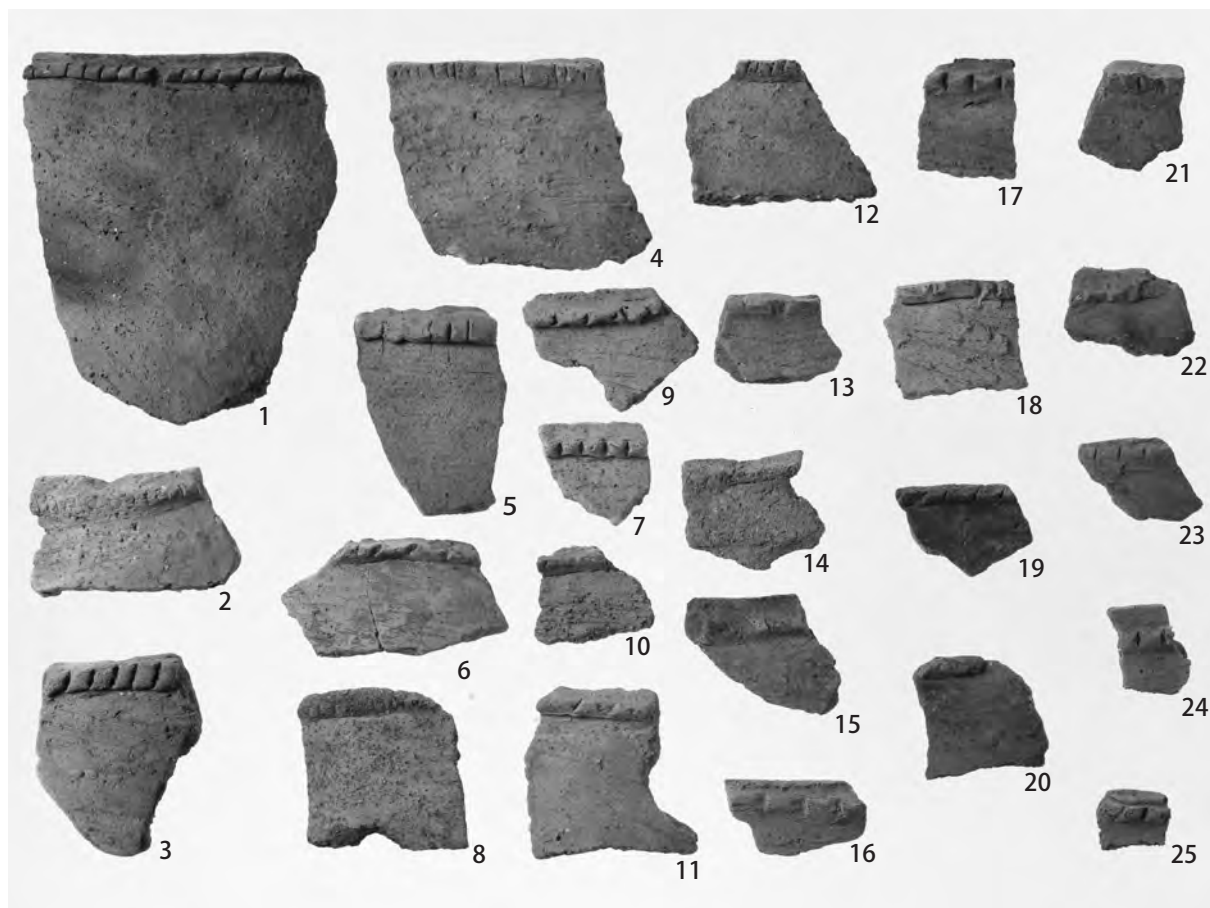
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第83図)



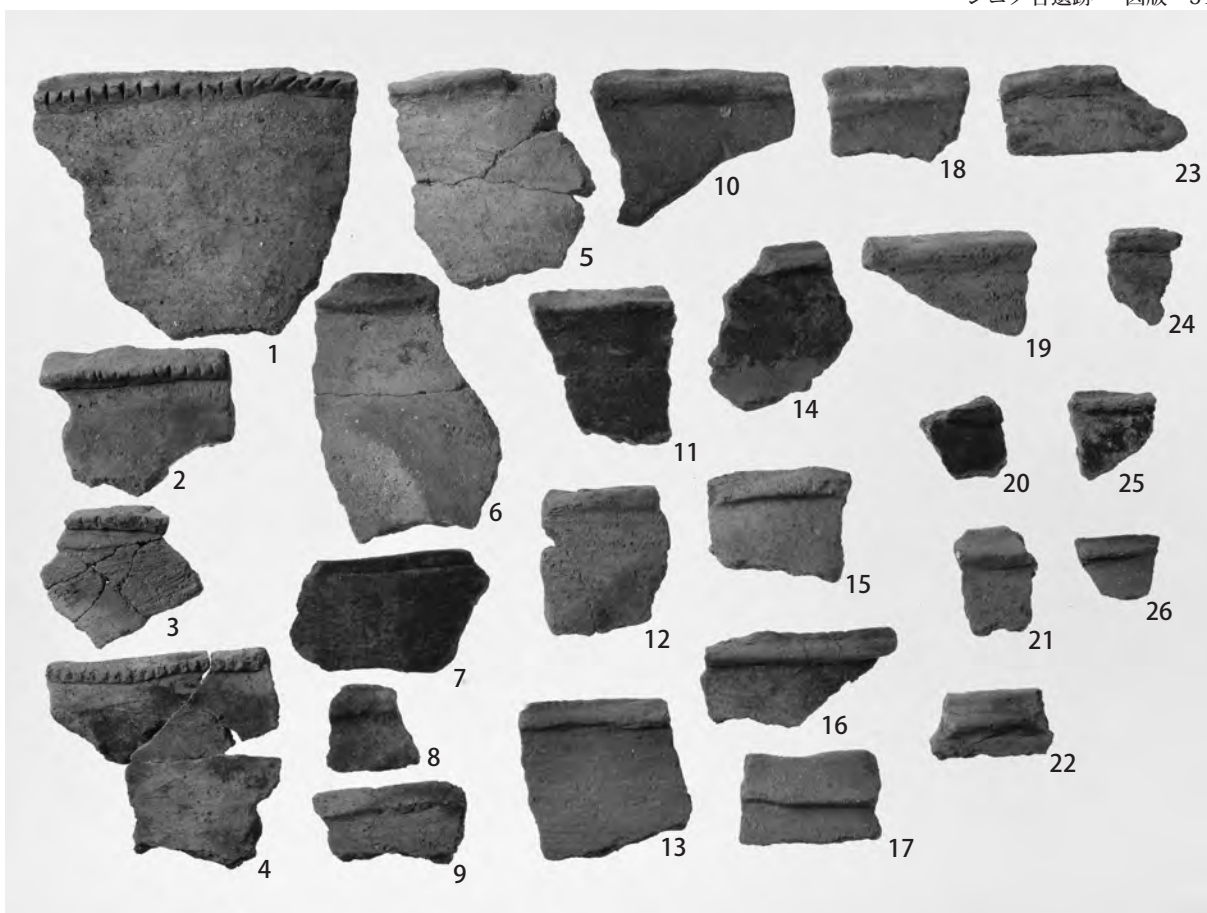
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第84図)



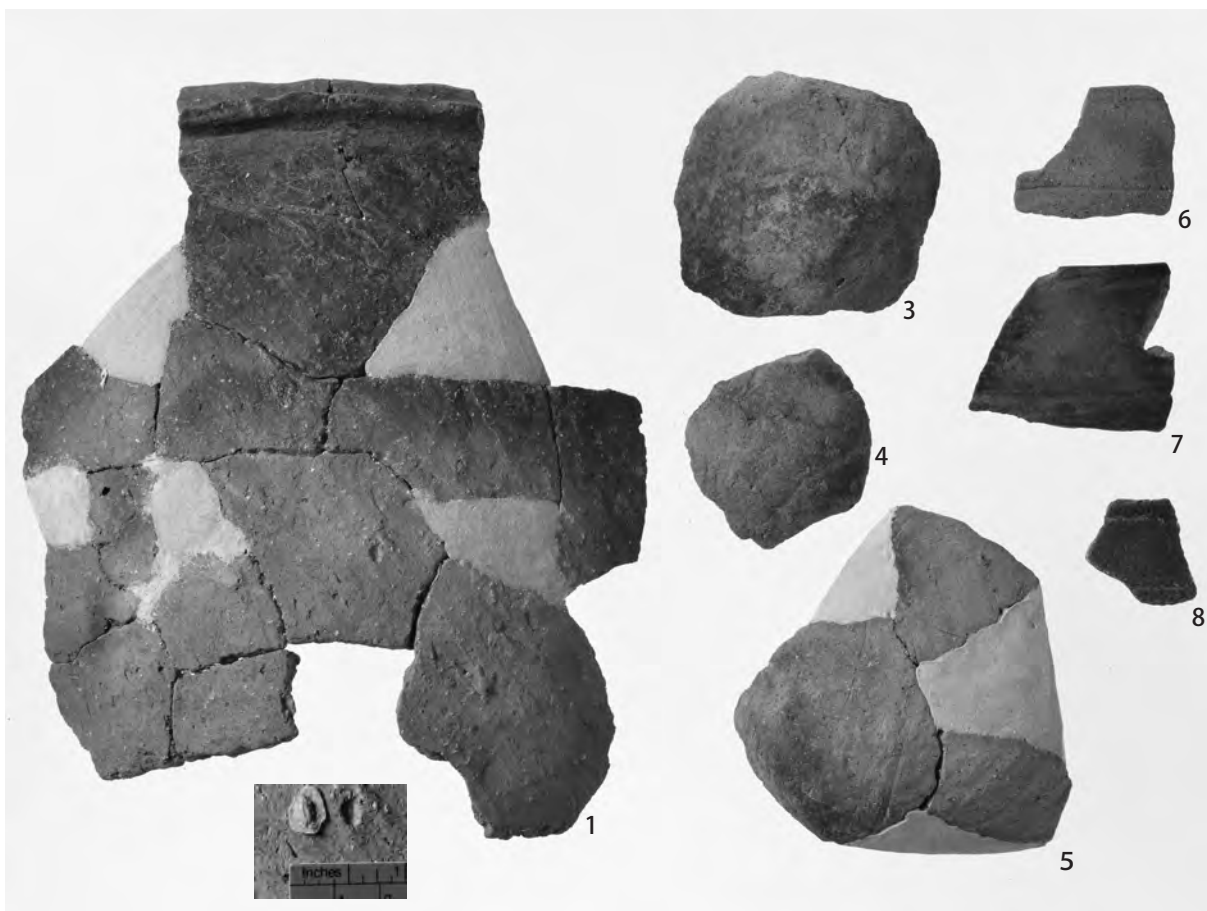
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第81図・82図・87図)



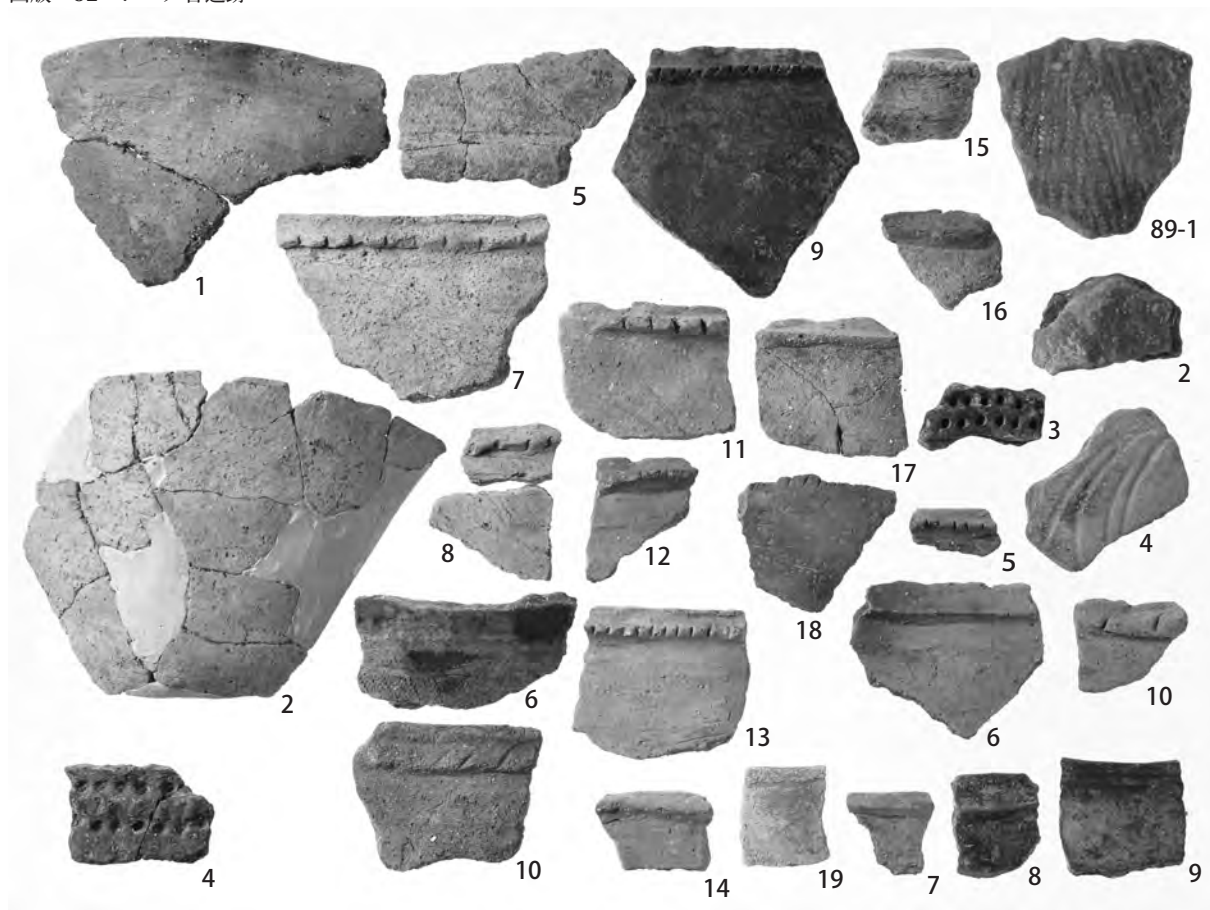
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第85図)



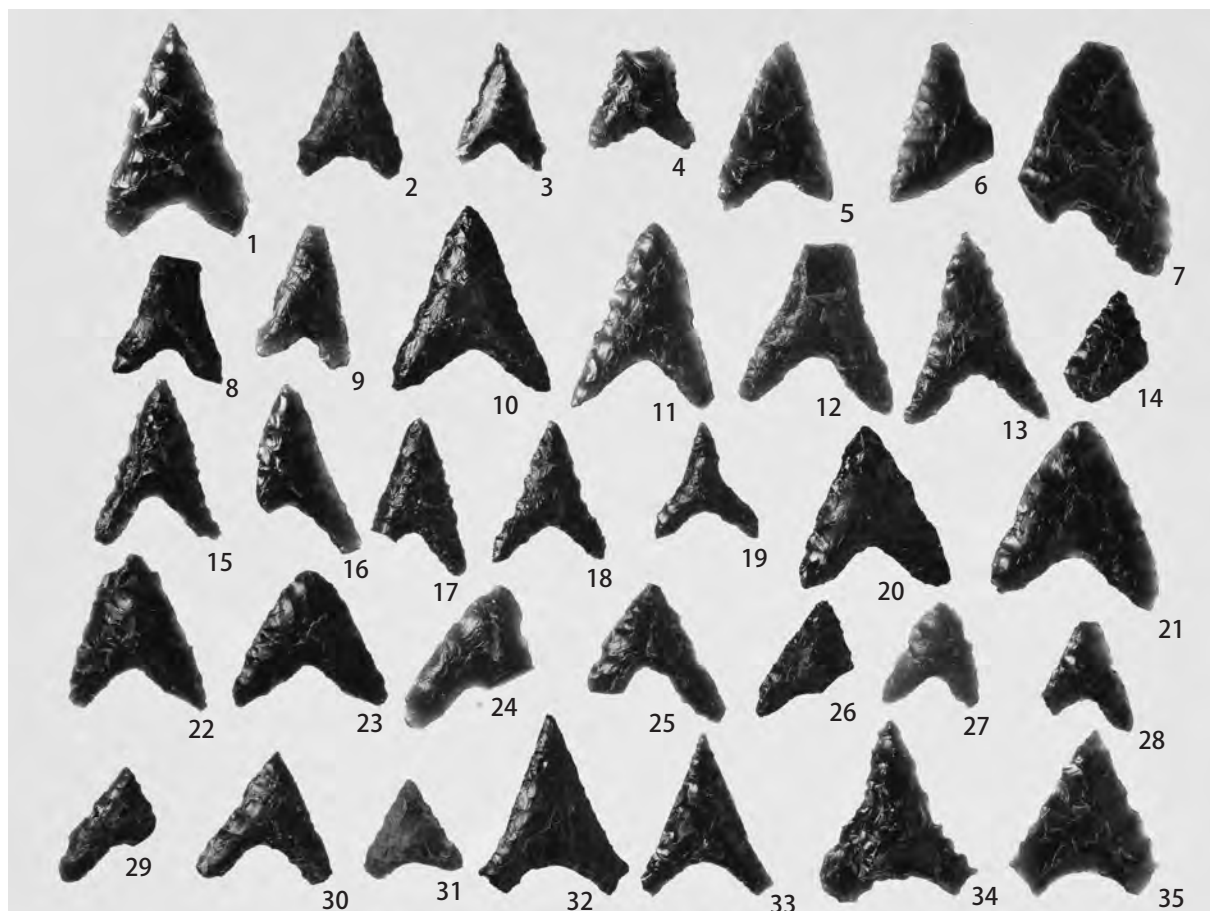
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第86図)



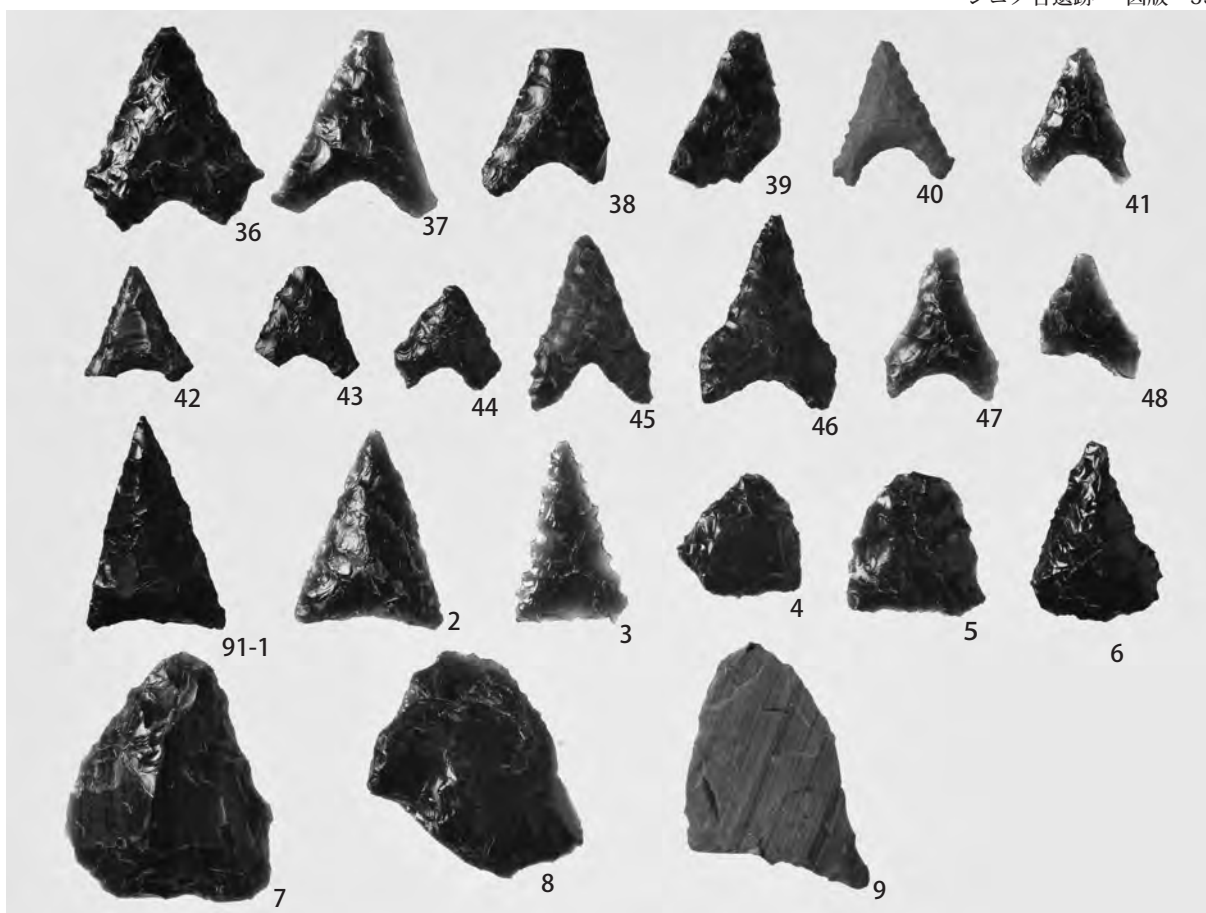
2. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第87図)



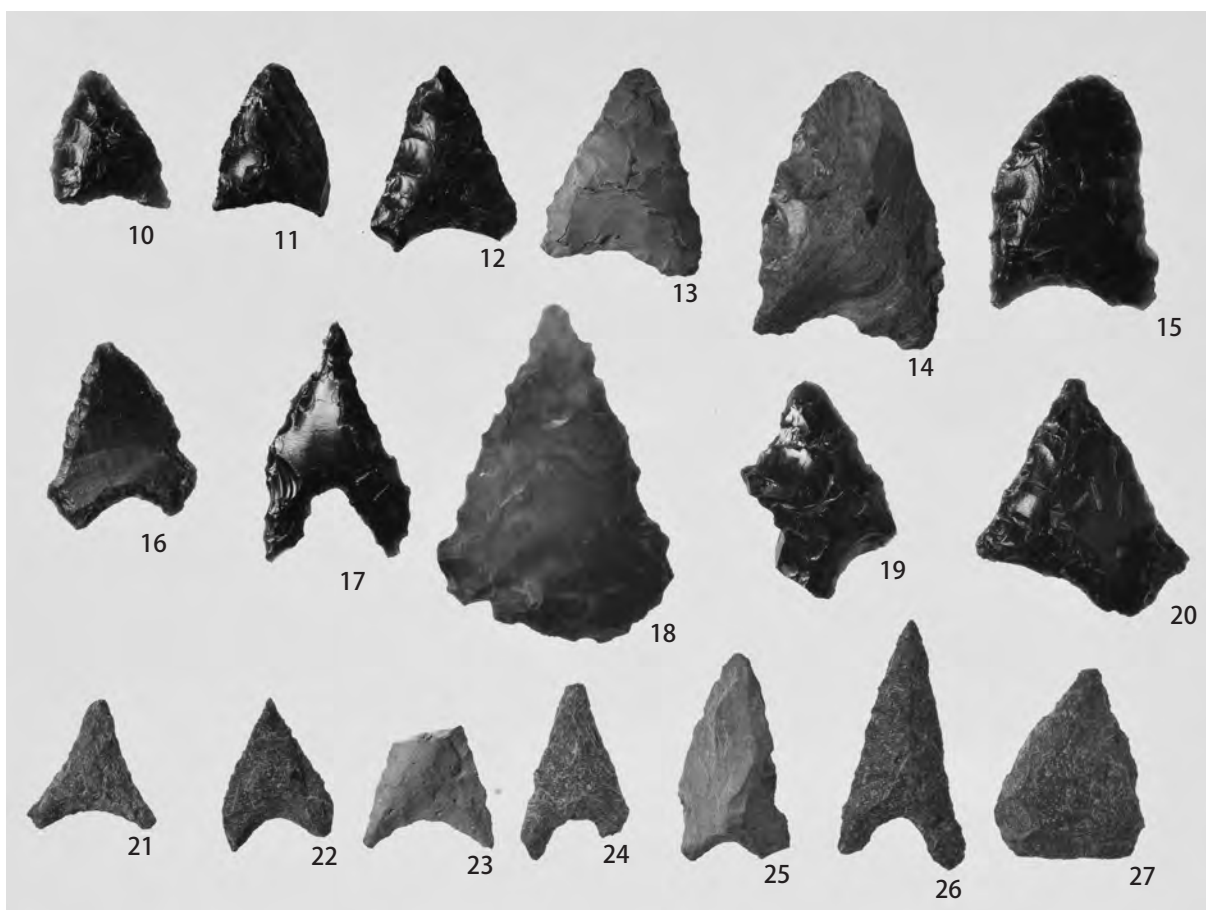
1. シコノ谷遺跡 B区出土縄文土器 (第88図・89図)



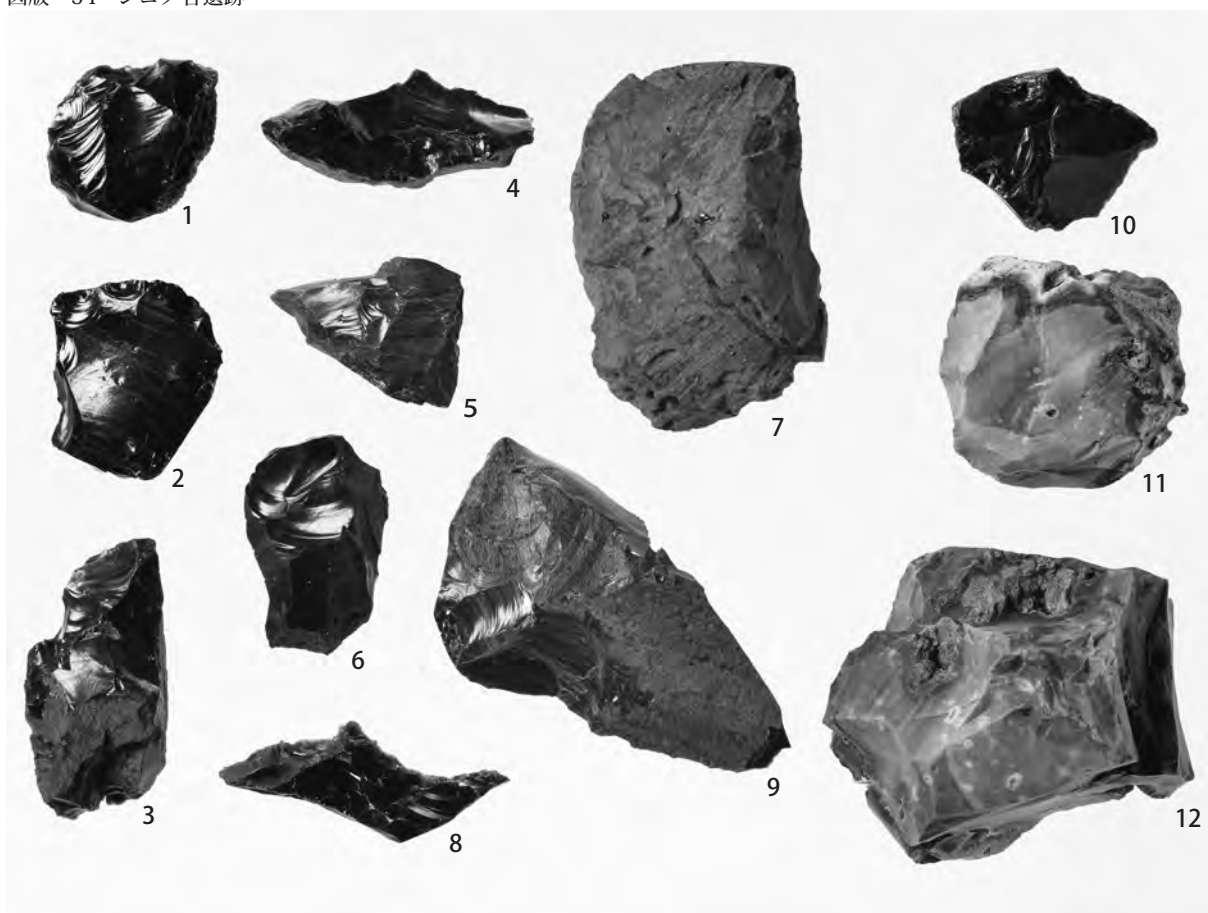
2. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第90図)



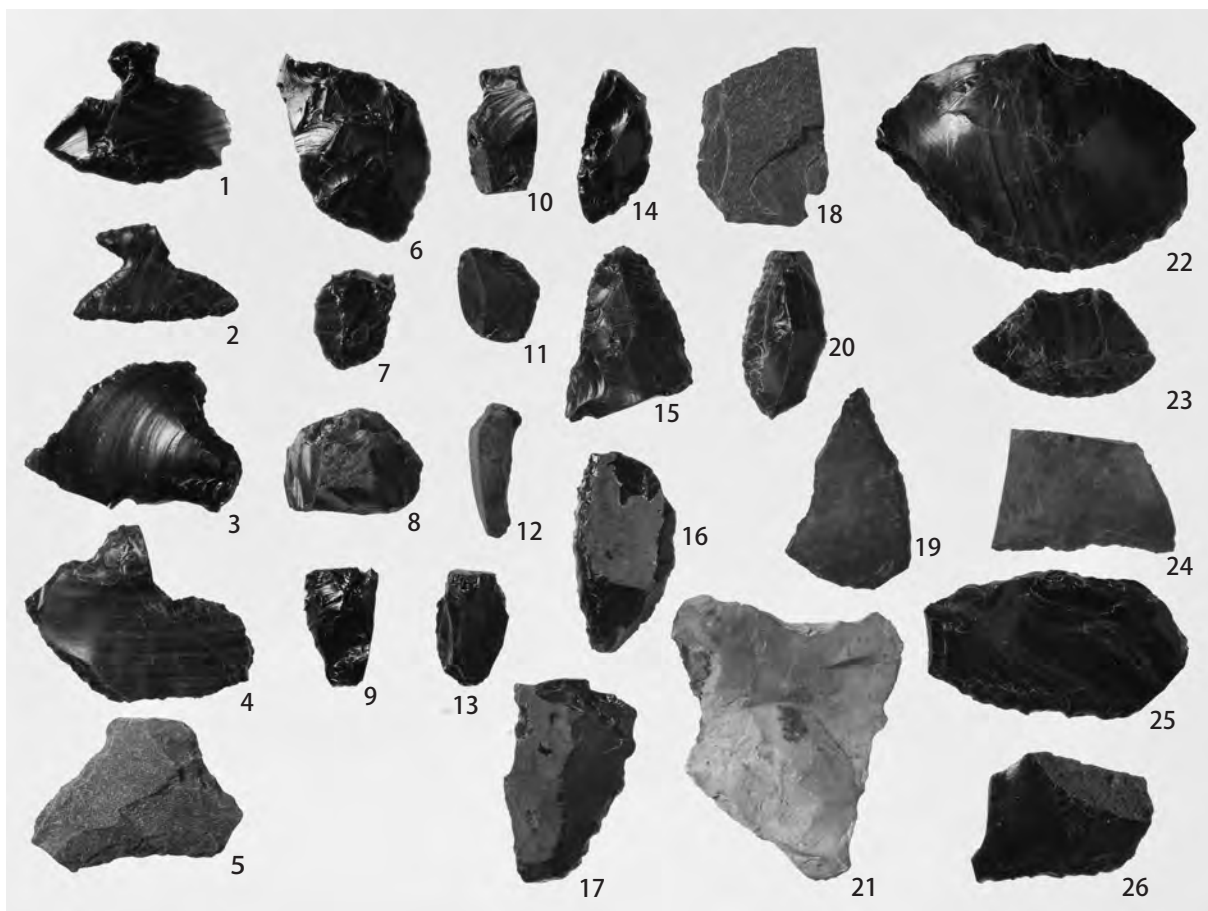
1. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第90・91図)



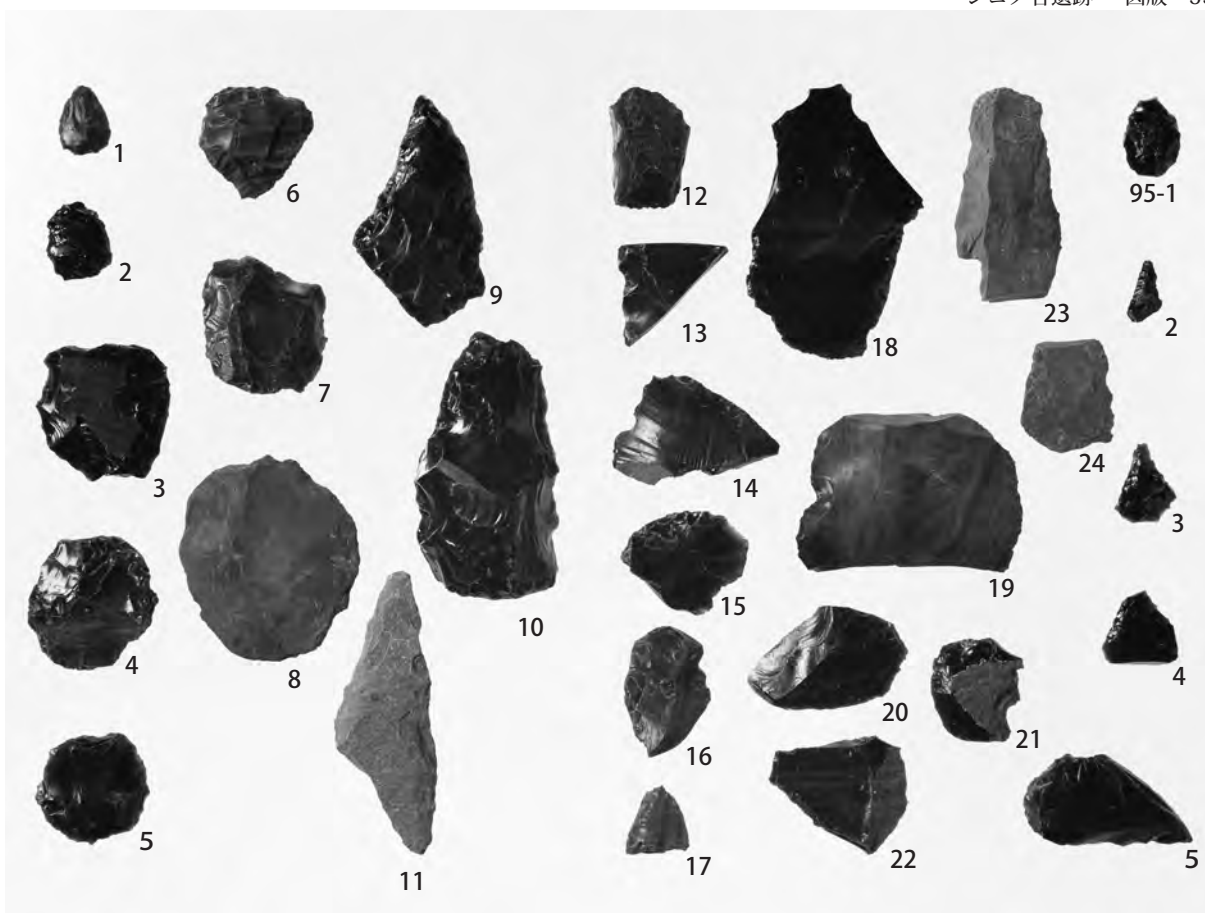
2. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第91図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第92図)



2. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第93図)



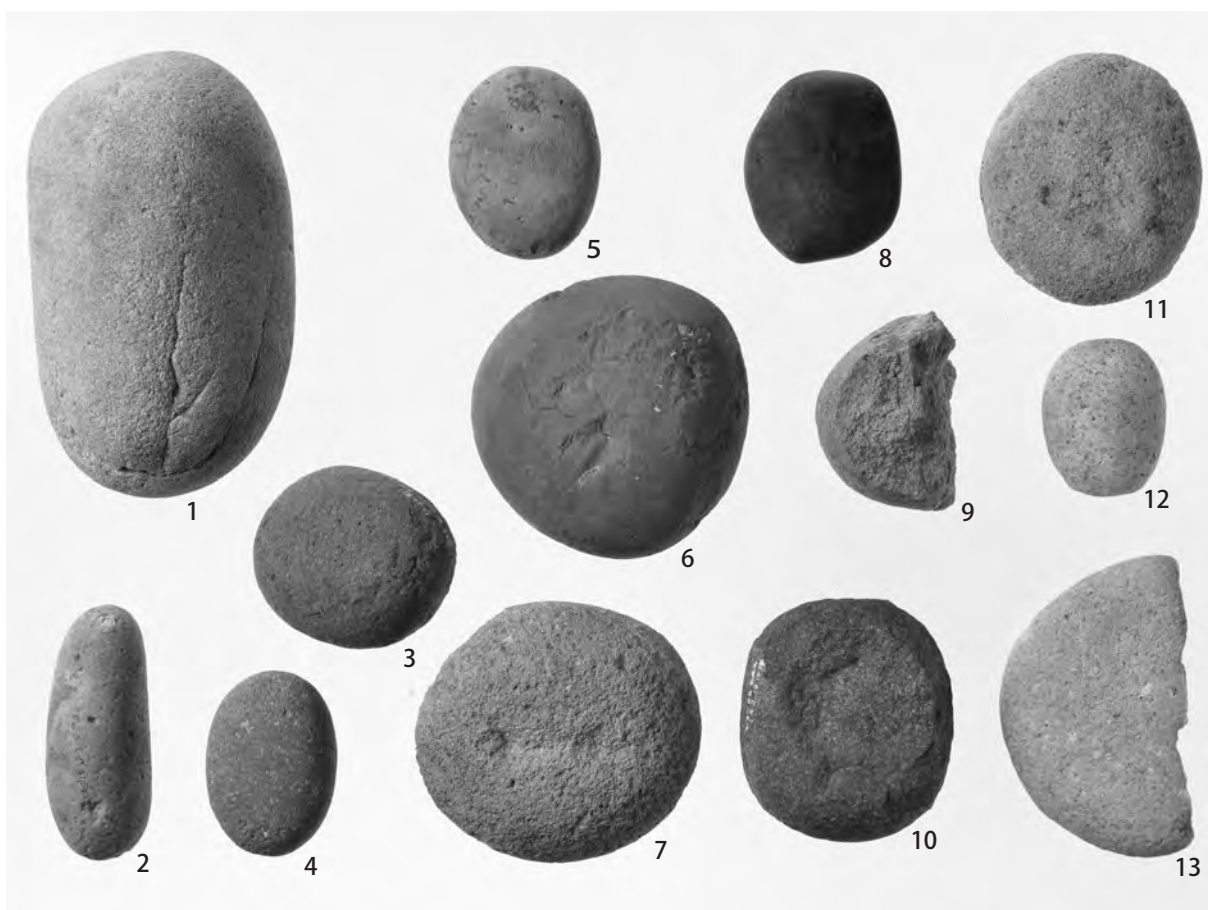
1. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第94図・95図)



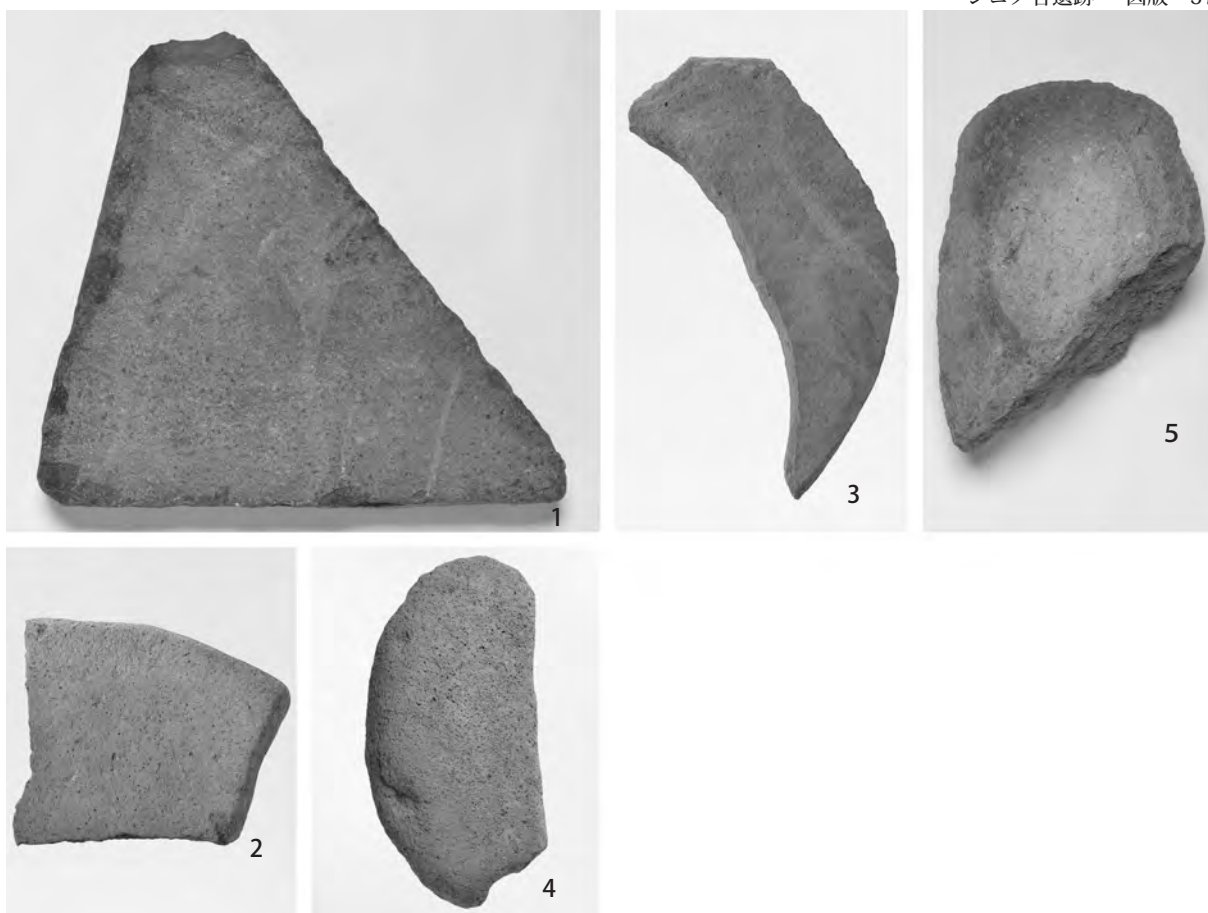
2. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第96図)



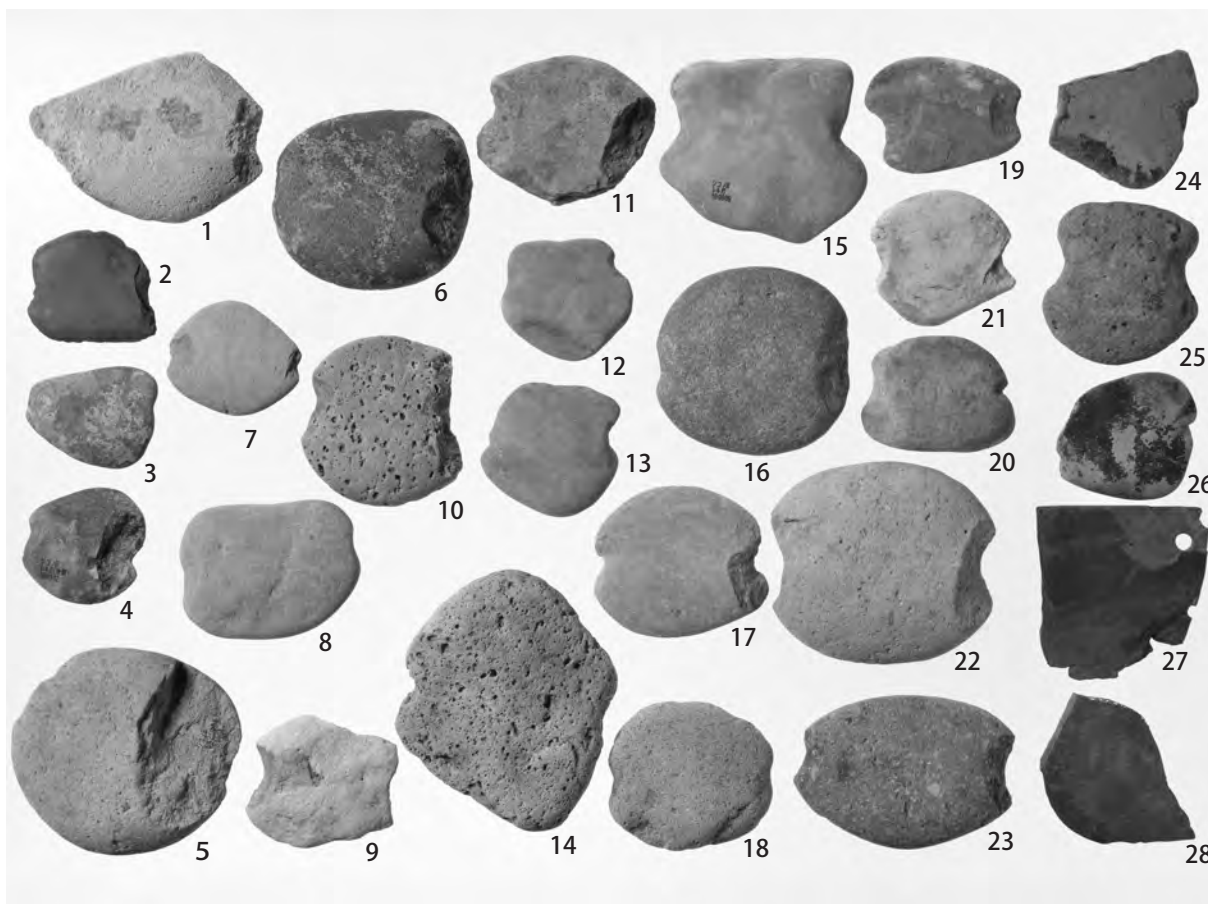
1. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第97図)



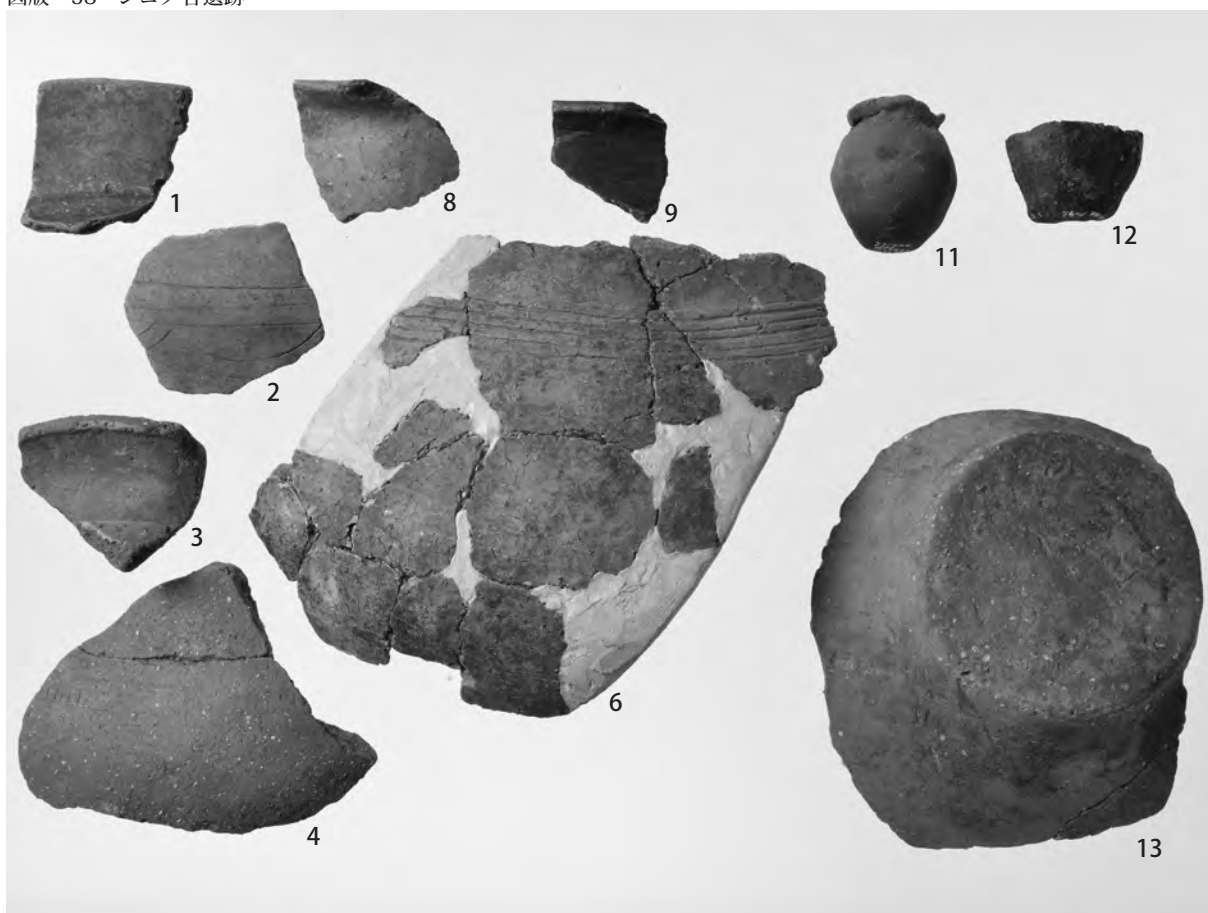
2. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第98図)



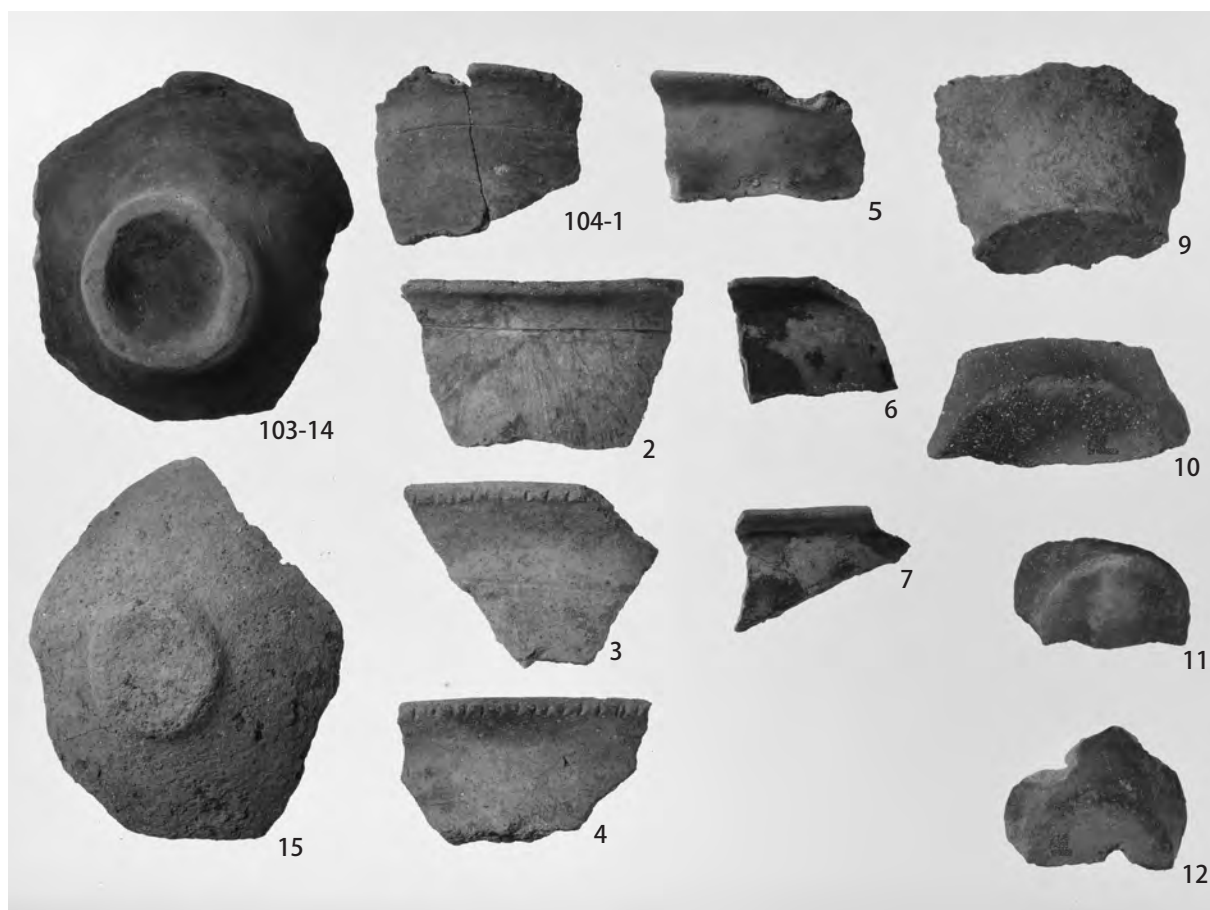
1. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第99図)



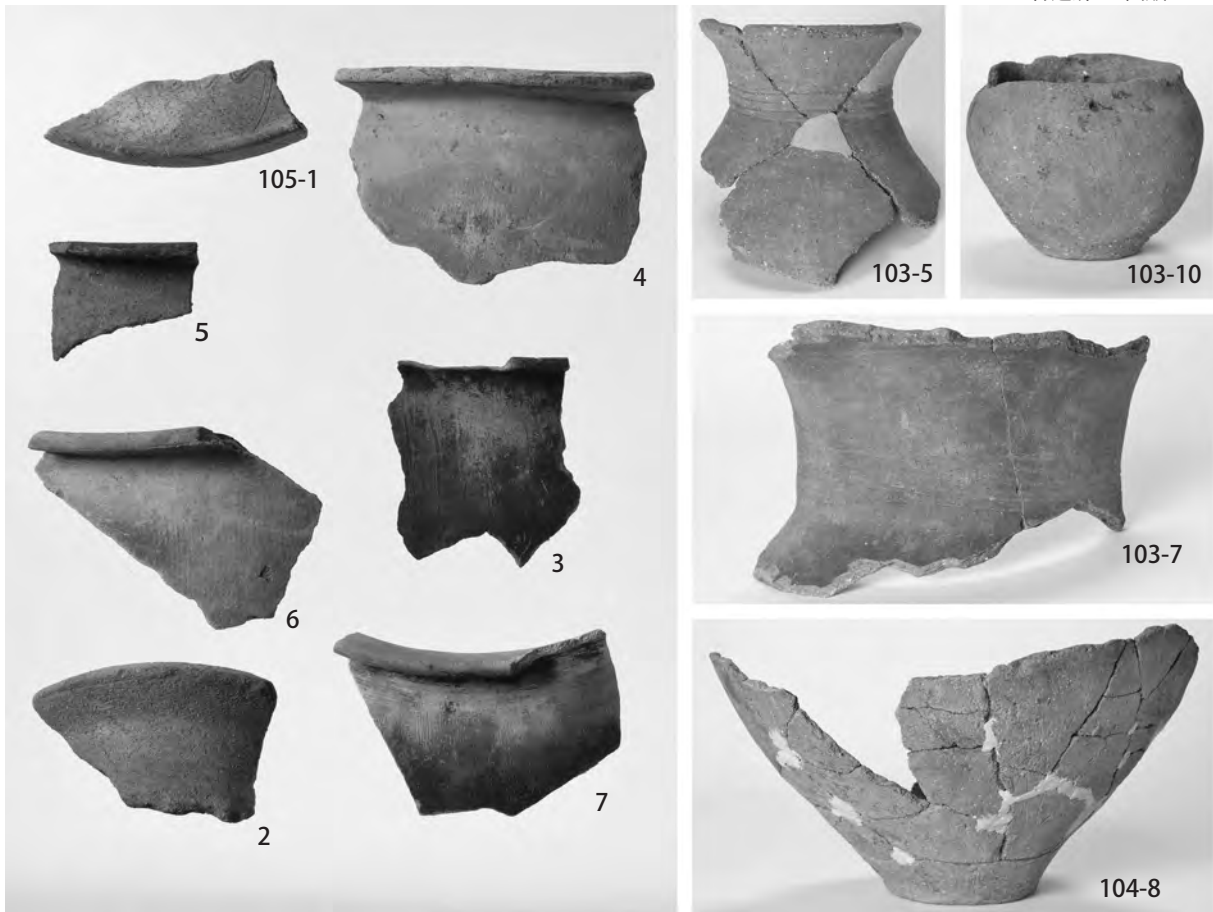
2. シコノ谷遺跡 B区出土石器 (第100図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第103図)



2. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第103図・104図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第103図・104図・105図)



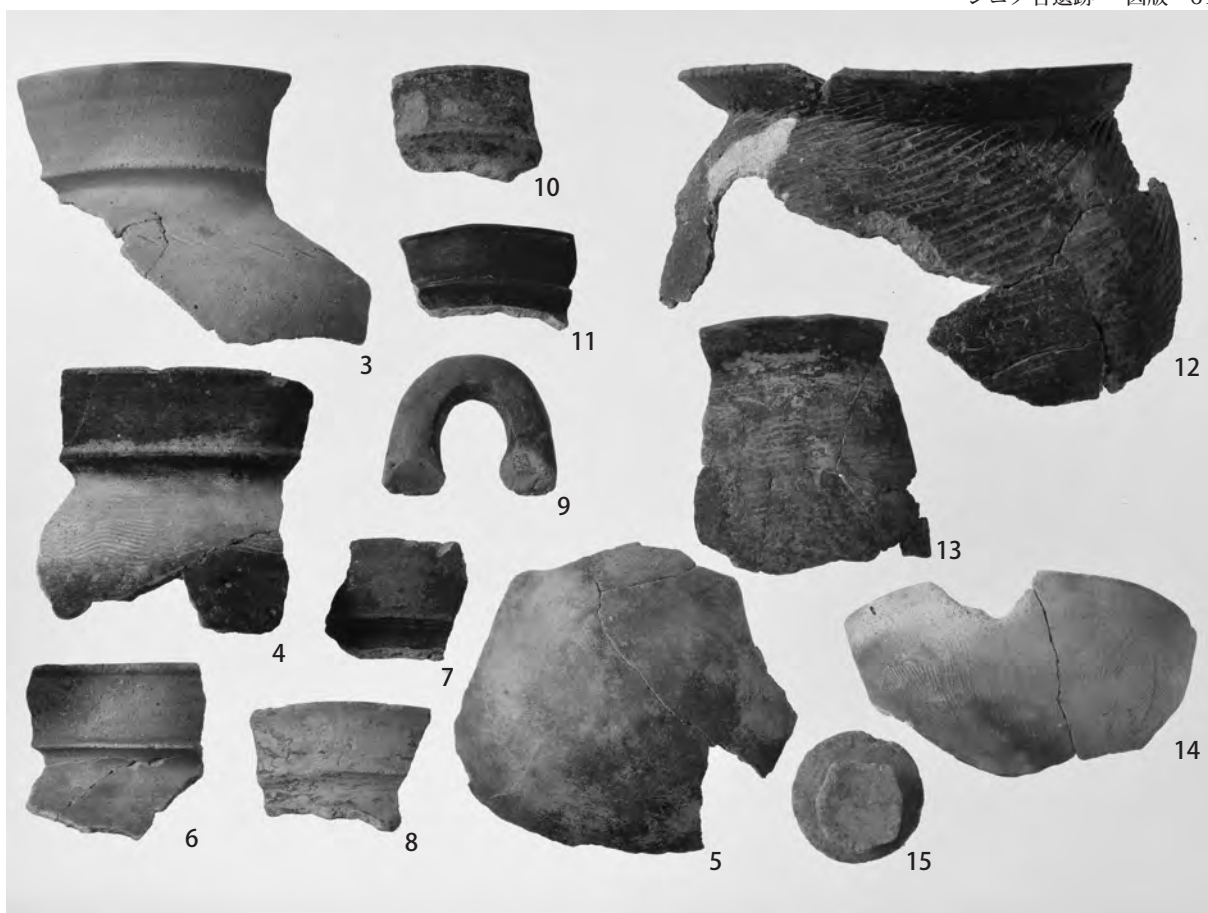
2. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第105図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第106図)



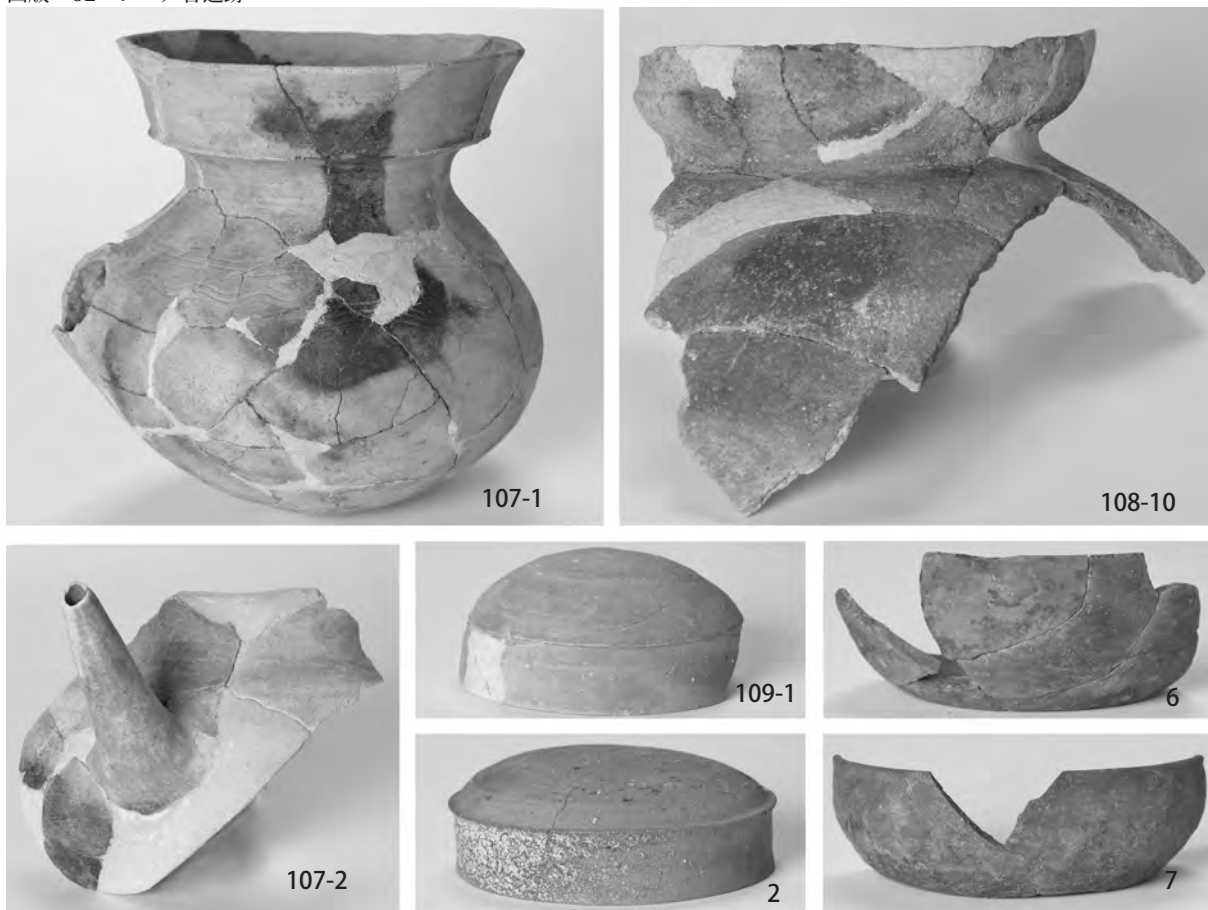
2. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第106図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土弥生土器 (第107図)



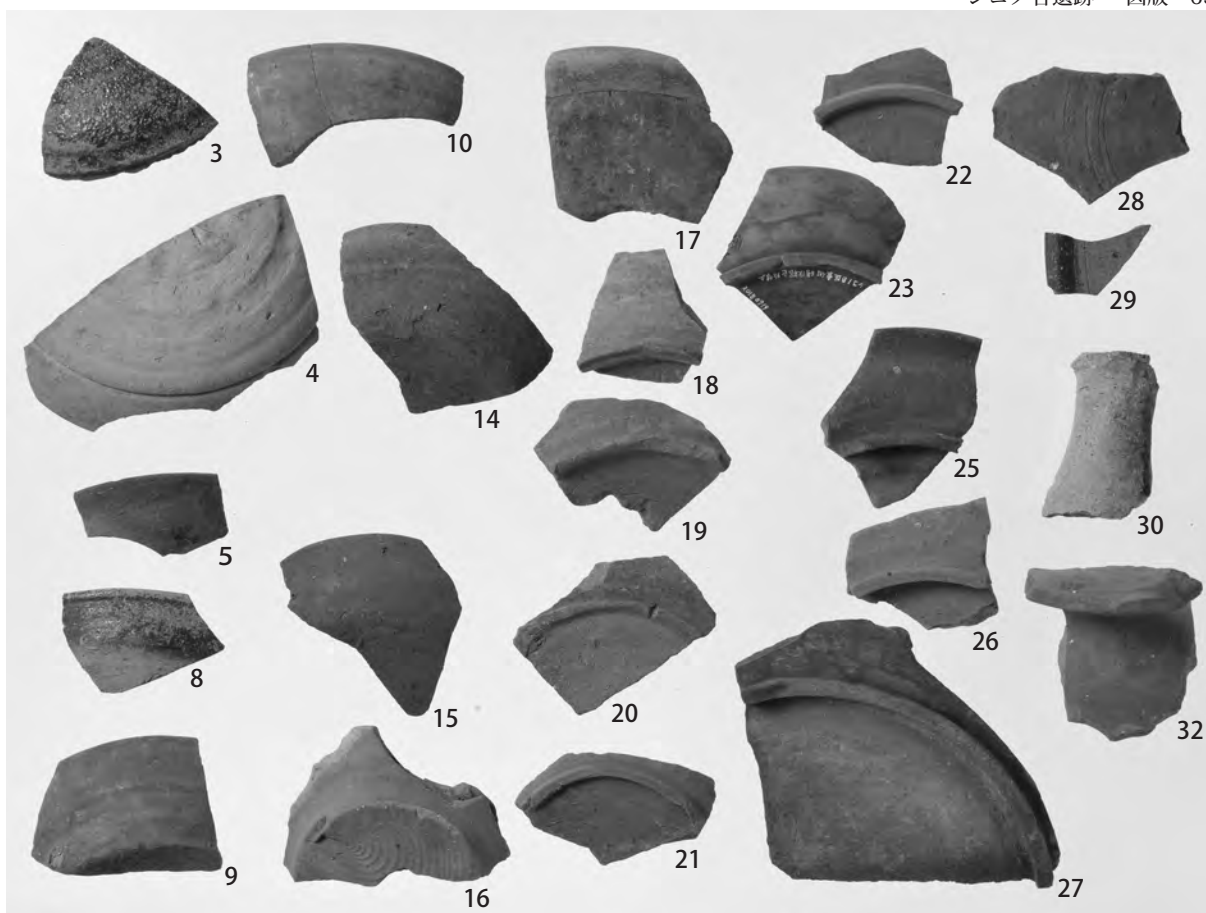
2. シコノ谷遺跡 B区出土土師器 (第108図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土土師器 (第107・108図)、須恵器 (第109図)



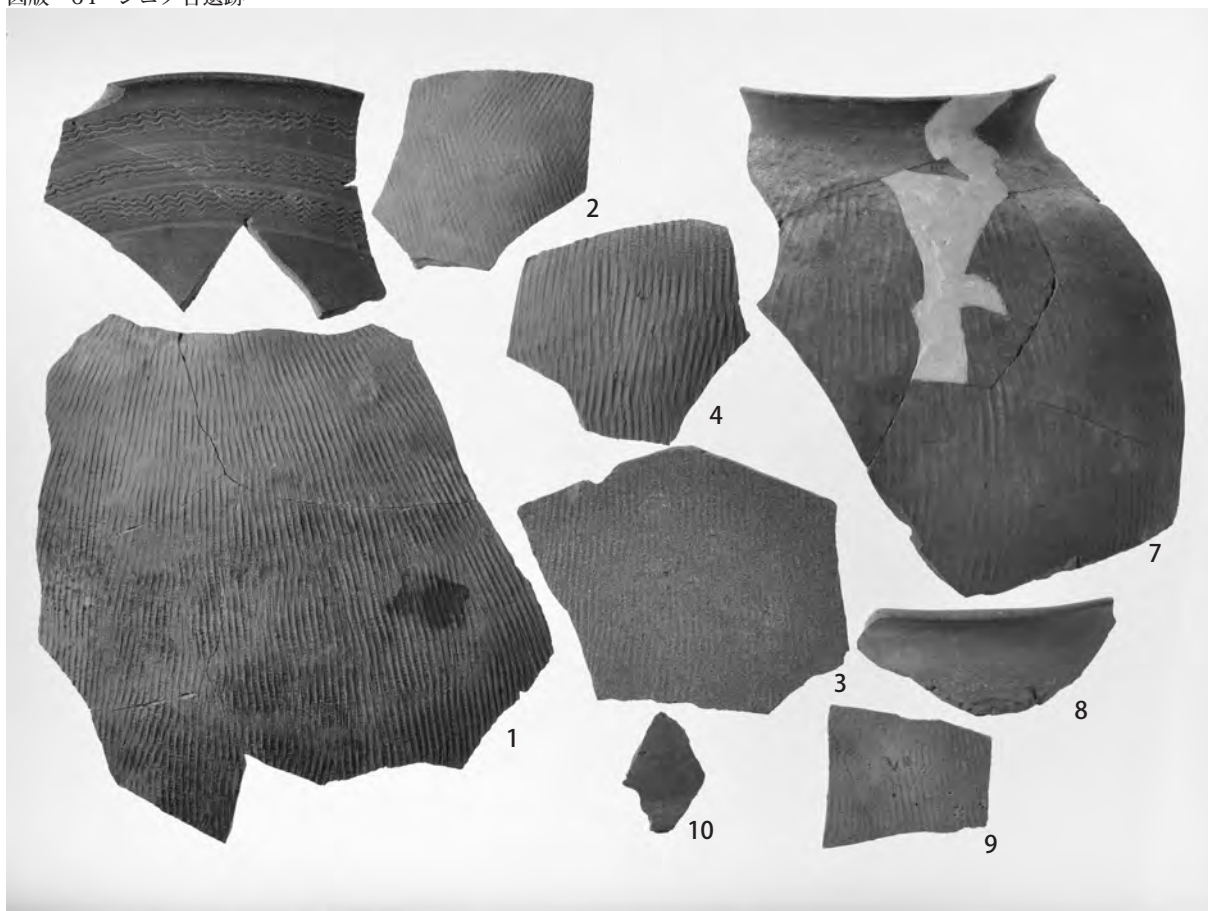
2. シコノ谷遺跡 B区出土須恵器 (第109図・110図)



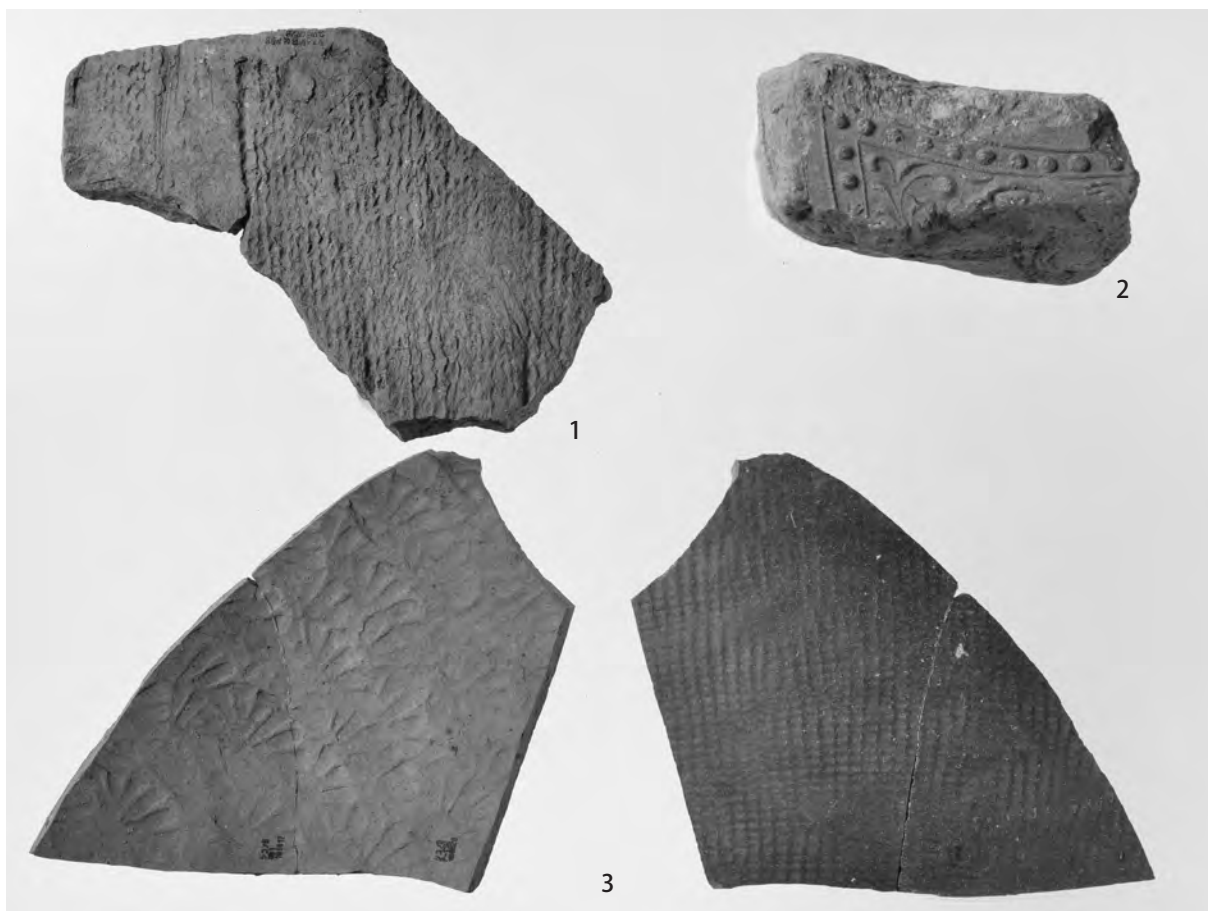
1. シコノ谷遺跡 B区出土須恵器 (第109図)



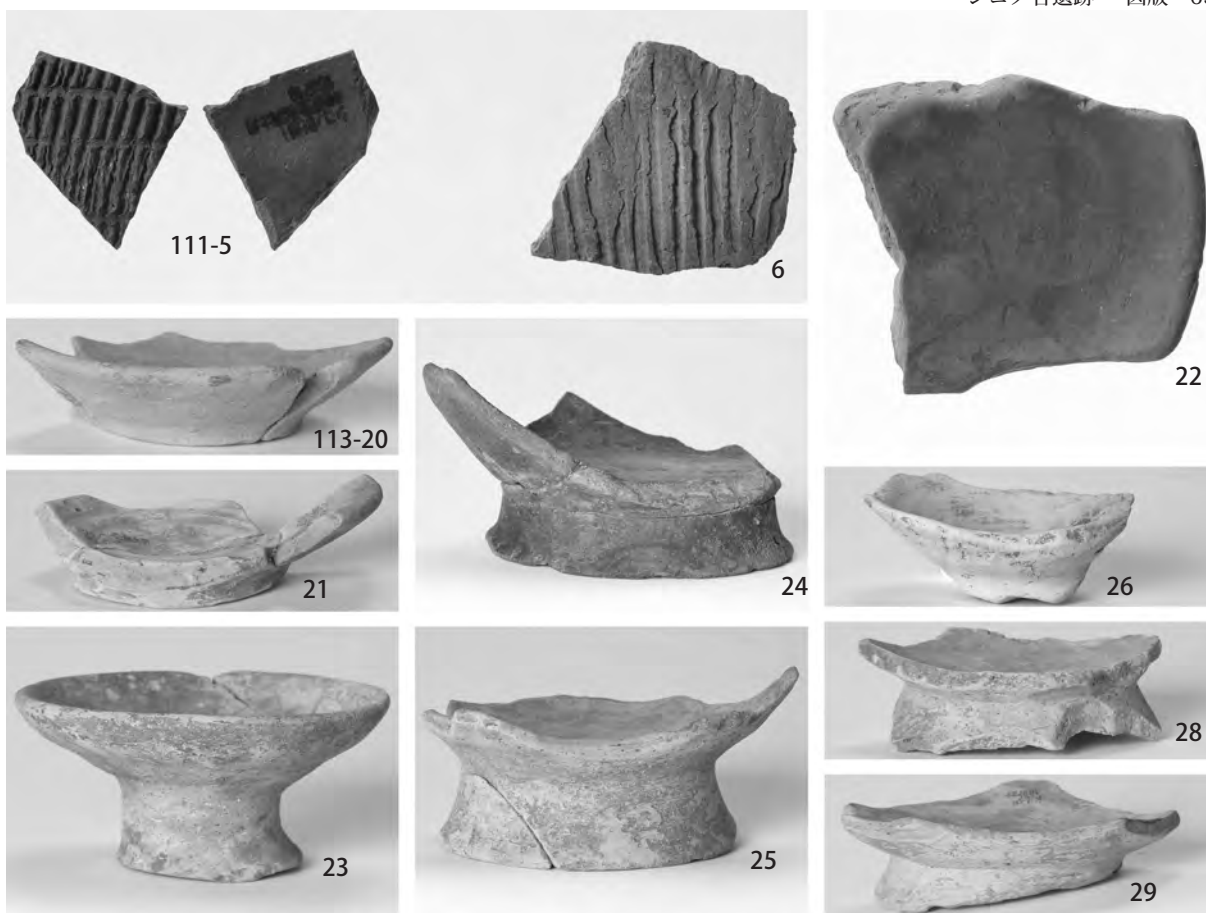
2. シコノ谷遺跡 B区出土須恵器 (第110図)



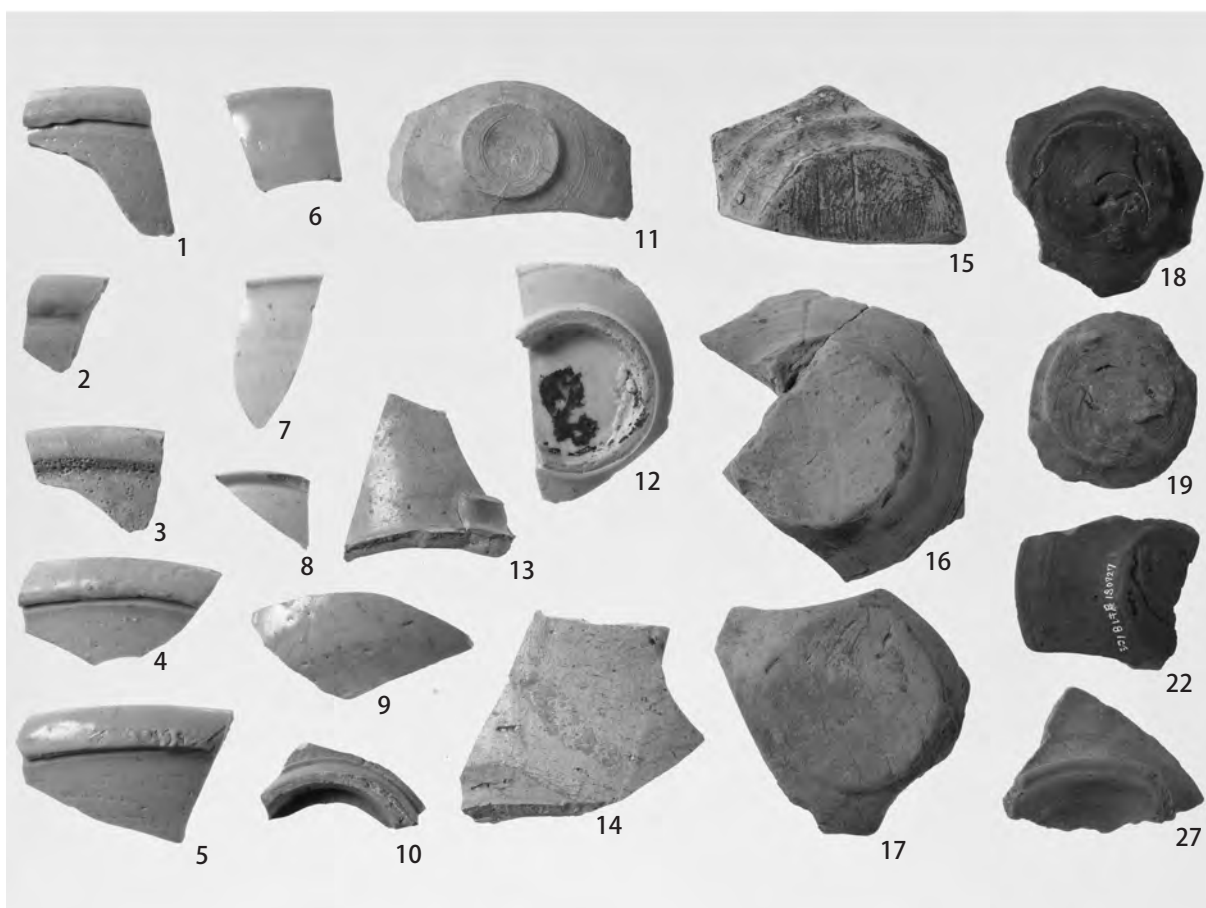
1. シコノ谷遺跡 B区出土須恵器 (第111図)



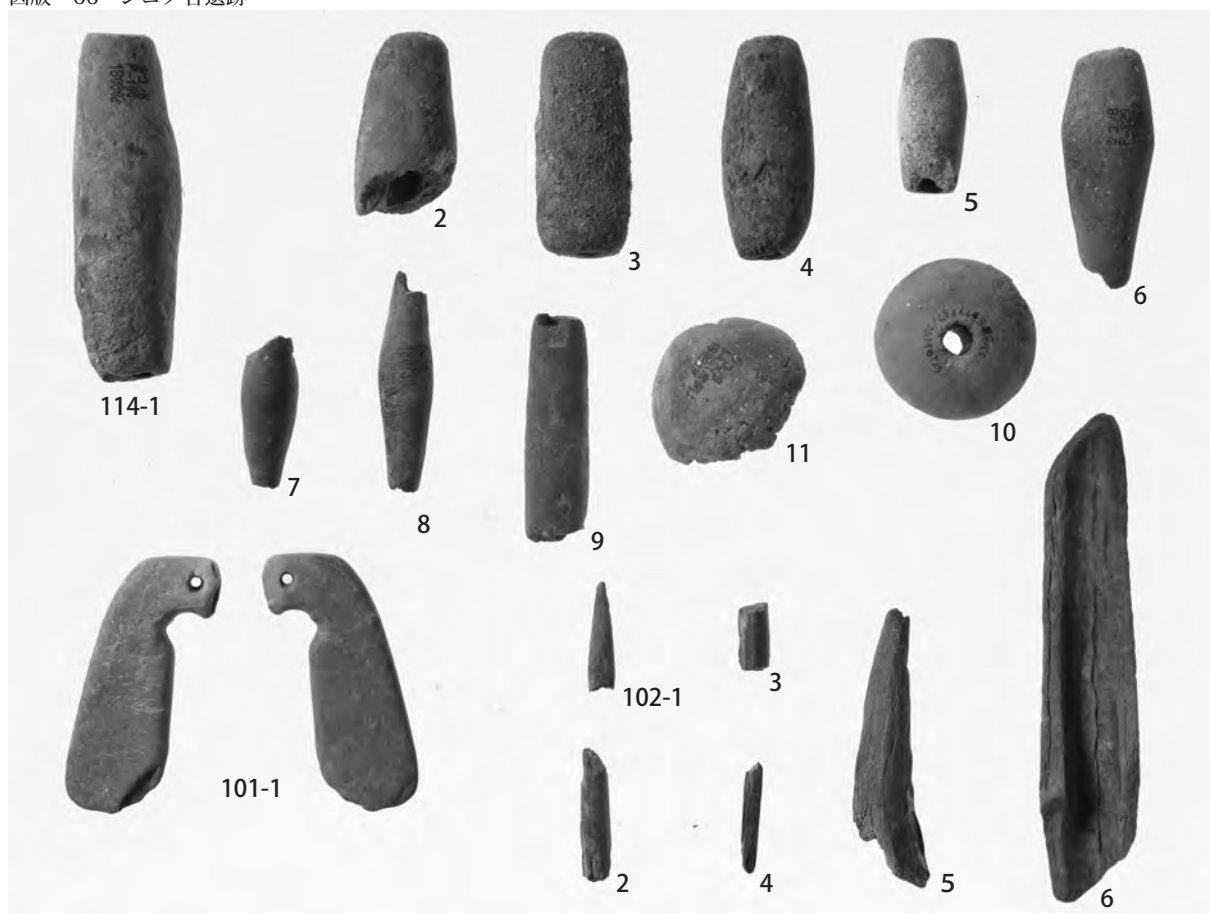
2. シコノ谷遺跡 B区出土瓦、須恵器 (第112図)



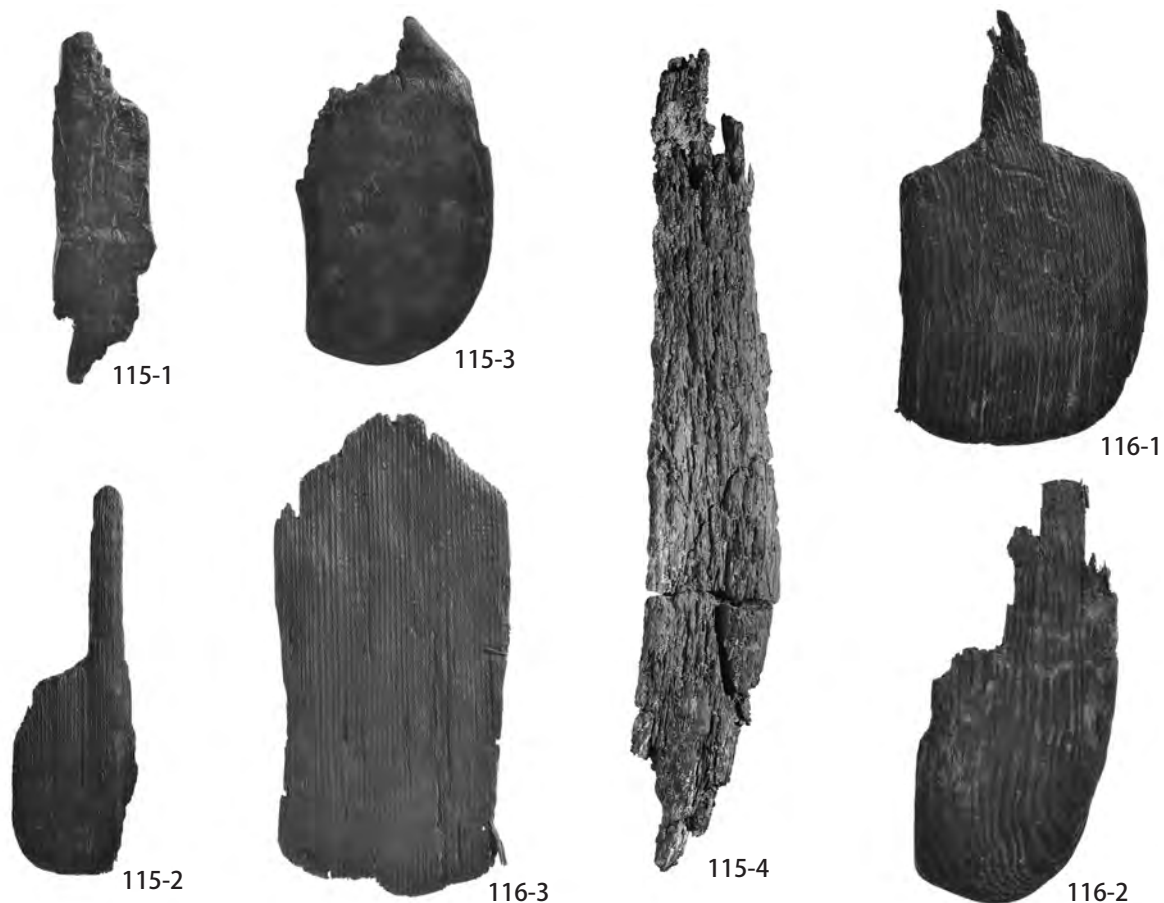
1. シコノ谷遺跡 B区出土須恵器(第111図)、土師器(第113図)



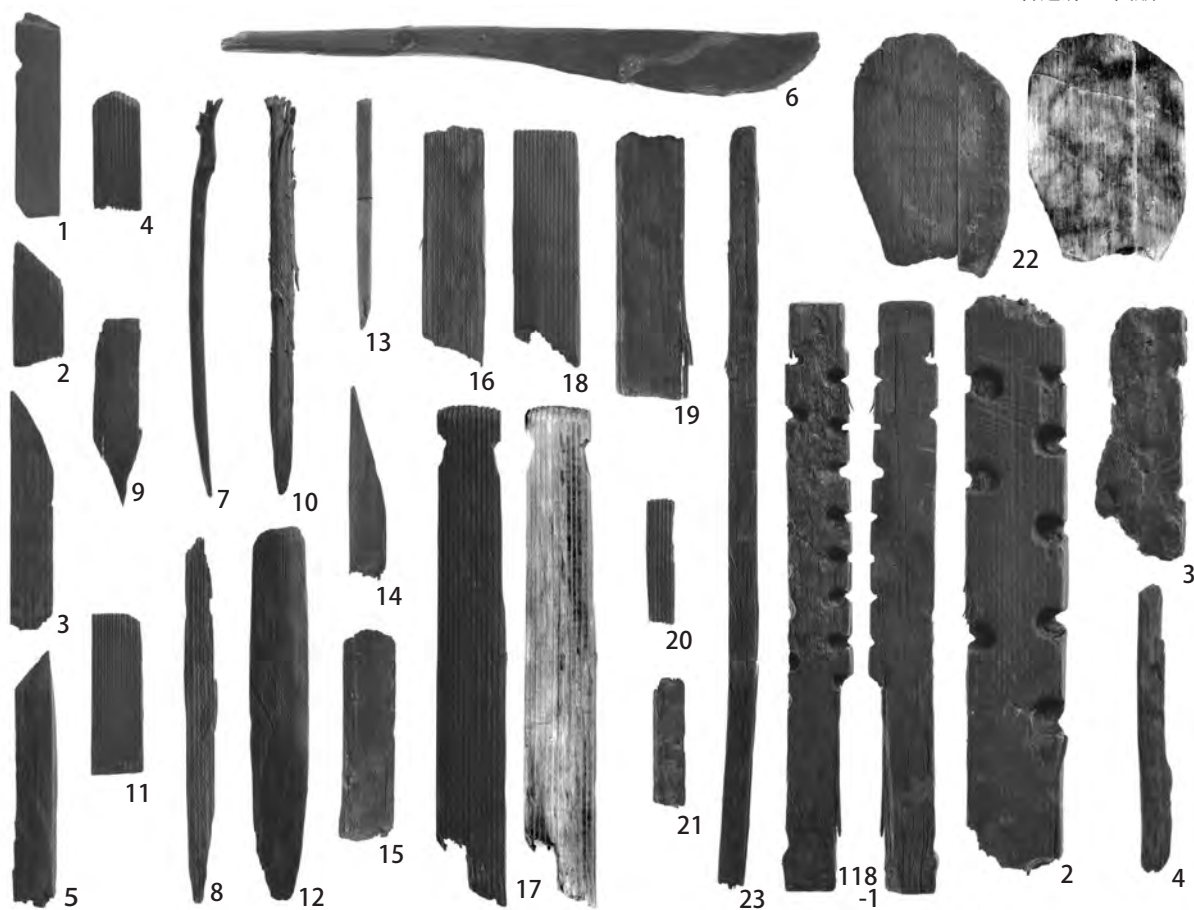
2. シコノ谷遺跡 B区出土陶磁器、土師器(第113図)



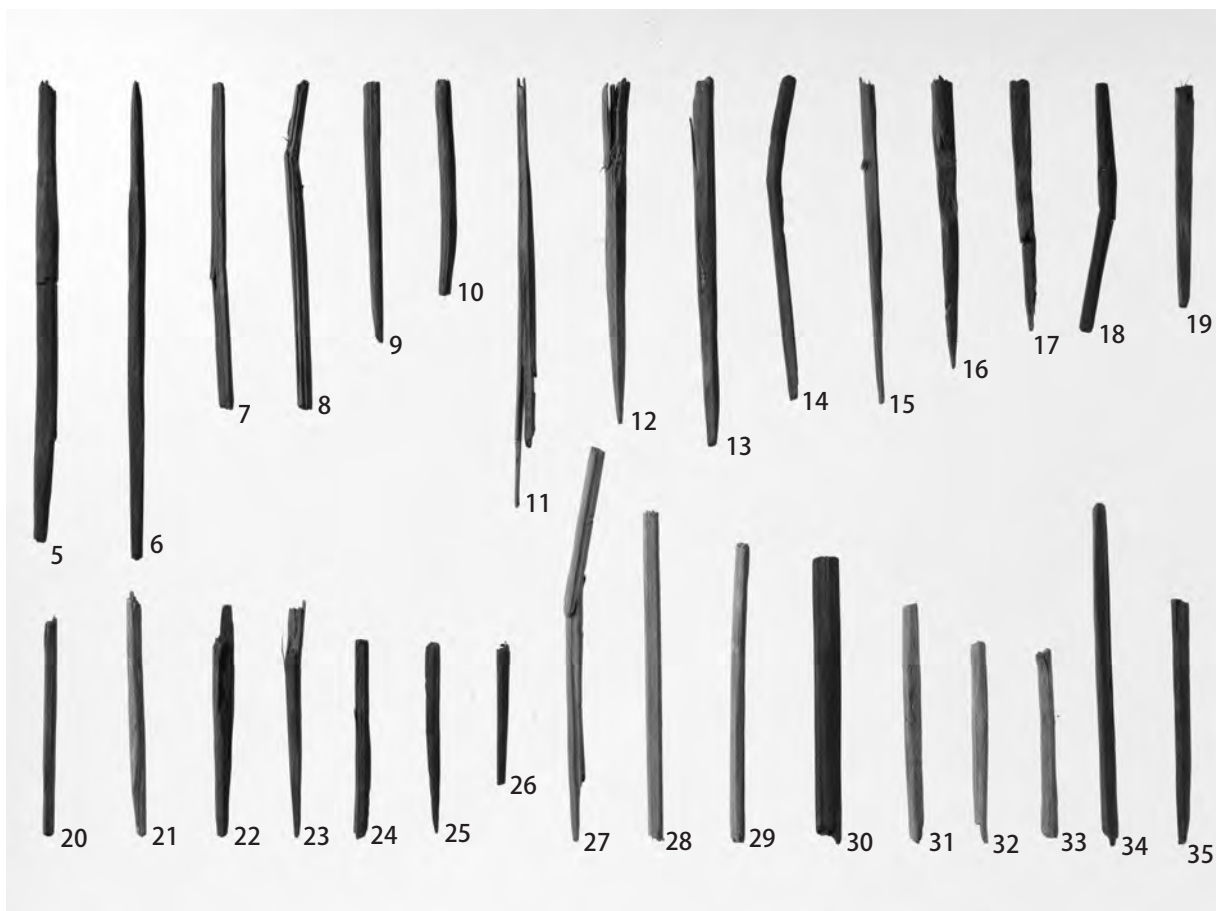
1. シコノ谷遺跡 B区出土土錘 (第114図)、耳飾り (第101図)、骨格器 (第102図)



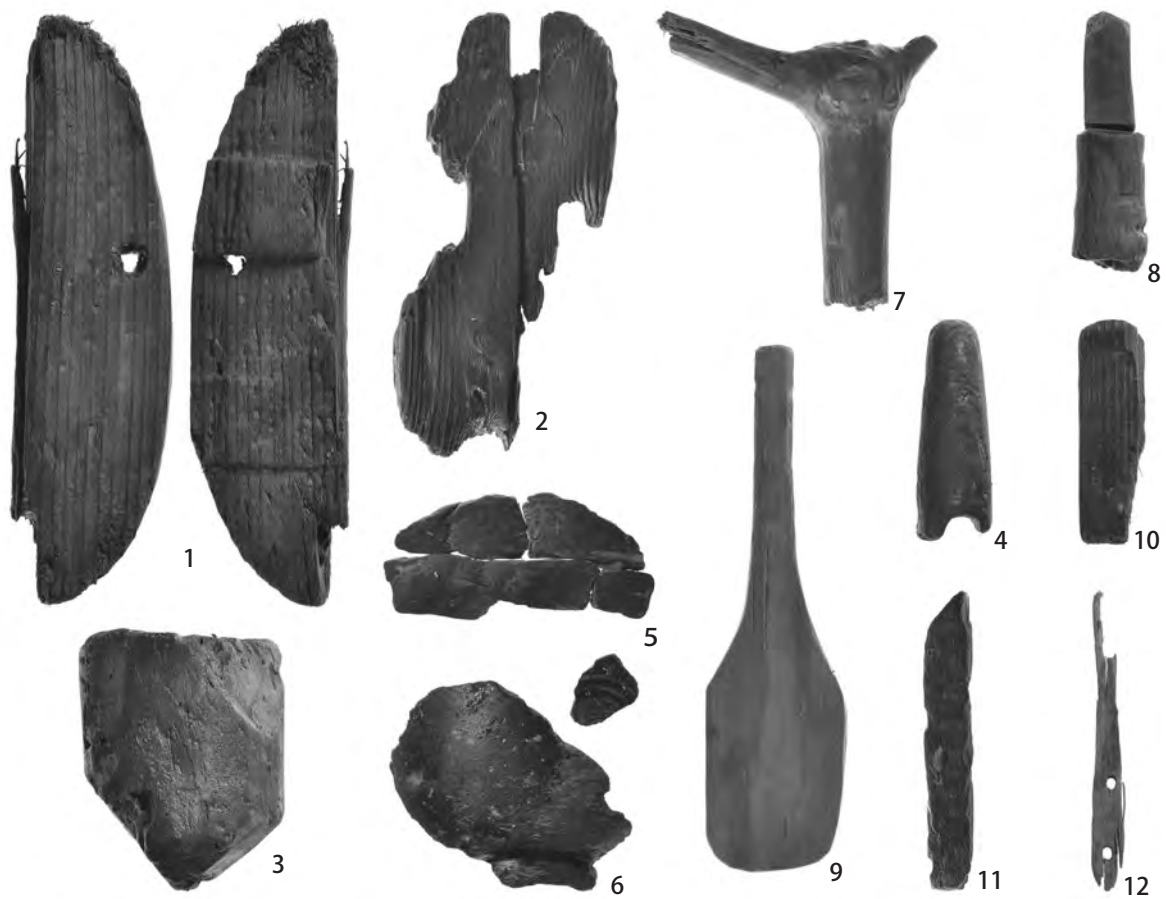
2. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第115図・116図)



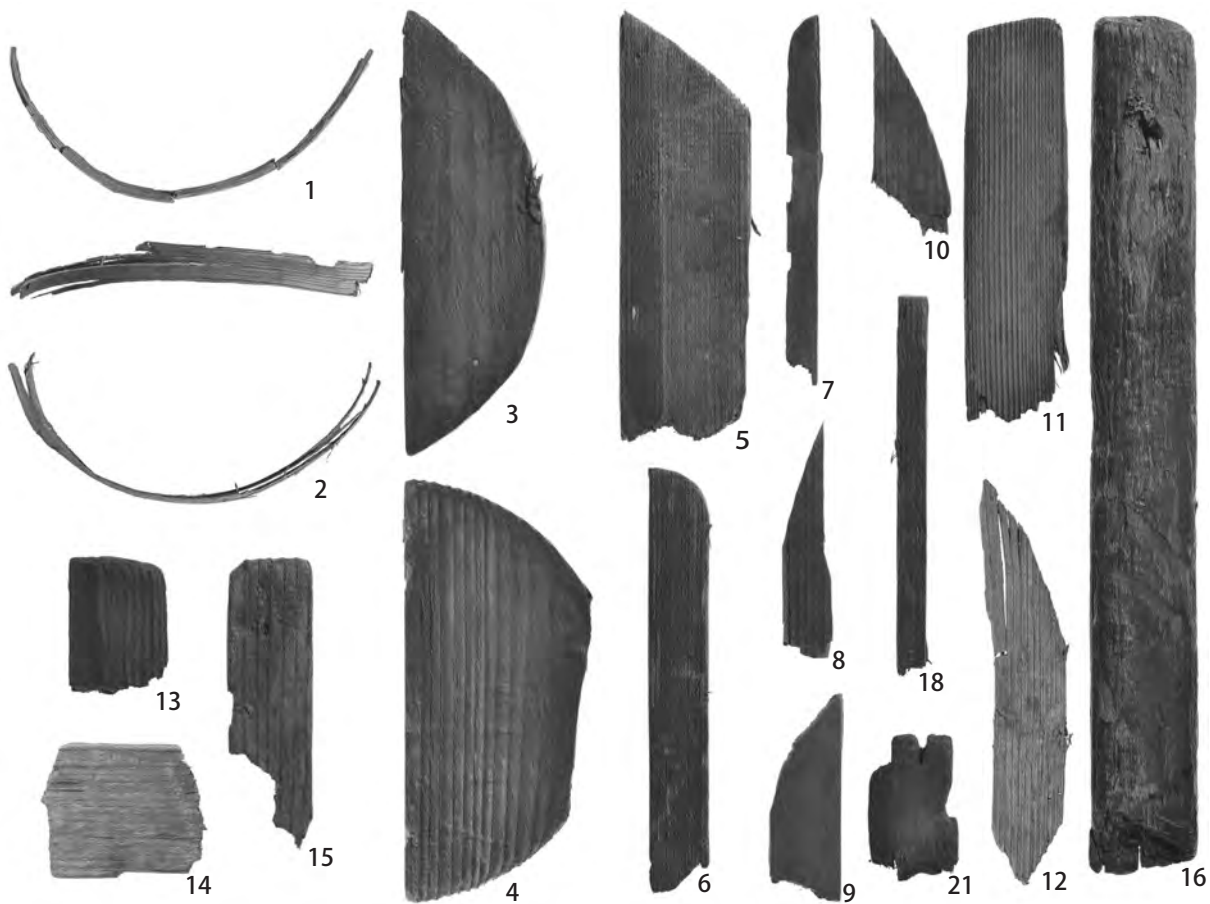
1. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第117図・118図)



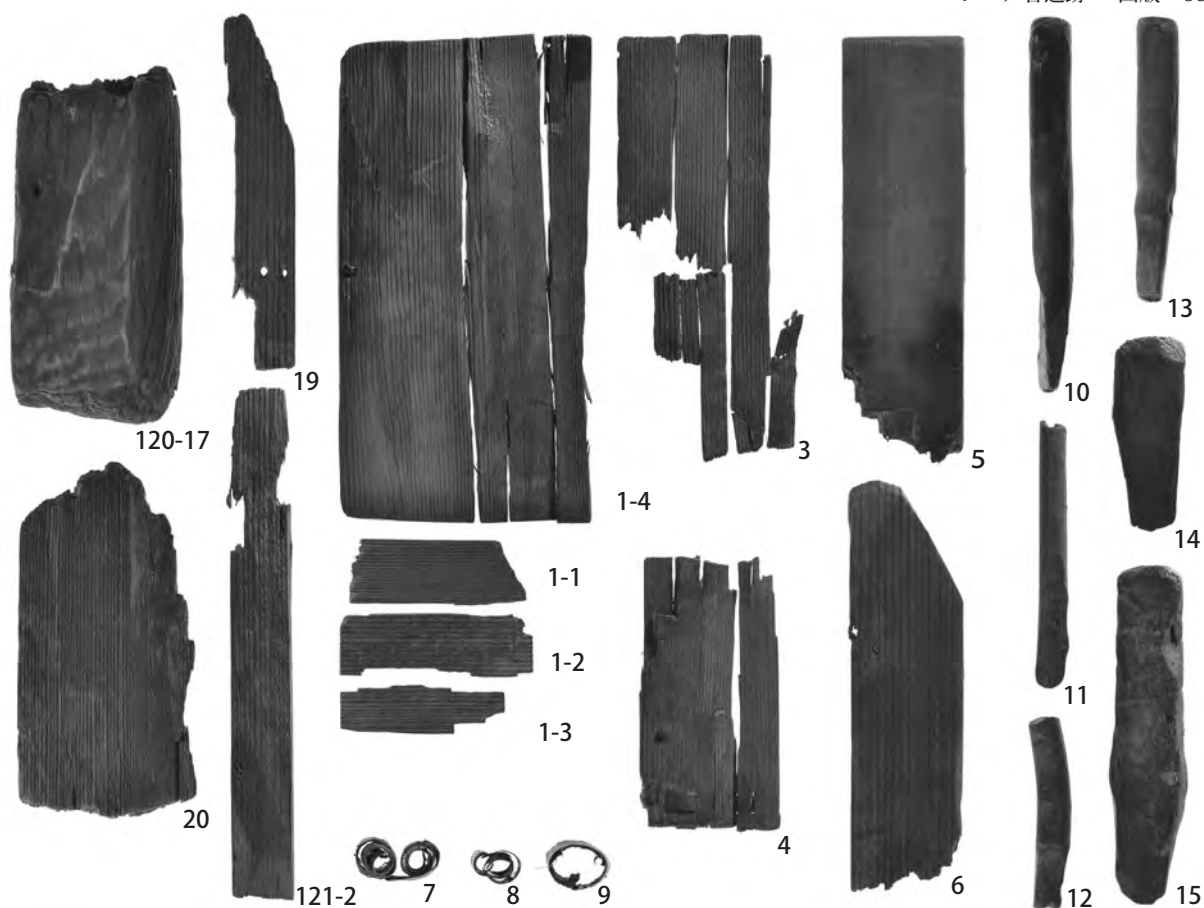
2. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第118図)



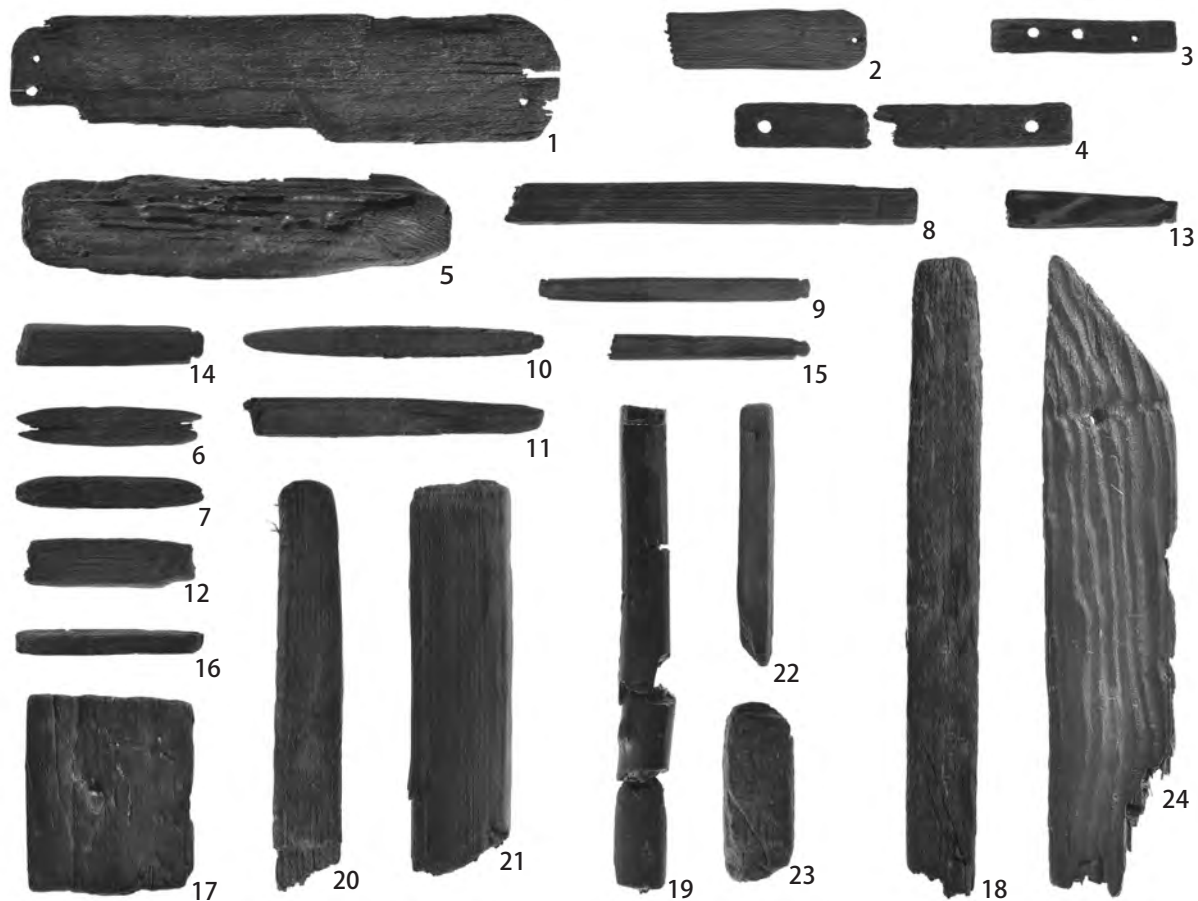
1. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第119図)



2. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第120図)



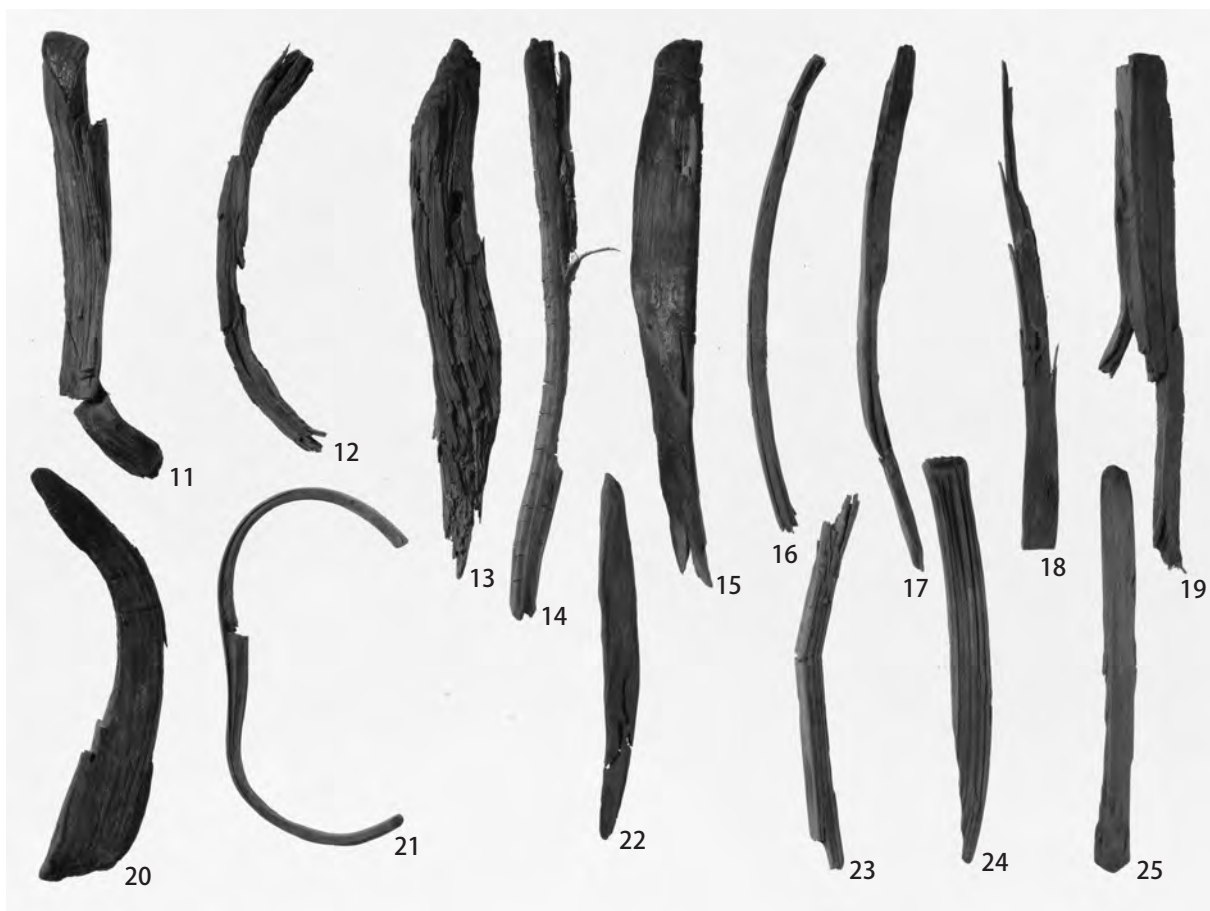
1. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第120図・第121図)



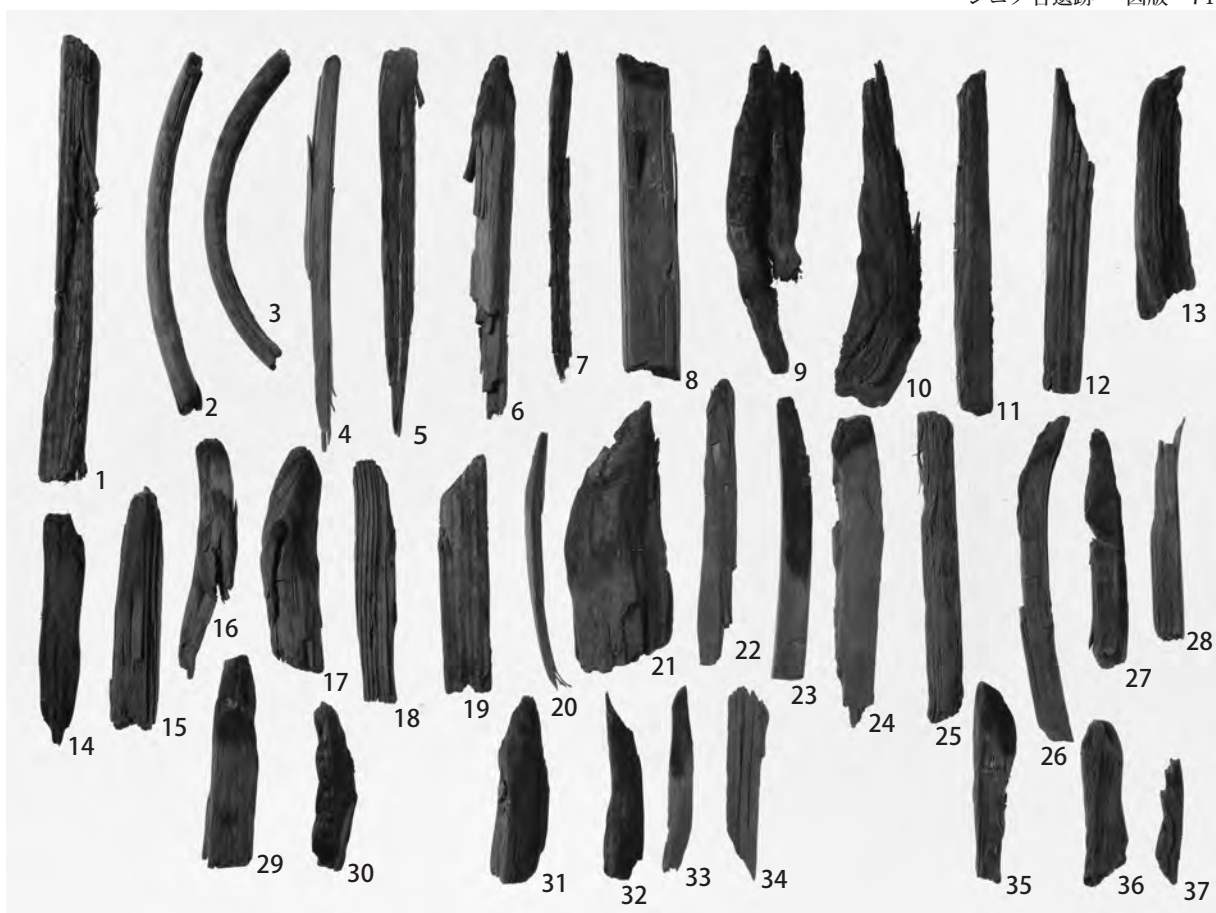
2. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第122図)



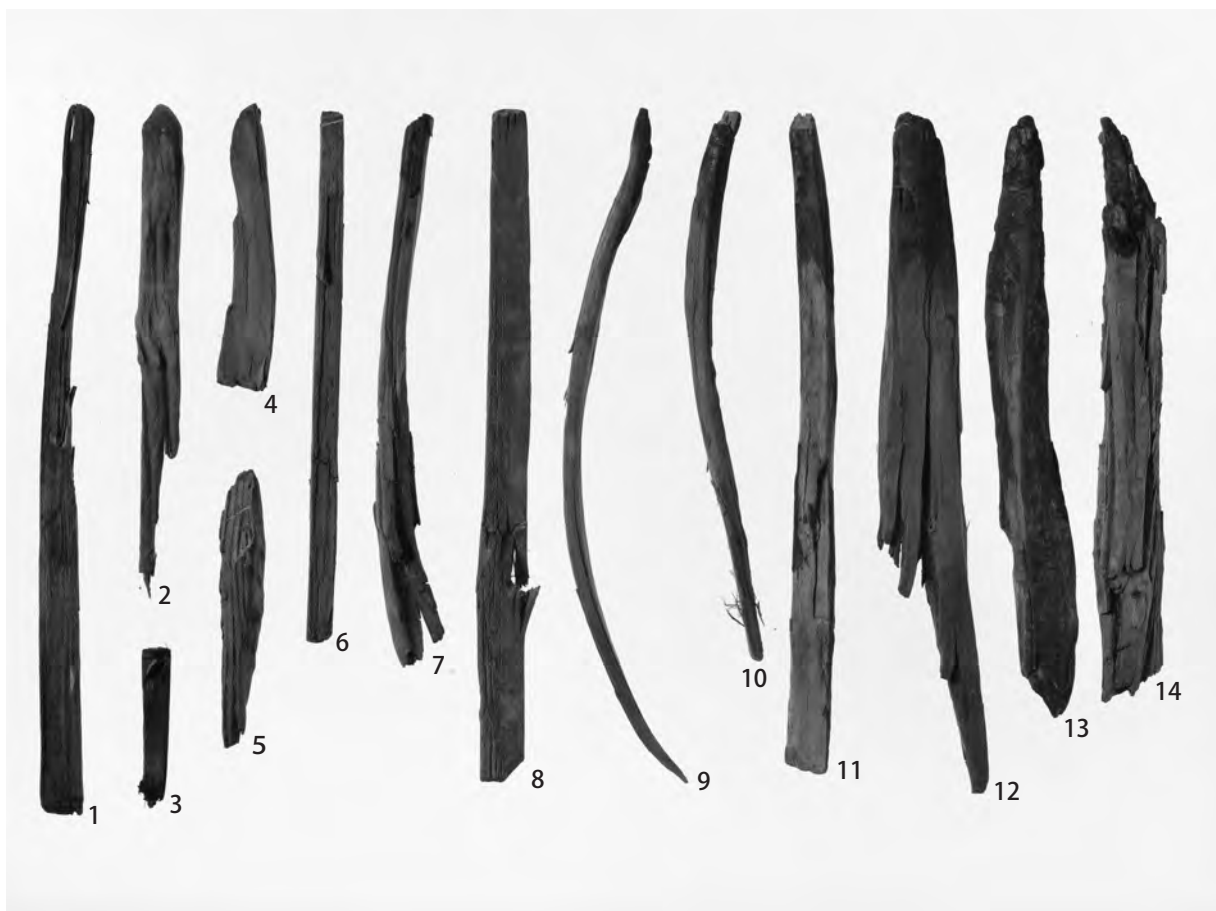
1. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第123図)



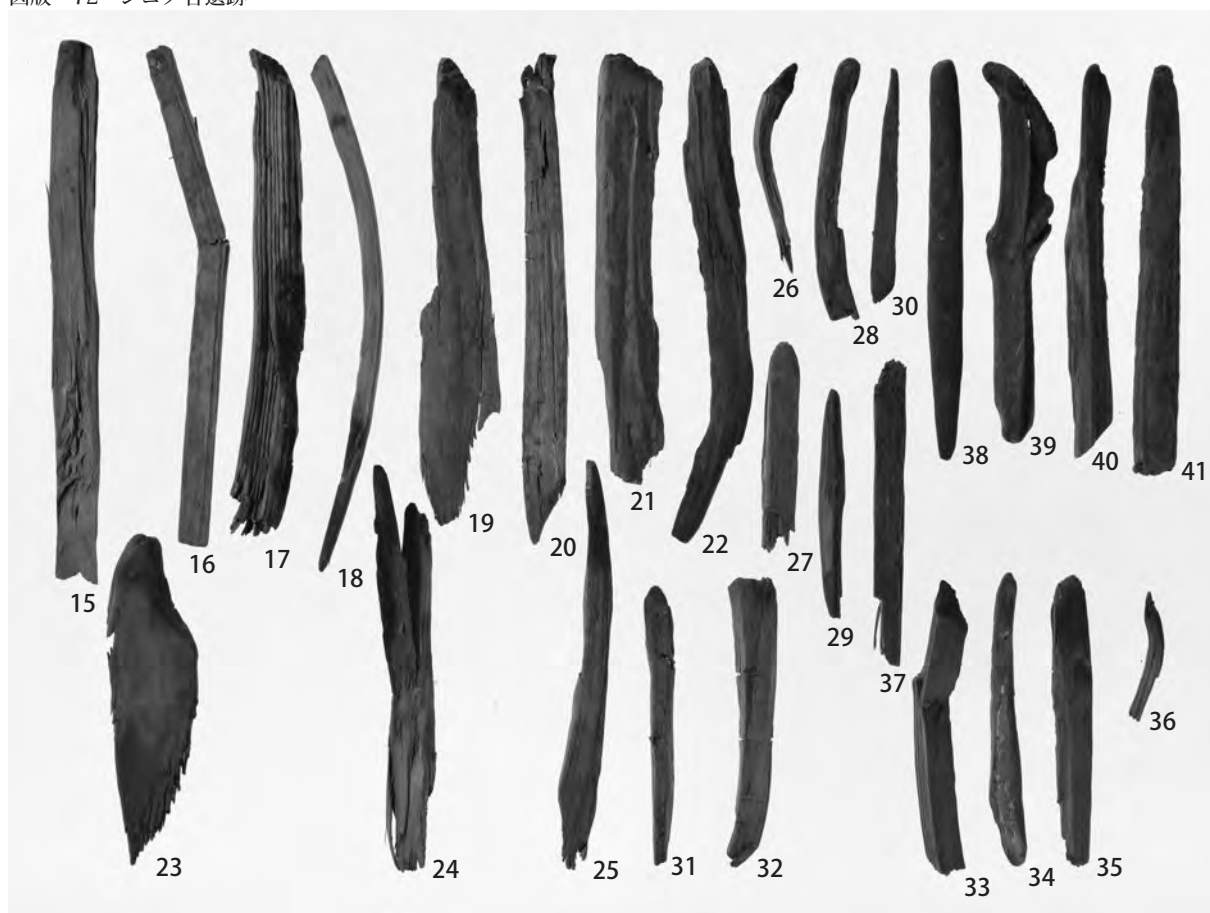
2. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第123図)



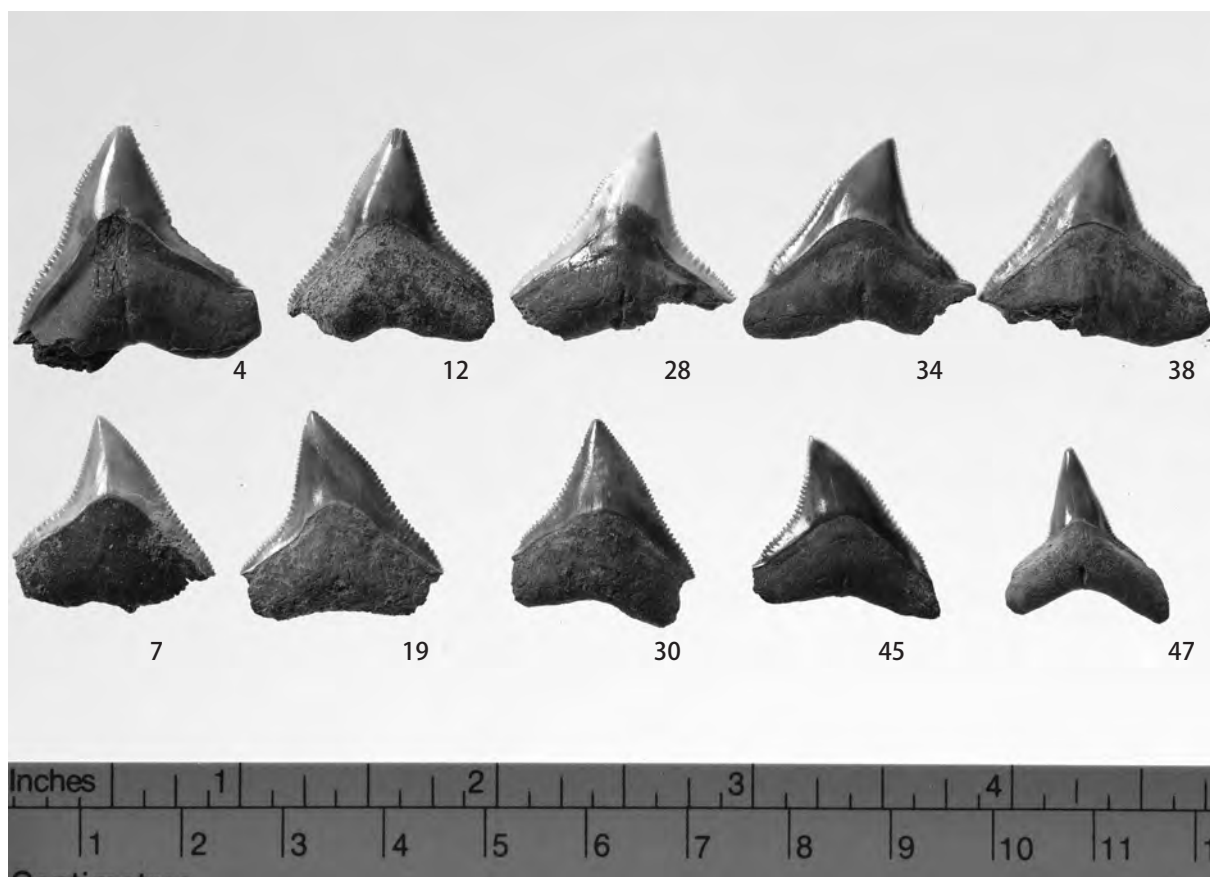
1. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第124図)



2. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第125図)



1. シコノ谷遺跡 B区出土木製品 (第125図)



2. シコノ谷遺跡 B区出土サメの歯

報告書抄録

ふりがな	わかみやだにいせき・しこのだにいせき							
書名	若宮谷遺跡・シコノ谷遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	斐伊川水系大橋川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	2							
編著者名	廣江 耕史・阿部 賢治(編)、酒井 哲弥、丸山 真史、渡辺 正己							
発行者	島根県教育委員会							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL: 0852-36-8608 FAX: 0852-36-8025 E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/							
発行年月日	令和3年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
わかみやだにいせき 若宮谷遺跡	しまねけんまつえしあさくみちよう 島根県松江市朝酌町	32203	D1167	36° 27' 07"	133° 06' 18"	2019 0624 ～ 2019 1118	1,900	河川改修
しこのだにいせき シコノ谷遺跡	しまねけんまつえしあさくみちよう 島根県松江市朝酌町	32203	D1182	35° 27' 03"	133° 06' 31"	2018 0528 ～ 2018 1102	890	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
若宮谷遺跡	集落	縄文時代・弥生時代・室町時代	竪穴建物(弥生時代～古墳時代) 掘立柱建物(室町時代)	縄文土器・弥生土器・土師器・木製品		縄文時代の包含層・弥生時代の建物跡・室町時代の建物と貝塚を検出		
シコノ谷遺跡	集落	縄文時代・弥生時代・古墳時代 奈良時代・平安時代・鎌倉時代	縄文時代早期～中世にかけての遺物を包含層	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・木製品		縄文時代早期～中世にかけての遺物包含層・縄文時代早期の土器・石器・サメの歯が出土		
要約	<p>若宮谷遺跡では、谷底から縄文時代から弥生時代の土器、石器が出土し、丘陵斜面から竪穴建物を検出。室町時代の掘立柱建物の周囲から貝塚を検出。長期にわたり集落が存在していたことがわかる。</p> <p>シコノ谷遺跡では、大橋川の北側に伸びる谷の集落が土石流により壊され多くの遺物が礫層中から出土している。縄文時代早期を中心として晩期の土器、石器と共にサメの歯が出土し、当時の中海でサメ漁がおこなわれていたことが想定される。隠岐産の黒曜石、石器も多数出土し、日本海を隔てた隠岐島から石器の材料を獲得していた様子がうかがわれる。</p>							

印刷仕様

紙 質 表 紙 レザック四六判 175kg
本 文 上質紙A判 57.5kg
上質コート紙A判 70.5kg
写真版 上質コート紙A判 70.5kg
D T P Windows 10 Pro
Adobe InDesign CC Photoshop CC Illustrator CC
画像原稿 階調画像線数 175線 (AMスクリーン)

若宮谷遺跡 シコノ谷遺跡

斐伊川水系大橋川河川改修に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書2

発行者 島根県教育委員会
発行 2021（令和3）年3月
編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 島根県松江市打出町33番地
電話 0852-36-8608
印刷 柏村印刷株式会社